

上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

第5集

三ツ寺Ⅲ遺跡  
保渡田遺跡  
中里天神塚古墳

(第1分冊)

1985

群馬県教育委員会  
（助）群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団



資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-310
	調査事業団保管	11-1
No. 1-2463	平成 2 年 3 月 31 日	(6)



上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

第5集

三ツ寺III遺跡  
保渡田遺跡  
中里天神塚古墳

(第1分冊)

1985

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
日本鉄道建設公団





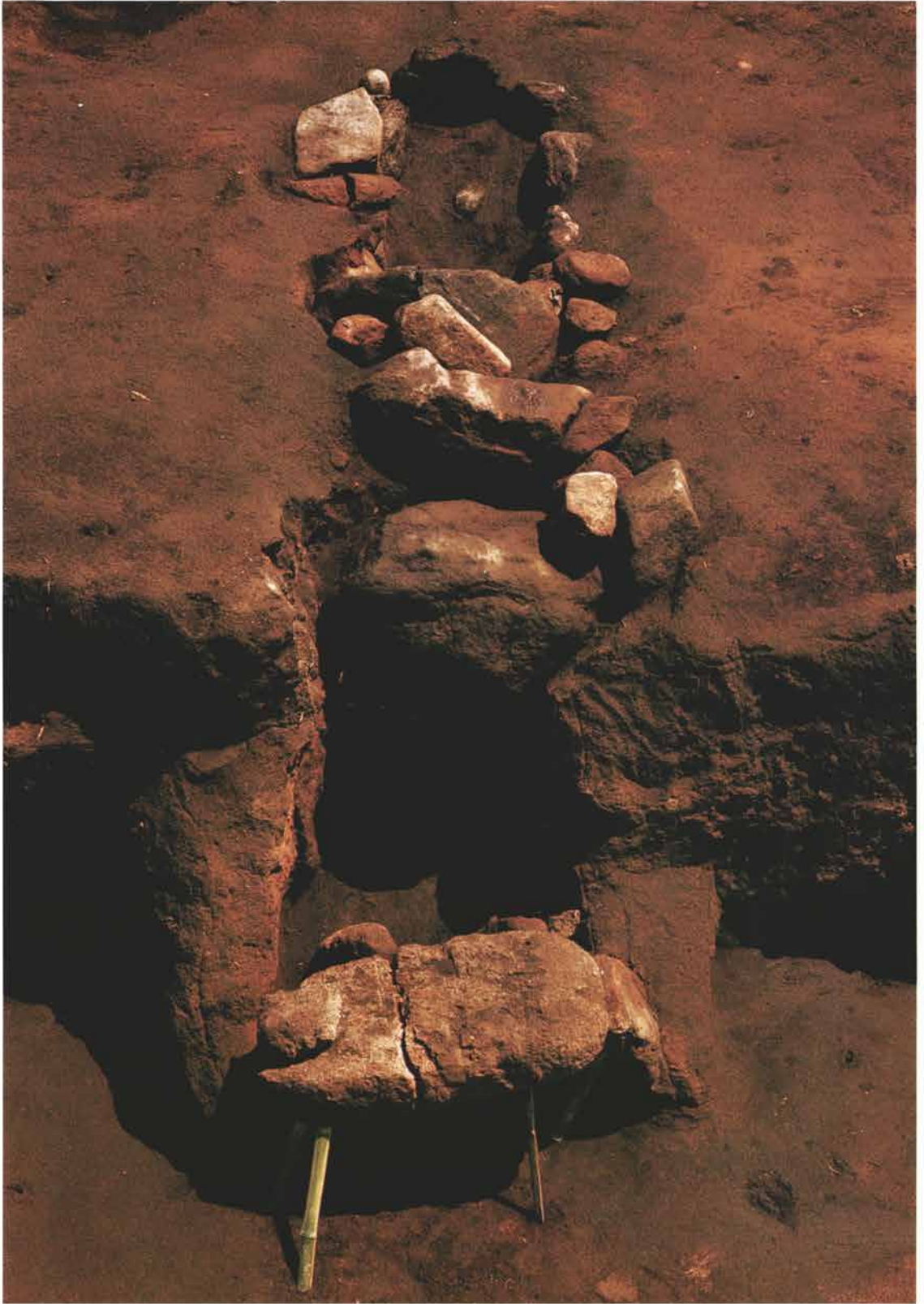
三ッ寺Ⅲ遺跡 5号住居跡出土土器セット



三ッ寺Ⅲ遺跡 94号住居跡出土土器セット







保渡田遺跡 1号住居跡カマド



# 序

太平洋側と日本海側の地域を結ぶ上越新幹線は、昭和60年3月14日、上野・新潟間を結ぶ全線が開通しました。日本の政治、経済、文化、とりわけ沿線地域社会の発展に寄与する役割は計り知れないものがあると存じます。

この上越新幹線が南北に走る榛名山南面の地域は、自然環境に恵まれ、原始の時代から人々の生活の舞台となっていたわが群馬県域にあって、きわだっていたようです。原始古代からの遺跡が多く分布しています。それ故この上越新幹線の建設にあたっては、破壊される遺跡を保存、活用し、後世に継承するという観点から、建設工事に先立って遺跡の発掘調査を行ない整理して、記録資料として今日の生活に役立てるとともに、後世に伝えることが大きな課題となりました。開発等により生活が豊かになり、社会が変ぼうしていくなかで、古来からの伝統や文化を大切に受け継いでいかなければならないからであります。

本報告書は、上越新幹線建設工事に先立って群馬町で調査を重ね、記録して参りました三ツ寺Ⅲ、保渡田遺跡と中里古墳の資料を報告書としてまとめたものです。

本報告書作成刊行にあたっては、発掘調査から整理にいたるまで、長い期間を要し、その間、日本鉄道建設公団をはじめとし、実に多くの方々のご協力をいただき、また、ご指導をいただいて上梓のはこびとなりました。まさに関係各位の総力が結集され、完成を見たものです。ここに厚くお礼申し上げます。

本報告書が、私たちの遠い祖先の歴史を解明する手がかりとなり、わが群馬の地域を理解する資として多くの人々に有効に活用されることを念じ序とします。

昭和60年7月20日

群馬県教育委員会

教育長 千吉良 寛



## 例 言

1 本書は、上越新幹線建設工事に伴う事前調査として、昭和53年9月～昭和54年11月に実施された三ツ寺Ⅲ遺跡・昭和53年1月～昭和53年8月に実施された保渡田遺跡・昭和53年1月～昭和53年3月に実施された中里天神塚古墳の発掘調査報告書である。

2 三ツ寺Ⅲ遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳は、事前の分布調査でそれぞれ36地区・35地区・51地区と称された地点であり、所在地は次の通りである。

三ツ寺Ⅲ遺跡 (36地区)	群馬郡群馬町大字三ツ寺字鍛冶街道2393他
保渡田遺跡 (35地区)	群馬郡群馬町大字保渡田字鍛冶街道2269他
中里天神塚古墳 (51地区)	群馬郡群馬町大字中里字毘沙門43他

3 調査は日本鉄道建設公団の委託を受けて、群馬県教育委員会が実施した。

4 調査組織は次の通りである。

文化財保護課長	磯 貝 福 七
参事	白 石 保三郎
参事	森 田 秀 策
調査員	岸 堅 司
調査員	飯 塚 喜代子
主任	大井田 利 興
主事	女 屋 等 志

### 三ツ寺Ⅲ遺跡担当職員

文化財保護主事	都丸 肇・桜場一寿・須田 茂
	間庭 稔 (調査員)・大塚美恵子 (調査員)

### 保渡田遺跡担当職員

文化財保護主事	都丸 肇・桜場一寿・須田 茂
	石坂 茂 (調査員)・藤巻幸男 (調査員)・間庭 稔 (調査員)・大塚美恵子 (調査員)

### 中里天神塚古墳担当職員

文化財保護主事	細野雅男・中束耕志
---------	-----------

5 遺物・図面の整理は、群馬県教育委員会の委託を受けて、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、昭和59年1月4日～昭和60年3月31日に実施した。

6 整理組織は次の通りである。

常務理事	白 石 保三郎
事務局長	梅 沢 重 昭
管理部長	大 沢 秋 良
調査研究部長	松 本 浩 一

調査研究部第2課長 秋池 武

整理担当職員

主任調査研究員 飯塚 卓二

調査研究員 井川 達雄

7 本書の執筆分担は、次の通りである。なお、第III章第2節・第IV章第2節については、執筆者名を文末に記した。

第I章 森田 秀策

第II章 井川 達雄

第III章

第1節 井川 達雄

第2節 井川 達雄 宮下 万喜子

第3節 井川 達雄 宮下 万喜子

第IV章

第1節 井川 達雄

第2節 藤巻 幸男 井川 達雄 宮下 万喜子

第3節 井川 達雄 宮下 万喜子

第V章 飯塚 卓二

第VI章

第1節 井川 達雄

第2節 宮下 万喜子

第3節 石 守 晃

第4節 大江 正直

8 本書の遺構写真は、各現場担当者が撮影し、遺物写真は、佐藤元彦が撮影した。また、資料整理関係者は、次の通りである。

宮下万喜子・金子吉江・須田まさ江・山崎由起枝・狩野道子・小淵美和子・桜井都巳子

関口広美・吉田真由美・功刀晴美・立見美代子・田中容子

9 発掘調査及び本書の作成に当っては、次の機関・方々の多大な協力・貴重な助言を賜った。記して感謝の意を表わす次第である。

群馬町教育委員会・徳蔵寺・新井房夫・大江正直・神沢憲寿（敬称略）

10 本書の作成・編集は、井川達雄が担当した。

## 凡 例

- 1 本書は三ツ寺Ⅲ遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳の3遺跡の報告であるが、遺跡は近接しているために、調査に至る経過・遺跡の立地と歴史的環境は第Ⅰ章・第Ⅱ章にまとめて記述した。各遺跡の記述は、南より配列した。第Ⅲ章は三ツ寺Ⅲ遺跡・第Ⅳ章は保渡田遺跡・第Ⅴ章は中里天神塚古墳の遺構と遺物である。成果と問題点は、第Ⅵ章で総合した。
- 2 遺構には、調査時点の遺構番号をそのまま使用し、遺構番号順に編集することを原則としたが、遺構の性格から名称・番号を変更したものがある。変更した遺構には、新しい名称・番号を与え、旧番号は欠番とした。
- 3 遺物には、実測図作成時に番号を与え、本書作成時にもその番号は変えていない。従って、掲載されない実測図の遺物番号は、欠番となる。なお、遺物挿図・土器観察表・遺物写真の番号は一致する。
- 4 遺物観察表の法量は、概ね $\frac{1}{4}$ 以上残存しているものについて記入した。また、 $\frac{1}{2}$ 未満のものは、推定値であり、小数点以下は記入していない。
- 5 遺構図の縮尺は、各遺構の全体図は1：60、カマド・貯蔵穴等の微細図は1：30を原則とし、遺物図は、甕類1：4、杯類1：3、石製品・鉄製品は1：2を原則とした。しかし、前記の縮尺以外のものもある。遺構図・遺物図毎にスケールを挿入してある。
- 6 本書の各遺構図の方位は、磁北である。三ツ寺Ⅲ遺跡・保渡田遺跡の全体図・調査区設定図、各遺跡の周辺地形図の北は、国家座標上の北である。
- 7 各遺構の主軸設定方法は、次の通りである。住居跡は、カマドの構築されている壁を基準壁とし、基準壁の両端で接する壁と壁とをほぼ直交して結ぶ線を、基準壁側に一本、基準壁に対する壁側に一本引き、その二線の中点を結ぶ線を主軸とした。カマドが隅に構築されている場合は、カマドのある頂点を含む対角線を主軸線とし、掘立柱は、長軸方向を主軸とした。
- 8 各遺跡の出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。





# 目 次

卷 首 図 版

序

例 言

凡 例

第 I 章 調査に至る経過 (第 1 分冊) .....	1
第 II 章 遺跡の立地と歴史的環境 .....	3
第 III 章 三ツ寺 III 遺跡 .....	7
第 1 節 調査の方法と経過 .....	9
第 2 節 発見された遺構と遺物 .....	13
1 号住居跡 .....	13
2 号住居跡 .....	14
3 号住居跡 .....	18
4 号住居跡 .....	21
5 号住居跡 .....	25
6 号住居跡 .....	31
7 号住居跡 .....	34
8 号住居跡 .....	35
9 号住居跡 .....	37
10 号住居跡 .....	43
11 号住居跡 .....	45
12 号住居跡 .....	45
13 号住居跡 .....	47
14 号住居跡 .....	52
15 号住居跡 .....	55
16 号住居跡 .....	59
17 号住居跡 .....	60
18 号住居跡 .....	63
19 号住居跡 .....	66
20 号住居跡 .....	66
21 号住居跡 .....	68
22 号住居跡 .....	71
23 号住居跡 .....	71
24 号住居跡 .....	74
25 号住居跡 .....	76
26 号住居跡 .....	76
27 号住居跡 .....	82
28 号住居跡 .....	86
29 号住居跡 .....	87
30 号住居跡 .....	89
31 号住居跡 .....	94
32 号住居跡 .....	95
33 号住居跡 .....	98
34 号住居跡 .....	100
35 号住居跡 .....	103
36 号住居跡 .....	106
37 号住居跡 .....	108
38 号住居跡 .....	112
39 号住居跡 .....	113
40 号住居跡 .....	116
41 号住居跡 .....	118
42 号住居跡 .....	121

43号住居跡 .....	123	79号住居跡 .....	192
44号住居跡 .....	125	80号住居跡 .....	194
45号住居跡 .....	126	81号住居跡 .....	195
46号住居跡 .....	126	82号住居跡 .....	196
47号住居跡 .....	127	83号住居跡 .....	197
48号住居跡 .....	129	84号住居跡 .....	186
49号住居跡 .....	131	85号住居跡 .....	199
50号住居跡 .....	131	86号住居跡 .....	201
51号住居跡 .....	133	87号住居跡 .....	202
52号住居跡 .....	136	88号住居跡 .....	206
53号住居跡 .....	138	89号住居跡 .....	208
54号住居跡 .....	138	90号住居跡 .....	209
55号住居跡 .....	140	91号住居跡 .....	211
56号住居跡 .....	144	92号住居跡 .....	214
57号住居跡 .....	145	93号住居跡 .....	216
58号住居跡 .....	147	94号住居跡 .....	217
59号住居跡 .....	153	95号住居跡 .....	222
60号住居跡 .....	154	96号住居跡 .....	181
61号住居跡 .....	158	97号住居跡 .....	223
62号住居跡 .....	160	98号住居跡 .....	224
63号住居跡 .....	164	1号掘立柱跡 .....	225
64号住居跡 .....	164	2号掘立柱跡 .....	226
65号住居跡 .....	167	3号掘立柱跡 .....	227
66号住居跡 .....	168	4号掘立柱跡 .....	227
67号住居跡 .....	171	5号掘立柱跡 .....	229
68号住居跡 .....	174	6号掘立柱跡 .....	230
69号住居跡 .....	178	7号掘立柱跡 .....	232
70号住居跡 .....	178	8号掘立柱跡 .....	233
71号住居跡 .....	181	9号掘立柱跡 .....	234
72号住居跡 .....	181	10号掘立柱跡 .....	235
73号住居跡 .....	181	1号竪穴状遺構 .....	237
74号住居跡 .....	184	2号竪穴状遺構 .....	238
75号住居跡 .....	186	1号井戸跡 .....	239
76号住居跡 .....	188	2号井戸跡 .....	239
77号住居跡 .....	189	7号井戸跡 .....	239
78号住居跡 .....	191	8号井戸跡 .....	239

9号井戸跡	240	11号土坑	252
10号井戸跡	240	12号土坑	252
1号土坑	246	13号土坑	252
2号土坑	246	14号土坑	252
3号土坑	247	1号溝跡	253
5号土坑	247	2号溝跡	253
6号土坑	248	3号溝跡	253
7号土坑	248	9号溝跡	253
8号土坑	248	10号溝跡	253
9号土坑	248	道状遺構	255
10号土坑	252	表土	257
第3節 出土土器観察表			259
第IV章 保渡田遺跡			331
第1節 調査の方法と経過			333
第2節 発見された遺構と遺物			335
第3節 出土土器観察表			479
第V章 中里天神塚古墳			521
第VI章 調査の成果と問題点			535
第1節 古墳時代・奈良時代の土器について			535
第2節 平安時代の土器について			551
第3節 三ツ寺Ⅲ遺跡9号土坑墓出土の人骨について			555
第4節 三ツ寺Ⅲ遺跡2号土坑墓出土の馬歯・馬骨について			557

# 挿 図 目 次

付図1	三ツ寺Ⅲ遺跡全体図・基本土層図		
付図2	保渡田遺跡全体図・基本土層図		
第1図	周辺の遺跡	5	
第2図	遺跡周辺の地形	10	
第3図	三ツ寺Ⅲ遺跡調査区設定図 折り込み		
第4図	1号住居跡	13	
第5図	1号住居跡出土遺物①	13	
第6図	1号住居跡出土遺物②	14	
第7図	2号住居跡	15	
第8図	2号住居跡カマド	16	
第9図	2号住居跡出土遺物①	16	
第10図	2号住居跡出土遺物②	17	
第11図	2号住居跡出土遺物③	18	
第12図	3号住居跡	19	
第13図	3号住居跡出土遺物①	20	
第14図	3号住居跡出土遺物②	21	
第15図	4号住居跡カマド	22	
第16図	4号住居跡	23	
第17図	4号住居跡出土遺物①	24	
第18図	4号住居跡出土遺物②	25	
第19図	5号住居跡	26	
第20図	5号住居跡カマド	27	
第21図	5号住居跡出土遺物①	28	
第22図	5号住居跡出土遺物②	29	
第23図	5号住居跡出土遺物③	30	
第24図	5号住居跡出土遺物④	31	
第25図	6号住居跡	32	
第26図	6号住居跡出土遺物	33	
第27図	7号住居跡	34	
第28図	7号住居跡カマドセクション	35	
第29図	7号住居跡出土遺物	35	
第30図	8号住居跡	36	
第31図	8号住居跡出土遺物	36	
第32図	9号住居跡カマド・貯蔵穴セクション	37	
第33図	9号住居跡	38	
第34図	9号住居跡出土遺物①	39	
第35図	9号住居跡出土遺物②	40	
第36図	9号住居跡出土遺物③	41	
第37図	9号住居跡出土遺物④	42	
第38図	10号住居跡	43	
第39図	10号住居跡カマド・貯蔵穴セクション	44	
第40図	10号住居跡出土遺物	44	
第41図	11号住居跡	45	
第42図	12号住居跡・13号住居跡	46	
第43図	12号住居跡カマド・貯蔵穴、13号住居跡カマド	47	
第44図	12号住居跡出土遺物①	48	
第45図	12号住居跡出土遺物②	49	
第46図	12号住居跡出土遺物③		
	13号住居跡出土遺物①	50	
第47図	13号住居跡出土遺物②	51	
第48図	13号住居跡出土遺物③	52	
第49図	14号住居跡	53	
第50図	14号住居跡出土遺物①	54	
第51図	14号住居跡出土遺物②	55	
第52図	15号住居跡	56	
第53図	15号住居跡出土遺物①	57	
第54図	15号住居跡出土遺物②	58	
第55図	16号住居跡	59	
第56図	16号住居跡出土遺物	60	
第57図	17号住居跡	60	
第58図	17号住居跡カマド	61	
第59図	17号住居跡出土遺物①	61	
第60図	17号住居跡出土遺物②	62	

第 61 図	18号住居跡カマド・貯蔵穴……………63	第 95 図	30号住居跡出土遺物①……………92
第 62 図	18号住居跡……………64	第 96 図	30号住居跡出土遺物②……………93
第 63 図	18号住居跡出土遺物①……………65	第 97 図	31号住居跡……………94
第 64 図	18号住居跡出土遺物②……………66	第 98 図	31号住居跡出土遺物①……………94
第 65 図	19号住居跡・20号住居跡……………67	第 99 図	31号住居跡出土遺物②……………95
第 66 図	20号住居跡出土遺物……………68	第 100 図	32号住居跡……………96
第 67 図	21号住居跡……………69	第 101 図	32号住居跡出土遺物……………97
第 68 図	21号住居跡カマド・貯蔵穴……………70	第 102 図	33号住居跡……………98
第 69 図	21号住居跡出土遺物……………70	第 103 図	33号住居跡出土遺物……………99
第 70 図	23号住居跡カマド……………71	第 104 図	34号住居跡……………100
第 71 図	22号住居跡・23号住居跡……………72	第 105 図	34号住居跡カマド・貯蔵穴……………101
第 72 図	22号住居跡出土遺物……………73	第 106 図	34号住居跡出土遺物①……………101
第 73 図	23号住居跡出土遺物①……………73	第 107 図	34号住居跡出土遺物②……………102
第 74 図	23号住居跡出土遺物②……………74	第 108 図	35号住居跡エレベーション……………103
第 75 図	24号住居跡……………75	第 109 図	35号住居跡……………104
第 76 図	24号住居跡出土遺物①……………75	第 110 図	35号住居跡カマド・貯蔵穴……………105
第 77 図	24号住居跡出土遺物②……………76	第 111 図	35号住居跡出土遺物①……………105
第 78 図	25号住居跡・26号住居跡……………77	第 112 図	35号住居跡出土遺物②……………106
第 79 図	25号住居跡カマド、26号住居跡カ マド・貯蔵穴……………78	第 113 図	36号住居跡……………106
第 80 図	25号住居跡出土遺物①……………79	第 114 図	36号住居跡カマド……………107
第 81 図	25号住居跡出土遺物②……………80	第 115 図	36号住居跡出土遺物①……………107
第 82 図	25号住居跡出土遺物③……………81	第 116 図	36号住居跡出土遺物②……………108
第 83 図	26号住居跡出土遺物……………82	第 117 図	37号住居跡……………109
第 84 図	27号住居跡カマド・貯蔵穴……………83	第 118 図	37号住居跡エレベーション……………110
第 85 図	27号住居跡……………84	第 119 図	37号住居跡出土遺物①……………110
第 86 図	27号住居跡出土遺物①……………85	第 120 図	37号住居跡出土遺物②……………111
第 87 図	27号住居跡出土遺物②……………86	第 121 図	38号住居跡……………112
第 88 図	28号住居跡……………86	第 122 図	38号住居跡出土遺物……………113
第 89 図	28号住居跡カマド……………87	第 123 図	39号住居跡……………114
第 90 図	28号住居跡出土遺物……………87	第 124 図	39号住居跡エレベーション・カマ ドセクション……………115
第 91 図	29号住居跡……………88	第 125 図	39号住居跡出土遺物①……………115
第 92 図	29号住居跡出土遺物……………89	第 126 図	39号住居跡出土遺物②……………116
第 93 図	30号住居跡……………90	第 127 図	40号住居跡……………117
第 94 図	30号住居跡エレベーション・カマ ド……………91	第 128 図	40号住居跡出土遺物……………118
		第 129 図	41号住居跡……………119

第 130 図	41号住居跡出土遺物①……………	119		出土遺物……………	143
第 131 図	41号住居跡出土遺物②……………	120	第 162 図	56号住居跡……………	144
第 132 図	42号住居跡……………	121	第 163 図	56号住居跡出土遺物……………	144
第 133 図	42号住居跡カマドセクション……………	122	第 164 図	57号住居跡……………	145
第 134 図	42号住居跡出土遺物①……………	122	第 165 図	57号住居跡出土遺物①……………	146
第 135 図	42号住居跡出土遺物②……………	123	第 166 図	57号住居跡出土遺物②……………	147
第 136 図	43号住居跡カマドセクション……………	123	第 167 図	58号住居跡……………	148
第 137 図	43号住居跡……………	124	第 168 図	58号住居跡エレベーション・カマ ドエレベーション……………	149
第 138 図	43号住居跡出土遺物①……………	124	第 169 図	58号住居跡出土遺物①……………	150
第 139 図	43号住居跡出土遺物②……………	125	第 170 図	58号住居跡出土遺物②……………	151
第 140 図	44号住居跡……………	125	第 171 図	58号住居跡出土遺物③……………	152
第 141 図	44号住居跡出土遺物……………	125	第 172 図	59号住居跡……………	153
第 142 図	45号住居跡・46号住居跡……………	126	第 173 図	59号住居跡出土遺物……………	154
第 143 図	45号住居跡出土遺物・46号住居跡 出土遺物……………	127	第 174 図	60号住居跡……………	155
第 144 図	47号住居跡……………	128	第 175 図	60号住居跡カマド……………	156
第 145 図	47号住居跡出土遺物……………	129	第 176 図	60号住居跡出土遺物①……………	156
第 146 図	48号住居跡……………	130	第 177 図	60号住居跡出土遺物②……………	157
第 147 図	48号住居跡出土遺物……………	131	第 178 図	60号住居跡出土遺物③……………	158
第 148 図	49号住居跡・50号住居跡……………	132	第 179 図	61号住居跡……………	158
第 149 図	49号住居跡出土遺物・50号住居跡 出土遺物……………	133	第 180 図	61号住居跡出土遺物……………	159
第 150 図	51号住居跡……………	134	第 181 図	62号住居跡エレベーション・カマ ドエレベーション……………	160
第 151 図	51号住居跡出土遺物①……………	135	第 182 図	62号住居跡……………	161
第 152 図	51号住居跡出土遺物②……………	136	第 183 図	62号住居跡出土遺物①……………	162
第 153 図	52号住居跡……………	137	第 184 図	62号住居跡出土遺物②……………	163
第 154 図	52号住居跡出土遺物①……………	137	第 185 図	64号住居跡カマドセクション……………	164
第 155 図	52号住居跡出土遺物②……………	138	第 186 図	63号住居跡・64号住居跡……………	165
第 156 図	53号住居跡・54号住居跡・55号住 居跡……………	139	第 187 図	64号住居跡出土遺物①……………	166
第 157 図	53号住居跡・54号住居跡・55号住 居跡エレベーション……………	140	第 188 図	64号住居跡出土遺物②……………	167
第 158 図	53号住居跡出土遺物①……………	140	第 189 図	65号住居跡……………	167
第 159 図	53号住居跡出土遺物②……………	141	第 190 図	65号住居跡出土遺物……………	168
第 160 図	53号住居跡出土遺物③……………	142	第 191 図	66号住居跡……………	169
第 161 図	54号住居跡出土遺物・55号住居跡		第 192 図	66号住居跡出土遺物①……………	170
			第 193 図	66号住居跡出土遺物②……………	171
			第 194 図	67号住居跡……………	172

第 195 図	67号住居跡出土遺物①	173	第 228 図	85号住居跡	200
第 196 図	67号住居跡出土遺物②	174	第 229 図	85号住居跡出土遺物①	200
第 197 図	68号住居跡	175	第 230 図	85号住居跡出土遺物②	201
第 198 図	68号住居跡出土遺物①	176	第 231 図	86号住居跡エレベーション・87号 住居跡エレベーション	202
第 199 図	68号住居跡出土遺物②	177	第 232 図	86号住居跡・87号住居跡	203
第 200 図	68号住居跡出土遺物③	178	第 233 図	87号住居跡カマド	204
第 201 図	69号住居跡・70号住居跡	179	第 234 図	86号住居跡出土遺物	204
第 202 図	69号住居跡出土遺物	180	第 235 図	87号住居跡出土遺物①	205
第 203 図	71号住居跡・72号住居跡・73号住 居跡・96号住居跡	182	第 236 図	87号住居跡出土遺物②	206
第 204 図	71号住居跡エレベーション・72号 住居跡エレベーション	183	第 237 図	88号住居跡	206
第 205 図	73号住居跡出土遺物	183	第 238 図	88号住居跡カマド	207
第 206 図	74号住居跡	184	第 239 図	88号住居跡出土遺物①	207
第 207 図	74号住居跡出土遺物	185	第 240 図	88号住居跡出土遺物②	208
第 208 図	75号住居跡エレベーション	186	第 241 図	89号住居跡	209
第 209 図	75号住居跡・84号住居跡	187	第 242 図	90号住居跡	210
第 210 図	75号住居跡出土遺物①	187	第 243 図	90号住居跡出土遺物	211
第 211 図	75号住居跡出土遺物②	188	第 244 図	91号住居跡	212
第 212 図	76号住居跡	188	第 245 図	91号住居跡カマドセクション	213
第 213 図	76号住居跡カマド	189	第 246 図	91号住居跡出土遺物	213
第 214 図	76号住居跡出土遺物	189	第 247 図	92号住居跡	214
第 215 図	77号住居跡	190	第 248 図	92号住居跡出土遺物	215
第 216 図	78号住居跡	191	第 249 図	93号住居跡	216
第 217 図	78号住居跡カマド	192	第 250 図	93号住居跡出土遺物	217
第 218 図	78号住居跡出土遺物	192	第 251 図	94号住居跡	218
第 219 図	79号住居跡	193	第 252 図	94号住居跡出土遺物①	219
第 220 図	80号住居跡	194	第 253 図	94号住居跡出土遺物②	220
第 221 図	80号住居跡出土遺物	195	第 254 図	94号住居跡出土遺物③	221
第 222 図	81号住居跡・82号住居跡	196	第 255 図	95号住居跡	222
第 223 図	81号住居跡エレベーション・82号 住居跡エレベーション	197	第 256 図	97号住居跡	223
第 224 図	82号住居跡出土遺物	197	第 257 図	98号住居跡	224
第 225 図	83号住居跡	198	第 258 図	1号掘立柱跡	225
第 226 図	83号住居跡出土遺物①	198	第 259 図	2号掘立柱跡	226
第 227 図	83号住居跡出土遺物②	199	第 260 図	3号掘立柱跡・4号掘立柱跡エレ ベーション	227
			第 261 図	3号掘立柱跡・4号掘立柱跡	228

第 262 図	5号掘立柱跡・6号掘立柱跡……	229	第 277 図	7号井戸跡出土遺物・9号井戸跡 出土遺物①……………	245
第 263 図	5号掘立柱跡・6号掘立柱跡エレ ベーション……………	230	第 278 図	9号井戸跡出土遺物②……………	246
第 264 図	7号掘立柱跡……………	231	第 279 図	2号土壌……………	247
第 265 図	7号掘立柱跡エレベーション……	232	第 280 図	9号土壌……………	248
第 266 図	8号掘立柱跡エレベーション……	232	第 281 図	1号土坑・3号土坑・5号土坑・ 6号土坑・7号土坑・8号土坑…	249
第 267 図	8号掘立柱跡……………	233	第 282 図	10号土坑・11号土坑・12号土坑・ 13号土坑・14号土坑……………	250
第 268 図	9号掘立柱跡……………	234	第 283 図	5号土坑出土遺物・8号土坑出土 遺物・10号土坑出土遺物・11号土 坑出土遺物……………	251
第 269 図	9号掘立柱跡エレベーション……	235	第 284 図	1号溝跡・2号溝跡・3号溝跡…	254
第 270 図	10号掘立柱跡……………	236	第 285 図	9号溝跡・10号溝跡・道状遺構…	255
第 271 図	1号竪穴状遺構……………	237	第 286 図	1号溝跡出土遺物・2号溝跡出土 遺物・3号溝跡出土遺物……………	256
第 272 図	2号竪穴状遺構……………	238	第 287 図	表土出土遺物……………	257
第 273 図	1号井戸跡・2号井戸跡……………	241			
第 274 図	7号井戸跡・8号井戸跡……………	242			
第 275 図	9号井戸跡・10号井戸跡……………	243			
第 276 図	1号井戸跡出土遺物・2号井戸跡 出土遺物・8号井戸跡出土遺物…	244			



# 図 版 目 次

- |       |  |       |   |
|-------|--|-------|---|
| 図版 1  | 遺跡からの遠景（南より）<br>I区全景（北より）                          |       | 9号住居跡カマド・貯蔵穴<br>9号住居跡貯蔵穴遺物出土状態                                  |
| 図版 2  | II区・III区全景（北より）<br>II区・III区全景（南より）                 | 図版 13 | 10号・12号・13号住居跡全景<br>10号住居跡全景                                    |
| 図版 3  | III区・IV区全景（北より）<br>III区・IV区全景（南より）                 | 図版 14 | 10号住居跡カマド・貯蔵穴<br>12号・13号住居跡全景                                   |
| 図版 4  | 2号住居跡全景<br>2号住居跡カマド周辺遺物出土状態<br>2号住居跡カマド            |       | 12号・13号住居跡遺物出土状態全景<br>12号住居跡全景                                  |
| 図版 5  | 3号住居跡全景<br>3号住居跡カマド・貯蔵穴<br>3号住居跡カマド周辺遺物出土状態        | 図版 15 | 12号住居跡カマド遺物出土状態<br>13号住居跡遺物出土状態全景                               |
| 図版 6  | 3号住居跡カマド<br>4号住居跡全景<br>4号住居跡遺物出土状態全景               | 図版 16 | 13号住居跡カマド周辺遺物出土状態<br>14号・15号・16号・18号住居跡全景                       |
| 図版 7  | 4号住居跡遺物出土状態<br>4号住居跡カマド周辺遺物出土状態<br>4号住居跡カマド・貯蔵穴    | 図版 17 | 14号住居跡遺物出土状態全景<br>14号住居跡遺物出土状態<br>14号住居跡カマド遺物出土状態               |
| 図版 8  | 5号住居跡全景<br>5号住居跡遺物出土状態全景<br>5号住居跡遺物出土状態            | 図版 18 | 15号住居跡全景<br>15号住居跡遺物出土状態全景<br>15号住居跡カマド周辺遺物出土状態                 |
| 図版 9  | 5号住居跡カマド周辺遺物出土状態<br>5号住居跡カマド<br>5号住居跡セクション（FA堆積状態） | 図版 19 | 15号住居跡カマド遺物出土状態<br>15号住居跡貯蔵穴遺物出土状態<br>15号住居跡カマド・貯蔵穴             |
| 図版 10 | 5号住居跡セクション（FA堆積状態）<br>6号住居跡全景<br>6号住居跡カマド遺物出土状態    | 図版 20 | 16号住居跡遺物出土状態全景<br>17号住居跡全景<br>17号住居跡遺物出土状態全景<br>17号住居跡カマド遺物出土状態 |
| 図版 11 | 6号住居跡カマド<br>7号住居跡全景<br>7号住居跡カマド遺物出土状態              | 図版 21 | 18号住居跡全景<br>18号住居跡遺物出土状態<br>18号住居跡カマド遺物出土状態<br>19号・20号住居跡全景     |
| 図版 12 | 9号住居跡全景  | 図版 22 | 21号住居跡全景<br>21号住居跡遺物出土状態全景<br>22号・23号住居跡全景                      |
|       |  | 図版 23 | 22号・23号住居跡遺物出土状態全景  |

	24号住居跡全景		39号・43号住居跡遺物出土状態全景
	24号住居跡遺物出土状態全景		39号住居跡カマド・貯蔵穴
図版 24	25号住居跡全景	図版 36	39号住居跡カマド
	25号住居跡遺物出土状態全景		40号住居跡全景
	25号住居跡カマド遺物出土状態		40号住居跡カマド・貯蔵穴
図版 25	26号住居跡全景	図版 37	41号住居跡全景
	26号住居跡遺物出土状態全景		41号住居跡カマド遺物出土状態
	26号住居跡カマド		42号住居跡全景
図版 26	25号・26号・27号住居跡全景	図版 38	42号住居跡カマド遺物出土状態
	27号住居跡遺物出土状態全景		45号・46号住居跡全景
	27号住居跡カマド		45号住居跡カマド
図版 27	28号住居跡全景	図版 39	46号住居跡カマド
	28号住居跡カマド遺物出土状態		47号住居跡全景
	29号住居跡全景		47号住居跡遺物出土状態全景
図版 28	30号・31号住居跡全景	図版 40	47号住居跡カマド・貯蔵穴
	30号・31号住居跡遺物出土状態全景		48号住居跡全景
	30号住居跡カマド遺物出土状態		49号住居跡遺物出土状態全景
図版 29	30号住居跡カマド	図版 41	50号住居跡全景
	30号住居跡カマド煙道部		51号住居跡全景
	30号住居跡カマド煙道部		51号住居跡遺物出土状態全景
図版 30	31号住居跡遺物出土状態全景	図版 42	51号住居跡カマド周辺遺物出土状態
	32号住居跡全景		51号住居跡カマド・貯蔵穴
	32号住居跡カマド		52号住居跡全景
図版 31	33号住居跡全景	図版 43	52号住居跡遺物出土状態全景
	34号住居跡全景		52号住居跡カマド・貯蔵穴
	34号住居跡遺物出土状態全景		53号・54号・55号住居跡全景
図版 32	34号住居跡カマド・貯蔵穴	図版 44	53号・54号・55号住居跡遺物出土状態全景
	34号住居跡鉄斧出土状態		53号住居跡カマド周辺遺物出土状態
	35号住居跡全景		56号住居跡全景
図版 33	35号住居跡カマド	図版 45	57号住居跡全景
	36号住居跡全景		57号住居跡遺物出土状態全景
	36号住居跡カマド周辺遺物出土状態		58号住居跡全景
図版 34	36号住居跡カマド・貯蔵穴	図版 46	58号住居跡遺物出土状態全景
	37号住居跡全景		58号住居跡カマド
	37号住居跡遺物出土状態全景		59号住居跡全景
図版 35	38号住居跡全景		

図版 47	59号住居跡遺物出土状態全景 60号住居跡全景 60号住居跡遺物出土状態全景		78号住居跡遺物出土状態
図版 48	60号住居跡遺物出土状態 60号住居跡カマド・貯蔵穴 61号住居跡全景	図版 59	79号住居跡全景 80号住居跡全景 80号住居跡遺物出土状態全景
図版 49	61号住居跡カマド 62号住居跡全景 62号住居跡カマド	図版 60	80号住居跡遺物出土状態 80号住居跡遺物出土状態 81号・82号住居跡全景
図版 50	63号・64号住居跡全景 63号・64号住居跡遺物出土状態全景 64号住居跡遺物出土状態	図版 61	77号住居跡柱穴 81号住居跡柱穴 83号住居跡全景
図版 51	65号住居跡全景 65号住居跡遺物出土状態 66号住居跡全景	図版 62	85号住居跡遺物出土状態全景 85号住居跡床下状態全景 85号住居跡カマド周辺遺物出土状態
図版 52	66号住居跡遺物出土状態全景 67号住居跡全景 67号住居跡遺物出土状態全景	図版 63	86号・87号住居跡全景 87号住居跡遺物出土状態全景 87号住居跡カマド周辺遺物出土状態
図版 53	67号住居跡カマド周辺遺物出土状態 68号住居跡全景 68号住居跡遺物出土状態全景	図版 64	87号住居跡カマド 87号住居跡カマド 87号住居跡カマド
図版 54	68号住居跡カマド 69号・70号住居跡全景 69号住居跡カマド	図版 65	88号住居跡全景 88号住居跡遺物出土状態全景 88号住居跡カマド周辺遺物出土状態
図版 55	71号・72号・73号・96号住居跡全景 74号住居跡遺物出土状態全景 74号住居跡床下状態全景	図版 66	88号住居跡遺物出土状態 88号住居跡カマド 88号住居跡カマド
図版 56	74号住居跡カマド遺物出土状態 75号・84号住居跡全景 84号住居跡全景	図版 67	88号住居跡カマド 89号住居跡全景 90号住居跡全景
図版 57	76号住居跡全景 76号住居跡遺物出土状態 76号住居跡カマド・貯蔵穴遺物出土状態	図版 68	90号住居跡カマド遺物出土状態 91号住居跡全景 91号住居跡遺物出土状態全景
図版 58	77号住居跡全景 78号住居跡全景	図版 69	92号住居跡全景 92号住居跡遺物出土状態 92号住居跡カマド
		図版 70	93号住居跡遺物出土状態全景 94号住居跡全景

	94号住居跡遺物出土状態全景		9号・10号溝跡、道状遺構
図版 71	94号住居跡カマド周辺遺物出土状態	図版 83	1号住居跡出土遺物
	94号住居跡カマド遺物出土状態		2号住居跡出土遺物
	94号住居跡カマド遺物出土状態		3号住居跡出土遺物
図版 72	95号住居跡全景	図版 84	4号住居跡出土遺物
	97号住居跡全景		5号住居跡出土遺物
	98号住居跡全景	図版 85	5号住居跡出土遺物
図版 73	97号住居跡柱穴	図版 86	5号住居跡出土遺物
	2号竪穴状遺構		6号住居跡出土遺物
	1号竪穴状遺構		7号住居跡出土遺物
図版 74	1号・2号竪穴状遺構		8号住居跡出土遺物
	1号掘立柱跡		9号住居跡出土遺物
	2号掘立柱跡		10号住居跡出土遺物
図版 75	3号掘立柱跡		12号住居跡出土遺物
	4号掘立柱跡	図版 87	12号住居跡出土遺物
	5号・6号・7号掘立柱跡		13号住居跡出土遺物
図版 76	5号・6号・7号掘立柱跡		14号住居跡出土遺物
	8号掘立柱跡	図版 88	14号住居跡出土遺物
	9号掘立柱跡		15号住居跡出土遺物
図版 77	10号掘立柱跡		17号住居跡出土遺物
	1号井戸跡	図版 89	17号住居跡出土遺物
	2号井戸跡		18号住居跡出土遺物
図版 78	7号井戸跡		20号住居跡出土遺物
	8号井戸跡		21号住居跡出土遺物
	9号井戸跡		23号住居跡出土遺物
図版 79	10号井戸跡		24号住居跡出土遺物
	1号土坑	図版 90	24号住居跡出土遺物
	2号土壇馬骨出土状態		25号住居跡出土遺物
図版 80	2号土壇馬骨出土状態		26号住居跡出土遺物
	2号土壇馬骨出土状態		27号住居跡出土遺物
	9号土壇人骨出土状態		30号住居跡出土遺物
図版 81	1号溝跡	図版 91	30号住居跡出土遺物
	2号溝跡		31号住居跡出土遺物
	1号溝跡		32号住居跡出土遺物
図版 82	9号・10号溝跡、道状遺構		33号住居跡出土遺物
	9号・10号溝跡、道状遺構		35号住居跡出土遺物

	36号住居跡出土遺物	図版 97	67号住居跡出土遺物
	37号住居跡出土遺物		68号住居跡出土遺物
	39号住居跡出土遺物		69号住居跡出土遺物
	40号住居跡出土遺物		74号住居跡出土遺物
図版 92	41号住居跡出土遺物	図版 98	75号住居跡出土遺物
	42号住居跡出土遺物		76号住居跡出土遺物
	45号住居跡出土遺物		78号住居跡出土遺物
	51号住居跡出土遺物		80号住居跡出土遺物
図版 93	51号住居跡出土遺物		83号住居跡出土遺物
	52号住居跡出土遺物		85号住居跡出土遺物
	53号住居跡出土遺物	図版 99	85号住居跡出土遺物
	58号住居跡出土遺物		88号住居跡出土遺物
図版 94	54号住居跡出土遺物		90号住居跡出土遺物
	57号住居跡出土遺物		92号住居跡出土遺物
	58号住居跡出土遺物		94号住居跡出土遺物
図版 95	59号住居跡出土遺物	図版 100	92号住居跡出土遺物
	60号住居跡出土遺物		94号住居跡出土遺物
図版 96	60号住居跡出土遺物	図版 101	7号并戸跡出土遺物
	61号住居跡出土遺物		表土
	62号住居跡出土遺物		34号住居跡出土遺物
	64号住居跡出土遺物	図版 102	出土金属器
	65号住居跡出土遺物		



## 第 I 章 調査に至る経過

わが国最初の東海道新幹線が東京・新大阪間に開通したのは、昭和39年10月1日のことで、国全体が近づく東京オリンピック大会の話題でわいていた頃であり、これによりわが国も本格的な新幹線時代を迎えることになった。敗戦といういまだかつてない苦難の被占領時代を経て再び独立したわが国は、奇跡的な復興をとげ、特に経済面での高度成長には目をみはるものがあった。その代表的なものが交通路、交通網の整備である。既に昭和33年には関門トンネル、同37年には若戸大橋が開通し、東名高速道路の開通は昭和44年のことであり、県内でも伊香保・榛名湖間の有料道路（昭和37年10月）や国道17号の高前バイパス（昭和41年4月）の開通などがあって、交通網の整備は県民の関心の強いものがあった。

昭和45年5月には全国新幹線鉄道整備法が制定され、全国主要都市を新幹線で結ぼうという画期的な計画であった。その一つが東京と新潟間約300kmを結ぶ上越新幹線であり、昭和46年1月にはその基本計画、そして同年4月には整備計画が発表されるという急速な動きであった。そして更に同年10月14日にはその具体策として大宮・新潟間の路線発表がなされ、本県内には高崎と月夜野（上毛高原駅）に停車駅が設置されることになり、都内～1時間弱という高速鉄道網の時代を迎えることになった。

昭和46年10月に日本鉄道建設公団から発表されたルートによれば、本県内は延長71kmそのうち45.7%はトンネルであり、通過市町村は南から、藤岡市、高崎市、群馬町、榛東村、吉岡村、渋川市、小野上村、高山村、月夜野町、水上町の3市3町4村であった。この時の発表が20万分の1の地図上に路線を記したものであったが、後に地元におろした説明とくいちがいが起こり、群馬町井出地区などでは、設計協議、用地買収などに大小の影響を与えた。

永年にわたりこの国土において培われた国民的な遺産の保護については、昭和25年に制定された「文化財保護法」に明定され、さまざまな文化財の保護が国の施策として、また地方公共団体の責務としてなされるようになったが、その歴史はまだ浅かった。日本列島改造論などと共に全国的に大規模な開発事業が行なわれるようになり、文化財、とくに埋蔵文化財の破壊行為が目立つようになった。こうした趨勢の中で国の文化財保護委員会（昭和43年から文化庁）は、建設部局である建設省、日本道路公団などとも覚書を結んで、埋蔵文化財の保護にあたってきたが、新幹線の建設に当る日本鉄道建設公団との間にも昭和41年4月、「日本鉄道建設公団の事業施行に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する覚書」を締結していた。以後の対応策は基本的にこの覚書にもとづいて実施されることになる。

上越新幹線と並んで、本県では併行的に日本道路公団による関越自動車道新潟線（東京都練馬・新潟県新潟市間）、建設省による国道17号バイパスとしての上武道路（埼玉県熊谷・前橋市田口間）の大型プロジェクトが進められることになり、県内では三幹線と通称していた。いまだかつてないこうした大規模な開発プロジェクトに対しての群馬県教育委員会事務局内の体制は社会教育課内の一係として数名の文化財係が置かれているにすぎなかった。そうした体制では到底文化財保護に万全を期すことができないことは必至であり、県教委は、まず昭和47年度に文化財保護室（10名）を発足させ、諸準備にあたりと共に同年5月に日本鉄道建設公団東京新幹線建設局から県に依頼してきた関連公共事業調査の中の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施することになった。この分布調査は範囲が路線外にも及んだことと、トンネル予定地にもかかることもあり、リストアップされたのは93か所にも達した。昭和47年9月以後、

## 第I章 調査に至る経過

日本鉄道建設公団側と協議した結果、直接路線にかかる埋蔵文化財包蔵地は合計22か所であることが判った。この22か所は後の実施段階において数か所の増加があったが、榛名トンネル以南の群馬町内の7か所であり、南から井出（東下井出、村東）、三ツ寺Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保渡田、中里であり、中里の小円墳を除いてはすべて住居址等が予想される包蔵地であった。

こうした埋蔵文化財包蔵地を対象にした新幹線建設工事により、遺構が破壊又はそのおそれがあるものについては、工事の設計変更等による保存は原則的には不可能とみられることから、次善の方法として遺跡の実態をせめて記録にとどめて残すために発掘調査を計画し、群馬県教育委員会では、昭和48年度以来、県下における上越新幹線建設に伴う事前調査を実施することになった。その発掘調査は、設計協議や用地買収が終了又は地元の了解が得られた個所から入ることとし、そうした条件の整った個所から着手した。こうして昭和48年度には月夜野町上津、大原地区、高崎市下小鳥地区から開始したが、当初の予想をはるかに上回る事業量や、当初本線敷のみで始めたため後に側道（工事用道路）部分が残ってしまったとか、県北地域では冬季の厳寒期は実施できないため移動をやむなくされるとか、又は日本鉄道建設公団側の工程理由、地権者の理由などさまざまな要件で、調査効率が必ずしも良くない方法もとらざるを得ない状況もあり、同一遺跡、同一個所について数年次又は数次にわたる調査というのが実態であった。こうして県下で開始されて第4年次の昭和51年度までには、県北の月夜野町4か所と、県南の藤岡市2か所、そして高崎市8か所に及んだが、群馬町内は依然として未着手の状態が続いたままであった。

昭和52年度に入り年度当初（4月25日）の日本鉄道建設公団との協議で、当該年度の工事発注の計画が明らかになった。それによると藤岡地区は7月、月夜野地区と群馬町三ツ寺地区は9月、高崎市上佐野地区は12月の予定とのことであった。群馬町内でもいよいよ埋蔵文化財調査の動きは必至とみられる情勢になってきたが、少なくとも年度の前半ではその体制を組むには至らなかった。余猶のある調査体制なら、土地の条件が整えば直ちに着手することが可能であるが、いつも100%の陣容で、年度計画をたてて調査に当たっているためいわゆる小回りは不可能なことであり、そのため定期的な協議と、日常的な情報の収集とが調整作業の重要な用務となった。

昭和52年後半に至り、群馬町の唐沢川周辺から榛名トンネルに入る三ツ寺Ⅲ・保渡田・中里遺跡周辺地区において用地買収の作業が進み、と同時に12月に入って中里地区では年内に試験杭を打ちたいという計画ももたらされ、併行して文化財調査とプレハブ建設（調査事務所）、人夫の調達などの準備を進めることができ、年を越して昭和53年1月17日から年度内は試掘を始めたのが保渡田遺跡である。本格的な調査は54年度に入ってからであり、炎天下の8月31日まで続行された。

そしてこの班は引続き唐沢川以南の三ツ寺Ⅲ遺跡に着手、昭和53年9月1日から、年度を越して54年11月22日まで続行した。どこの調査でもそうであるが、遺跡の調査日程は当初予想した日程では殆ど終了しない。遺構の出方が場所によって実にまちまちであり、且つ自然（天候）との闘いであり、特に雨天による作業日数の変化は事業量にも多く影響を及ぼし「あの10日間がなければなあ」という調査担当者のことばを聞いたのもこの遺跡であった。

一方、群馬町最北の中里天神塚古墳（旧上郊村12号墳）は保渡田遺跡と同じく昭和53年1月16日に着手し、55日間を要し、同年3月29日までにはすべての現地調査を終了することができたのである。



## 第II章 遺跡の立地と歴史的環境

群馬県を北から南へ流れる利根川は、埼玉県との県境で流路を大きく東へ変える。群馬県の中央部分には、南流する利根川を挟み、東側は赤城山・西側に榛名山が聳える。赤城山・榛名山は広大な裾野を有しており、その地形・自然・資源等は、現在の県民生活にも大きな影響を与えている。三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳は、その榛名山の裾野に営まれた遺跡である。

遺跡の周辺には、榛名山に源を発する井野川が流れ、同じく榛名山に源を発する唐沢川・染谷川・牛池川を合せて烏川に合流する。更に、烏川は利根川本流と合流する。この唐沢川を挟み、南に三ツ寺III遺跡が位置し、北側に保渡田遺跡が位置する。保渡田遺跡の北約500mには、中里天神塚古墳が造られている。遺跡の所在地は、各々、群馬郡群馬町三ツ寺・保渡田・中里であり、榛名山の裾野の末端に位置している。遺跡周辺は、桑畑を中心とする畑地や水田であるが、前橋市と高崎市に挟まれた群馬町の現状は、遺跡周辺を宅地に変えつつある。

保渡田遺跡からは、縄文時代中期末～後期前半の遺物が出土している。周辺の遺跡では、保渡田遺跡の北西に位置する保渡田II遺跡からは縄文時代中期の敷石住居が、三ツ寺III遺跡の南に隣接する三ツ寺II遺跡からは縄文時代前期の住居跡が3軒発見されている。更に、約2.5km南に位置する熊野堂遺跡からは縄文時代前期の住居跡が、雨壺遺跡からは縄文時代中期の住居跡が発見されている。当遺跡周辺は縄文時代から人間が生活を営んでいたことは確実であるが、旧石器を出土する遺跡の調査はまだない。

三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡から、弥生時代の遺構・遺物の出土はない。しかし、三ツ寺II遺跡・井出村東遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡からは、弥生時代後期の遺構・遺物が発見されている。

古墳時代になると周囲の状況は変化し、遺跡・遺構の数が多くなる。周囲に堀を巡らした豪族の館跡として有名になった三ツ寺I遺跡、大型前方後円墳である愛宕塚古墳・八幡塚古墳・薬師塚古墳が造られるようになる。中里天神塚古墳は、この前方後円墳3基の北東約1kmに位置する円墳である。この前方後円墳の周辺には多くの古墳が存在していたことを上毛古墳総覧により知ることができるが、現存するのは僅かである。集落遺跡もその数を増す。三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡も古墳時代後半から集落を形成する。周辺でも、三ツ寺II遺跡・保渡田II遺跡・中林遺跡・井出村東遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡などから遺構が発見されている。

古墳時代で注目されるのは、生活跡としての住居跡の他、生産跡としての水田跡・畠跡の発見が増えはじめたことである。井野川の両岸にはそれらの遺跡が並んでおり、同道遺跡・御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・熊野堂遺跡・融通寺遺跡からは水田跡が、芦田貝戸遺跡・熊野堂遺跡からは畠跡が発見されている。生産跡の発見が増えていることは、生産の安定性が増加していることを意味する。しかし、栄えていた時代は、自然災害の時代でもあった。この時期には、火山の爆発が起きている。発見された生産跡は、火山灰に覆われており、この火山灰が生産跡発見に役立っている。当時から見れば、それは水田や畠の放棄なのである。爆発した火山は、浅間山の前掛山と榛名山の二ツ岳である。三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡では、その火山灰が住居跡の覆土中から検出できた。火山灰は古い方から、浅間C降下軽石層(4

## 第II章 遺跡の立地と歴史的環境

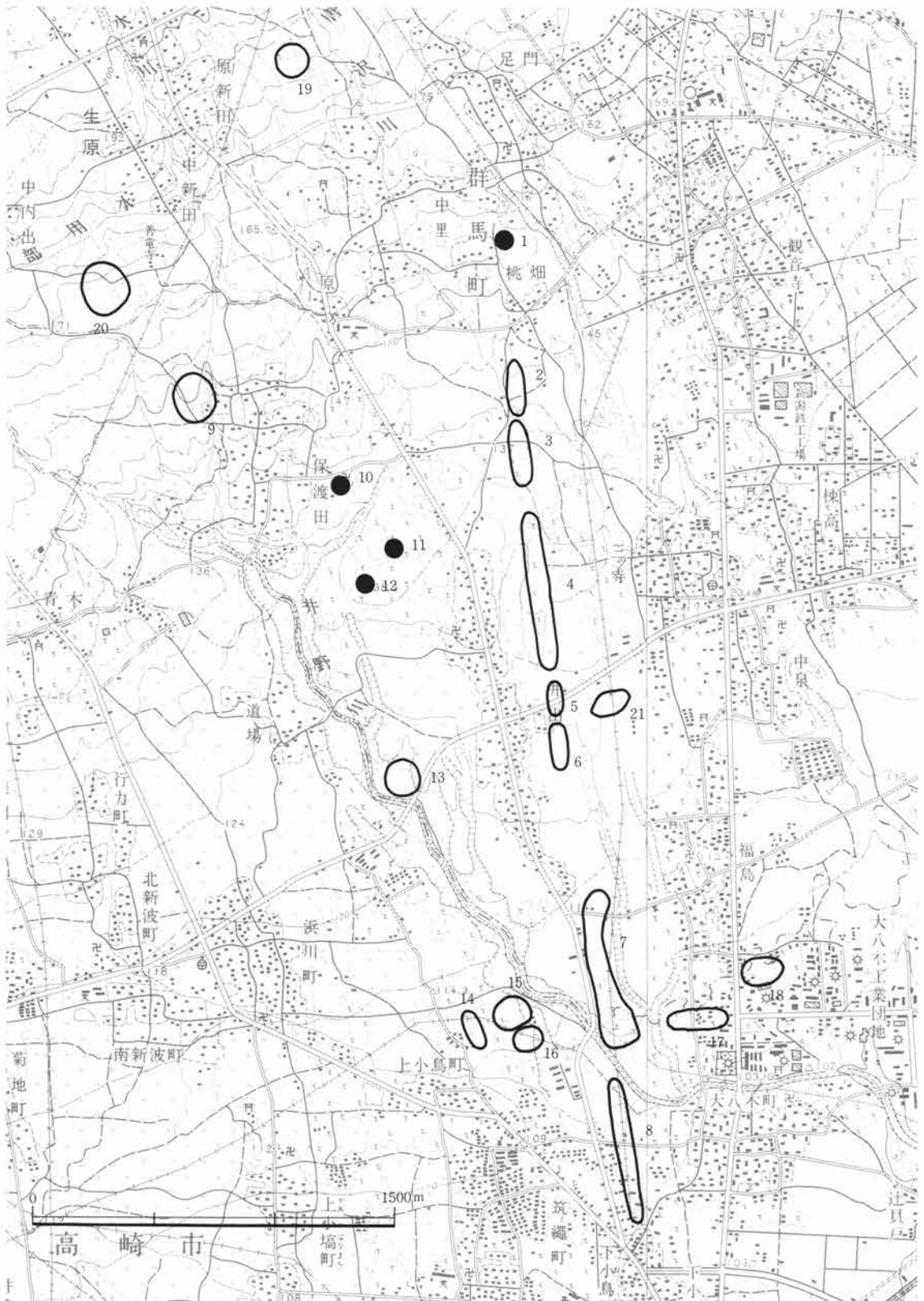
世紀前半)・二ツ岳降下火山灰層(6世紀前半)・二ツ岳降下軽石層(6世紀後半)が確認されている。

三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡は、古墳時代に引き続き、奈良・平安時代にも集落を営んでいる。三ツ寺II遺跡・熊野堂遺跡・雨壺遺跡・融通寺遺跡などからも、奈良・平安時代の遺構・遺物が発見されている。奈良時代は古墳時代末期に制定された律令制度が整ってきた時代である。三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡の東方約3kmには、国分寺跡・国分尼寺跡・国府(推定地)など、中央の制度と関係する遺跡がある。三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡の集落は、平安時代も営まれているが、住居跡数は減ってくる。

### (参考文献)

- 五十嵐至 『保渡田II遺跡・中林遺跡』 群馬町教育委員会 1982  
長谷部達雄他 『三ツ寺II遺跡』 『年報2』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982  
飯塚卓二他 『熊野堂遺跡(1)』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984  
坂井隆他 『熊野堂遺跡第III地区・雨壺遺跡』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984  
大和久震平他 『井出村東遺跡』 群馬町井出村東遺跡調査会 1983  
『群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第五輯 上毛古墳総覧』 群馬県 1938  
石坂茂他 『同道遺跡』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983  
神戸聖語他 『御布呂遺跡』 高崎市教育委員会 1980  
田村孝他 『芦田貝戸遺跡II』 高崎市教育委員会 1980  
関晴彦他 『融通寺遺跡』 『年報3』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984

- |            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| 1 中里天神塚古墳  | 8 融通寺遺跡    | 15 御布呂遺跡    |
| 2 保渡田遺跡    | 9 保渡田III遺跡 | 16 芦田貝戸遺跡   |
| 3 三ツ寺III遺跡 | 10 薬師塚古墳   | 17 雨壺遺跡     |
| 4 三ツ寺II遺跡  | 11 八幡塚古墳   | 18 大八木箱田池遺跡 |
| 5 三ツ寺I遺跡   | 12 愛宕塚古墳   | 19 保渡田II遺跡  |
| 6 井出村東遺跡   | 13 同道遺跡    | 20 生原飯森遺跡   |
| 7 熊野堂遺跡    | 14 寺の内遺跡   | 21 中林遺跡     |



第I図 周辺の遺跡

国土地理院 1/2.5万 「前橋・下室田」



# 三ッ寺Ⅲ遺跡



## 第Ⅲ章 三ッ寺Ⅲ遺跡

### 第1節 調査の方法と経過

#### (1) 周辺の地形と調査の方法

三ッ寺Ⅲ遺跡の周辺には、北から南に向って唐沢川・中島川・天王川などの小河川が流れており、小さな谷地形を刻んでいる。また、現在の河川以外の場所にも、河川が刻んだと考えられる谷地形があることを、地形図（第2図）によって知ることができる。この事は、現在の河川が流路を変えていることを示唆している。

榛名山の裾野の台地は、現在の河川が刻んでいる谷地形、旧河川の流路と考えられる谷地形により、細かく刻まれており、微高地・微低地が連続している。現在の土地利用を見ても、谷地形の部分は水田として利用されている場合が多く見られ、谷地形よりも僅かに高まった微高地は、桑畑を中心とする畑地に利用されている事が多い。

現在の唐沢川は、三ッ寺Ⅲ遺跡の北辺で鉤の手に曲がり、遺跡の東側を南流している。唐沢川の流れは遺跡付近の台地を削り、谷地形を造り出している。遺跡は、その西側の微高地上に展開しており、地目は、畑・桑畑である。

三ッ寺Ⅲ遺跡からは、北北西に雄大な榛名山を、真近に仰ぐことができる。この事は、遺跡付近の基本的な地形が、北北西から南南東に向って傾斜している事を意味する。調査区域は、この地形にほぼ平行して南北に長い為、北北西から南南東に向って傾斜している。遺跡の基本的土層は、この榛名山が創り出した大地形と小地形の複合である。基本的な土層は、この傾斜に沿った堆積である（付図1）。

三ッ寺Ⅲ遺跡の調査区域は、上越新幹線大宮起点84km195m～84km405mの約210mの区間である。大宮起点84km200m～84km400mのセンター杭を基準として、100mを1区とする調査区を設定した。更に、同じセンター杭を基準にして、4m×4mのグリッドを設定した。グリッドの名称は、センター杭に直交する方向を、同杭をEとして、B～Iと名付けた。センター杭に平行する方向は、1区間を25に分け、南より1～25を数字で表した（付図1）。

#### (2) 調査の経過

三ッ寺Ⅲ遺跡は、昭和53年9月1日から第1次調査を開始した。調査期間は、第1次調査が昭和53年9月1日～昭和54年3月31日であり、第2次調査が昭和54年4月1日～昭和54年11月22日である。なお、表土掘削に関しては、表土が耕作土であり、遺構の遺存はないと判断できたために、パワーシャベル等の重機を導入することにした。調査経過の概略は、次の通りである。

##### 第1次調査

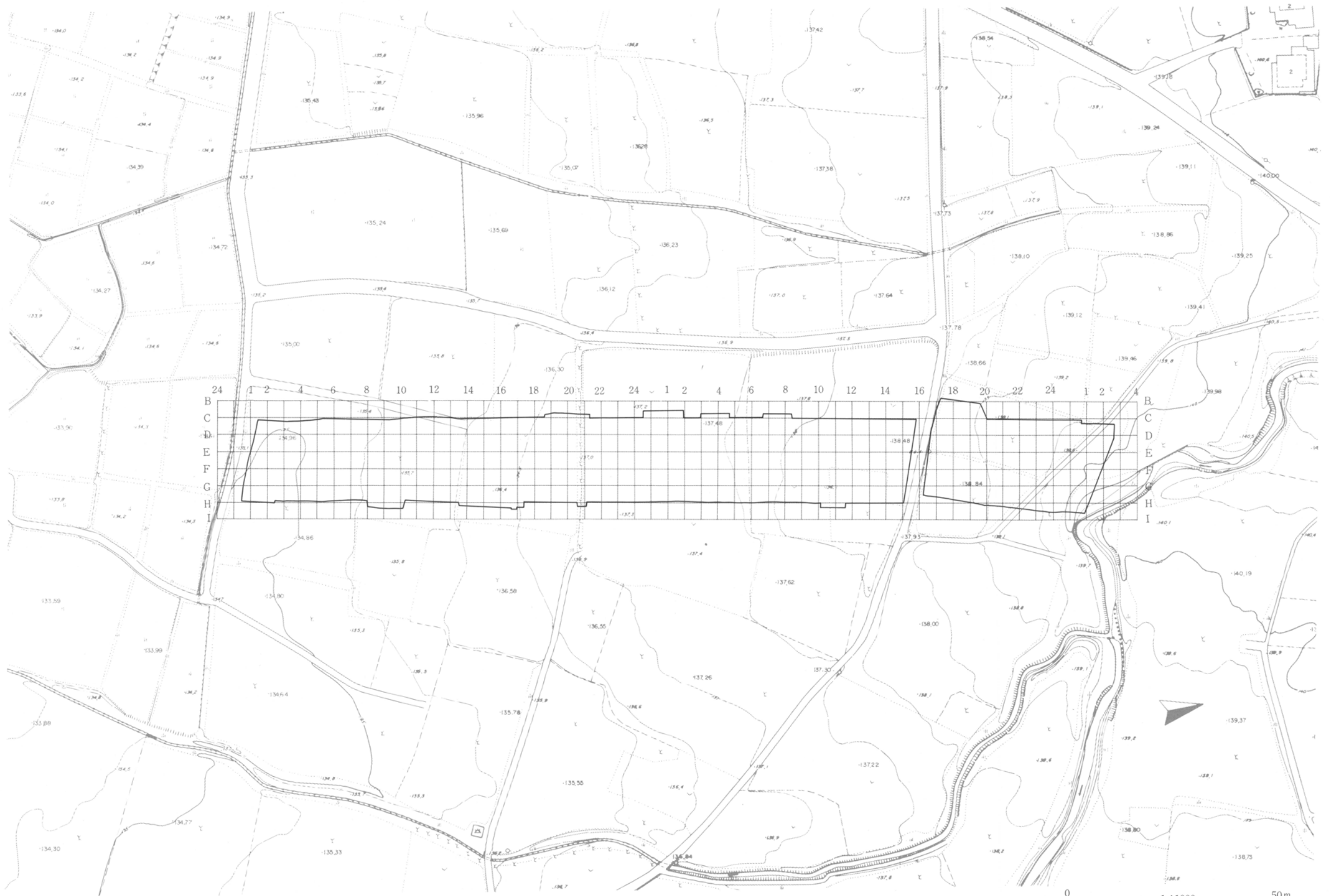
- 53年9月1日 現場プレハブに発掘機材を導入。
- 9月4日 パワーシャベルを導入し、北側部分の表土掘削を開始。
- 9月5日 表土掘削の進行に合わせ、遺構確認を始める。



第2図 遺跡周辺の地形

群馬町都市計画図を使用





第3図 三ツ寺III遺跡 調査区設定図



- 53年9月19日 北側部分の表土掘削終了。
- 9月22日 1号住居跡・3号住居跡から発掘調査を開始。
- 9月23日 表土掘削部分の遺構確認が終了。
- 9月 9月中に着手した遺構は、1号・3号～6号住居跡・道状遺構である。5号住居跡ではFAの堆積を確認。
- 10月 10月中に調査した遺構は、1号～10号・12号～15号・18号住居跡である。1号・3号・4号・6号・7号・9号・10号・13号・15号住居跡・道状遺構は調査終了。
- 11月14日 パワーシャベルを再び導入し、中央部分の表土掘削を開始。
- 11月25日 中央部分の表土掘削が終了。
- 11月29日 群馬町立金古小学校のPTA・家庭教育学級の方々が見学に来訪。教頭先生以下15名であり、遺跡の概要を丁寧に説明する。
- 11月 11月中に調査した遺構は、2号・5号・8号・11号・12号・14号・16号～23号住居跡である。2号・8号・11号・12号・18号住居跡は調査終了。
- 12月6日 本日も北西風強し。作業は難渋。
- 12月26日 本年の作業は、本日にて終了。
- 12月 12月中に調査した遺構は、5号・14号・16号・17号・19号～23号住居跡である。すべて調査終了。
- 54年1月5日 新年になり、本日から発掘調査を開始。
- 1月 1月中に調査した遺構は、24号～28号住居跡。25号～27号住居跡は調査終了。
- 2月 2月中に調査した遺構は、24号・28号～34号住居跡である。24号・28号・29号・31号・33号住居跡は、調査終了。
- 3月27日 本日で第1次調査は終了。
- 3月 3月中に調査した遺構は、30号・32号・34号～37号住居跡である。32号・34号・36号住居跡は調査終了したが、30号・35号・37号住居跡は第2次調査に残る。

## 第2次調査

- 54年4月9日 第2次発掘調査を開始。日本鉄道建設公団群馬町建設所の所長以下2名の方が来訪する。現在の発掘状況を説明。
- 4月11日 群馬町立中央中学校生徒5名の方が見学に来訪する。
- 4月 4月中に調査した遺構は、30号・35号・37号～42号住居跡である。30号・35号・37号・39号・42号住居跡は、調査終了。
- 5月 5月中に調査した遺構は、38号・40号・41号・43号～53号住居跡・1号掘立柱跡である。38号・40号・41号・43号・44号・50号住居跡は、調査終了。
- 6月1日 出土した土師器が盗まれる。
- 6月7日 農繁期になり、作業員が減り始める。調査への影響が心配される。

### 第Ⅲ章 三ツ寺Ⅲ遺跡

- 54年6月12日 雨の日が続く。
- 6月26日 西部教育事務所から2名の方が見学に来訪する。
- 6月 6月中に調査した遺構は、45号～49号・51号～55号住居跡、1号・2号掘立柱跡である。45号～49号・51号・52号住居跡は、調査終了。
- 7月9日 パワーシャベルを導入。残った北側部分の表土掘削開始。
- 7月13日 表土掘削終了。
- 7月 7月中に調査した遺構は、53号～61号住居跡、1号・2号掘立柱跡である。1号掘立柱跡は調査終了。
- 8月14日 お盆のため作業員が集まらず、現場作業は、16日まで休みとする。
- 8月 8月中に調査した遺構は、53号～68号住居跡、2号・3号掘立柱跡である。53号～62号住居跡、2号・3号掘立柱跡は調査終了。
- 9月12日 2号土壇から馬骨を検出。
- 9月 9月中に調査した遺構は、63号～76号住居跡、4号～8号掘立柱跡である。63号～67号・69号・70号住居跡、4号掘立柱跡は、調査終了。
- 10月5日 日本鉄道建設公団の方2名、工程打ち合せのため来訪する。
- 10月24日 日本鉄道建設公団高崎工事事務所から、再度工程打ち合せのため来訪者あり。
- 10月 10月中に調査した遺構は、68号・71号～93号・96号～98号住居跡、5号～10号掘立柱跡である。68号・71号～82号・85号・86号・88号・96号～98号住居跡、5号～10号掘立柱跡は、調査終了。
- 11月15日 現場作業は、ほぼ終了。土器洗浄・注記に並行して、器材の整理を始める。
- 11月22日 器材の搬出を始める。
- 11月24日 発掘調査の全工程が終了する。
- 11月 11月中に調査した遺構は、83号・84号・87号・89号～95号住居跡である。全遺構の調査終了。

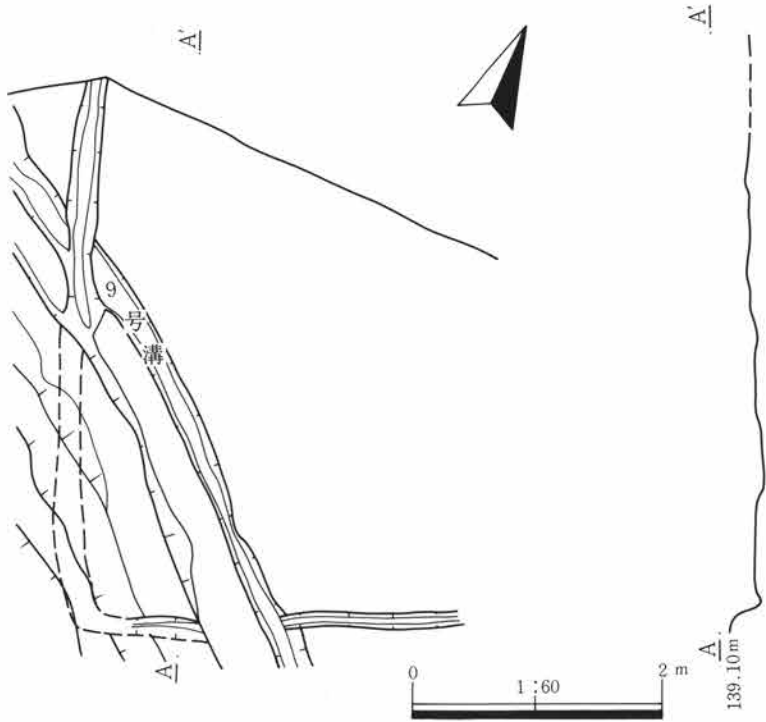
## 第2節 発見された遺構と遺物

### 1号住居跡（第4図）

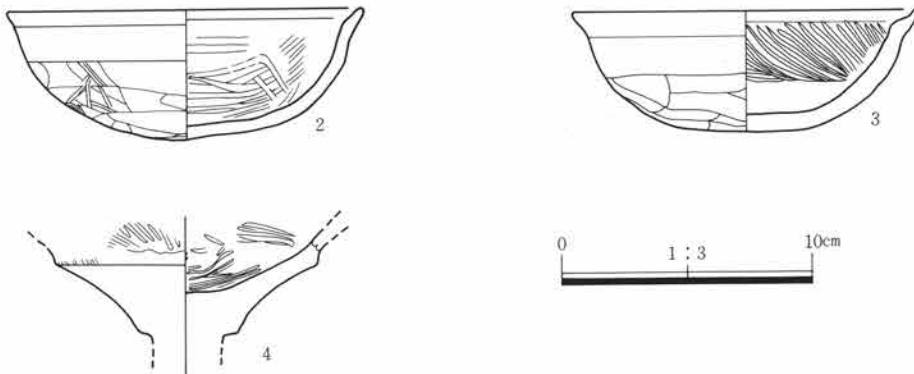
道状遺構が重複し、2号住居跡・3号住居跡・9号溝跡が近接する。道状遺構との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。

当住居跡は大部分が破壊されており、規模・主軸は不明である。壁はほとんど確認できず、南側・西側の壁周溝の一部が検出できただけである。床面もほとんど確認できず、掘り方が検出されただけである。

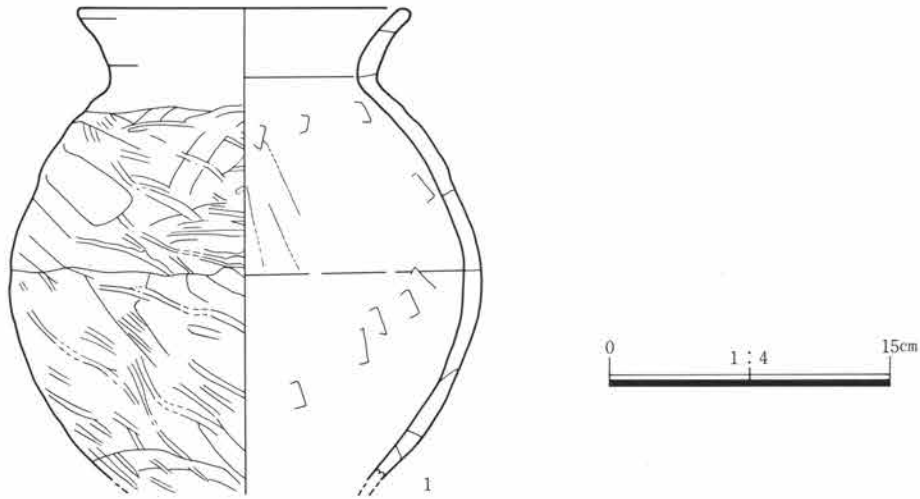
カマド・貯蔵穴は不明である。遺物は土師器の杯・高杯・甕などが出土しているが、出土数は少ない。（井川）



第4図 1号住居跡



第5図 1号住居跡出土遺物①



第6図 1号住居跡出土遺物②

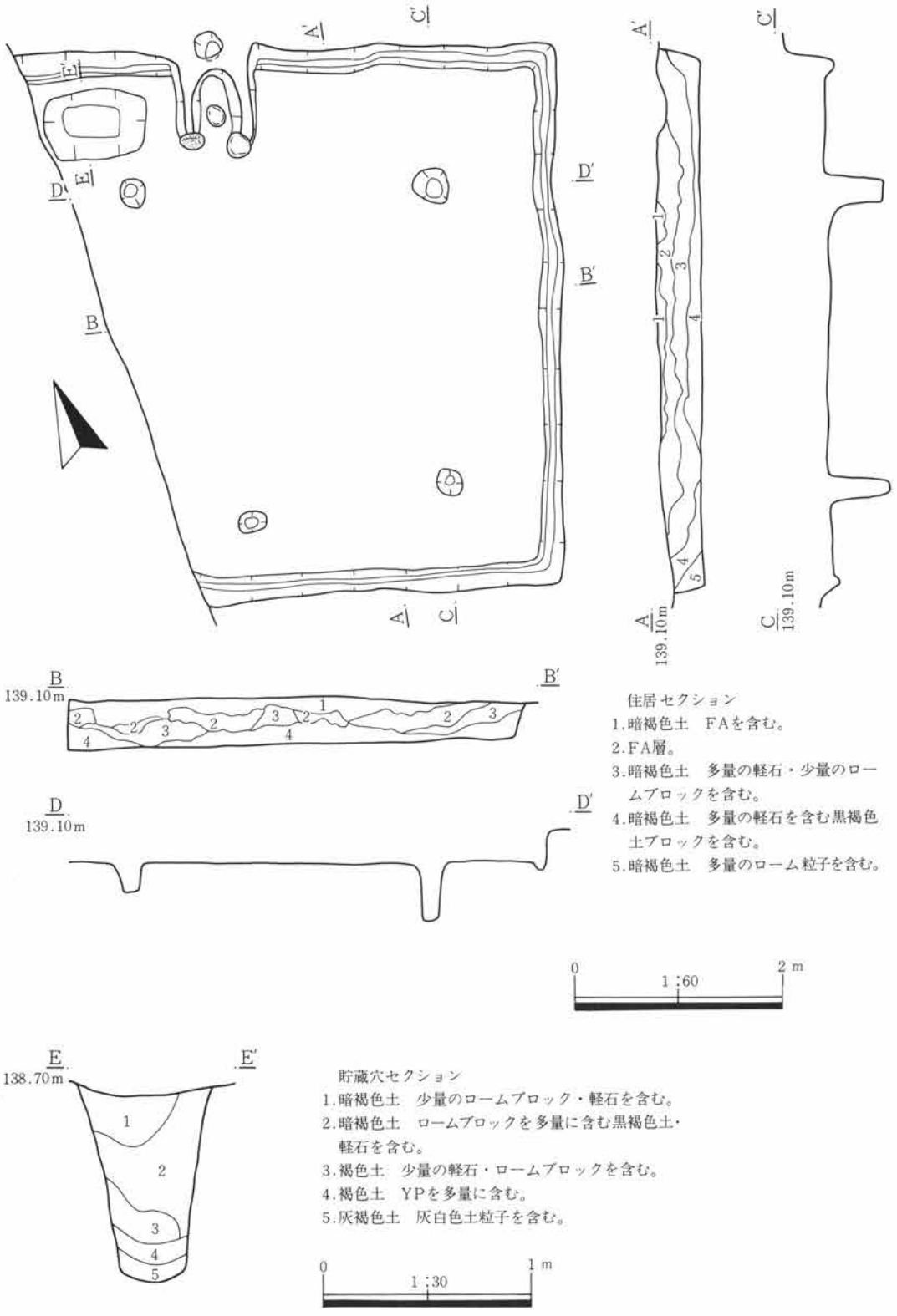
#### 2号住居跡（第7・8図、図版4）

道状遺構・9号溝跡と重複し、1号住居跡・3号住居跡・5号住居跡が近接する。道状遺構との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。9号溝跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。覆土は多量の軽石を含む暗褐色土であり、間層（第2層）にFAの純層が堆積している。

規模は、西側が一部調査区域外のために不明であるが、南北は約5.2mであり、平面形は方形か長方形を呈するものと推定している。主軸はN-19°-Eである。壁の立ち上りは約30~40cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く良好な床である。支柱穴は4本と推定しているが、調査範囲内で確認したのは3本である。南西側の柱穴は調査区域外にあるものと推定している。柱穴の規模は直径約20~30cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。床面からの深さは約50~60cmである。南側壁のやや西寄り付近にピットがある。規模は長軸約25cm・短軸約20cm・床面からの深さ約30cmであり、平面形は楕円形を呈する。柱穴と考えるには、位置に疑問が残る。カマドに対する位置は、東西方向の壁に平行する中線を軸として、ほぼ対称である。その位置等から、出入口に関するピットであると推測している。調査範囲内での壁周溝は、カマド部分を除いて巡っている。西側も壁周溝が巡るものと推定できる。

カマドは北側壁に設置されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の先端の位置は壁の位置よりやや張り出すだけである。袖は灰白色粘土を素材に使用しているが、左袖先端には石を用い、右袖先端には土師器の甕（2住-1）を逆さに置き、固めている。煙道部はトンネル状に掘られ、壁際に出る。袖部先端から約35cm、両袖間の中央から高杯が置かれている状態で検出された。支脚に用いられたものであろう。貯蔵穴は、カマドの左側に構築されている。規模は長辺100cm・短辺約60cmであり、平面形は長方形を呈する。床面からの深さは約90cmを測る。遺物は土師器の杯・高杯・甕・甔などが出土している。

（井川）



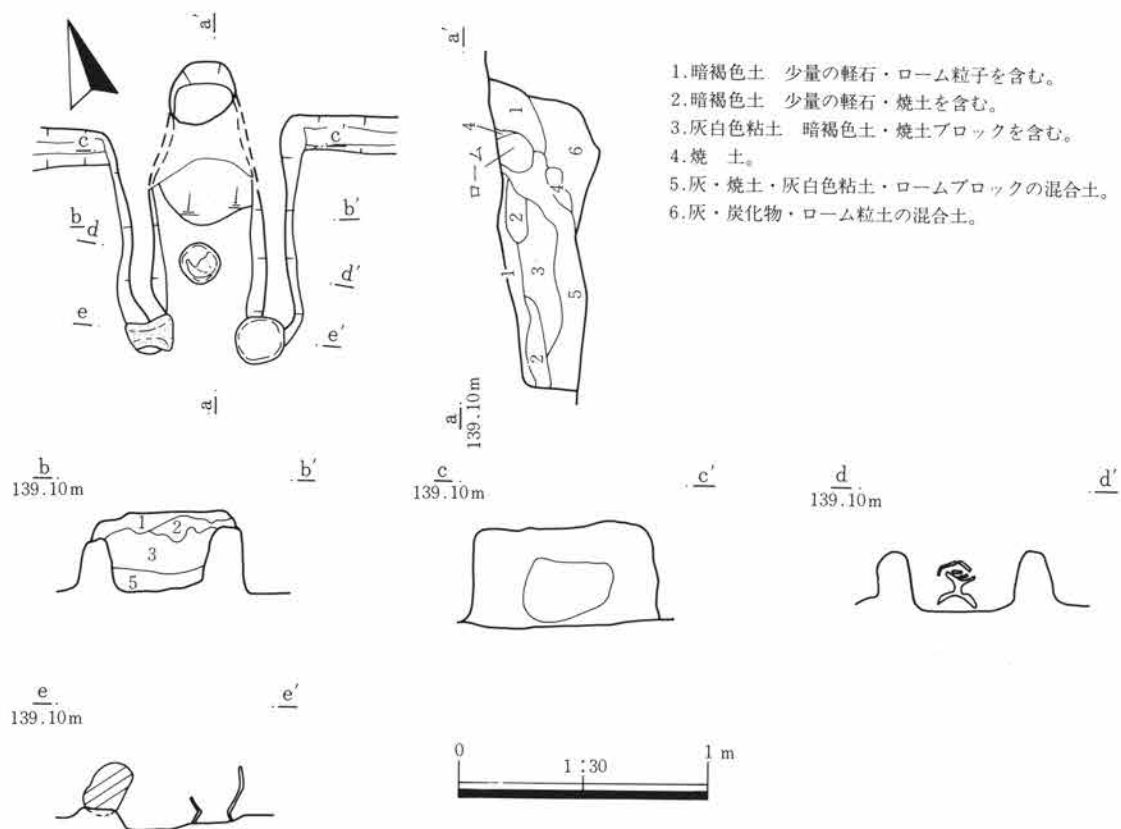
住居セクション

1. 暗褐色土 FAを含む。
2. FA層。
3. 暗褐色土 多量の軽石・少量のロームブロックを含む。
4. 暗褐色土 多量の軽石を含む黒褐色土ブロックを含む。
5. 暗褐色土 多量のローム粒子を含む。

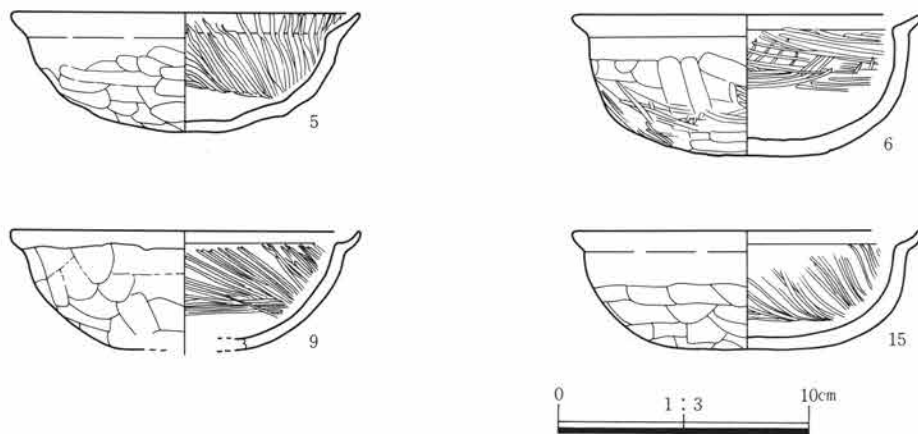
貯蔵穴セクション

1. 暗褐色土 少量のロームブロック・軽石を含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む黒褐色土・軽石を含む。
3. 褐色土 少量の軽石・ロームブロックを含む。
4. 褐色土 YPを多量に含む。
5. 灰褐色土 灰白色土粒子を含む。

第7図 2号住居跡

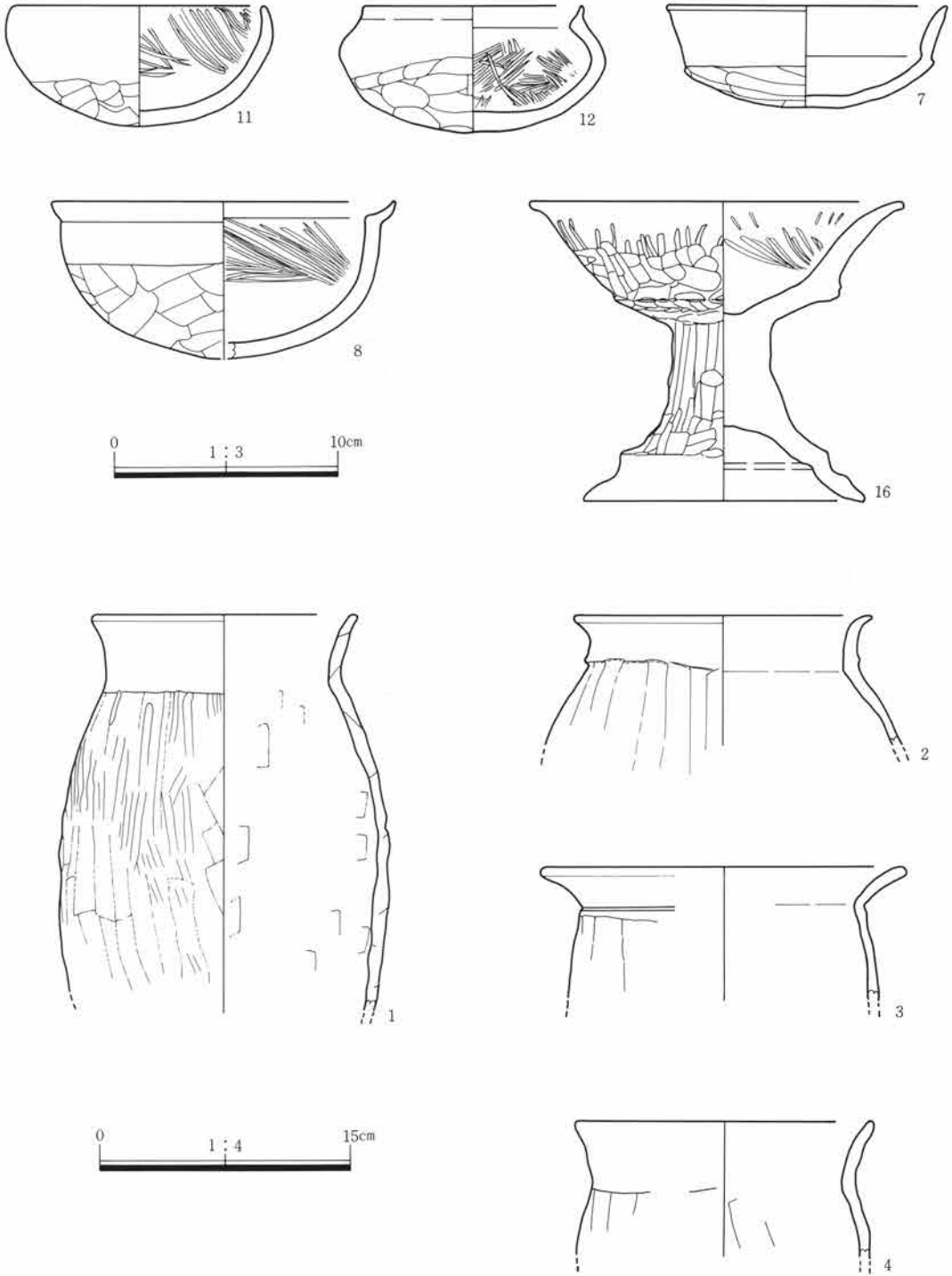


第8図 2号住居跡カマド

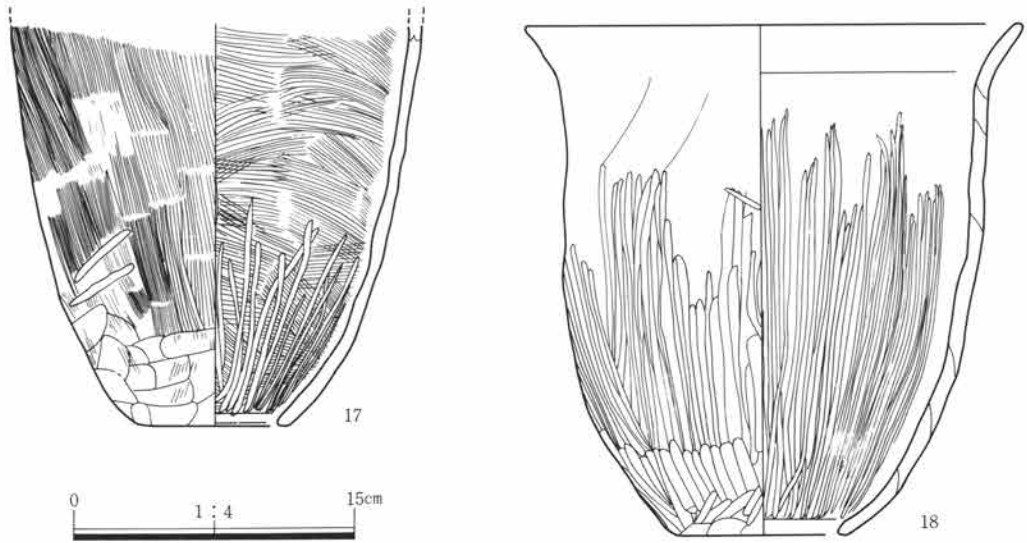


第9図 2号住居跡出土遺物①





第10図 2号住居跡出土遺物②



第11図 2号住居跡出土遺物③

### 3号住居跡（第12図、図版5・6）

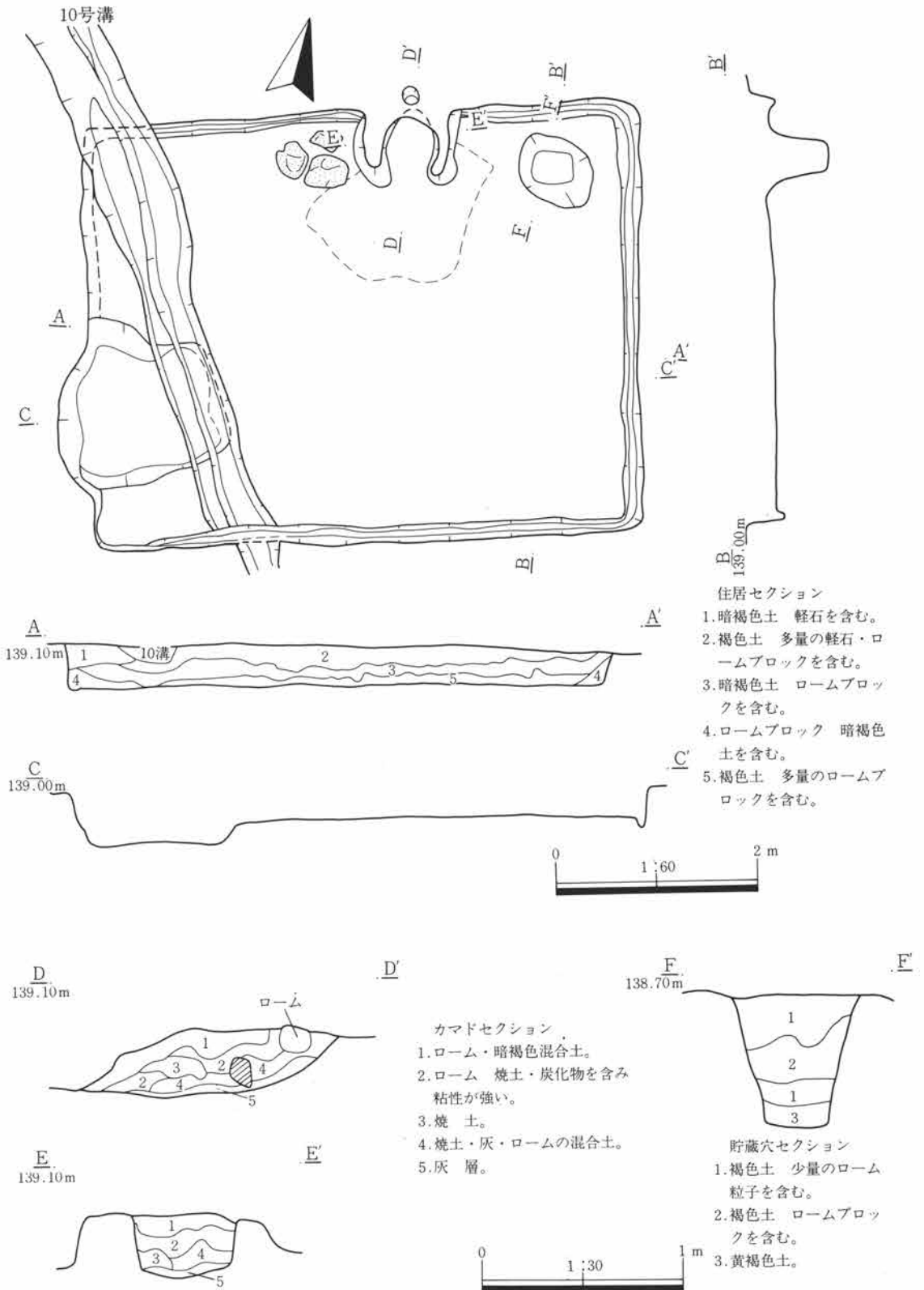
道状遺構・10号溝跡と重複し、1号住居跡・2号住居跡・4号住居跡・5号住居跡が近接する。道状遺構との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。10号溝跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。

規模は東西約5.5m・南北約4.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-16°-Wである。壁の立ち上りは約35~45cmであり、残存状態は良好であるが、南西部分は土坑により、乱れている。床はローム層中に構築されており、比較的硬く、良好な床である。壁内から、柱穴は検出されなかった。壁周溝は、カマド部分・西側部分を除いて、巡っている。西側部分も、南西隅付近の他は、巡るものと推測される。

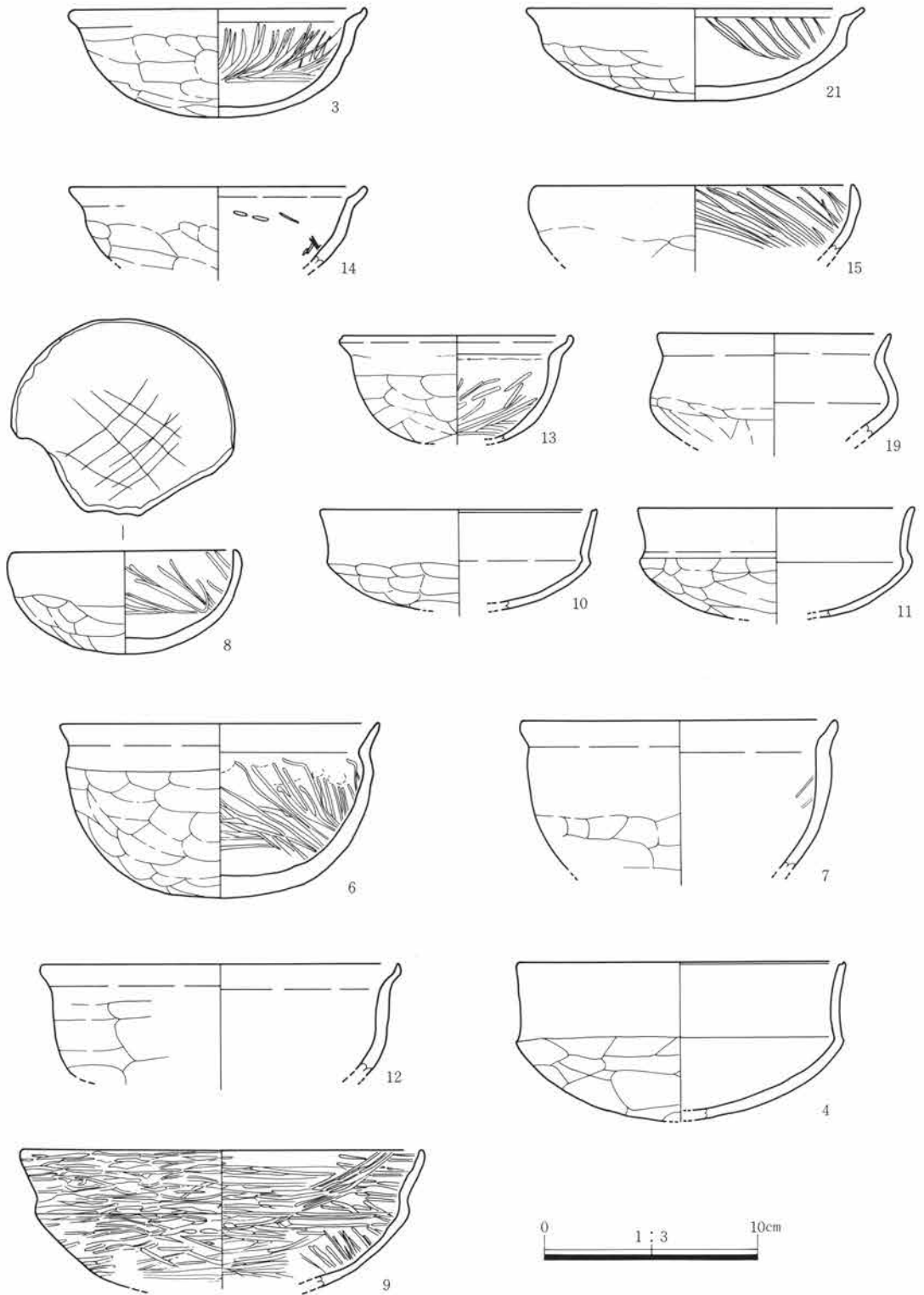
カマドは北側壁の中央やや東寄りに構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の先端は、約20cm壁外へ張り出すだけである。袖は粘土を素材に使用しているが、左脇（西脇）から天井に用いられたと考えられる石が検出できた。煙道部はトンネル状に、ローム層を掘削している。また、住居跡内のカマド前面は、一面に焼土が分布していた。

貯蔵穴は北東隅に構築されている。規模は長軸約80cm・短軸約60cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約60cmである。この他、南西部分に長辺約150cm・短辺約130cmであり、不整形な長方形を呈する土坑があるが、壁・床面の状態等から、当住居跡より新しいものと思われる。遺物は土師器の杯・高杯・甕などが出土している。

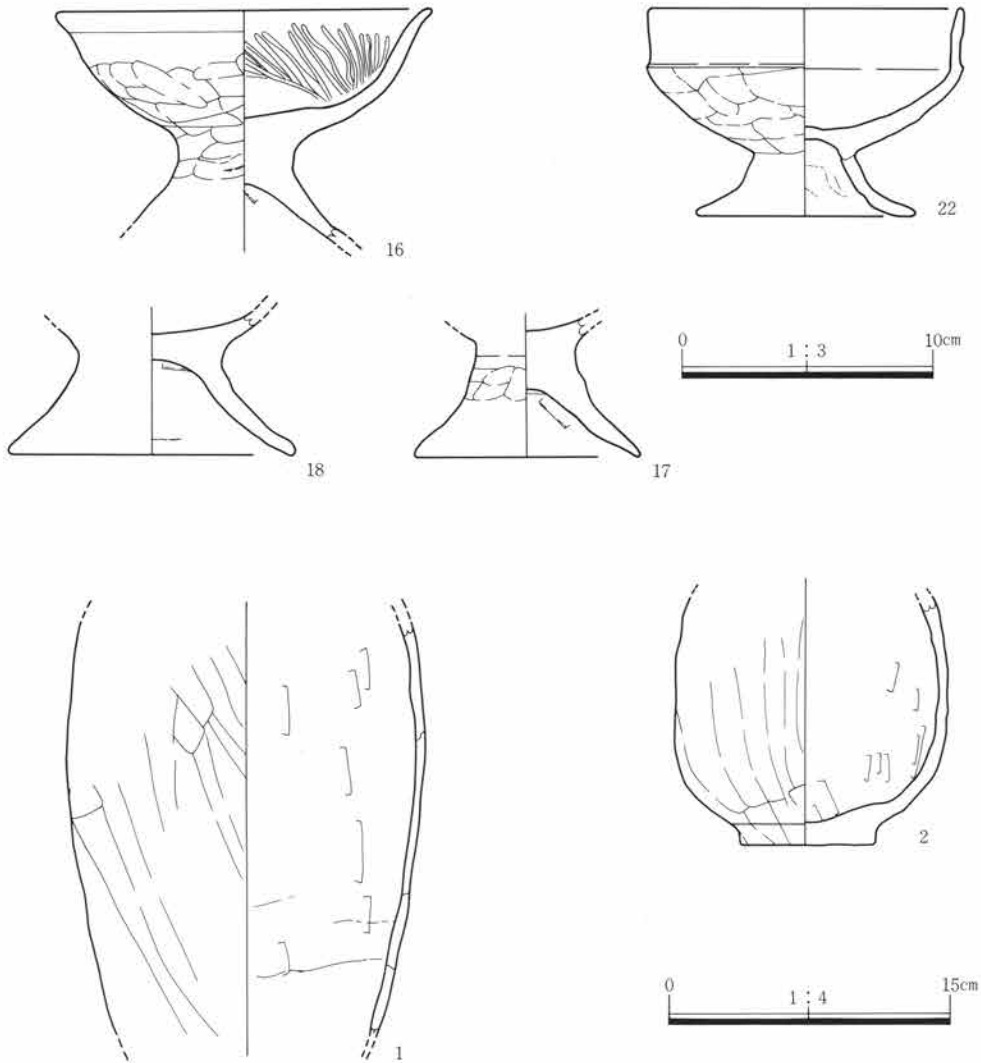
（井川）



第12図 3号住居跡



第13図 3号住居跡出土遺物①



第14図 3号住居跡出土遺物②

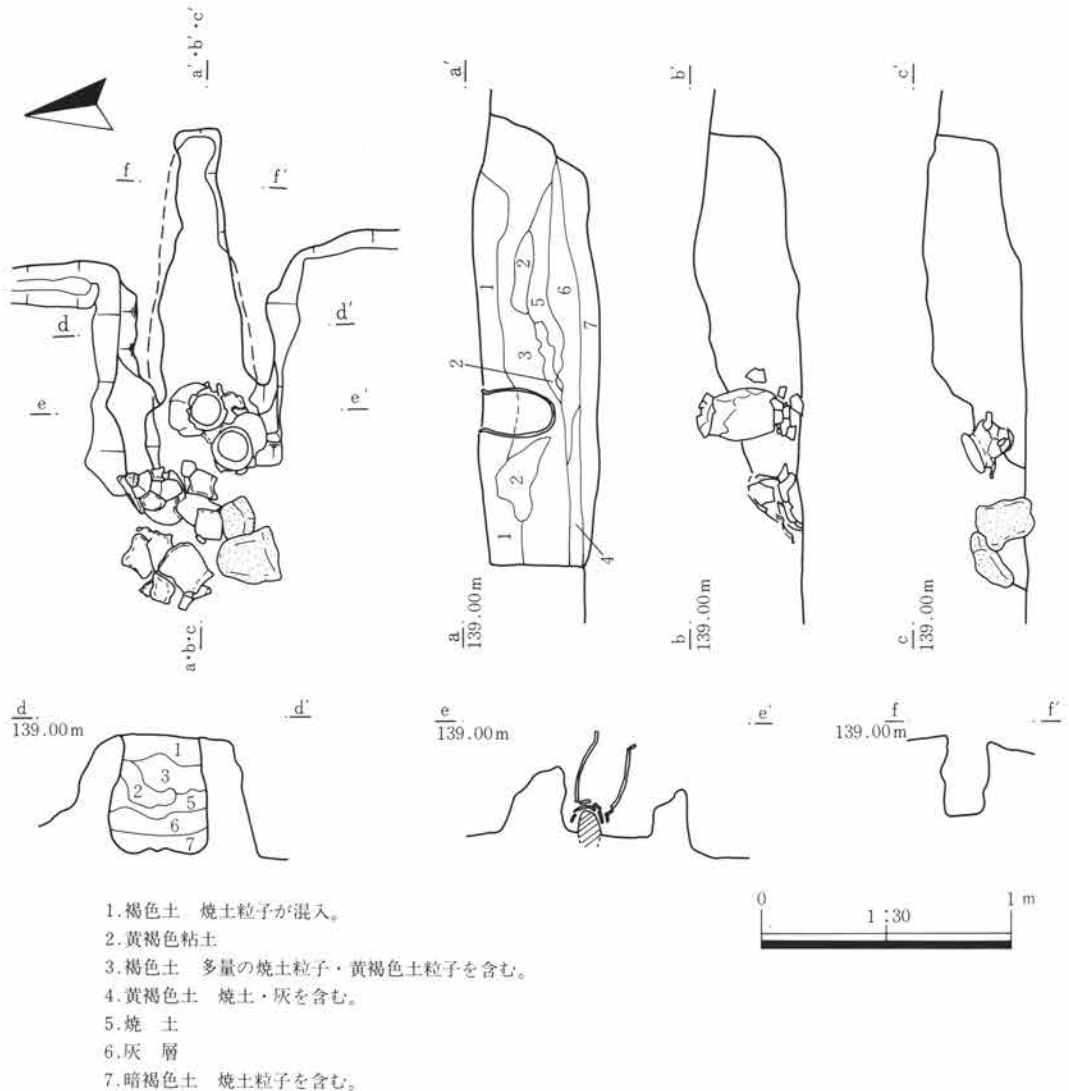
#### 4号住居跡（第15・16図、図版6・7）

3号住居跡・5号住居跡・10号溝跡が近接するが、重複はない。覆土は軽石を含む暗褐色土である。規模は東西約5.2m・南北約4.1mであり、平面形は長方形を呈する。主軸はN-61°-Eである。壁の立ち上りは約20~40cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く、良好な床である。支柱穴は4本である。規模は直径約15~30cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約35~40cmであるが、北東側の柱穴は約20cmであり、浅い。壁周溝は、カマド部分を除いて、巡っている。

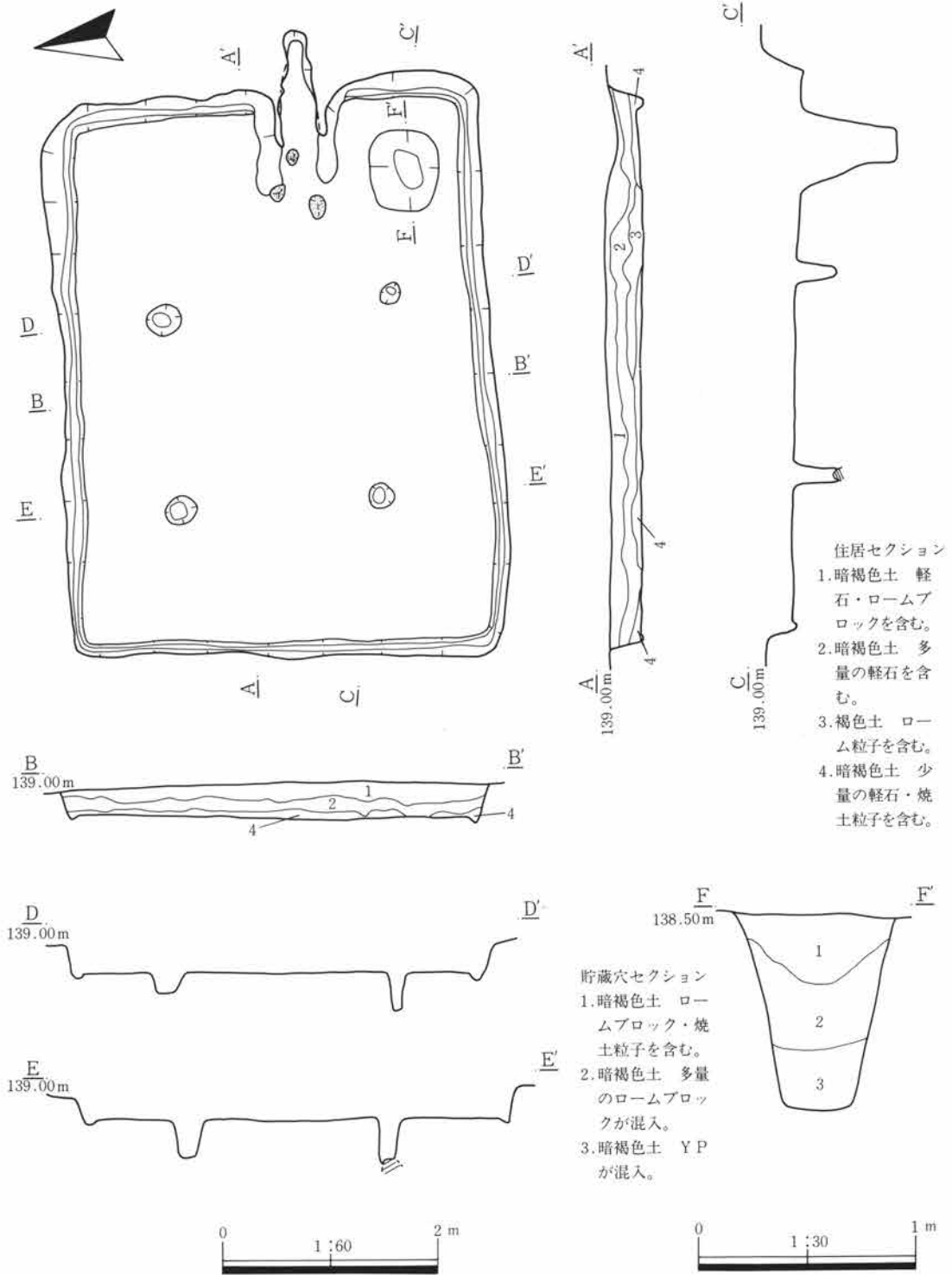
カマドは東側壁の中央やや南寄りに構築されている。燃焼部は壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は粘土を素材に使用しているが、左袖（北側）の先端は石を用いて固めている。住居跡内のカマド前面からは、天井に使用されたと考えられる石が検出できた。袖先端から約30cmの所か

らは、支脚に使用されたと考えられる石が、地山に埋め込まれている状態で確認できた。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長辺約75cm・短辺約65cmであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。床面からの深さは約90cmを測り、非常に深い。

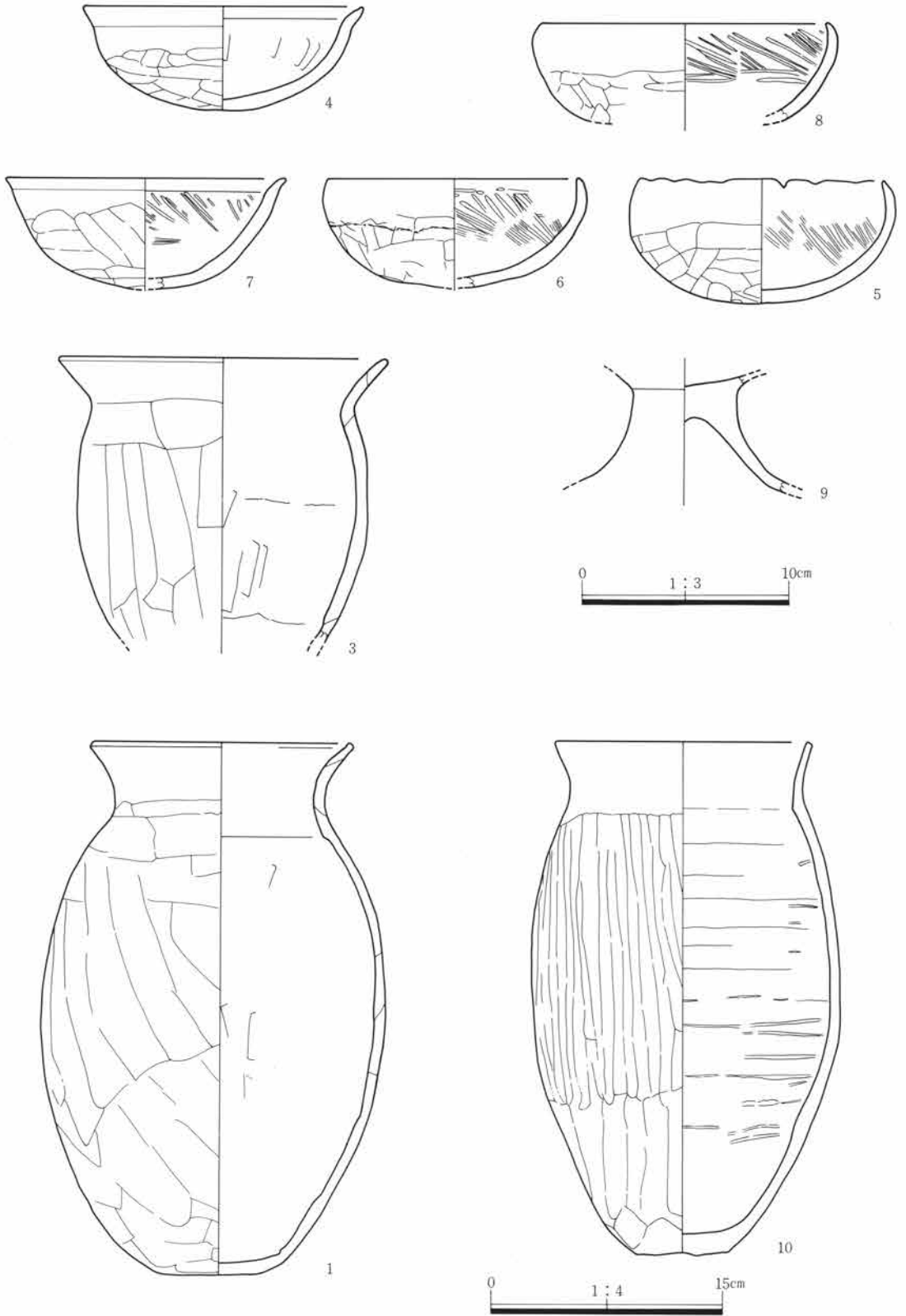
遺物は土師器の高杯・甕などが出土している。特にカマド内・カマド前面からの出土が多い。カマド内からは甕が2個体（4住-2・10）出土し、4住-10は支脚の上から出土している。（井川）



第15図 4号住居跡カマド

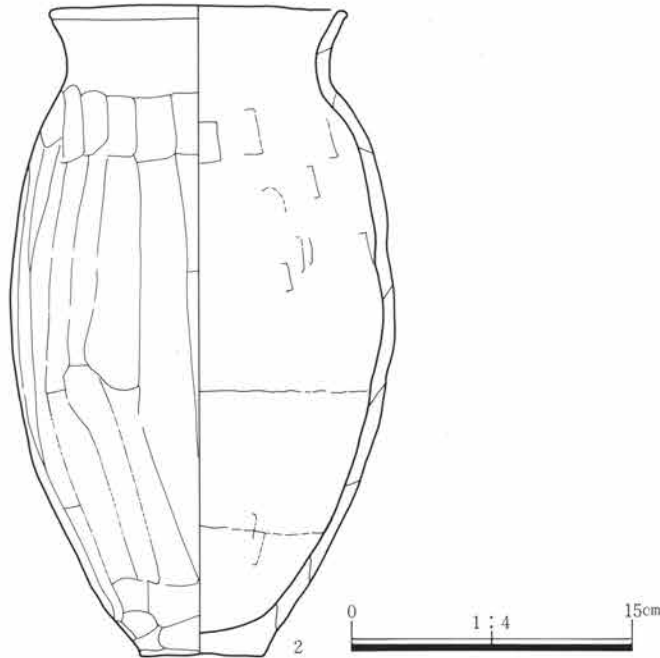


第16図 4号住居跡



第17図 4号住居跡出土遺物①





第18図 4号住居跡出土遺物②

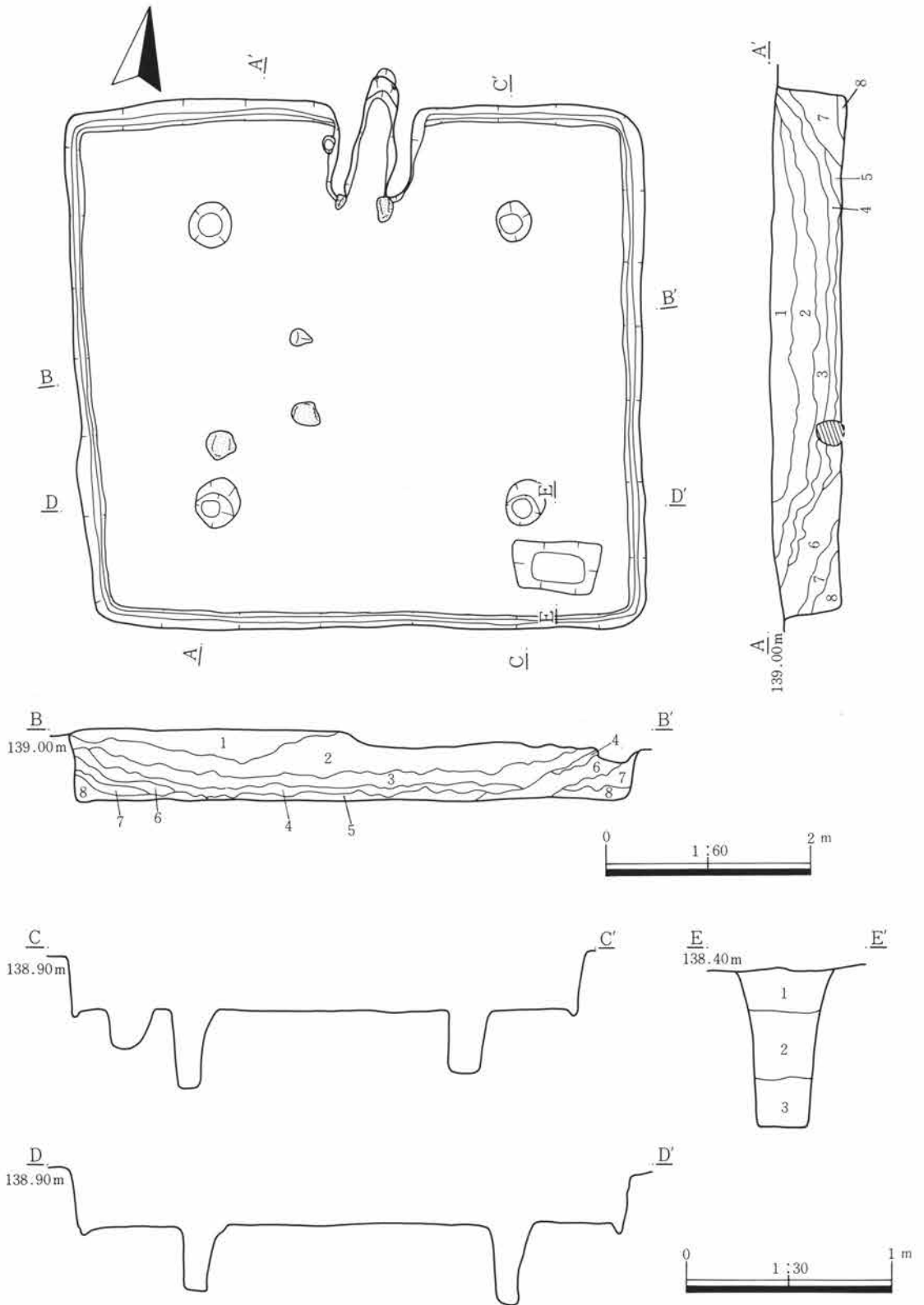
#### 5号住居跡（第19・20図、図版8・9・10）

道状遺構・9号溝跡・10号溝跡と重複し、2号住居跡・3号住居跡・4号住居跡・6号住居跡が近接する。道状遺構・9号溝跡・10号溝跡の新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。当住居跡の覆土にはFAの純層（第4層）が堆積しており、年代設定の基準となる。

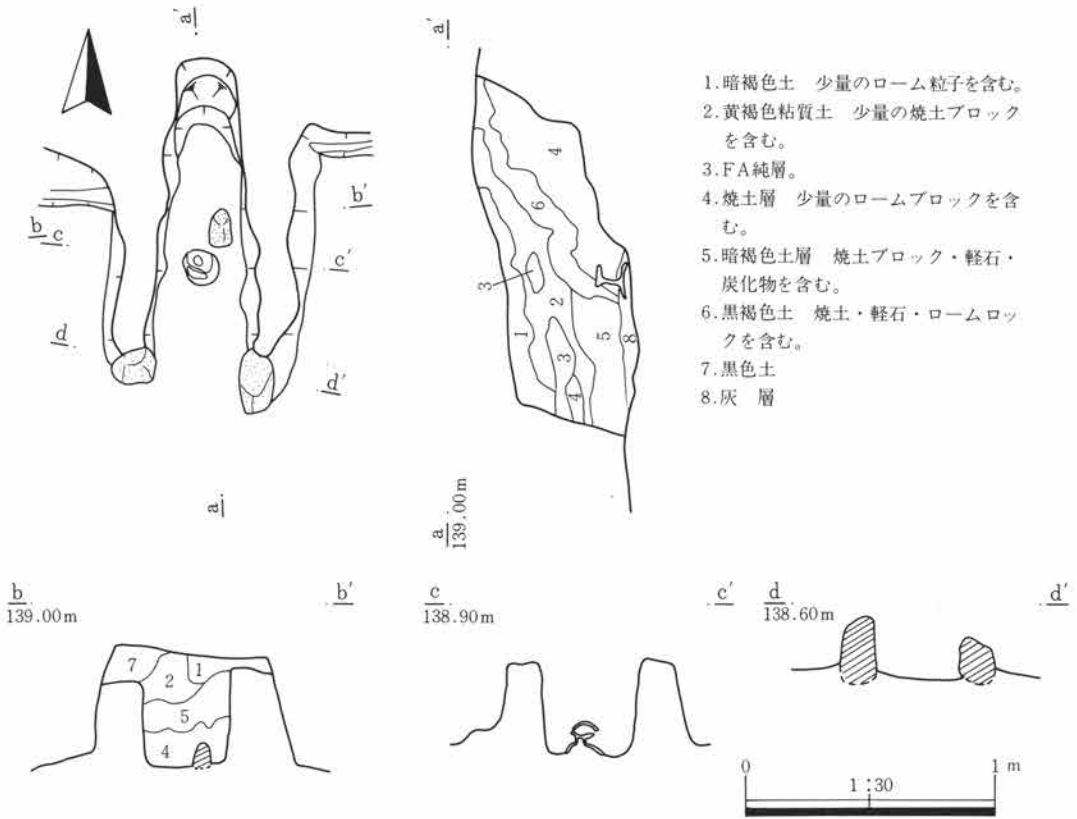
規模は東西約5.5m・南北約5.0mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-12°-Wである。壁の立ち上りは約50~60cmを測り、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く、良好な床である。支柱穴は4本である。規模は直径約35~40cmであり、平面形は円形・楕円形を呈する。床面からの深さは約60~80cmを測る。壁周溝は、カマド部分を除いて巡っている。

カマドは北側壁の中央に、壁と垂直な線よりやや右（東）へ傾いて、構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は粘土を素材に用いているが、両袖ともに、先端は石を地山に埋め込み、固めている。袖先端から約50cm、両袖の中間地点から、支脚に使用されたと考えられる土師器の高杯（5住-41）が、逆さに伏せた状態で検出できた。更に、その後方（北側）には石が地山に埋め込まれ、設置されていた。この石も支脚に使用されたものと考えられる。

貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長辺約80cm・短辺約50cmであり、平面形は台形に近い長方形を呈する。床面からの深さは約75cmを測る。遺物は土師器の杯・高杯・椀・壺・甕・甑の他に手づくね土器や滑石片岩製のペンダントが出土している。遺物の出土はカマド内・カマド周辺に集中傾向があり、カマド内からは前述の高杯の他、甕（5住-1・4）・壺（5住-6）・杯（5住-16・35・36）が



第19図 5号住居跡



第20図 5号住居跡カマド

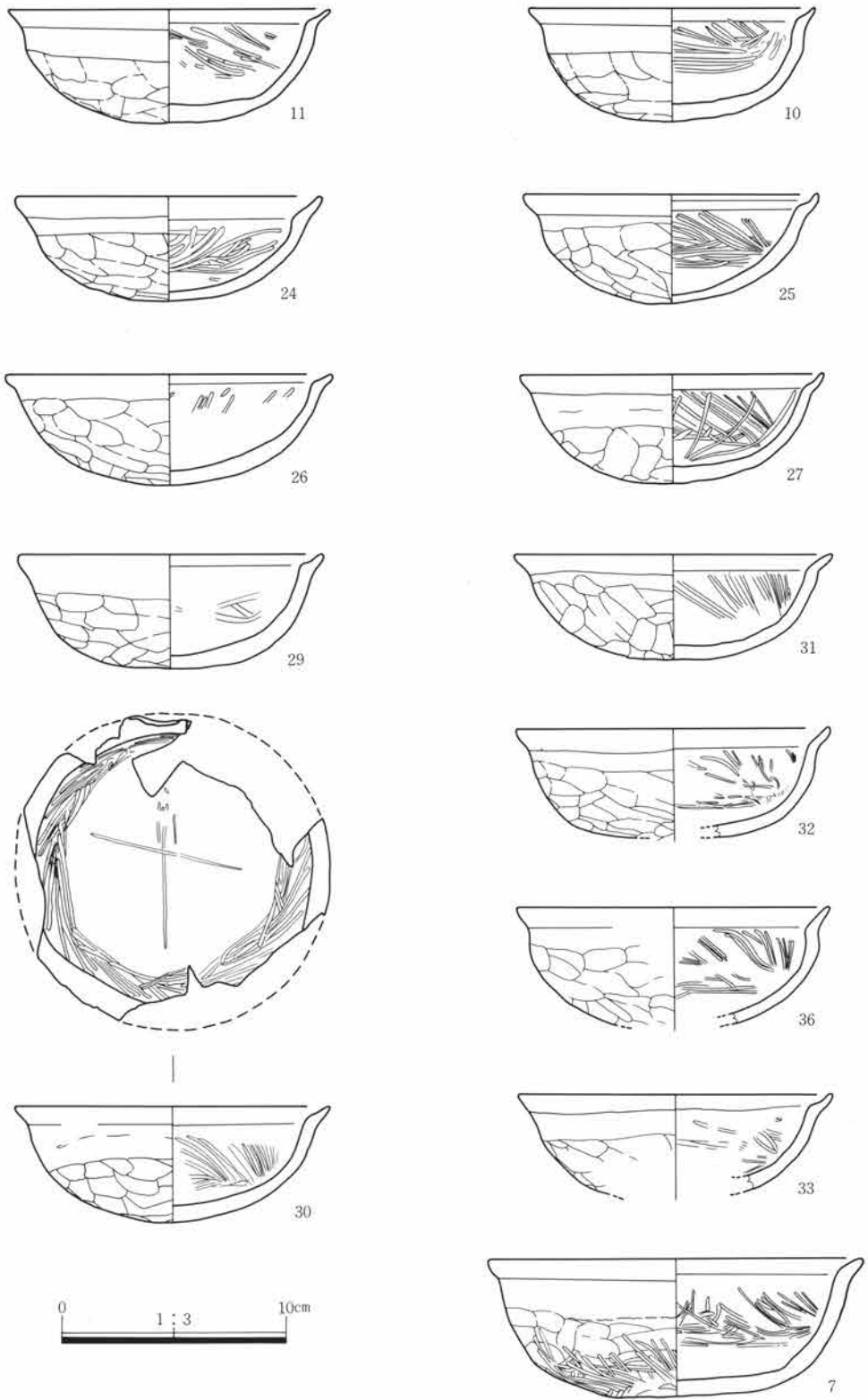
出土している。掲載した遺物の出土位置は、全てFA（第4層）下である。

編者註

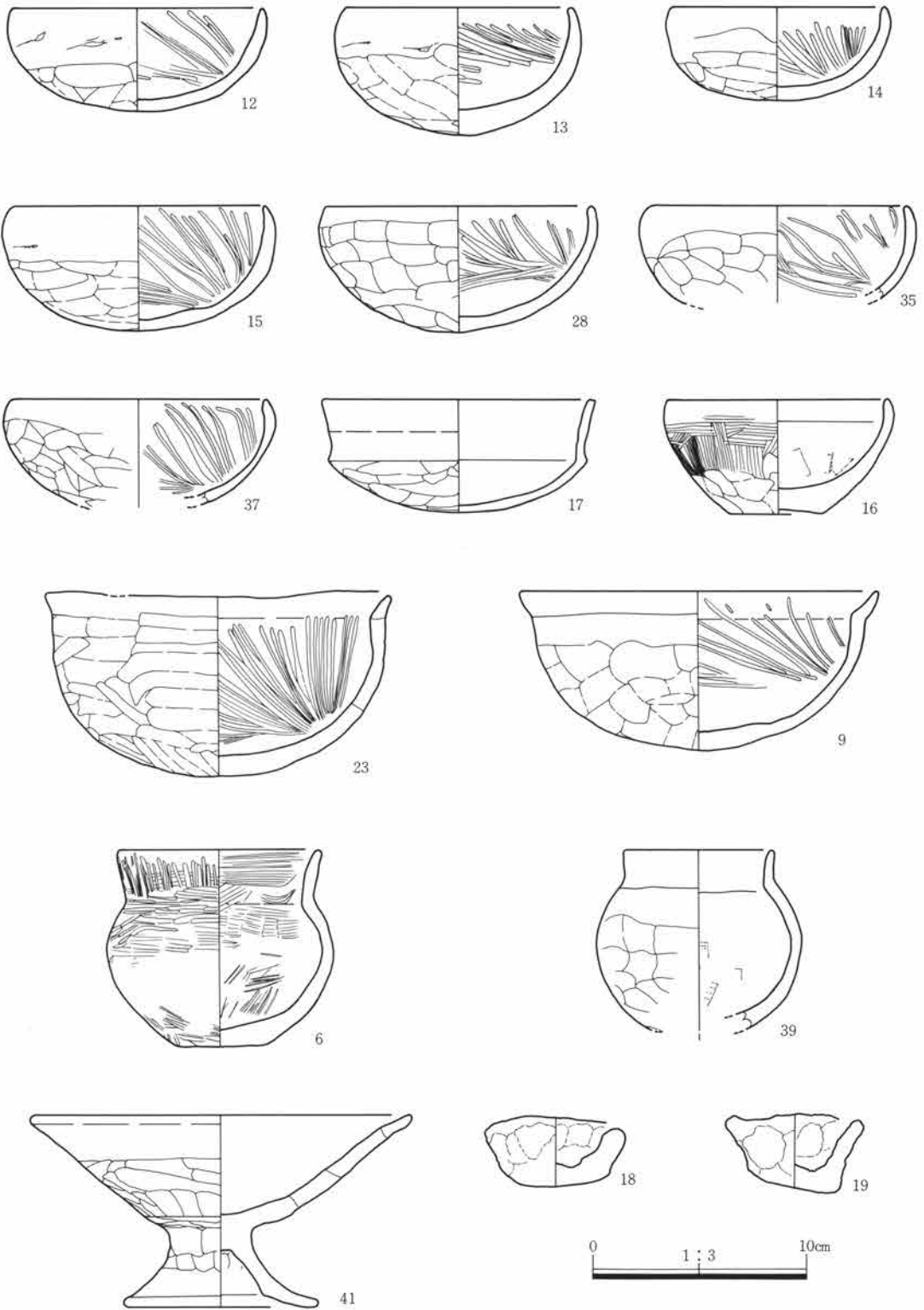
当住居跡は井上唯雄・都丸肇氏が、『考古学ジャーナル』157・1979の「特集・火山堆積物と遺跡 I」に発表した遺構である。井上氏・都丸氏は同誌上に於いて「保渡田遺跡・5号住居跡」と記載されているが、「三ツ寺III遺跡・5号住居跡」の誤りであることを記しておく。（井川）

5号住セッション	
1	暗褐色土 軽石を含む。
2	暗褐色土 焼土・ローム粒子を含む。
3	褐色土 FAを多量に含む。
4	FA層（純層）
5	暗灰色土 粘性がやや強い。
6	褐色土 軽石・ロームブロックを含む。
7	黒褐色土 多量の軽石を含む。
8	褐色土 軽石・ロームブロックを含む。

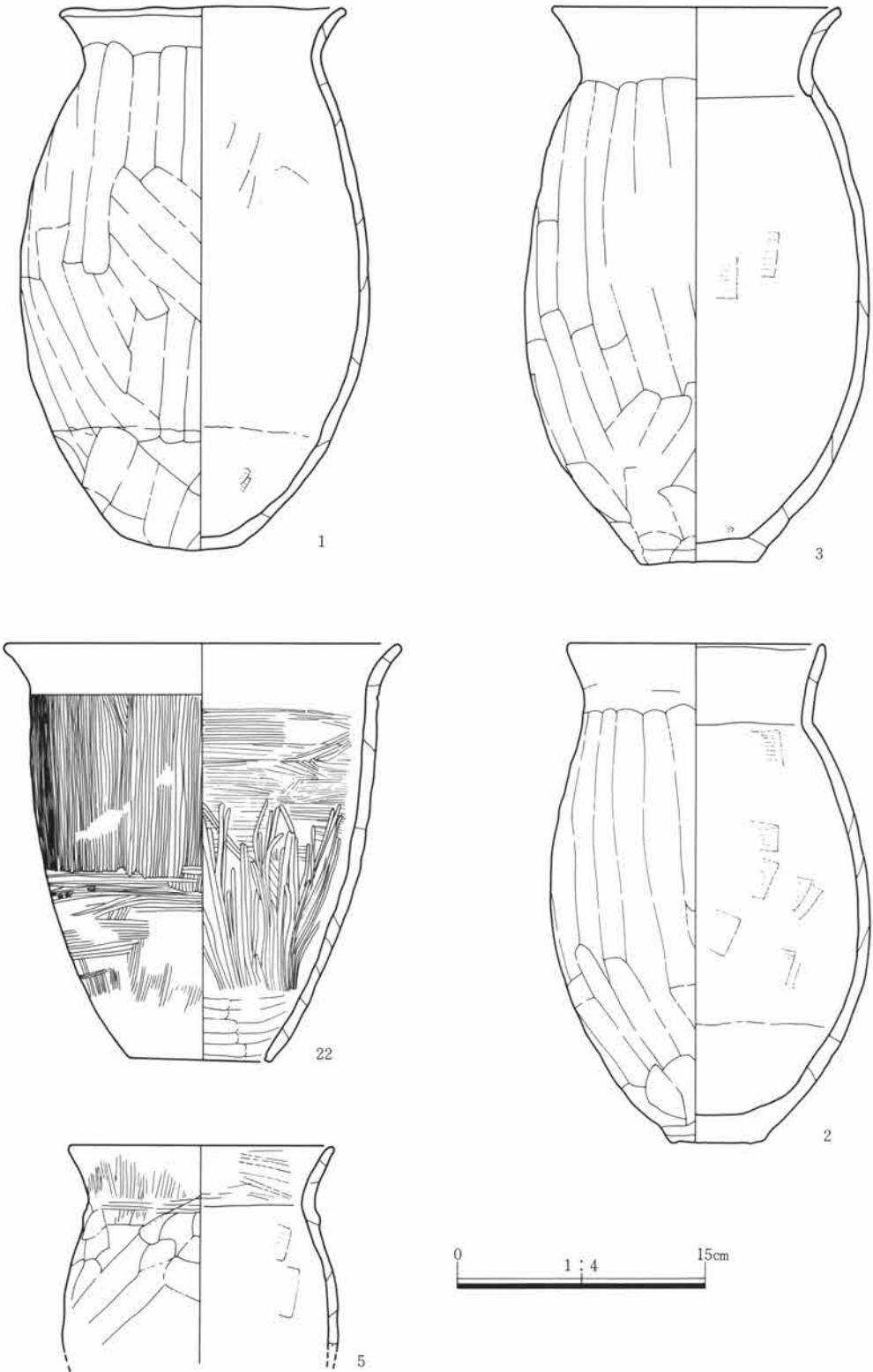
5号住貯蔵穴セッション	
1	黒褐色土 少量のローム粒子を含む。
2	黄褐色土 多量のローム粒子を含む。
3	褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。



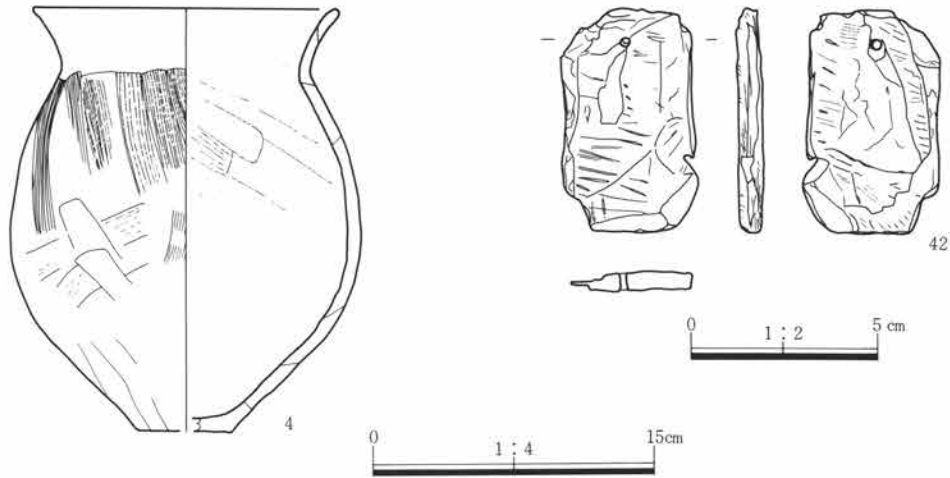
第21図 5号住居跡出土遺物①



第22図 5号住居跡出土遺物②



第23図 5号住居跡出土遺物③



第24図 5号住居跡出土遺物④

6号住居跡（第25図、図版10・11）

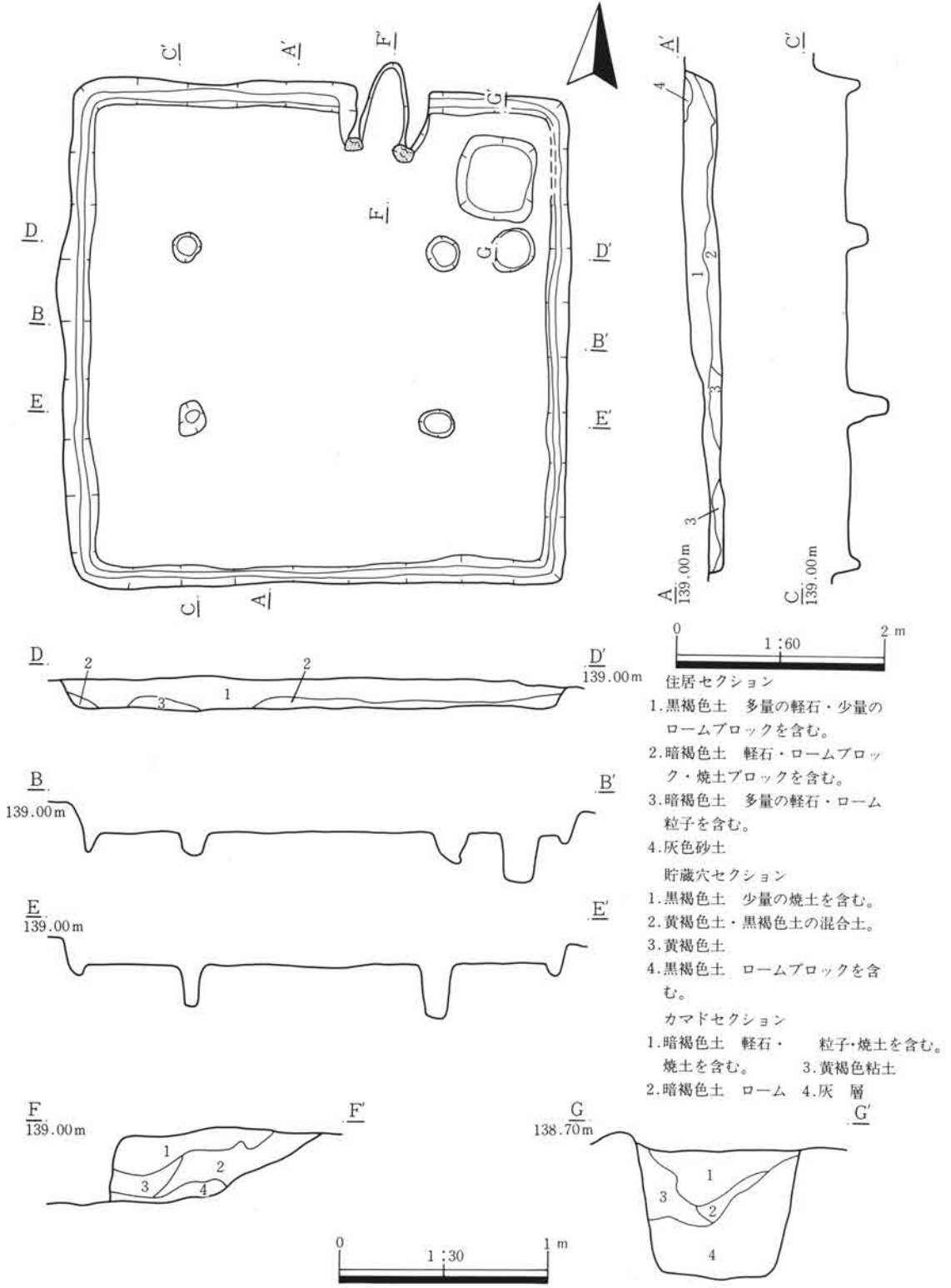
5号住居跡・9号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は軽石・ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約4.8m・南北約4.7mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-4°-Wである。壁の立ち上りは約15~30cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されており、硬く、良好な床である。支柱穴は4本である。柱穴の規模・平面形は直径約25~30cmの円形、又は長軸約30cm・短軸約25cmの不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約20~50cmである。壁周溝は、カマド部分を除いて巡っている。

カマドは北側壁中央やや東寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、両袖先端は石を用いて固めている。貯蔵穴は北東隅に構築されている。規模は一辺約80cmであり、平面形は方形を呈する。床面からの深さは約60cmである。貯蔵穴の南東隅にほぼ接する位置にピットが1基掘られている。規模は直径約40cm・床面からの深さ約45cmであり、平面形は円形を呈する。ピットの用途は不明である。

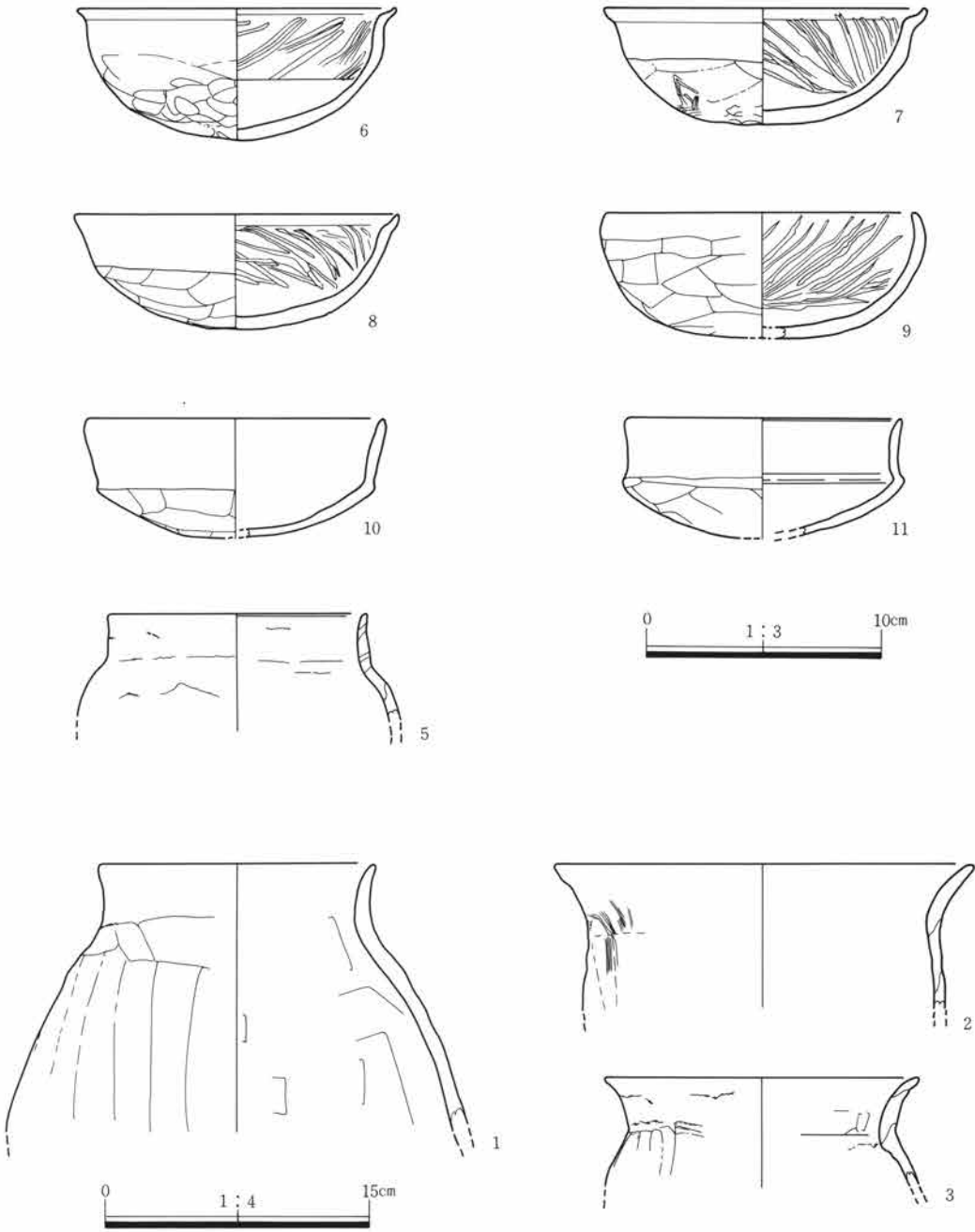
遺物は土師器の杯・甕が出土している。

（井川）



第25図 6号住居跡





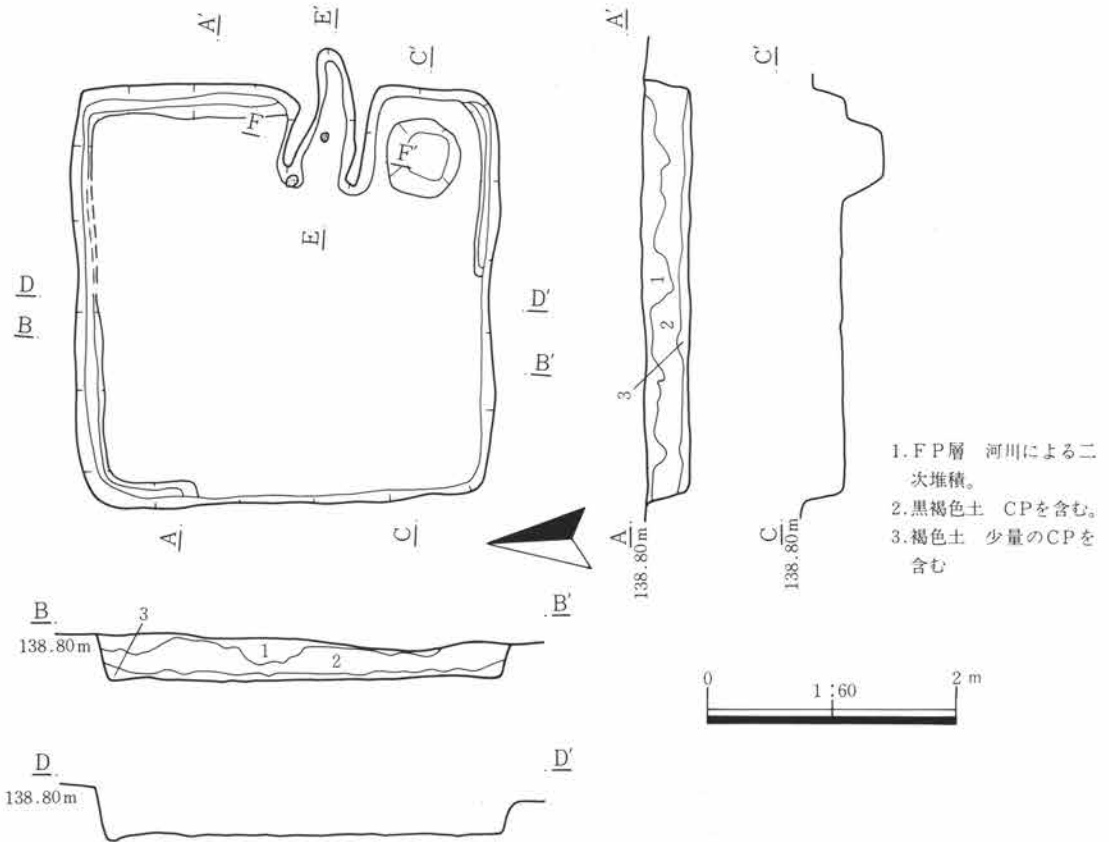
第26図 6号住居跡出土遺物

7号住居跡 (第27・28図、図版11)

9号溝跡と重複し、12号住居跡がやや近接する。9号溝跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。覆土はFAを含む褐色土、CPを含む暗褐色土である。

規模は東西約3.3m・南北約3.4mであり、平面形は方形を呈する、小型の住居跡である。主軸はN-95°-Eである。壁の立ち上りは約25~40cmであり、残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されており、硬く、良好な床である。壁内から柱穴は検出されていない。壁周溝は東側壁のカマド左側部分・南側壁の南東隅から南側半分・西側壁の北西隅付近から北東隅までの部分からは確認できたが、他からは検出されなかった。

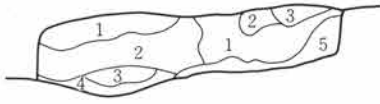
カマドは東側壁の中央やや南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は粘土を素材に使用している。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約60cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面からの深さは約30cmである。遺物の出土量は少ない。遺物は土師器の杯・甕などである。 (井川)



第27図 7号住居跡

E.  
138.80m

E'



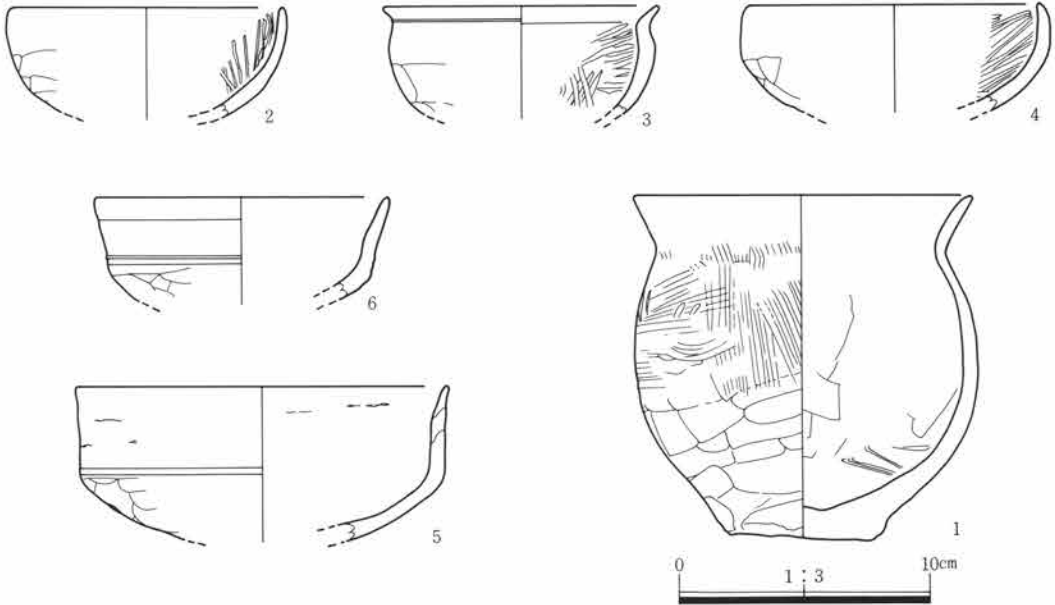
- 1. 黒褐色土 多量の炭化物・灰・焼土を含む。
- 2. 粘土 天井・袖の崩れたもの。
- 3. 焼土
- 4. 灰層
- 5. 暗褐色土 焼土・灰を含む。

F.  
138.80m

F'



第28図 7号住居跡カマドセクション

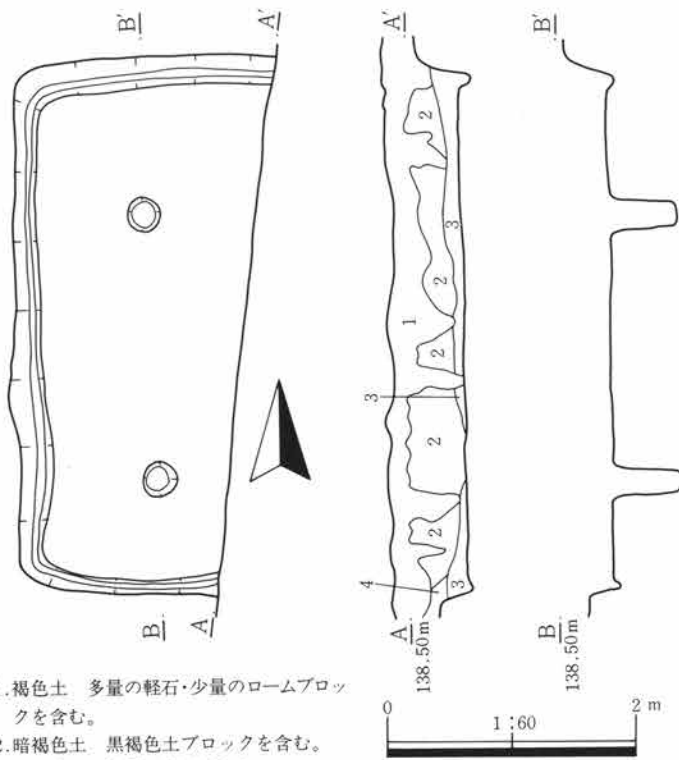


第29図 7号住居跡出土遺物

### 8号住居跡（第30図）

調査範囲内での重複はなく、11号住居跡・12号住居跡・13号住居跡が近接する。覆土は多量の軽石を含む暗褐色土である。

規模は不明であるが、南北約4.2mである。平面形は方形か長方形を呈するものと推測している。壁の立ち上りは約20～40cmである。床はローム層中に構築されており、硬く、良好な床である。支柱穴は2本確認したが、未調査部分を含めると4本になると考えられる。支柱穴の規模は、直径約25～30cmであり、平面形は円形を呈する。床面からの深さは約50cmである。調査範囲内での壁周溝は巡っている。

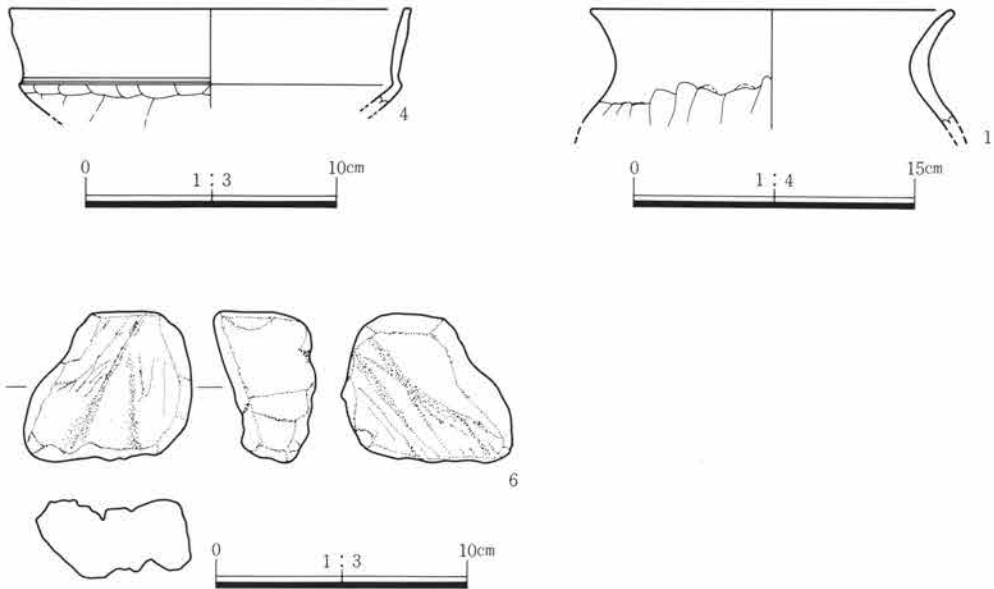


1. 褐色土 多量の軽石・少量のロームブロックを含む。
2. 暗褐色土 黒褐色土ブロックを含む。
3. 黒褐色土 多量の軽石を含む。
4. 暗褐色土 多量の軽石・ロームブロックを含む。

第30図 8号住居跡

また、カマド部分を除いて巡っていると推測している。

カマド・貯蔵穴は不明である。遺物の出土量は少ないが、土師器の杯・甕の他に、輝石安山岩製の石製品が出土している。表裏ともに深く刻みがはいっており、砥石として使用されたものと推測している。(井川)



第31図 8号住居跡出土遺物

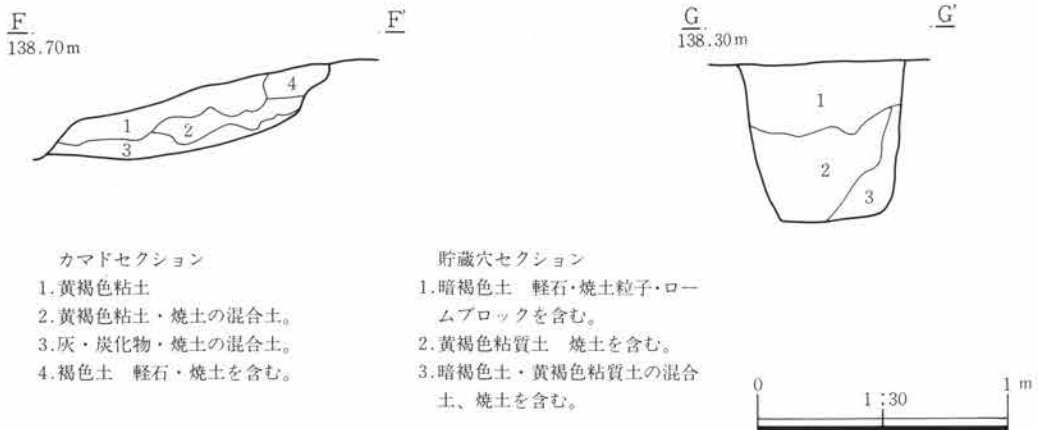
## 9号住居跡（第32・33図、図版12）

重複はないが、6号住居跡・10号住居跡・14号住居跡・15号住居跡が近接する。覆土は褐色土・暗褐色土であるが、中間にFA純層（第2層）を挟んでいる。

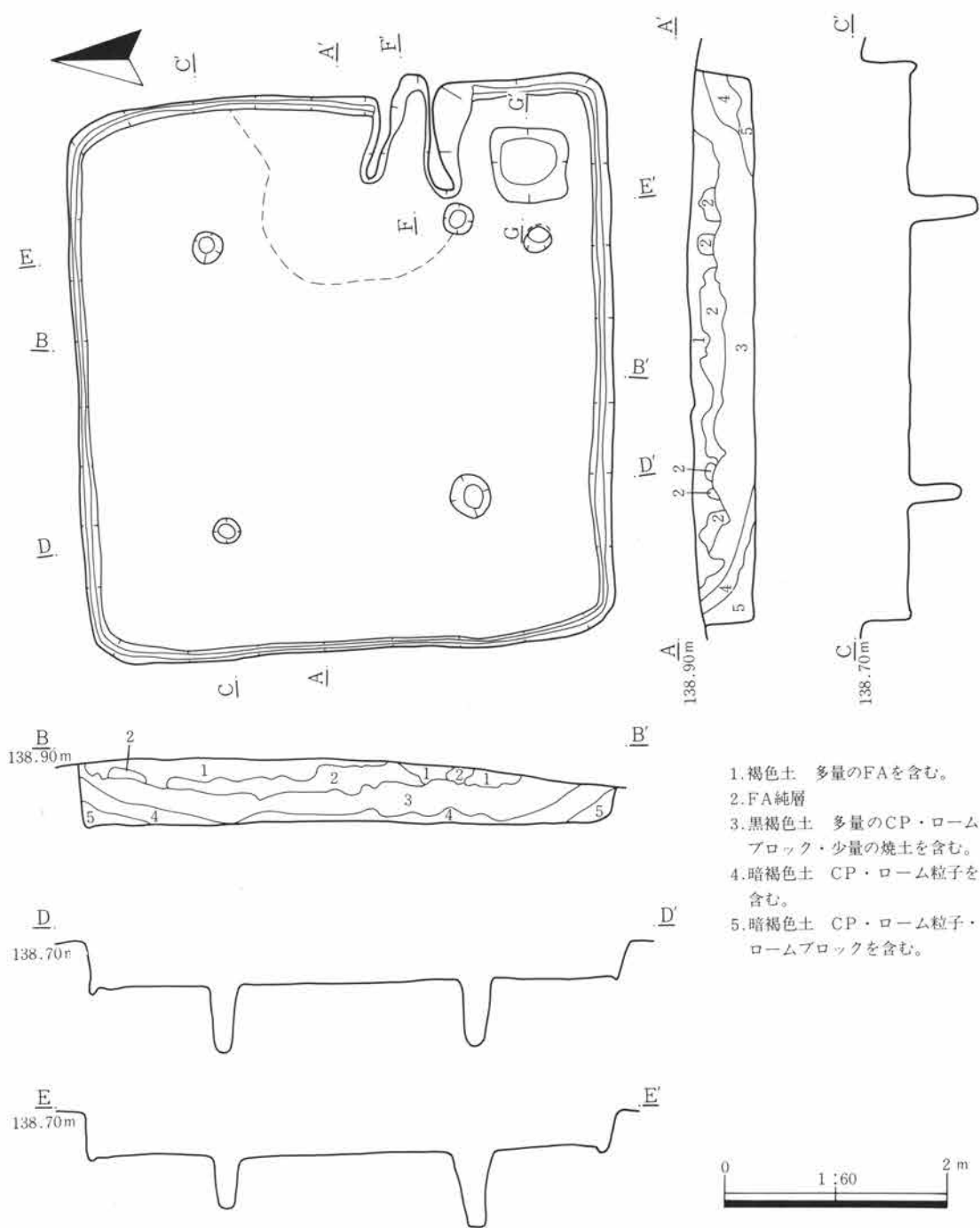
規模は東西約5.0m・南北約4.8mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-89°-Eである。壁の立ち上りは約30~50cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた、良好な床である。支柱穴は4本である。規模は直径約25~40cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約45~70cmを測る。壁周溝はカマド部分を除いて巡っている。壁周溝の幅は約10~15cmであり、床面からの深さは約5cmである。

カマドは東側壁の南寄りに設置されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約15cmであり、僅かの張り出しである。袖は粘土を素材に使用している。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約70cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面からの深さは約60cmである。貯蔵穴の西側にピットが1基掘られている。規模は直径約25cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。ピットは西から東へ、斜めに掘られており、床面からの深さは約60cmである。6号住居跡に同様のピットが掘られているが、用途は不明である。

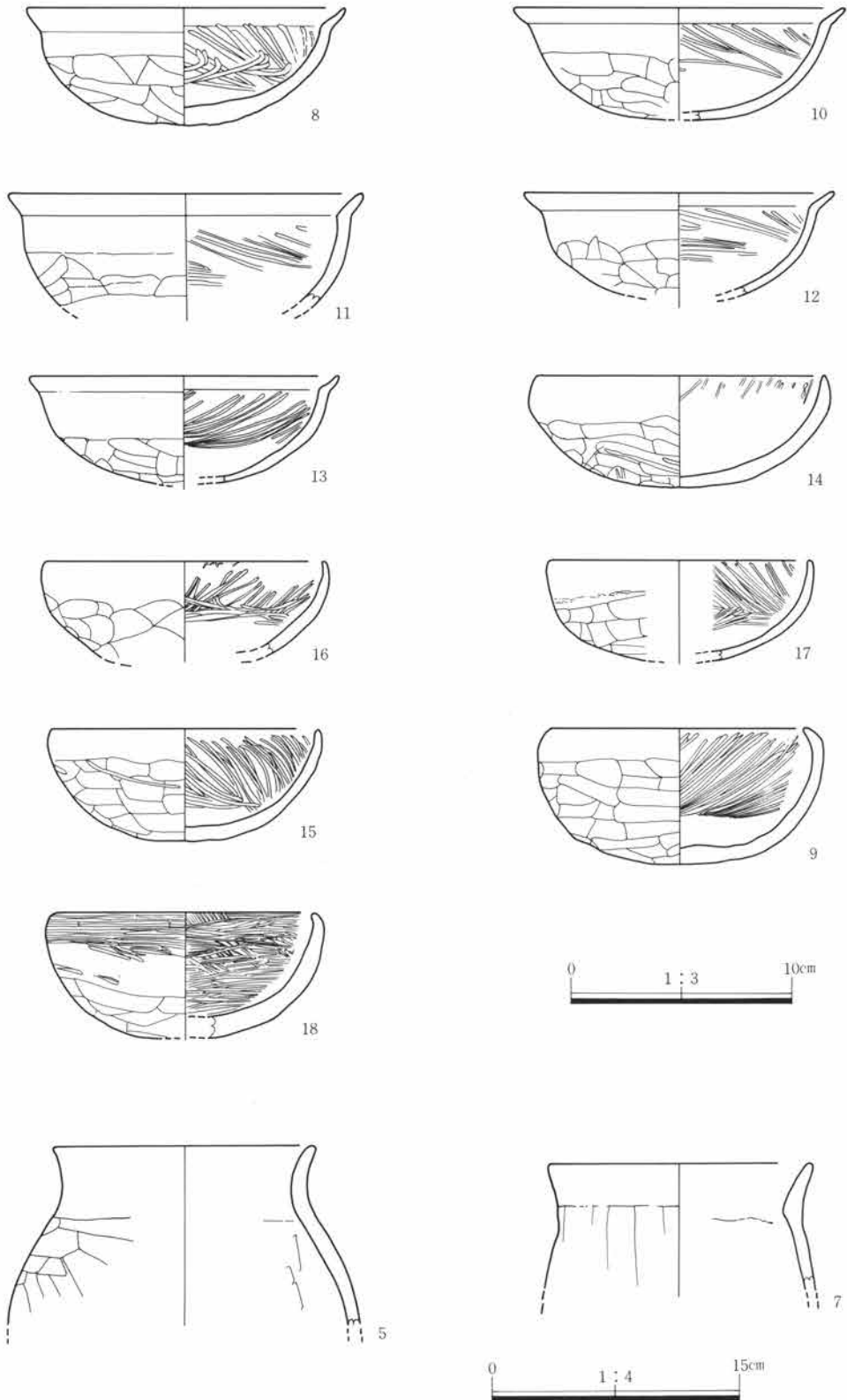
遺物の出土量は多く、土師器の杯・甕・壺、須恵器の甕などが検出されている。土師器・須恵器の他に、南西隅から長さ約10~20cmの石が24個出土している。自然石の利用であるが、出土状態・大きさの均一性から、道具として使用されたことは確かである。蓆のような物を編むのに使用されたものであろうと考えられる。掲載した遺物は、全てFA純層下からの出土である。（井川）



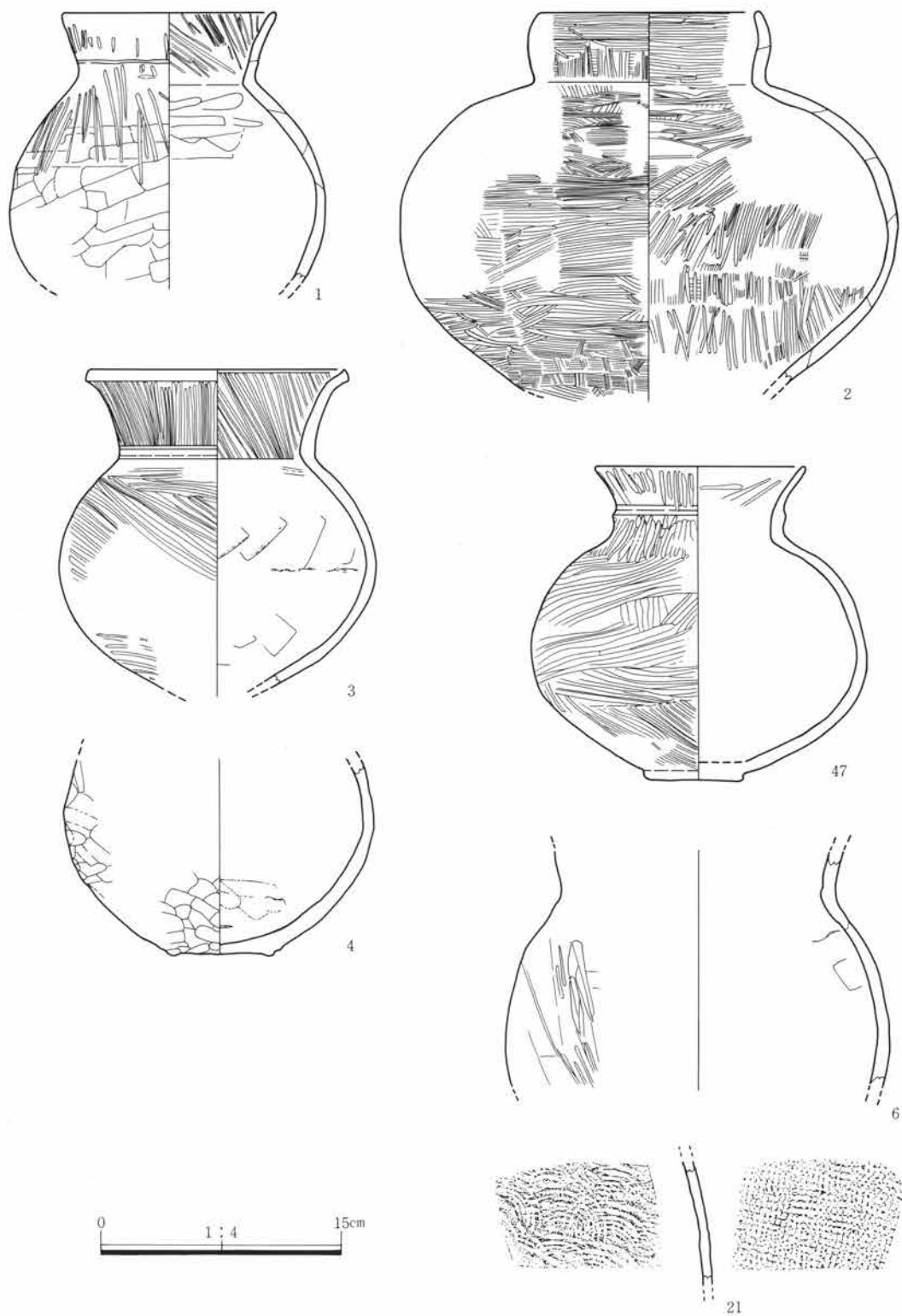
第32図 9号住居跡カマド・貯蔵穴セクション



第33図 9号住居跡

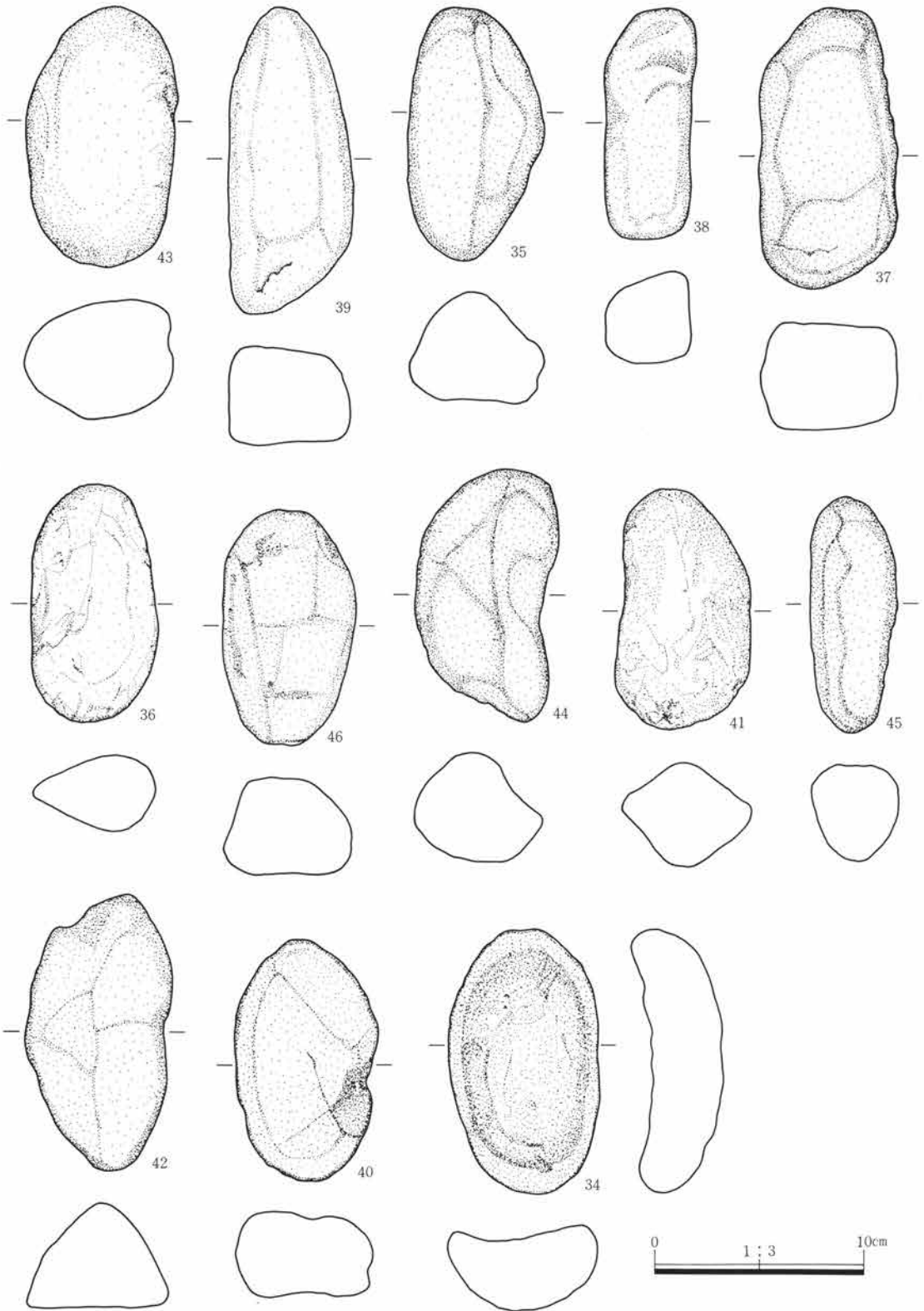


第34図 9号住居跡出土遺物①

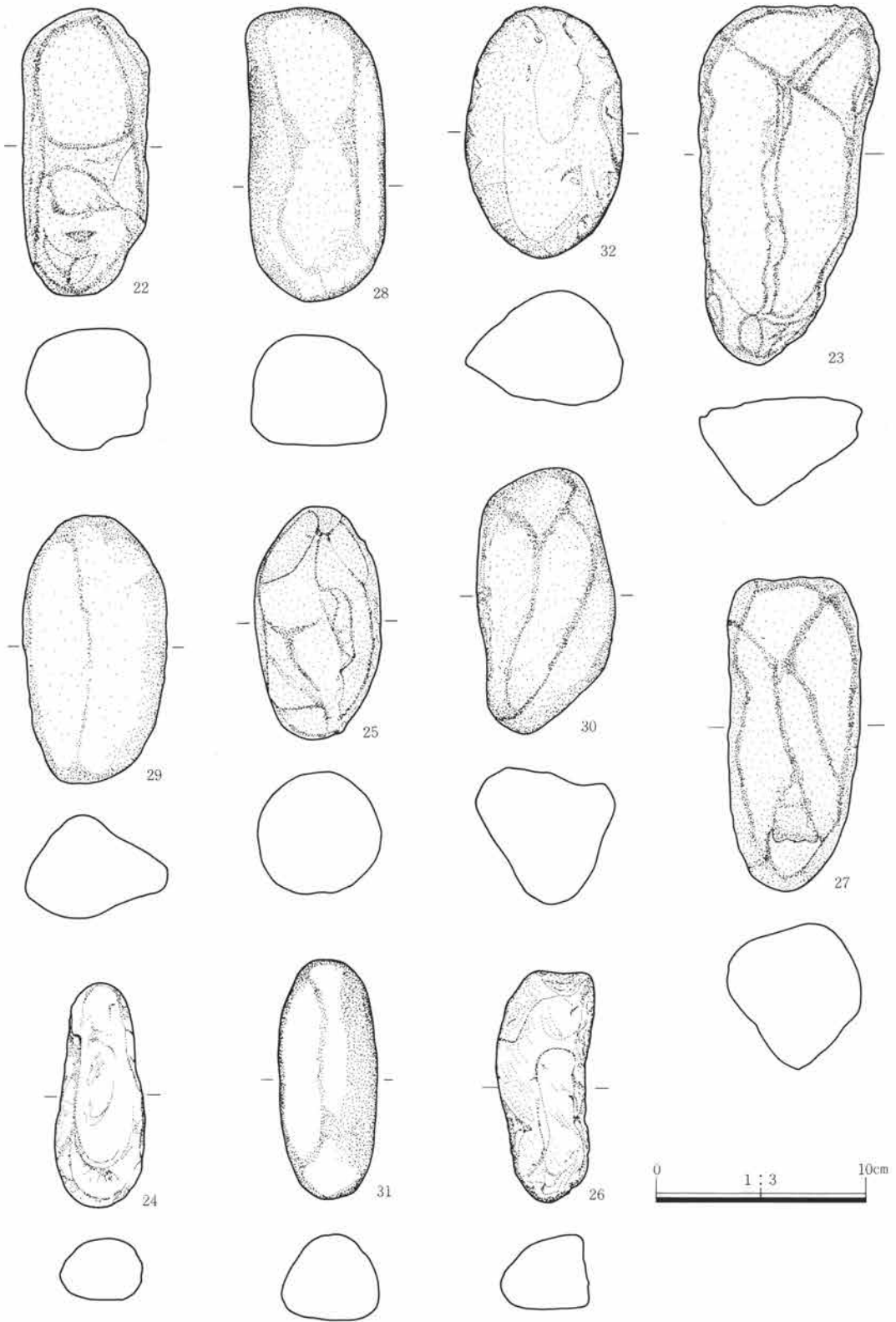


第35図 9号住居跡出土遺物②





第36図 9号住居跡出土遺物③

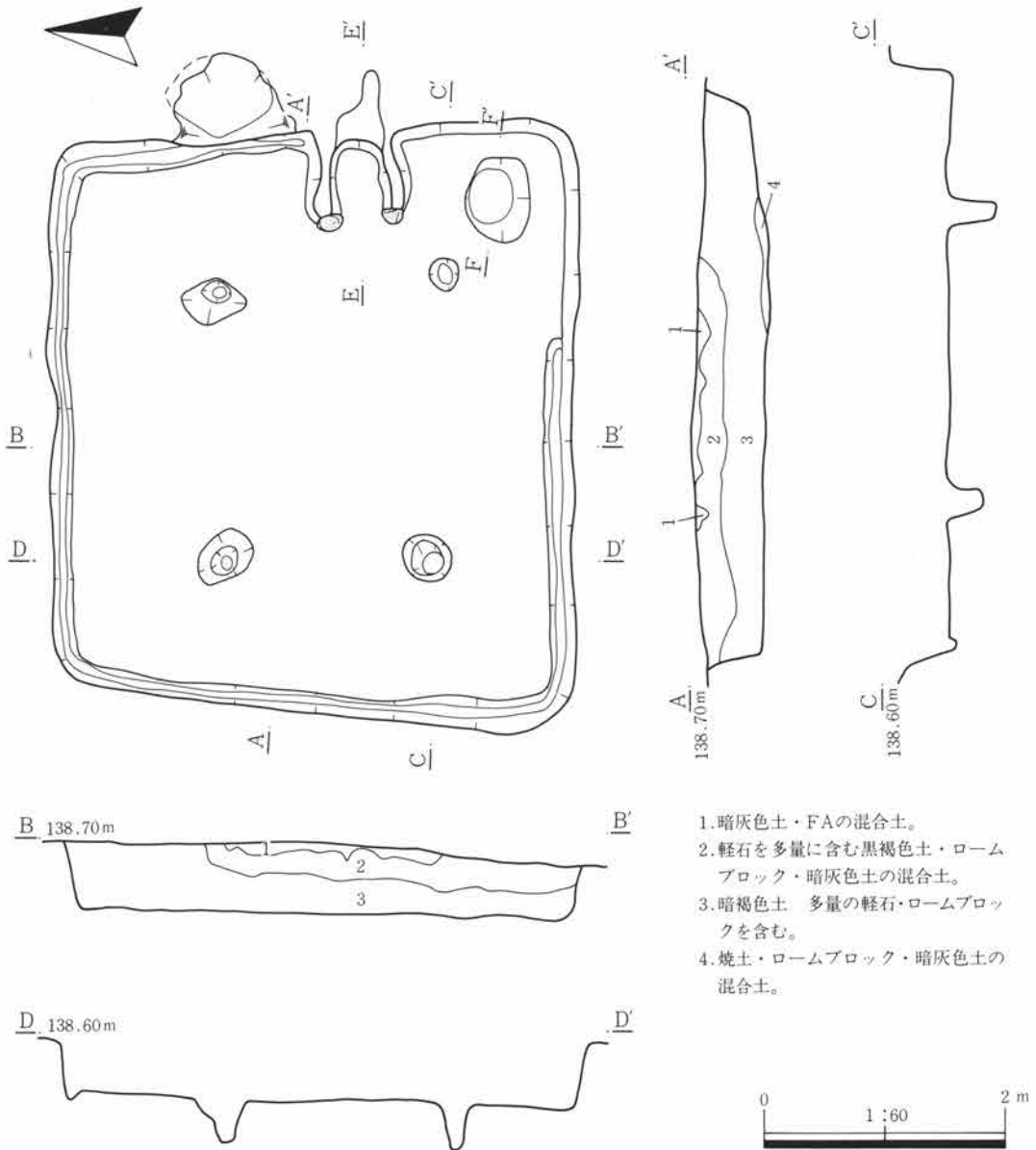


第37図 9号住居跡出土遺物④

10号住居跡（第38・39図、図版13）

9号住居跡・12号住居跡・13号住居跡・15号住居跡と近接するが、重複はない。覆土は軽石を含む暗褐色土であるが、第一層はFAを多量に含む暗灰色土である。

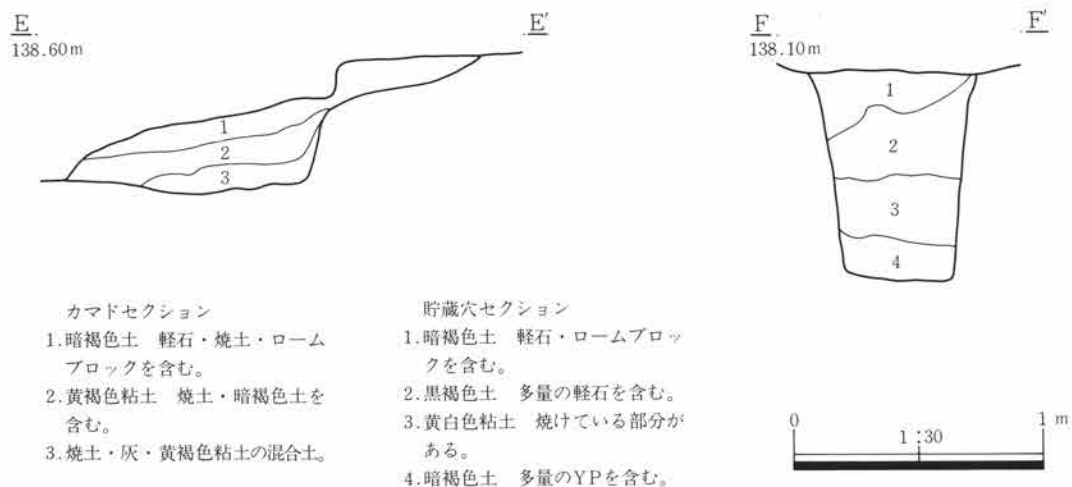
規模は東西約4.8m・南北約4.3mであり、平面形は不整形（台形に近い）な隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。壁の立ち上りは約40~50cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本である。規模・平面形は、直径約20~40cmの円形、長軸約50cm・短軸約35~40cmの不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約30~40cmである。



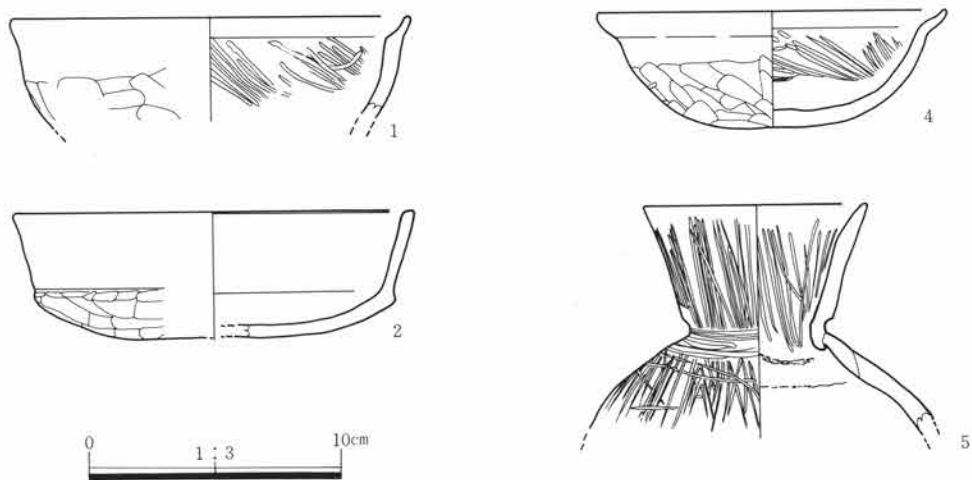
第38図 10号住居跡

壁周溝は、東側壁のカマド右側部分と南側壁の東寄り $\frac{2}{3}$ を除いて巡っている。幅は約15~20cmであり、床面からの深さは約5cmである。

カマドは東壁の中央やや南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は粘土を素材に使用しているが、両袖ともに先端は石で固めている。貯蔵穴は南東隅近くに構築されている。規模は長辺約70cm・短辺約50cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約80cmを測る。カマドの北東側、東壁に接して土坑があるが、当住居跡との関係は不明である。遺物の出土量は少ないが、土師器の杯・壺が出土している。 (井川)

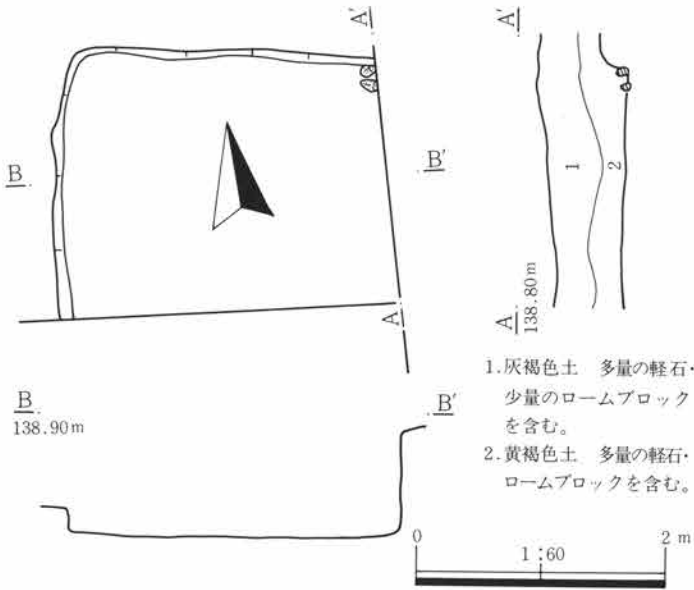


第39図 10号住居跡カマド・貯蔵穴セクション



第40図 10号住居跡出土遺物

11号住居跡 (第41図)



第41図 11号住居跡

8号住居跡・16号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は多量の軽石を含む灰褐色土・黄褐色土である。

当住居跡の東側部分は調査区域外であり、南側部分は町道が通っている。遺構の確認は北西部分のみであり、規模・カマド・柱穴・貯蔵穴・壁周溝は不明である。

壁の立ち上りは約20cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されている。当住居跡に属すると考えられる遺物の出土はない。(井川)

12号住居跡 (第42・43図、図版13・14・15)

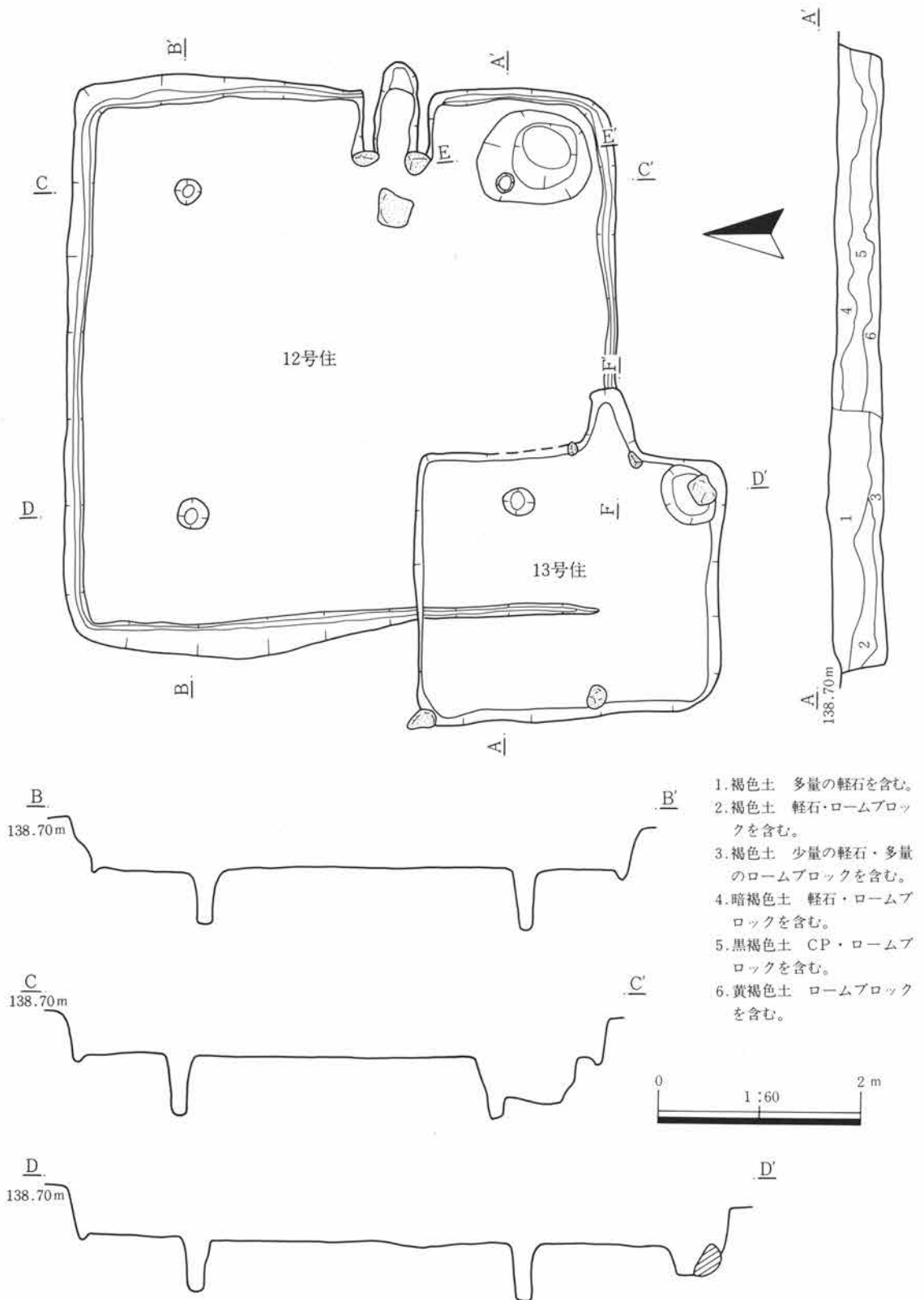
13号住居跡と重複し、8号住居跡・10号住居跡が近接する。13号住居跡との新旧関係は、覆土の相違、13号住居跡のカマド・壁の残存状態から、当住居跡が古い。覆土は、軽石・ロームブロックを含む褐色土・黒褐色土である。

規模は東西約5.5m・南北約5.4mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-92°-Eである。壁の立ち上りは約40~50cmであり、残存状態は良好であるが、13号住居跡との重複部分は不明である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。主柱穴は4本であり、南東側の柱穴は貯蔵穴と接している。規模は直径約15~30cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約50~60cmである。壁周溝はカマド部分を除いて巡るものと考えているが、南壁側の西半分は、13号住居跡との重複のため不明である。

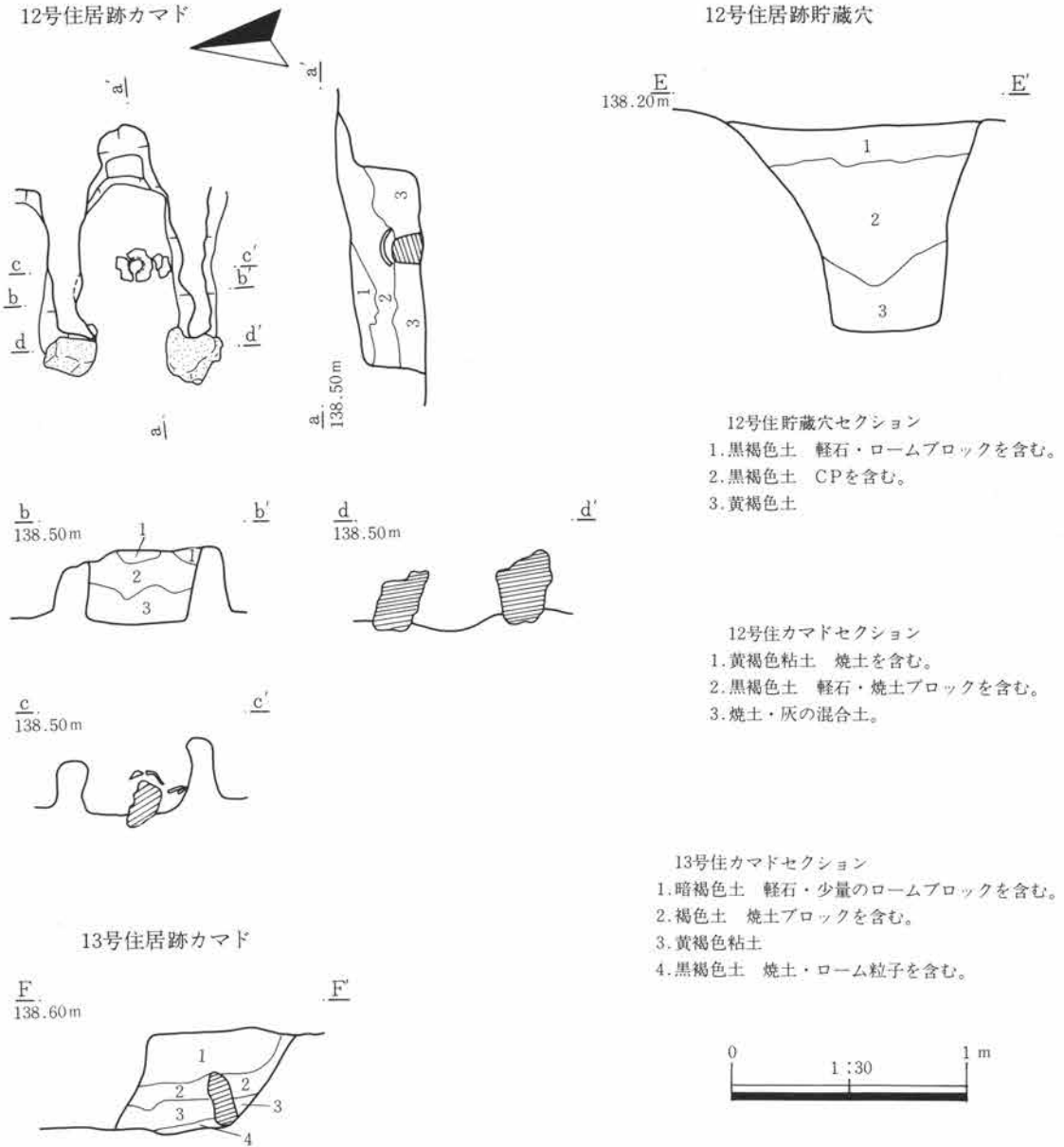
カマドは東壁中央やや南寄りに構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、両袖共に先端は石を用いて固めている。袖先端部から東へ約50cm・カマド中央線付近から、支脚に使用されたと考えられる石が、地山に埋め込まれた状態で確認できた。また、カマド前面からは、天井石に使用されたと考えられる石が検出された。

貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約110cm・短軸約90cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約90cmを測る。遺物は土師器の杯・高杯・甕・甑が出土している。

(井川)



第42図 12号住居跡・13号住居跡

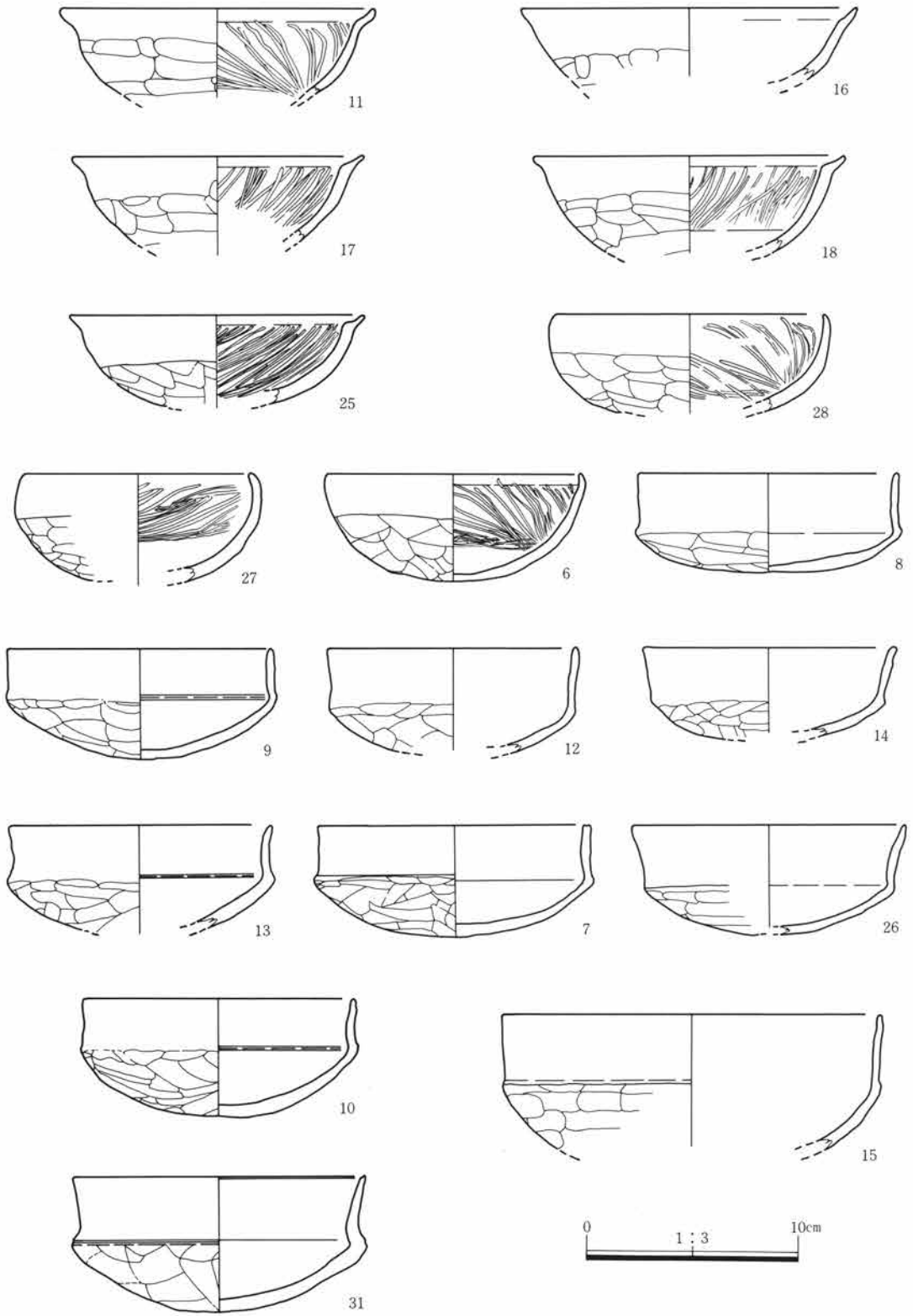


第43図 12号住居跡カマド・貯蔵穴、13号住居跡カマド

13号住居跡 (第42・43図、図版13・14・15)

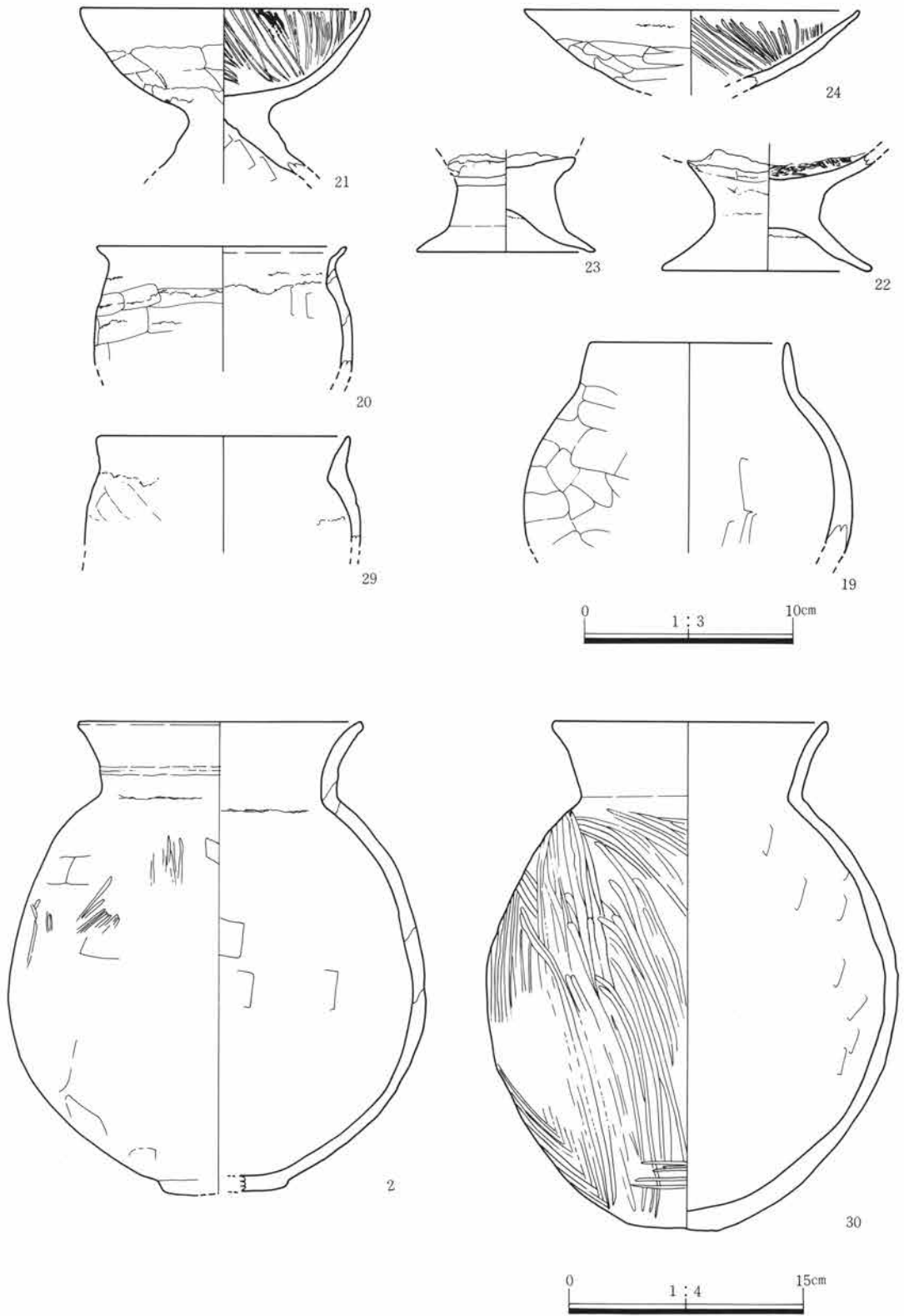
当住居跡は12号住居跡と重複関係にある。西側には10号住居跡が近接し、南側にはピット群が近接する。東南には8号住居跡が隣接する。

規模は南北約3.0m・東西約2.5mで、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-92°-Eである。床面から壁の立ち上りは50cmで、ほぼ直立に近い。床面は平坦であり堅緻。貯蔵穴は東南隅壁際に55×60cmの楕円形を呈す。深さ38cmを測るが遺物はほとんど出土しない。柱穴は北東隅に1本検出された。

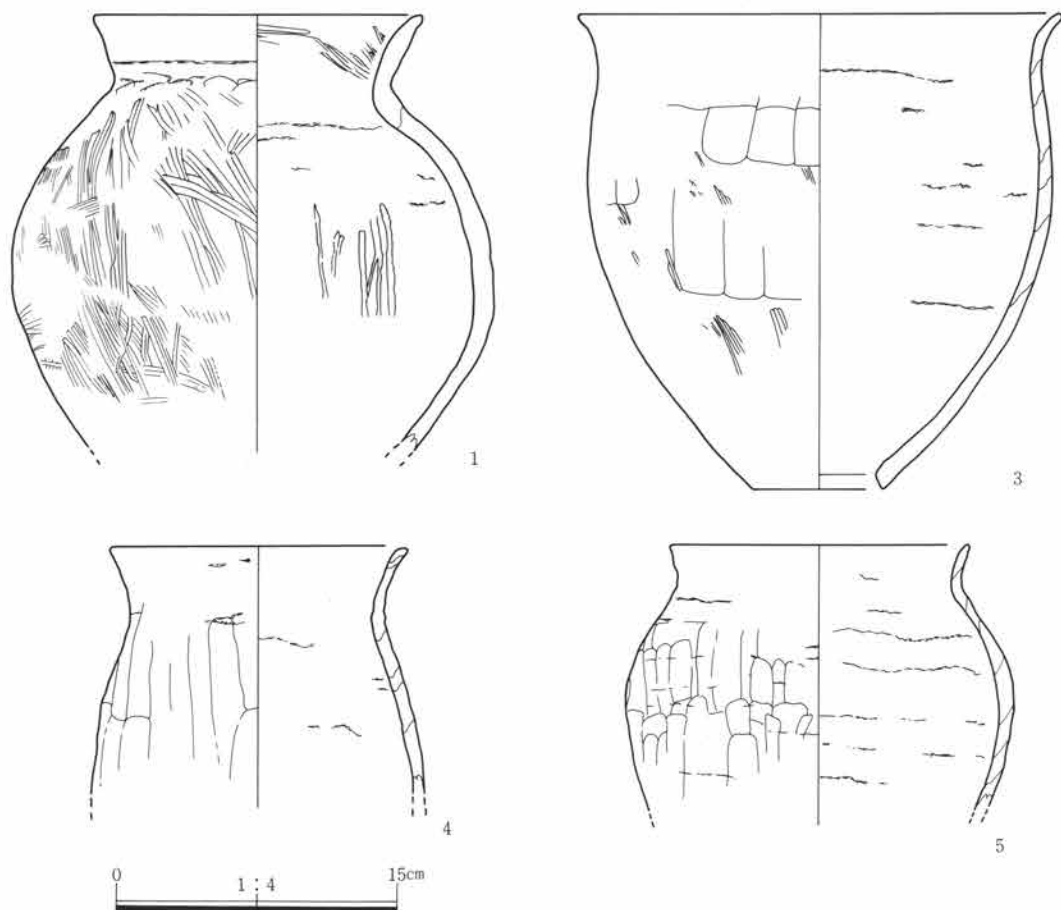


第44図 12号住居跡出土遺物①

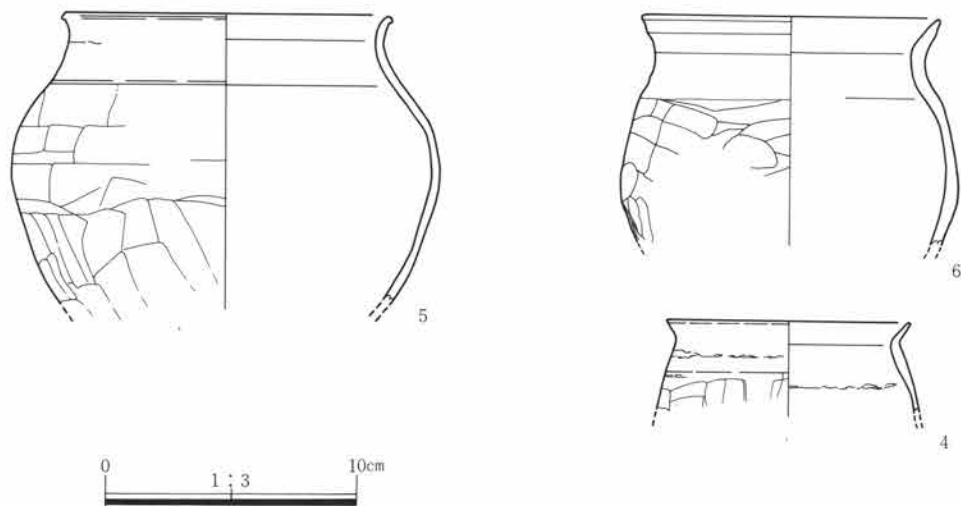




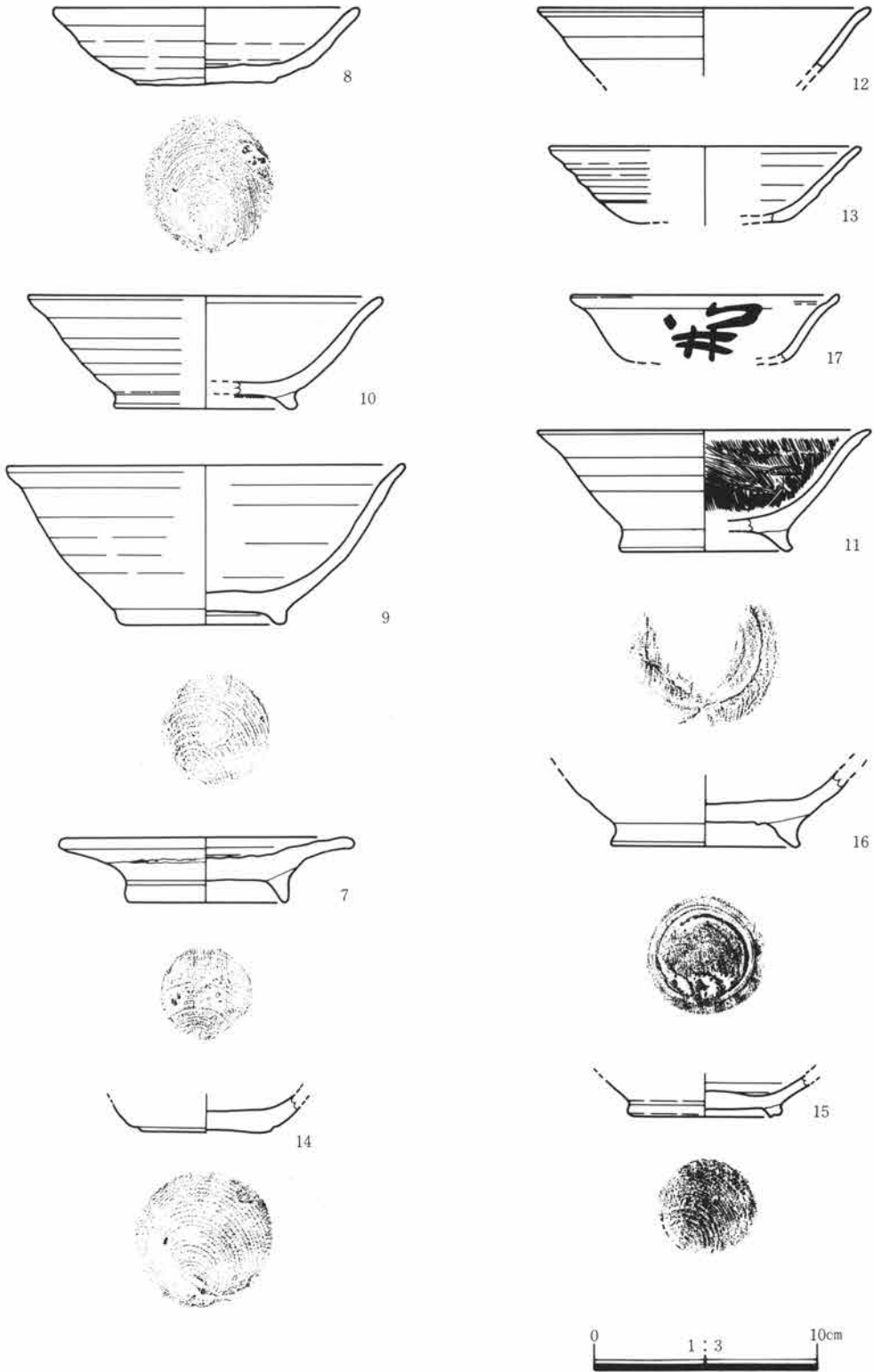
第45図 12号住居跡出土遺物②



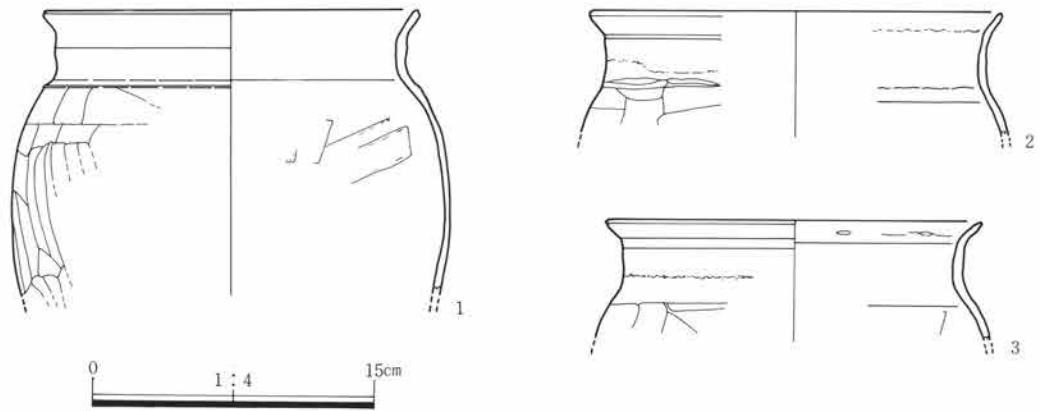
12号住居跡出土遺物③



第46図 13号住居跡出土遺物①



第47図 13号住居跡出土遺物②



第48図 13号住居跡出土遺物③

カマドは東辺南寄りに構築され、袖石として利用されたいい石2つが、袖部に配されている。カマド全体は黒色土に覆われ、焼土・灰層は、わずかに検出された。遺物は床直より出土した土師器の甕(13住一1)・小型甕(13住一5)、須恵器の椀(13住一10)などが主なもので、他に破片を多量に出土する。カマド手前より掘り方がしっかりと検出された。

遺物は住居全体にまんべんなく出土する。石は西辺際に2個出土する。

当住居跡は切り合い関係により、12号住居跡より時期は新しい。

(宮下)

#### 14号住居跡(第49図、図版16・17)

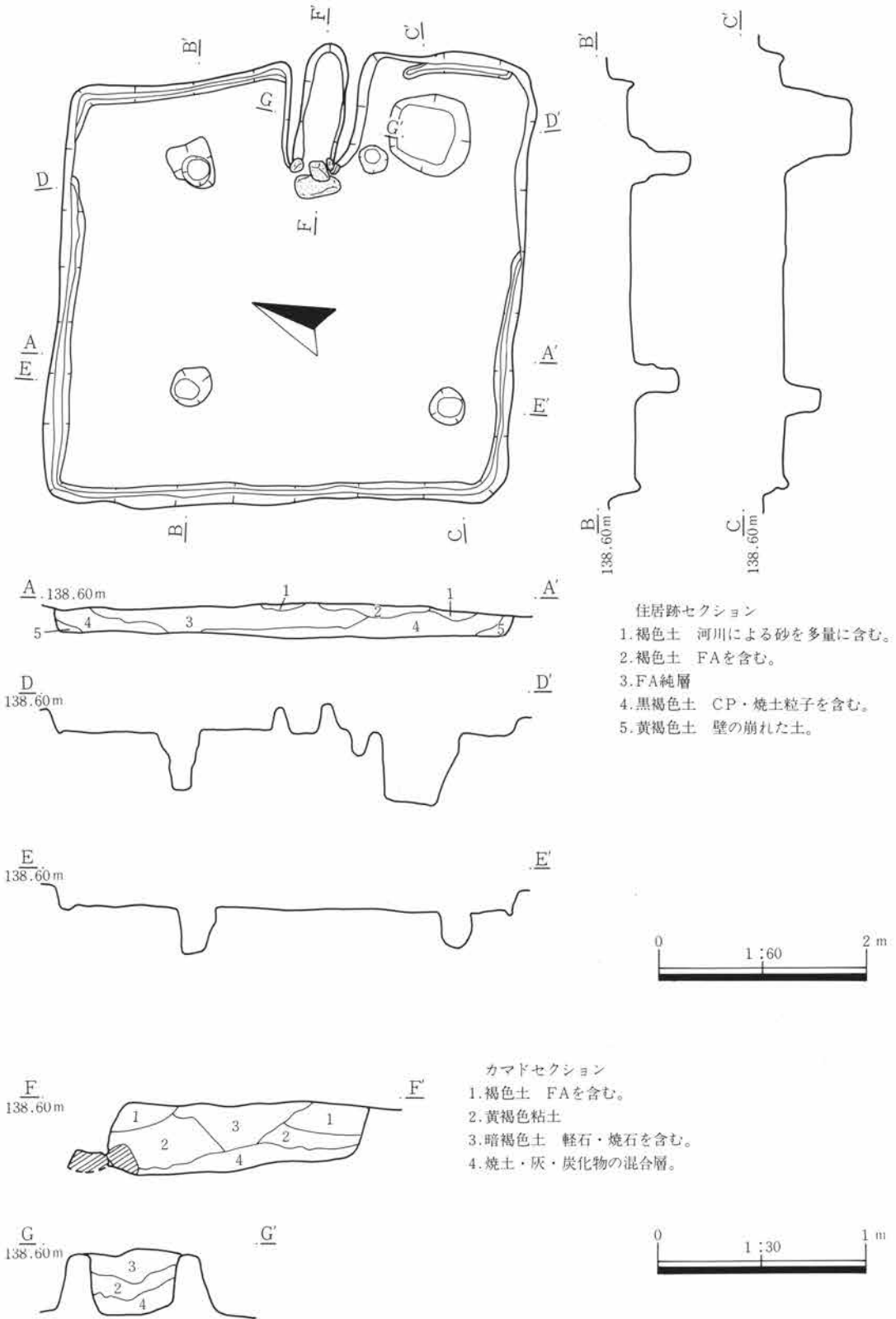
9号住居跡・15号住居跡・17号住居跡・18号住居跡と近接するが、重複はない。覆土中に、床面から間層を挟みFA純層(第3層)が堆積している。

規模は東西約3.1m・南北約3.3mであり、平面形は歪んだ方形を呈する。主軸はN-72°-Eである。壁の立ち上りは約20~25cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。主柱穴は4本であるが、南東側柱穴の位置はカマドと貯蔵穴の中間であり、やや変則的である。主柱穴の規模は直径約30~40cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。床面からの深さは約35~60cmであるが、南東の柱穴は約20cmと浅い。壁周溝はほぼ全面的に巡っているが、カマドの右側部分・南東隅から南壁側の東半分・北壁側の北東隅付近からは確認できなかった。

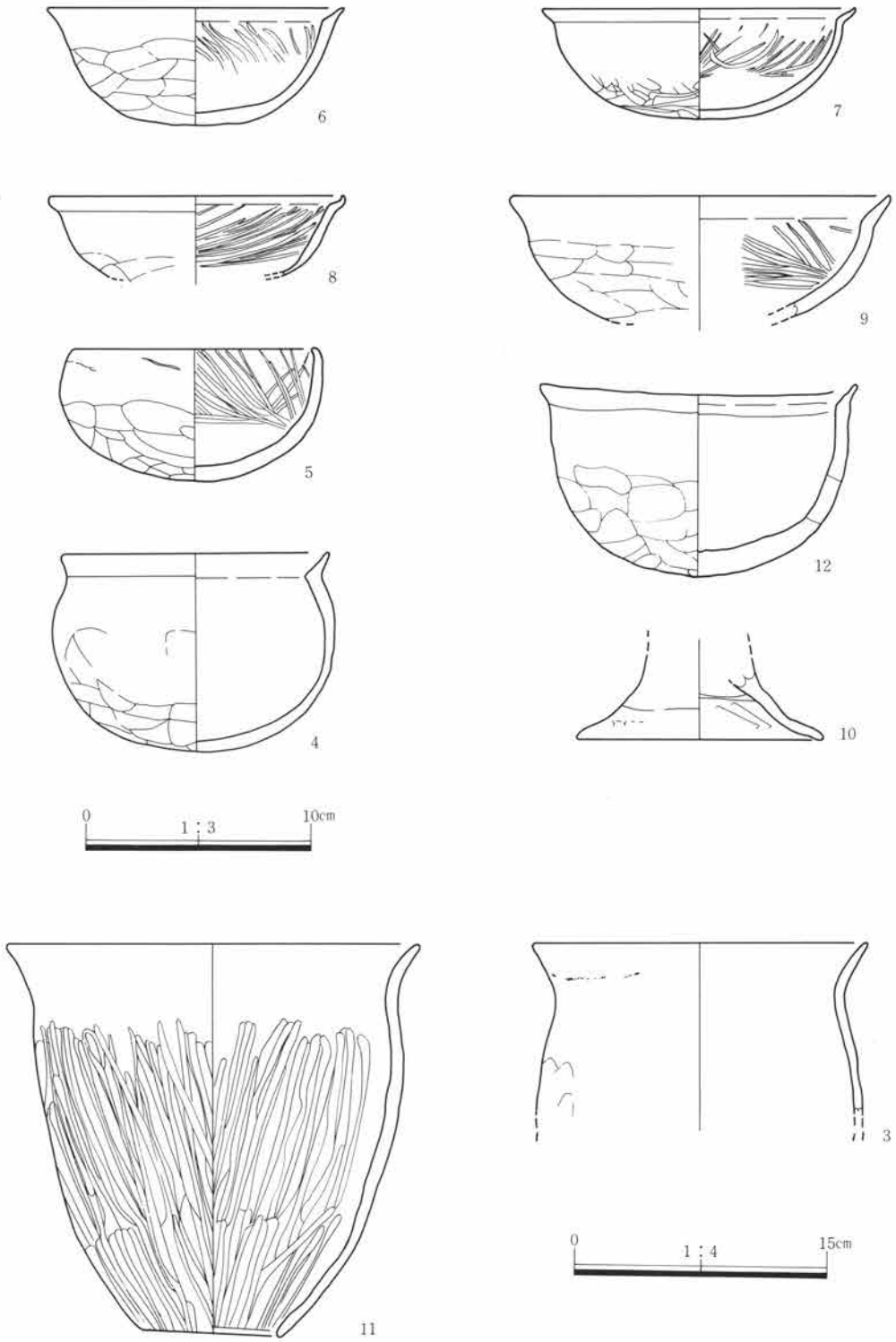
カマドは東側壁の中央やや南寄りに構築されている。燃焼部は壁内にあり、確認面での煙道部の壁外への張り出しはほとんどない。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、両袖の先端は石を用い固めている。カマド前面からは、天井に用いられたと考えられる石を検出した。

貯蔵穴はカマドの右側に設置されている。規模は一辺約75cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面からの深さは約70cmである。遺物は土師器の杯・椀・甕・甑が出土している。

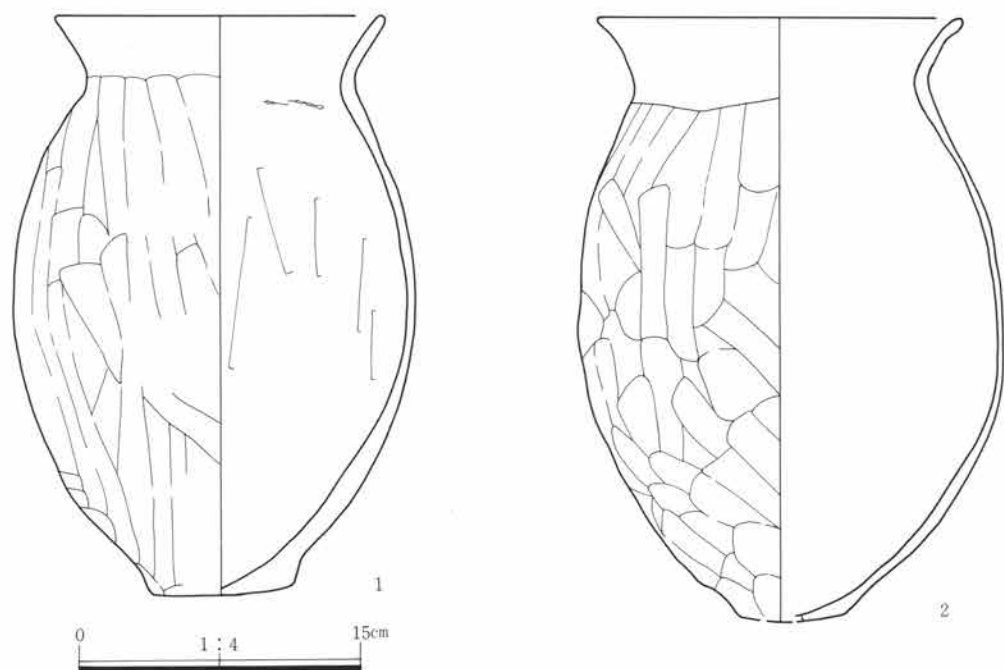
(井川)



第49図 14号住居跡



第50図 14号住居跡出土遺物①



第51図 14号住居跡出土遺物②

## 15号住居跡 (第52図、図版16・17・18・19)

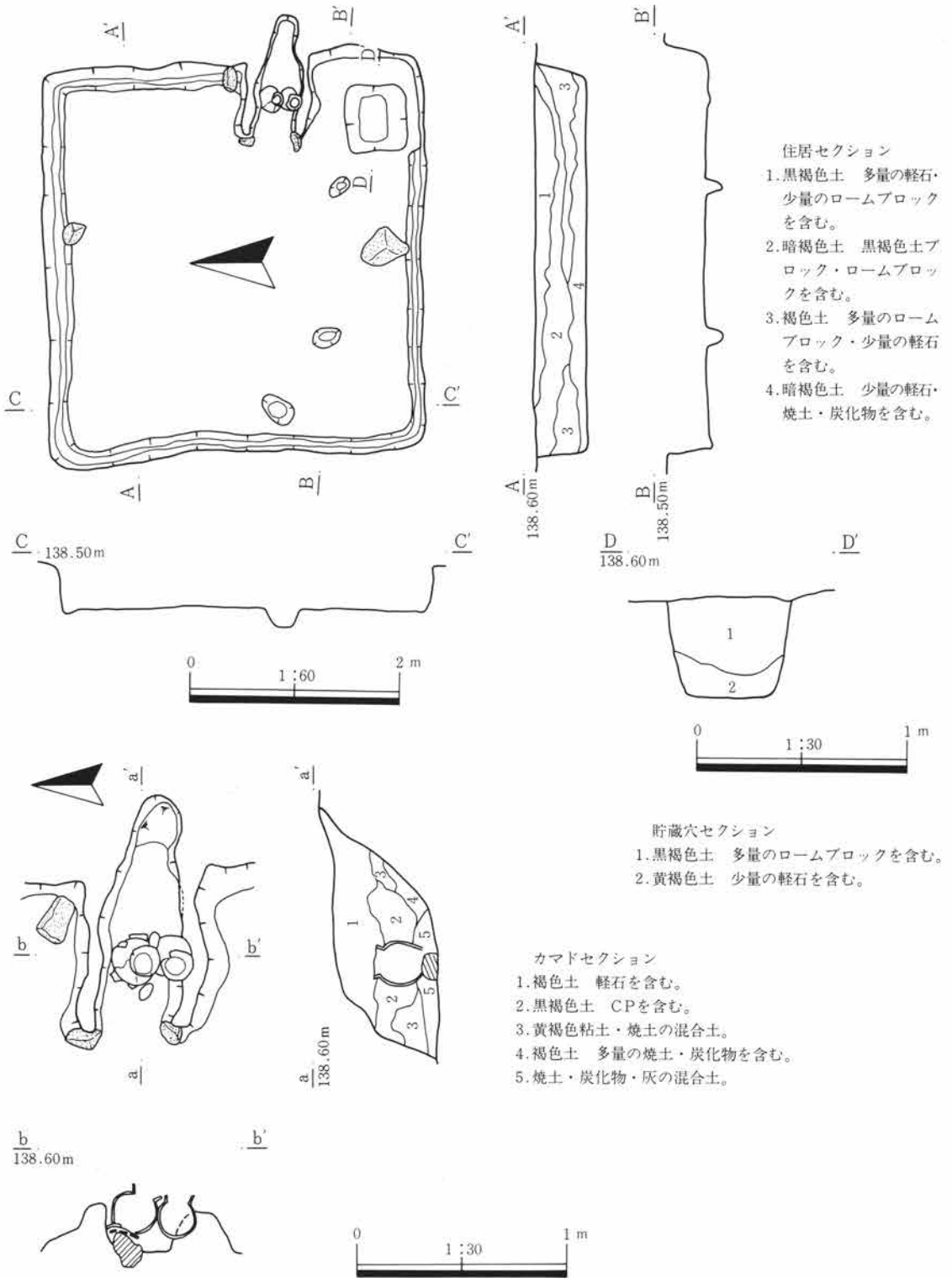
9号住居跡・10号住居跡・14号住居跡・18号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は軽石を含む黒褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約3.7m・南北約3.5mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-89°-Eである。壁の立ち上りは約40~45cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は不明であるが、南側に2基・西側壁やや南寄りに1基、計3基のピットが確認できた。南側のピットの規模は長軸20~30cm・短軸15~20cm・床面からの深さが約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴と考えることも可能であるが、位置・形状等に難がある。西側壁脇のピットは、規模が長軸約35cm・短軸約20cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。壁周溝はカマドの右側、南東隅部分を除いて巡っている。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、先端には石を用いて固めている。カマド内からは土師器の甕・壺 (15住-6・8) が出土している。そのうち1個体は、地山に埋め込まれた支脚石に載っている状態であった。

貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約60cmであり、平面形は方形を呈する。床面からの深さは約50cmである。貯蔵穴内からは土師器の杯 (15住-3)・甑 (15住-7) などが出土している。

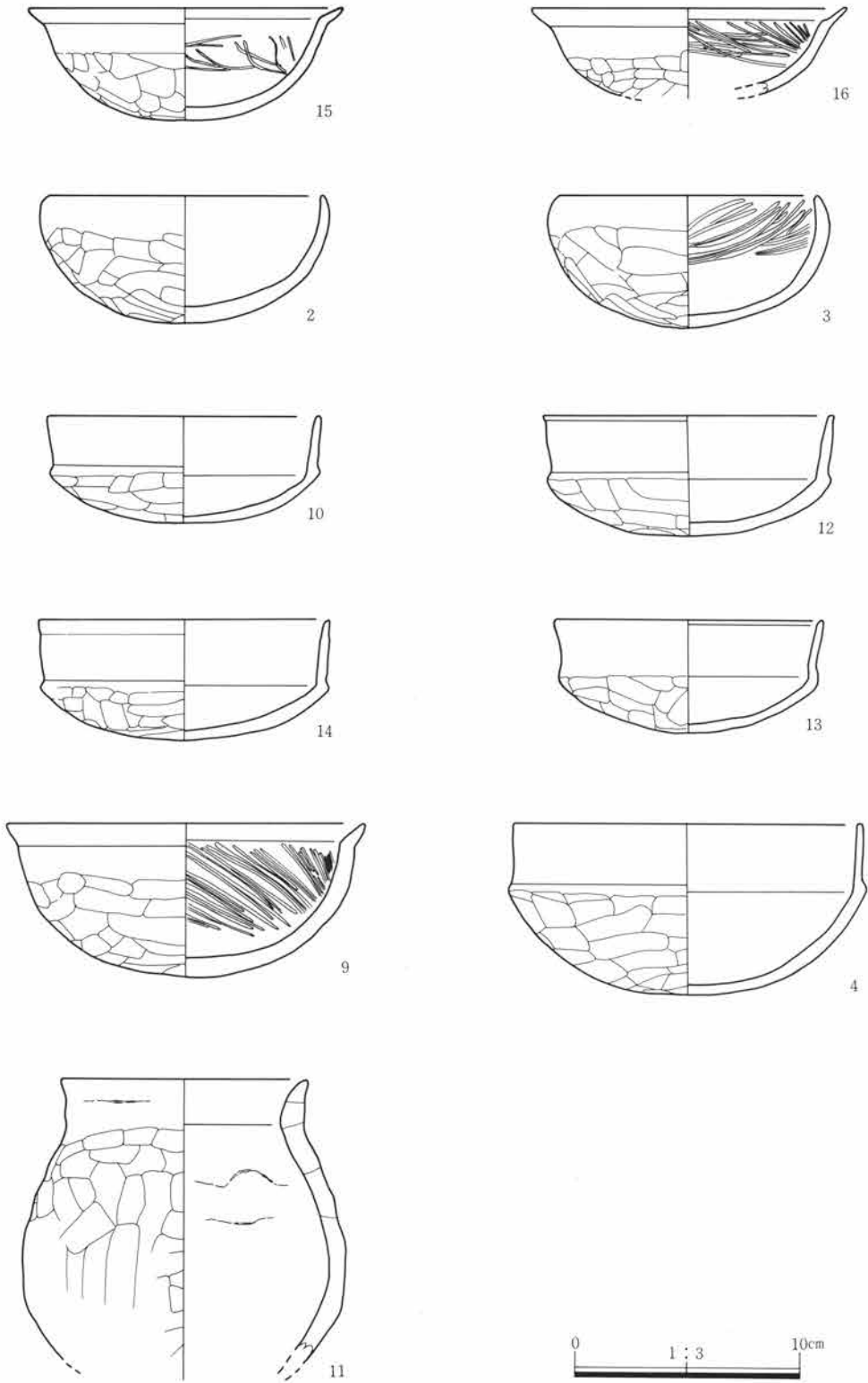
(井川)



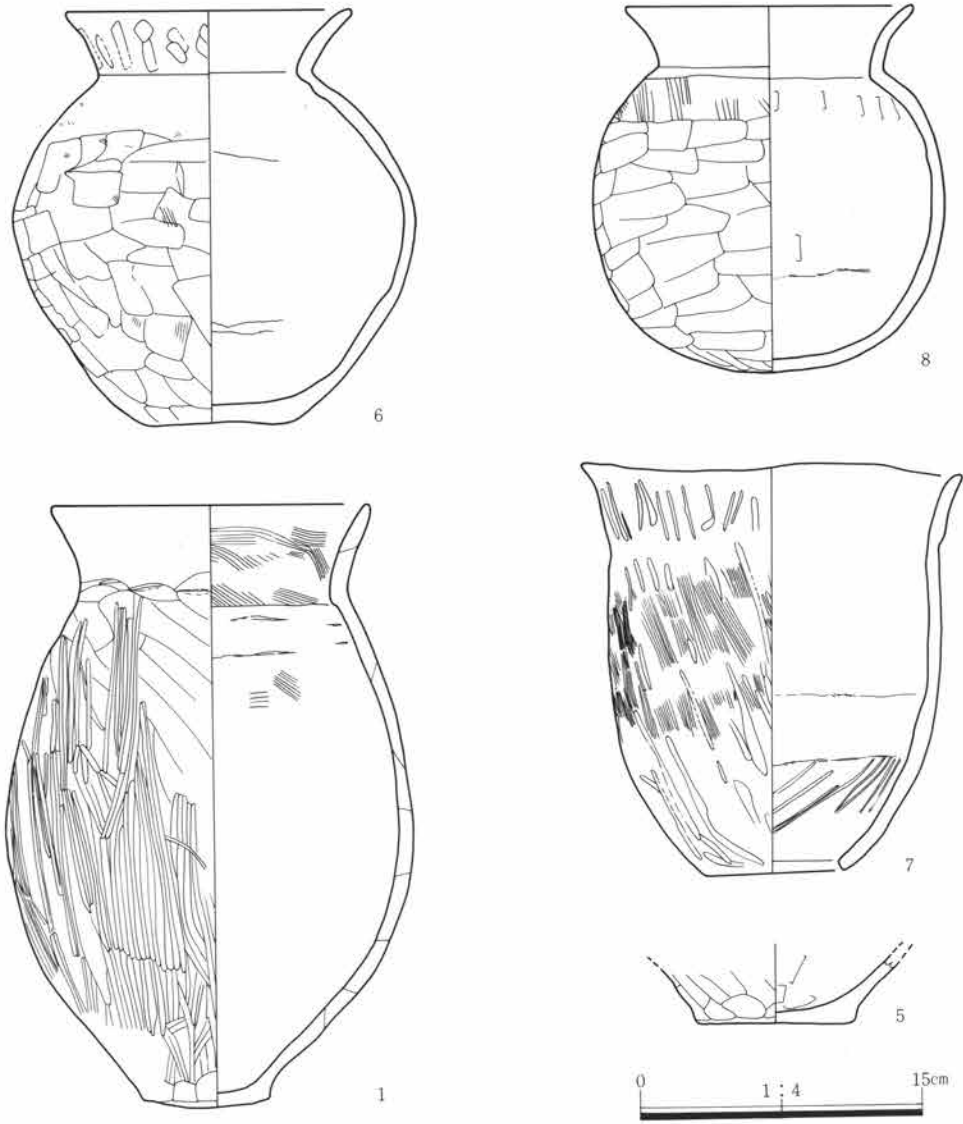
第52図 15号住居跡



第2節 発見された遺構と遺物 (15号住)



第53図 15号住居跡出土遺物①



第54図 15号住居跡出土遺物②

16号住居跡 (第55図、図版16・19)

当住居跡は単独にて検出され、北側にはピット群が近接、西側には18号住居跡が隣接し、東側には11号住居跡が隣接する。南側は遺構が検出されない地域が広がる。

規模は南北約2.6m・東西約3.0m、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-173°-Eである。床面から壁の立ち上りは、約12cmの深さで、床面はほぼ平坦で堅緻。壁の立ち上りは直立に近い形をとる。貯蔵穴は東南隅に、直径約40×40cmの不定形な円形を呈する。深さは14cmを測り、底径30×35cmの平底。遺物は須恵器の杯(16住-3)が主なもので、他は破片が出土する。柱穴は西南隅・北西隅・北東隅の3本検出された。大きさは、長径24~27cm・短径23~26cm・深さ15~21cmであり、ほぼ似た様な円形を呈

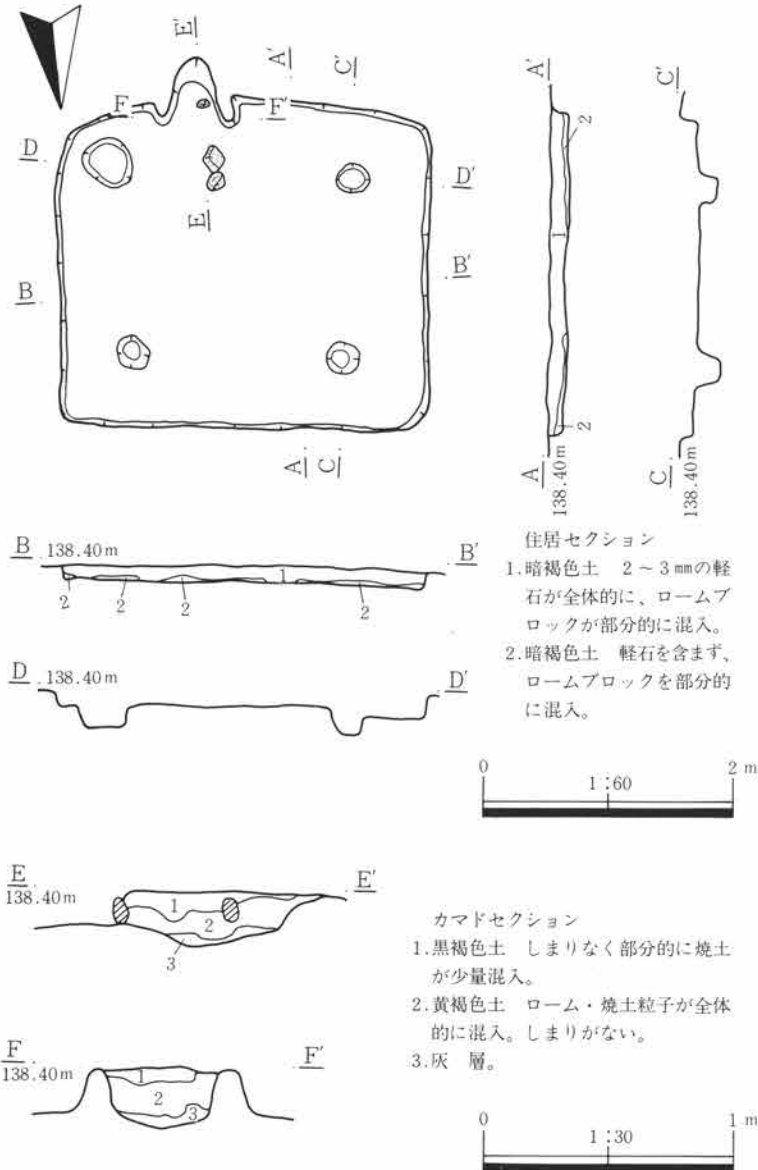
する。遺物はほとんど出土しない。

カマドは南辺東寄りに構築されている。袖部は住居の内側に入り込み、燃烧部は広く開き、底面には灰層が10cm位堆積する。遺物は須恵器の椀(16住-1)の他、破片を数点出土する。

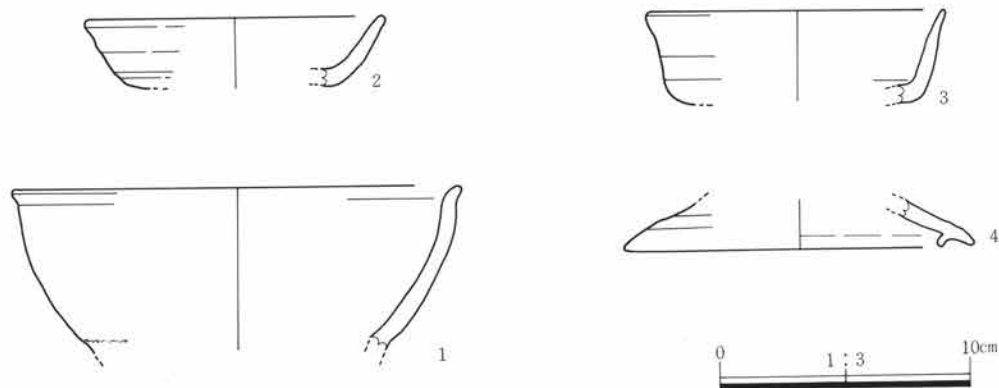
遺物は住居跡内南側に集中して出土する。カマドが南辺に位置する為と推定できる。土師質の杯(16住-2)、須恵器の蓋(16住-4)などが主な遺物で、他は破片を出土する。カマド前中央寄りに石が集中して出土する。用途は不明である。

当住居跡は他の住居跡とカマドの位置が大きく違い、南辺に構築されていることが特徴である。

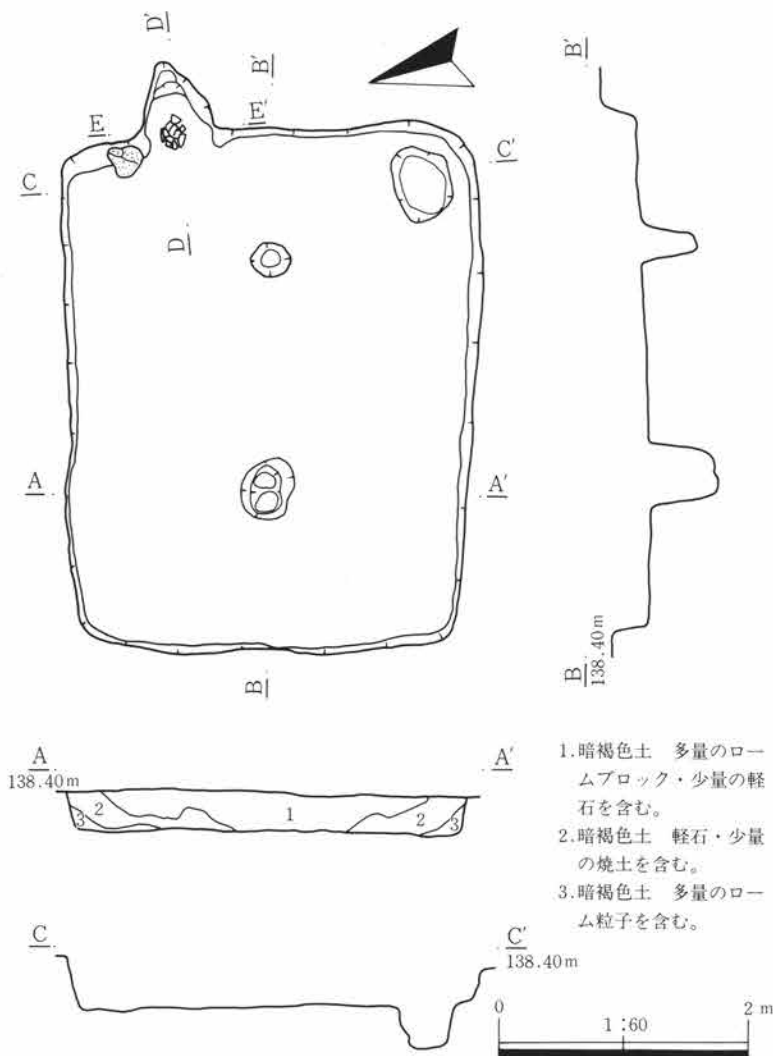
(宮下)



第55図 16号住居跡



第56図 16号住居跡出土遺物



第57図 17号住居跡

17号住居跡 (第57・

58図、図版19・20)

14号住居跡・18号住居跡が近接するが、重複はない。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

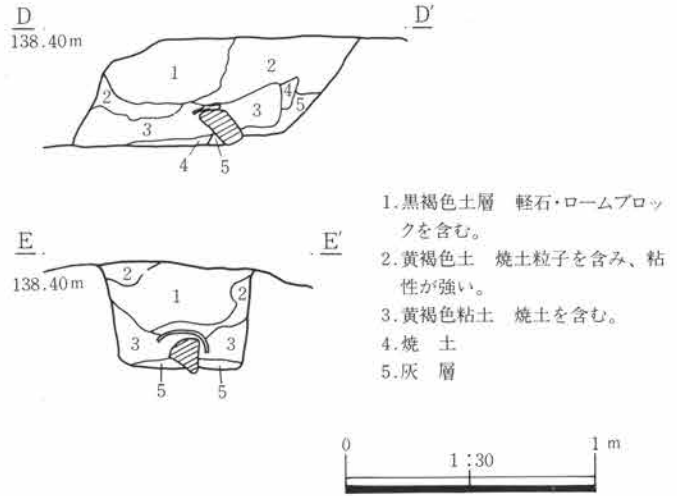
規模は東西約4.1m・南北約3.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-107°-Eである。壁の立ち上りは約25~40cmであり、残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されている。

主軸は2本であり、東西方向の中心線に沿って掘り込まれている。住居構造は東西が棟方向と推測できる。柱穴の規模・平面形は東側が直径約30cm・床面からの深さ約45cmで円形を呈し、西側が長軸約50cm・短軸約40cm・床面からの深さ約55cmで、不整形な楕円形

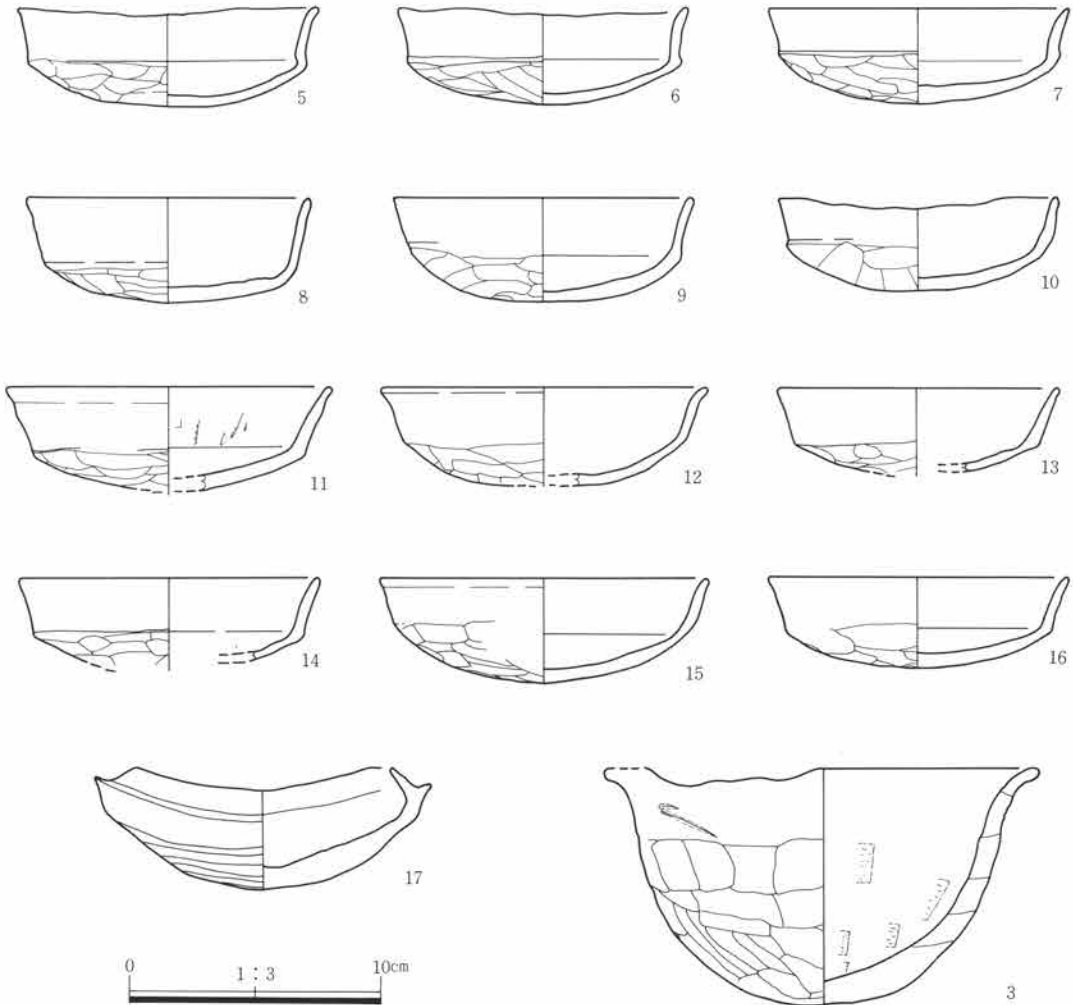
1. 暗褐色土 多量のロームブロック・少量の軽石を含む。
2. 暗褐色土 軽石・少量の焼土を含む。
3. 暗褐色土 多量のローム粒子を含む。

を呈する。西側の柱穴は、底面の状態から、2本の柱穴が重なっていると考えられ、柱を建て直している可能性がある。壁周溝は確認できなかった。

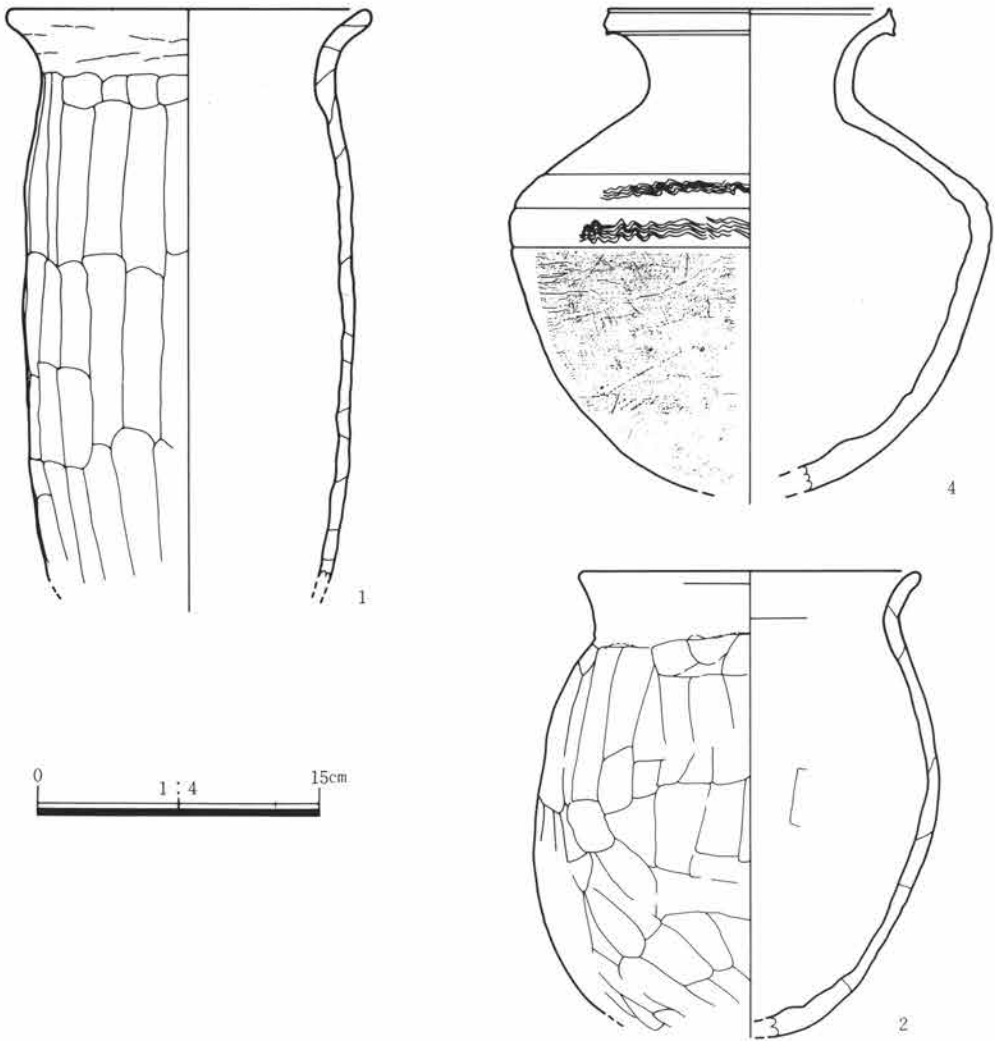
カマドは東側壁の北寄りに構築されている。燃焼部は半分が壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、大部分が破壊されている。燃焼部のほぼ中央部分からは、支脚に使用されたと考えられる石が、地山に埋め込まれた状態で確認できた。



第58図 17号住居跡カマド



第59図 17号住居跡出土遺物①



第60図 17号住居跡出土遺物②

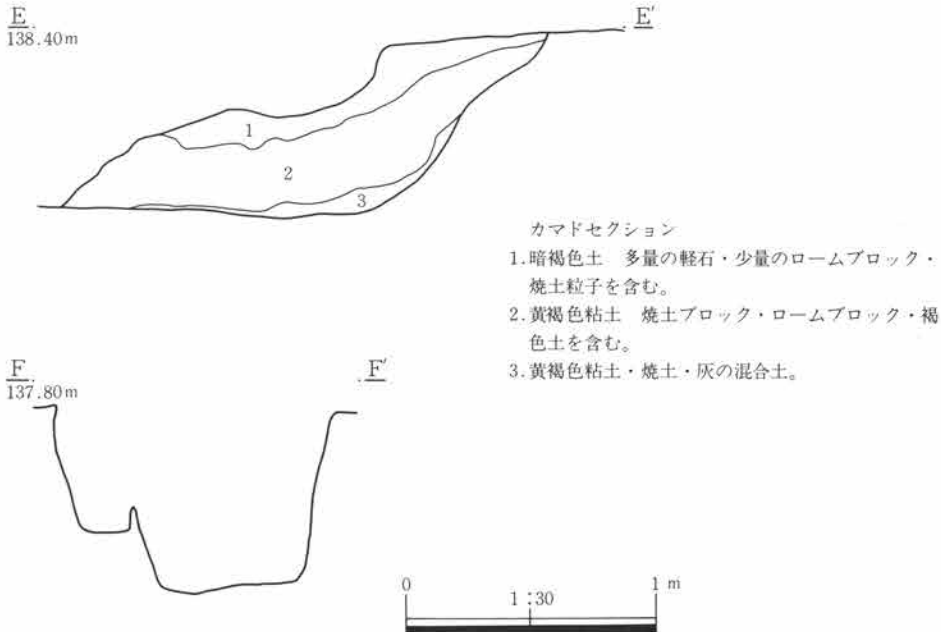
貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約60cm・短軸約45cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約35cmである。遺物は土師器の杯・鉢・甕、須恵器の杯・甕が出土している。出土はカマド・貯蔵穴周辺への集中傾向が見られ、カマド内からは土師器の甕（17住-2）・支脚直上からは鉢（17住-3）が出土している。（井川）

## 18号住居跡 (第61・62図、図版16・20・21)

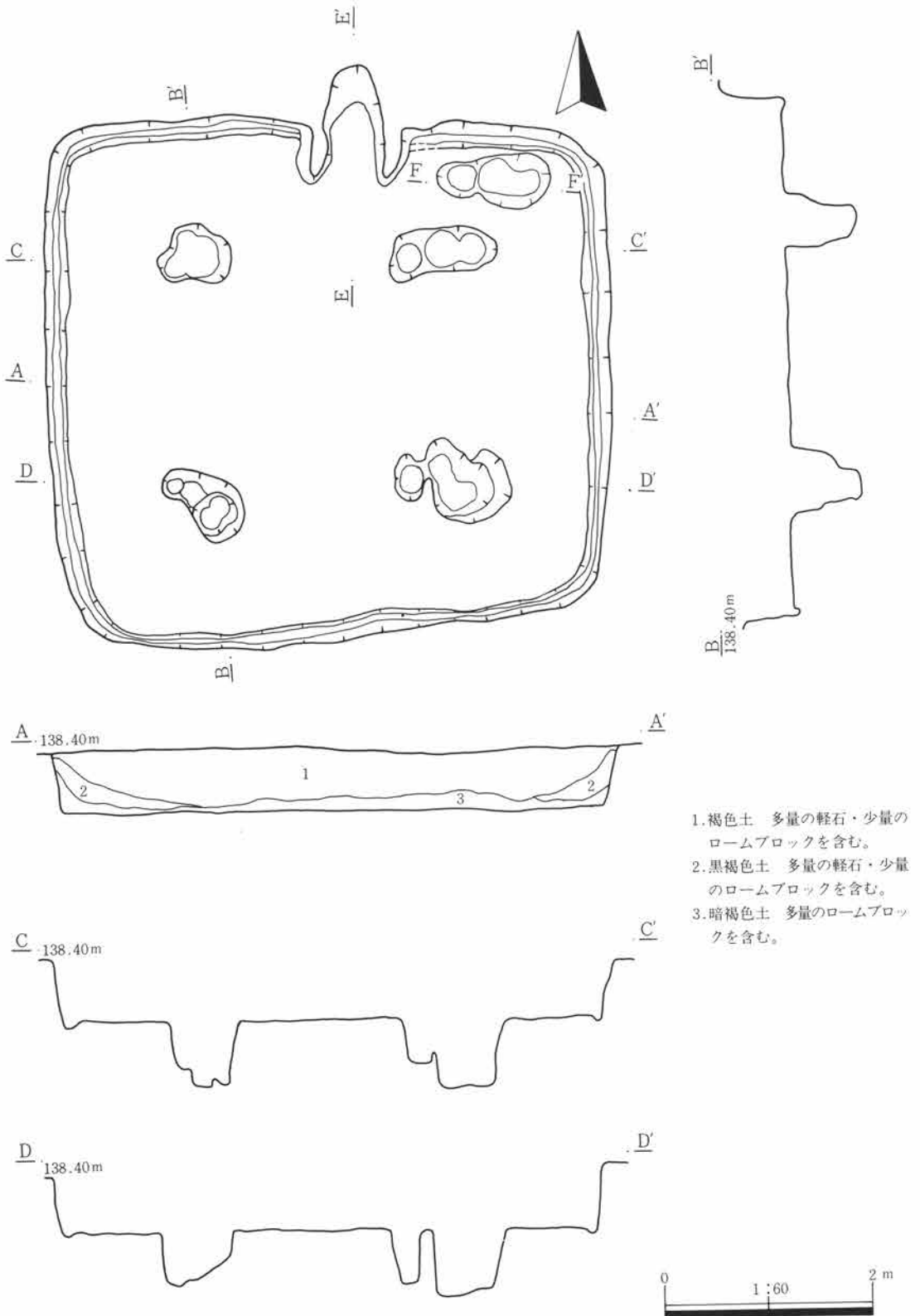
15号住居跡・16号住居跡・17号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は軽石を含む褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約5.4m・南北約4.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-1°-Eである。壁の立ち上りは約50~65cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本であるが、各柱穴は3~4基のピットが重複している。即ち、新旧関係は不明であるが、当住居跡の上部構造は3~4回建て直しをしていると推測できる。各ピットの規模は直径約30~40cm、平面形は円形・楕円形を呈するものと推定できる。床面からの深さは約40~70cmである。壁周溝はカマド部分を除き、住居跡全体に巡っている。

カマドは北側壁中央やや東寄りに構築されている。燃烧部の半分が壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は黄褐色粘土を素材に用いている。貯蔵穴は北東隅に構築されている。規模は長軸約70cm・短軸約50cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約70cmである。貯蔵穴の西側に接してピットが1基確認できた。規模は長軸約40cm・短軸約30cmで、平面形は楕円形を呈すると推定できる。床面からの深さは約50cmである。遺物は土師器の杯・高杯・甕などが出土しており、カマド周辺・北西部に集中する傾向が見られた。(井川)

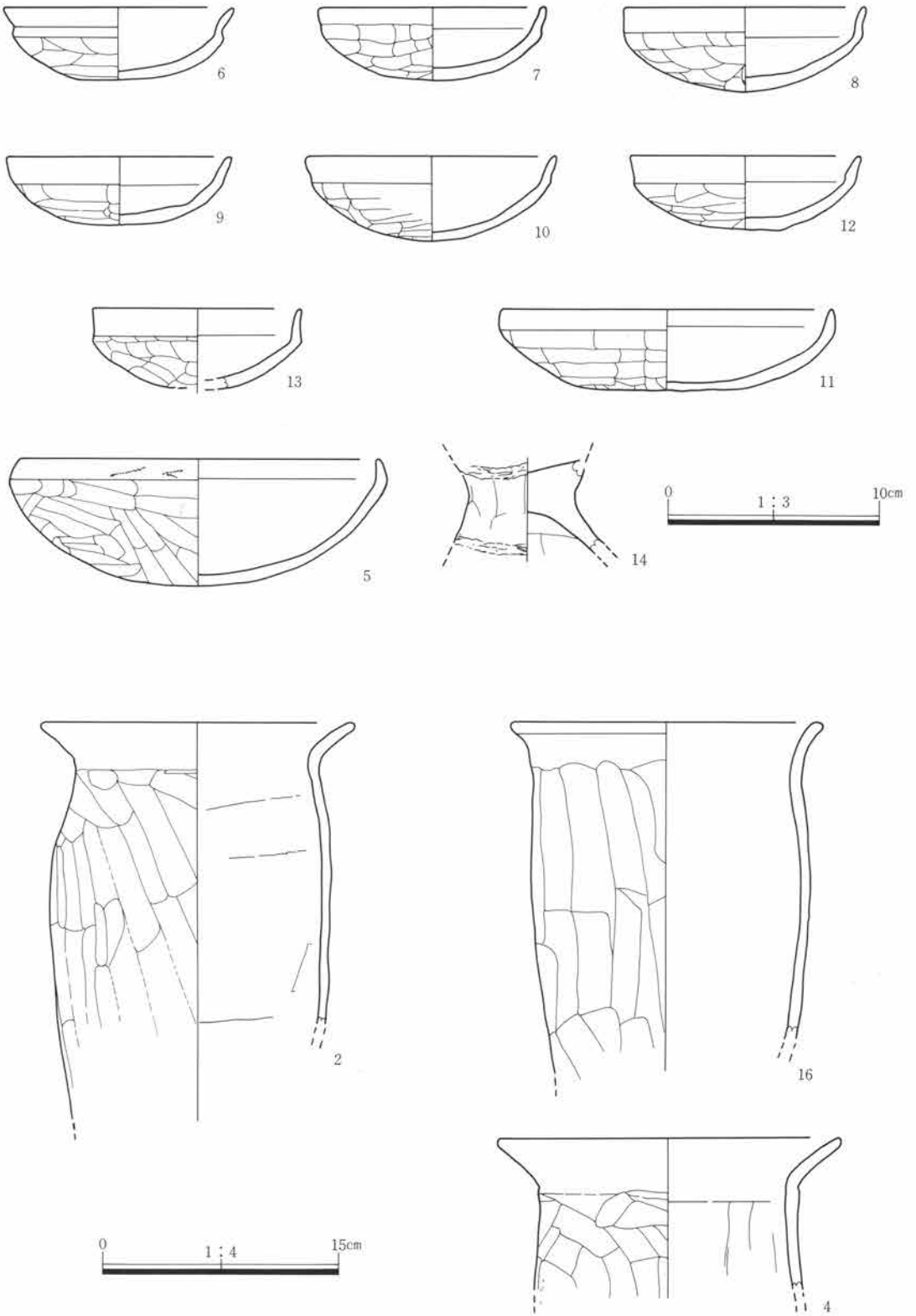


第61図 18号住居跡カマド・貯蔵穴

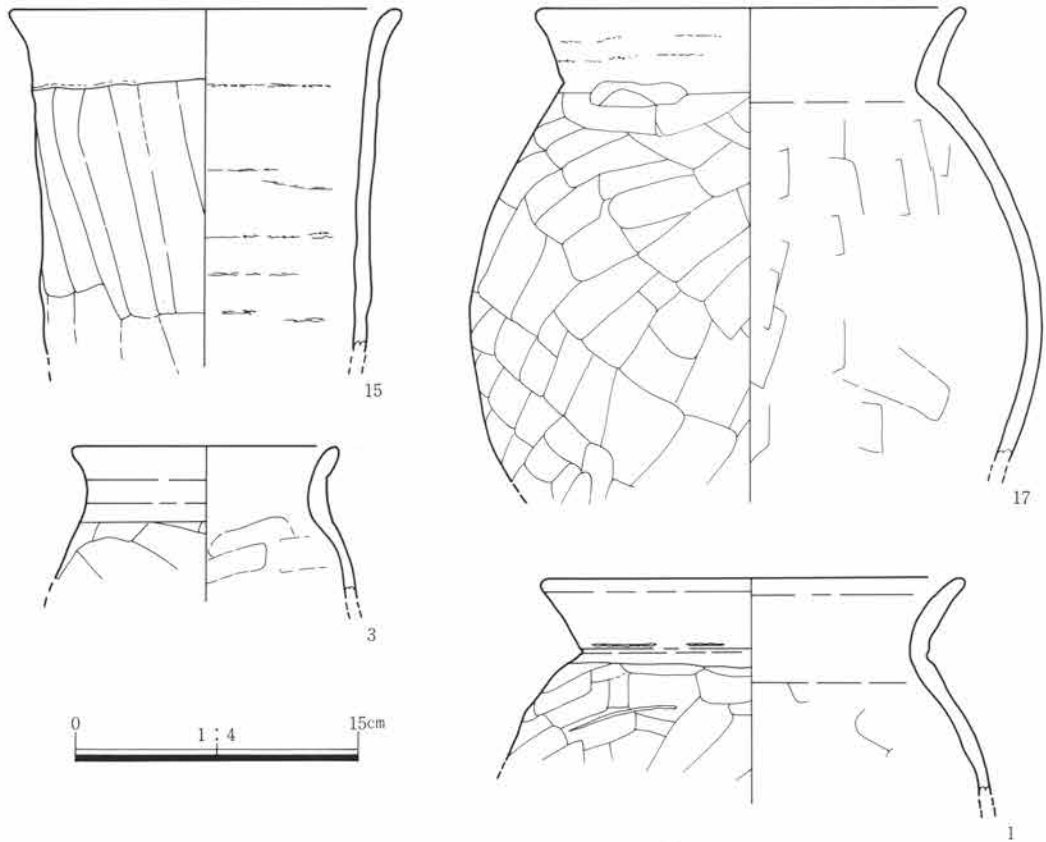


第62図 18号住居跡





第63図 18号住居跡出土遺物①



第64図 18号住居跡出土遺物②

19号住居跡 (第65図、図版21)

20号住居跡と重複し、17号住居跡・18号住居跡・21号住居跡が近接する。20号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。覆土は軽石・ローム粒子を含む暗褐色土である。

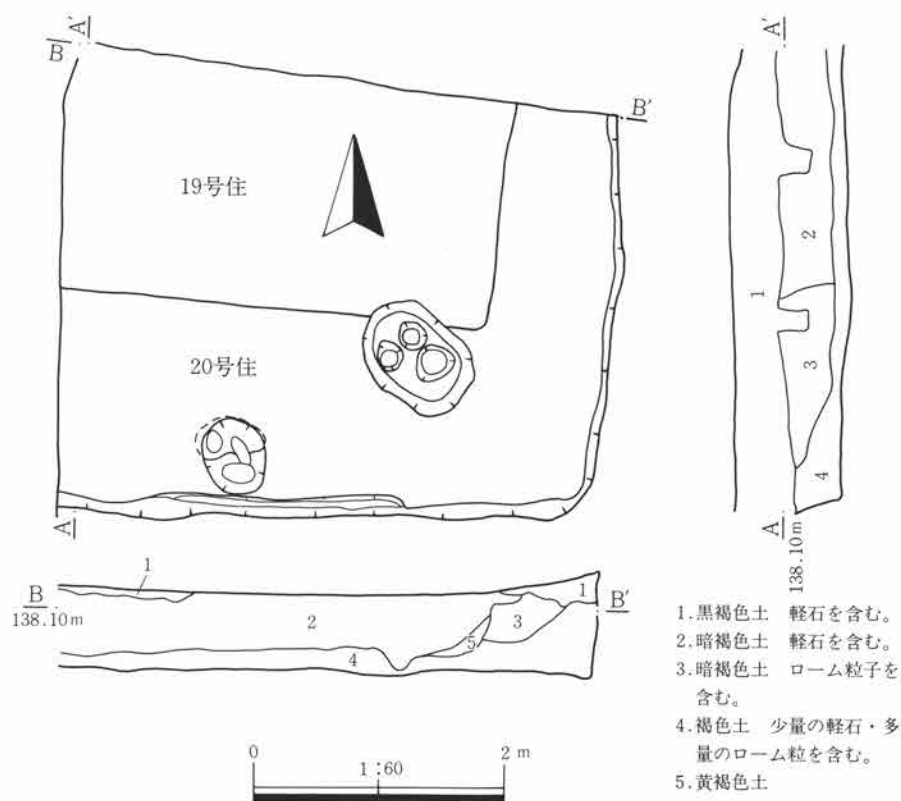
規模・主軸・柱穴・カマド・貯蔵穴は不明である。壁の立ち上り・床面はセクションで確認できただけである。壁の立ち上りは約30~40cmである。

当住居跡は20号住居跡を調査中に検出されたものであり、明瞭な床面は確認できなかった。また、北側は町道・西側は調査区域外のため未調査である。(井川)

20号住居跡 (第65図、図版21)

19号住居跡と重複する。新旧関係は19号住居跡で述べた通りである。覆土は少量の軽石を含む褐色土である。

北側は町道・西側は調査区域外のため、規模・主軸・柱穴・カマド・貯蔵穴は不明である。壁の立ち



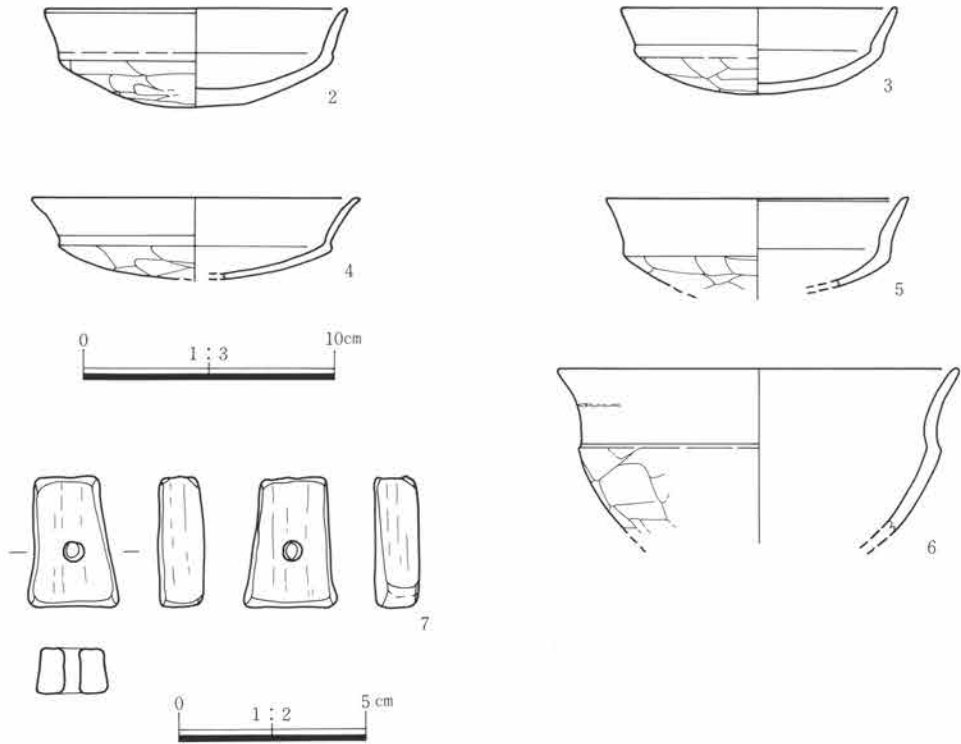
第65図 19号住居跡・20号住居跡

上りは約30~40cmであり、調査範囲内での残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。壁周溝は南側壁の一部から確認できただけである。

南東部に1基、南側壁際に1基、計2基のピットが確認できた。南東部のピットの規模は長軸約100cm・短軸約70cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約90cmである。同ピットは底面の形態から、3基以上のピットが重複したものである。同ピットを柱穴と考えれば、18号住居跡と同じように、上部構造の建て直しが推測できる。南壁際のピットの規模は長軸約60cm・短軸約50cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約35cmである。同ピットも、南東部ピットと同様に、3基以上のピットの重複と考えられる。

遺物は土師器の杯・鉢の他、安山岩製の砥石が出土している。砥石の全長は35mm・幅は18~24mm・厚さ12mmであり、中央部に穿孔がある。

(井川)



第66図 20号住居跡出土遺物

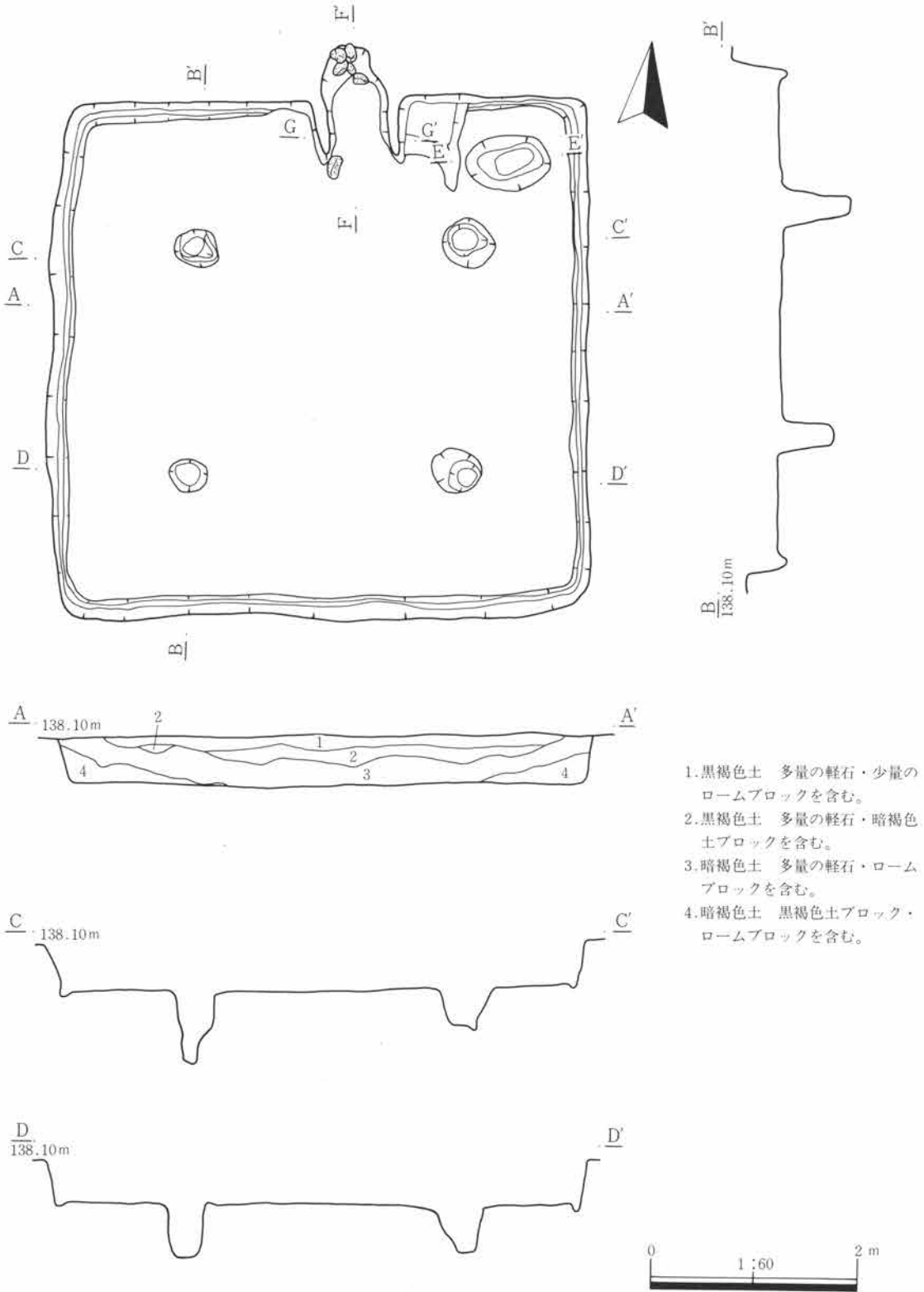
21号住居跡 (第67・68図、図版22)

20号住居跡・24号住居跡・25号住居跡・26号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は軽石を含む黒褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約5.1m・南北約4.9mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-7°-Wである。壁の立ち上りは約30~50cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本である。規模は直径約30~50cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。床面からの深さは約40~70cmである。壁周溝はカマド部分を除いて、ほぼ全的に巡っている。

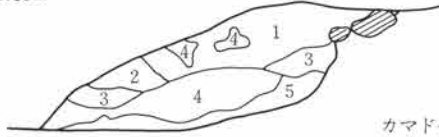
カマドは北側壁中央やや東寄りに構築されている。燃焼部は半分が壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、左袖(西側袖)は先端に石を用いて固めている。右袖も石が使用してあったものと推測している。カマドの右側、カマドと貯蔵穴の中間約0.25m<sup>2</sup>は、他の床面より約15cm高くなっている。

貯蔵穴は北東隅に構築されている。規模は長軸約80cm・短軸約50cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約50cmである。遺物は土師器の杯が出土している。(井川)



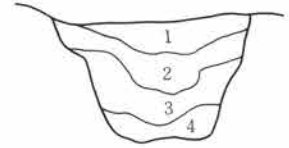
第67図 21号住居跡

F  
138.10m



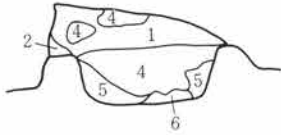
F'

E  
137.80m



E'

G  
138.10m



G'

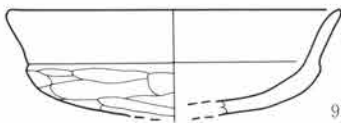
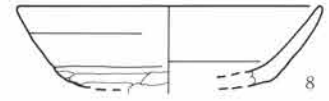
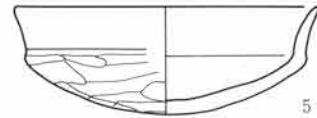
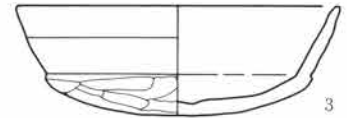
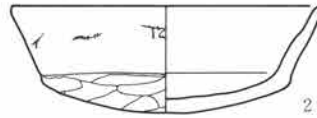
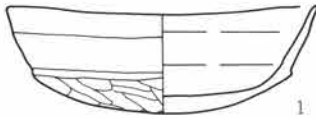
- カマドセクション
1. 暗褐色土 軽石を含む。
  2. 黒褐色土 多量の軽石を含む。
  3. 黒褐色土 ロームブロックを含む。
  4. 暗褐色土 ロームブロックを含み、軽石を含まない。
  5. 焼土・灰・黄褐色粘土の混合土。
  6. 灰層

貯蔵穴セクション

1. 暗褐色土 多量の焼土粒子を含む。
2. 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
3. 褐色土 ローム粒子・少量の軽石を含む。
4. 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含み、軽石を含まない。



第68図 21号住居跡カマド・貯蔵穴



第69図 21号住居跡出土遺物

## 22号住居跡 (第71図、図版22・23)

当住居跡は23号住居跡と重複関係にある。西側には25号住居跡・26号住居跡が隣接し、南側には29号住居跡が隣接する。東側は調査区域外へ続き、北側は遺構が検出されない地域が広がる。

規模は南北約3.0m・東西約2.8mの隅丸方形を呈する。主軸はN-147°-Eである。深さは約40cmで、壁の立ち上りは垂直でやや硬質。床面は平坦で堅緻。貯蔵穴は西南隅に位置し、大きさは約70×50cmの不定楕円形を呈する。深さ約20cmで底面には凹凸がある。遺物は破片が数点出土し、石が数点出土する。柱穴は検出されていない。

カマドは東南隅の角に構築されている。焼土・灰層はカマドの位置より北側寄りに検出され、カマドの覆土は不明である。袖石、遺物は検出されていない。

遺物は住居跡内に少量出土する。床直より須恵器の盤(22住-1)、覆土より須恵器の杯・甕(22住-2・3)の破片を出土する。また、南壁中央床上4cmから砥石(22住-4)を出土する。石材は輝石安山岩で、欠損あり。使用面は6面あり、4面は滑らかに使用されている。側面には条痕多数が付いて、使用により大きく外反する形状となった。

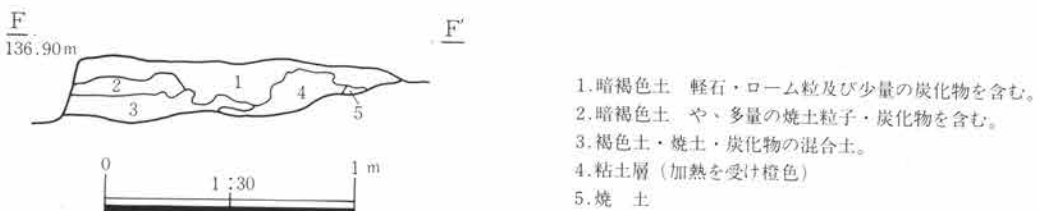
当住居跡は切り合い関係により、23号住居跡より時期は新しい。(宮下)

## 23号住居跡 (第70・71図、図版22・23)

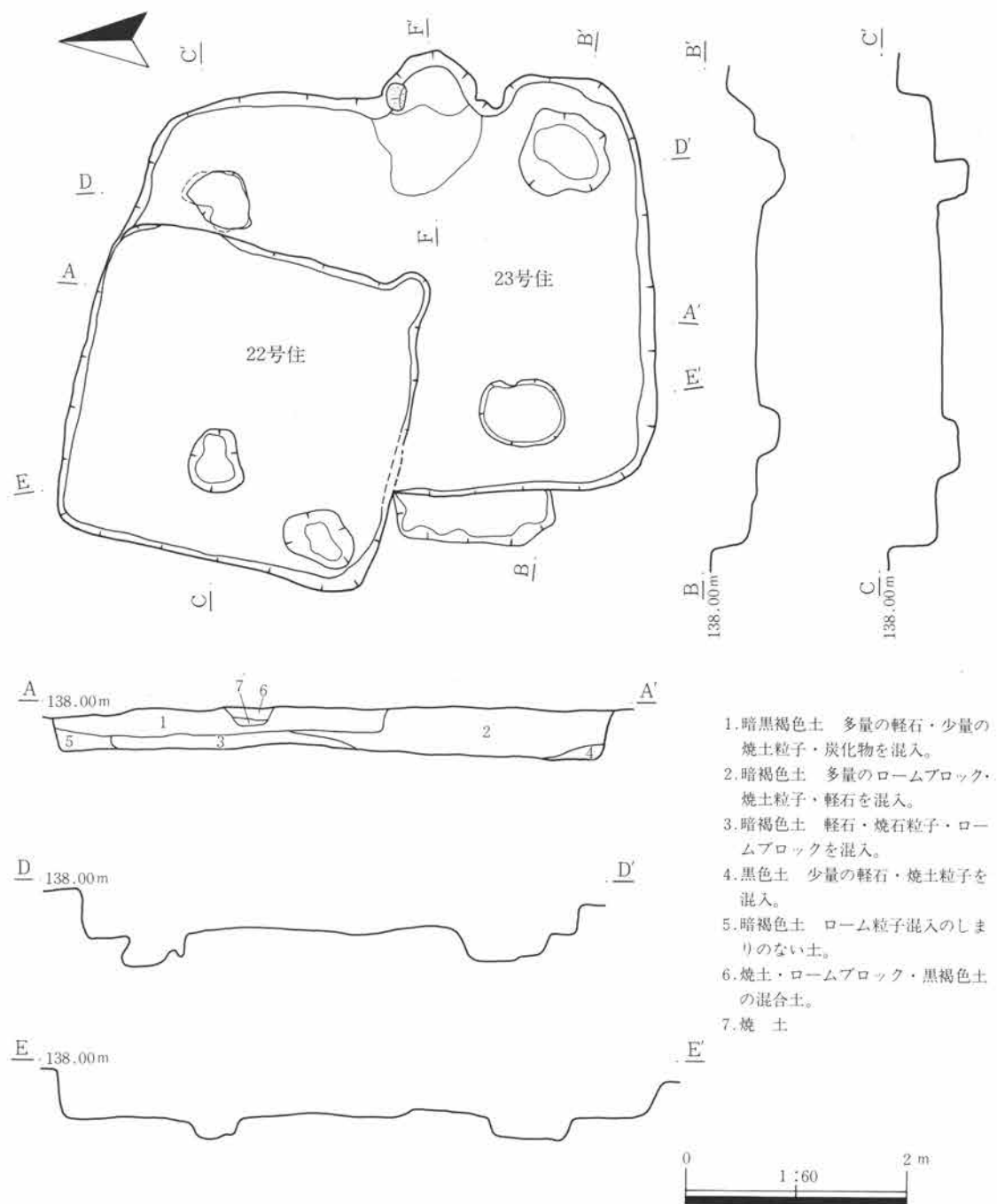
当住居跡は22号住居跡と重複関係にある。西側には25号住居跡・26号住居跡が隣接し、南側には29号住居跡が隣接する。東側は調査区域外へ続き、北側は遺構が検出されない地域が広がる。

規模は南北約4.3m・東西約3.6m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-91°-Eである。壁は緩やかに立ち上り、堅緻。床面は平坦で堅緻。貯蔵穴は東南隅に位置し、大きさは約70×80cmの不定楕円形を呈する。深さ約22cmで底面は段がある。遺物は土師器の甕(23住-1・2)などが数点出土する。柱穴は北東隅・北西隅・西南隅の3本が検出された。規模は長軸約52~80cm・短軸約42~58cm・深さ約20~30cmとやや口径の大きい楕円形を呈する。4本目の柱穴は貯蔵穴周辺の北側に位置すると思われるが、検出できなかった。遺物はそれぞれ1~2点破片が出土するのみで、底面はやや硬質。

カマドは東辺南寄りに構築されている。カマド全体は暗褐色土に覆われ、焼土・炭化物層が底面近くに堆積する。燃焼部は奥行きが短く、幅が広い。遺物はカマド手前に集中して出土する。



第70図 23号住居跡カマドセクション



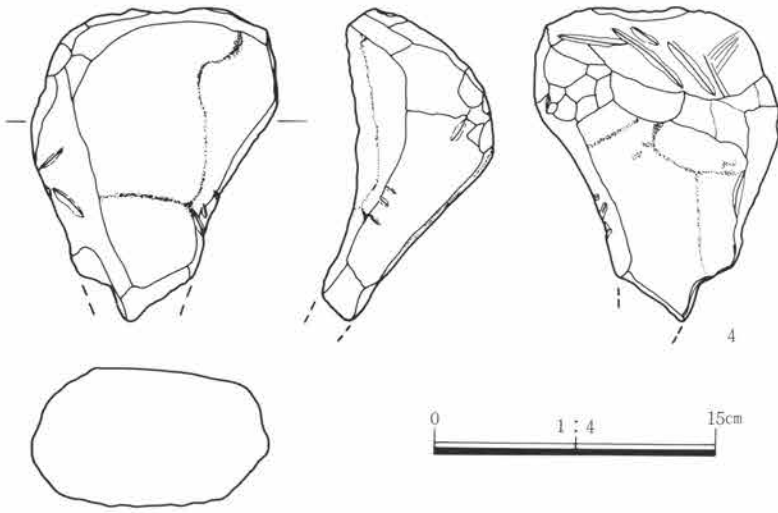
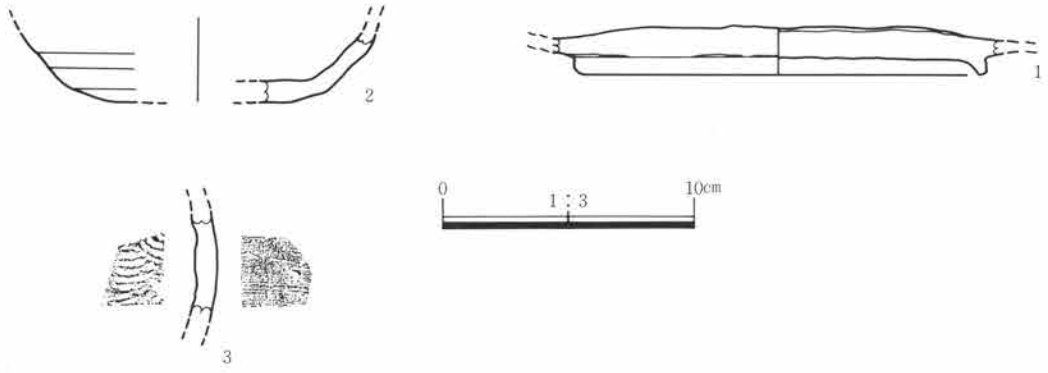
第71図 22号住居跡・23号住居跡

遺物は土師器の椀（23住-3・4・5）、須恵器の蓋（23住-6）・甕（23住-7）・壺（23住-8）など、住居内東側に散在して出土する。

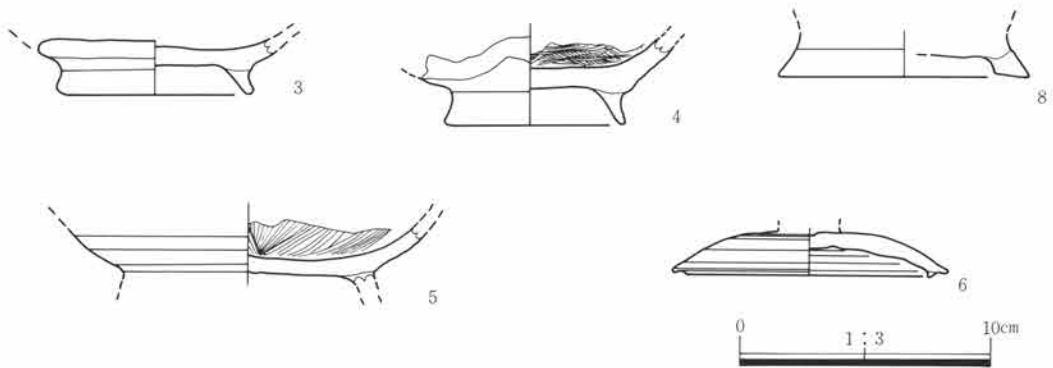
当住居跡は切り合い関係により、22号住居跡より時期は古い。

（宮下）

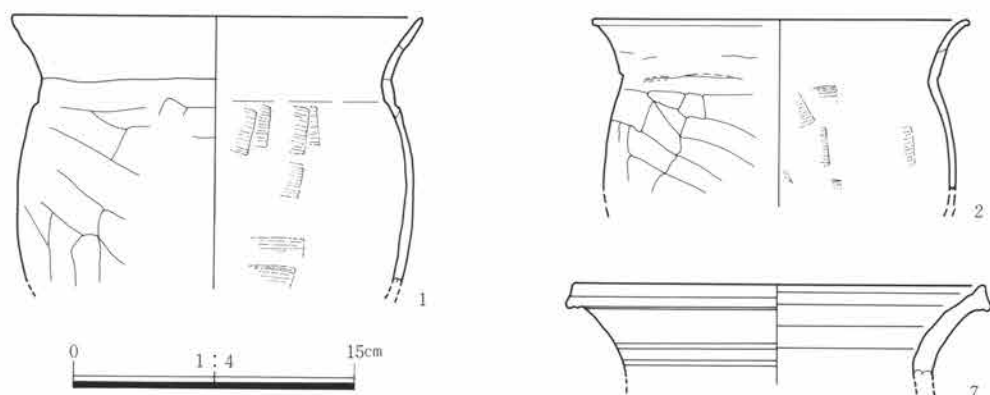




第72図 22号住居跡出土遺物



第73図 23号住居跡出土遺物①



第74図 23号住居跡出土遺物②

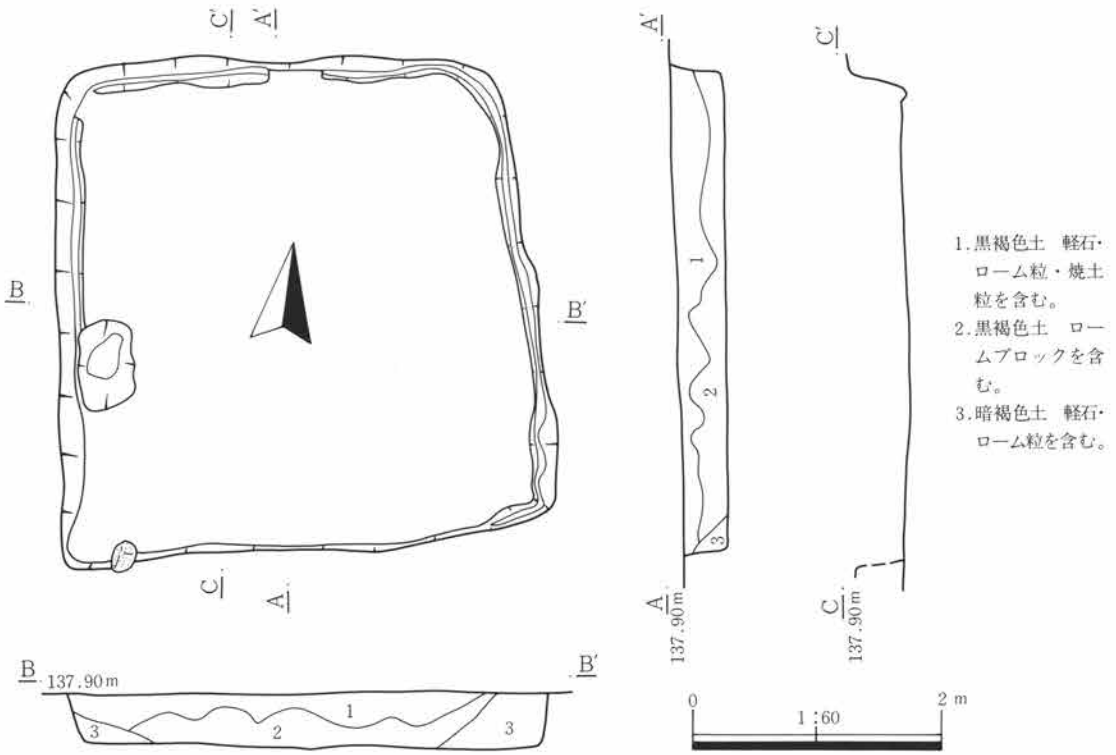
#### 24号住居跡 (第75図、図版23)

27号住居跡と重複し、21号住居跡・25号住居跡・26号住居跡が近接する。27号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。覆土は、軽石・ローム粒子を含む黒褐色土・暗褐色土が主体である。

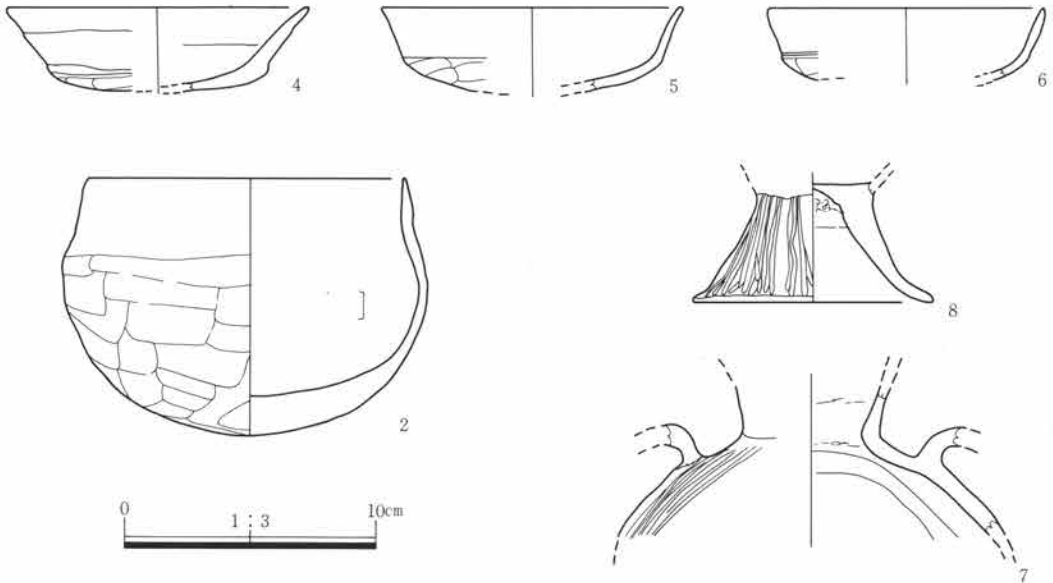
規模は東西約2.7m・南北約2.9mであり、平面形は台形に近い隅丸方形を呈する。壁の立ち上りは約40cmであり、残存状態は比較的良好であるが、重複部分はやや不明瞭である。床はローム層中に構築されている。壁内に柱穴はない。壁周溝は南東隅から、北側壁を経て西側壁の中央付近まで検出できたが、北側壁の中央部分・北西隅では途切れている。

カマドは検出できなかった。カマドが無いことは、他の住居跡と比較し、同じ機能を有するか考える余地がある。西側壁中央付近の際からピットが1基検出できた。規模は長辺約70cm・短辺約50cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。床面からの深さは約30cmである。底面の形態などから、柱穴・貯蔵穴と考えるには難が残る。

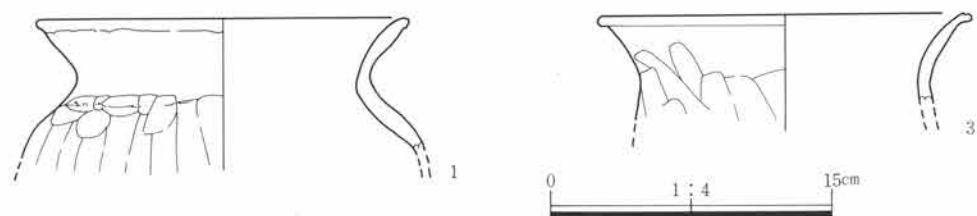
遺物の出土は少ないが、土師器の杯・椀・甕の他に、須恵器の提瓶が出土している。 (井川)



第75図 24号住居跡



第76図 24号住居跡出土遺物①



第77図 24号住居跡出土遺物②

### 25号住居跡（第78・79図、図版24・26）

26号住居跡・27号住居跡と重複し、21号住居跡・24号住居跡が近接する。26号住居跡との新旧関係は、覆土の相違・当住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が新しい。27号住居跡との新旧関係も、覆土の相違から、当住居跡が新しい。覆土は多量の軽石を含む暗褐色土である。

規模は東西約3.0m・南北約3.7mであり、平面形は台形に近い隅丸長方形を呈する。主軸はN-83°-Eである。壁の立ち上りは約40~50cmであり、残存状態は良好であるが、重複部分は不明瞭であった。床はローム層中に構築されているが、26号住居跡との重複部分は、ロームを含む暗褐色土であった。柱穴は不明であるが、住居内西側からピットが2基検出できた。規模は直径約25~30cmであり、平面形は円形を呈する。床面からの深さは約20~30cmである。この2基のピットを柱穴と考えることもできるが、ピットが西側に寄っているため、棟の中心線は西側に片寄ることになる。壁周溝はない。

カマドは東側壁の南東近くに構築されている。燃焼部は半分が壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は粘土を素材に使用しているが、大部分が破壊されていた。貯蔵穴は確認できなかった。

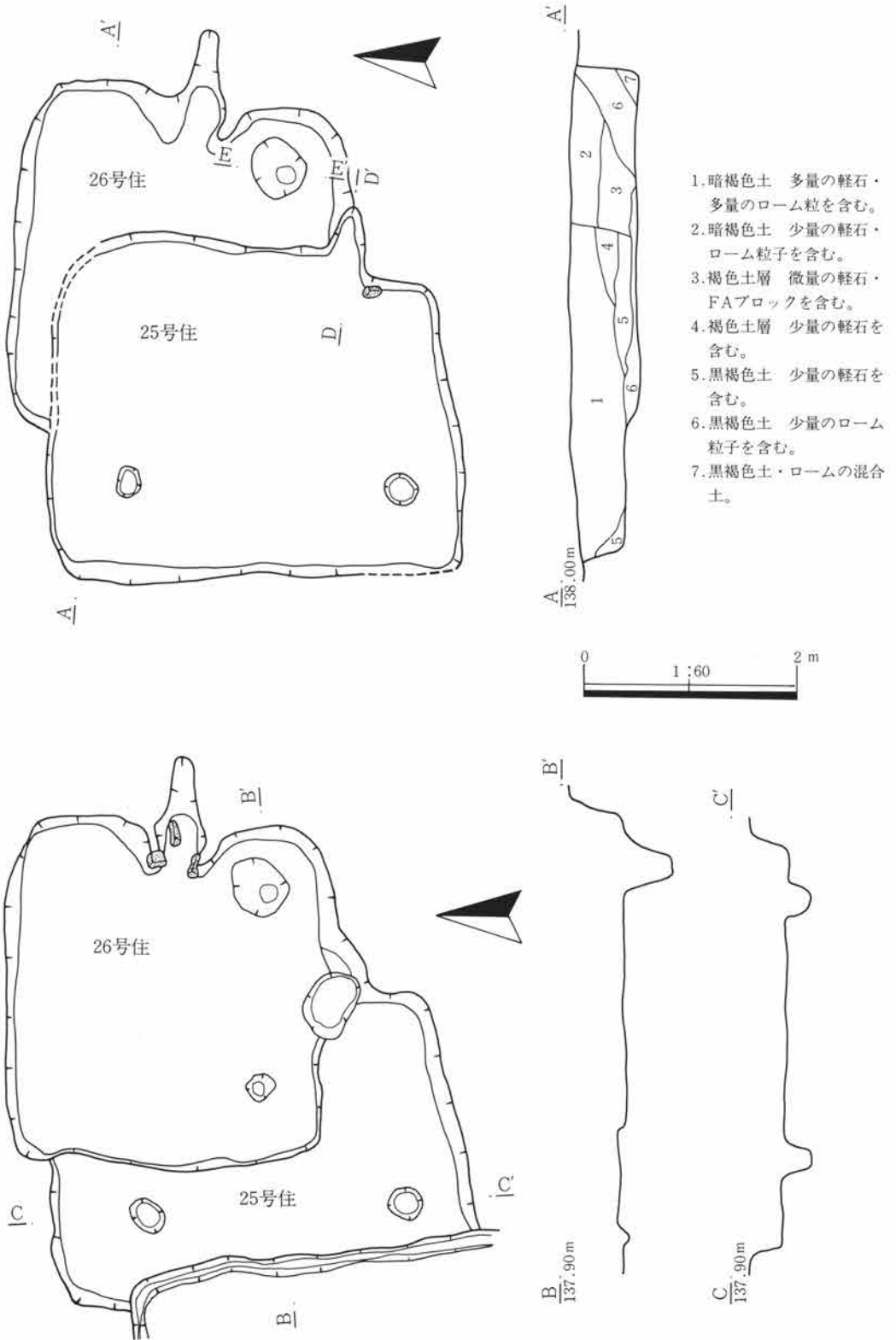
当住居跡からの遺物出土量は多く、住居全体から出土する。遺物の出土量・出土状態から、当住居跡が土器廃棄の場所になっていたと推定している。遺物は土師器の杯・甕・台付甕、須恵器の杯・椀・蓋・甕・横瓶など多くの物が出土している。（井川）

### 26号住居跡（第78・79図、図版25・26）

25号住居跡と重複し、21号住居跡・24号住居跡・27号住居跡が近接する。25号住居跡との新旧関係は前述の通りである。

規模は東西約3.2m・南北約3.0mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-91°-Eである。壁の立ち上りは約50~60cmを測るが、西側から南側の壁は25号住居跡により上面を破壊されており、残存は約10cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。柱穴・壁周溝は確認できなかった。南西部からピットが1基検出できた。規模は直径約25cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は円形を呈する。

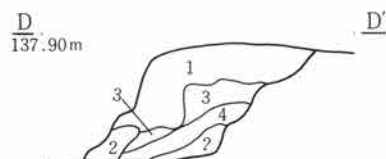
カマドは東側壁の中央に構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約60cm



第78図 25号住居跡・26号住居跡

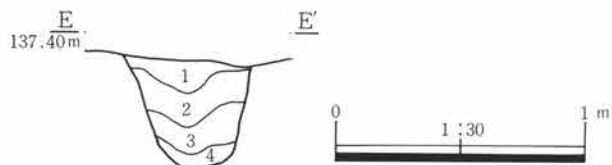
### 第三章 三ツ寺III遺跡

25号住居跡カマド



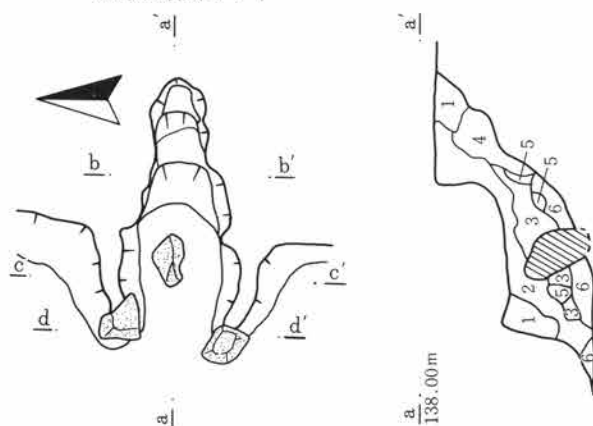
- 25号住居跡カマド
1. 暗褐色土 軽石・ローム粒・焼土を含む。
  2. 黄褐色土
  3. 焼土・ロームの混合土。
  4. 灰層 焼土を含む。

26号住居跡貯蔵穴

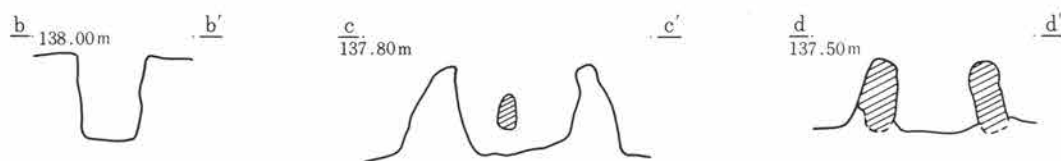


- 26号住居跡貯蔵穴
1. 暗褐色土 軽石・ローム粒・少量の焼土粒子を含む。
  2. 暗褐色土 軽石・焼土・多量のローム粒子を含む。
  3. 暗褐色土 軽石・ロームブロック・焼土を含む。
  4. 暗褐色土・ロームの混合土。

26号住居跡カマド



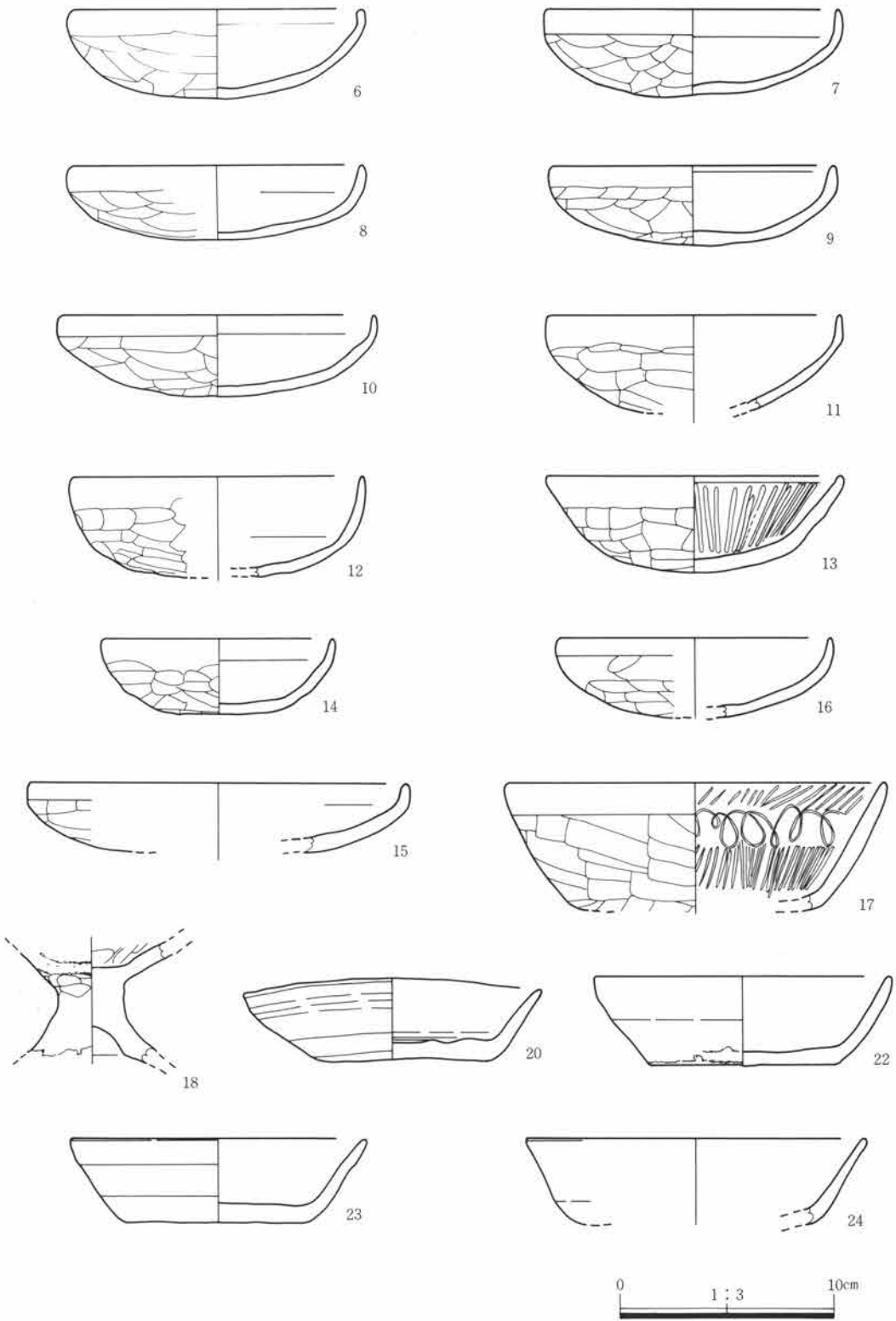
- 26号住居跡カマド
1. 暗褐色土 多量の軽石・焼土を含む。
  2. 黄褐色土 少量の軽石・焼土を含む。
  3. 黄褐色土
  4. 黄褐色土 多量の焼土を含む。
  5. 焼土
  6. 灰・焼土の混合土。



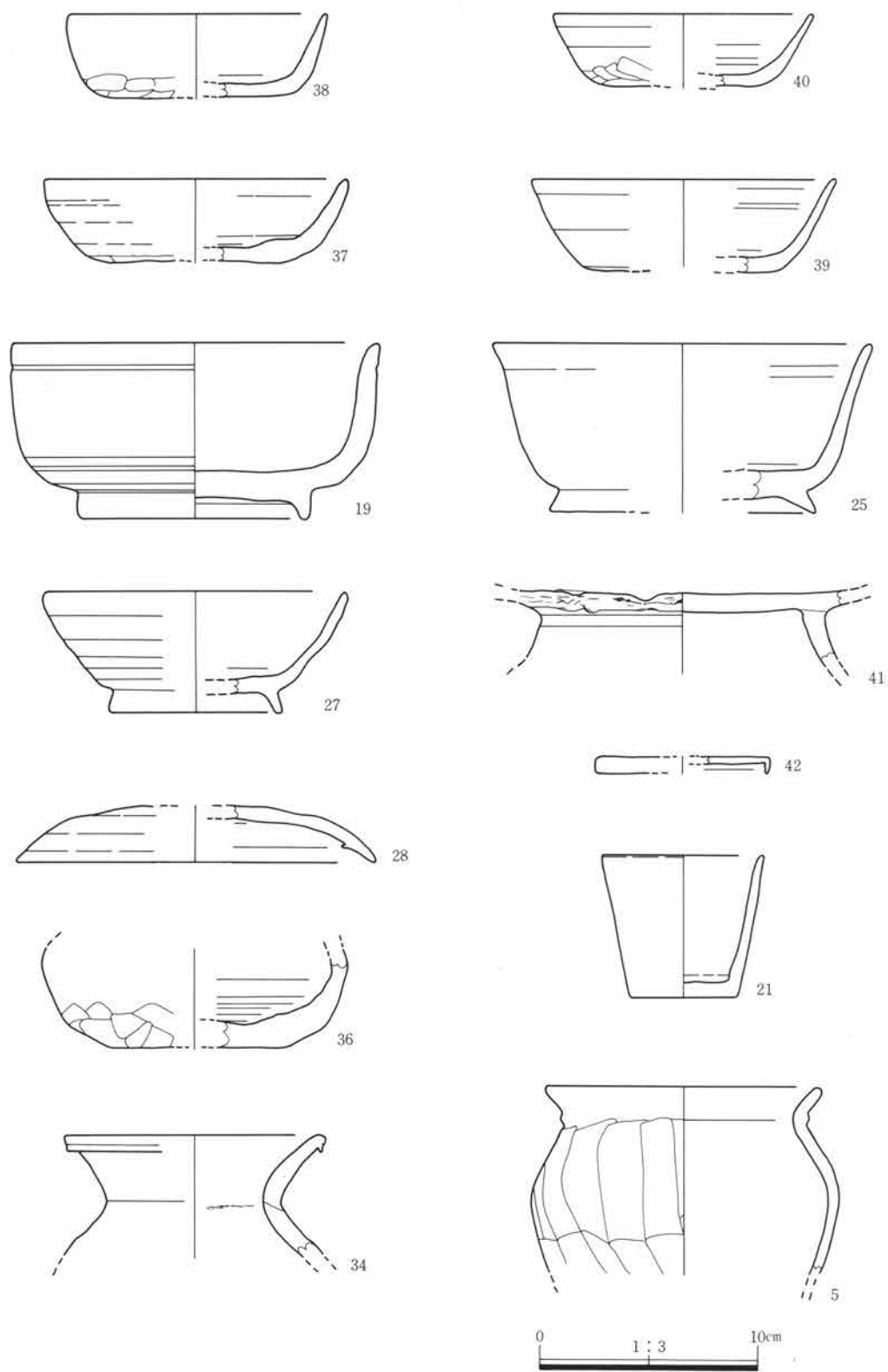
第79図 25号住居跡カマド、26号住居跡カマド・貯蔵穴

である。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、両袖共に先端は、石を地山に埋め込み固めている。袖先端から約25cmの燃焼部中央からは、支脚に使用されたと考えられる石が、地山に埋め込まれている状態で検出できた。

貯蔵穴はカマド右側、南東隅付近に構築されている。規模は直径約50cmであり、平面形は円形を呈する。床面からの深さは約50cmである。遺物は土師器の杯・甕が出土している。(井川)

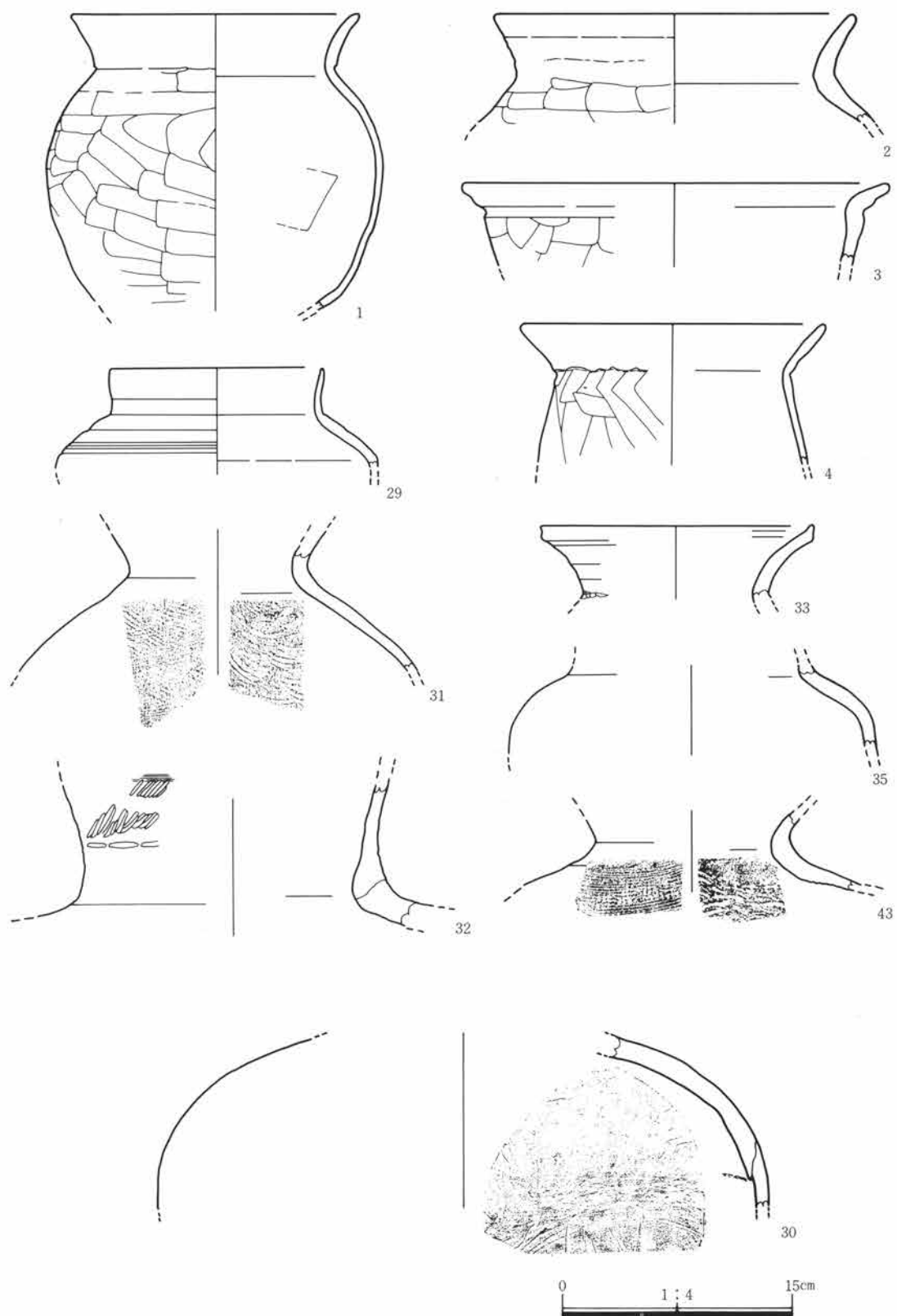


第80図 25号住居跡出土遺物①

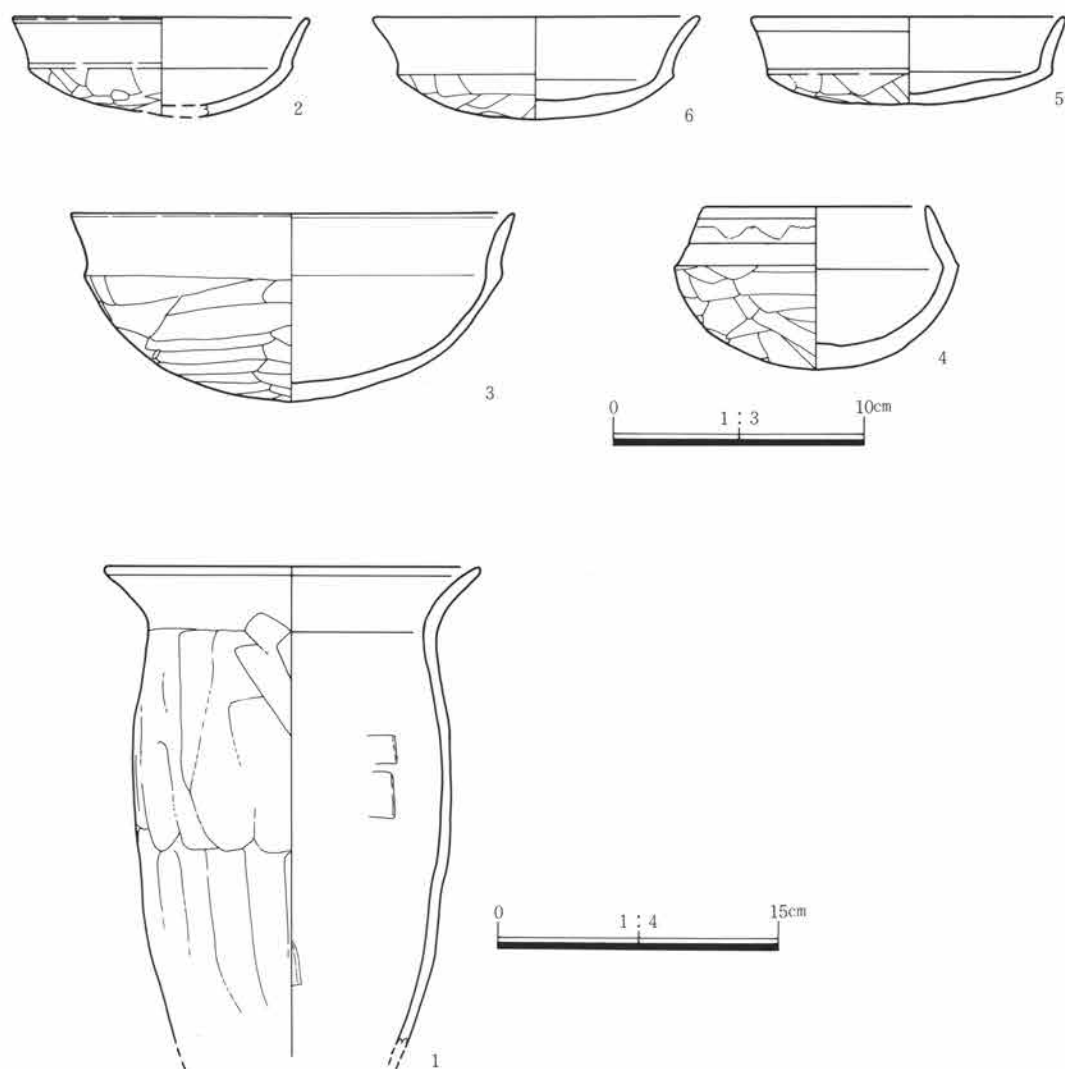


第81図 25号住居跡出土遺物②





第82図 25号住居跡出土遺物③



第83図 26号住居跡出土遺物

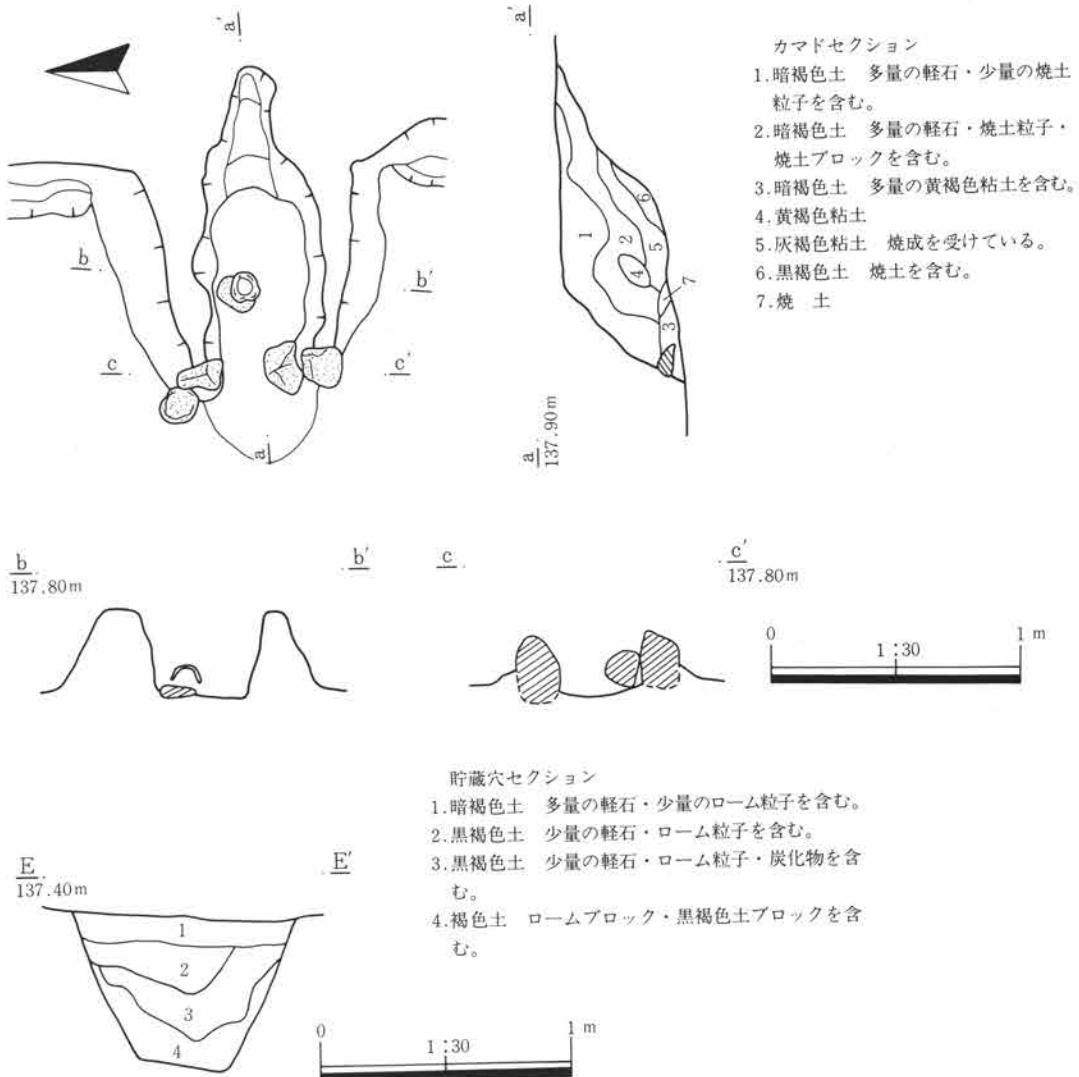
27号住居跡（第84・85図、図版26）

24号住居跡・25号住居跡が重複し、21号住居跡・26号住居跡・28号住居跡が近接する。24号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。25号住居跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。覆土は、軽石を多量に含む暗褐色土・黒褐色土であるが、上層にはF A純層がブロック状にはいる。

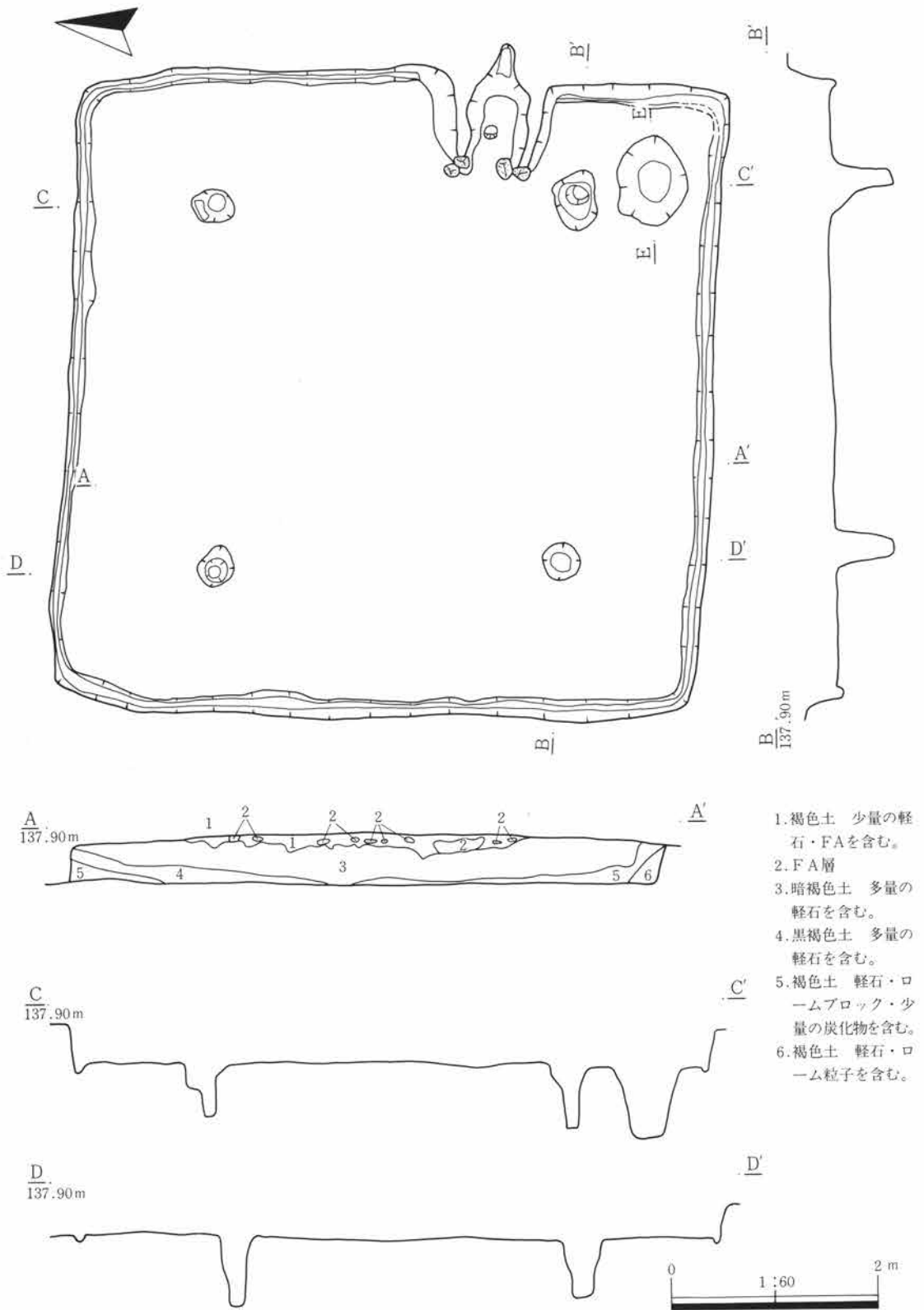
当住居跡の規模は、東西約6.2m・南北約6.3mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-87-Eである。壁の立ち上りは約30~40cmであるが、24号住居跡・25号住居跡との重複部分は壁周溝のみの確認である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本である。規模・平面形は直径約35cmの不整形な円形、長軸約40~55cm・短軸約30~40cmの不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約50~70cmを測る。壁周溝はカマド部分を除いて全体に巡る。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、両袖共に先端部は石を地山に埋め込み、固めている。袖先端から燃烧部内へ約35cm、カマド中心線よりやや北側の位置から、支脚に使用されたと考えられる石が、地山に埋め込まれた状態で確認できた。石の上には、土師器の甕の底部(27住-6)が置かれている状態であった。

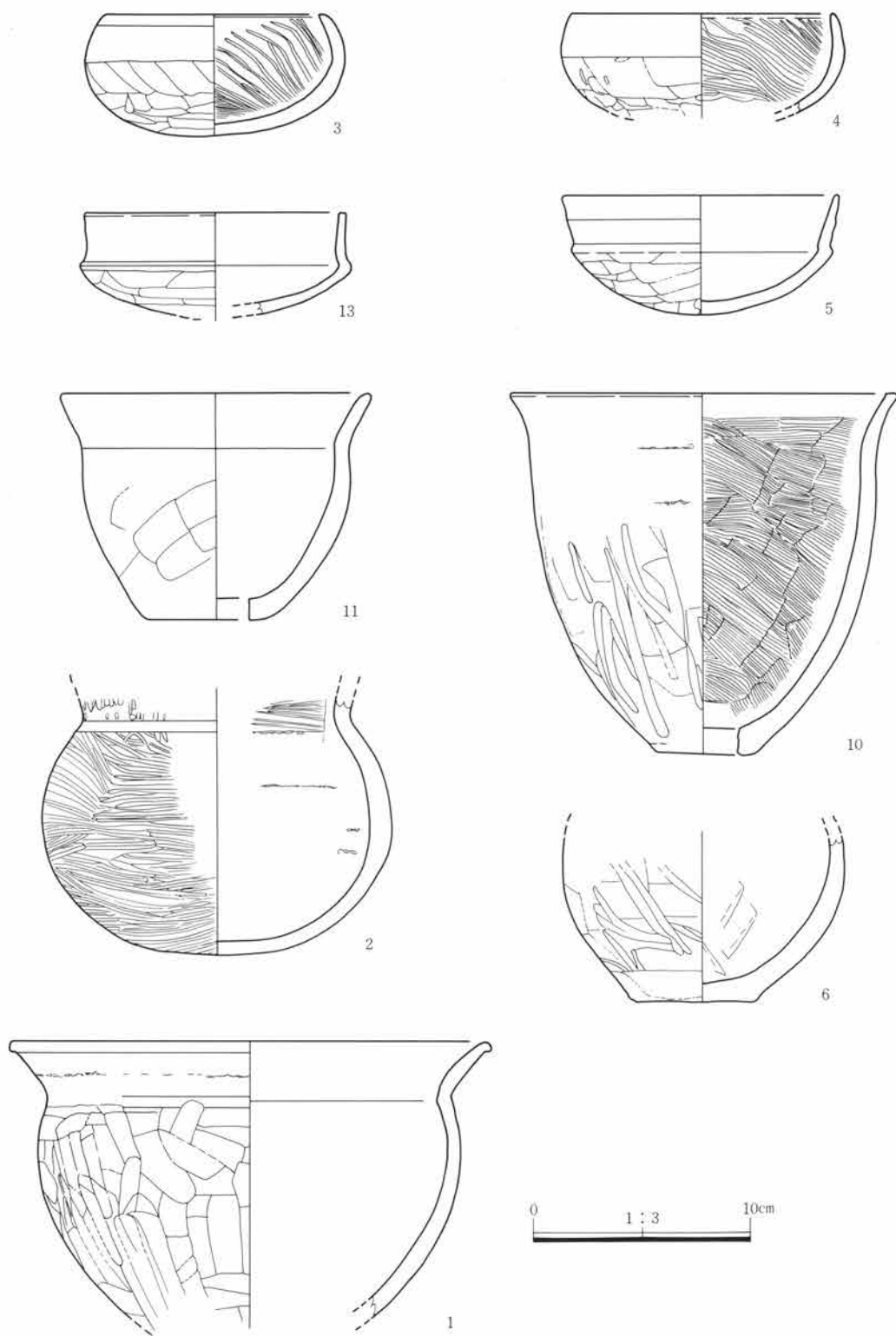
貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約80cm・短軸約60cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約70cmを測る。遺物は土師器の杯・甕・甑などが出土している。カマド内からは甕の他、杯(27住-5)の完形品が出土している。(井川)



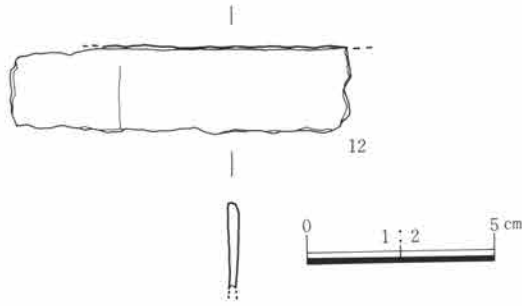
第84図 27号住居跡カマド・貯蔵穴



第85図 27号住居跡



第86図 27号住居跡出土遺物①



第87図 27号住居跡出土遺物②

28号住居跡 (第88・89図、図版27)

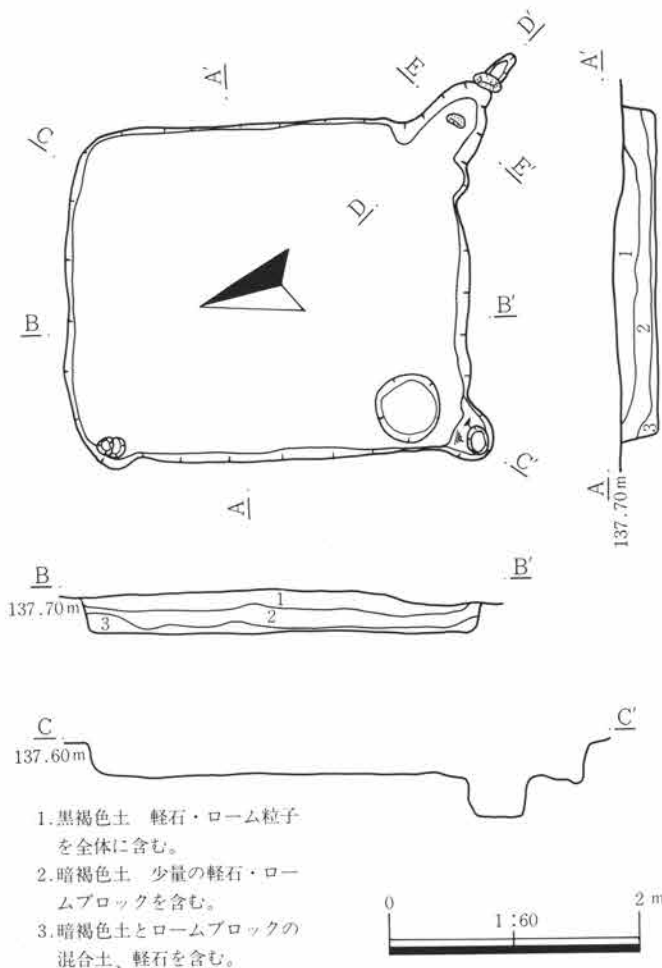
当住居跡は単独にて検出された。北側には27号住居跡が近接し、西側には2号掘立柱跡が近接し、南側には34号住居跡・35号住居跡が近接する。東側には遺構が検出されない地域が広がる。

規模は南北約3.2m・東西約2.7mで平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-150°-Eである。深さ約

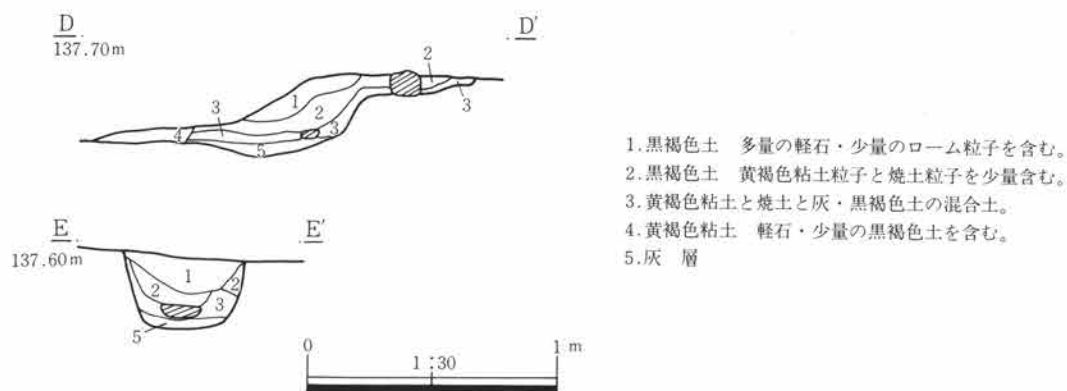
25cm、床面から壁は垂直に立ち上り、堅緻。床面は平坦で堅緻。貯蔵穴は西南隅に位置し、大きさは直径約50cmの円形を呈す。深さ約34cmの平底で、壁は直立に近くやや硬質。遺物はほとんど含まない。石が5つ上面より出土する。柱穴として使用されたか不明のピットが2基検出された。ピットは、北西隅・西南隅に位置し、規模は直径約25cm・20cmで円形を呈する。深さは25cmと6cm、底面は軟質。

カマドは東南隅の角に構築されている。カマド全体は黒褐色土に覆われ、灰層は5cm堆積する。煙道部に石を配し、燃烧部は奥行きが広い。遺物はカマド内床直より、須恵器の椀(28住-1)、土師器の椀(28住-2)など多数を出土する。

遺物は住居内東側に集中する。須恵器の椀(28住-4)・蓋(28

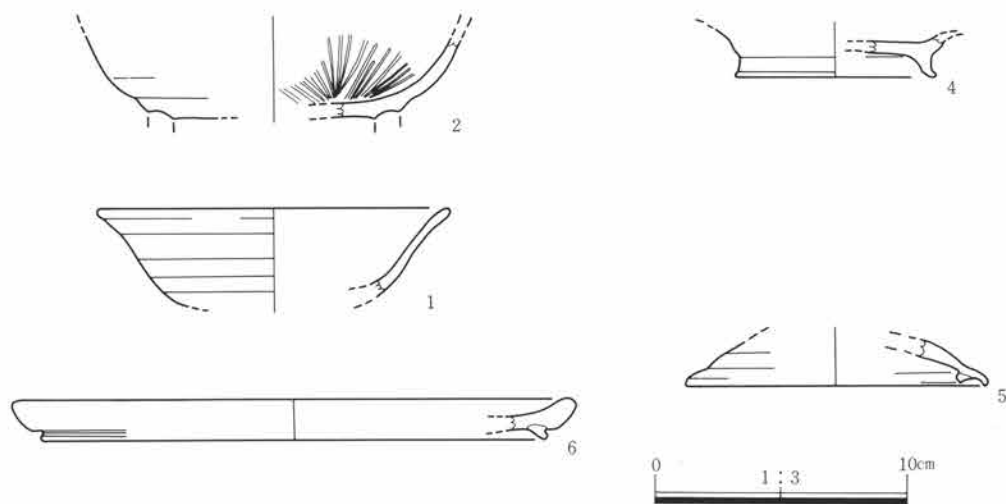


第88図 28号住居跡



1. 黒褐色土 多量の軽石・少量のローム粒子を含む。
2. 黒褐色土 黄褐色粘土粒子と焼土粒子を少量含む。
3. 黄褐色粘土と焼土と灰・黒褐色土の混合土。
4. 黄褐色粘土 軽石・少量の黒褐色土を含む。
5. 灰層

第89図 28号住居跡カマド



第90図 28号住居跡出土遺物

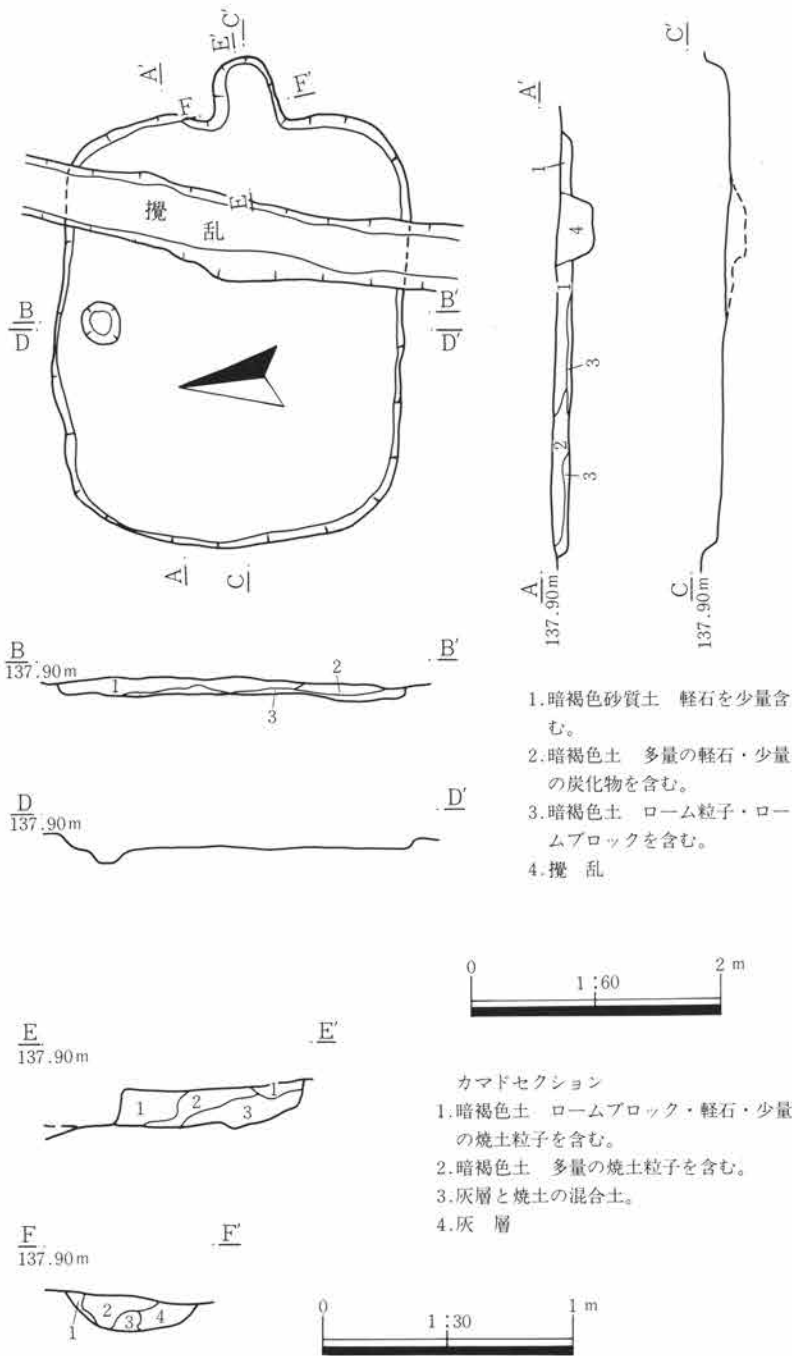
住一5)・盤(28住一6)など数点が出土した。

(宮下)

### 29号住居跡 (第91図、図版27)

当住居跡は33号住居跡と重複関係にある。北側には22号住居跡・23号住居跡が近接し、西側には遺構が検出されない地域が広がる。南側は36号住居跡が近接し、東側は調査区域外へ延びる。

規模は南北約2.7m・東西約3.4m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-99°-Eである。壁の立ち上りは緩く傾き、床面はほぼ平坦で堅緻。貯蔵穴は検出されていない。柱穴は住居中央の北寄りに1本検出され、30×32cm・深さ13cmの円形を呈する。底面は軟質で平底。たった1本しか検出されない為、使用されたか不明である。



第91図 29号住居跡

カマドは東辺南寄りに構築されている。暗褐色土がところどころに覆う。焼土・灰層は約10cm位堆積する。燃焼部は幅が広く、なだらかに煙道部へ続く。遺物はカマド内壁際に接して出土する。ほとんど破片で数点。

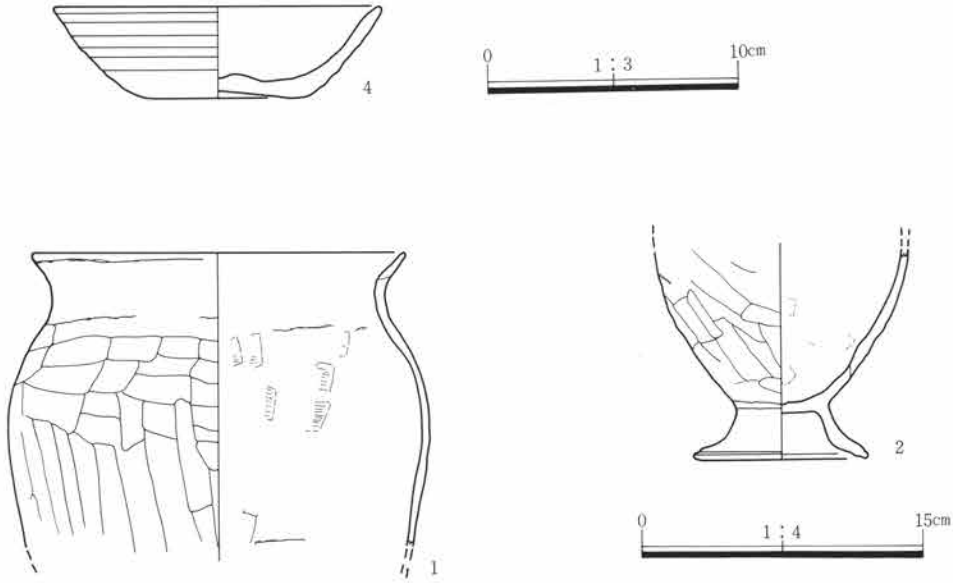
住居内の遺物の出土状態は全体にまばらに出土する。土師器の台付甕(29住-2)、須恵器の杯(29住-4)などが主なものとして出土する。

当住居跡は東側を60cm幅で南北に貫いて破壊されている。機械による表土掘削の際に、削られたものと思われる。

当住居跡は切り合い関係により、33号住居跡より時期は新しい。

(宮下)





第92図 29号住居跡出土遺物

30号住居跡 (第93・94図、図版28・29)

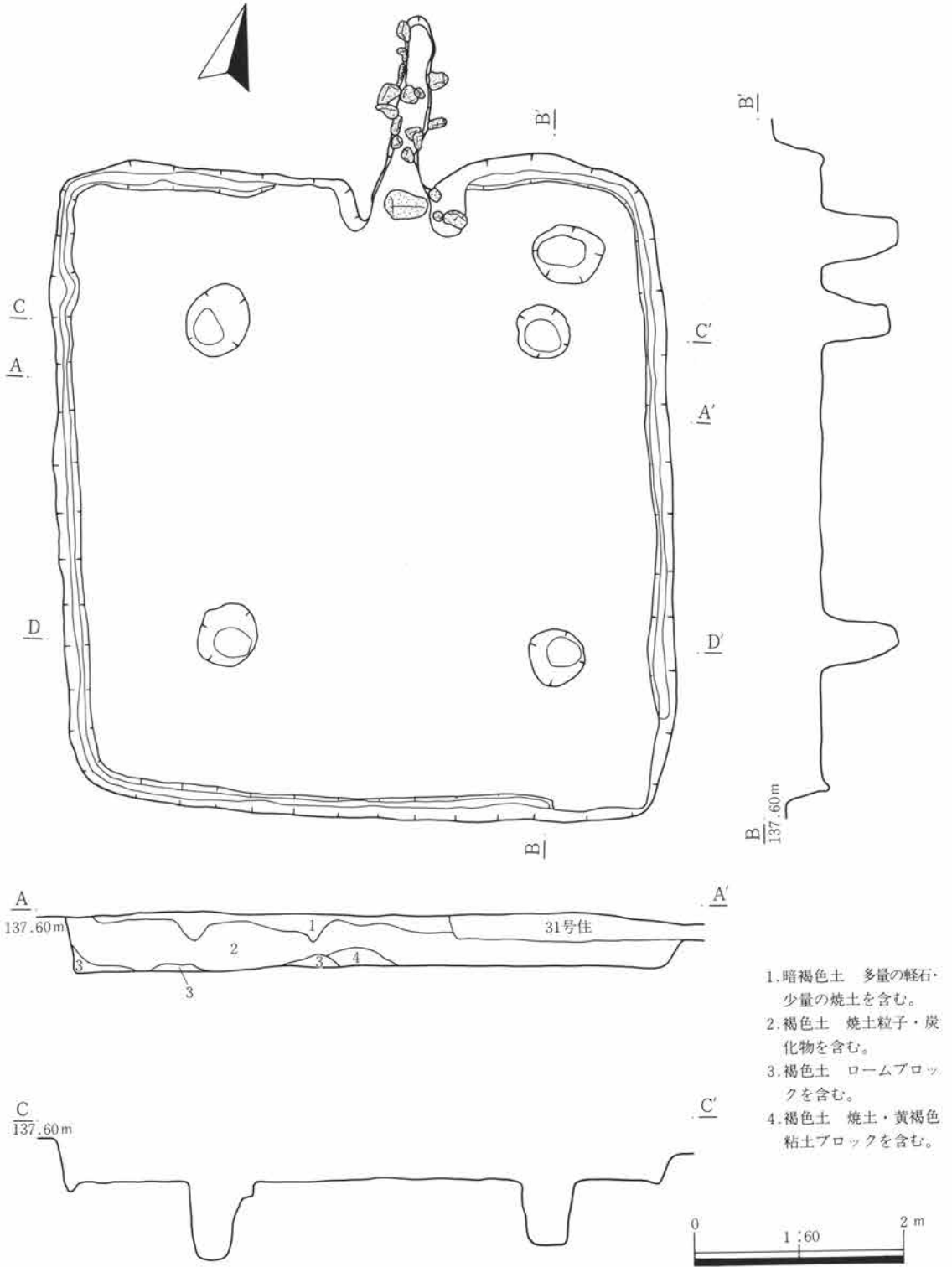
31号住居跡と重複し、32号住居跡・34号住居跡・36号住居跡が近接する。31号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。覆土は、多量の軽石を含む褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約5.8m・南北約6.1mであり、平面形は不整形な方形を呈する。主軸はN-16°-Wである。壁の立ち上りは約40~50cmであり、残存状態は良好であるが、31号住居跡との重複部分は約25cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本である。規模は直径約50~60cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約60~80cmを測る。壁周溝はほぼ全面的に巡るが、南東隅付近・カマド及びその左側からは検出できなかった。

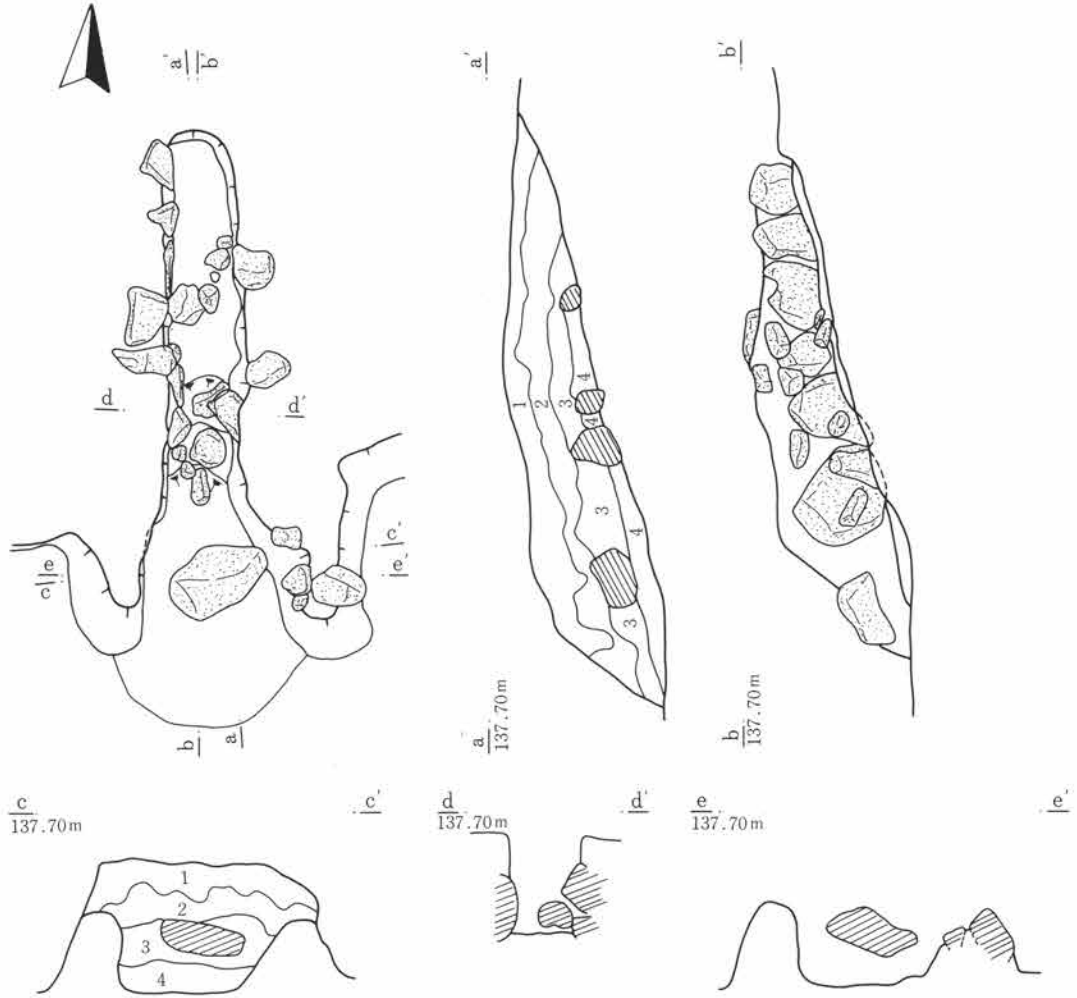
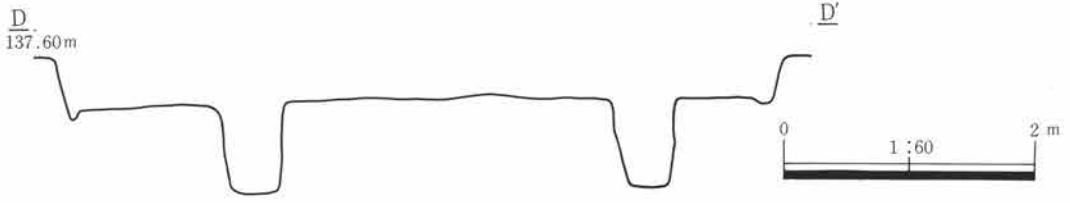
カマドは北側壁の中央、やや東寄りに構築されている。燃焼部は半分が壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約150cmを測る。袖は粘土を素材に使用しているが、右袖は石で固めている。全長約130cmの煙道部は、周囲に石を張り付け固めている。更に、煙道部内の石の検出状態から、末端を除く天井も石で蓋をしていたものと考えられる。燃焼部内からは、燃焼部天井に用いられたと考えられる石が、落ち込んでいる状態で確認できた。カマドの構造は、保渡田遺跡1号住居跡と同じである。

貯蔵穴は北東隅付近に構築されている。規模は長軸約70cm・短軸約50cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約70cmを測る。遺物は土師器の杯・壺・甕、須恵器の杯などが出土している。

(井川)

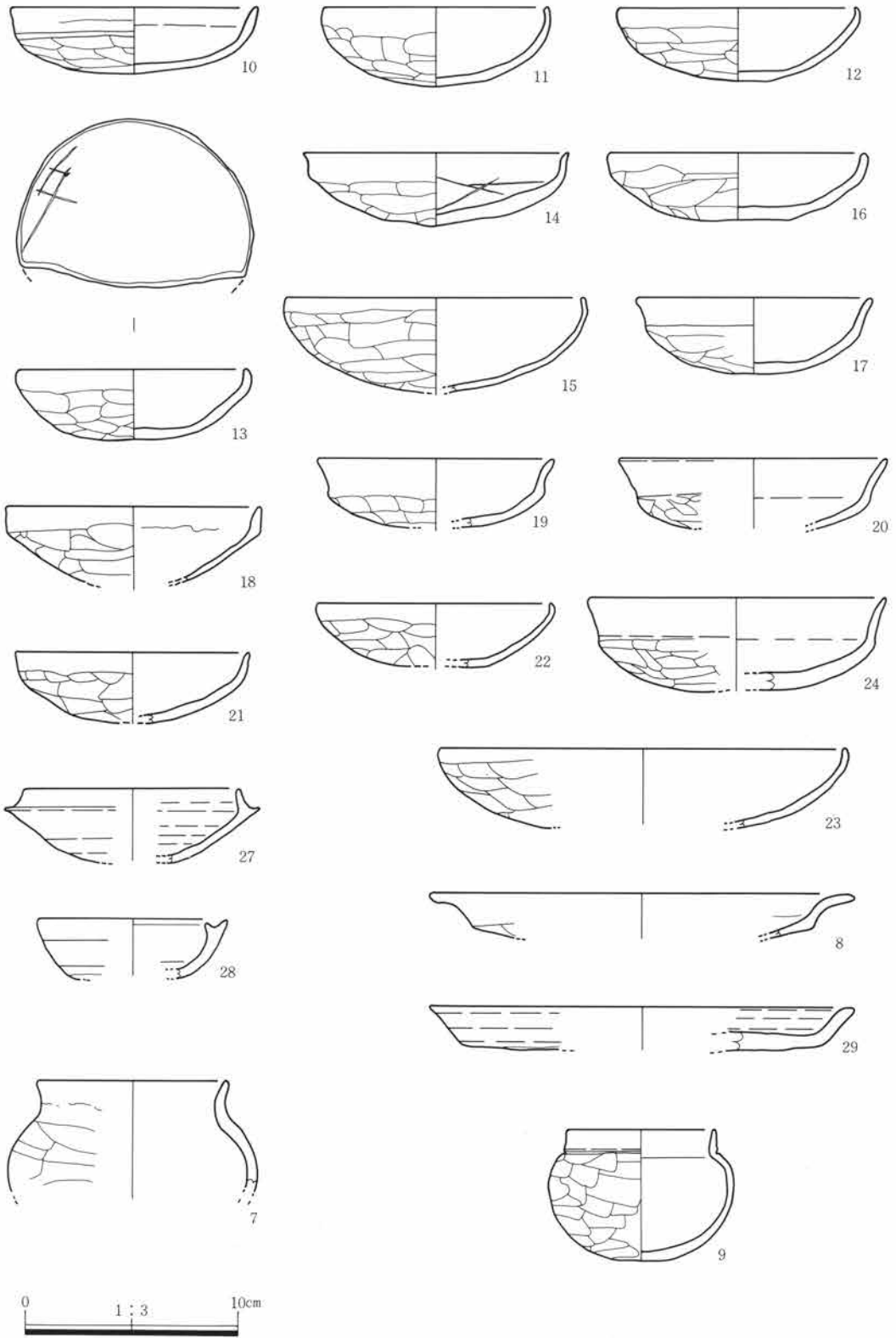


第93図 30号住居跡

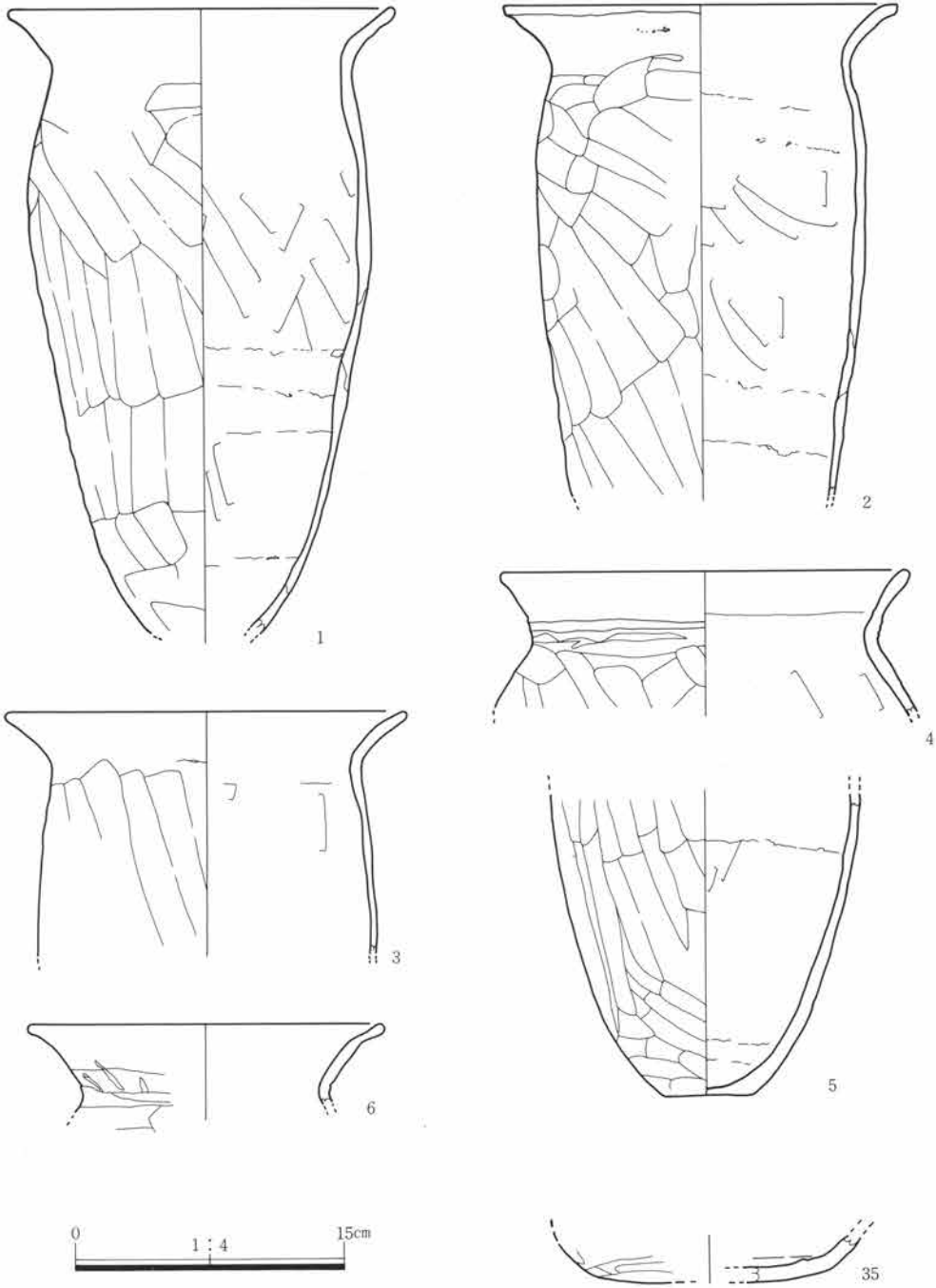


1. 暗褐色土 多量の軽石・少量の焼土粒子を含む。
2. 暗褐色土 少量の焼土粒子・ローム粒子を含む。
3. 黄褐色粘土 焼土ブロックを含む。
4. 焼土・灰・黄褐色粘土の混合土。

第94図 30号住居跡エレベーション・カマド



第95図 30号住居跡出土遺物①



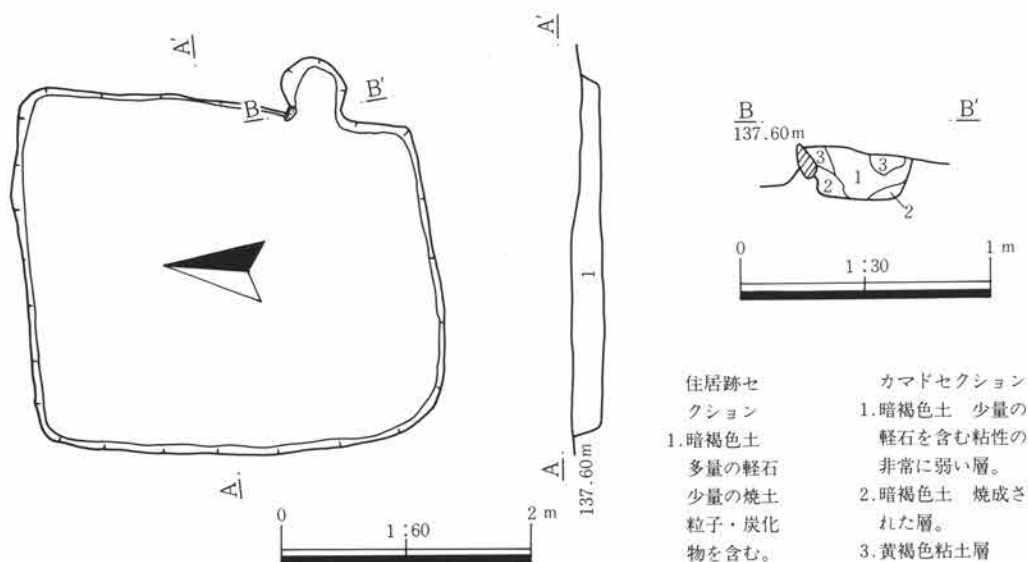
第96図 30号住居跡出土遺物②

31号住居跡 (第97図、図版28・30)

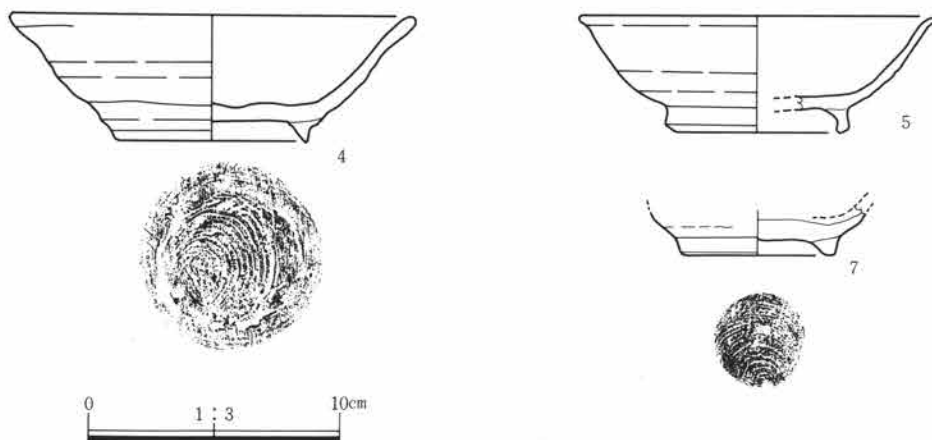
当住居跡は30号住居跡と重複関係にある。北側には36号住居跡が近接し、西側には34号住居跡が近接する。南側は少し離れて47号住居跡・48号住居跡が隣接する。東側は調査区域外へと延びる。

規模は南北約3.2m・東西約2.7mで、平面形は隅丸台形を呈する。主軸はN-81°-Eである。壁の立ち上りはやや傾き、深さ約20cmを測る。覆土は1層で埋まり、下の30号住居跡の覆土の上面が床面となる。床面はやや軟質で平坦となる。貯蔵穴・柱穴は検出されず。

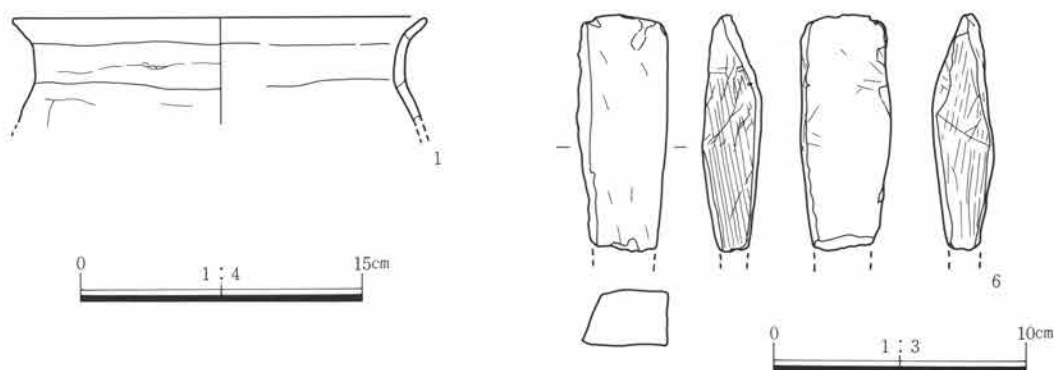
カマドは東辺南寄りに構築されている。袖石として使用されたらしい石が左袖に配されている。暗褐色土がカマドの中心に堆積し、袖側は焼成を受けている。灰層は約5cm位堆積する。遺物はカマド内からは破片が1片出土するだけである。



第97図 31号住居跡



第98図 31号住居跡出土遺物①



第99図 31号住居跡出土遺物②

遺物は住居全体に散在する。土師器の甕 (31住-1)、床直より須恵器の椀 (31住-4)、住居内北側より灰釉陶器の椀 (31住-5)、須恵器の椀 (31住-7) などが主なものとして出土する。住居中央西寄り床上3cm位より砥石を出土する。石材は石英安山岩である。使用面は4面で、条痕がある。一部欠損している。

当住居跡は切り合い関係により30号住居跡より時期は新しい。

(宮下)

### 32号住居跡 (第100図、図版30)

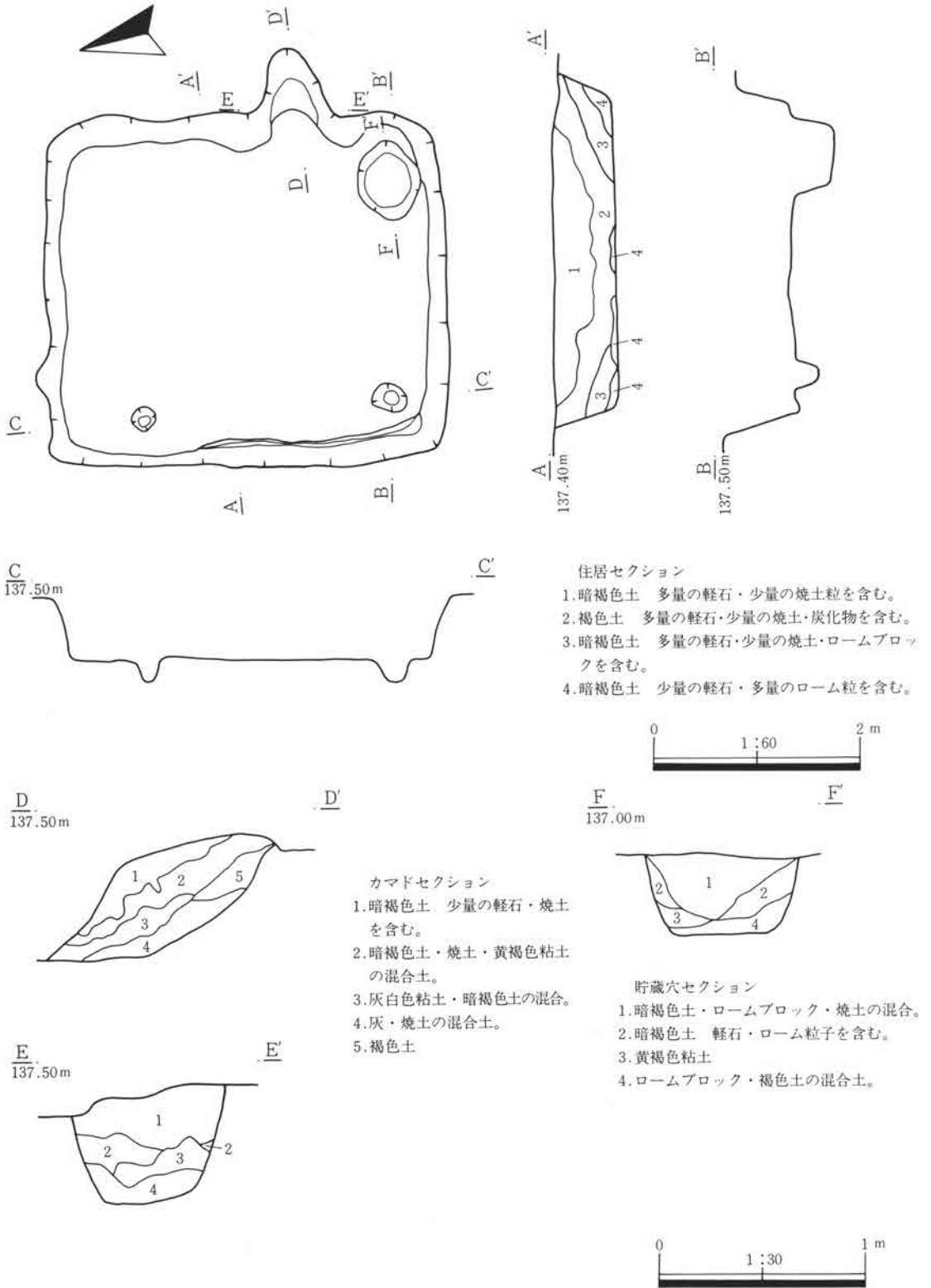
30号住居跡・34号住居跡・35号住居跡・39号住居跡・43号住居跡・48号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は、多量の軽石を含む褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約3.4m・南北約3.8mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-104°-Eである。壁の立ち上りは約50~60cmを測り、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。西壁側の北西隅付近・南西隅から2基のピットを確認した。規模は直径約25~30cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約20cmである。柱穴と考えることもできるが、位置から推測すると、上部構造等に問題は残る。壁周溝は西側壁の一部分で確認できただけである。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃焼部は半分が壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、大部分が破壊されている。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約75cm・短軸約60cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約40cmである。

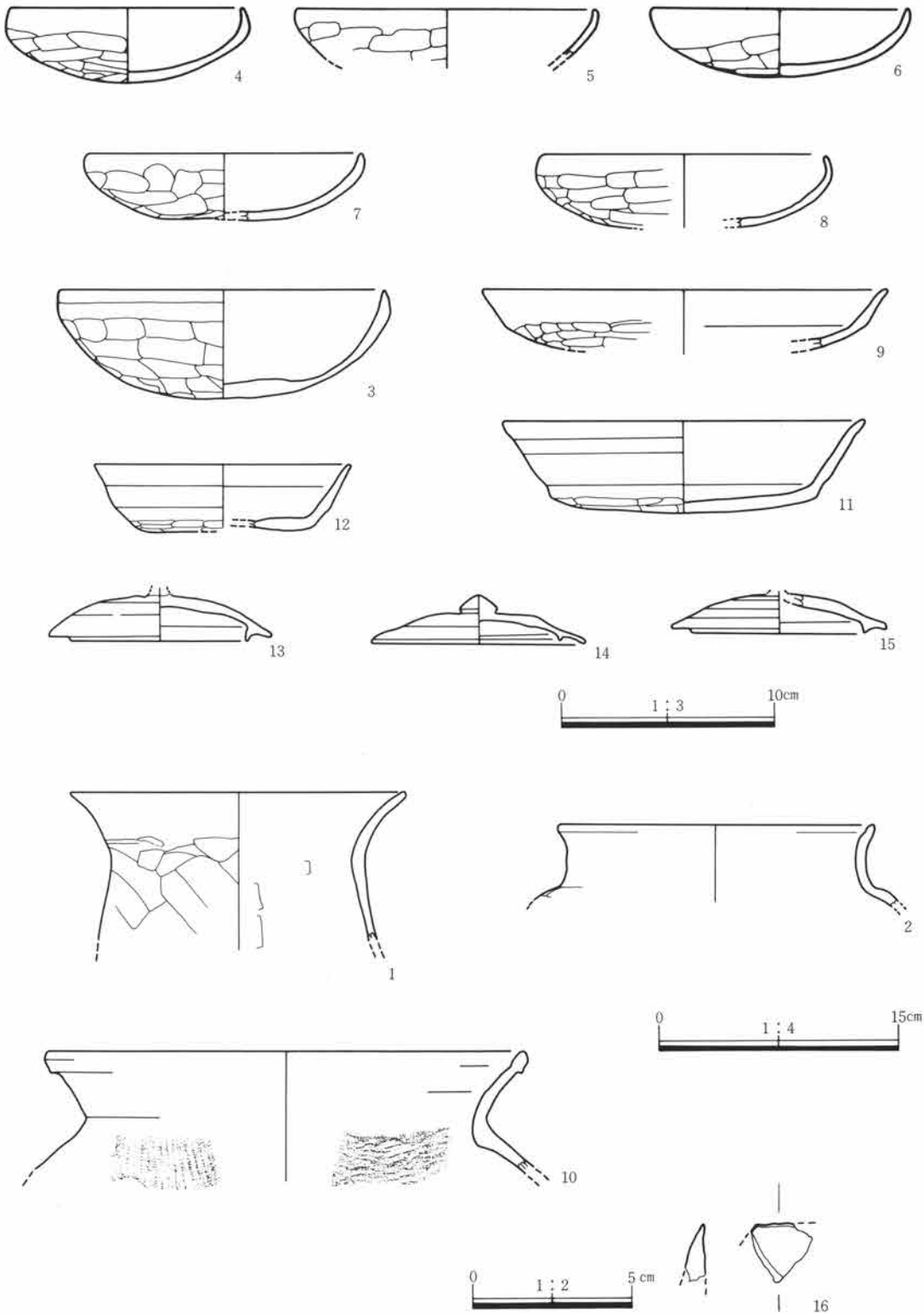
遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋・甕が出土している。

(井川)



第100図 32号住居跡





第101図 32号住居跡出土遺物

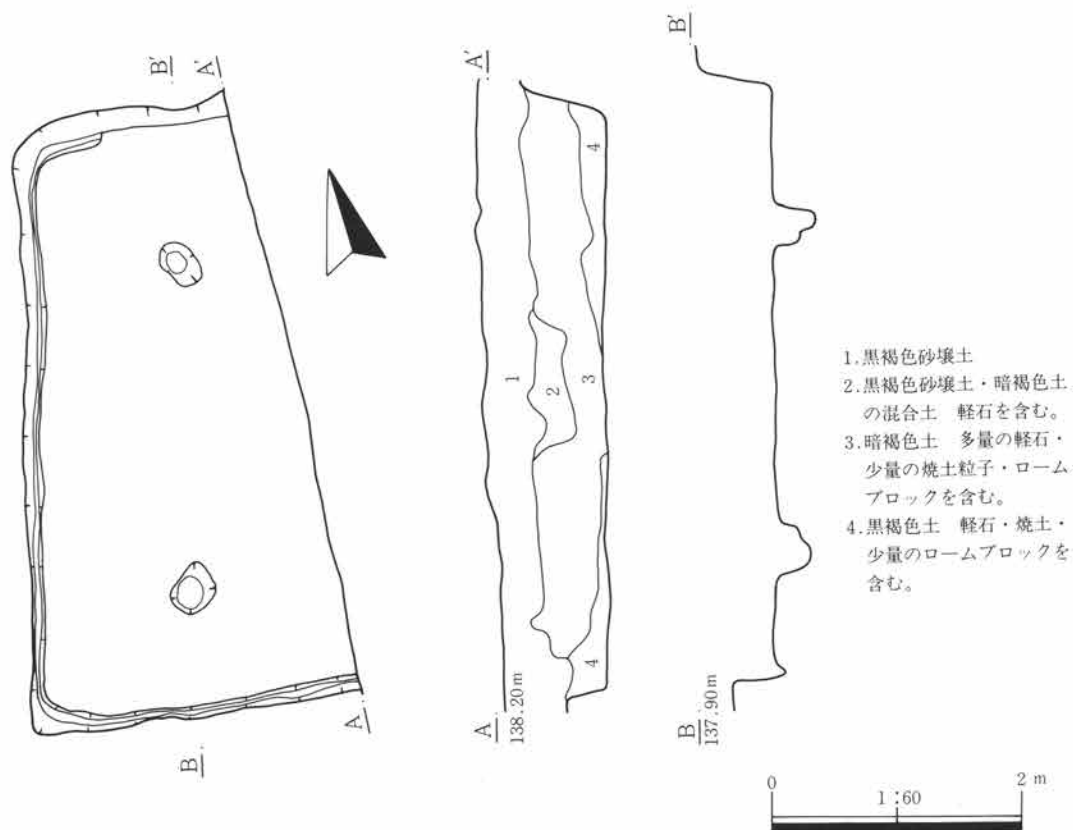
33号住居跡 (第102図、図版31)

29号住居跡と重複し、23号住居跡・36号住居跡が近接する。29号住居跡との新旧関係は、同住居跡のカマドの残存状態・覆土の相違などから、当住居跡が古い。当住居跡の覆土は、軽石を多量に含む暗褐色土である。

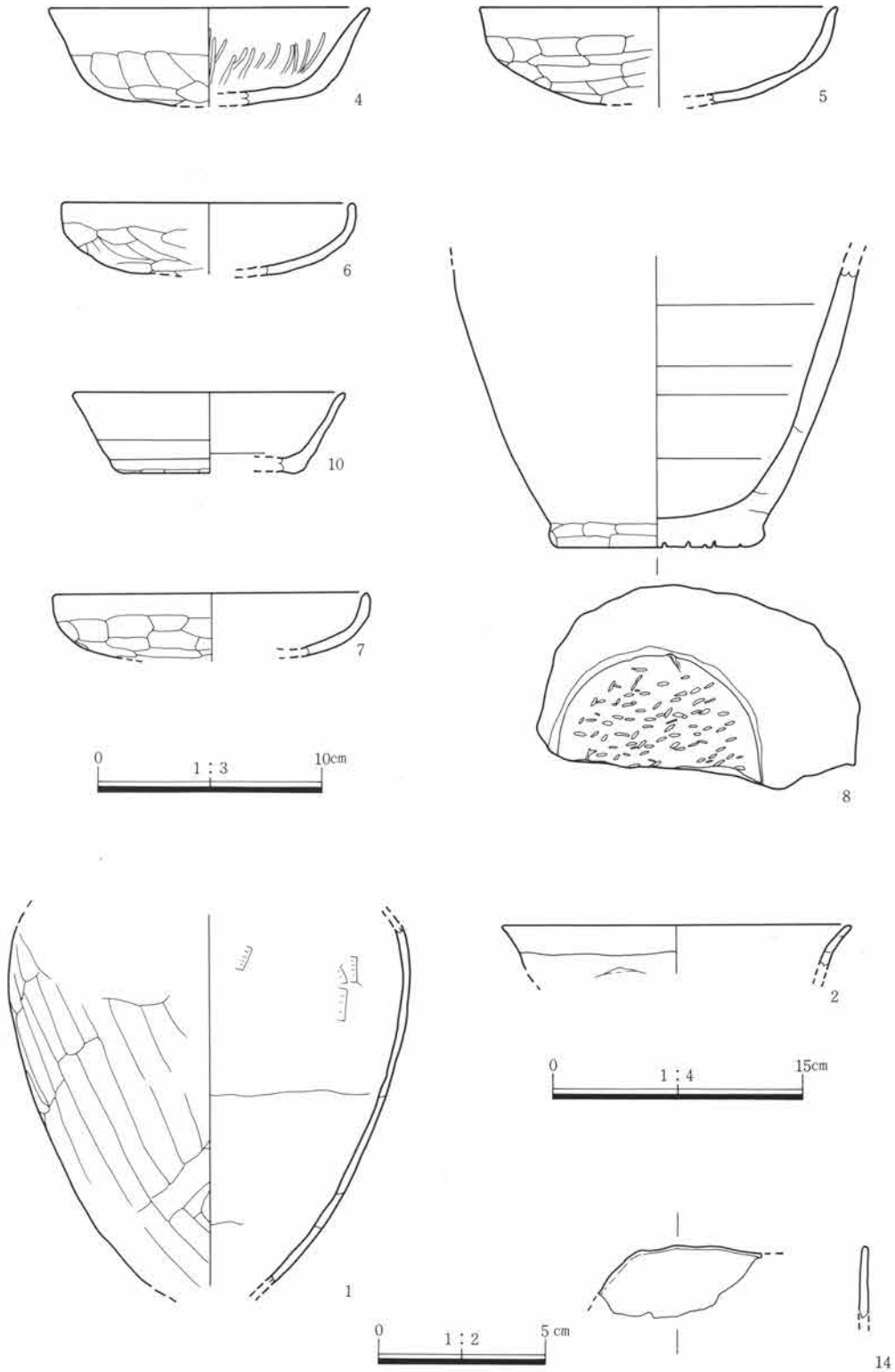
当住居跡の東側半分は、調査区域外であるため、規模は不明であるが、南北は約4.8mである。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈すると推測している。壁の立ち上りは約35～55cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

支柱穴は4本であると考えているが、調査範囲内で確認できたのは2本である。規模は長軸約35～40cm・短軸約20～30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約25～30cmである。調査範囲内での壁周溝は、北側壁の一部を除いて全面的に巡る。

カマド・貯蔵穴は不明である。遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・鉢の他、鎌の一部と考えられる鉄製品が出土している。(井川)



第102図 33号住居跡



第103図 33号住居跡出土遺物

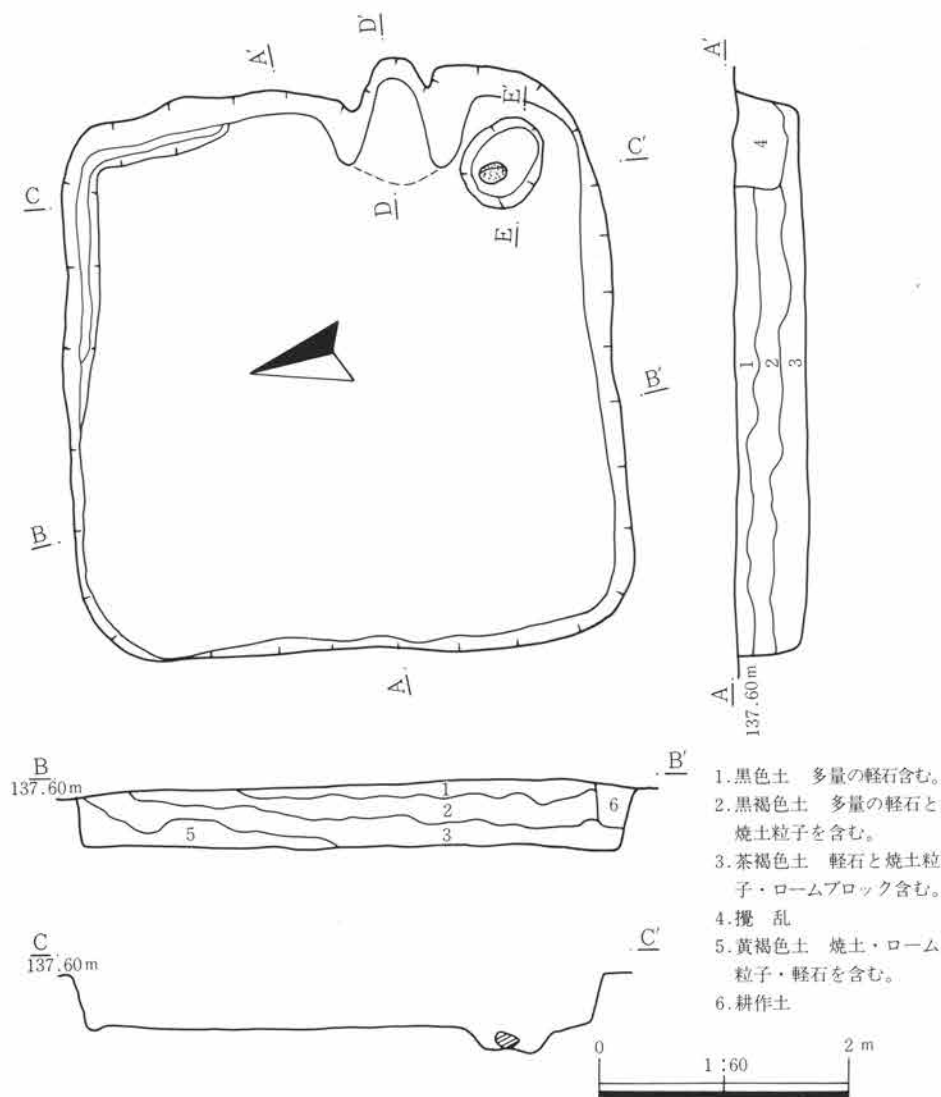
34号住居跡 (第104・105図、図版31・32)

当住居跡は35号住居跡と重複関係にある。北側に28号住居跡が近接し、西側に37号住居跡が近接する。南側には32号住居跡が近接し、東側には30号住居跡が近接する。住居跡が密集する地域で検出された。

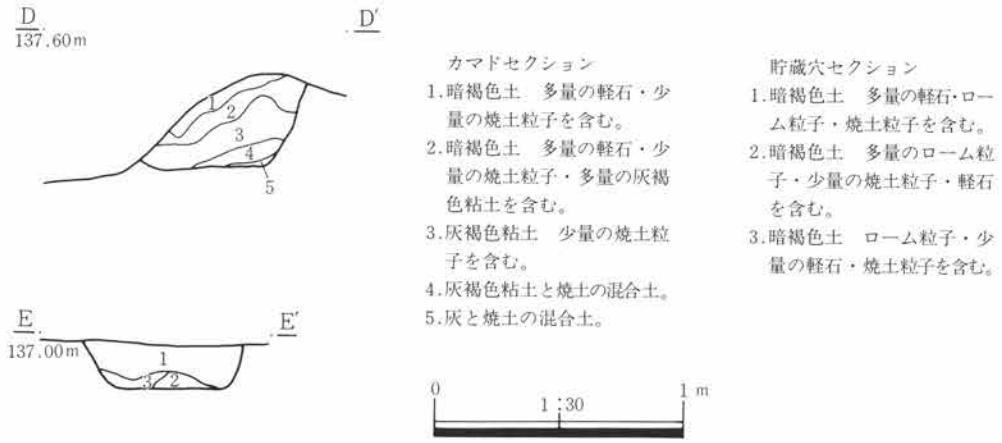
規模は南北約4.4m・東西約4.5m、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-101°-Eである。壁は垂直に立ち上り堅緻。深さ約50cmの床面は張り床で硬くしまっている。貯蔵穴は東南隅に位置する。大きさは60×75cmの楕円形を呈する。深さ約18cmで底面は凹凸がある。遺物は貯蔵穴内より須恵器の椀(34住-9)・杯(34住-12)・壺(34住-14)などを出土する。底面には石が1個、上面に1個、計2個出土する。使用されたかどうか不明。壁周溝は北辺と東辺に部分的に検出された。

カマドは東辺南寄りに構築されている。灰と焼土の層は底面に5cm位堆積する。燃焼部は奥行きが狭い。遺物は土師器の甕(34住-1)が主なもので、他は破片を少量出土する。

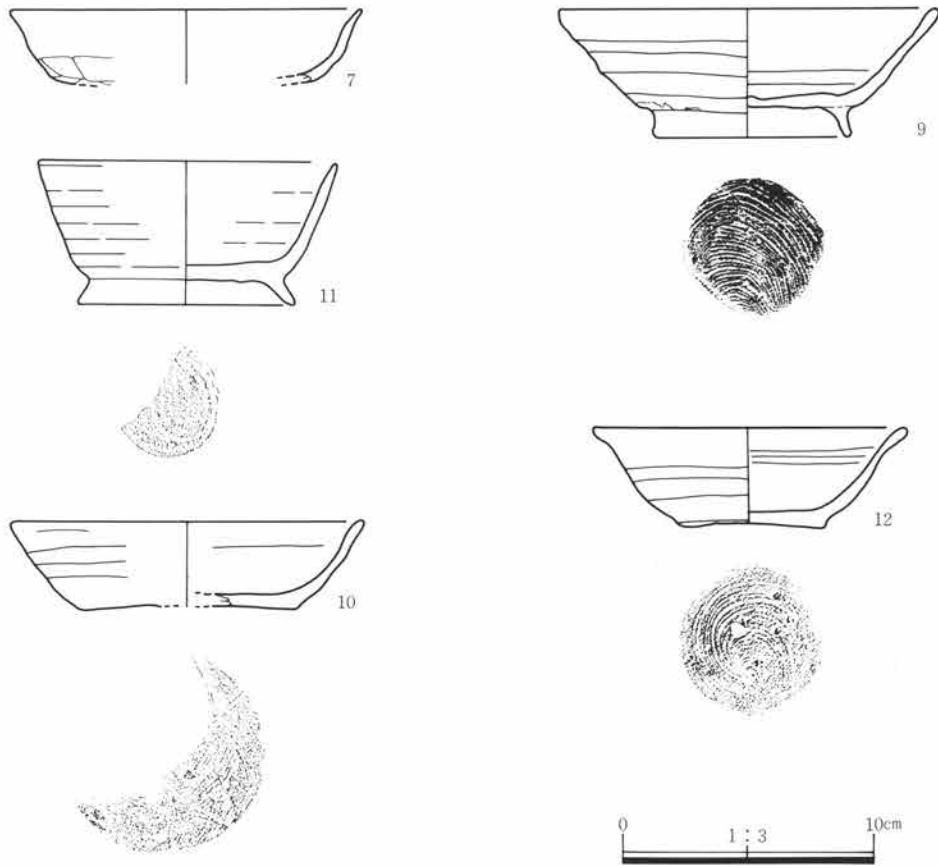
遺物は住居全体に散在し、数は少ない。土師器の杯(34住-7)、須恵器の椀(34住-11)・甕(34住-13)などが主に出土する。石もいくつか点在して出土する。他に鉄製品が数点出土する。カマド北側壁際に鉄斧(34住-16)が完形で出土する。覆土より、他に3点出土する。当住居跡は切り合い関係により35号住居跡より新しい。(宮下)



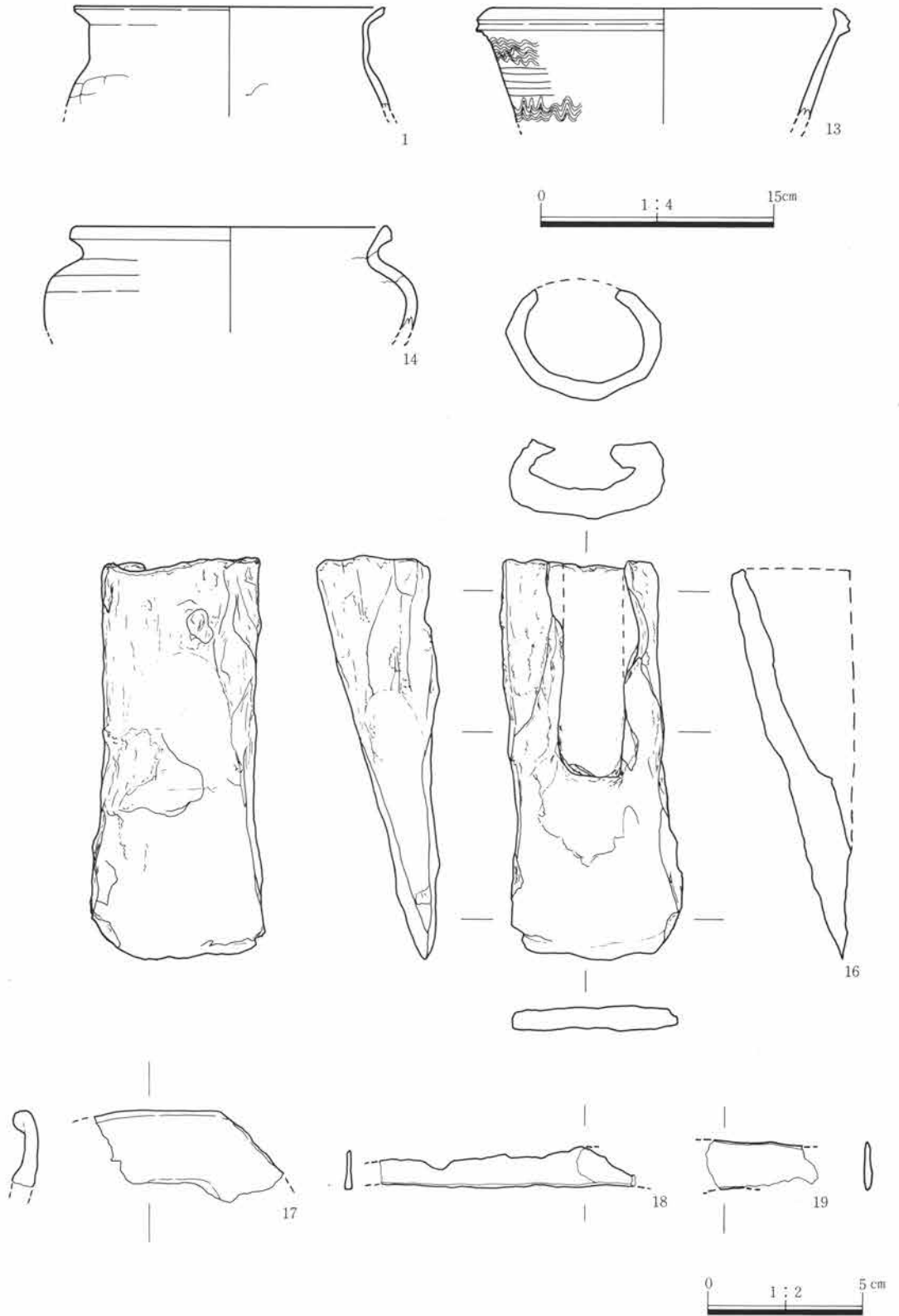
第104図 34号住居跡



第105図 34号住居跡カマド・貯蔵穴セクション



第106図 34号住居跡出土遺物①



第107図 34号住居跡出土遺物②

## 35号住居跡 (第108・109・110図、図版32・33)

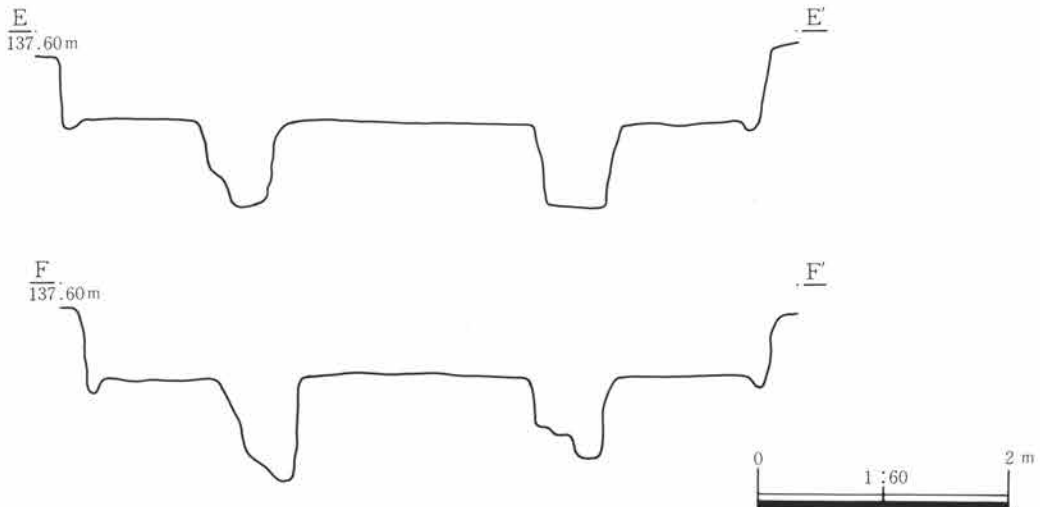
34号住居跡と重複し、28号住居跡・30号住居跡・32号住居跡・37号住居跡・38号住居跡・39号住居跡が近接する。34号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡のカマド上面を破壊して床を構築していること、覆土の相違から、当住居跡が古い。覆土は、軽石を多量に含む黒褐色土・褐色土である。

規模は東西約5.3m・南北約5.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。壁の立ち上がりは約60cmを測り、残存状態は良好であるが、東側壁は34号住居跡によって破壊され、立ち上がりは約10～15cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

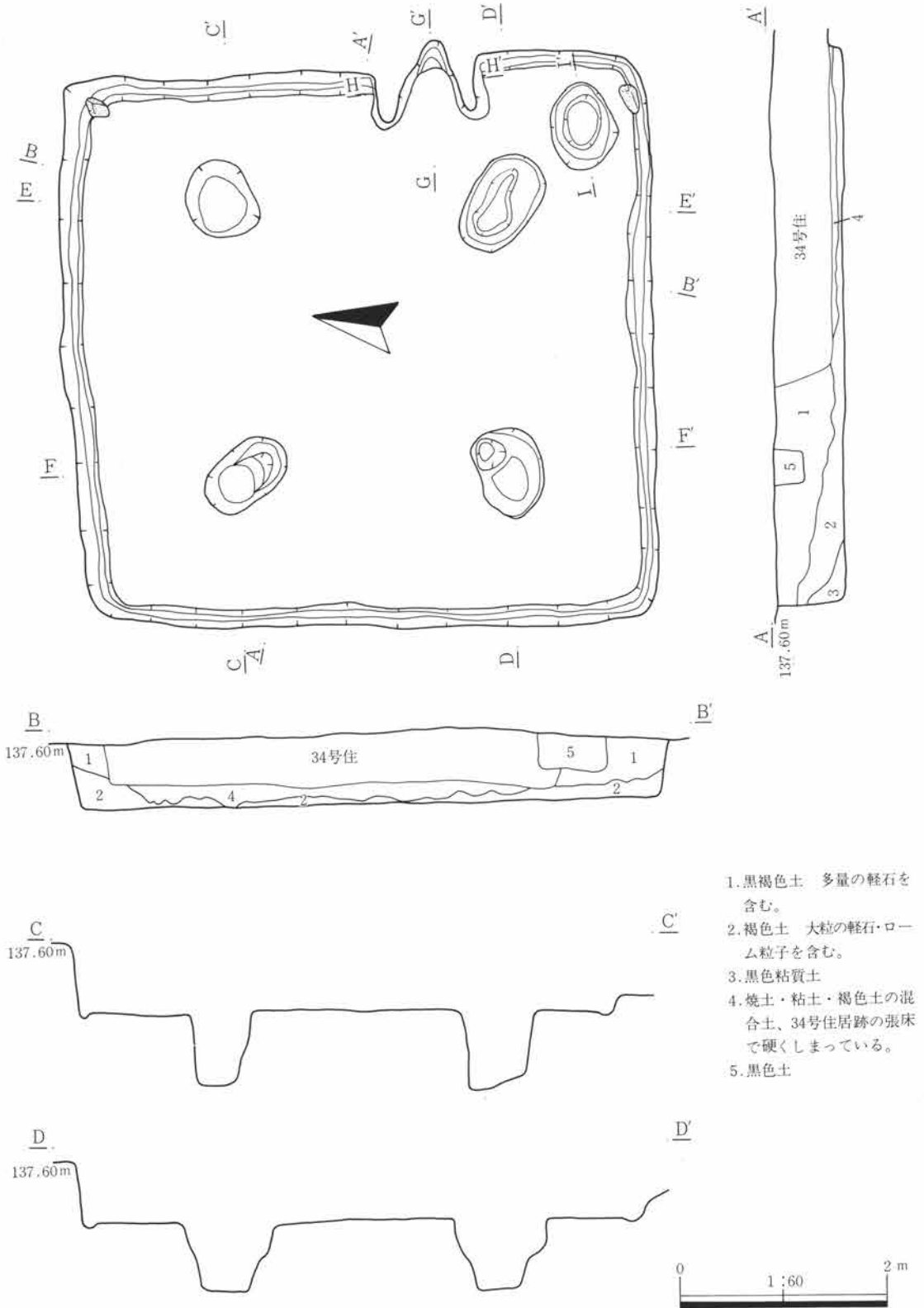
主柱穴は4本である。規模は長軸約80～100cm・短軸約50～60cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。個々の柱穴規模の大きさ、柱穴底面の形態などから、柱を建て直した可能性がある。壁周溝はカマド部分を除き、全面的に掘られている。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。上面は34号住居跡により破壊されているが、燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約20cmである。袖は僅かの確認であるが、黄褐色粘土を素材に使用している。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約80cm・短軸約65cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約75cmを測る。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の蓋・壺の他、石英安山岩製の砥石が出土している。遺物の出土は、カマド・貯蔵穴を中心とした南東部に集中の傾向がある。(井川)

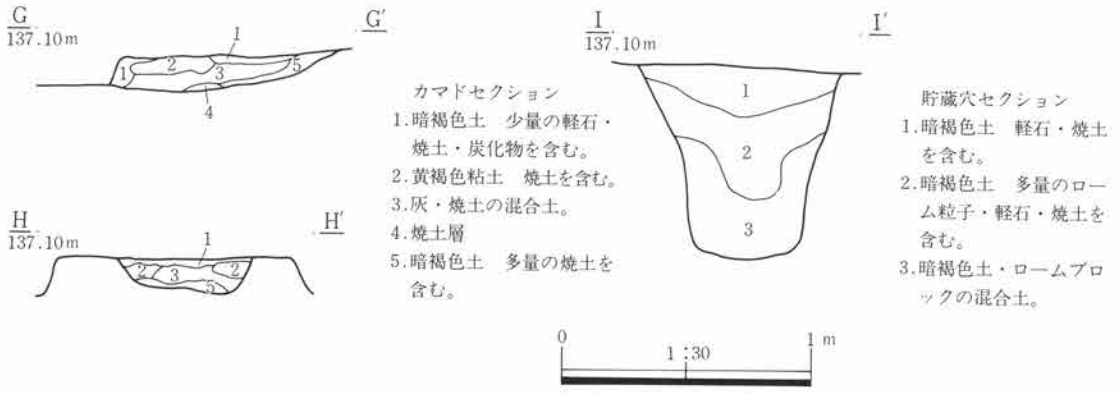


第108図 35号住居跡エレベーション

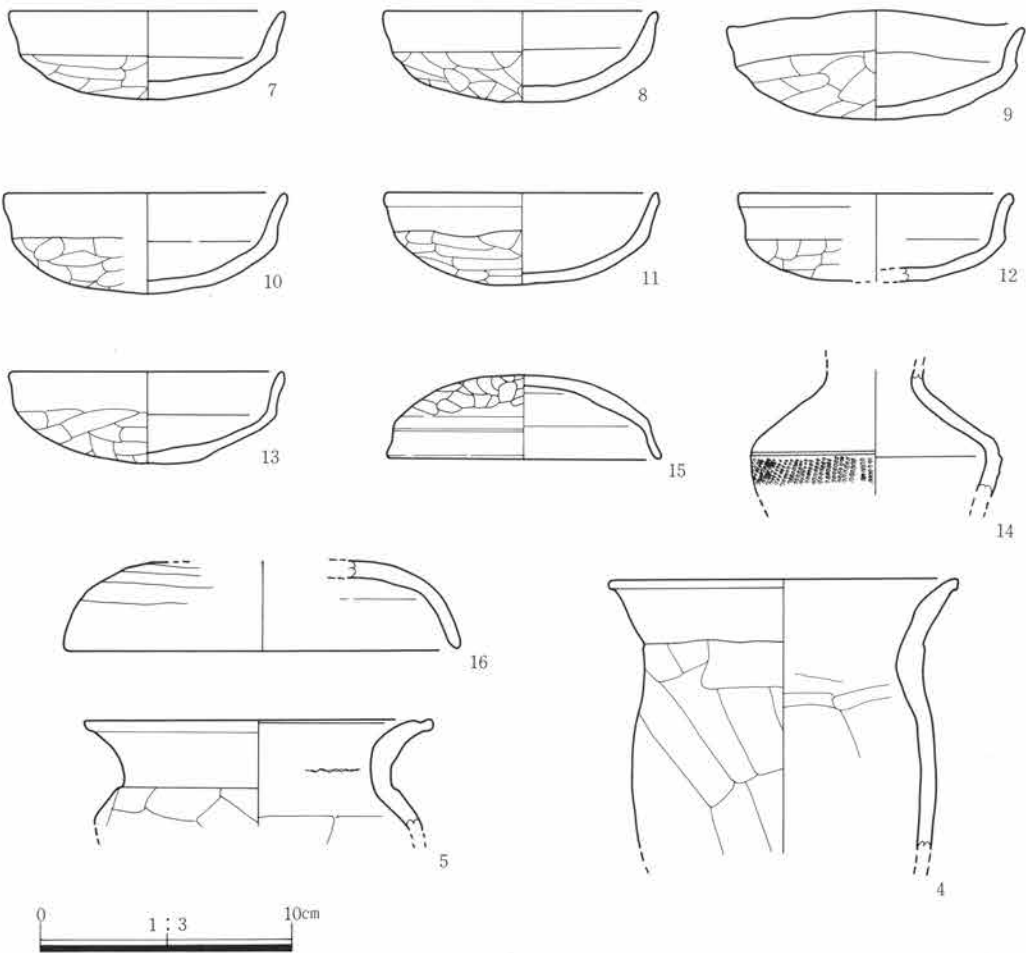


第109図 35号住居跡

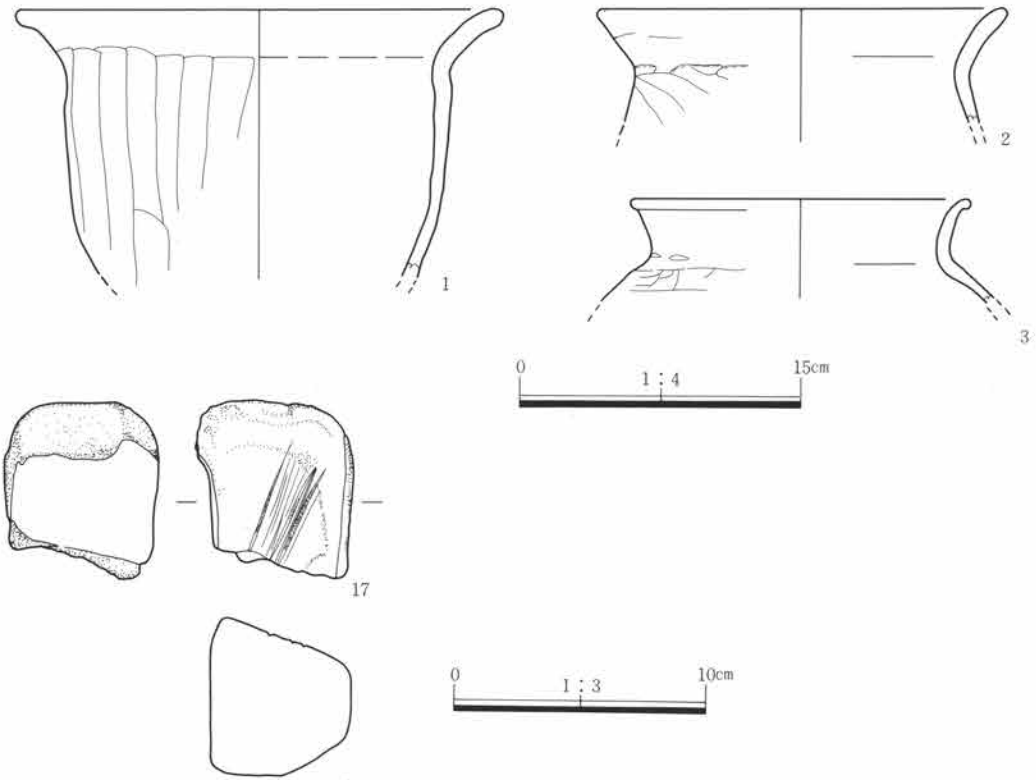




第110図 35号住居跡カマド・貯蔵穴セクション



第111図 35号住居跡出土遺物①



第112図 35号住居跡出土遺物②

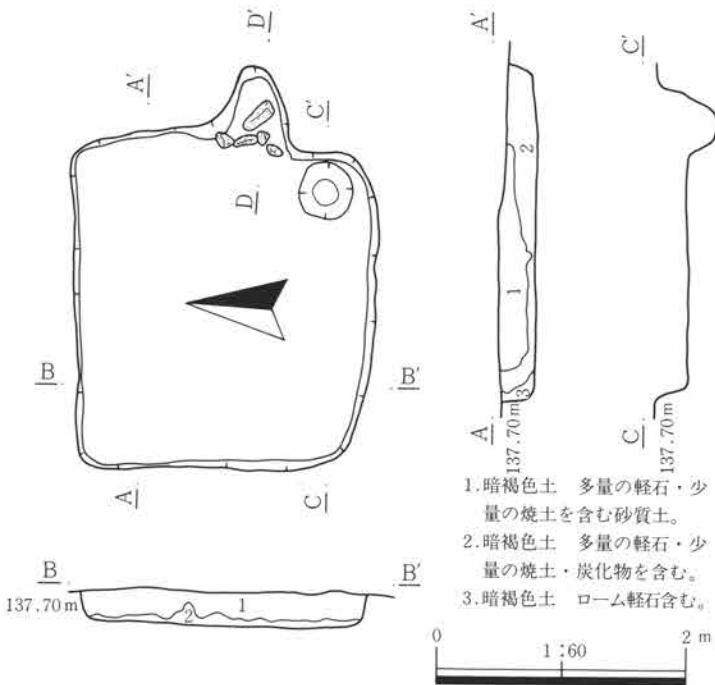
36号住居跡 (第113・114

図、図版33・34)

当住居跡は単独にて検出された。北側には29号住居跡・33号住居跡が近接し、西側は遺構が検出されない地域が広がり、南側は30号住居跡・37号住居跡が隣接する。

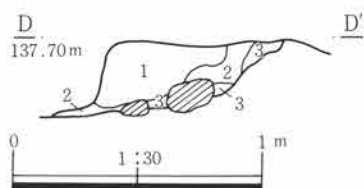
規模は南北約2.3m・東西約2.6m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-87°-Eである。壁はほぼ垂直に近く、床面平坦で堅緻。貯蔵穴は東南隅に位置し、直径約45cmの円形を呈し、深さ25cm。遺物はほとんど含まない。

カマドは東辺南寄りに構築さ



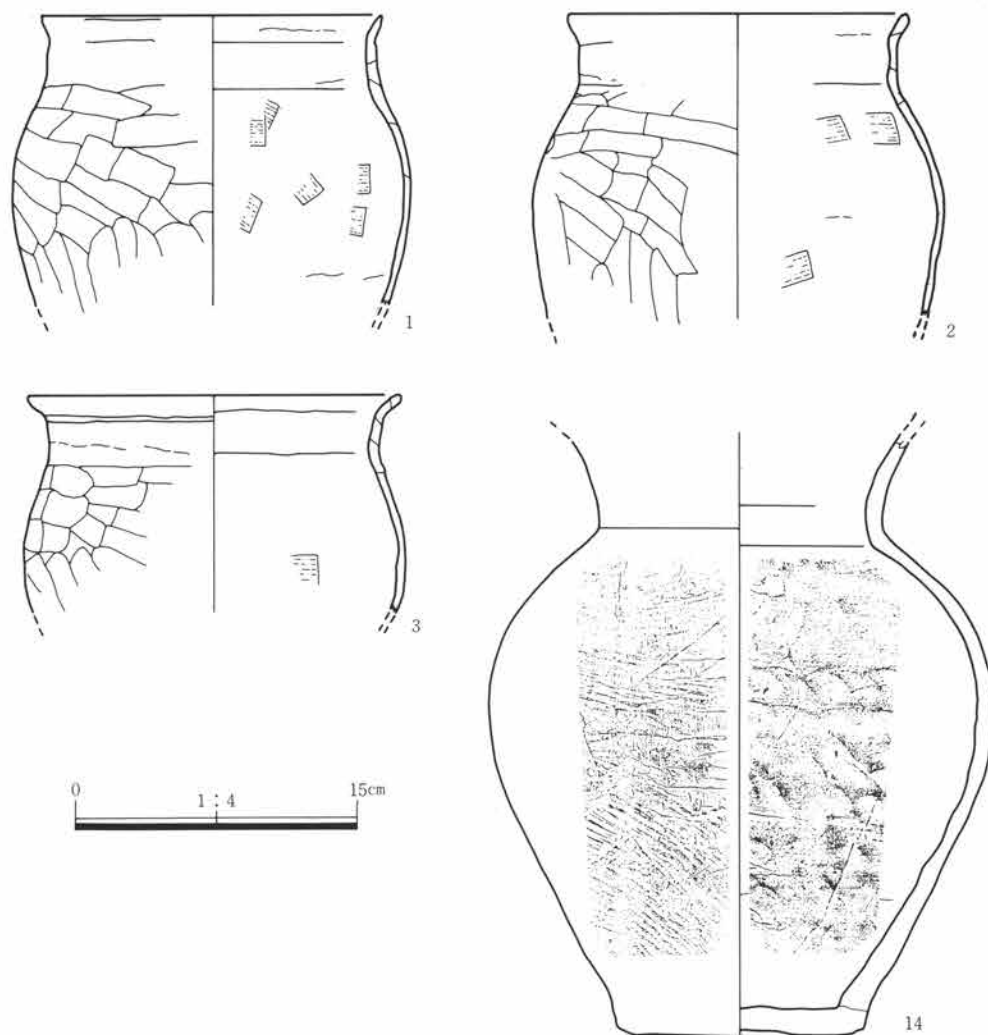
1. 暗褐色土 多量の軽石・少量の焼土を含む砂質土。
2. 暗褐色土 多量の軽石・少量の焼土・炭化物を含む。
3. 暗褐色土 ローム軽石含む。

第113図 36号住居跡



1. 暗褐色土 多量の軽石・少量のローム粒子・焼土を含む。
2. 暗褐色土 軽石・焼土粒子を含む粘性の強い層。
3. 暗褐色土 焼土を含む。

第114図 36号住居跡カマド

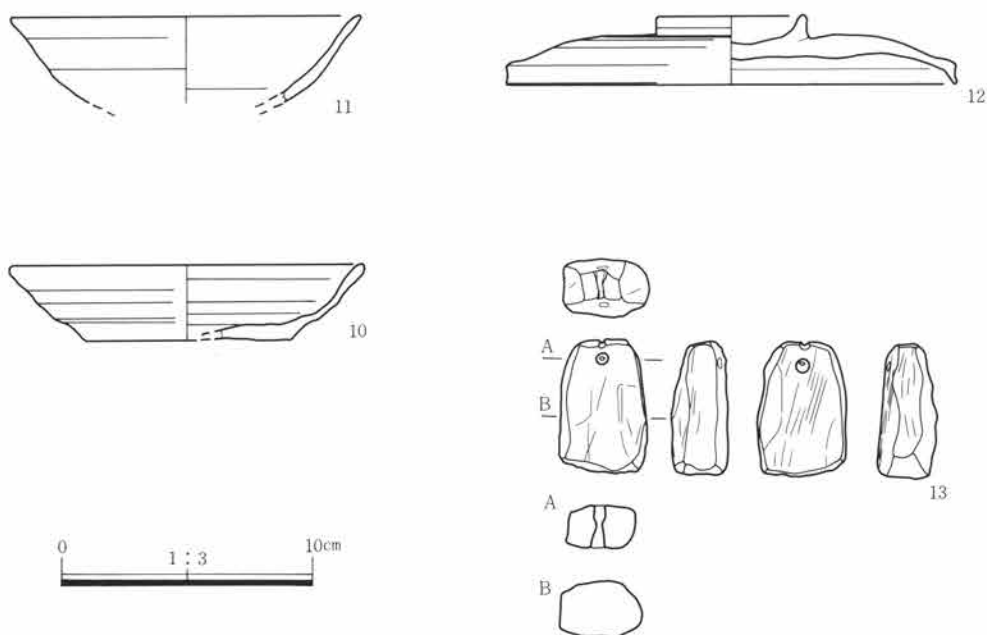


第115図 36号住居跡出土遺物①

れている。使用されたであろう石がカマド内に5つ出土する。遺物は床直より土師器の甕(36住-1・2・3)、他に破片を出土する。焼土を含む層は5cm位堆積する。

遺物は住居内東側に集中して出土する。須恵器の杯(36住-10・11)・蓋(36住-12)・甕(36住-14)などが主なもので、他に、完形の砥石(36住-13)を北東隅床上5cmより出土する。石材は角閃石石英安山岩。4面滑らかに研磨で全面に条痕。

(宮下)



第116図 36号住居跡出土遺物②

### 37号住居跡 (第117・118図、図版34)

当住居跡は38号住居跡と重複関係にある。東側は34号住居跡・35号住居跡と近接し、南側は39号住居跡・40号住居跡・41号住居跡・43号住居跡と近接する。西側は調査区域外へ続く。

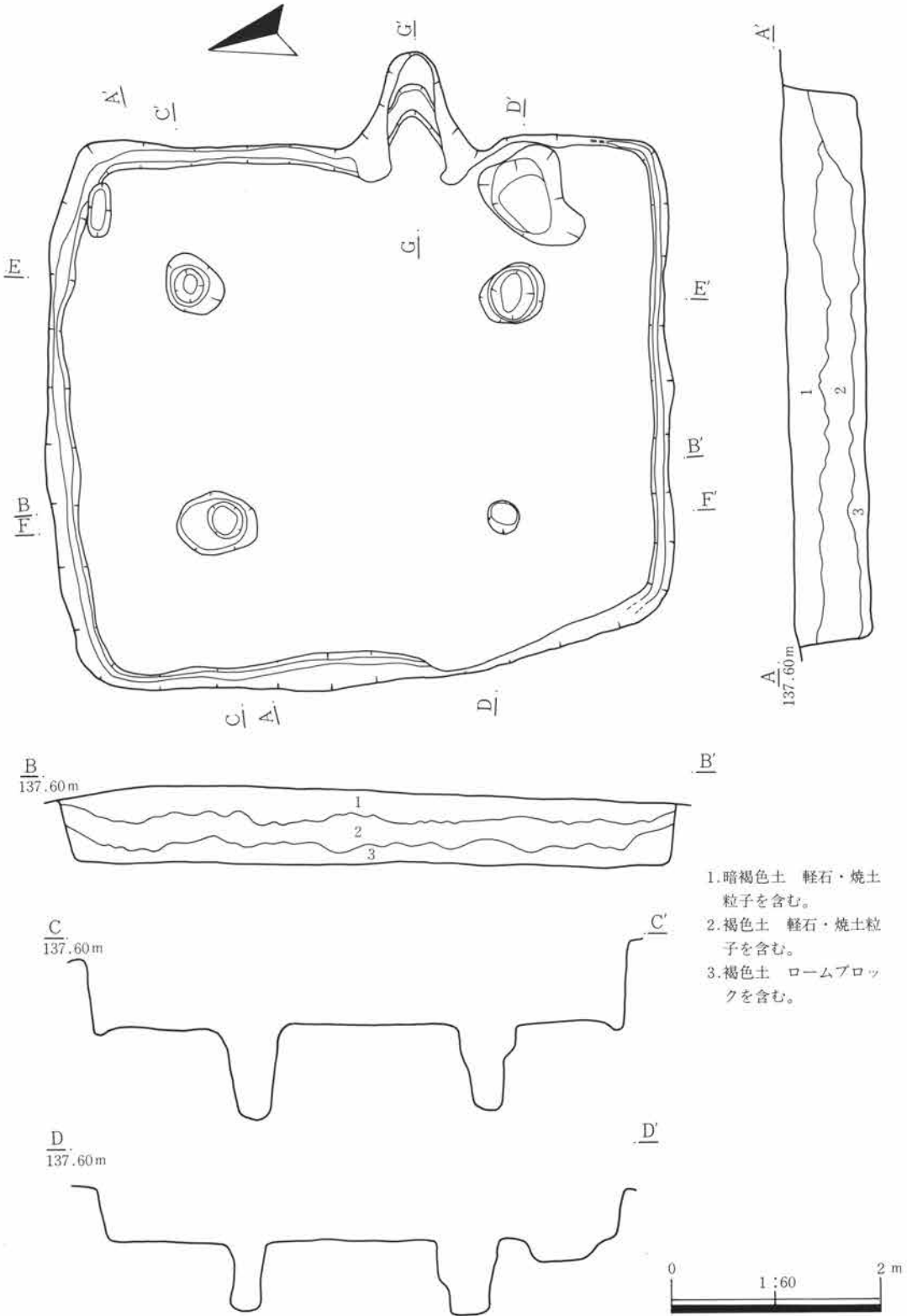
規模は南北約5.9m・東西約5.0m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-103°-Eである。壁は垂直に近く、床面は平坦で堅緻。深さが約70cmであり、他の同時期の住居跡に比べてやや深い。貯蔵穴は東南隅に構築されている。105×60cmの楕円形を呈する。遺物は多量に出土し、須恵器の蓋(37住-12)・杯(37住-13)、床直より土師器の甕(37住-20)を出土する。壁周溝がほぼ全周して検出される。幅20cm・底径8cmの丸底の壁周溝である。柱穴は4本検出され、幅30~80cm・深さ70~90cmの大きさである。柱穴の底面はほぼ平坦で、ややしまっている。

カマドは東辺南寄りに構築されている。カマド全体は暗褐色土で覆われている。焼土、灰層が床面近く6cm位堆積する。煙道部は垂直に立ち上り、やや段がつく程度。焼土は先端まで続く。遺物は数が少なく床直より須恵器の杯(37住-8)、土師器の甕(37住-21)などが主なものである。

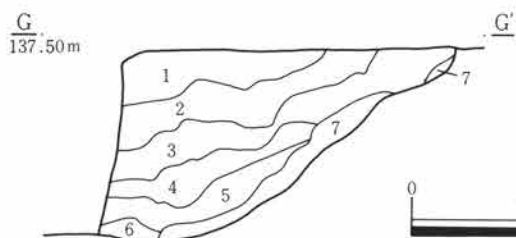
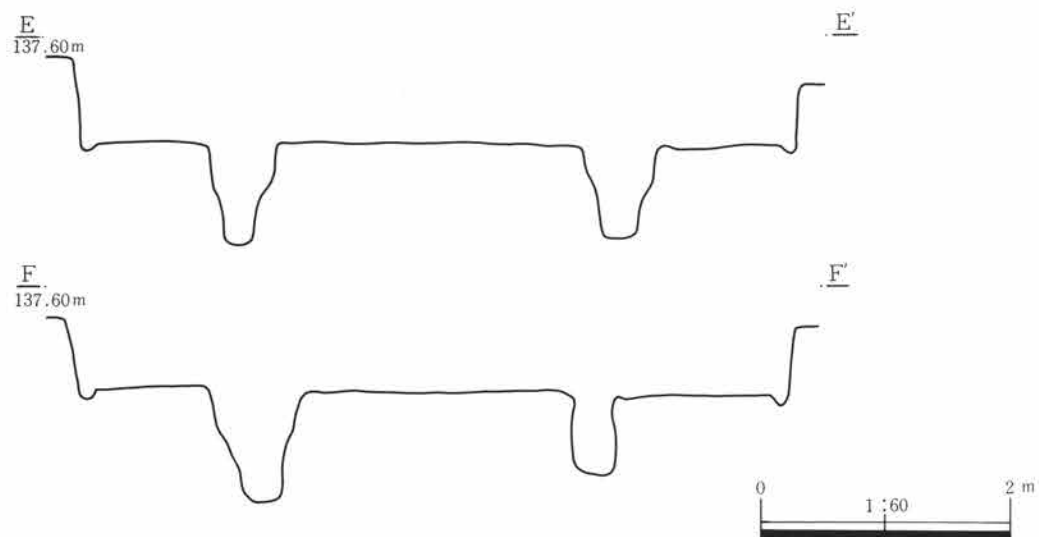
遺物は住居内全体に散在し、数が多い。土師器の甕(37住-1・22)・杯(37住-2・3・4)、須恵器の杯(37住-6・7・9)・壺(37住-16)・蓋(37住-11)・甕(37住-14)と多数出土する。

当住居跡は切り合い関係により、38号住居跡より時期は新しい。

(宮下)

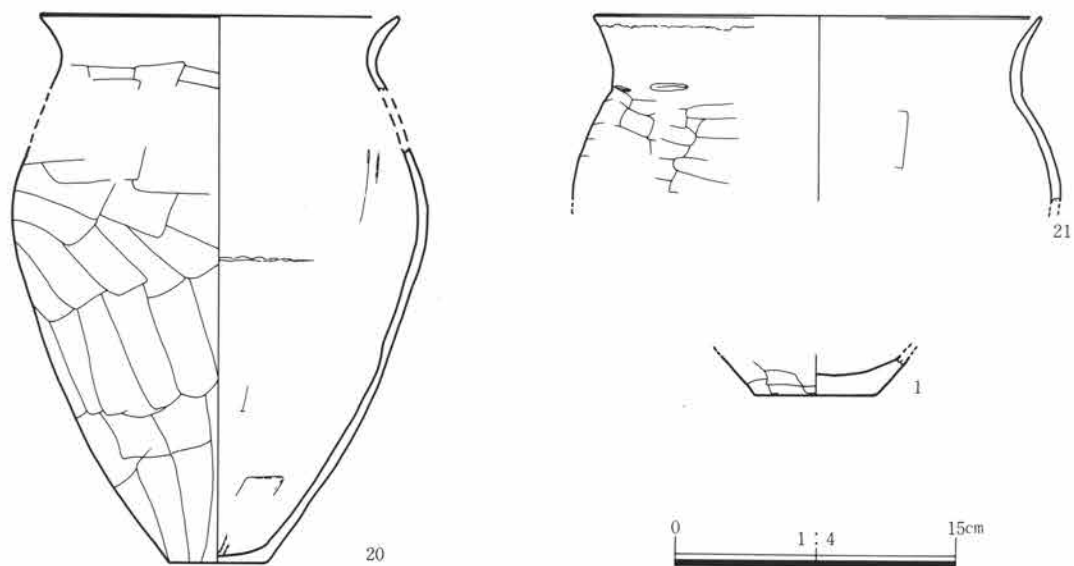


第117図 37号住居跡

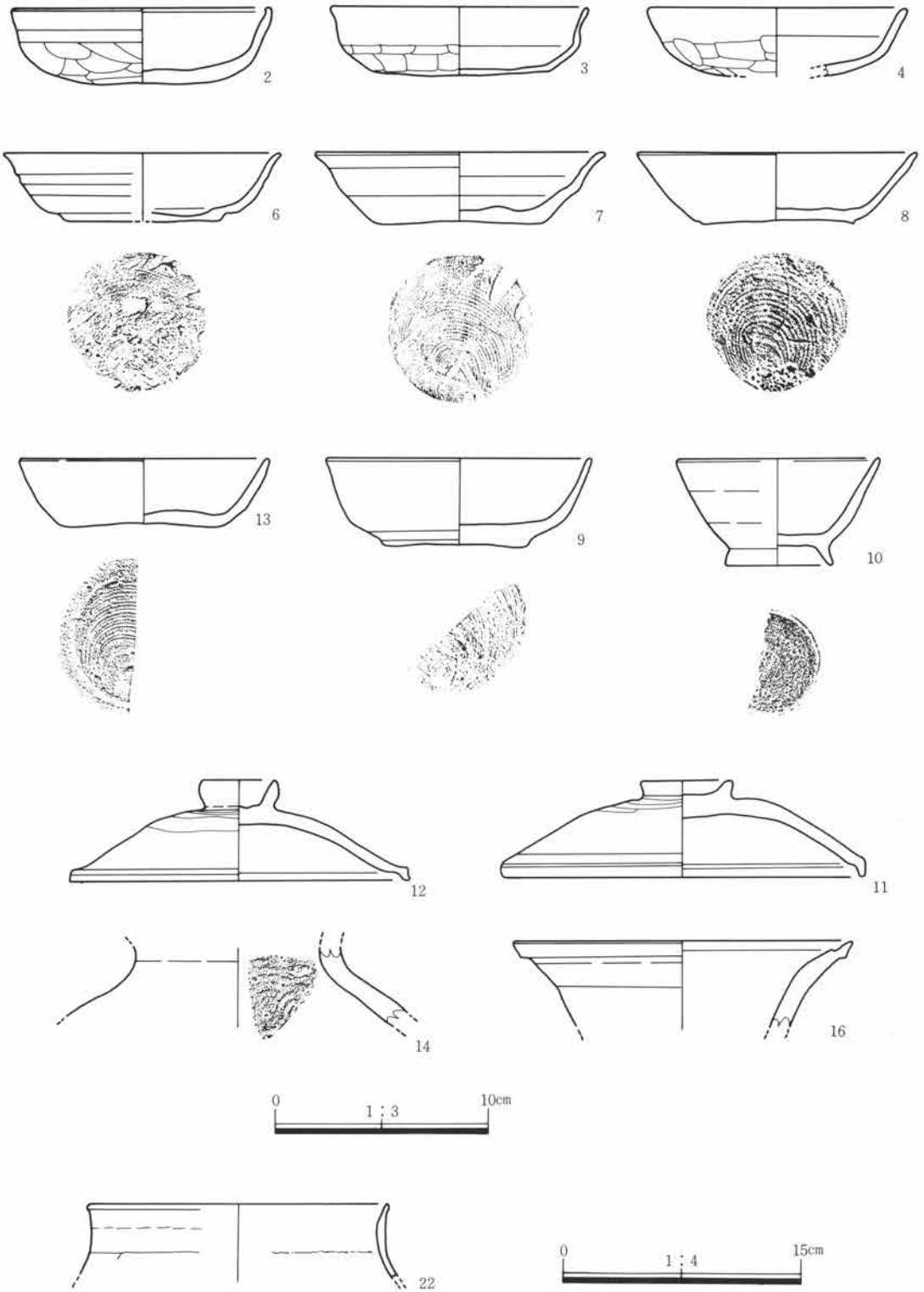


- カマドセクション
1. 暗褐色土 軽石・焼土粒子を含む。
  2. 褐色土 軽石・焼土粒子を含む。
  3. 茶褐色土 焼土粒子・粘土粒子を含む。
  4. 茶色粘土層
  5. 茶色粘土層 焼土・炭化物を含む。
  6. 灰層
  7. 焼土

第118図 37号住居跡エレベーション・カマドセクション



第119図 37号住居跡出土遺物①



第120図 37号住居跡出土遺物②

38号住居跡 (第121図、図版35)

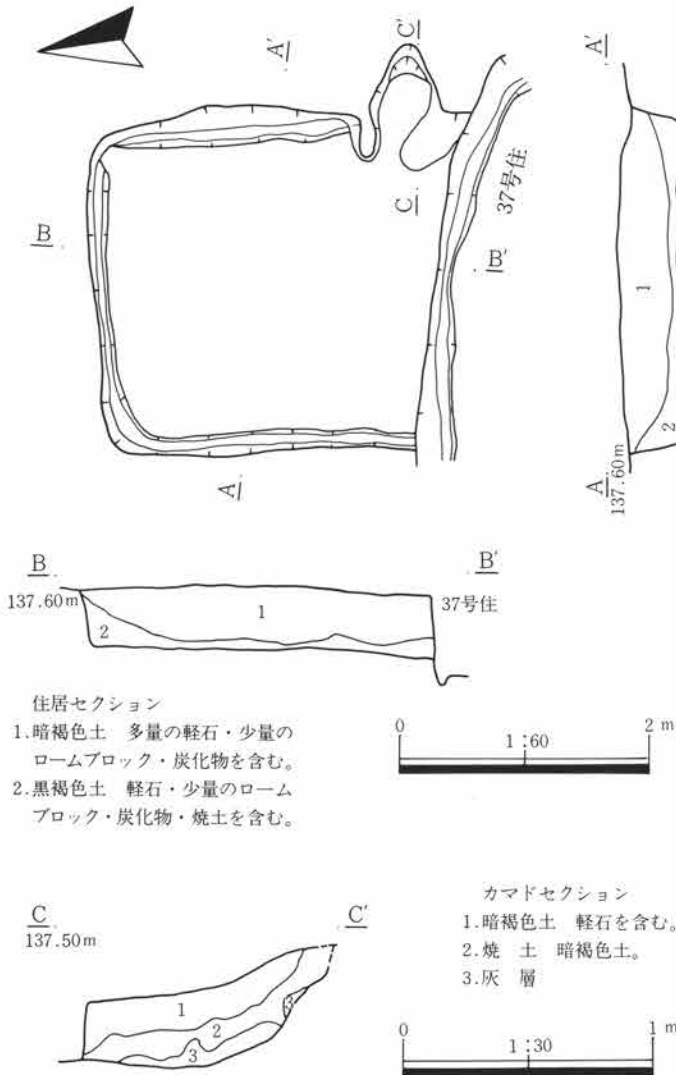
37号住居跡と重複し、28号住居跡・35号住居跡・2号掘立柱跡が近接する。37号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。当住居跡の覆土は、多量の軽石を含む黒褐色土・暗褐色土である。

規模は不明であるが、東西は約2.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する小型の住居跡であろうと推定している。主軸(北壁側との平行線を基準)はN-94°-Eである。壁の立ち上りは約40~45cmであり、比較的良好な残存状態であるが、南側は37号住居跡に破壊され不明である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。調査範囲内での壁周溝は、カマド部分を除いて全面に掘られている。住居内全体に巡るものと推測している。

カマドは東側壁に構築されている。燃烧部は半分が壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は黄褐色粘土を素材にしている。

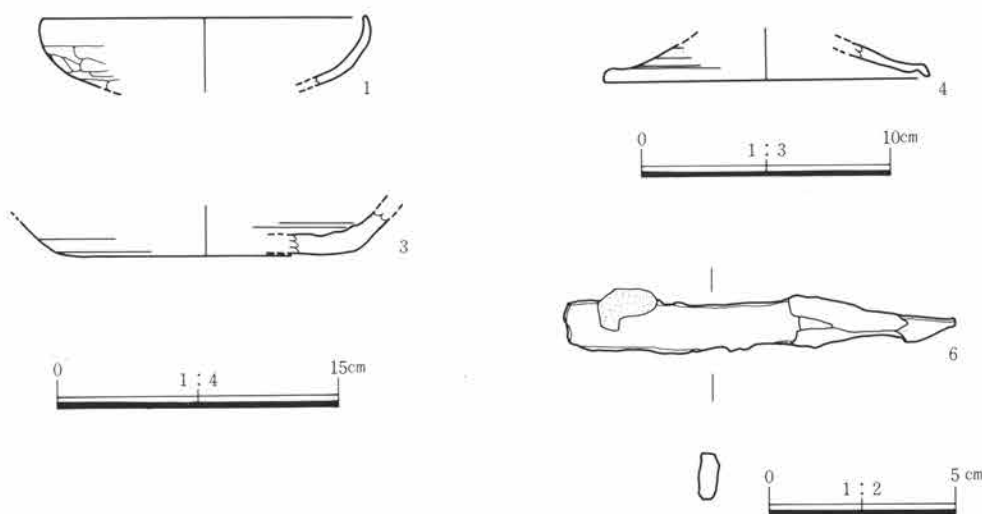
遺物の出土は少ないが、土師器の杯、須恵器の蓋・甕の他、鉄製品が出土している。

(井川)



第121図 38号住居跡





第122図 38号住居跡出土遺物

## 39号住居跡 (第123・124図、図版35・36)

40号住居跡・41号住居跡・43号住居跡と重複し、32号住居跡・35号住居跡・37号住居跡が近接する。40号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。43号住居跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。41号住居跡との新旧関係は不明であるが、出土遺物から考えれば、当住居跡が古い。

規模は東西約5.3m・南北約5.6mであり、平面形は台形に近い隅丸方形を呈する。主軸はN-83°-Eである。壁の立ち上がりは、北東部で約50cmを測るが、重複が多く、残存状態は不良である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた良好な床である。

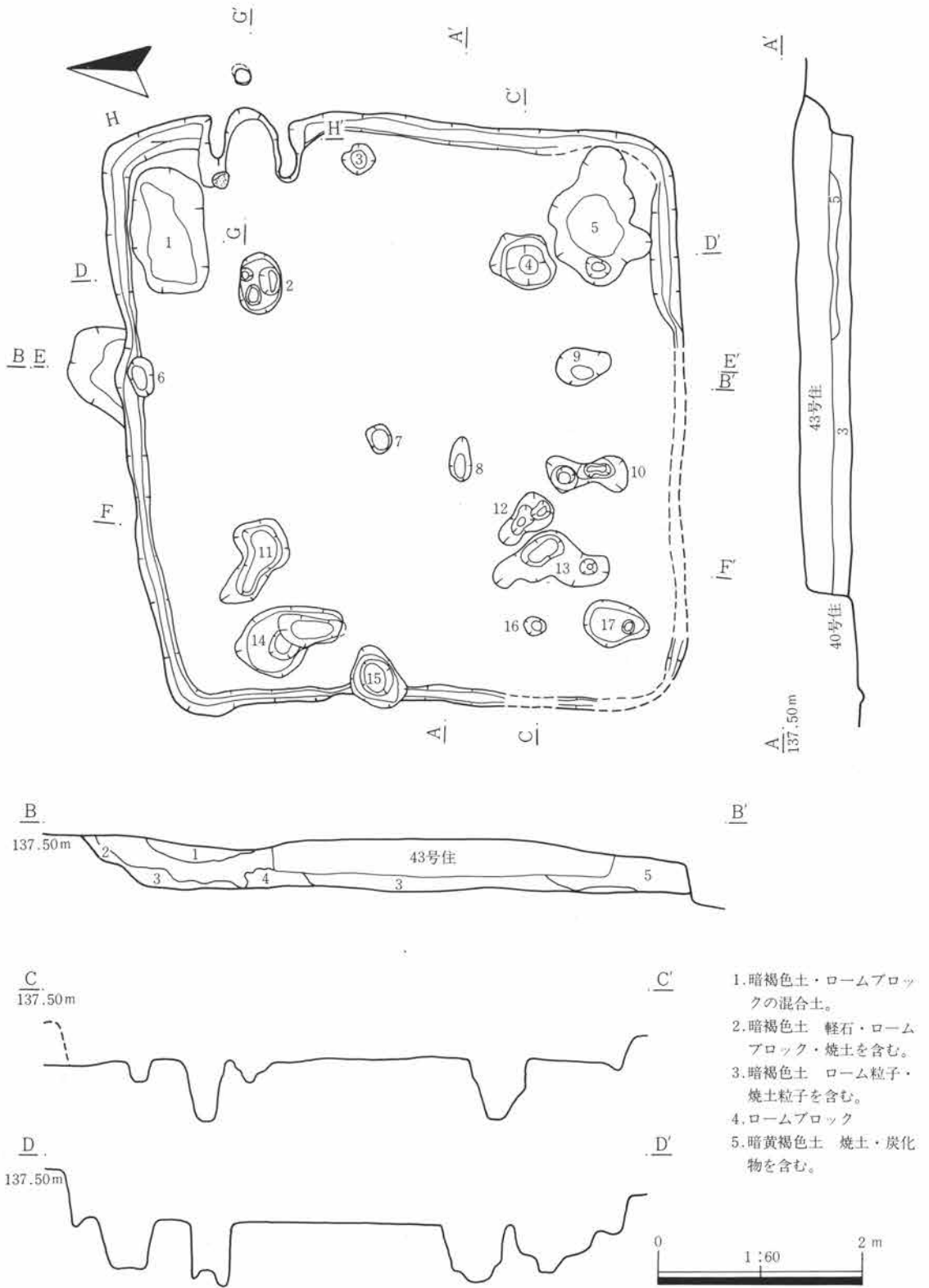
当住居跡からは多くのピットが検出できた。そのうち、支柱穴と考えられるのはピット2・ピット4・ピット11・ピット13である。規模・平面形は不定形であり、各ピットも小ピットの複合したものである。柱を建て直している可能性は大きい。床面からの深さは約50~60cmである。壁周溝は、カマド部分を除いて全体的に掘られているものと推定しているが、南西部では確認できなかった。

カマドは東側壁の北東隅近くに構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約70cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、左袖先端は石を用いて固めている。

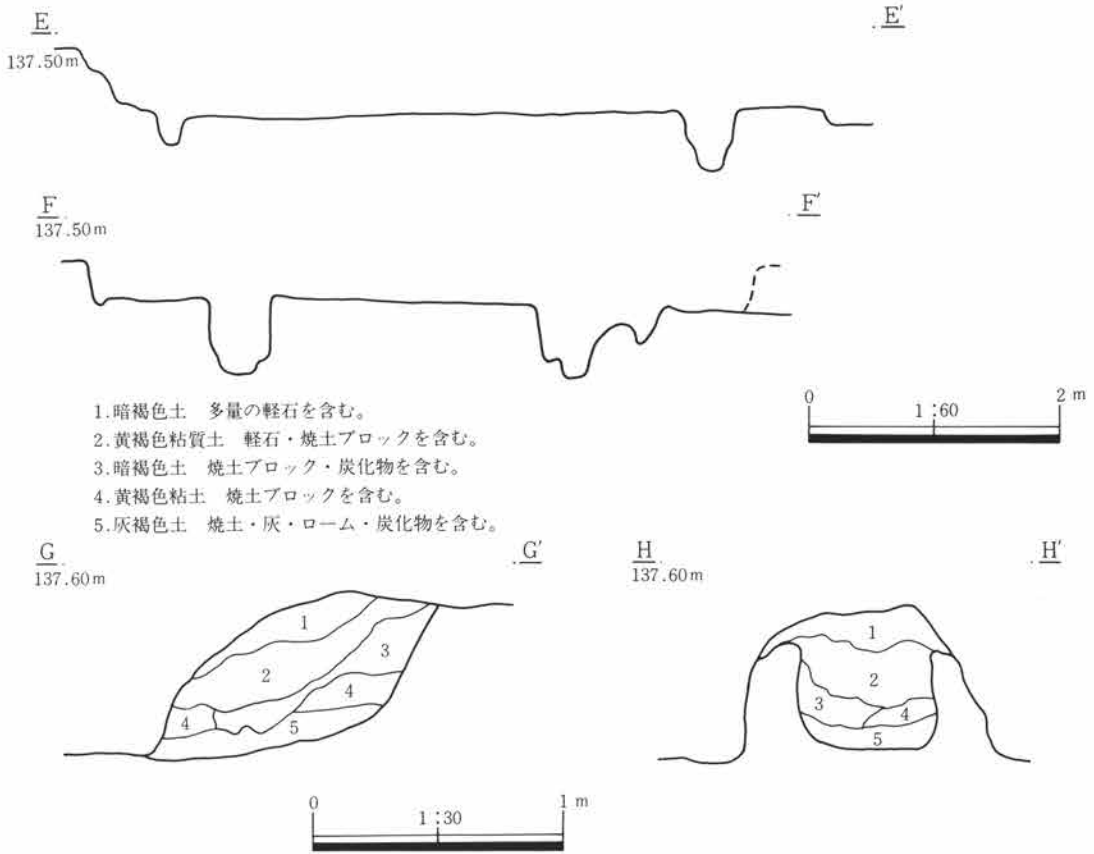
貯蔵穴と考えられるピットは、北東隅のピット1と南東隅のピット5である。ピット1は、規模が長辺約120cm・短辺約60cm・床面からの深さ約50cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。ピット5は小ピットの複合であるが、中心にあるピットの規模・平面形は直径約70~80cmで、円形ないし楕円形を呈するものと推測している。床面からの深さは約50cmである。

遺物は土師器の杯・甕・甑、須恵器の蓋の他、砥石と考えられる輝石安山岩製の石製品が出土している。

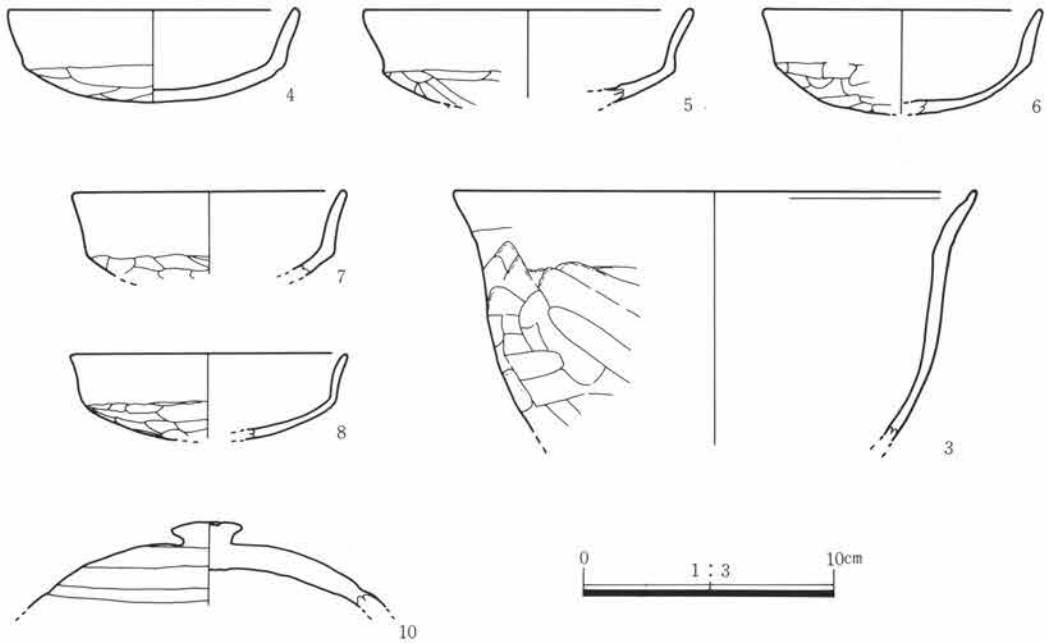
(井川)



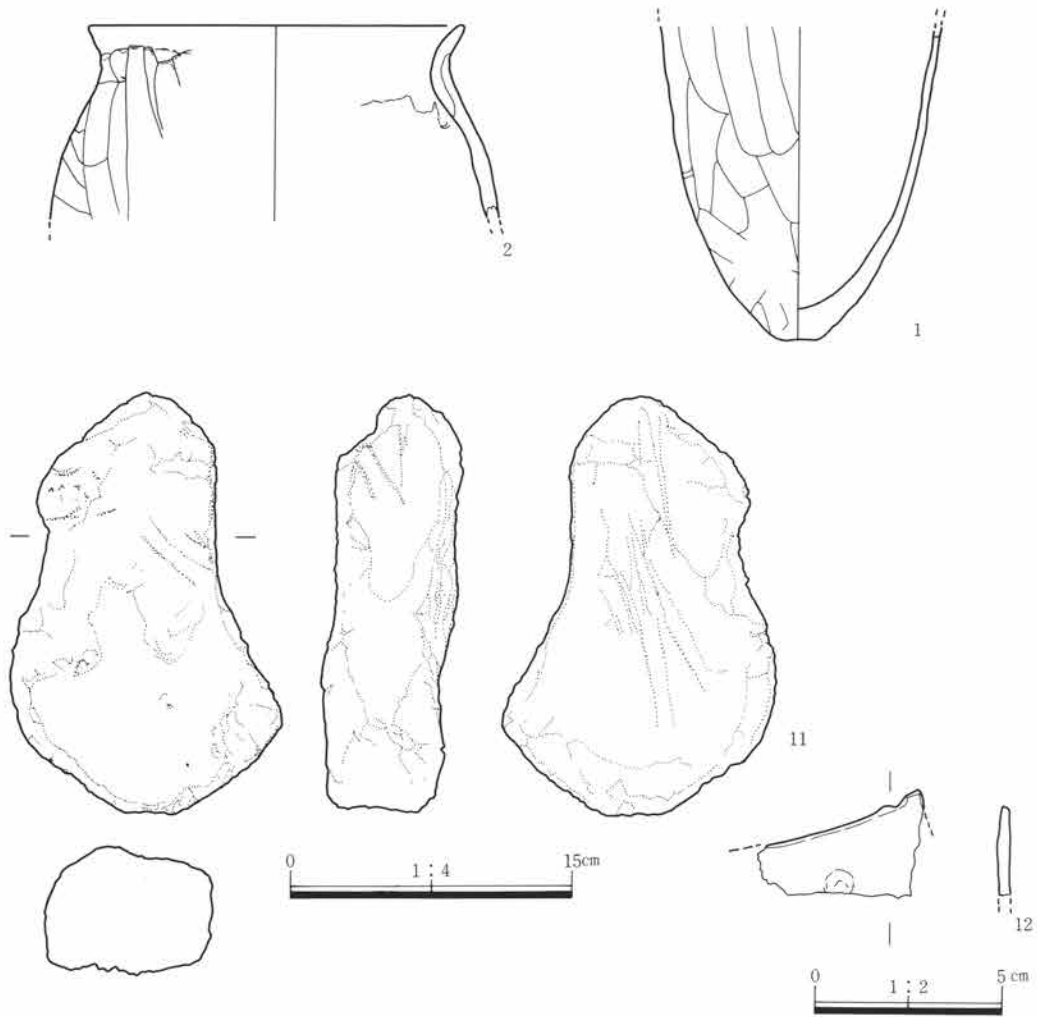
第123図 39号住居跡



第124図 39号住居跡エレベーション・カマドセクション



第125図 39号住居跡出土遺物①



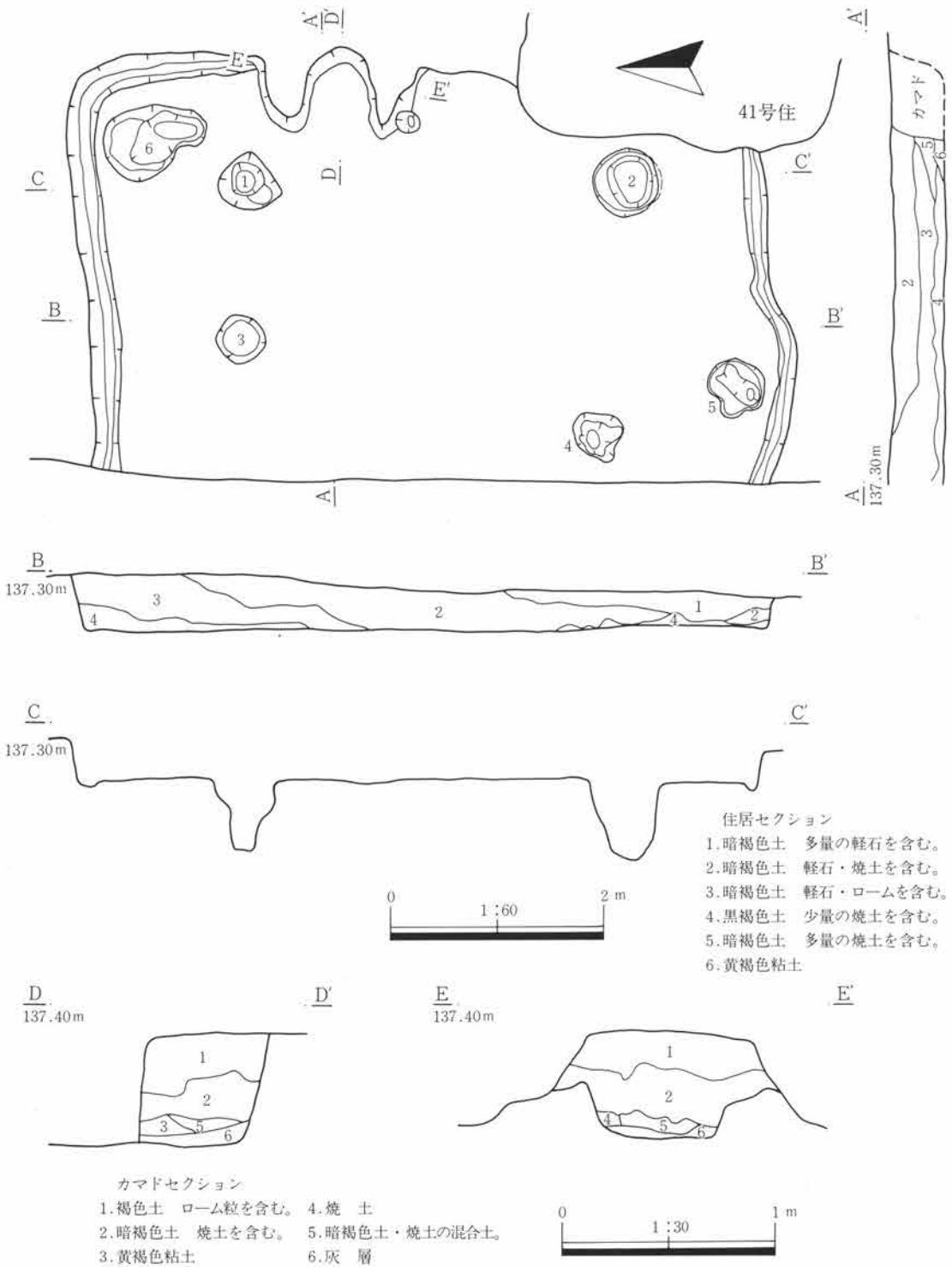
第126図 39号住居跡出土遺物②

#### 40号住居跡（第127図、図版36）

39号住居跡・41号住居跡・43号住居跡と重複し、37号住居跡・49号住居跡が近接する。39号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。41号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。43号住居跡との新旧関係は不明であるが、遺物から考えると、当住居跡が新しい。住居跡を並べれば、39号住居跡→40号住居跡→41号住居跡の順に新しくなる。

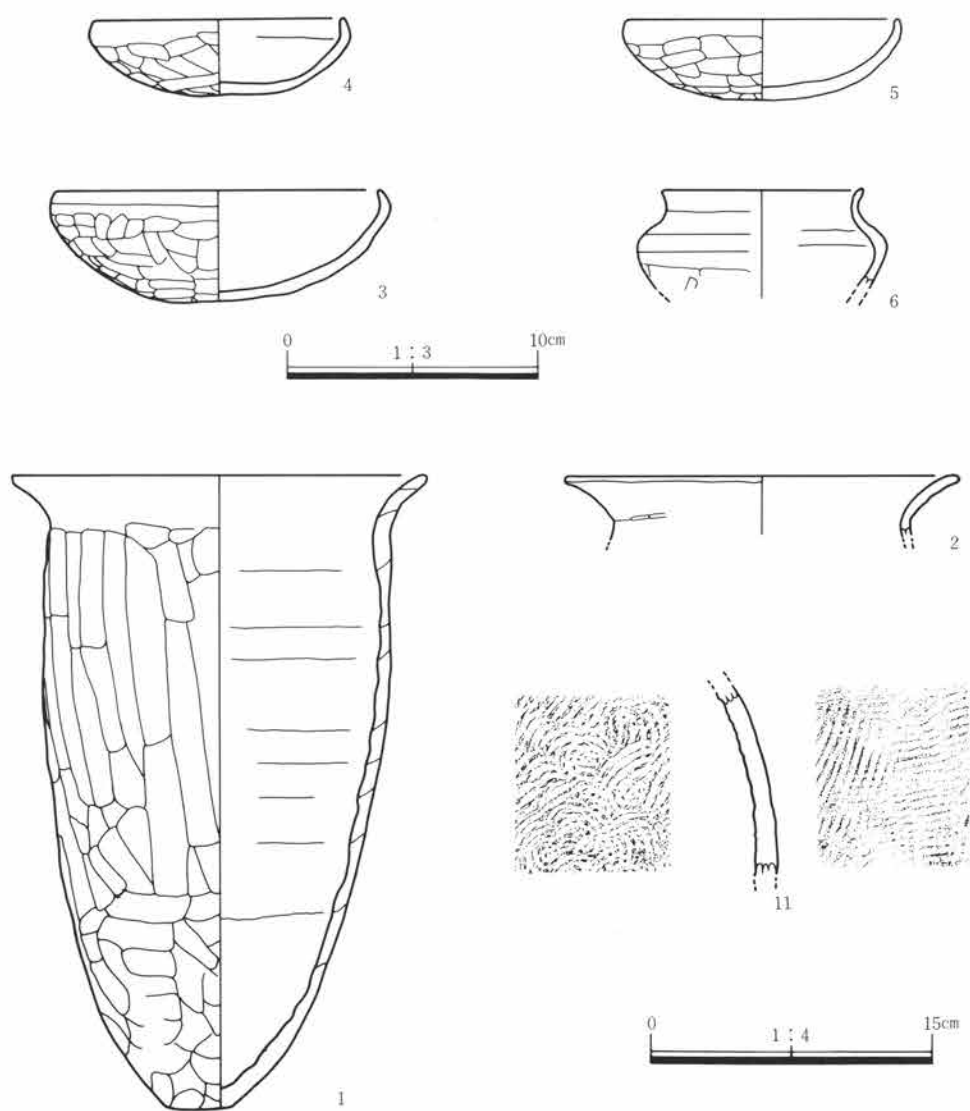
規模は不明であるが、東西は約6.4mである。主軸はN-85°-Eである。壁の立ち上りは約20~40cmである。床はローム層中に構築されている。ピットを6基礎確認しているが、柱穴と考えられるのはピット1・ピット2である。規模・平面形は、直径約50~60cm・床面からの深さ約60~70cmであり、円形・不整形な円形を呈する。4本柱穴と考えられるが、他の柱穴は調査区域外である。調査範囲内での壁周溝は、カマド及びその右側を除いて掘られている。

カマドは東側壁の北寄りに構築されている。燃焼部は壁内にある。袖は粘土を素材に使用している。



第127図 40号住居跡

貯蔵穴は北東隅に構築されているピット6である。規模・平面形は、直径約100cm・床面からの深さ約60cmであり、不定形である。遺物は土師器の杯・甕などが出土している。(井川)

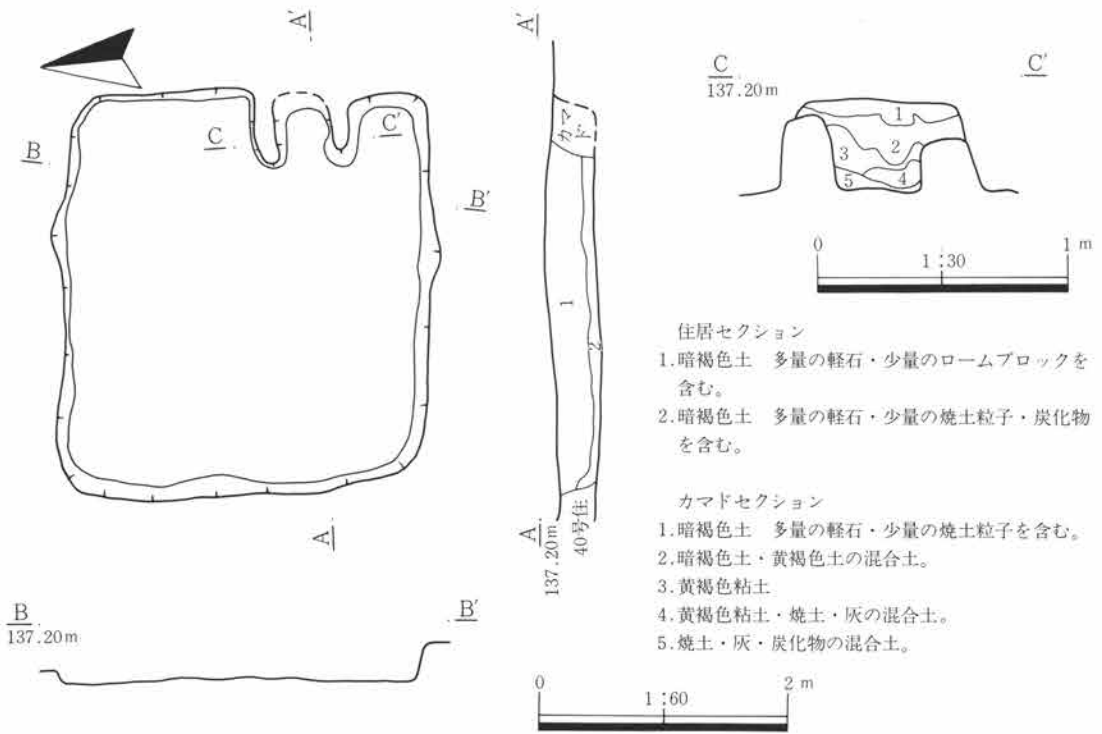


第128図 40号住居跡出土遺物

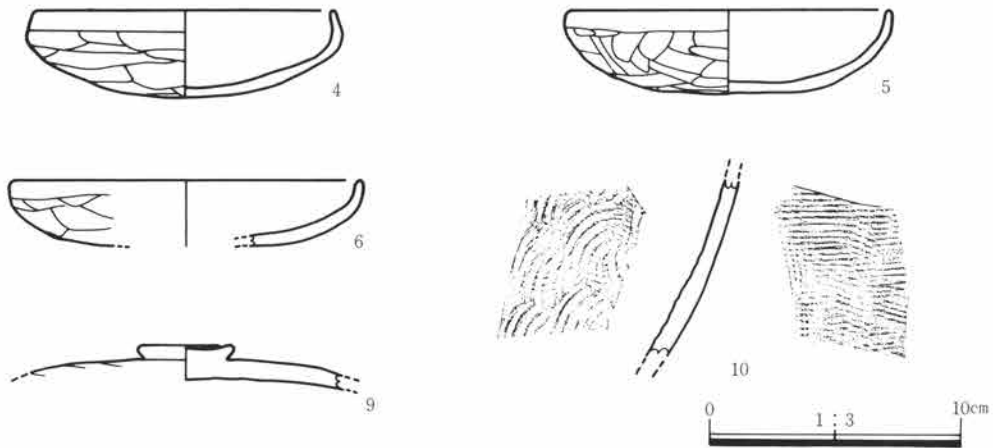
#### 41号住居跡（第129図、図版37）

39号住居跡・40号住居跡・42号住居跡と重複し、43号住居跡が近接する。39号住居跡との新旧関係は、不明であるが、遺物から考えれば、当住居跡が新しい。40号住居跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が新しい。42号住居跡との新旧関係は、当住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が新しい。覆土は、多量の軽石を含む暗褐色土である。

規模は東西約3.1m・南北約2.9mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-100°-Eである。壁の立ち上りは約30cmであるが、重複部分はやや不明瞭である。床はローム層中に構築されている。柱穴・壁周溝は確認できなかった。



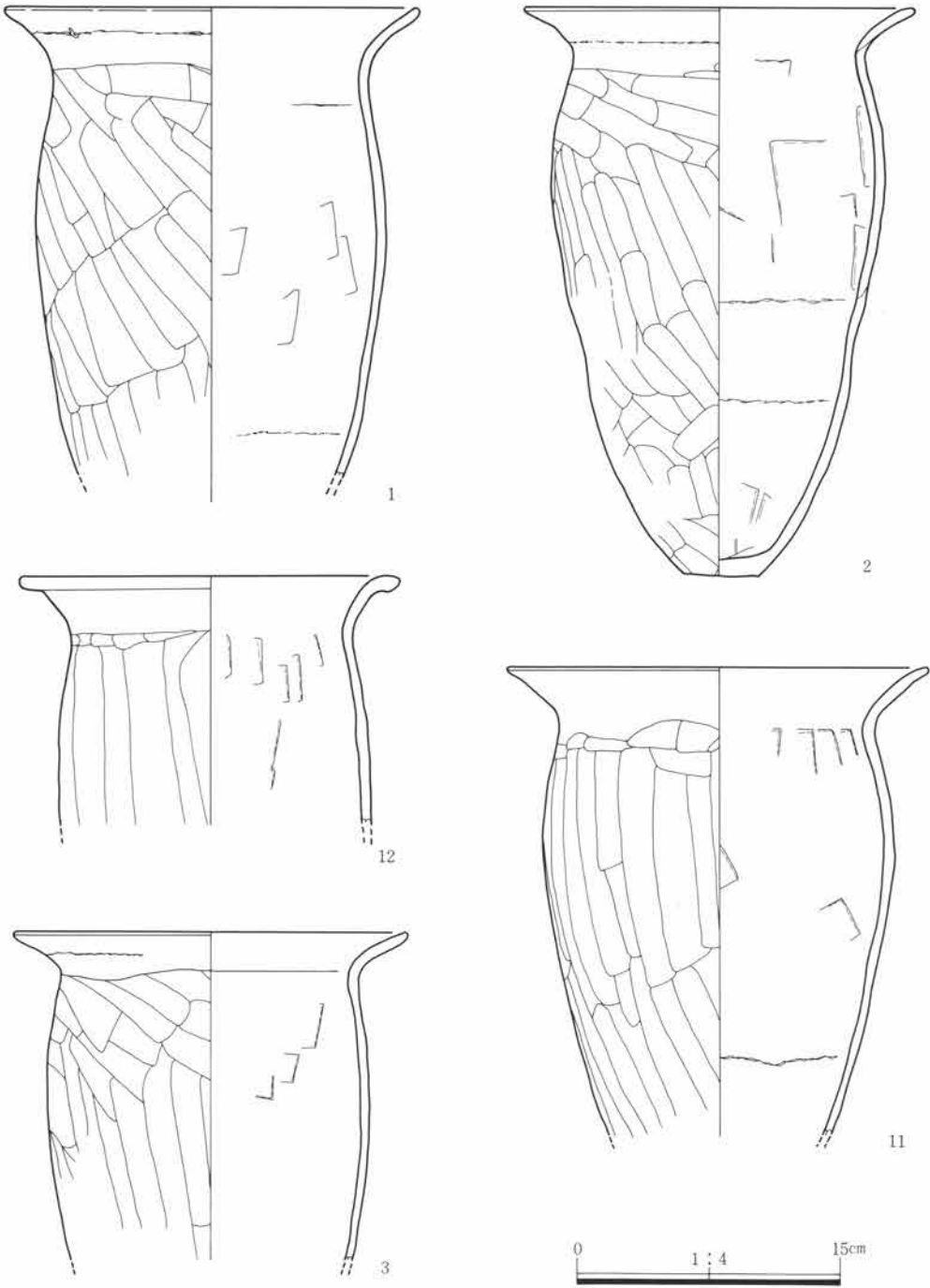
第129図 41号住居跡



第130図 41号住居跡出土遺物①

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にある。袖は黄褐色粘土を素材に使用している。貯蔵穴は確認できなかった。遺物の出土量は少ないが、土師器の杯、須恵器の蓋・甕などが出土している。

(井川)



第131図 41号住居跡出土遺物②



42号住居跡 (第132・133図、図版37・38)

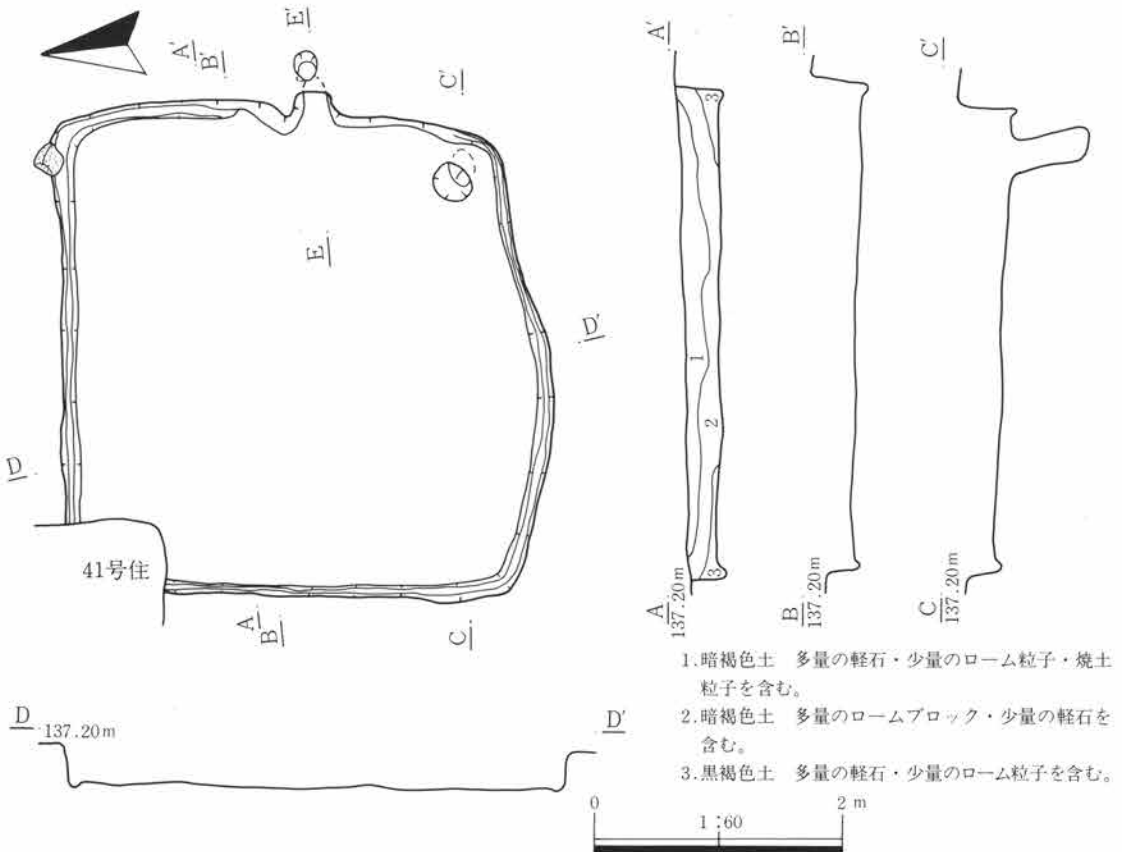
41号住居跡が重複し、39号住居跡・40号住居跡・44号住居跡・45号住居跡・46号住居跡が近接する。41号住居跡との新旧関係は、41号住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が古い。覆土は多量の軽石を含む暗褐色土である。

規模は東西約3.8m・南北約3.7mであり、平面形は不整形な方形を呈する。主軸はN-93°-Eである。壁の立ち上りは約20~40cmであり、残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。柱穴は確認できなかった。壁周溝は、41号住居跡との重複部分は不明であるが、カマド及びその両側を除き全面的に掘られていると推定できる。

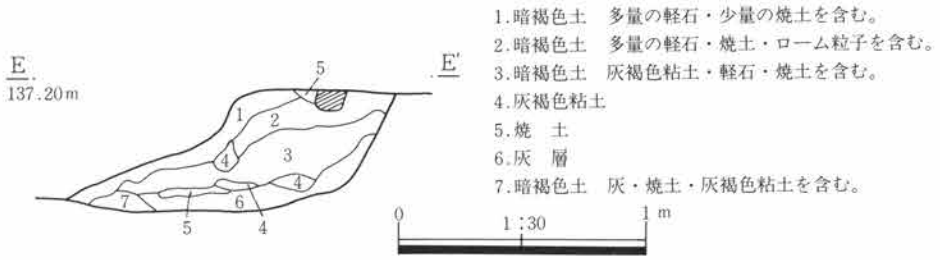
カマドは東側壁の中央やや南寄りに構築されている。燃烧部は半分が壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は灰褐色粘土を素材に使用しているが、大部分が壊されている。煙道は地山をトンネル状に掘り込んでいる。南東隅からピットが1基検出できた。規模は径約30cm・床面からの深さ約60cmであり、平面形は円形を呈する。ピットは東へ向って傾斜して掘られている。規模・形態などから、貯蔵穴とするにはやや問題が残る。

遺物は土師器の杯・高杯・壺・甕、須恵器の甕が出土している。

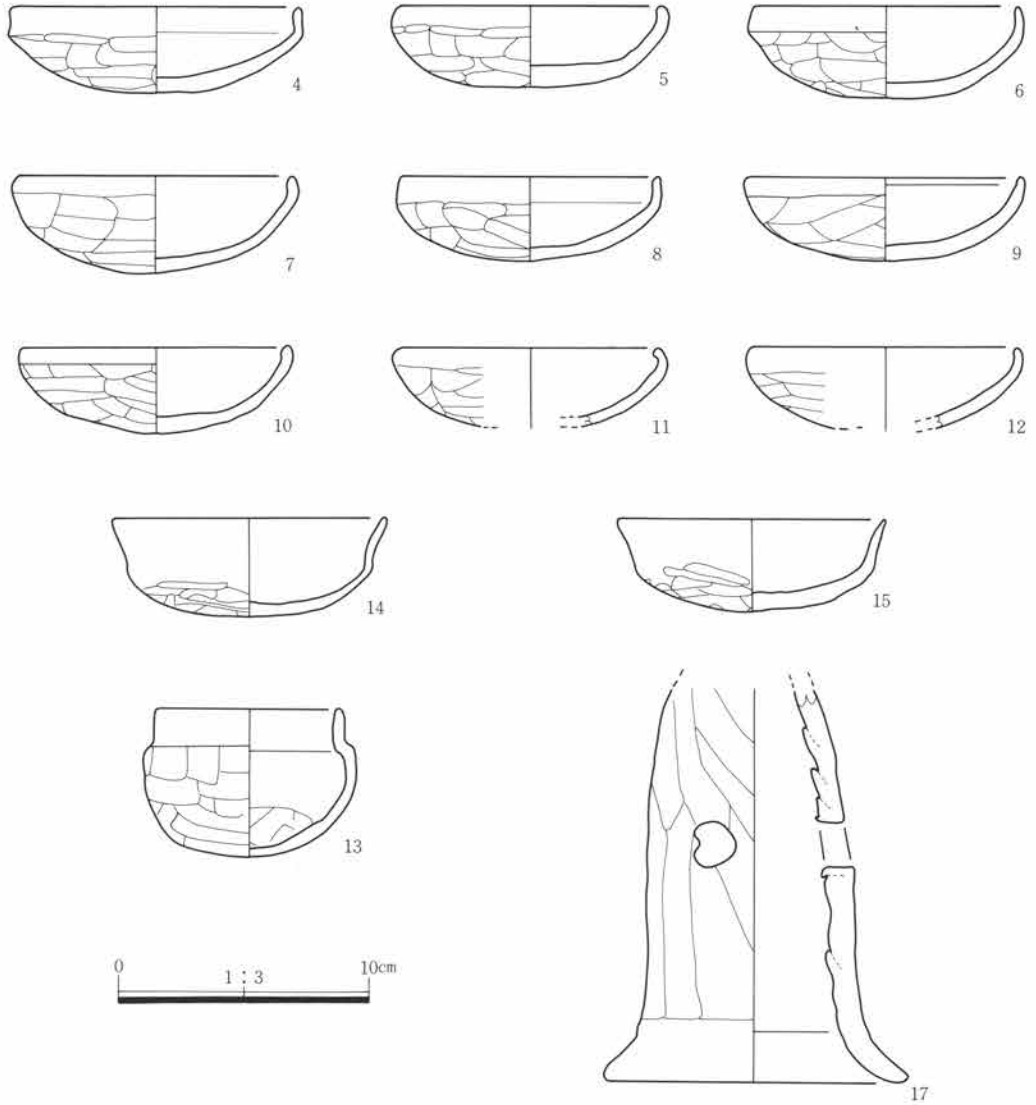
(井川)



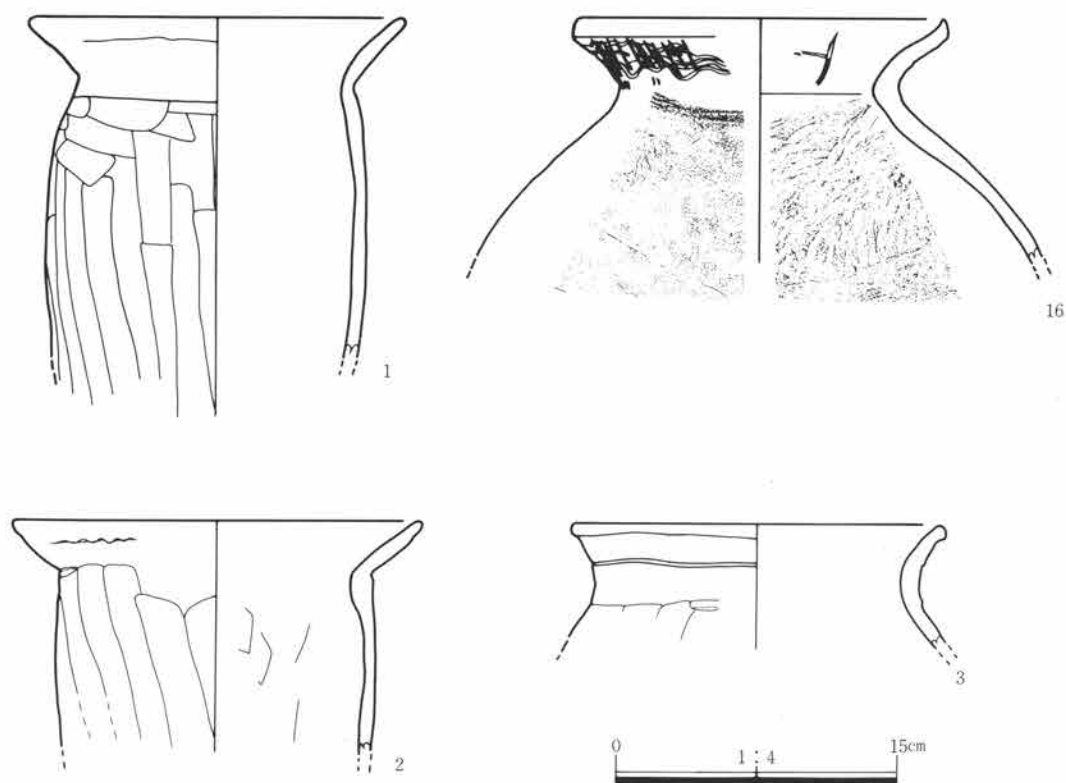
第132図 42号住居跡



第133図 42号住居跡カマドセクション



第134図 42号住居跡出土遺物①



第135図 42号住居跡出土遺物②

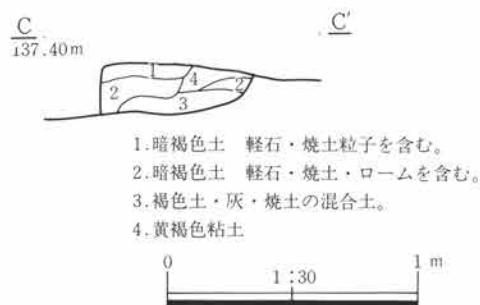
43号住居跡 (第136・137図、図版35)

39号住居跡・40号住居跡と重複し、32号住居跡・35号住居跡・37号住居跡・41号住居跡が近接する。39号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。40号住居跡との新旧関係は、遺物から、当住居跡が古いと考えられる。

規模は東西約3.5m・南北約4.5mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-95°-Eである。壁の立ち上りは約25cmであるが、残存状態は悪い。床は39号住居跡の覆土中に構築されており、張床である。柱穴・壁周溝は不明である。

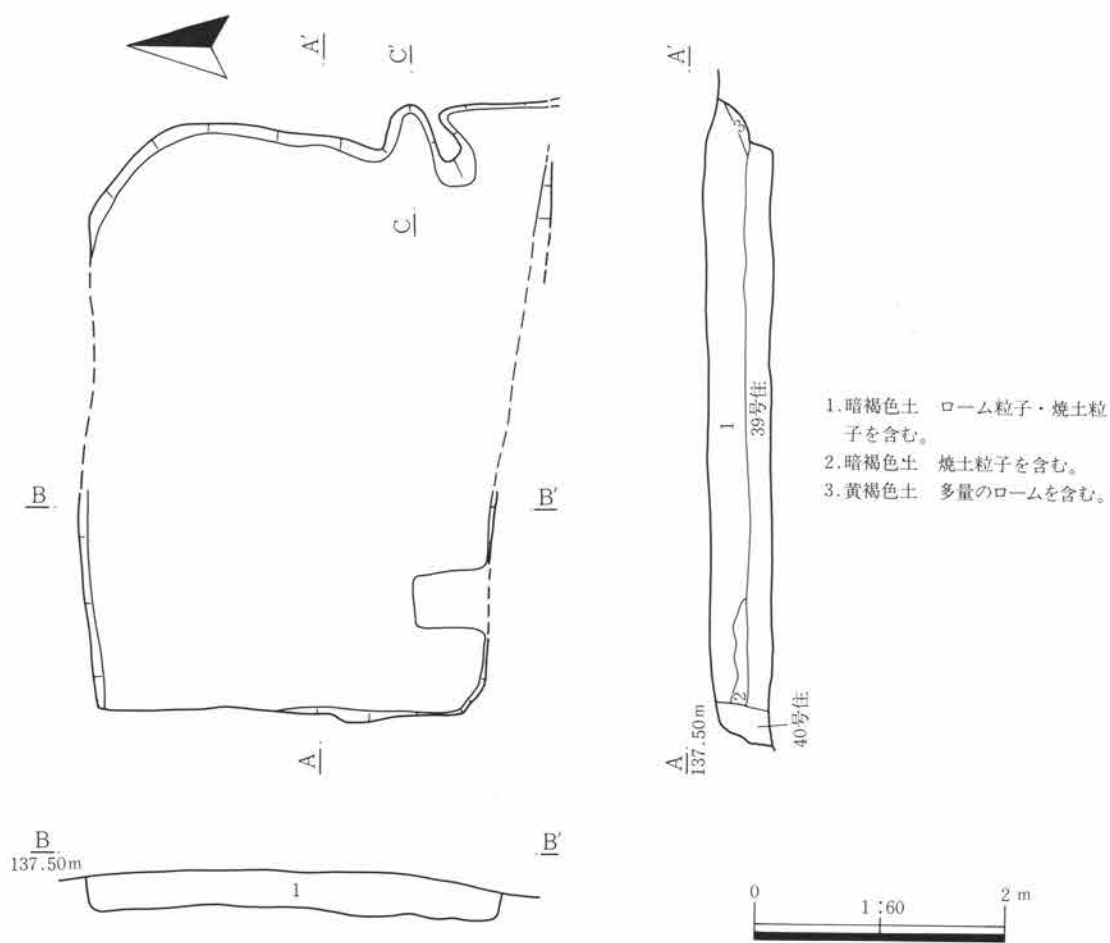
カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は半分が壁内であり、確認面での煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄褐色粘土を素材に使用しているが、大部分が破壊されている。貯蔵穴は確認できなかった。遺物は土師器の杯・台付甕・甕、須恵器の蓋が出土している。

(井川)

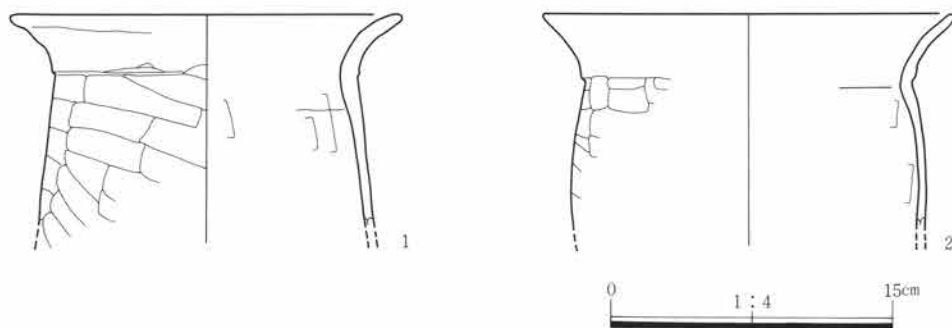


1. 暗褐色土 軽石・焼土粒子を含む。
2. 暗褐色土 軽石・焼土・ロームを含む。
3. 褐色土・灰・焼土の混合土。
4. 黄褐色粘土

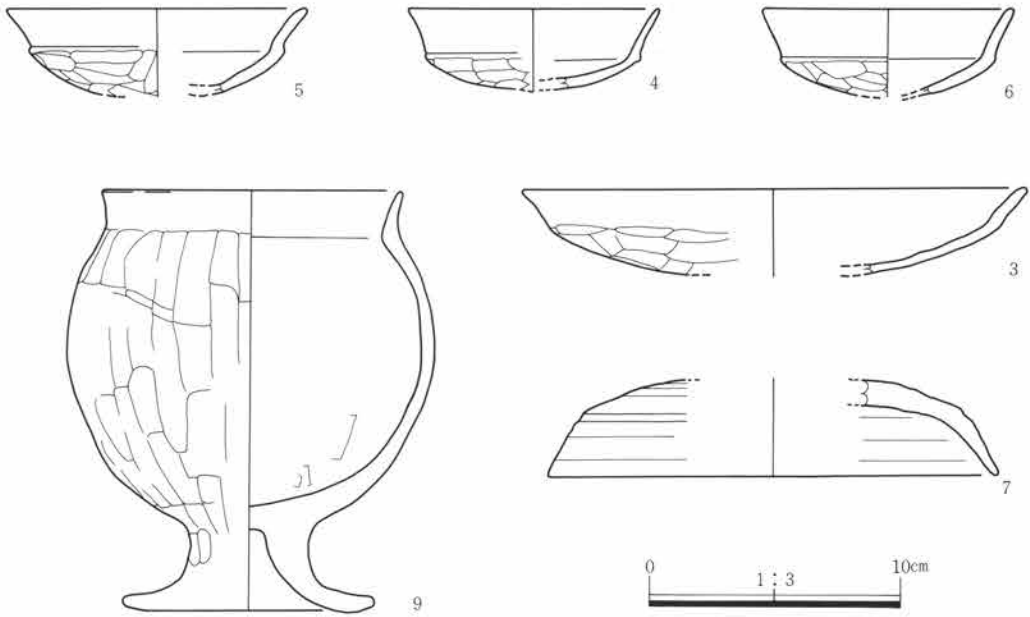
第136図 43号住居跡カマドセクション



第137図 43号住居跡



第138図 43号住居跡出土遺物①



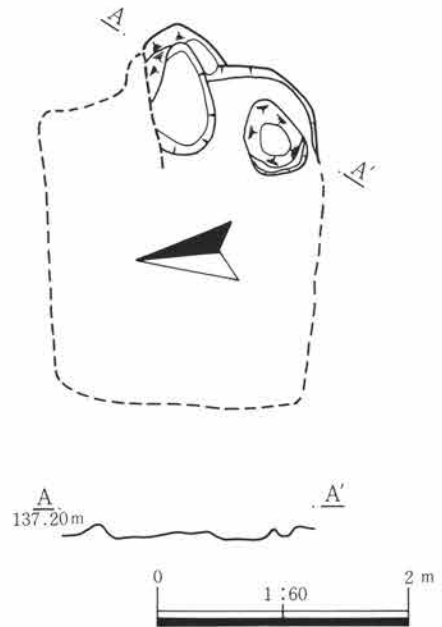
第139図 43号住居跡出土遺物②

44号住居跡 (第140図)

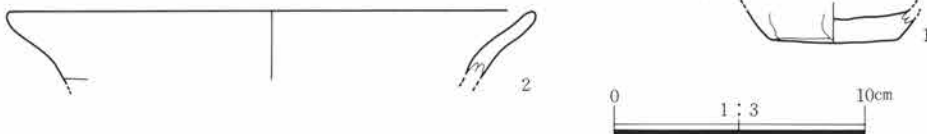
42号住居跡・45号住居跡・46号住居跡と近接するが、重複はない。

当住居跡は大部分が破壊されており、南東部の一部が確認できただけである。規模・柱穴・壁周溝・カマド・貯蔵穴は不明である。壁の立ち上りは、南東隅付近で4～5cm残存しているだけである。床はローム層中に構築されていたと推定しているが、確認できたのは掘り方である。

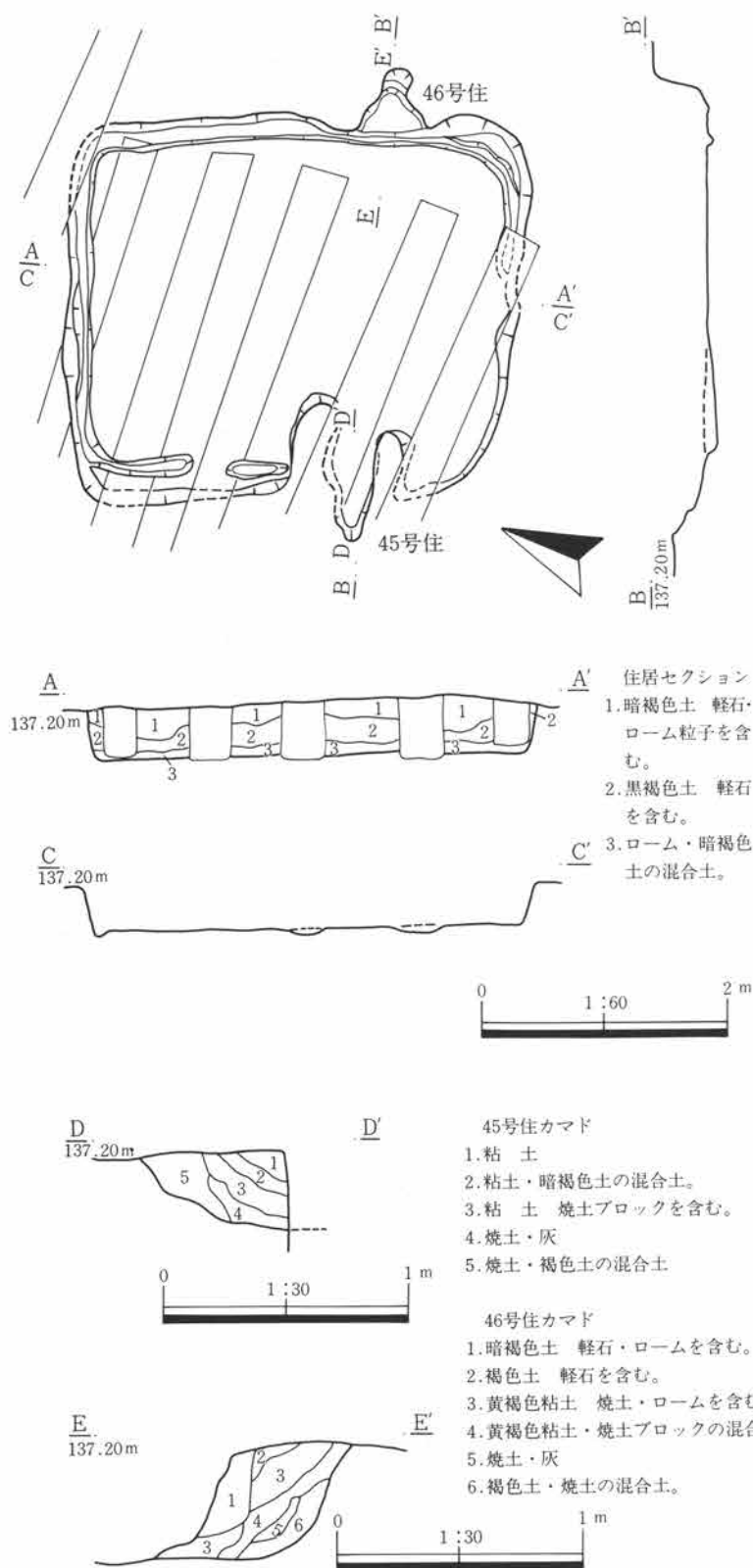
南東部分からは2基のピットが確認できた。北側のピットは長軸約90cm・短軸約60cmで楕円形を呈し、南側のピットは長軸約60cm・短軸約50cmで不整形な楕円形を呈する。両ピット共に床面からの深さは4～5cmであり、皿状である。(井川)



第140図 44号住居跡



第141図 44号住居跡出土遺物



第142図 45号住居跡・46号住居跡

45号住居跡 (第142図、図版38)

46号住居跡と重複し、44号住居跡・48号住居跡が近接する。46号住居跡との新旧関係は、カマドの残存状態等により、当住居跡が新しい。

規模は東西約3.0m・南北約3.2mで、隅丸方形を呈する。主軸はN-109°-Wである。壁の立ち上りは約40cmであるが、ゴボウ穴による破壊が大きい。床はローム層中に構築されている。壁周溝は、カマド及びその南から南側壁中央付近までを除き掘られている。

カマドは西側壁の南寄りに構築されている。袖は粘土を素材に使用している。

(井川)

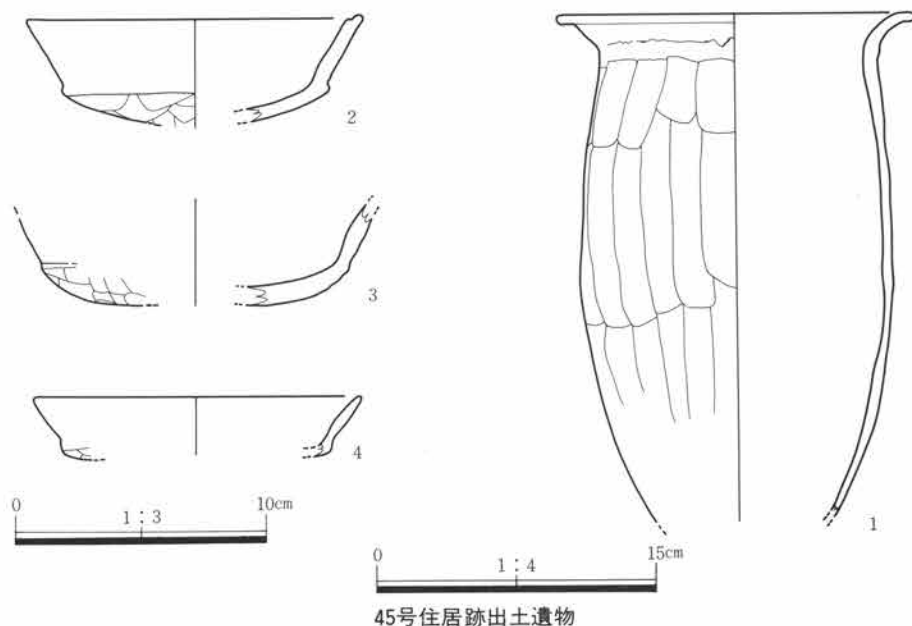
46号住居跡 (第142図、図版38・39)

45号住居跡と重複するが、新旧関係は前述の通りである。

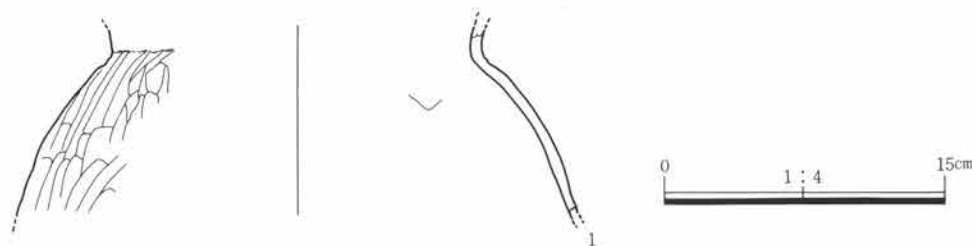
ゴボウ穴・45号住居跡により大部分が破壊されている。規模・壁周溝は不明である。柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

カマドは東側壁に構築されている。袖は破壊されており、確認できなかった。

(井川)



45号住居跡出土遺物



第143図 46号住居跡出土遺物

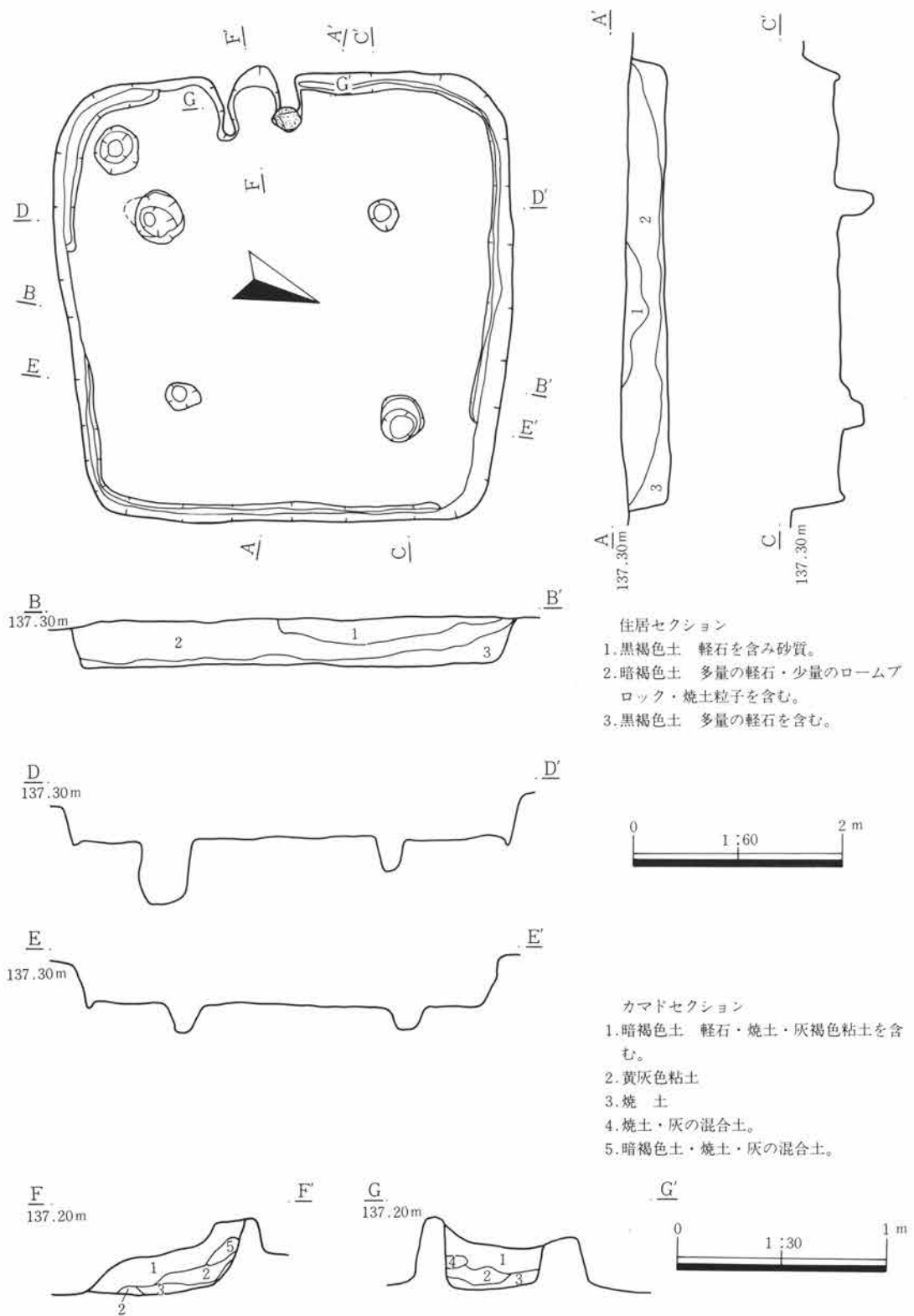
47号住居跡（第144図、図版39・40）

48号住居跡と重複し、45号住居跡・46号住居跡が近接する。48号住居跡との新旧関係は、覆土の相違、当住居跡のカマドの残存状態などから、当住居跡が新しい。

規模は東西約4.1m・南北約4.2mであり、平面形は台形に近い隅丸方形を呈する。主軸はN-112°-Wである。壁の立ち上りは約30~50cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本である。規模は直径約25~30cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約20~30cmであるが、南西側柱穴は約60cmと深い。壁周溝は、住居内全面から確認できたが、カマド及びその左（南）側・南側壁の中央部分・北東隅付近からは検出できなかった。

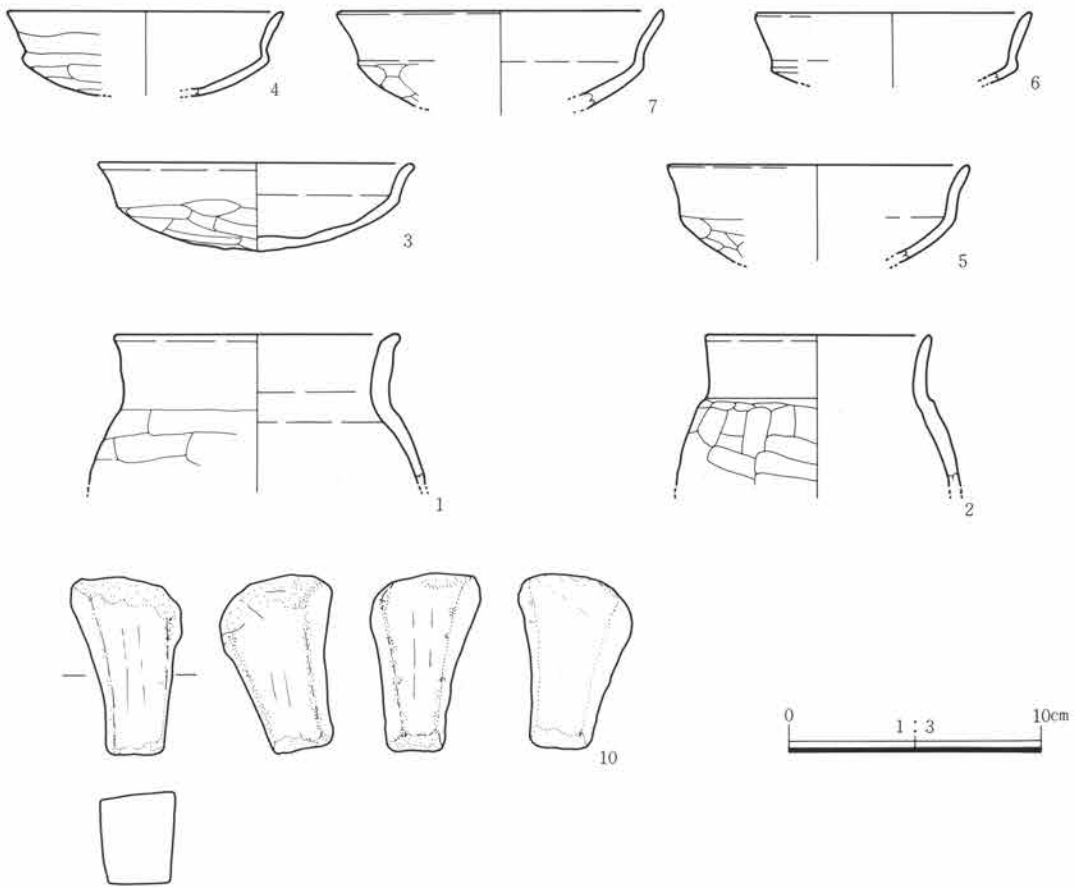
カマドは西側壁の中央やや南寄りに構築されている。燃焼部は壁内にある。袖は灰褐色粘土を素材に使用しているが、右袖先端は石を用いて固めていた。貯蔵穴は南西隅に構築されている。規模は直径約40cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。床面からの深さは約50cmである。遺物は土師器の杯・甕の他、石英安山岩製の砥石が出土している。

（井川）



第144図 47号住居跡





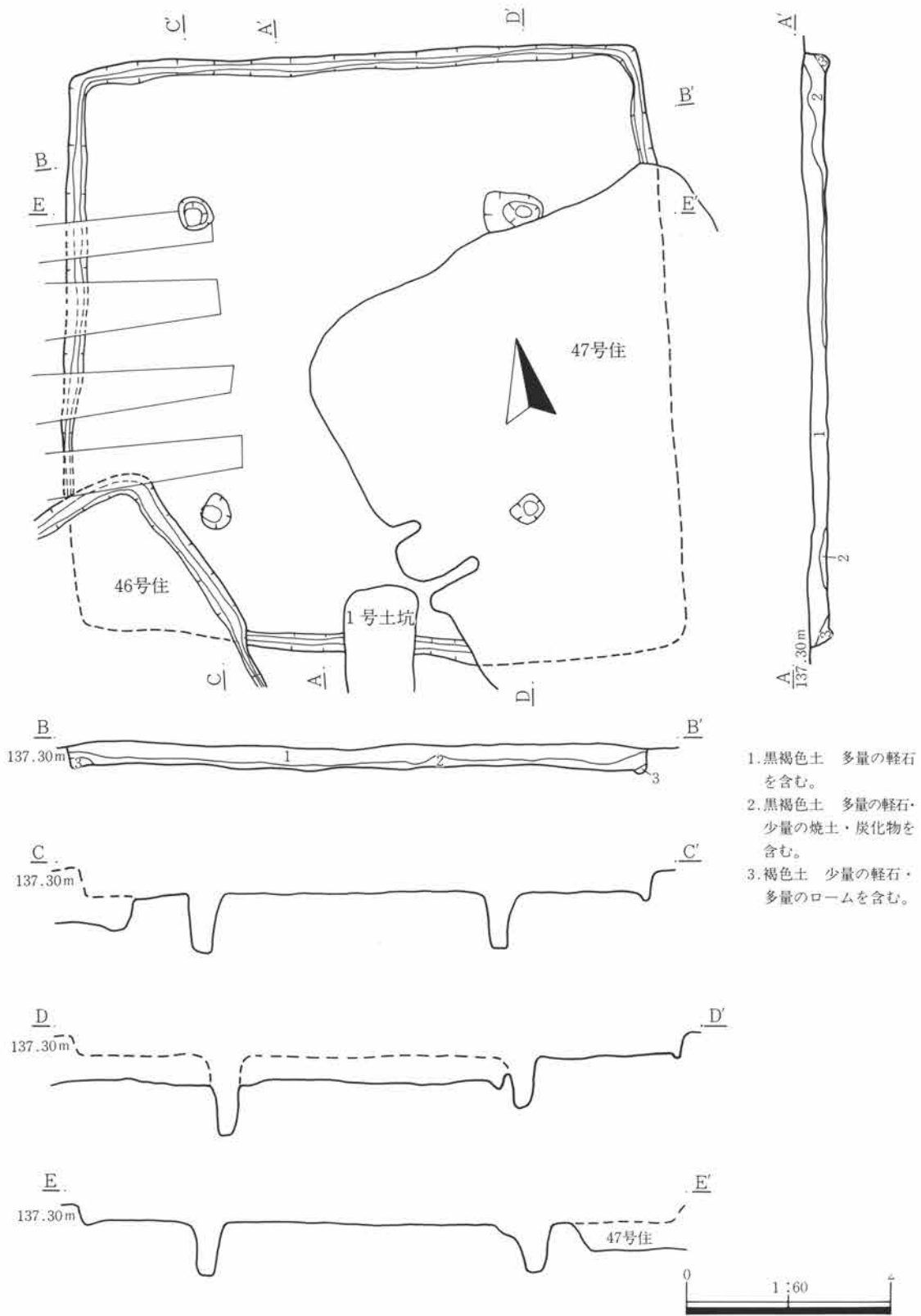
第145図 47号住居跡出土遺物

#### 48号住居跡（第146図、図版40）

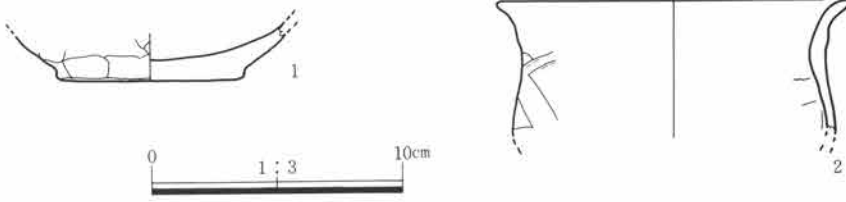
45号住居跡・46号住居跡・47号住居跡・1号土坑と重複し、32号住居跡が近接する。45号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により当住居跡が古い。47号住居跡との新旧関係は、覆土の相違・47号住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が古い。46号住居跡との新旧関係は不明である。1号土坑は、当住居跡より新しい。

当住居跡の規模は、東西約5.7m・南北約5.8mであり、平面形は隅丸方形を呈するものと推定できる。壁の立ち上りは約20cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されており、比較的硬い床であるが、重複とゴボウ穴により壊されている部分が多い。

主柱穴は4本である。床面からの深さは約50～80cmを測る。壁周溝は、住居の検出できた部分では全面的に掘られている。カマド部分を除き、全面的に巡るものであろうと推測している。カマドは不明である。遺物の出土は非常に少ないが、土師器の甕が検出できた。（井川）



第146図 48号住居跡



第147図 48号住居跡出土遺物

#### 49号住居跡（第148図、図版40）

50号住居跡と重複し、40号住居跡・41号住居跡が近接する。50号住居跡との新旧関係は、覆土の相違、カマドの残存状態から、当住居跡が新しい。

当住居跡の西側半分は調査区域外のため未調査であり、規模は不明であるが、南北は約3.9mである。主軸はN-91°-Eである。壁の立ち上りは約20~30cmである。床はローム層中に構築されており、比較的踏み固められた床である。柱穴・貯蔵穴は不明である。

カマドは東側壁の南東隅近くに構築されている。燃烧部は半分壁内であり、煙道部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は灰褐色粘土を素材にしているが、大部分が壊されていた。袖があったと考えられる部分からは、床面からの深さ約5cmの小ピットが2基検出できた。袖は灰褐色粘土だけでなく、石も使用していたと推定できる。壁周溝は不明である。

遺物の出土量は少ないが、土師器の杯が出土している。

（井川）

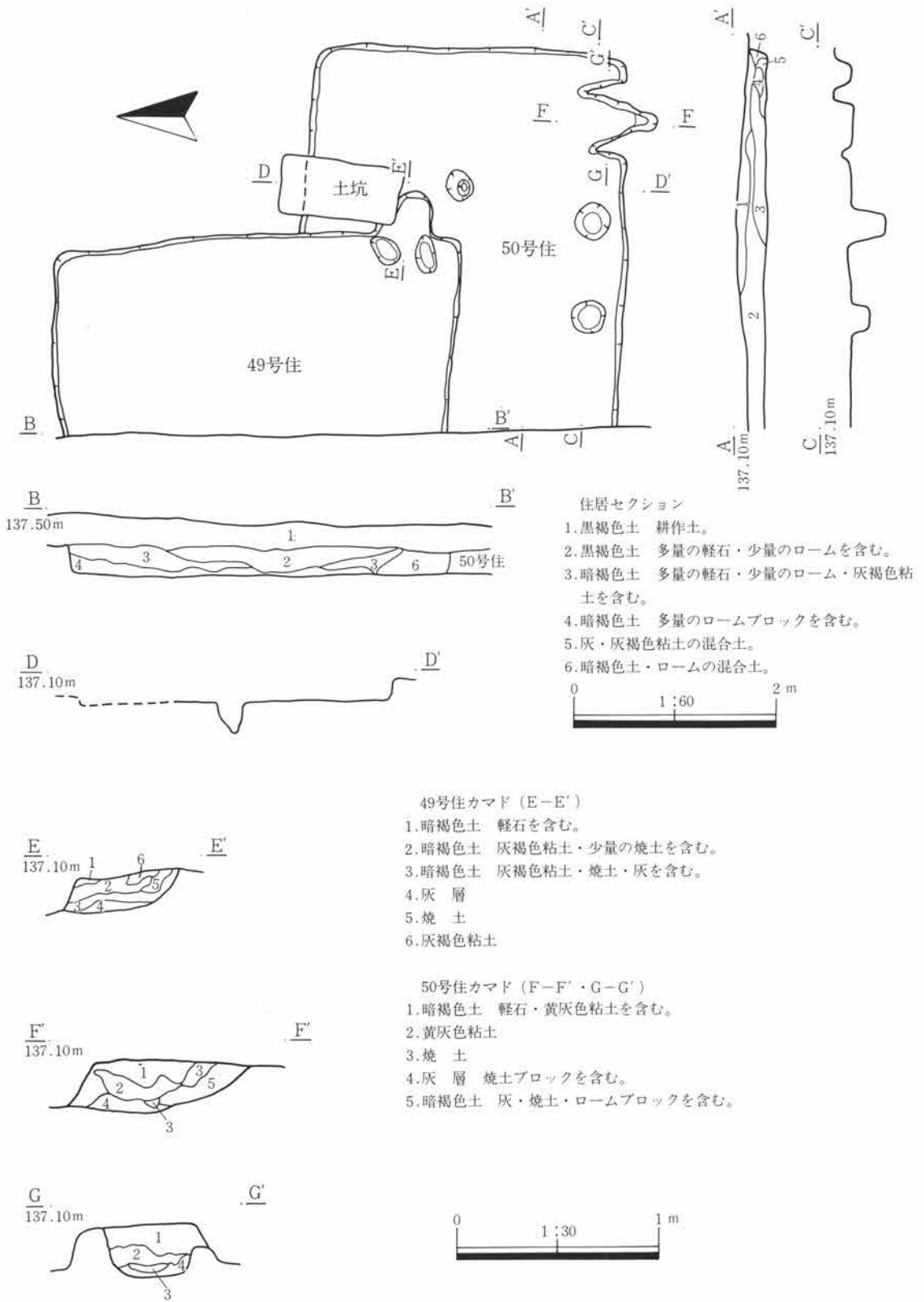
#### 50号住居跡（第148図、図版41）

49号住居跡と重複し、42号住居跡・51号住居跡が近接する。49号住居跡との新旧関係は、前述の通りである。

規模は49号住居跡との重複・西側が調査区域外にかかるために不明であるが、南北は約3.1mである。主軸は（東側壁との平行線を基準）N-175°-Wである。壁の立ち上りは約15~20cmであり、上面の大部分は破壊されている。床はローム層中に構築されている。柱穴は不明であるが、南側壁中央の際から2基、住居内中央部やや東寄りから1基、計3基のピットが確認できた。ピットの規模・平面形は直径約30~35cm・床面からの深さ約15~40cmであり、円形をしている。カマドの右側（西側）のピットは、貯蔵穴の可能性がある。壁周溝は不明である。

カマドは南側壁の南東隅近くに構築されている。燃烧部は半分が壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄灰色粘土を素材にして造られている。遺物の出土は非常に少ないが、土師器の杯・甕が出土している。

（井川）



住居セクション

1. 黒褐色土 耕作土。
2. 黒褐色土 多量の軽石・少量のロームを含む。
3. 暗褐色土 多量の軽石・少量のローム・灰褐色粘土を含む。
4. 暗褐色土 多量のロームブロックを含む。
5. 灰・灰褐色粘土の混合土。
6. 暗褐色土・ロームの混合土。



49号住カマド (E-E')

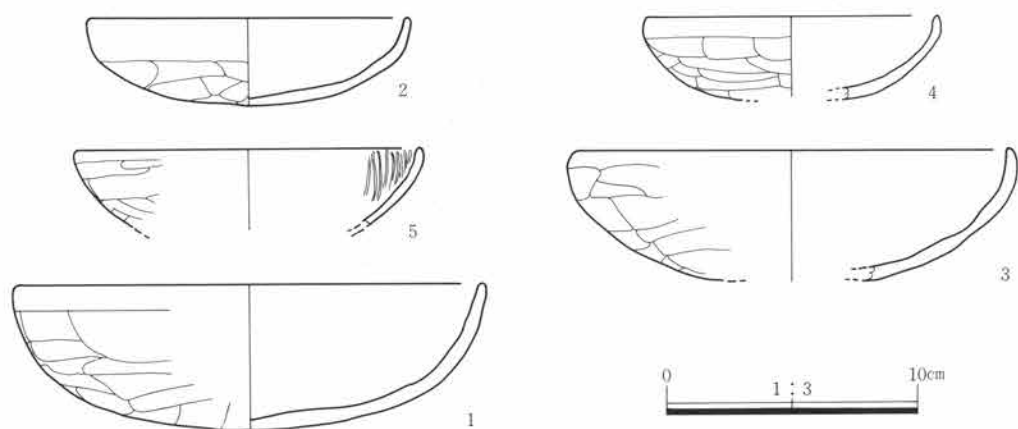
1. 暗褐色土 軽石を含む。
2. 暗褐色土 灰褐色粘土・少量の焼土を含む。
3. 暗褐色土 灰褐色粘土・焼土・灰を含む。
4. 灰 層
5. 焼土
6. 灰褐色粘土

50号住カマド (F-F'・G-G')

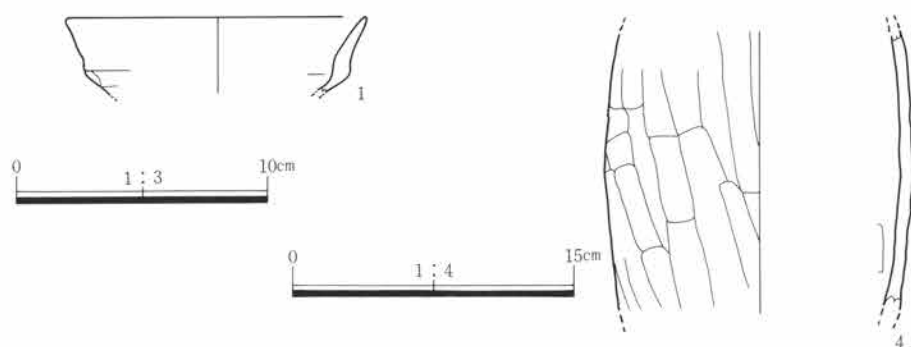
1. 暗褐色土 軽石・黄灰色粘土を含む。
2. 黄灰色粘土
3. 焼土
4. 灰 層 焼土ブロックを含む。
5. 暗褐色土 灰・焼土・ロームブロックを含む。



第148図 49号住居跡・50号住居跡



49号住居跡出土遺物



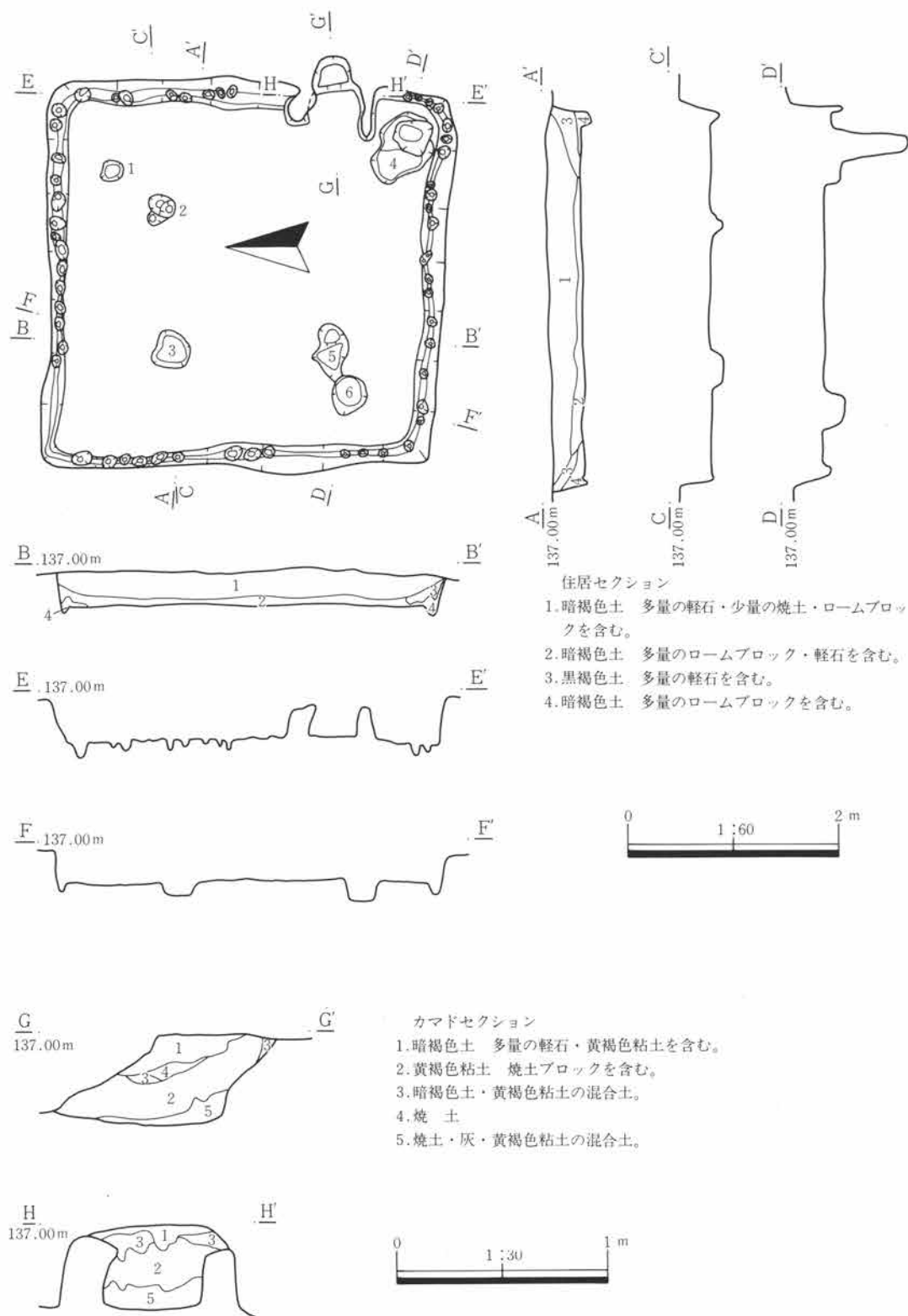
第149図 50号住居跡出土遺物

### 51号住居跡 (第150図、図版41・42)

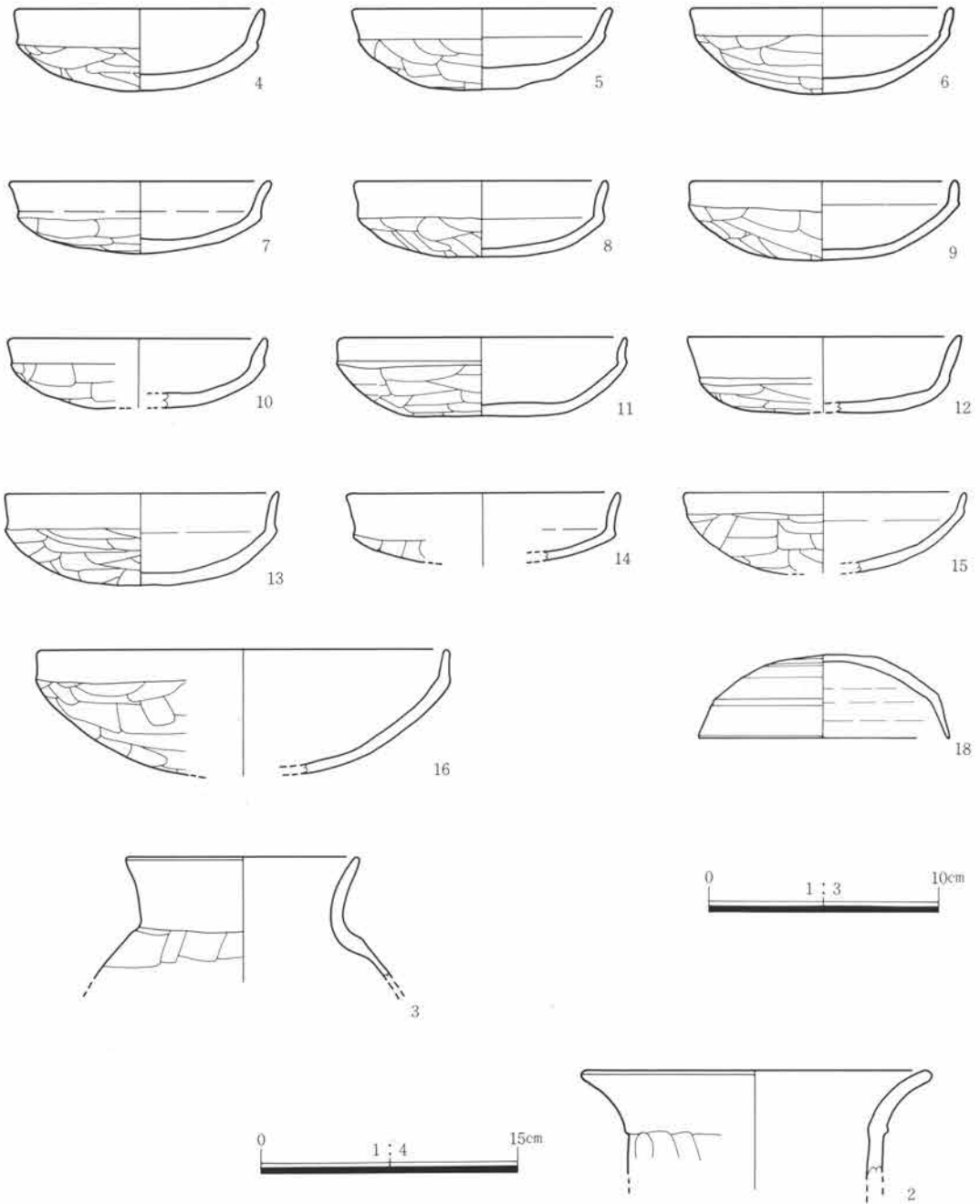
50号住居跡・52号住居跡・1号掘立柱跡が近接するが、重複はない。覆土は多量の軽石を含む暗褐色土である。

規模は東西約3.6m・南北約3.7mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-92°-Eである。壁の立ち上りは約30~40cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。住居内からは、北東部から2基・北西部から1基・南西部から2基・南東隅から1基、計6基のピットが検出できた。南東隅のピットは貯蔵穴と考えられる。他のピットを柱穴とすることも可能であるが、不自然な部分も残る。ピット2・ピット3・ピット5又はピット6を柱穴とすれば、南東部の柱穴の存在が問題であるが、ピット4の一部を柱穴と考えることもできる。ピットは不定形であり、ピット4を除き、床面からの深さは約10~20cmと浅い。壁周溝は、カマド部分を除いて、全面的に掘られている。特徴的なのは、壁周溝に沿って直径約10cm前後、壁周溝底面からの深さ約5~10cmの小ピットが並ぶことである。壁の崩壊防止用土留板を支える杭の跡と考えている。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約20

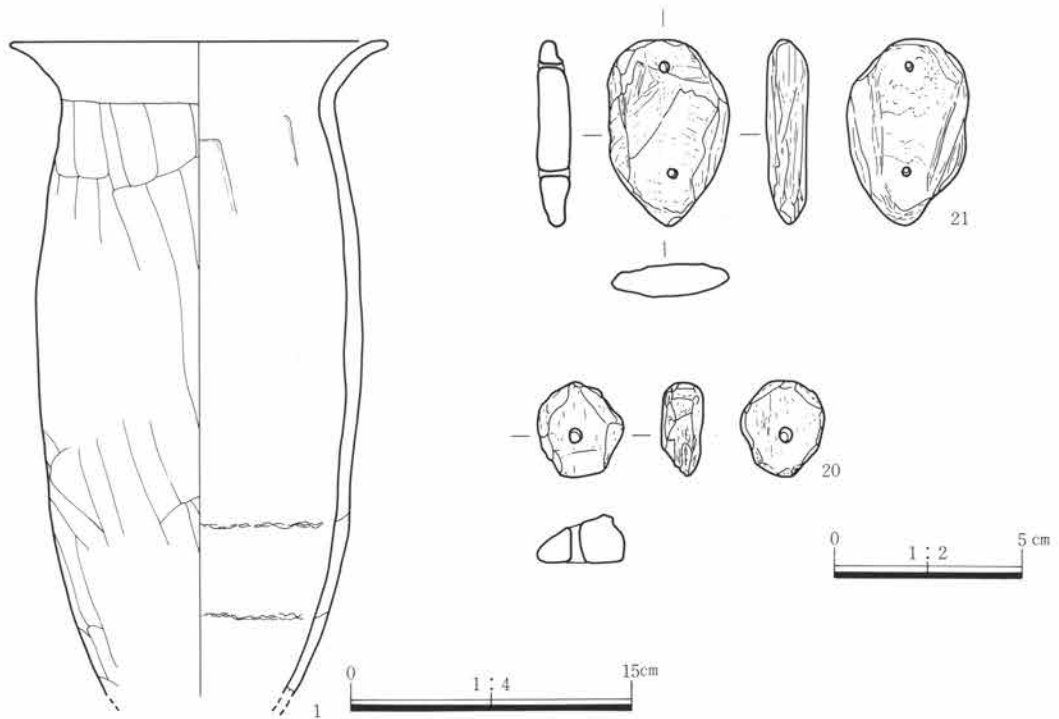


第150図 51号住居跡



第151図 51号住居跡出土遺物①

cmである。袖は黄褐色粘土を素材にしている。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長さ30cm・床面からの深さ約70cmであり、不定形である。遺物はカマドの周辺から集中して出土している。遺物は、土師器の杯・甕、須恵器の蓋の他、滑石片岩製のペンダントが2点出土している。(井川)



第152図 51号住居跡出土遺物②

52号住居跡 (第153図、図版42・43)

1号掘立柱跡と重複し、44号住居跡・51号住居跡・55号住居跡が近接する。1号掘立柱跡との新旧関係は不明である。覆土は褐色土である。

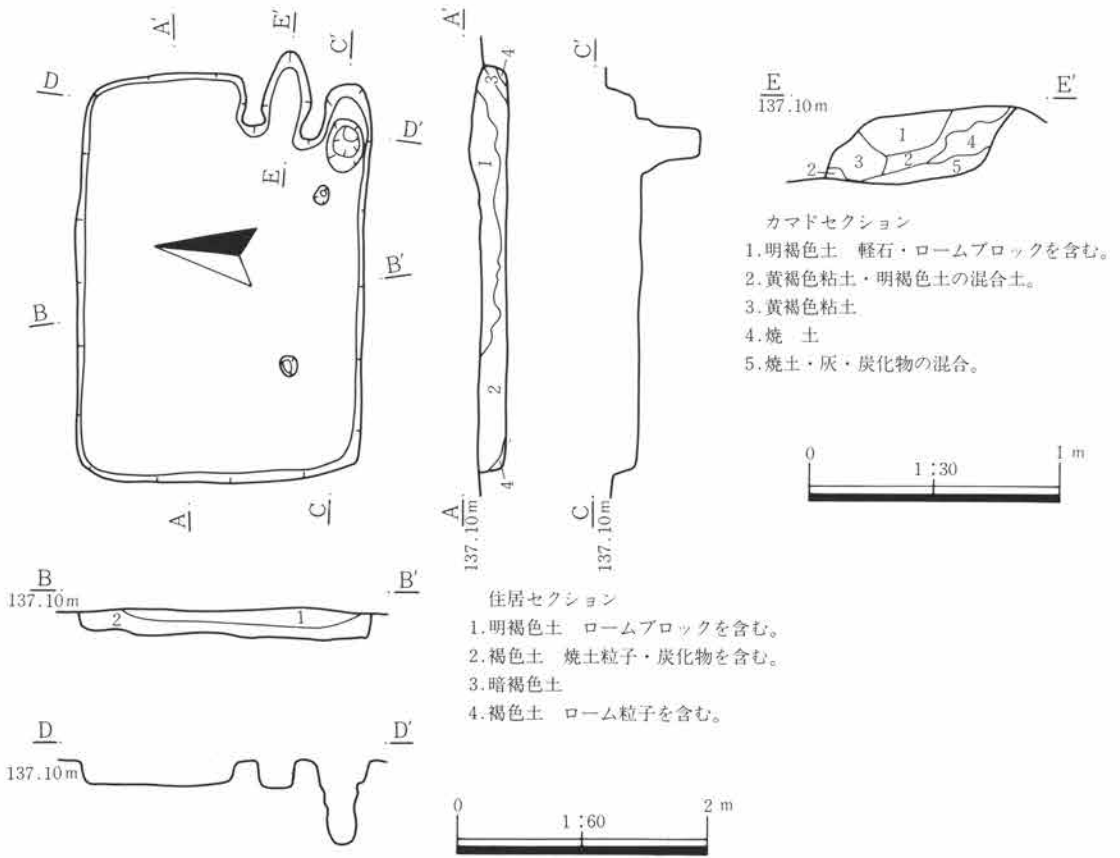
規模は東西約3.2m・南北約2.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。壁の立ち上りは約15~25cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されている。貯蔵穴の西側から1基・南西部から1基、計2基の小ピットが確認できた。規模は直径約10~15cm・床面からの深さ約15~20cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴とするには、規模・形態・位置などに問題が残る。壁周溝は確認できなかった。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは、確認面で約30cmである。袖は黄褐色粘土を素材にしている。

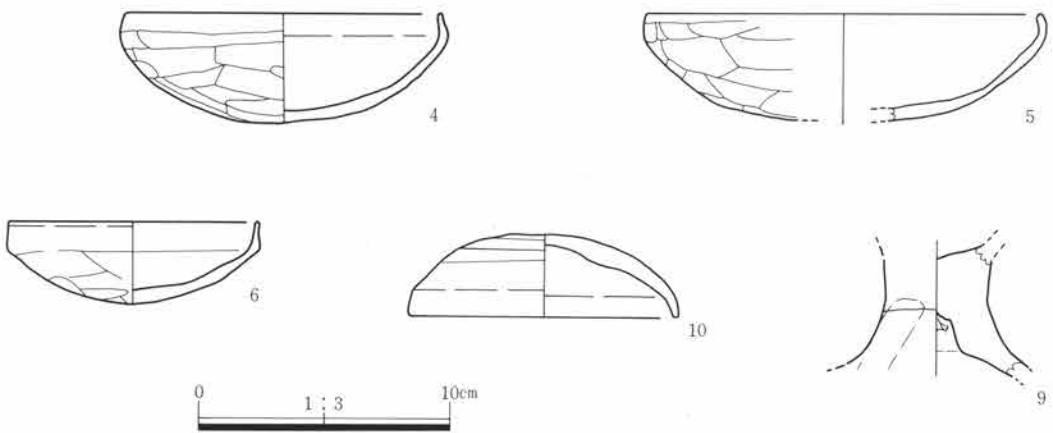
貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約40cm・短軸約30cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約50cmである。遺物の出土は少ないが、土師器の杯・高杯・甕、須恵器の蓋の他、刀子が出土している。

(井川)

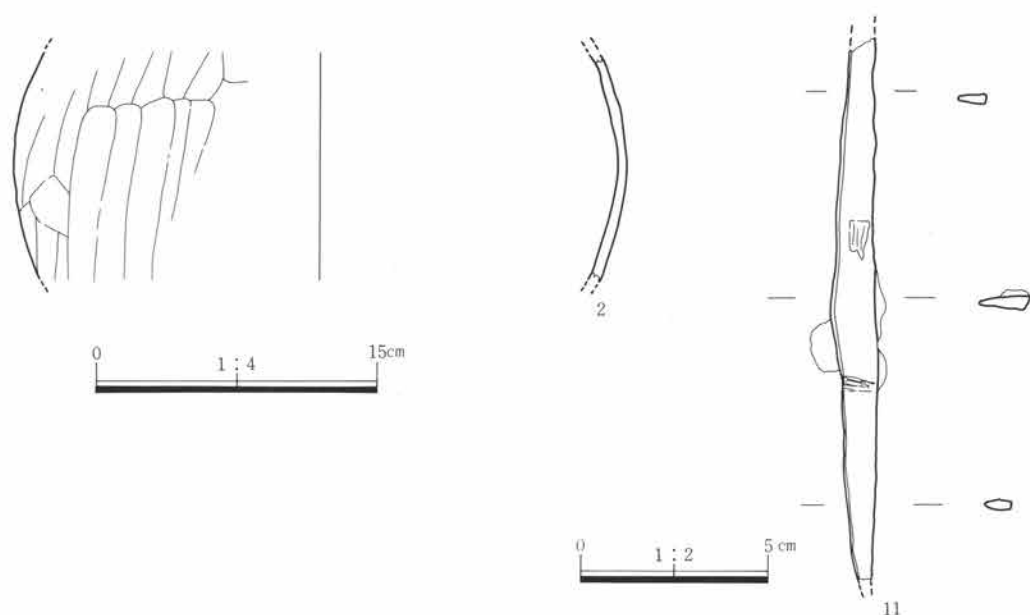




第153図 52号住居跡



第154図 52号住居跡出土遺物①



第155図 52号住居跡出土遺物②

#### 53号住居跡（第156・157図、図版43・44）

54号住居跡・55号住居跡と重複し、2号井戸跡が近接する。54号住居跡との新旧関係は、覆土の相違・当住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が新しい。55号住居跡との新旧関係も、覆土の相違から、当住居跡が新しい。

規模は東西約5.1m・南北約3.1mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-93°-Eである。壁の立ち上りは約40~50cmを測る。床はローム層中に構築されており、踏み固められた床である。柱穴・壁周溝は確認できなかった。

カマドは東側壁に構築されており、燃烧部は壁内にある。袖は黄褐色粘土を素材にしている。カマドの前面に、規模が直径約60cm・床面からの深さ10cmの円形を呈する皿状のピットがある。灰の掻き出し坑であろう。南東隅に直径30cm・床面からの深さ約70cmのピットがあるが、貯蔵穴と考えている。遺物は、カマド付近に集中しており、土師器の杯・甕などが出土している。（井川）

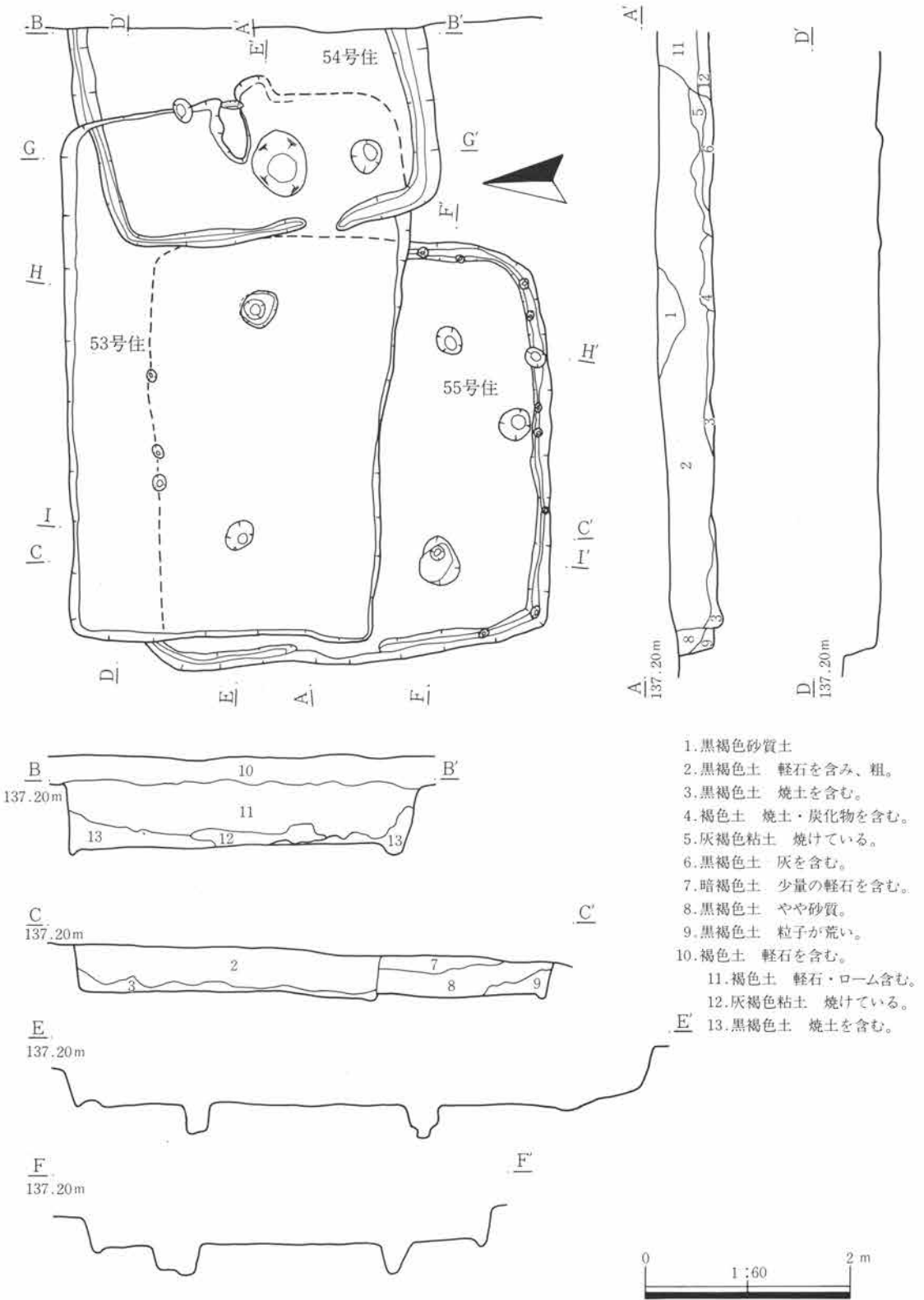
#### 54号住居跡（第156・157図、図版43・44）

53号住居跡・55号住居跡が重複する。53号住居跡との新旧関係は、前述の通り当住居跡が古い、55号住居跡との新旧関係は不明である。

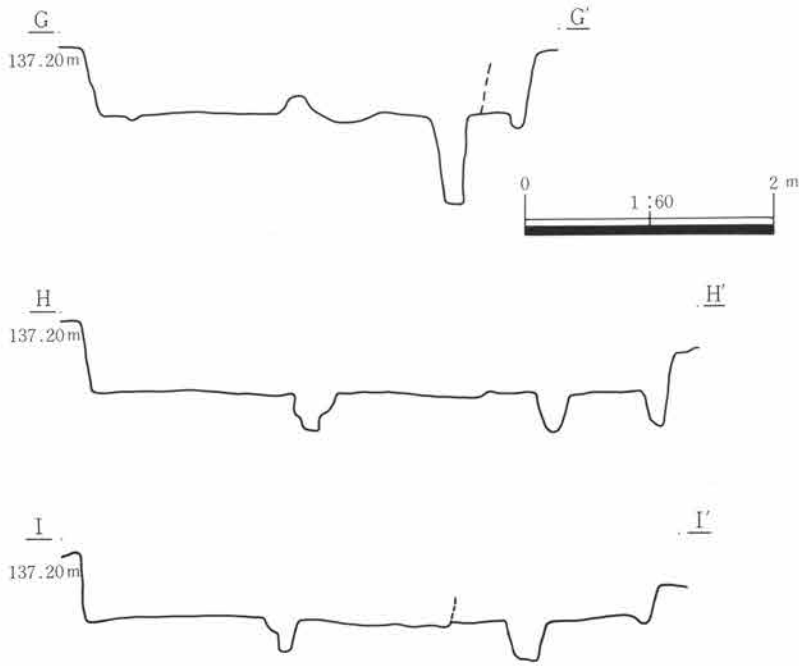
当住居跡の東側半分は調査区域外になるために、規模は不明であるが、南北は約3.5mである。壁の立ち上りは約50cmを測る。床はローム層中に構築されている。調査範囲での壁周溝は、西側の中央部を除いて、掘られている。柱穴・カマド・貯蔵穴は不明である。

遺物の出土は少ないが、土師器の杯・甕が出土している。

（井川）



第156図 53号住居跡・54号住居跡・55号住居跡



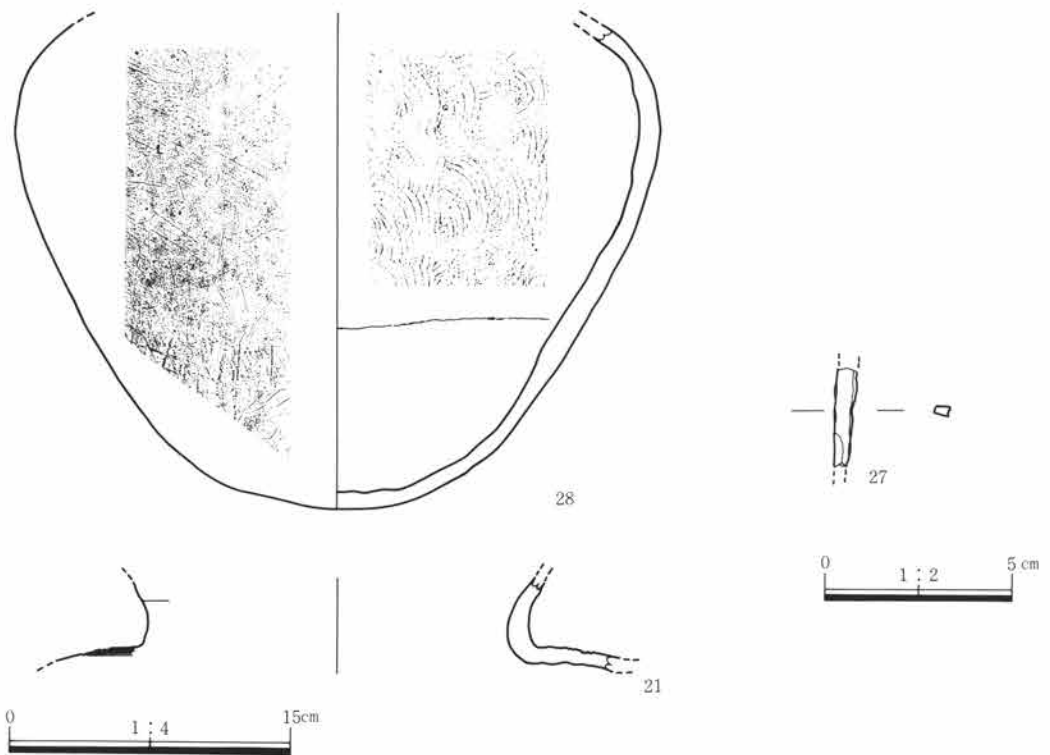
第157図 53号住居跡・54号住居跡・55号住居跡エレベーション

55号住居跡 (第156・157図、図版43・44)

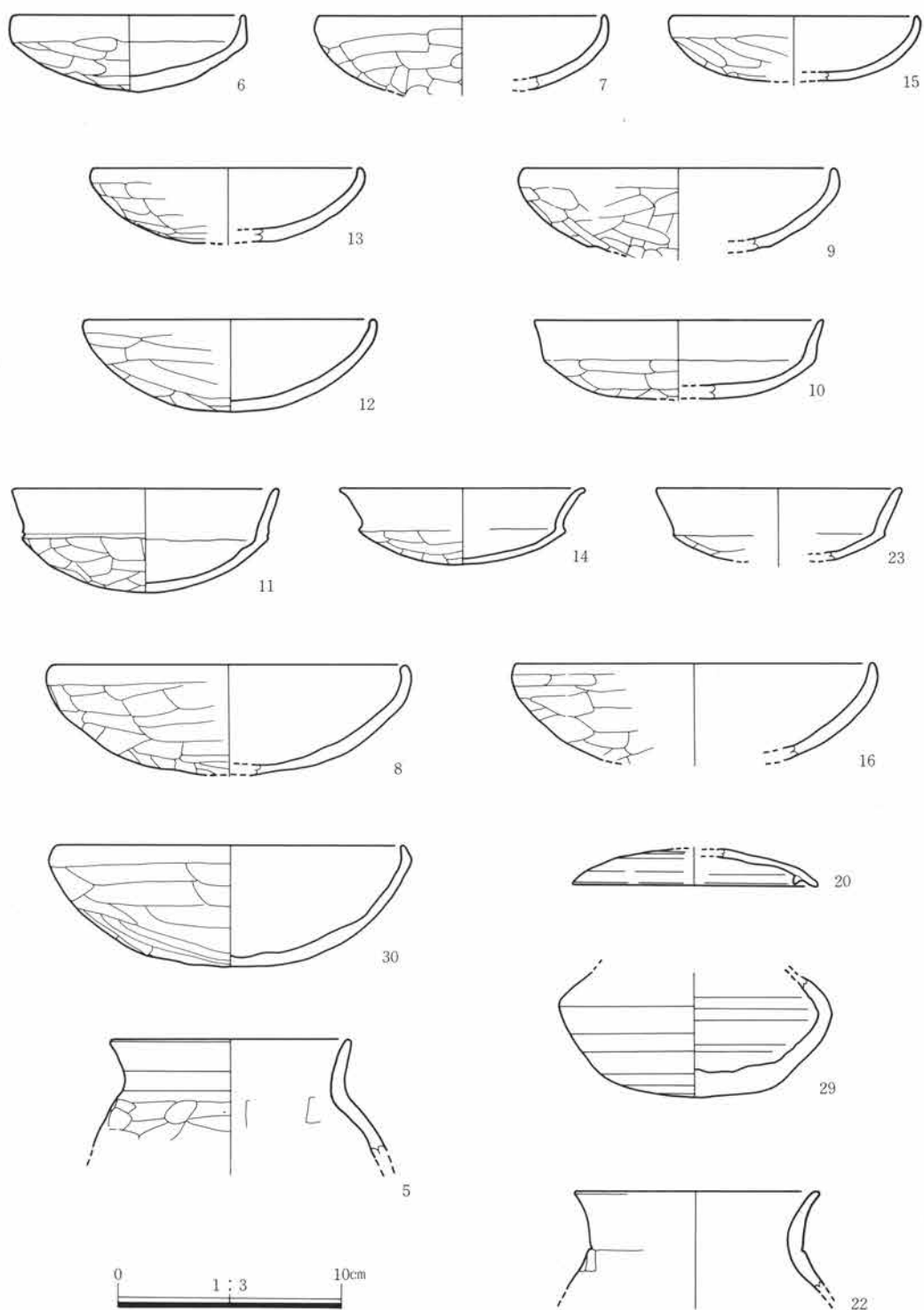
53号住居跡・54号住居跡と重複する。前述の通り、53号住居跡との新旧関係は、当住居跡が古く、54号住居跡との新旧関係は不明である。

北側を53号住居跡に破壊されており、規模は不明であるが、東西は約4.0mである。壁の立ち上りは約30cmである。床はローム層中に構築されている。

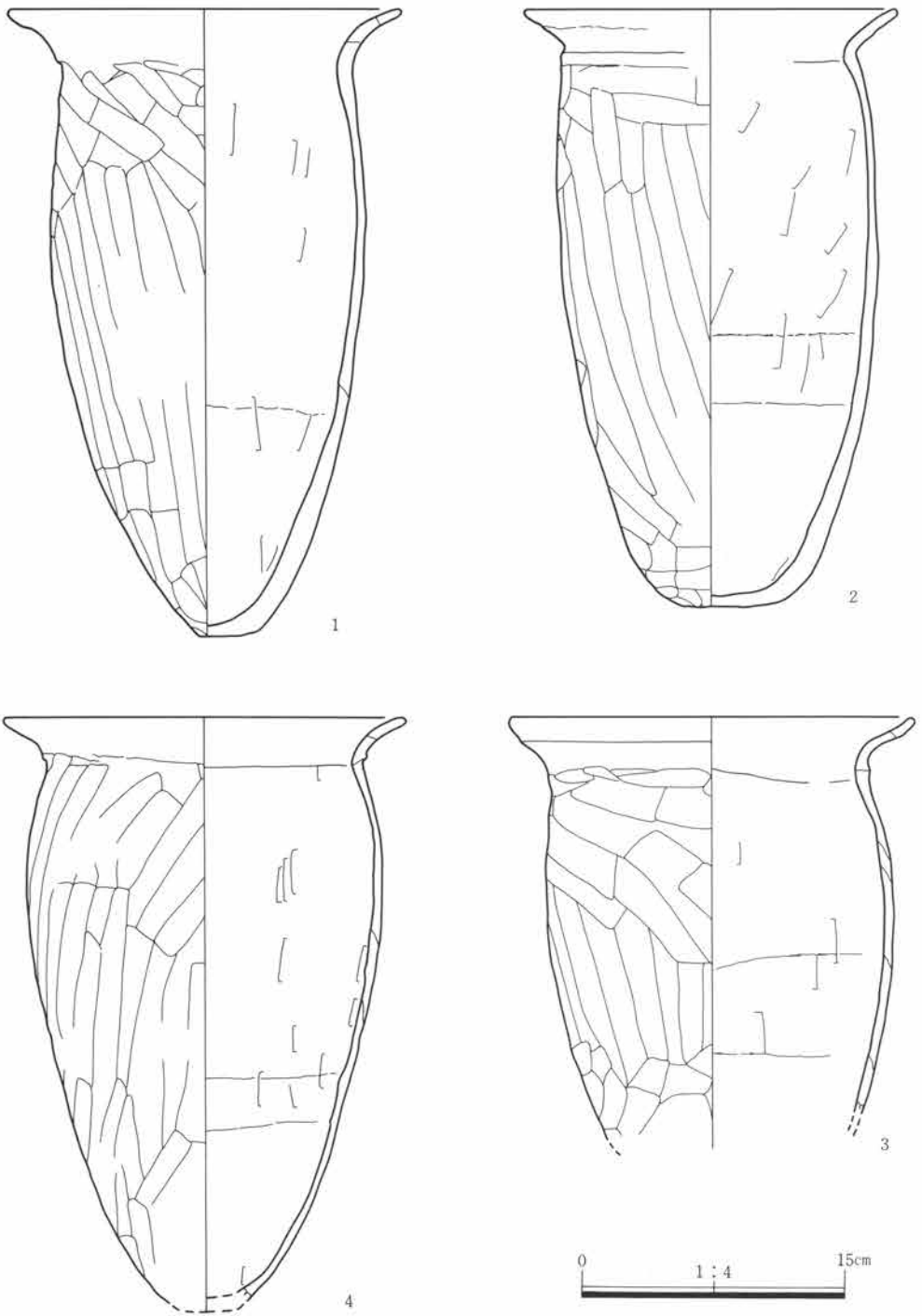
支柱穴は4本である。規模は直径約25~40cmであり、平面形は不整形な円形



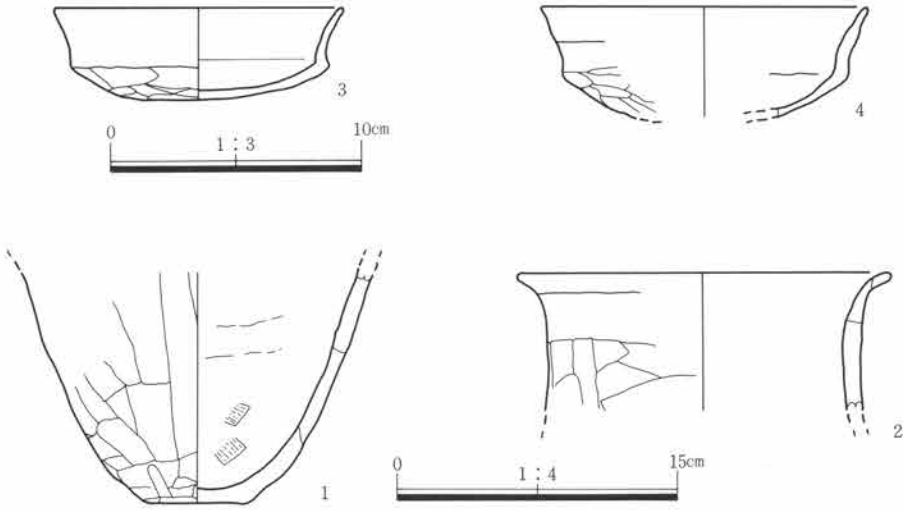
第158図 53号住居跡出土遺物①



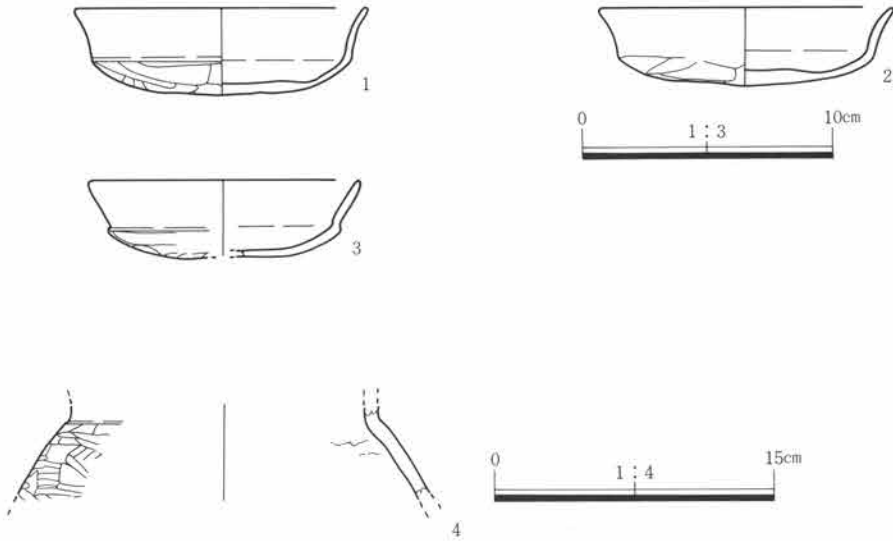
第159図 53号住居跡出土遺物②



第160図 53号住居跡出土遺物③



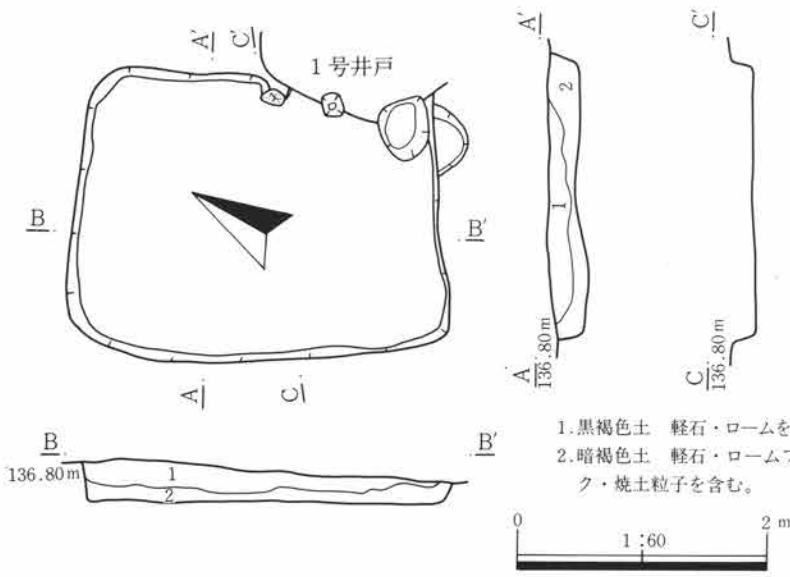
54号住居跡出土遺物



第161図 55号住居跡出土遺物

を呈する。床面からの深さは約30cmである。53号住居跡との重複部分を除き、住居内全体から壁周溝は確認できたが、54号住居跡と同様に、南側壁の中央部分からは検出できなかった。出入口との関係も考慮する必要がありそうである。部分的にはあるが、壁の崩壊防止用の土留板を支える杭の跡と考えられる小ピットを、南東部中心に確認できた。

カマド・貯蔵穴は不明である。遺物は少ないが、土師器の杯・甕が出土している。 (井川)

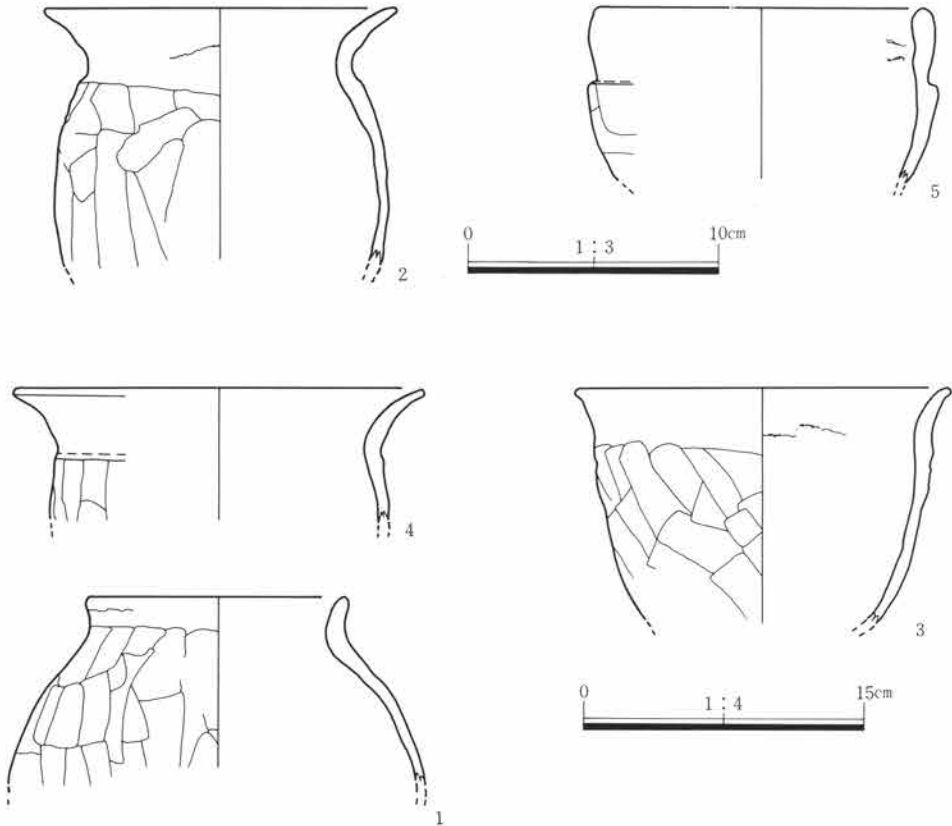


56号住居跡(第162図、図版44)

57号住居跡・1号井戸跡・3号掘立柱跡・4号掘立柱跡と重複する。57号住居跡との新旧関係は、同住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が古い。1号井戸跡との新旧関係は、覆土の相違・当住居跡のカマドの状態から当住居跡が古い。3号掘立柱跡・4号掘立柱跡との新旧関係は不明である。

- 1. 黒褐色土 軽石・ロームを含む。
- 2. 暗褐色土 軽石・ロームブロック・焼土粒子を含む。

第162図 56号住居跡



第163図 56号住居跡出土遺物



規模は東西約2.3m・南北約3.0mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-59°-Eである。壁の立ち上りは約20~30cmであり、床はローム層中に構築されている。柱穴・壁周溝は確認できなかった。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。大部分が1号井戸跡に破壊されており、袖の一部を確認しただけである。袖は粘土を素材にして、先端を石で固めている。南東隅からピットが1基確認できた。規模は長軸約50cm・短軸約40cm・床面からの深さは約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴と考えている。遺物は少ないが、土師器の甕などが出土している。(井川)

57号住居跡 (第164図、図版45)

56号住居跡と重複し、3号掘立柱跡・4号掘立柱跡・1号井戸跡が近接する。56号住居跡との新旧関係は、前述の通り、当住居跡が新しい。

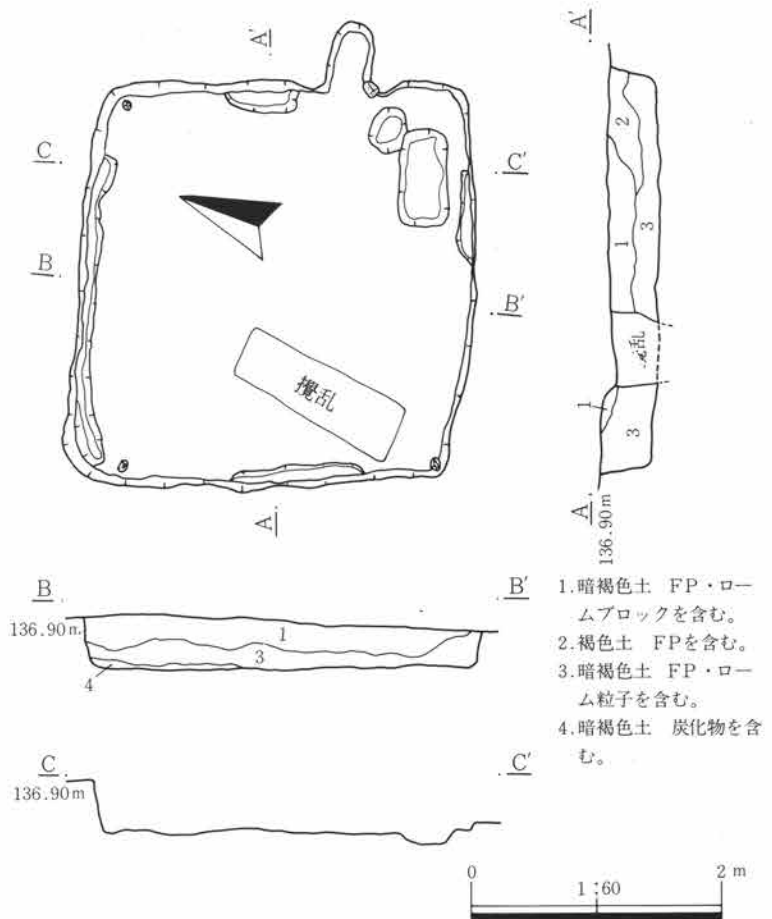
規模は東西約3.2m・南北約3.0mであり、平面形は歪んだ隅丸長方形を呈する。主軸はN-75°-Eである。壁の立ち上りは約20~40cmである。床はローム層中に構築されており、比較的硬く踏み固められている床である。柱穴は確認できなかったが、南東部を除く各隅から直径約5~10cm・床面からの深さ約10cmのピットが3基確認できた。

柱穴より、壁の崩壊防止用土留板を支える杭の跡と考えている。壁周溝は確認できたが、断続的であった。

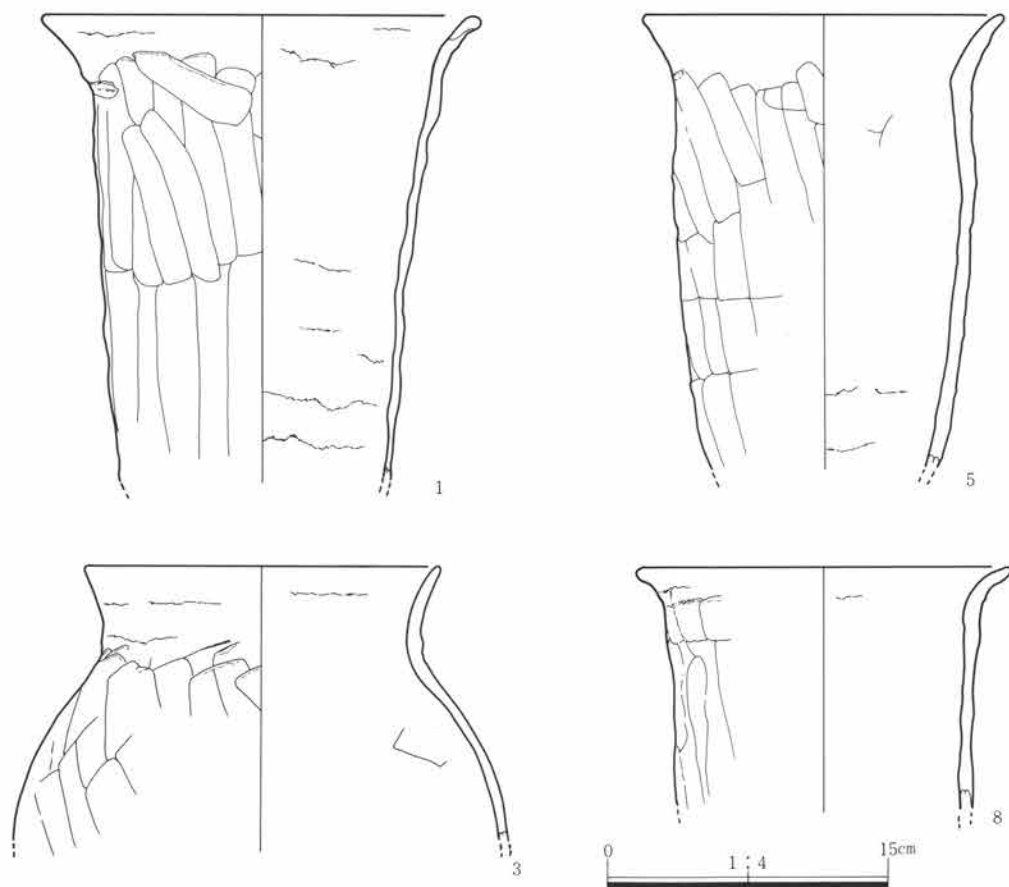
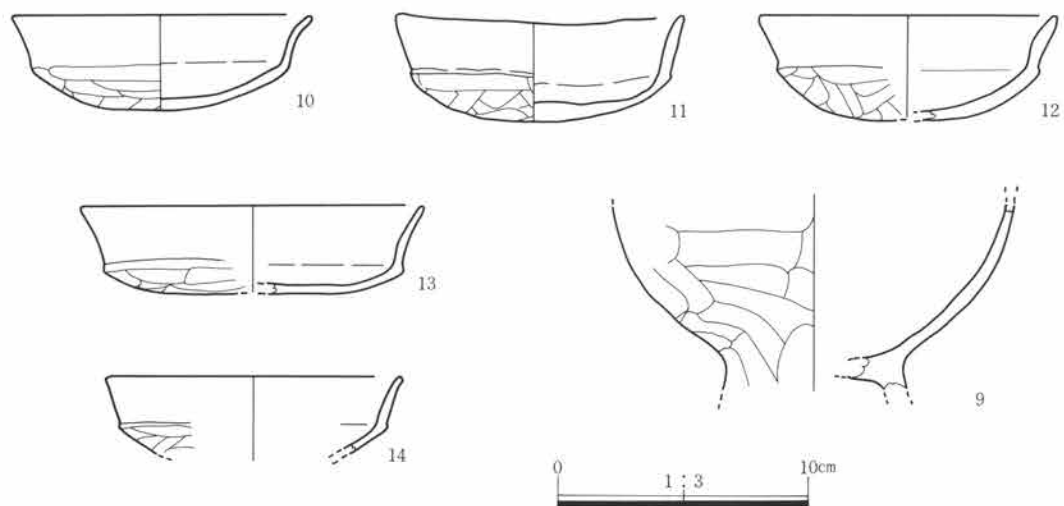
カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部の半分は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖はほとんど確認できなかったが、粘土を素材にしている。

カマドの右側からピットが2基確認できた。カマド寄りのピットは、直径約35cm・床面からの深さ約5cmであり、皿状である。南側のピットは長辺約75cm・短辺約40cm・床面からの深さは10cmであり、長方形を呈する。両ピット共に、貯蔵穴とは考えにくい。遺物は土師器の杯・甕などが出土している。

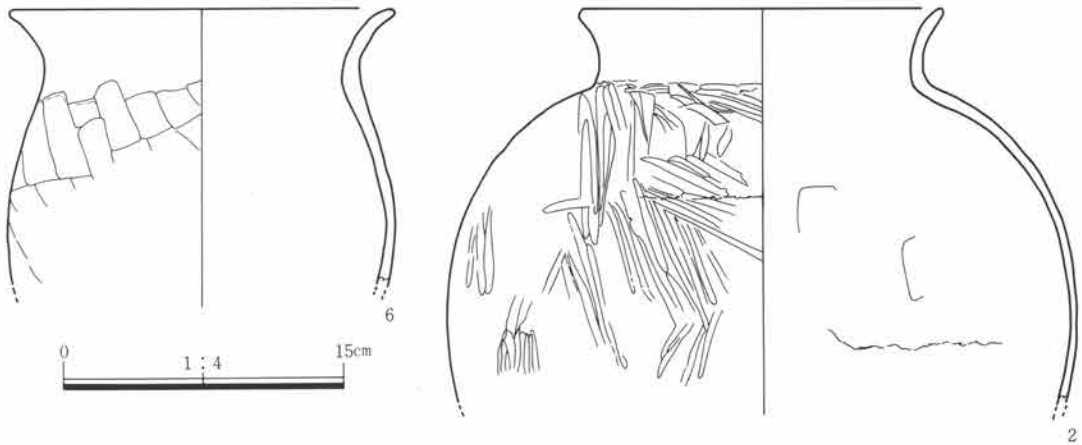
(井川)



第164図 57号住居跡



第165図 57号住居跡出土遺物①



第166図 57号住居跡出土遺物②

## 58号住居跡 (第167・168図、図版45・46)

59号住居跡と重複し、60号住居跡・4号掘立柱跡が近接する。59号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。

当住居跡の規模は東西約6.3m・南北約5.4mであり、平面形は胴の張った隅丸長方形を呈する。主軸はN-12°-Wである。壁の立ち上りは約40~50cmであり、残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

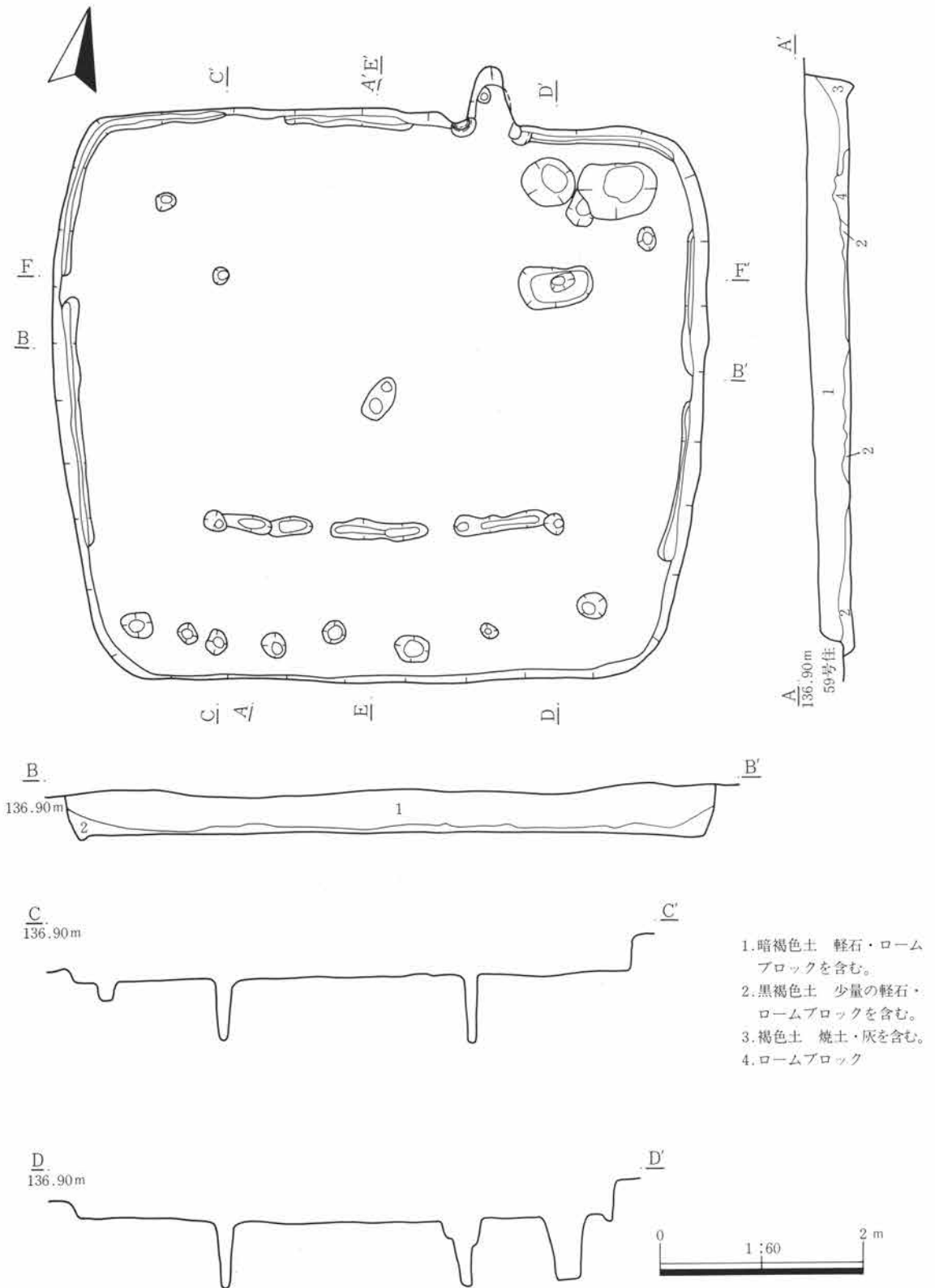
主柱穴は4本である。規模は直径約15~20cm・床面からの深さ約60~70cmであり、平面形は円形を呈する。各柱穴の対角線上外側に4基のピットが確認でき、対角線の交点付近にもピットが1基確認できた。規模は直径約15~30cm・床面からの深さ約15~30cmであり、平面形は円形を呈する。補助的な柱が立っていた可能性がある。壁周溝は断続的に掘られているが、南側壁からは確認できなかった。その他、南側主柱穴の間からは溝が確認でき、南側壁に沿ってピットが6基確認できた。

カマドは北側壁の東寄りに構築されている。燃烧部は壁外にあり、煙道部末端は壁外へ約50cm張り出している。袖はほとんどないが、甕が袖として利用されていた。カマドが壁外に張り出し、壁から掘り込みへの転換点に甕が2個体(左袖:58住-3・右袖:58住-4)が逆さに置かれていた。また、袖先端から奥へ約40cm、カマドの中心線よりやや西よりから甕(58住-8)が逆さに置かれていた。支脚に使用された可能性がある。

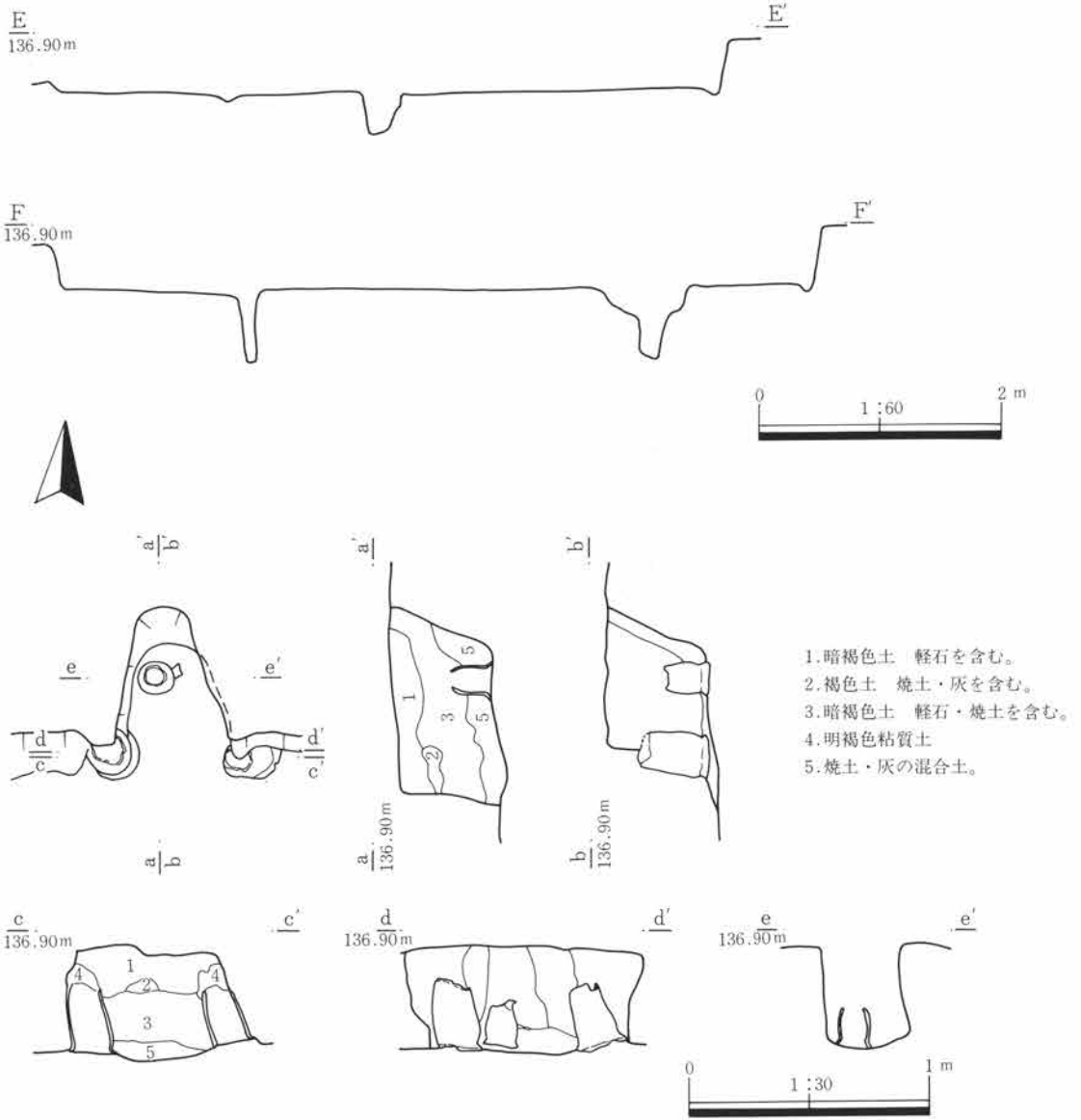
カマド右側・北東隅からピットが2基検出できた。カマド寄りのピットは直径約50cm・床面からの深さ約45cmで円形を呈し、他のピットは長軸約80cm・短軸約50cm・床面からの深さ約70cmで不整形な楕円形を呈する。両ピット共に貯蔵穴として使用されたものと考えている。

遺物はカマド・貯蔵穴中心に多く出土している。遺物は土師器の杯・甕・甗、須恵器の蓋の他、鉄製の鍬先・鎌が出土している。

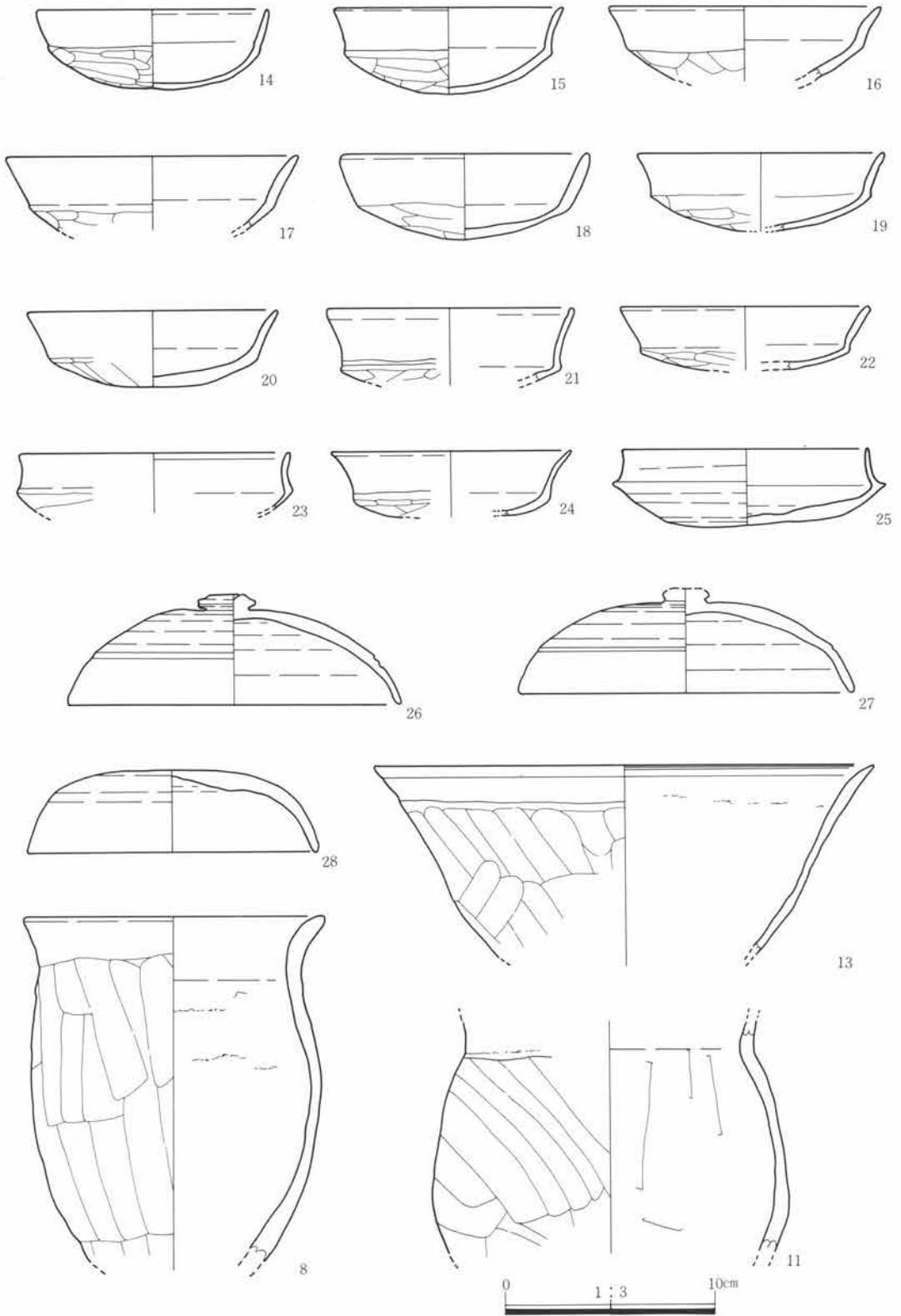
(井川)



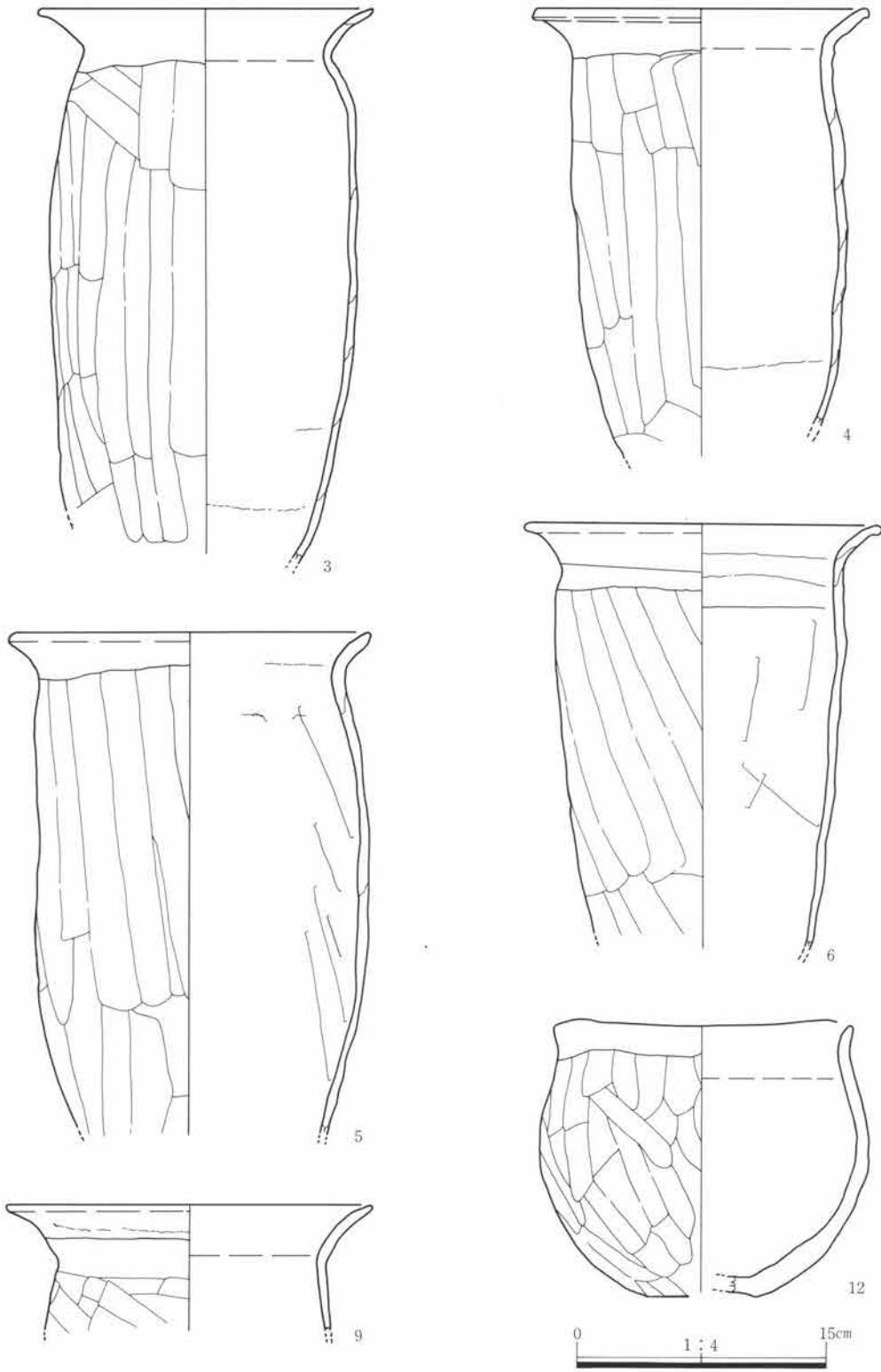
第167図 58号住居跡



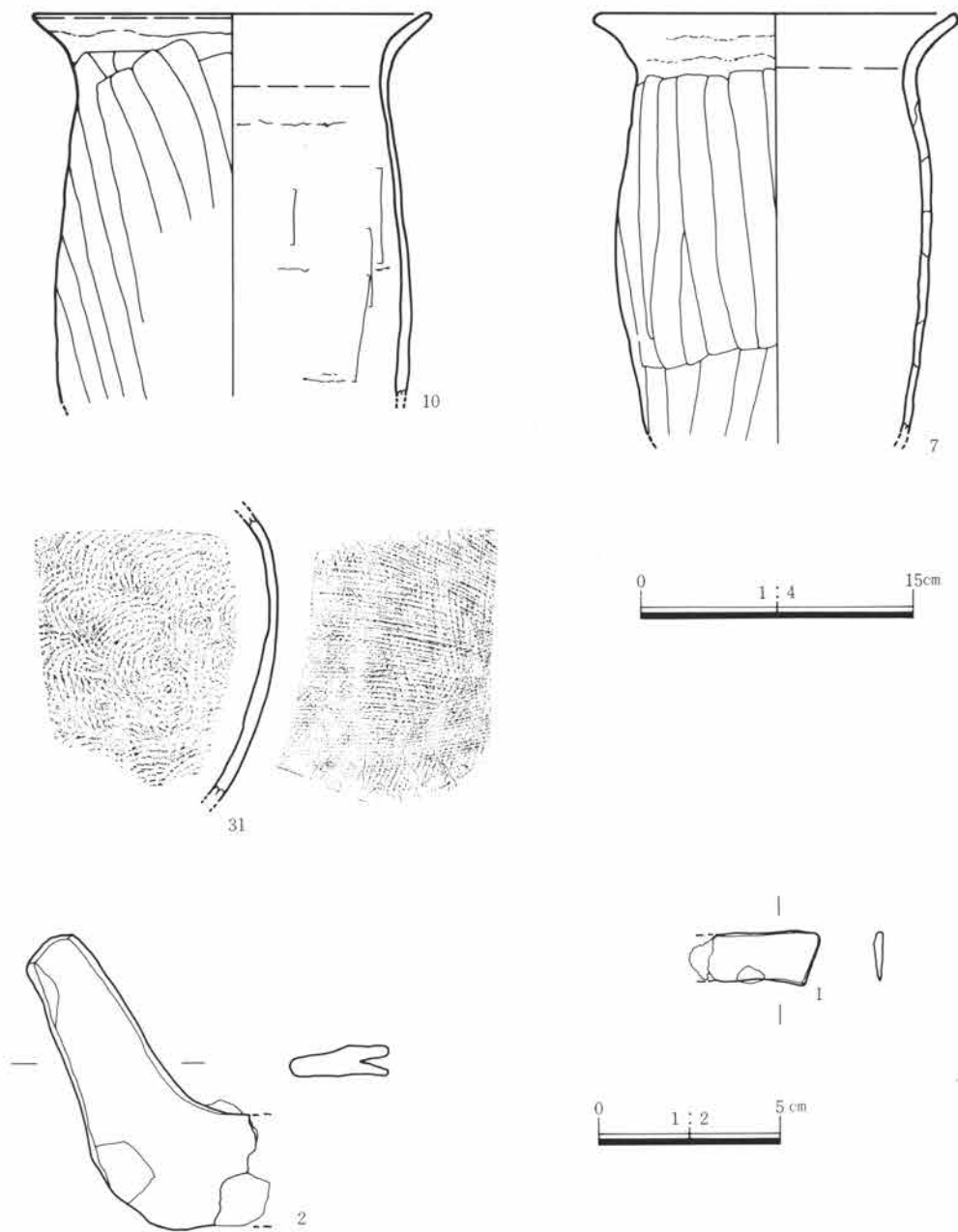
第168図 58号住居跡エレベーション・カマドセクション



第169図 58号住居跡出土遺物①



第170図 58号住居跡出土遺物②



第171図 58号住居跡出土遺物③



59号住居跡 (第172図、図版46・47)

当住居跡は58号住居跡・60号住居跡と重複関係にある。南側には7号掘立柱跡が近接する。東側には遺構が検出されない地域が広がる。

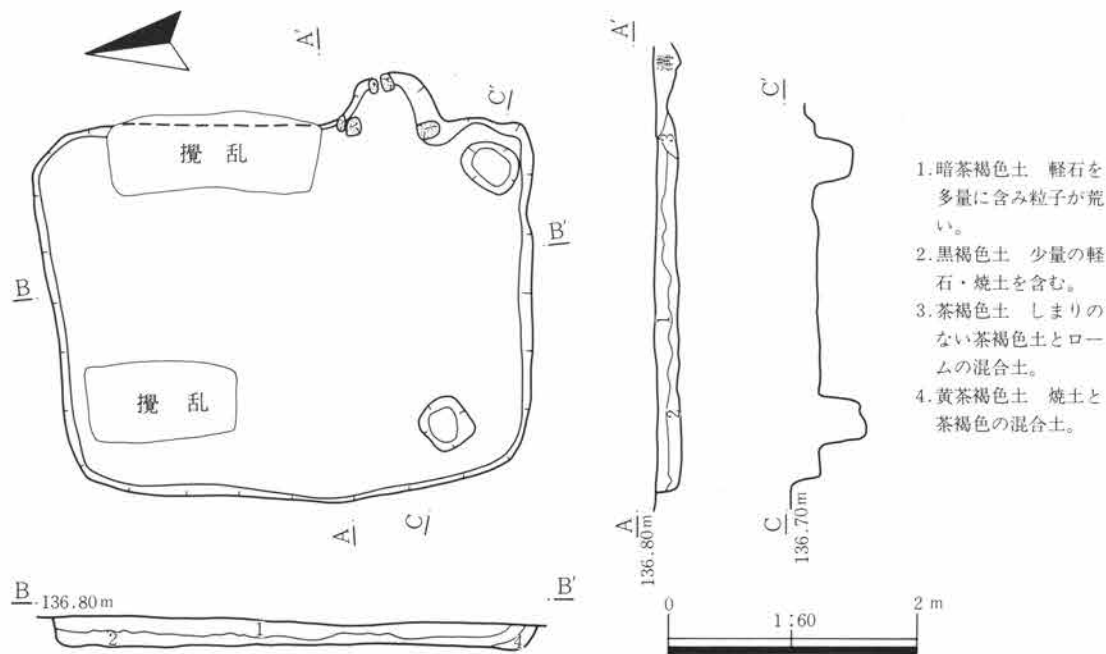
規模は南北約3.9m・東西約2.9m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-95°-Eである。壁は緩やかな傾斜をもち、床面は平坦で堅緻。貯蔵穴は東南隅に位置する。35×45cmの楕円形を呈し、深さ30cm。底面は平底で22×32cmである。遺物はほとんど出土せず。土師器の杯(59住-5)が出土するぐらいである。柱穴は西南隅に1本検出された。大きさは42×46cm・深さ35cmで、平面形は円形を呈する。遺物はほとんど出土していない。

カマドは東辺南寄りに構築されている。凝灰岩の袖石がカマドの先端に3個出土する。焼土・灰は底面に薄く堆積する。遺物は床直より土師器の甕(59住-1・3)・小型甕(59住-2)などを出土する。

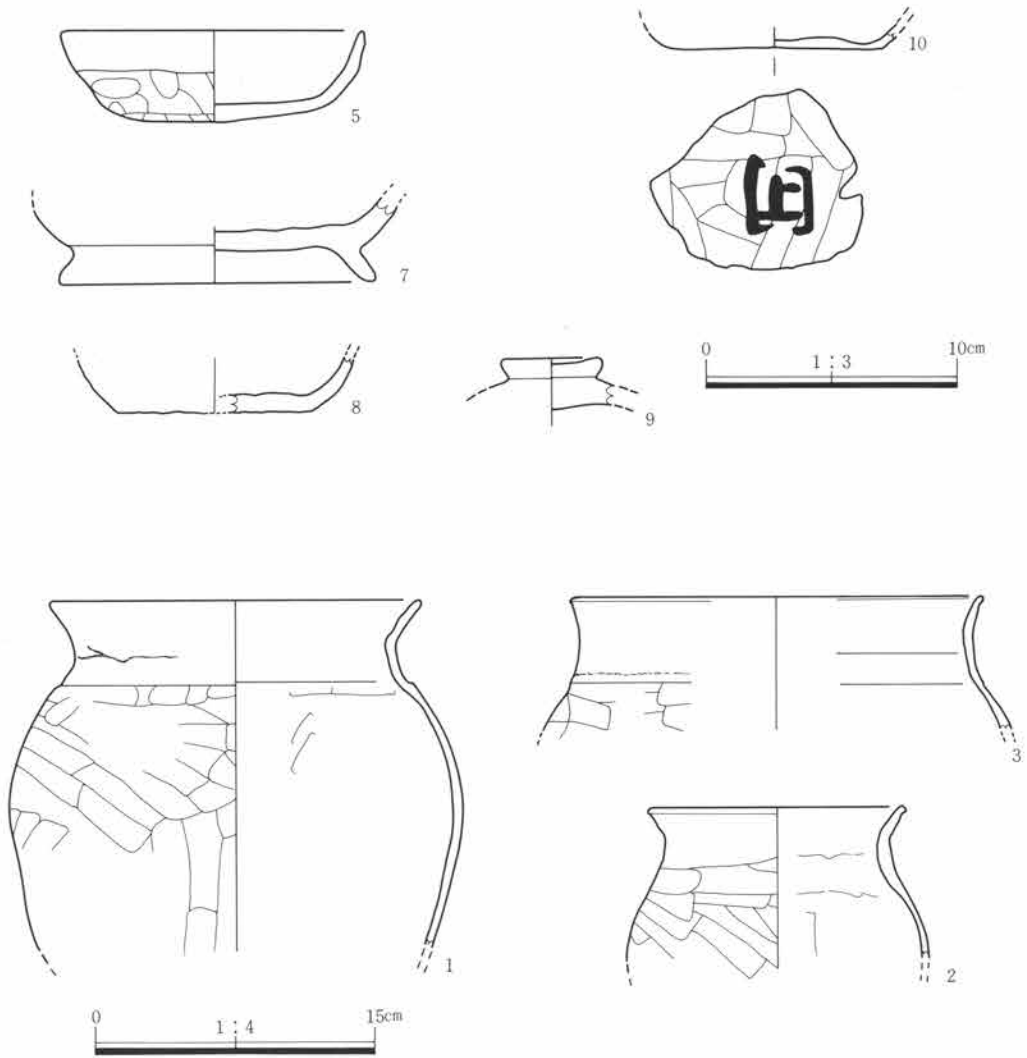
遺物の出土数は全体的に少ない。住居中央より須恵器の椀(59住-7)・杯(59住-8)、覆土より須恵器の蓋(59住-9)を出土する。南壁中央より墨書土器の杯の破片を出土する。文字は「〔上〕」と読める。杯の底部外面に書かれている。

当住居跡は東辺と北西部に攪乱をうける。カマドの東側は浅い溝が検出され、カマドの先端は削られている。切り合い関係により、58号住居跡・60号住居跡より新しい。浅い溝は当住居跡より新しい。

(宮下)



第172図 59号住居跡



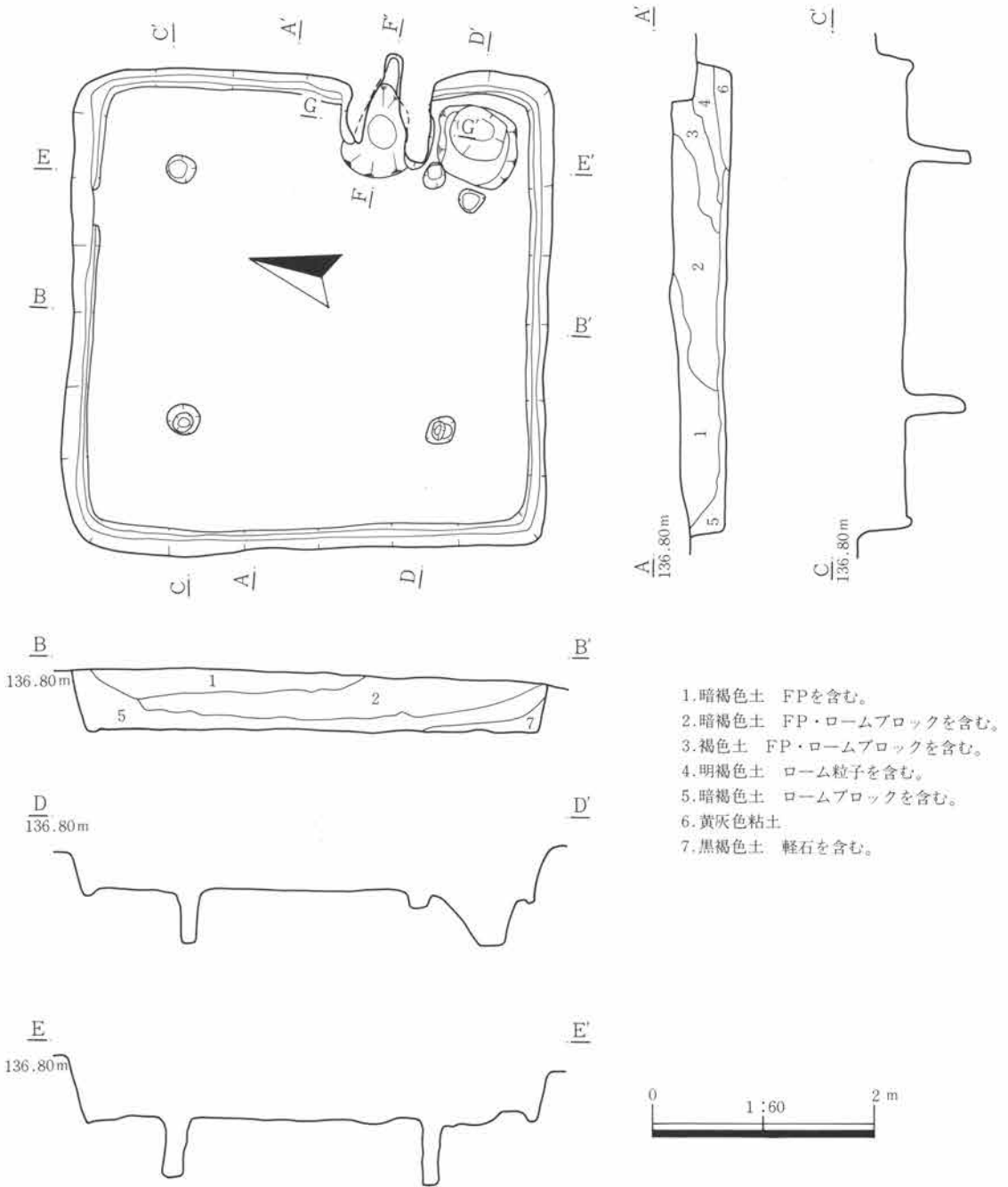
第173図 59号住居跡出土遺物

60号住居跡 (第174・175図、図版47・48)

59号住居跡・61号住居跡が重複し、58号住居跡・4号掘立柱跡・5号掘立柱跡・6号掘立柱跡・7号掘立柱跡が近接する。59号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。61号住居跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。

規模は東西約4.3m・南北約4.3mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-79°-Eである。壁の立ち上りは約30~40cmであり、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。支柱穴は4本である。規模は直径約20~30cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは50~60cmを測る。貯蔵穴の西側から、直径20cmで不定形なピットを1基確認した。床面からの深さは約10cmである。壁周溝はカマド部分を除き、全面的に掘られている。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約20

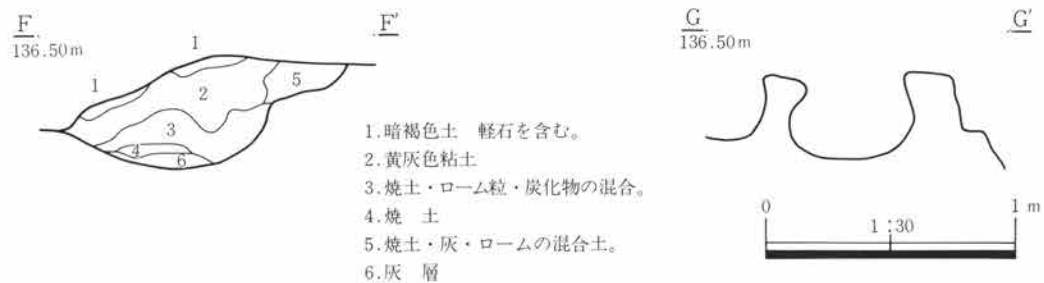


第174図 60号住居跡

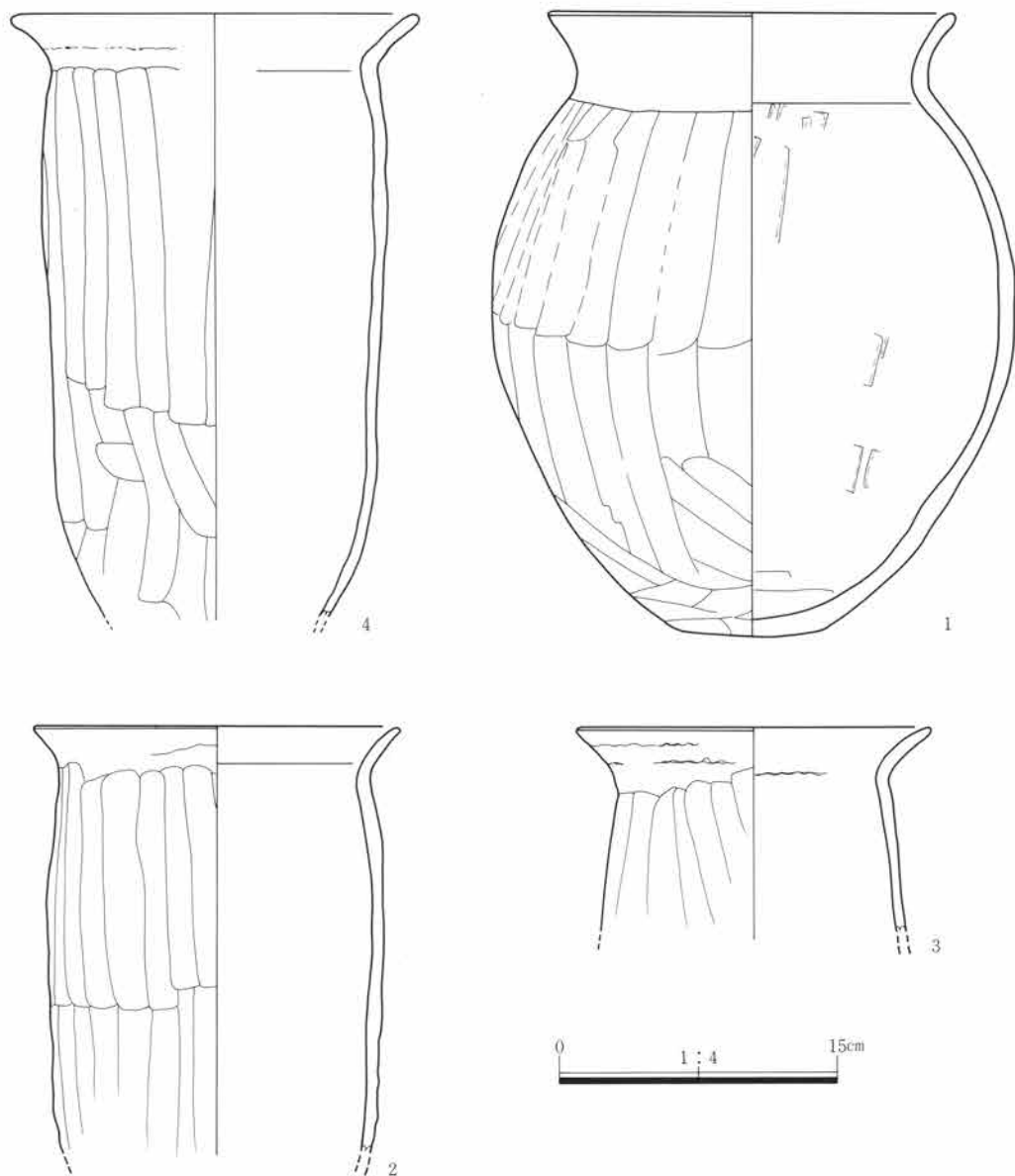
cmである。袖は粘土を素材にしている。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約70cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面からの深さは約40cmである。

遺物は土師器の杯・椀・高杯・壺・甕の他、角閃石安山岩製の紡錘車が出土している。遺物の出土は、住居の南半分からが多い。

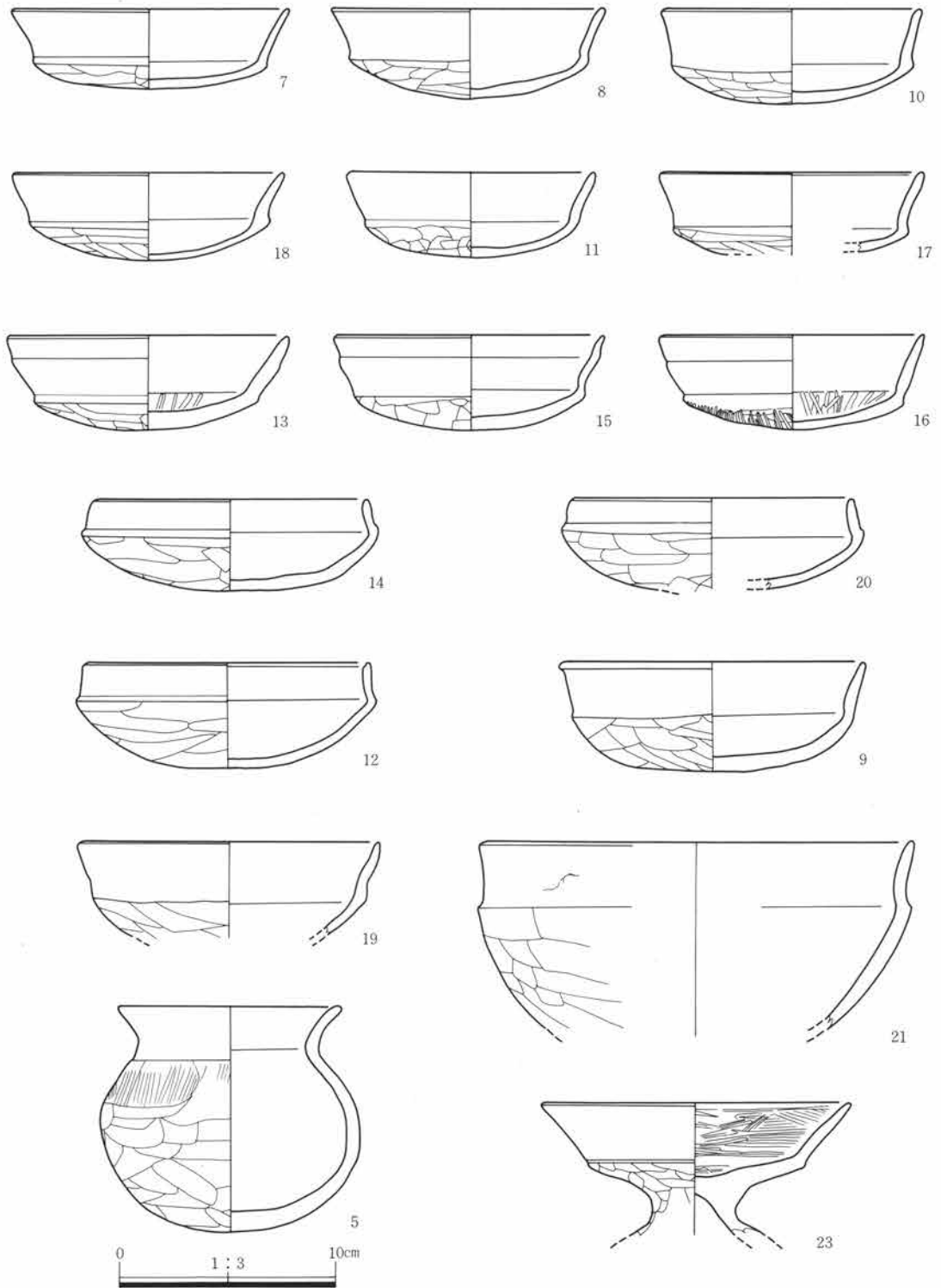
(井川)



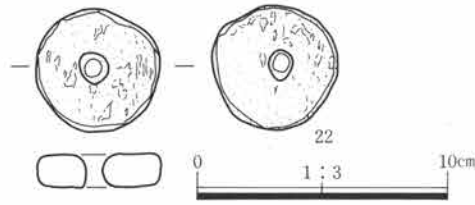
第175図 60号住居跡カマド



第176図 60号住居跡出土遺物①



第177図 60号住居跡出土遺物②



第178図 60号住居跡出土遺物③

61号住居跡 (第179図、図版48・49)

当住居跡は60号住居跡・4号掘立柱跡と重複関係にある。西側は遺構が検出されない地域が広がり、南側は1号溝跡まで遺構が検出されない地域が広がる。東側、北側には掘立柱群が隣接する。

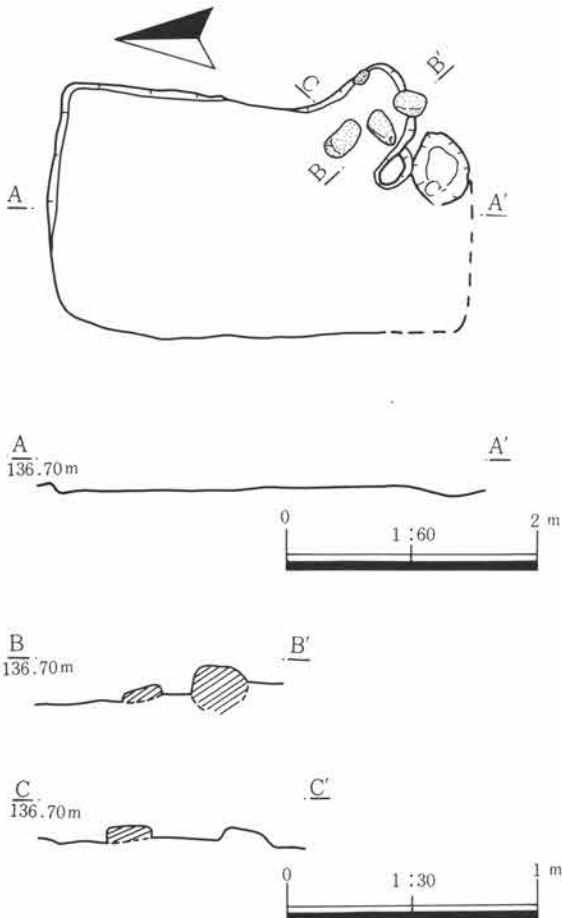
規模は南北距離不明、東西約2.0m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-148°-Eである。(主軸はカマドの対角隅とカマドの対角線を中心として測る)。壁はほとんど無いに等しく、東辺と北辺にわずかに検出された。覆土は軽石を含む砂質ぎみのしまりのない黒褐色土である。壁際は軟質ロームを含む。

床面はやや波をうち、かたさは柔らかい。柱穴は検出されず。

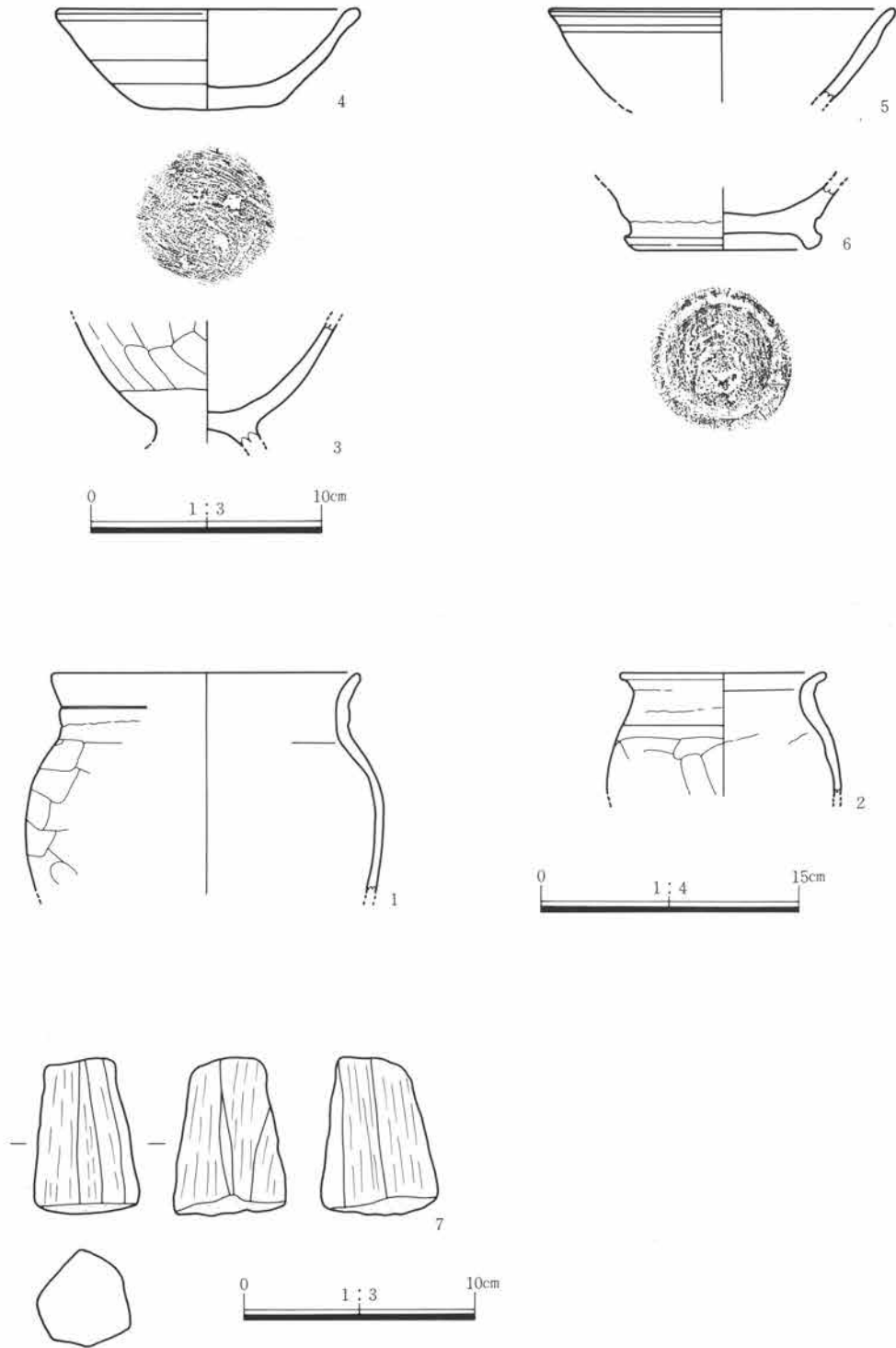
カマドは東南隅に構築されている。南側に粘土の袖らしきかたまりを検出する。中央より凝灰岩切石を3個出土する。そのうち中央寄りの2個は原体は1石であったとみられる。カマド燃焼部はわずかに焼土が検出された。遺物はカマド内に集中する。床直より土師器の甕(61住-1)・台付甕(61住-2・3)、須恵器の椀(61住-5・6)などを出土する。

遺物は住居全体に数が少ない。当住居跡南側のピット内より須恵器の杯(61住-4)が出土するが、位置的に見て貯蔵穴らしいと思われる。45×55cmの楕円形を呈し、深さ15cm。石2個も出土する。覆土より砥石(61住-7)を出土する。石材は角閃石安山岩で変型六角形の形を呈し、7面に使用痕、条痕がみられる。1部欠損。

当住居跡は切り合い関係により、60号住居跡より時期は新しい。(宮下)



第179図 61号住居跡



第180図 61号住居跡出土遺物

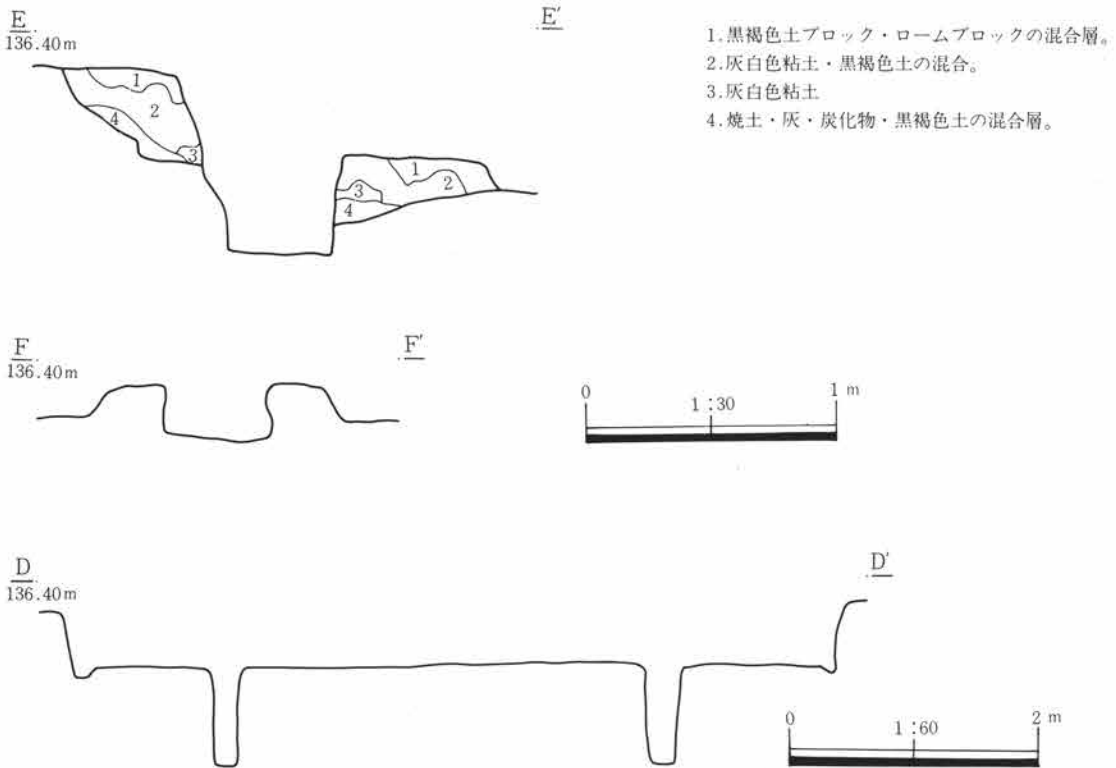
62号住居跡 (第181・182図、図版49)

1号溝跡・2号溝跡と重複し、65号住居跡・8号掘立柱跡が近接する。1号溝跡との新旧関係は、当住居跡のカマドが同溝跡に破壊されていること、覆土の相違から、当住居跡が古い。2号溝跡との新旧関係も、覆土の相違から、当住居跡が古い。

規模は東西約6.3m、南北は推定であるが約6.0～6.2mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-12°-Eである。壁の立ち上りは約40～50cmを測り、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

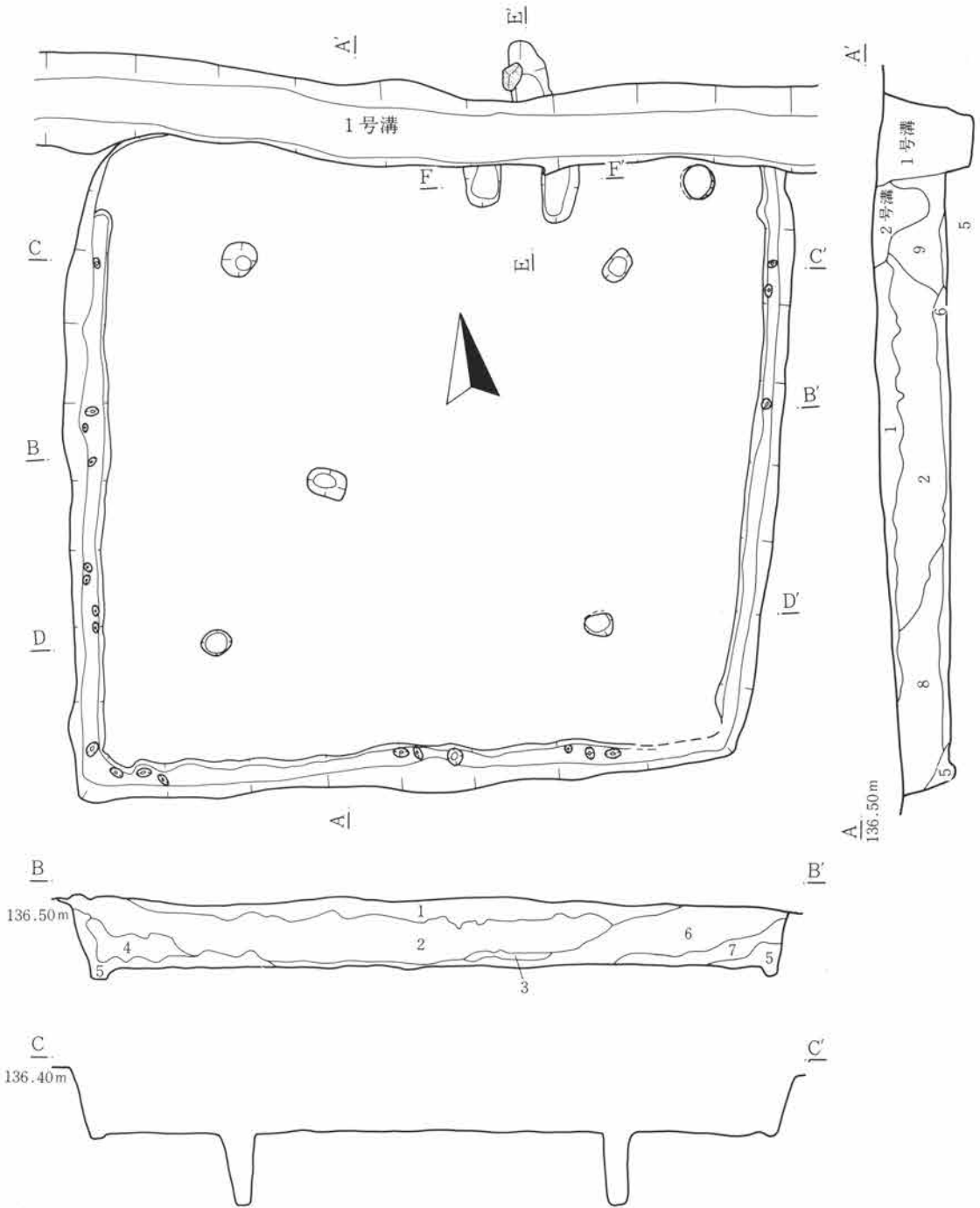
主柱穴は4本である。規模は直径約20～30cmであり、平面形は不整形な円形・楕円形を呈する。床面からの深さは約60～80cmを測る。住居内中央やや西寄りでピットを1基確認した。規模は長軸約35cm・短軸約25cmであり、不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約60cmである。壁周溝は、北側は不明であるが、北西隅を除き、全面に掘られている。壁周溝の中からは、壁の崩壊防止用土留板を支えた杭を打った跡と考えられる小ピットが確認できた。

カマドは北側壁の東寄りに構築されている。カマドの中心部分は、1号溝跡・2号溝跡に破壊されているが、袖は黄灰色粘土を素材にしている。貯蔵穴は北東隅付近に構築されている。規模は直径約30cmであり、平面形は円形を呈する。床面からの深さは約75cmを測る。遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・壺・甕などの他、輝石安山岩製の砥石が2点出土している。 (井川)

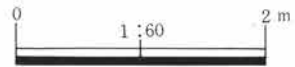


第181図 62号住居跡エレベーション・カマドセクション

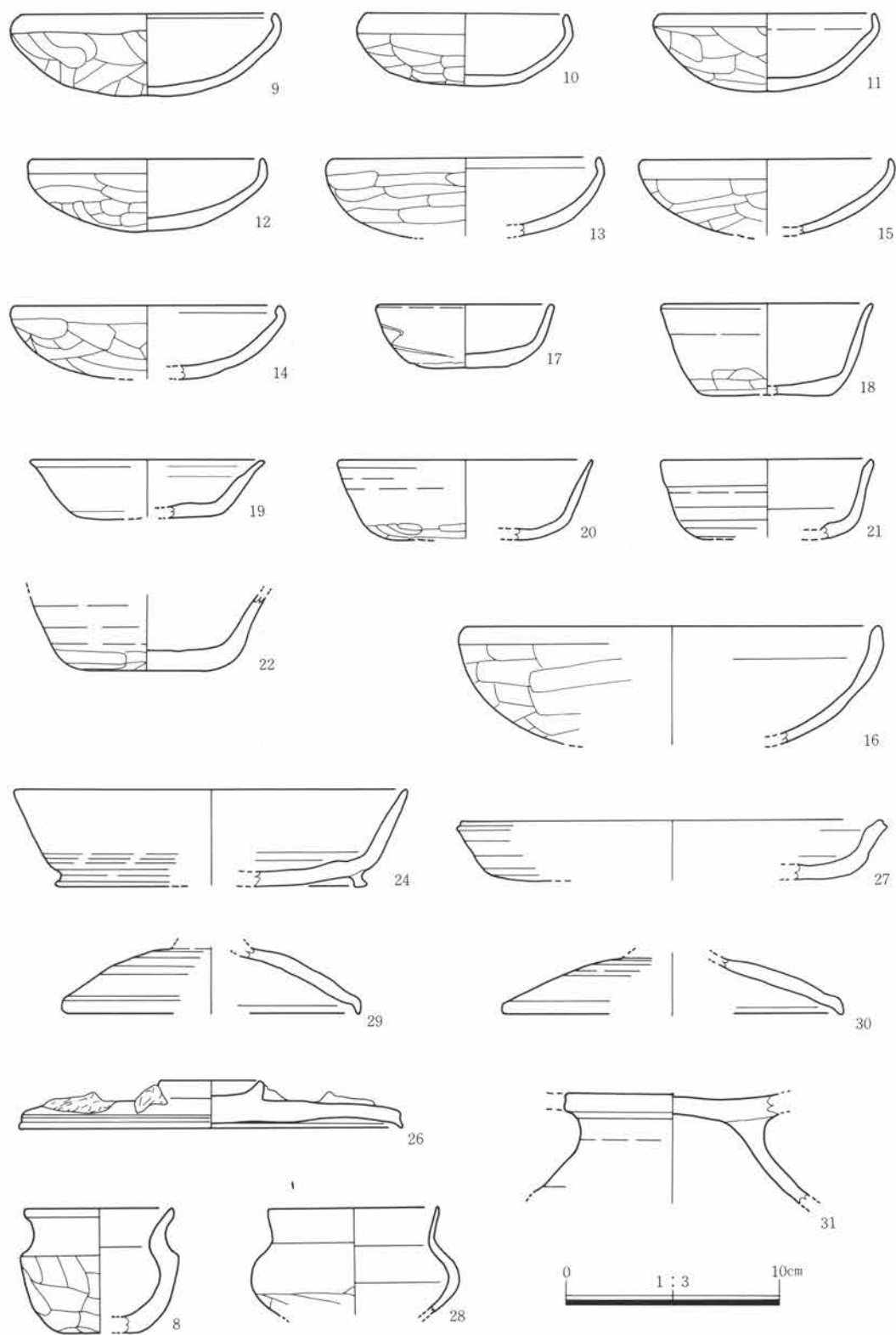




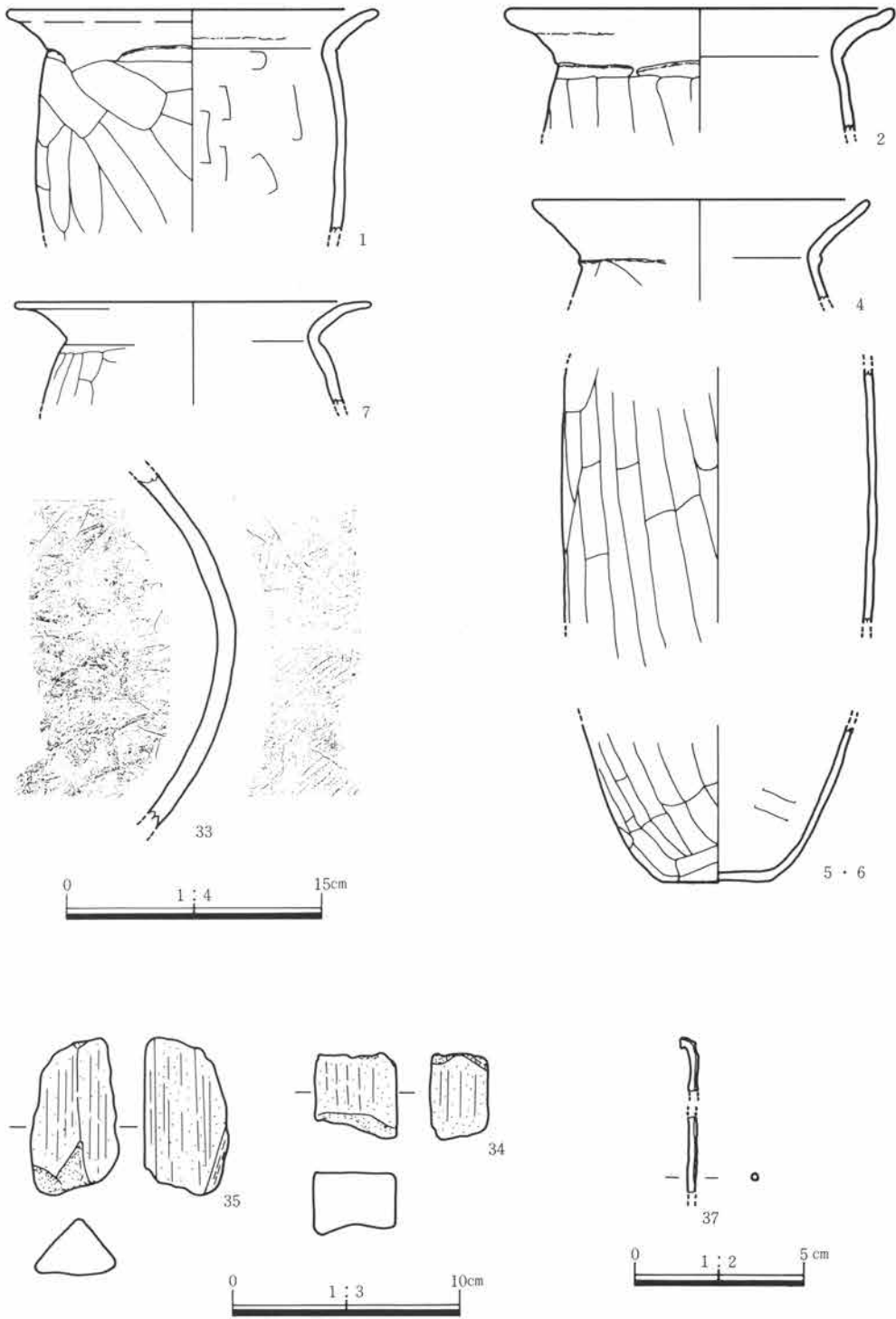
- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| 1. 暗褐色土 FPを含む。   | 7. 黒褐色土 軽石は含まない。        |
| 2. 褐色土 FPを含む。    | 8. 暗褐色土 焼土・ローム粒子を含む。    |
| 3. 灰層            | 9. 暗褐色土 多量の軽石・ローム粒子を含む。 |
| 4. 暗褐色土・ロームの混合土。 |                         |
| 5. ローム崩壊土        |                         |
| 6. 褐色土           |                         |



第182図 62号住居跡



第183図 62号住居跡出土遺物①



第184図 62号住居跡出土遺物②

63号住居跡（第186図、図版50）

64号住居跡・1号溝跡・2号溝跡と重複し、7号掘立柱跡・8号掘立柱跡が近接する。64号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。1号溝跡・2号溝跡との新旧関係は、覆土の相違により、両溝跡より当住居跡が古い。

大部分が調査区域外のため、規模は不明であるが、南北は約3.4mである。壁の立ち上りは約35cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。柱穴・壁周溝・カマド・貯蔵穴は不明である。（井川）

64号住居跡（第185・186図、図版50）

63号住居跡・1号溝跡・2号溝跡・7号掘立柱跡が重複し、8号掘立柱跡が近接する。63号住居跡との新旧関係は、前述の通り当住居跡が古い。1号溝跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古く、2号溝跡との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。7号掘立柱跡との新旧関係は不明である。

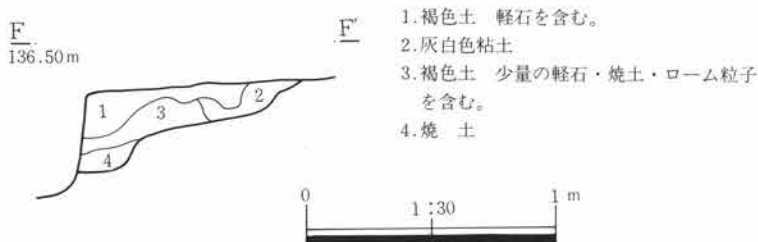
規模は東西約4.5m・南北約4.6mであり、平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。主軸（北側のカマドを基準）はN-2°-Wである。壁の立ち上りは約20~35cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

南西側の柱穴は大部分が1号溝跡に破壊されているが、主柱穴は4本確認できた。規模は長軸約35~40cm・短軸約25~35cmで楕円形を呈するが、北東側の柱穴は長軸約80cm・短軸約60cmと大きい。床面からの深さは約45~65cmを測る。壁周溝は南側壁・西側壁からは確認できたが、北側壁・東側壁からは検出できなかった。

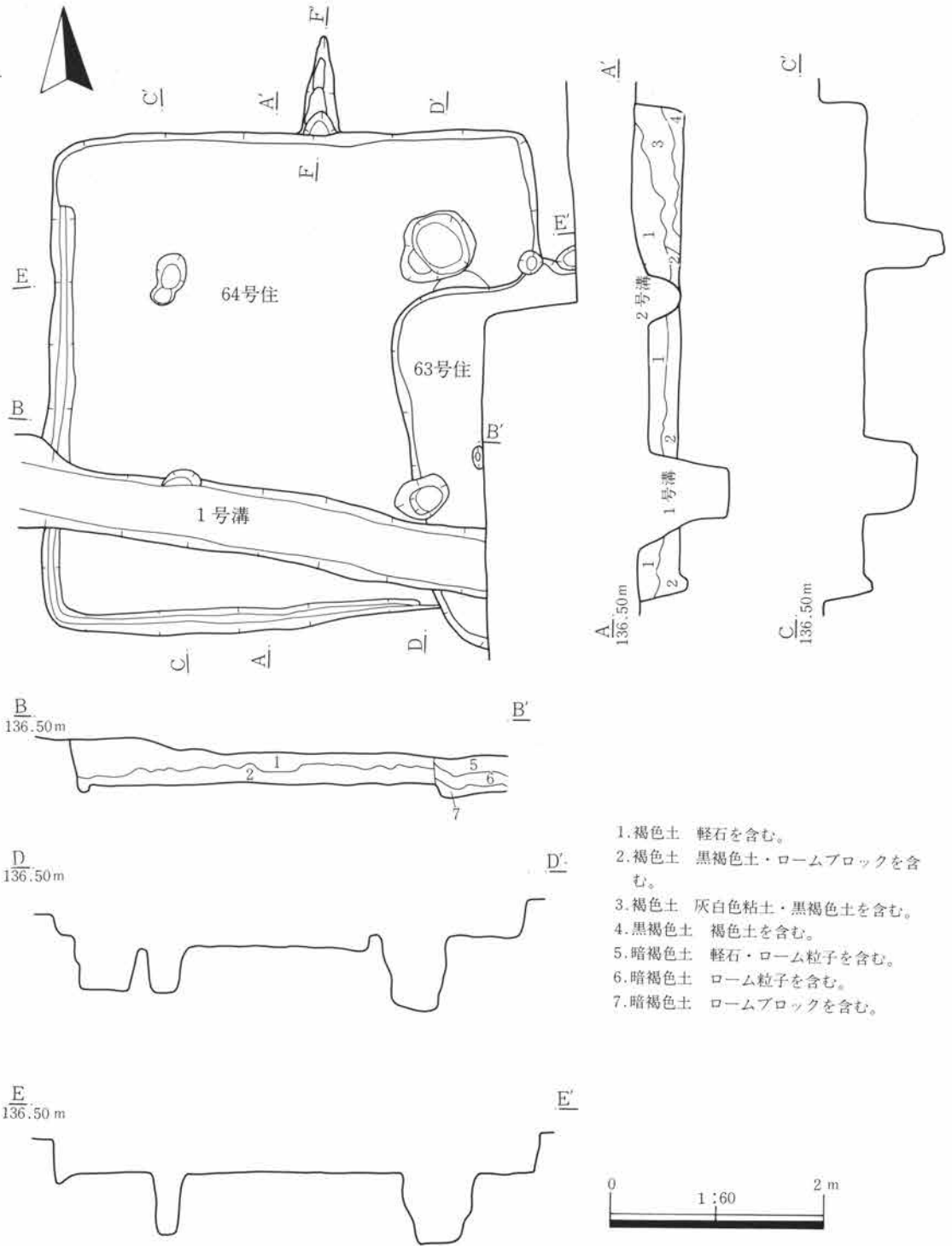
カマドは北側壁の中央に構築されている。袖を含む燃焼部は確認できず、煙道部のみの検出である。煙道部の壁外への張り出しは約90cmを測る。このカマドは、燃焼部が確認できないことから、住居廃絶時に使用されていたカマドではなく、他にカマドが構築されていたと推定できる。貯蔵穴は不明である。

遺物は土師器の杯・甕などの他に、鉄製品が出土している。

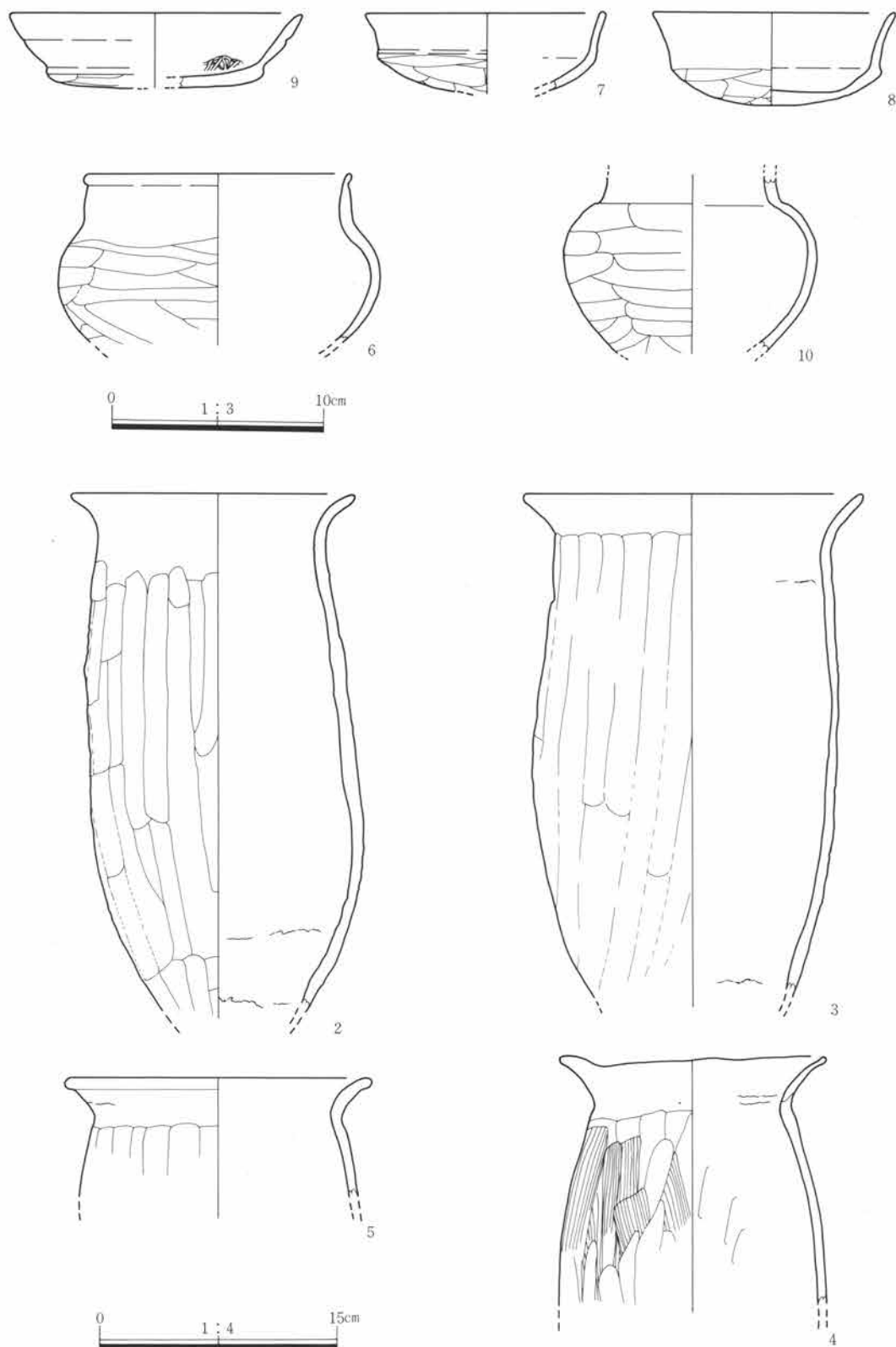
（井川）



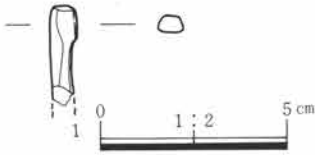
第185図 64号住居跡カマドセクション



第186図 63号住居跡・64号住居跡



第187図 64号住居跡出土遺物①



第188図 64号住居跡出土遺物②

65号住居跡 (第189図、図版51)

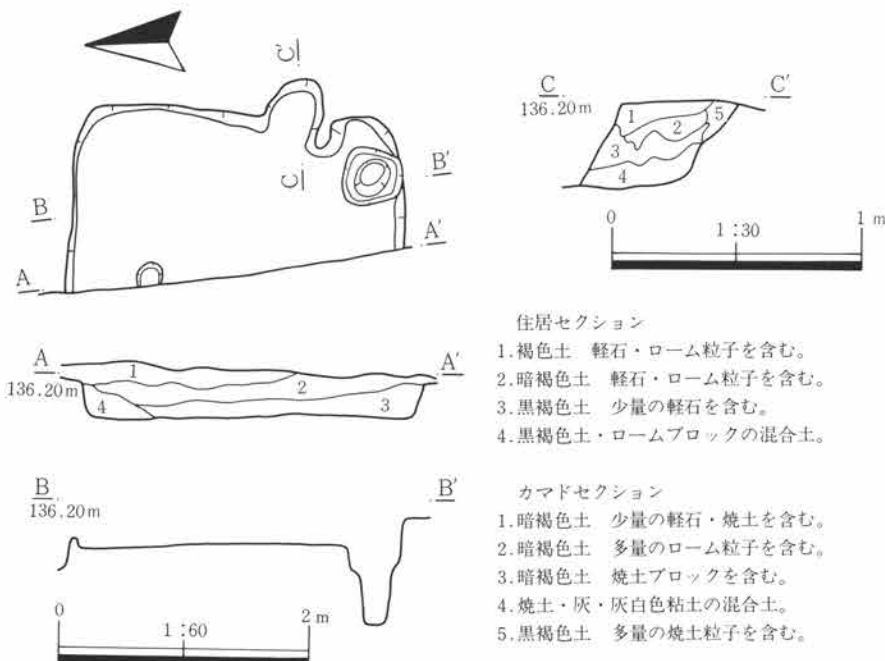
62号住居跡と近接するが、重複はない。覆土は軽石・ローム粒子を含む暗褐色土である。西側部分が調査区域外のため規模は不明であるが、南北は約2.6mであり、小型の住居跡と考えられる。

主軸はN-95°-Eである。壁の立ち上りは約30cmである。床はローム層中に構築されており、比較的硬く踏み固められた床である。柱穴・壁周溝は不明である。住居内中央部の北寄りからピットを1基検出したが、床面からの深さは約5cmと浅い。

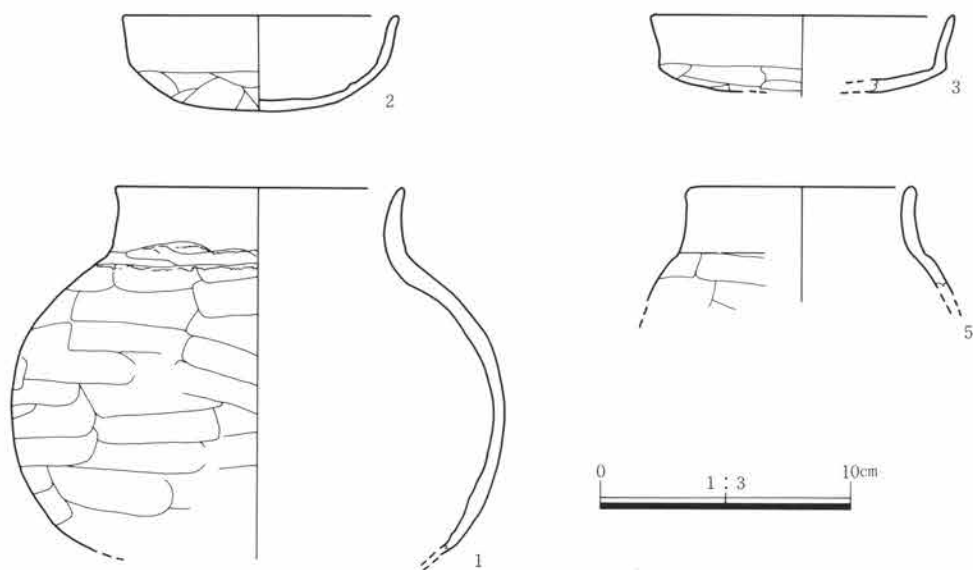
カマドは東側壁の南寄りに構築されている。カマドは東側壁に直交せず、南側に傾いている。燃烧部の半分は壁内にあり、確認面での煙道部の張り出しは約30cmである。袖は灰白色粘土を素材にして造られている。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約50cmであり、平面形は台形に近い方形を呈する。床面からの深さは約60cmを測る。

遺物は少ないが、土師器の杯・壺が出土している。

(井川)



第189図 65号住居跡



第190図 65号住居跡出土遺物

66号住居跡 (第191図、図版51・52)

67号住居跡・3号溝跡が重複し、76号住居跡・1号竪穴状遺構が近接する。67号住居跡との新旧関係は、覆土の相違・当住居跡のカマドの残存状態等により、当住居跡が新しい。3号溝跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。即ち、66号住居跡・67号住居跡の新旧は、古い方から67号住居跡→66号住居跡→3号溝跡となる。

規模は東西約4.7m・南北約3.8mであり、平面形は台形に近い隅丸長方形を呈する。主軸はN-95°-Eである。壁の立ち上りは約20~35cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床であるが、重複部分はやや軟弱である。

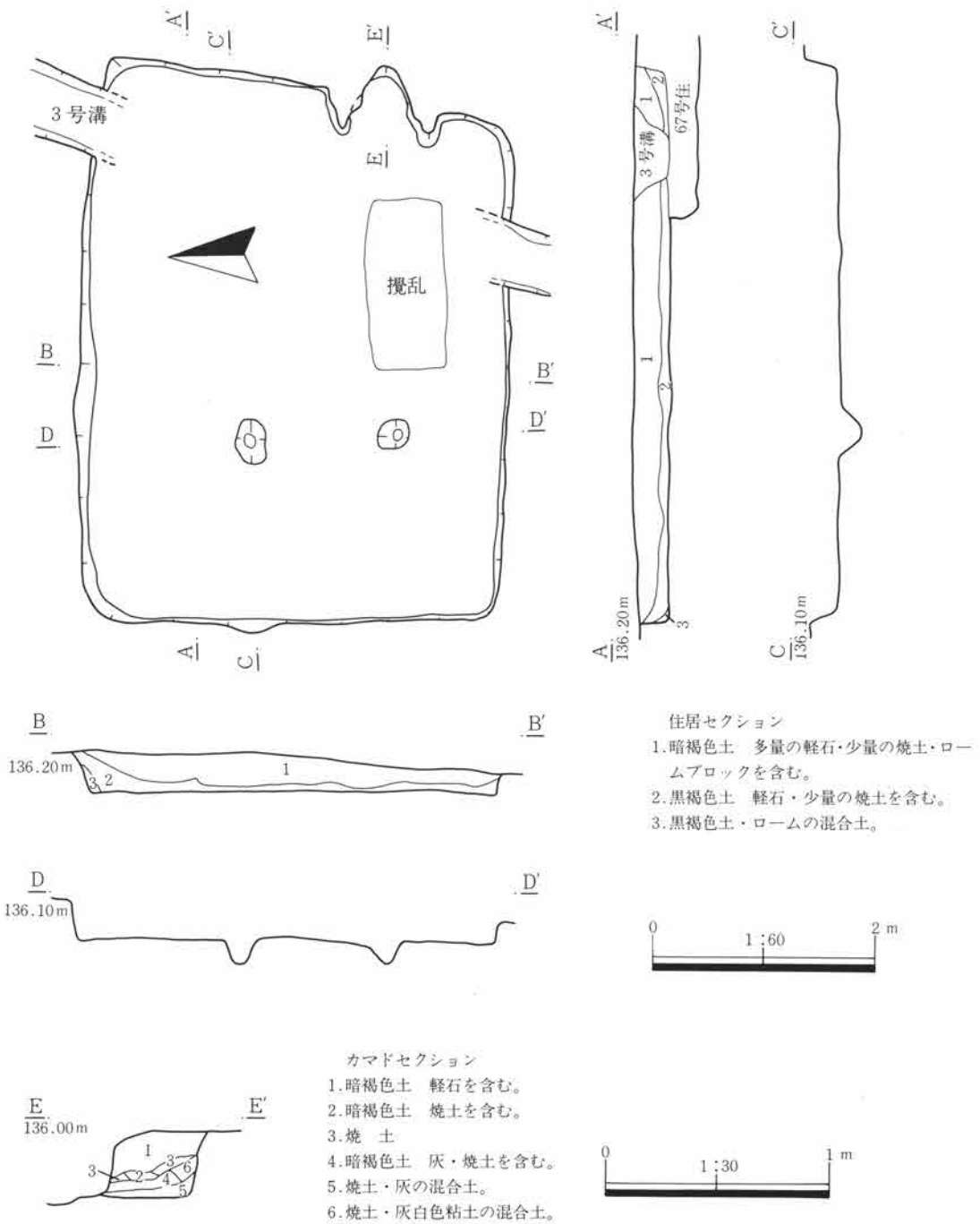
住居内中央部やや南寄りから、ピットを2基検出した。規模は長軸約30~40cm・短軸約20~25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約20cmである。ピットの位置・形態から柱穴と考えるには無理がある。壁周溝は確認できなかった。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃焼部は半分が壁内であり、確認面での煙道部の張り出しは約30cmである。袖は粘土を素材に造られているが、残存状態は悪い。貯蔵穴は確認できなかった。

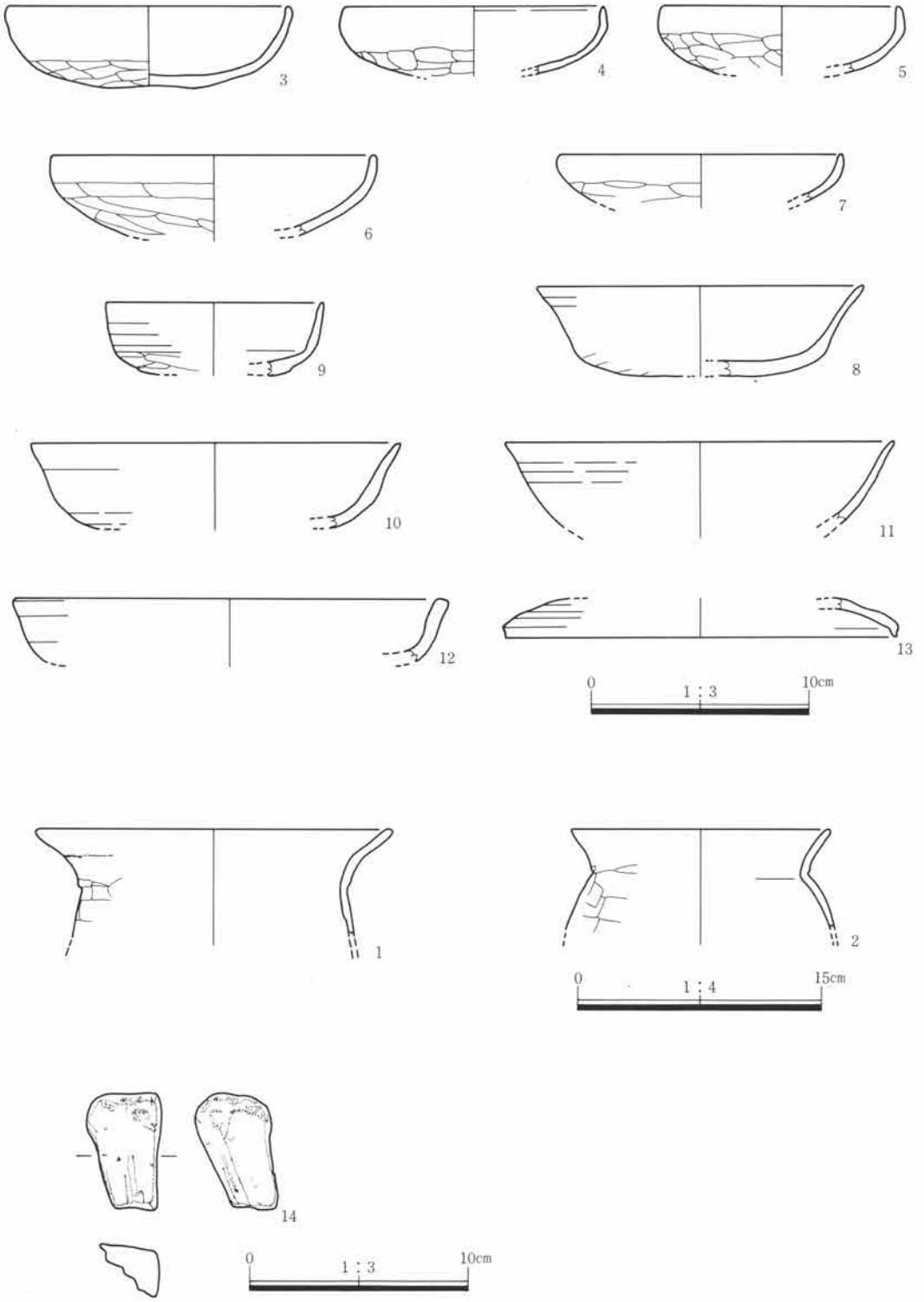
遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋の他、石英安山岩製の砥石、鉄製品が出土している。鉄製品は鎌の先と、鉄鏃の一部と考えられる。

(井川)

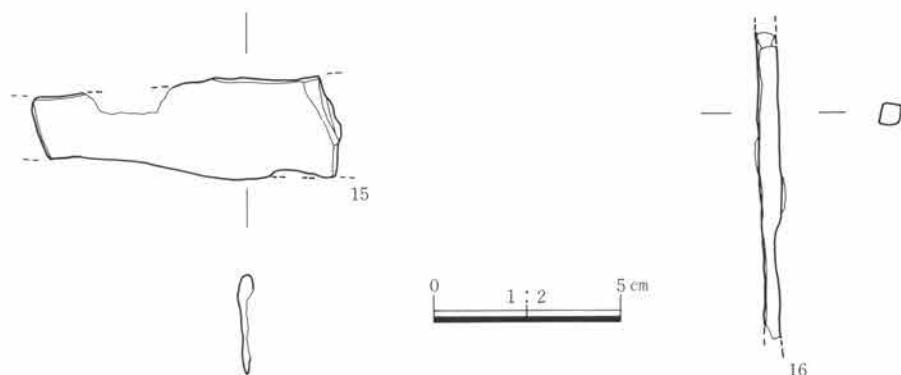




第191図 66号住居跡



第192図 66号住居跡出土遺物①



第193図 66号住居跡出土遺物②

## 67号住居跡 (第194図、図版52・53)

66号住居跡・1号竪穴状遺構・3号溝跡と重複する。66号住居跡・3号溝跡との新旧関係は、前述の通り、覆土の相違により、両遺構より当住居跡が古い。1号竪穴状遺構との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。

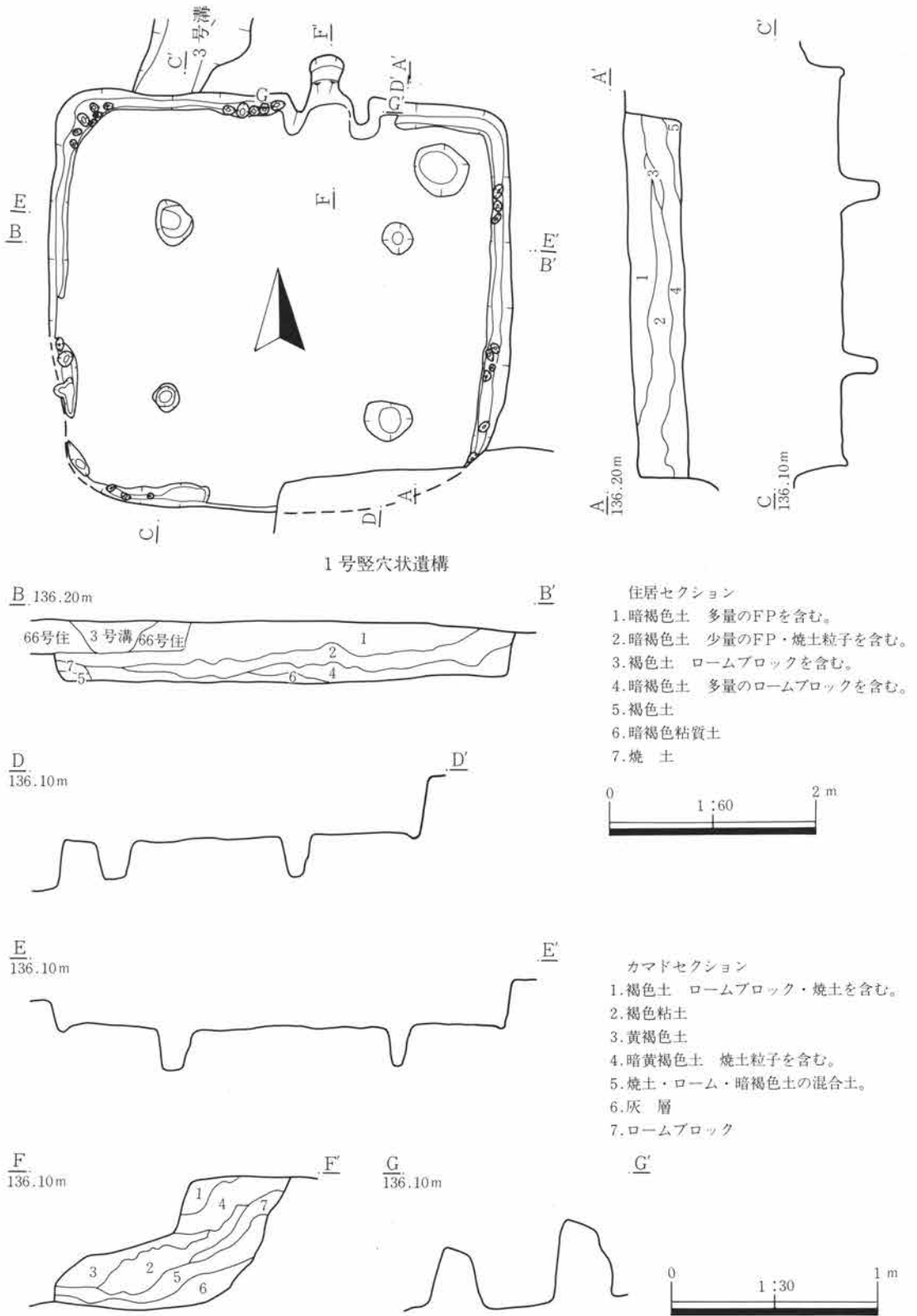
規模は東西約4.4m・南北約4.0mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-2°-Eである。壁の立ち上りは約45~50cmを測り、残存状態は比較的良好であるが、1号竪穴状遺構との重複部分は確認できなかった。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

主柱穴は4本である。規模は直径約25~40cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約30~40cmである。1号竪穴状遺構との重複部分は不明であり、南西部は3号溝跡との重複により断続的であるが、壁周溝はカマド部分を除き全面的に掘られていたものと推定している。壁周溝に沿い、直径約10~15cm・壁周溝底面から5~10cmの小ピットが多数検出できた。51号住居跡・55号住居跡・62号住居跡と同じく、壁の崩壊防止のために設けられた土留板を支える杭の跡であると推測している。

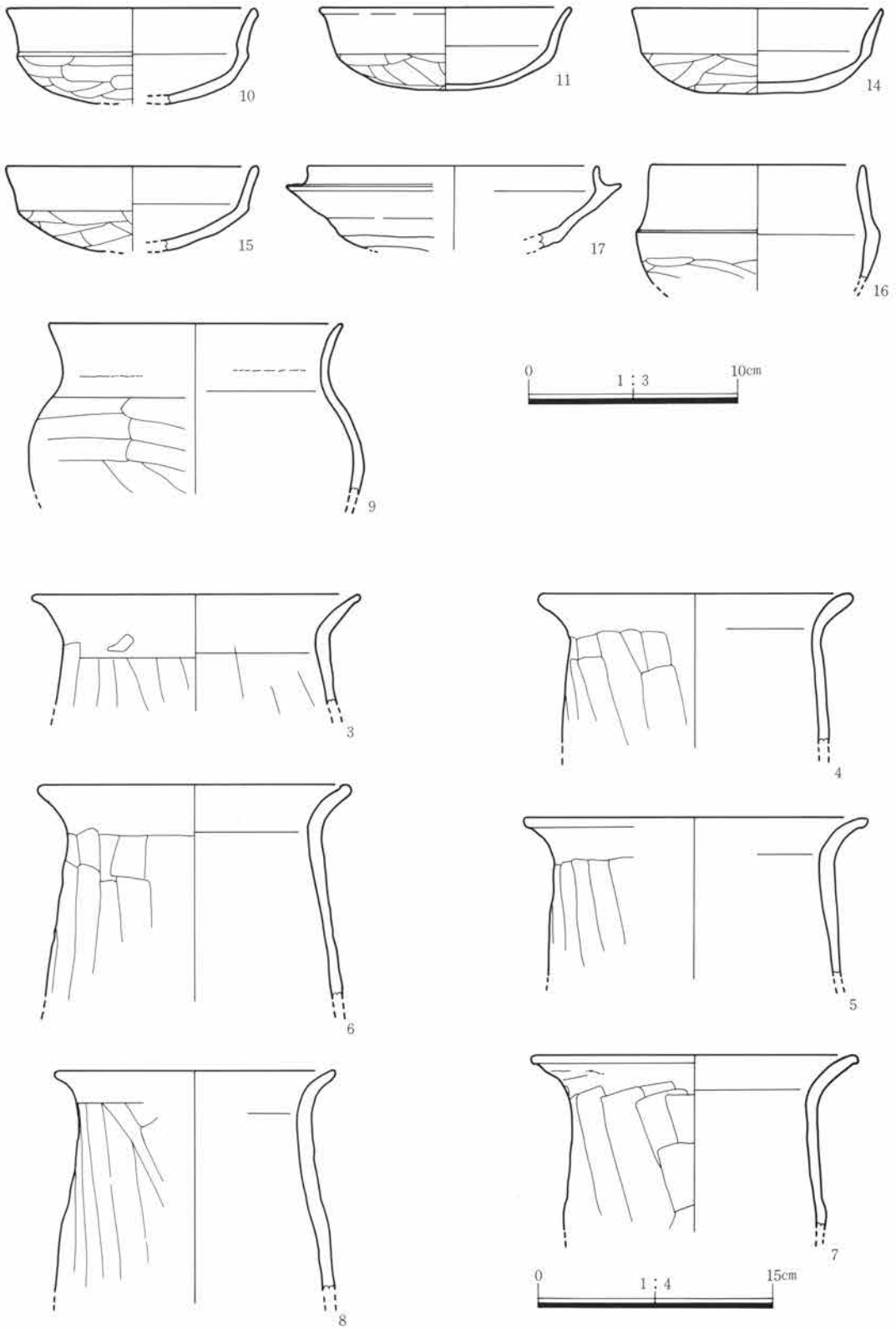
カマドは北側壁の中央やや東寄りに構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは、約40cmである。袖は褐色粘土を素材に造られている。貯蔵穴は北東隅に構築されている。規模は長軸約55cm・短軸約45cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約60cmを測る。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯が出土している。遺物の出土は、カマド・貯蔵穴周辺への集中傾向がある。カマド内・カマド前からは土師器の甕が2個体(67住-1・2)が出土している。

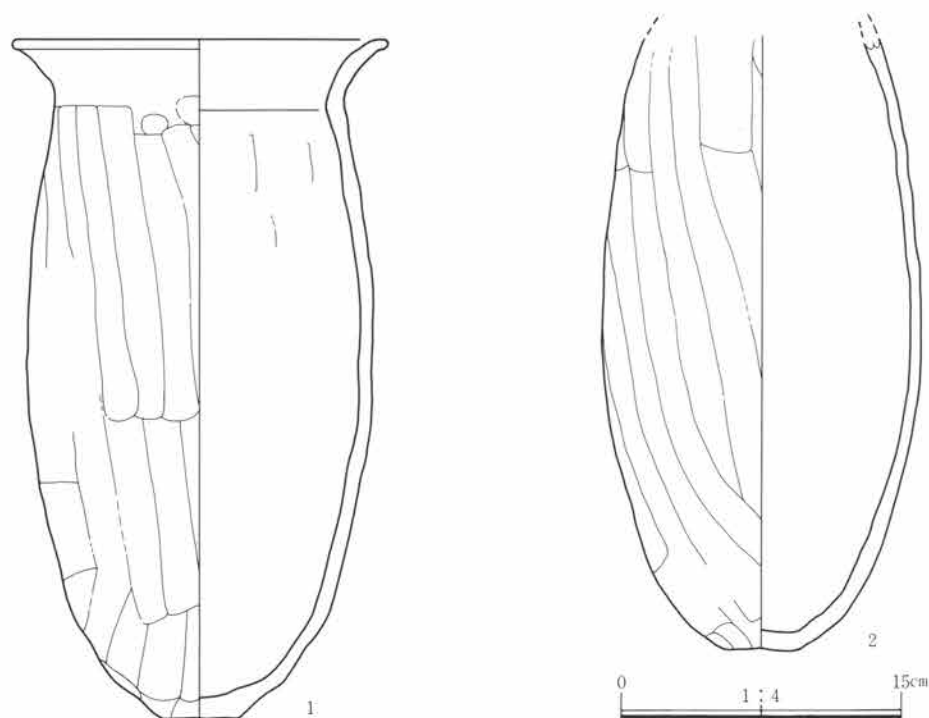
(井川)



第194図 67号住居跡



第195図 67号住居跡出土遺物①



第196図 67号住居跡出土遺物②

68号住居跡（第197図、図版53・54）

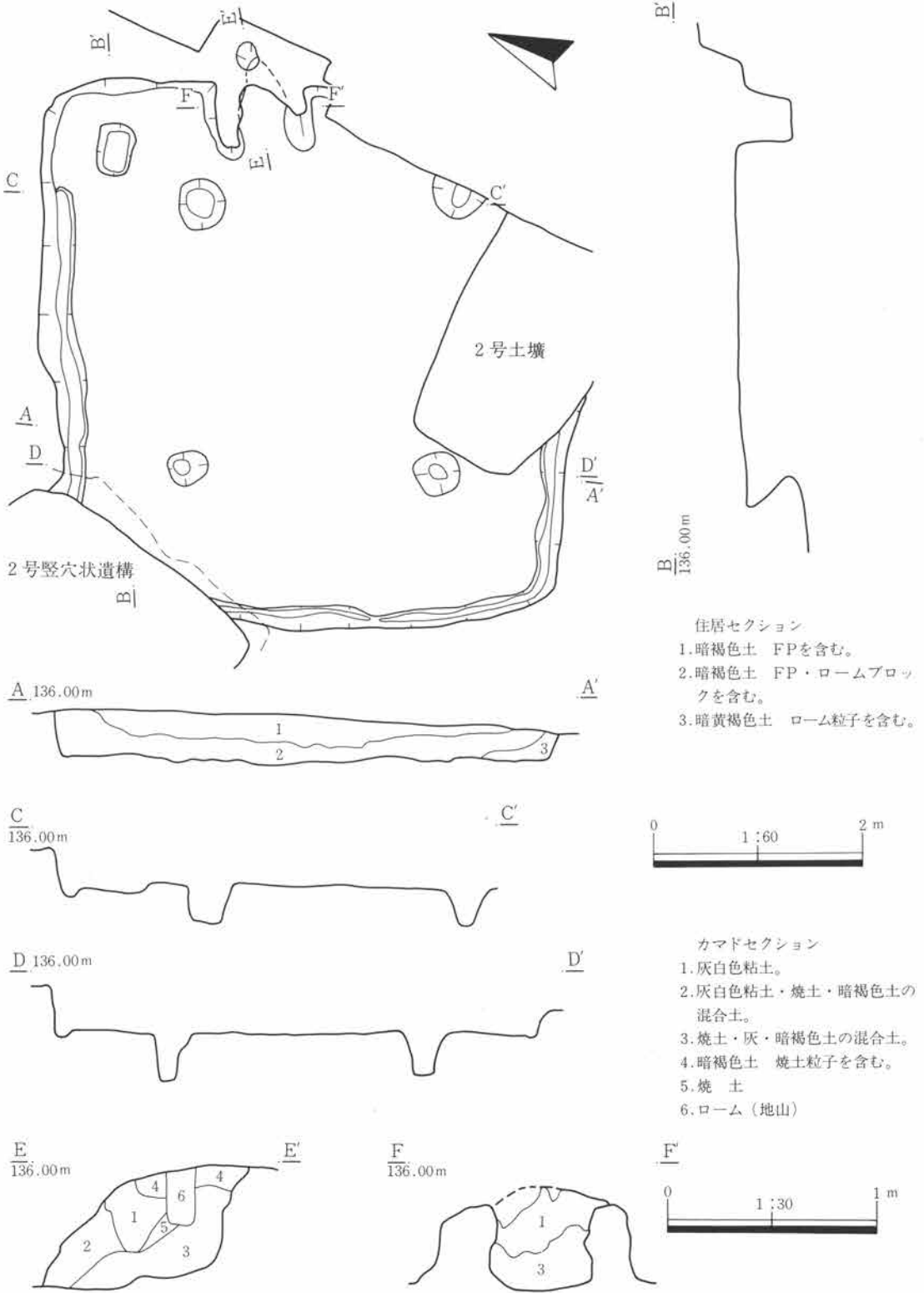
2号竪穴状遺構・2号土壇と重複し、69号住居跡・73号住居跡が近接する。2号竪穴状遺構との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。2号土壇との新旧関係も、覆土の相違により、当住居跡が古い。

当住居跡の規模は不明であるが、東西約5.0m・南北約4.8mであり、平面形は隅丸方形を呈すると推定できる。主軸はN-63°-Eである。壁の立ち上りは約25~40cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

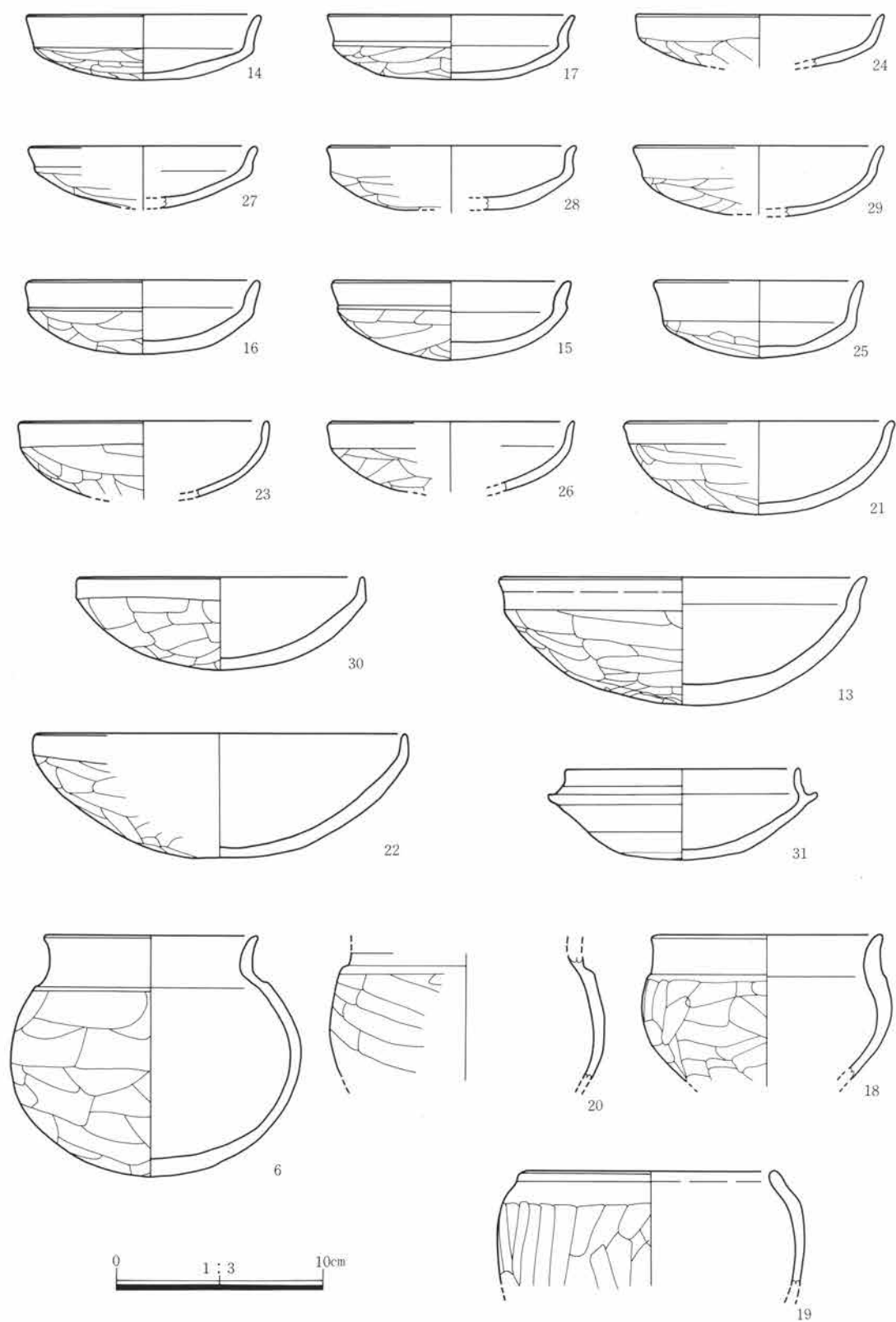
主柱穴は4本確認できた。規模は直径約30~40cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。床面からの深さは約30~40cmである。重複部分・未調査部分を除く範囲での壁周溝は、カマド部分・北東隅付近を除いて確認できた。

カマドは東側壁の北寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、トンネル状に掘られた煙道部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は灰白色粘土を素材に造られており、残存状態は良好である。貯蔵穴は北東隅付近に構築されている。規模は長辺約50cm・短辺約30cmであり、平面形は長方形を呈する。床面からの深さは約50cmである。

遺物の出土量は多く、土師器の杯・甕、須恵器の甕などが出土している。遺物の出土位置は、カマド・貯蔵穴を中心とした北東部及び北西部からの出土が多い。（井川）

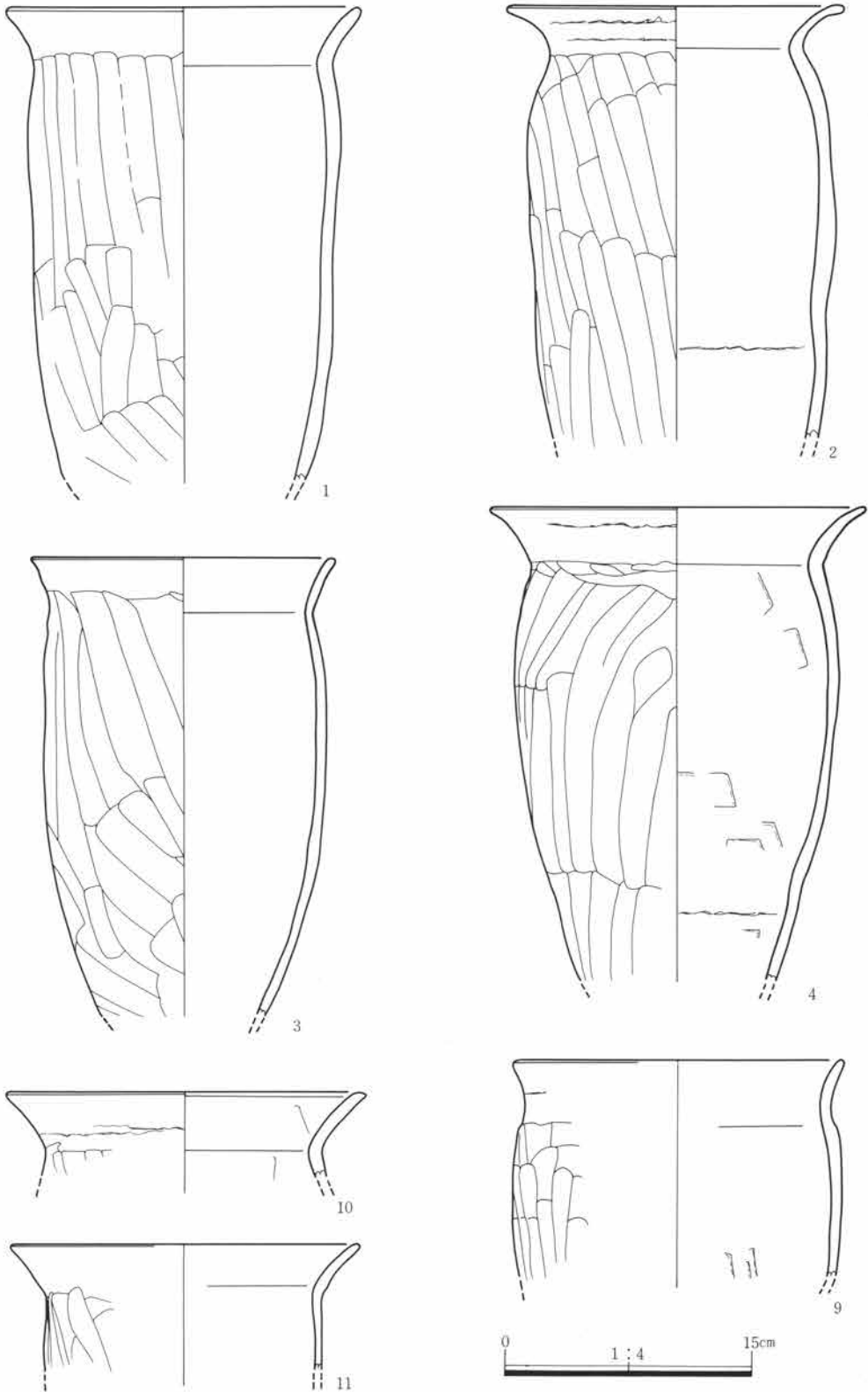


第197図 68号住居跡

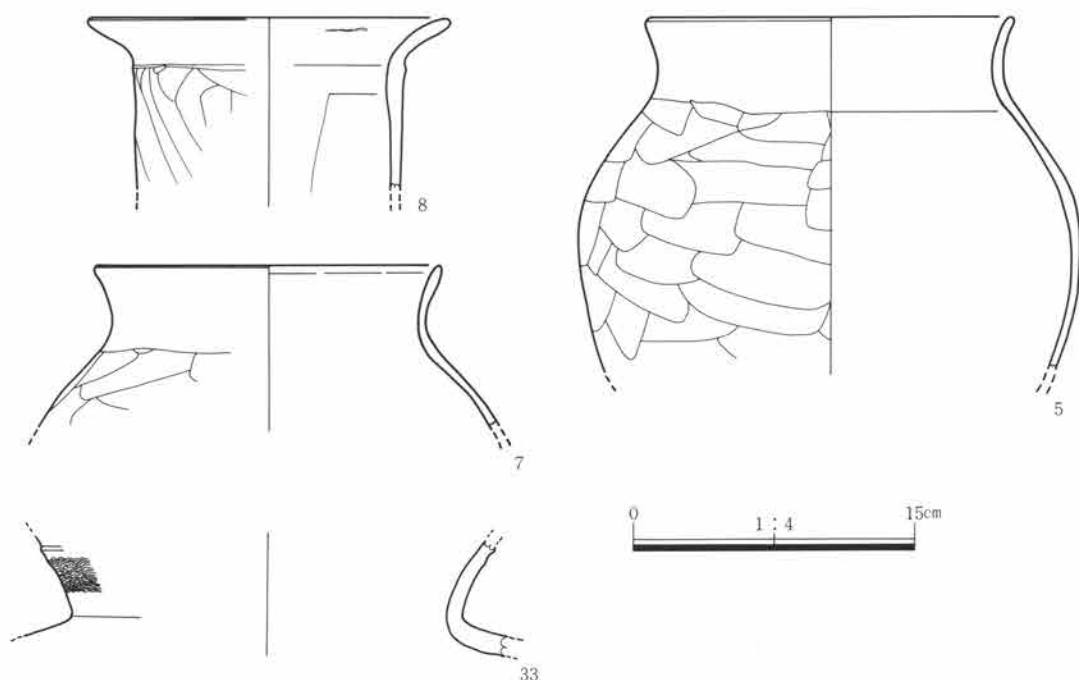


第198図 68号住居跡出土遺物①





第199図 68号住居跡出土遺物②



第200図 68号住居跡出土遺物③

69号住居跡 (第201図、図版54)

70号住居跡・74号住居跡・80号住居跡・2号竪穴状遺構・10号土坑と重複する。70号住居跡・2号竪穴状遺構・10号土坑との新旧関係は、いずれも覆土の相違により、当住居跡が古い。74号住居跡・80号住居跡との新旧関係は不明である。

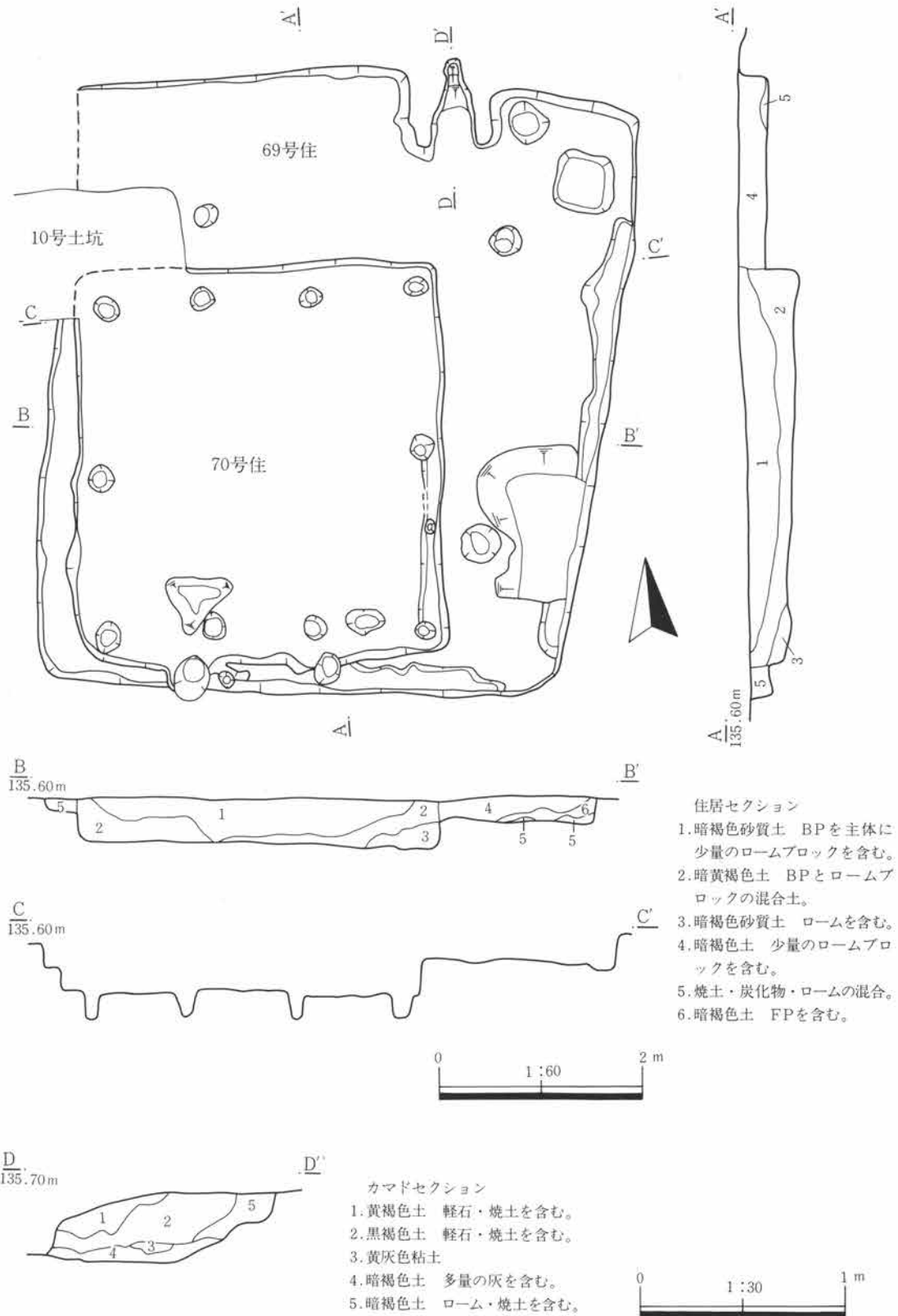
規模は東西約5.3m・南北約5.9mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-11°-Eである。壁の立ち上りは約10~20cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されている。支柱穴は4本と考えられるが、検出できたのは3本である。規模は直径約20~30cm・床面からの深さ約30~50cmであり、平面形は円形を呈する。壁周溝は、東側壁・南側壁からのみ検出できた。

カマドは北側壁の東寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、袖は粘土を素材に造られている。貯蔵穴は北東隅付近に構築されている。規模は一辺約55cm・床面からの深さ約60cmであり、平面形は方形を呈する。遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋が出土している。(井川)

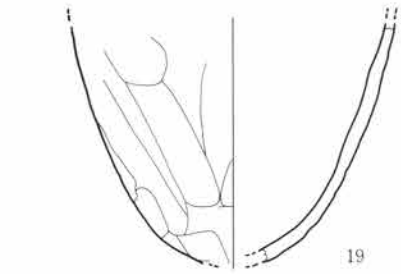
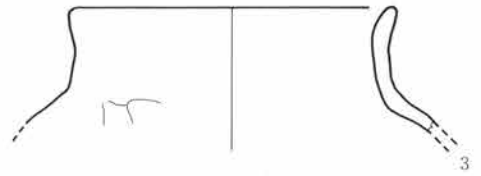
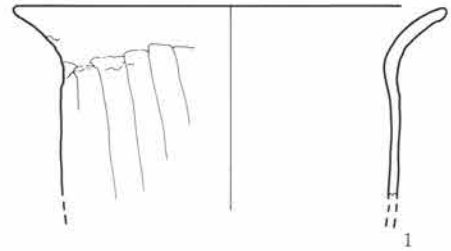
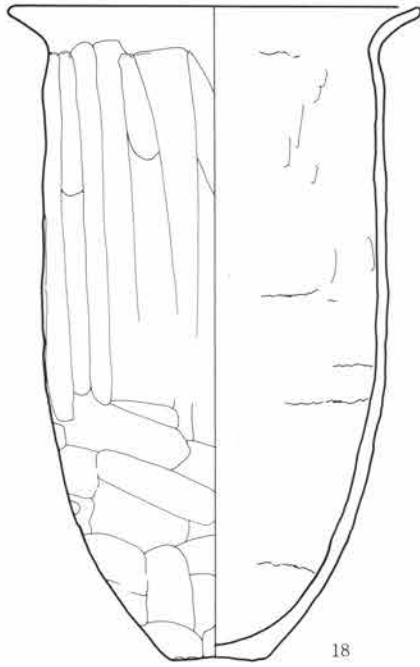
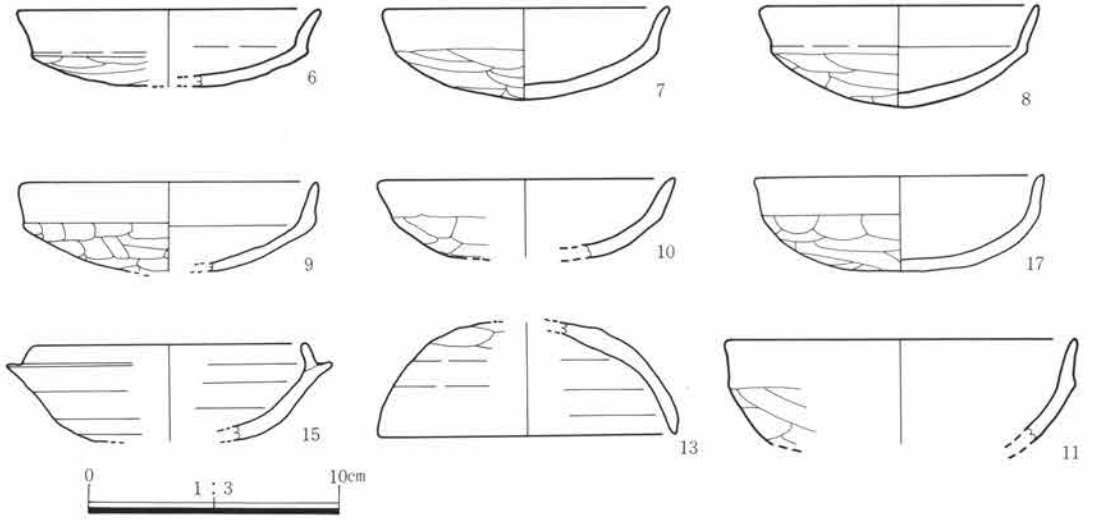
70号住居跡 (第201図、図版54)

69号住居跡・80号住居跡・10号土坑と重複する。69号住居跡との新旧関係は、前述の通り、当住居跡が新しい。80号住居跡との新旧関係も、当住居跡が新しいと考えているが、10号土坑との関係は不明である。当住居跡の覆土(第1層)はBPを主体としている。

規模は東西約3.5m・南北約3.8mで、平面形は方形を呈する。壁の立ち上りは約30~50cmであり、床はローム層中に構築されている。カマド等の設備はない。柱穴が東西方向の壁に沿い4本・南北方向の壁に沿い3本(各隅は共通)、計10本確認できた。遺物の出土はない。(井川)



第201図 69号住居跡・70号住居跡



第202図 69号住居跡出土遺物

## 71号住居跡 (第203・204図、図版55)

72号住居跡と重複し、68号住居跡・69号住居跡・73号住居跡・96号住居跡が近接する。72号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。

規模は一辺約3.5mであり、平面形は方形を呈する。壁の立ち上りは約15～25cmであり、床はローム層中に構築されている。柱穴は東西方向に4本・南北方向に3本、計10本(各隅は共通)確認できた。柱穴の規模は長さ約20～30cm・床面からの深さ約30～40cmであり、平面形は円形を呈するものが多いが、柱穴底面は方形を呈するものがある。柱穴の列に沿い、幅約30cm・床面からの深さ約10～15cmの規模で溝が掘られている。

カマド・貯蔵穴等の設備はなく、遺物もほとんど出土しない。柱穴の構造・貯蔵穴・カマド等の炊事設備がないこと、遺物の出土がないこと等から、食住としての機能を有する住居ではなく、別な用途があるものと考えている。(井川)

## 72号住居跡 (第203・204図、図版55)

71号住居跡と重複し、69号住居跡・73号住居跡・81号住居跡・82号住居跡が近接する。71号住居跡との新旧関係は、前述の通り、当住居跡が古い。

71号住居跡との重複のため規模は不明であるが、柱穴の位置から一辺は約3.7mであり、平面形は方形を呈すると推定している。71号住居跡よりやや大きい。壁の立ち上りは、確認できた南側壁では約15cmと浅い。床はローム層中に構築されている。

柱穴は各壁際に各々4本(各隅は共通)、計12本確認できた。規模は長さが約20～30cmであり、平面形は円形・不整形な円形を呈する。しかし、柱穴底面は方形を呈する(南側の柱穴)ものがある。床面からの深さは約30～40cmである。71号住居跡との重複部分は不明であるが、柱穴の列に沿い、幅約20cm・床面からの深さ約10～15cmの溝が掘られている。

カマド・貯蔵穴等は不明であるが、構築されていないと考えている。当住居跡は71号住居跡と同様に、食住の機能を持つ、いわゆる住居ではなく、別の用途が考えられる。(井川)

## 73号住居跡 (第203図、図版55)

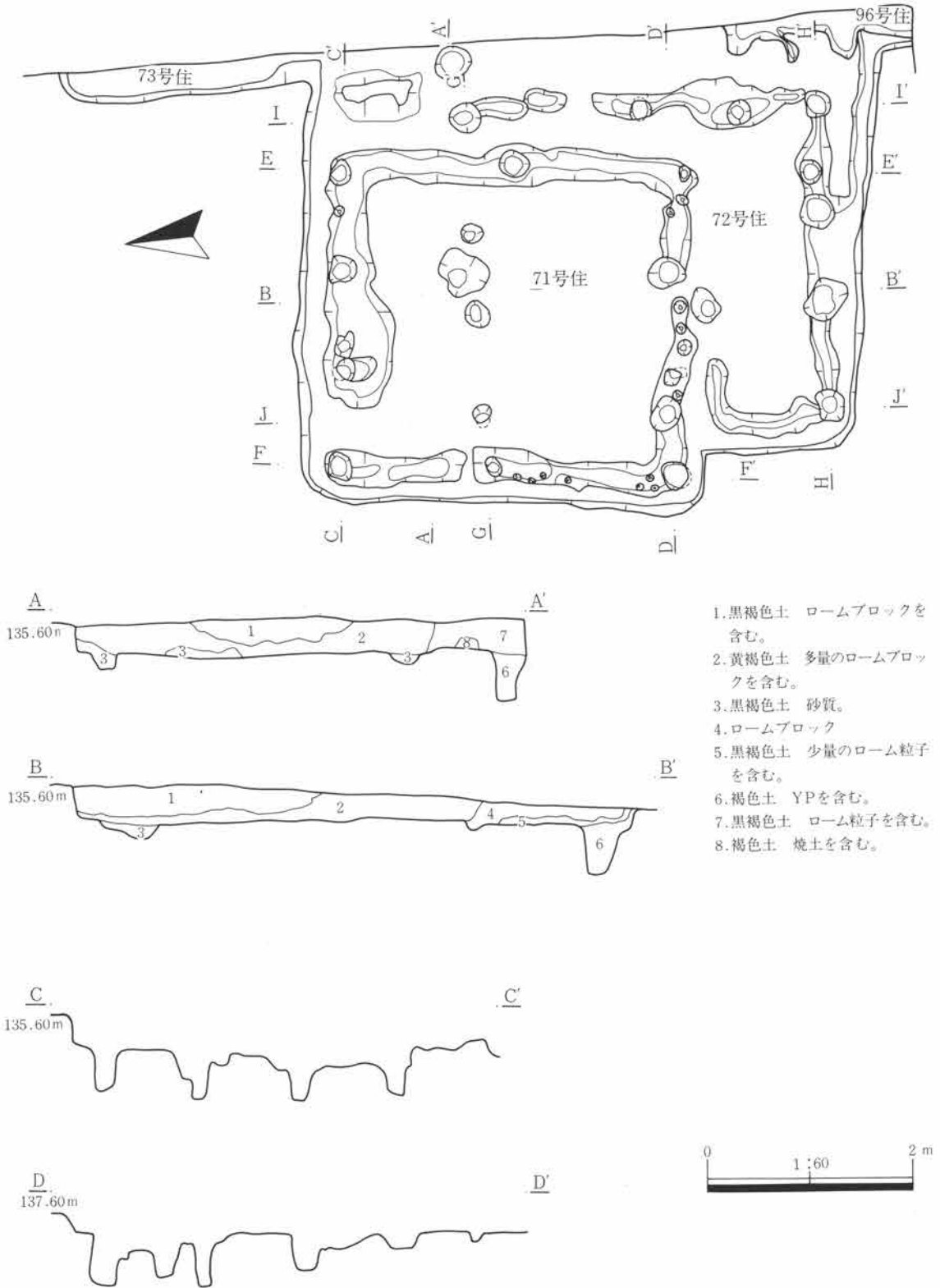
68号住居跡・71号住居跡・72号住居跡・96号住居跡・2号土壌が近接する。大部分が調査区域外であり、北西部のみが確認できた。規模は不明である。壁の立ち上りは北西部で約30～35cmであり、床はローム層中に構築されている。カマド・柱穴・貯蔵穴は不明である。北西部では、壁周溝は確認できなかった。

遺物は非常に少ないが、土師器の杯・甕が出土している。(井川)

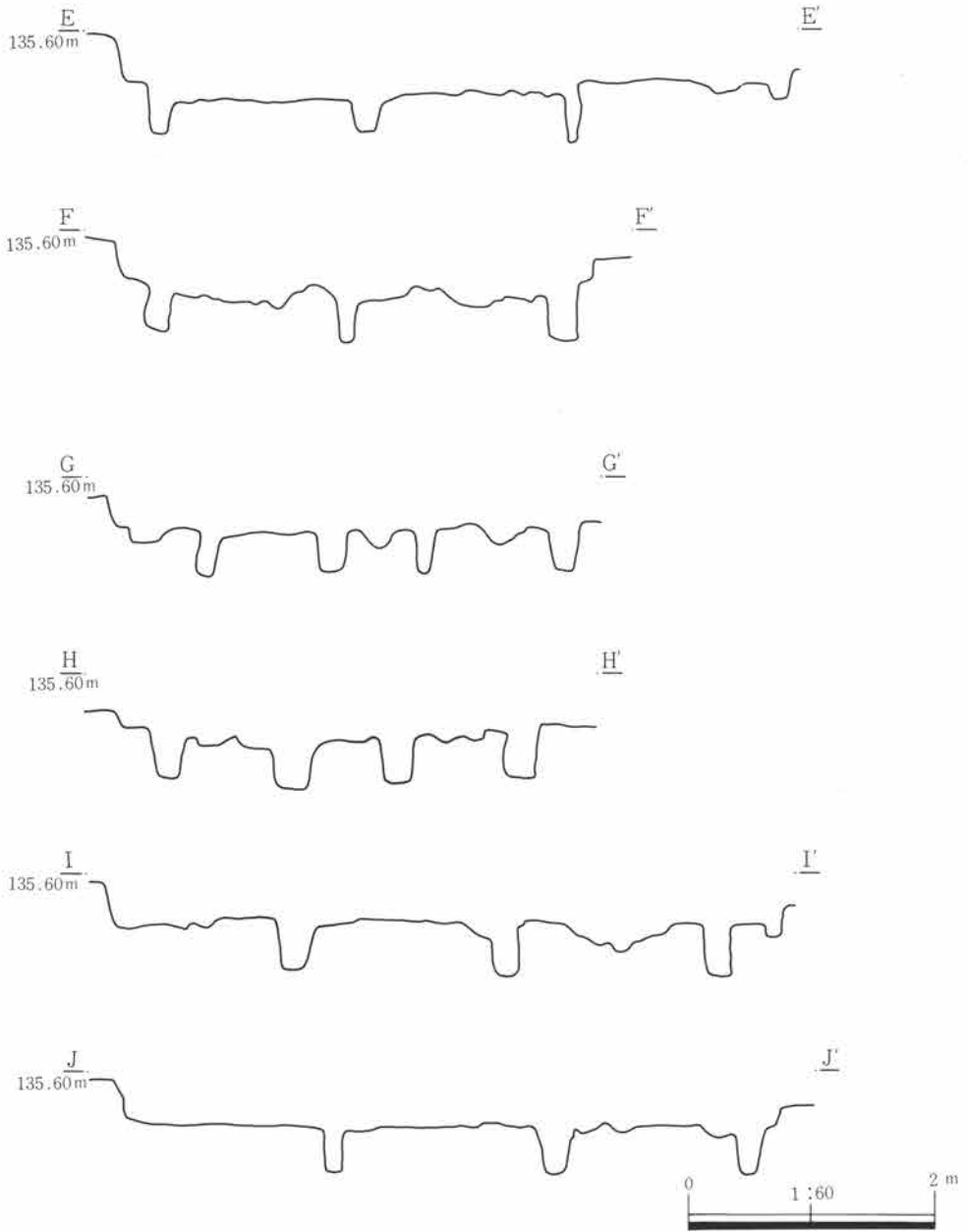
## 96号住居跡 (第203図、図版55)

71号住居跡・72号住居跡・73号住居跡が近接する。大部分は調査区域外であり、北西部のみの検出である。規模・カマド・貯蔵穴・柱穴は不明である。北西部での壁の立ち上りは約10～15cmであり、床はローム層中に構築されている。北西隅付近では、壁周溝は確認できず、遺物は検出できなかった。

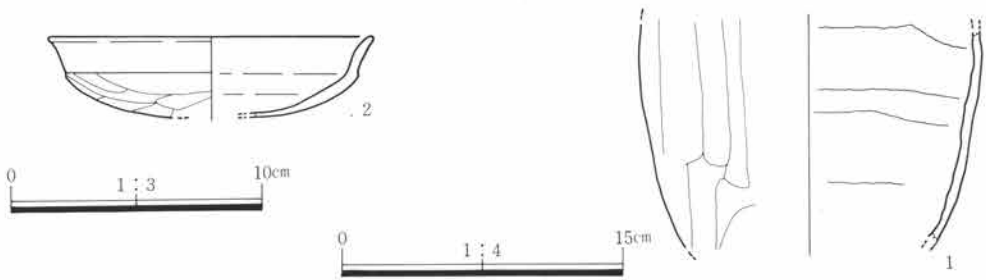
(井川)



第203図 71号住居跡・72号住居跡・73号住居跡・96号住居跡



第204図 71号住居跡エレベーション・72号住居跡エレベーション



第205図 73号住居跡出土遺物

74号住居跡(第206図、図版

55・56)

69号住居跡・80号住居跡・84号住居跡・70号住居跡が重複し、75号住居跡が近接する。80号住居跡との新旧関係は、当住居跡のカマドの残存状態から、当住居跡が新しい。84号住居跡との新旧関係も、覆土の相違から、当住居跡が新しい。69号住居跡・70号住居跡との関係は不明である。

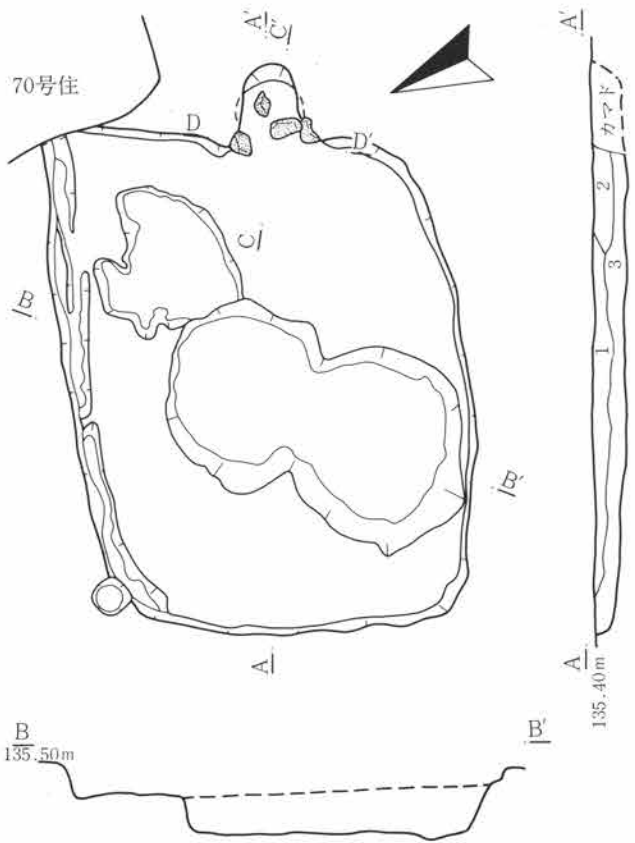
規模は東西約3.8m・南北約3.0mであり、平面形は歪な隅丸長方形を呈する。主軸はN-117°-Eである。壁の立ち上りは約10~20cmであり、床はローム層中に構築されている。壁内で柱穴は確認できなかった。壁周溝は、北側の壁からのみ確認できた。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁外にあり、確認面での壁外への張り出しは約60cmである。袖はほとんど確認できず、壁から外へ張り出す部分の角は、角閃石安山岩を用いて固めてあった。壁の線から外へ約40cm、カマドの中心線よりやや北側から、支脚に使用されたと考えられる石が検出できた。貯蔵穴は確認できなかった。

当住居跡の床下からは、土坑が検出できた。住居跡よりも古い。

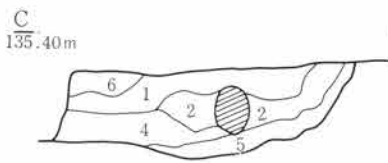
遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・甕が出土している。

(井川)



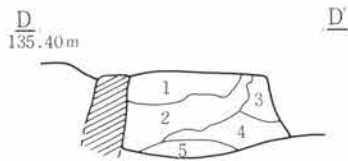
住居セクション

- 1. 暗褐色土 少量のFP・焼土を含む。
- 2. 暗褐色土 焼土粒子を含む。
- 3. 暗褐色土 ローム粒子を含む。



カマドセクション

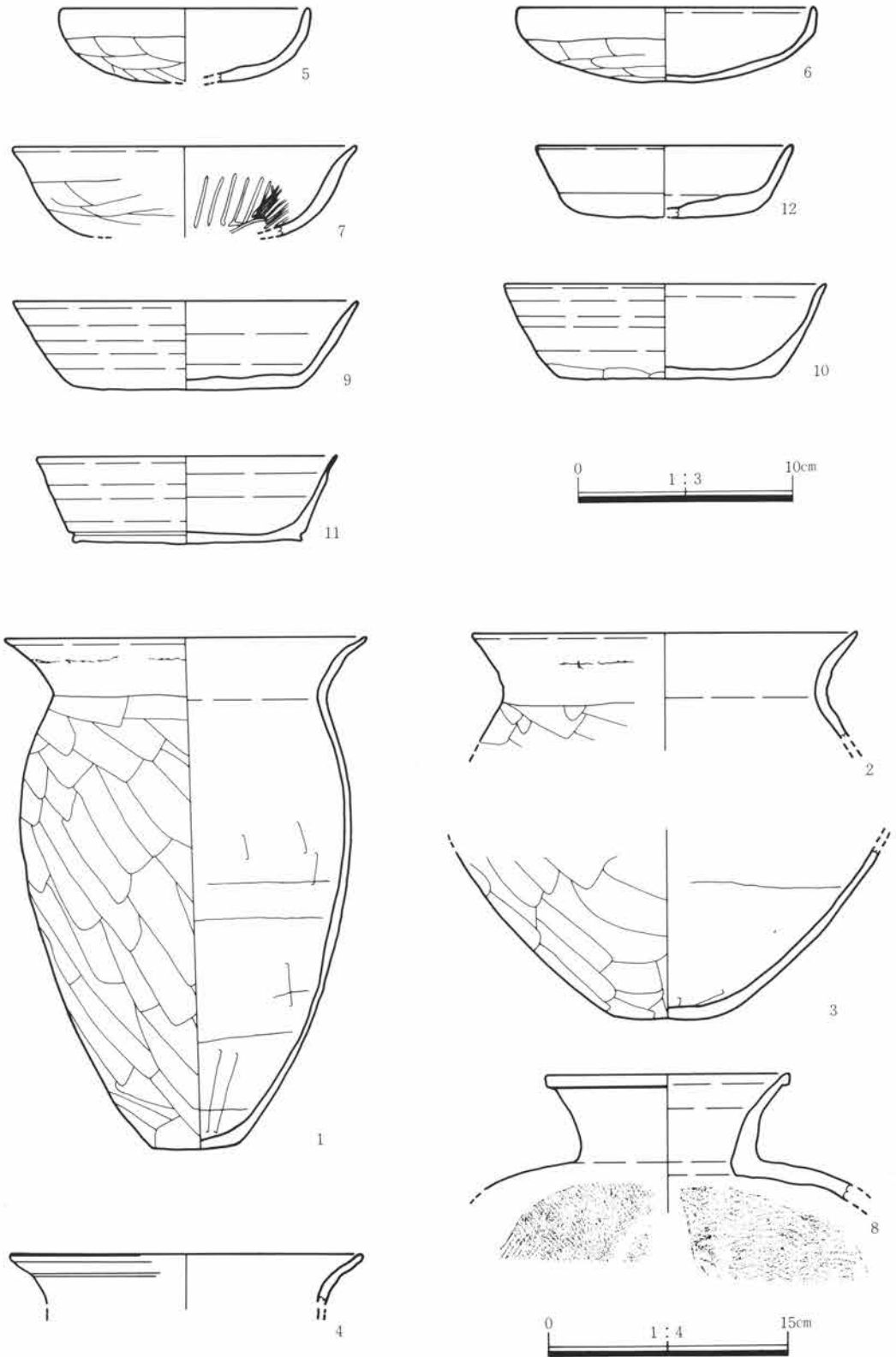
- 1. 暗褐色土 ロームを含む。
- 2. ローム・暗褐色土の混合。
- 3. 褐色土 ロームを含む。
- 4. 暗褐色土 焼土を含む。
- 5. 焼土・灰の混合。
- 6. 暗褐色土 少量のFP・焼土を含む。



第206図 74号住居跡



第2節 発見された遺構と遺物 (74号住)



第207図 74号住居跡出土遺物

75号住居跡 (第208・209図、図版56)

84号住居跡・11号土坑・12号土坑と重複し、74号住居跡・76号住居跡・83号住居跡が近接する。84号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。11号土坑との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古く、12号土坑との関係も同様に、当住居跡が古い。

規模は東西約5.0m・南北約4.5mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。壁の立ち上りは約15～30cmであり、上面は破壊されている。床はローム層中に構築されている。当住居跡の支柱穴と考えられるのは、ピット1・ピット4・ピット7・ピット10である。規模は直径が約40～50cmであり、平面形は不定形であり、ピット1・ピット7は12号土坑に半分破壊されている。床面からの深さは約30～50cmである。壁周溝は住居内全体から確認できたが、断続的である。

カマドは不明である。貯蔵穴と考えられるのはピット3である。規模は長さ約100cm・床面からの深さ約30cm、平面形は不定形であり、複数のピットの重複も考えられる。遺物の出土は少ないが、土師器の杯・甕、須恵器の杯・皿・蓋がある。 (井川)

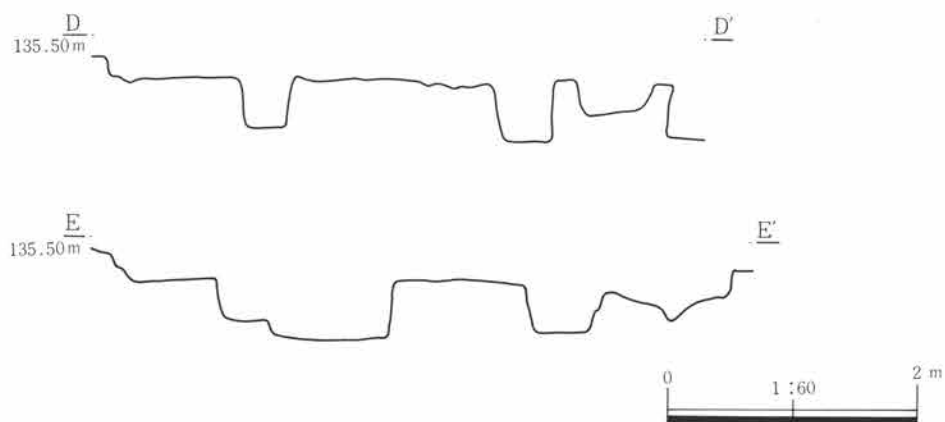
84号住居跡 (第209図、図版56)

74号住居跡・75号住居跡・12号土坑が重複し、76号住居跡・80号住居跡・83号住居跡が近接する。74号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。75号住居跡との新旧関係は、前述の通り、当住居跡が古い。12号土坑との直接的重複関係は不明であるが、同土坑と75号住居跡との関係により、やはり当住居跡が古い。

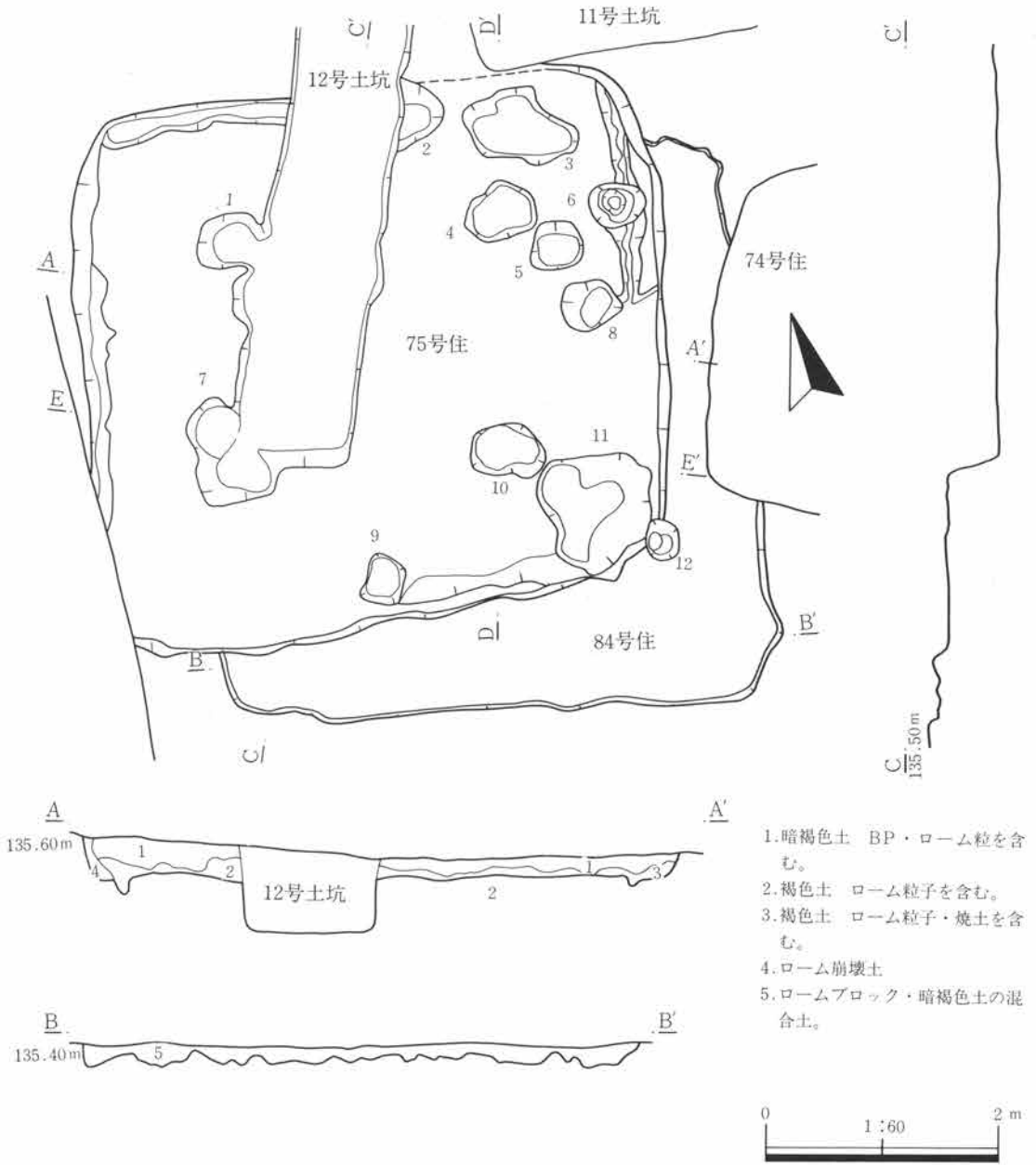
規模は不明であるが、一辺約5.0mであり、平面形は隅丸方形を呈すると推定している。掘り方のみの検出であり、壁・床は不明である。当住居跡の柱穴と考えられるのは、ピット6・ピット9・ピット12である。北西部のピットが不明であるが、12号土坑によって破壊されていると考えられ、柱穴は4本であったと推測している。規模は長軸約30～50cm・短軸約25～35cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約30～50cmである。

カマド・貯蔵穴は不明であり、遺物の出土はない。

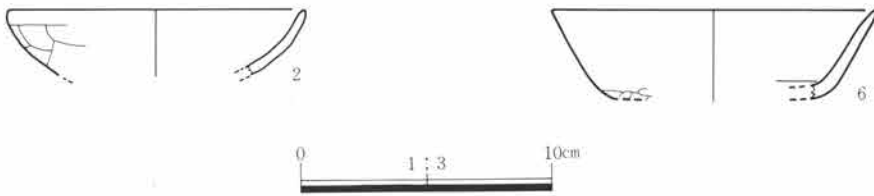
(井川)



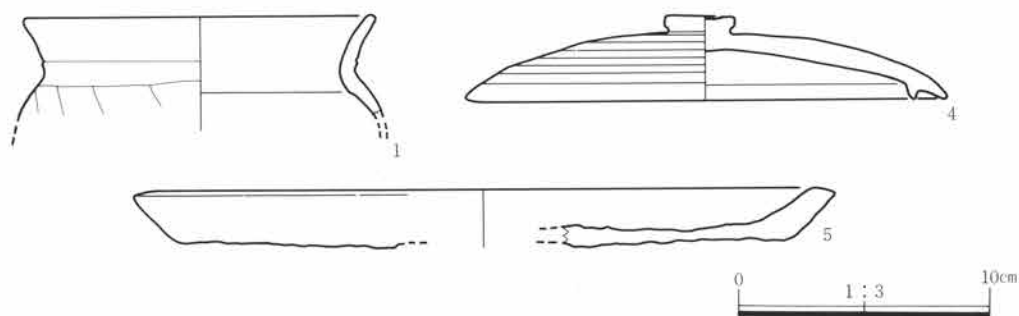
第208図 75号住居跡エレベーション



第209図 75号住居跡・84号住居跡



第210図 75号住居跡出土遺物①



第211図 75号住居跡出土遺物②

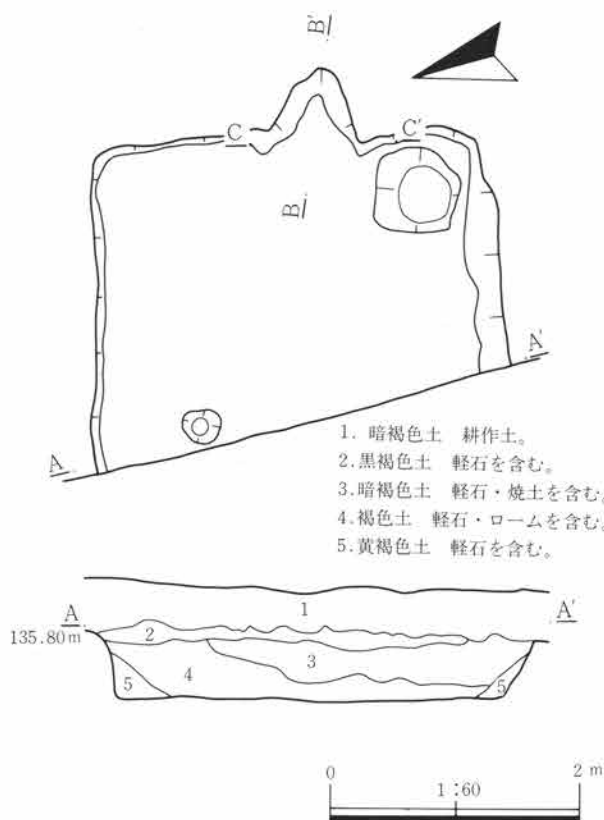
76号住居跡 (第212・213図、図版57)

75号住居跡・12号土坑が近接するが、調査区域内での重複はない。東側が未調査のため、規模は不明であるが、南北は約3.2mである。主軸はN-100°-Eである。壁の立ち上りは約50cmを測り、残存状態は良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。住居内北西部からピットが1基確認できた。規模は長軸約30cm・短軸約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面

からの深さは約20cmである。検出位置から、柱穴とは考え難い。調査範囲内では、壁周溝は確認できなかった。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃焼部の半分は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。袖はほとんど確認できなかった。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約70cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面からの深さは約30cmである。

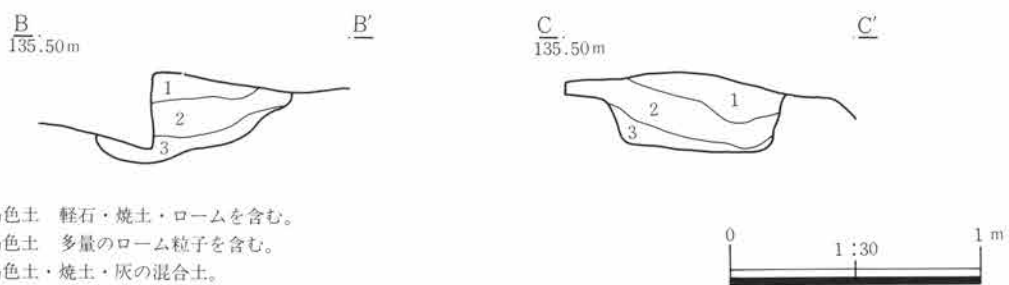
遺物の出土は多くはないが、土師器の杯・甕、須恵器の杯がある。遺物は北東部の出土がやや多い。(井川)



1. 暗褐色土 耕作土。
2. 黒褐色土 軽石を含む。
3. 暗褐色土 軽石・焼土を含む。
4. 褐色土 軽石・ロームを含む。
5. 黄褐色土 軽石を含む。

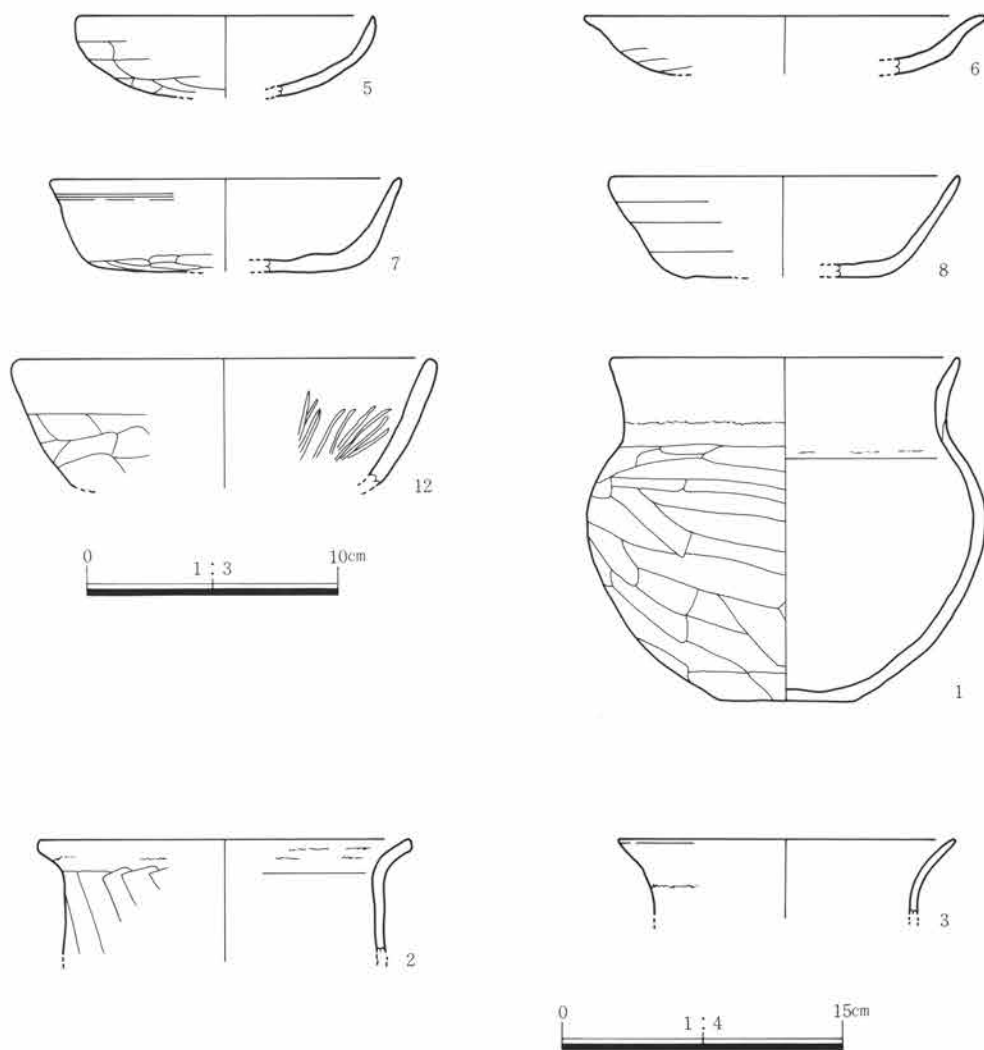
第212図 76号住居跡

第2節 発見された遺構と遺物 (75・76・77号住)



1. 暗褐色土 軽石・焼土・ロームを含む。
2. 暗褐色土 多量のローム粒子を含む。
3. 暗褐色土・焼土・灰の混合土。

第213図 76号住居跡カマドセクション



第214図 76号住居跡出土遺物

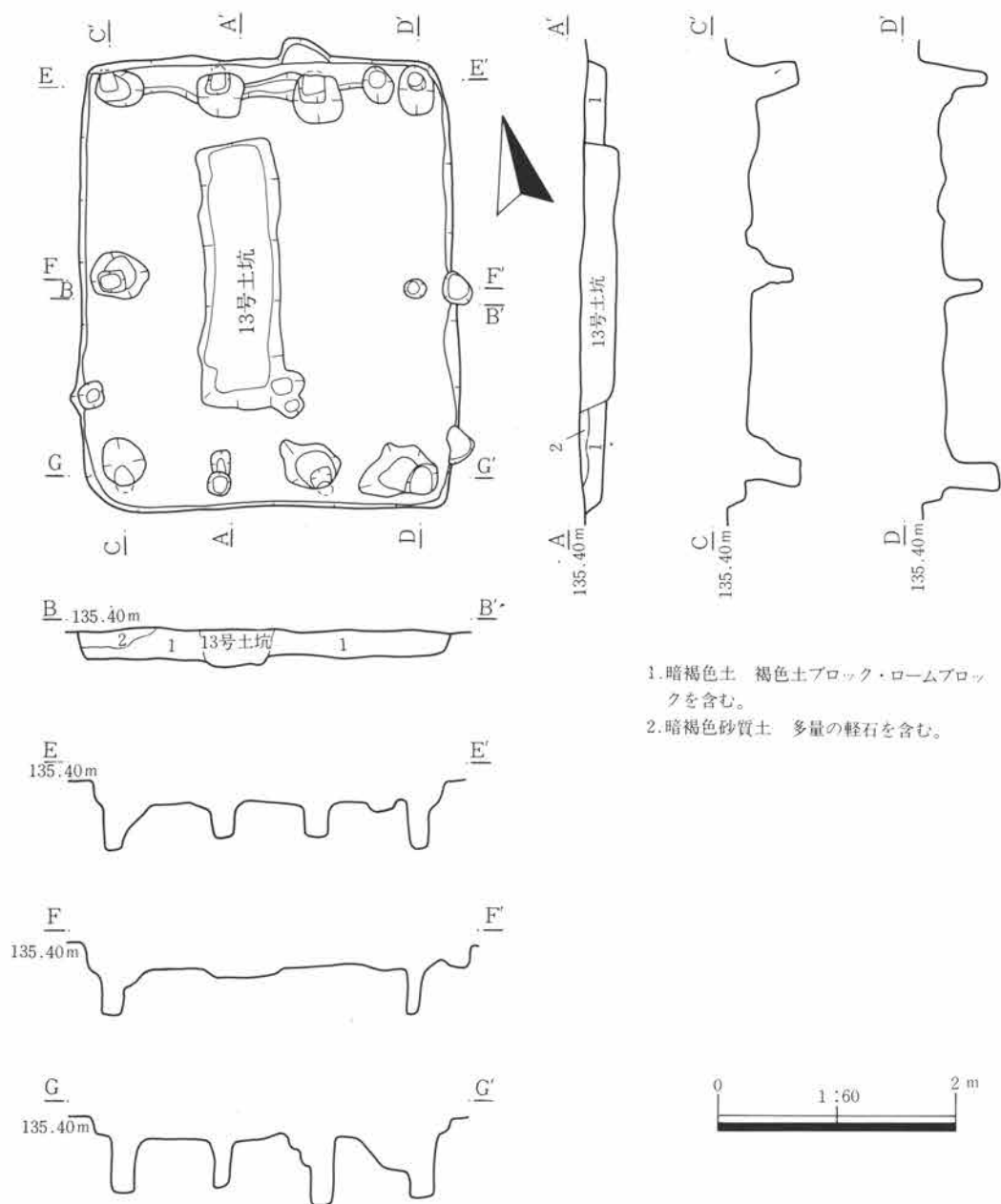
77号住居跡 (第215図、図版58・61)

13号土坑と重複し、80号住居跡・81号住居跡・82号住居跡・97号住居跡が近接する。13号土坑との新

旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。

規模は東西約3.1m・南北約3.7mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約15cmであり、非常に浅い。床はローム層中に構築されている。柱穴は、東西方向の壁に各々4本・南北方向の壁に各々3本、計10本（各隅は共通）検出できた。各柱穴の上面は直径約30cmで、平面形は円形・楕円形等を呈するが、底面は一辺約20cmで、平面形は方形を呈するものが多い。

カマド・貯蔵穴等は確認できず、遺物の出土もない。70号住居跡・71号住居跡等と形態は同じであり、食住に使用された、いわゆる住居ではないと考えられる。 (井川)



第215図 77号住居跡

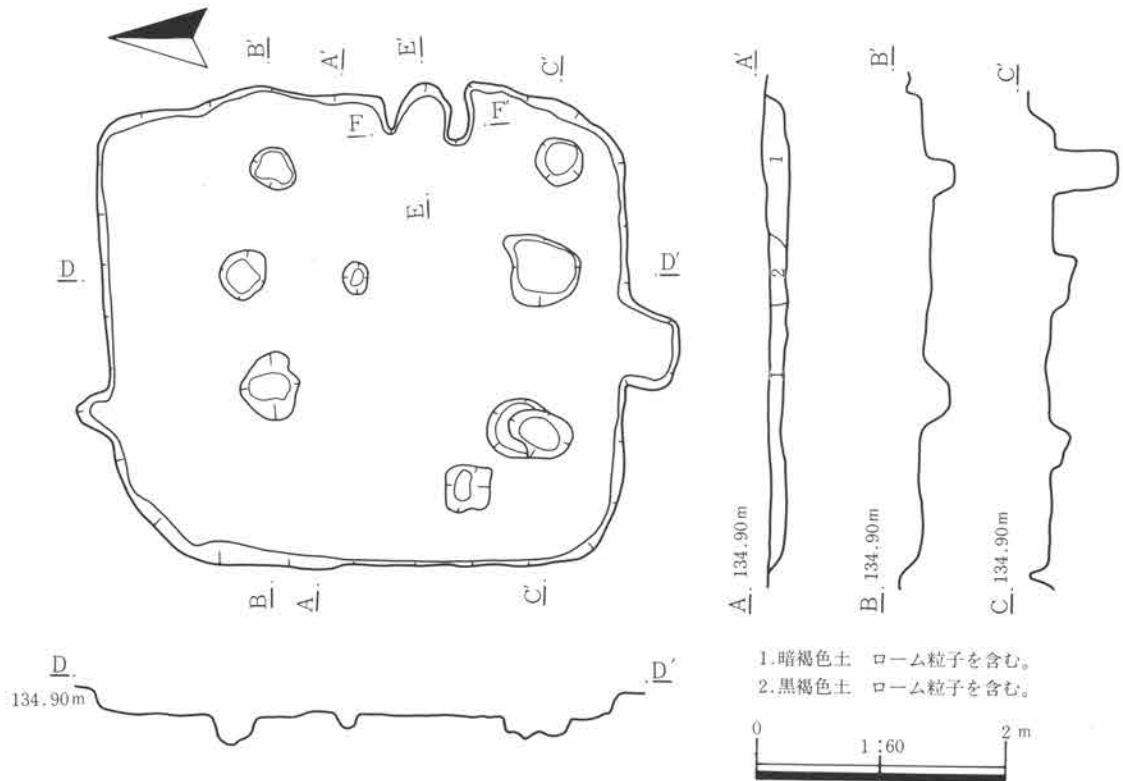
78号住居跡 (第216・217図、図版58)

86号住居跡・87号住居跡・95号住居跡が近接するが、重複はない。

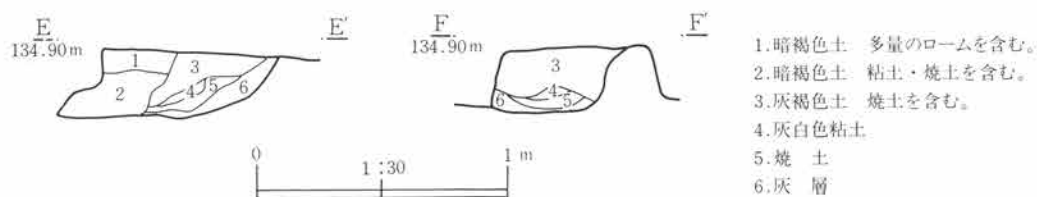
規模は東西約3.7m・南北約4.2mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-88°-Eである。壁の立ち上りは約10~20cmであり、残存状態は不良である。南側壁の中央部分と北側壁の西寄りに張り出した部分があるが、住居跡には属さない土坑・ピットの重複である。床はローム層中に構築されているが、床はやや軟弱である。

住居内からは8基のピットが確認できた。位置・平面形は不規則であり、床面からの深さも、南東隅のピットを除き、約10~20cmと浅い。これらのピットを柱穴とするには、疑問が残る。

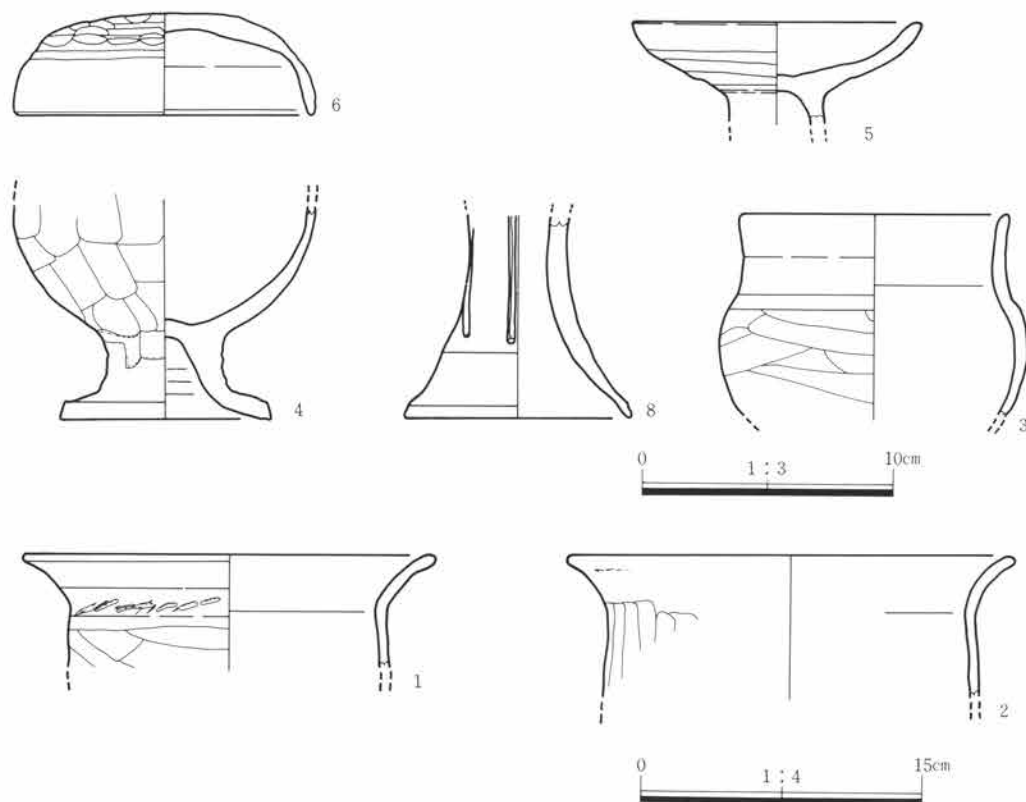
カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃燒部は壁内にあり、袖は灰白色粘土を素材に造られている。南東隅から検出されたピットの規模は直径約40cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。床面からの深さは約50cmを測る。貯蔵穴であると推定している。遺物の出土は少ないが、土師器の甕・台付甕、須恵器の高杯・蓋がある。  
(井川)



第216図 78号住居跡



第217図 78号住居跡カマドセクション



第218図 78号住居跡出土遺物

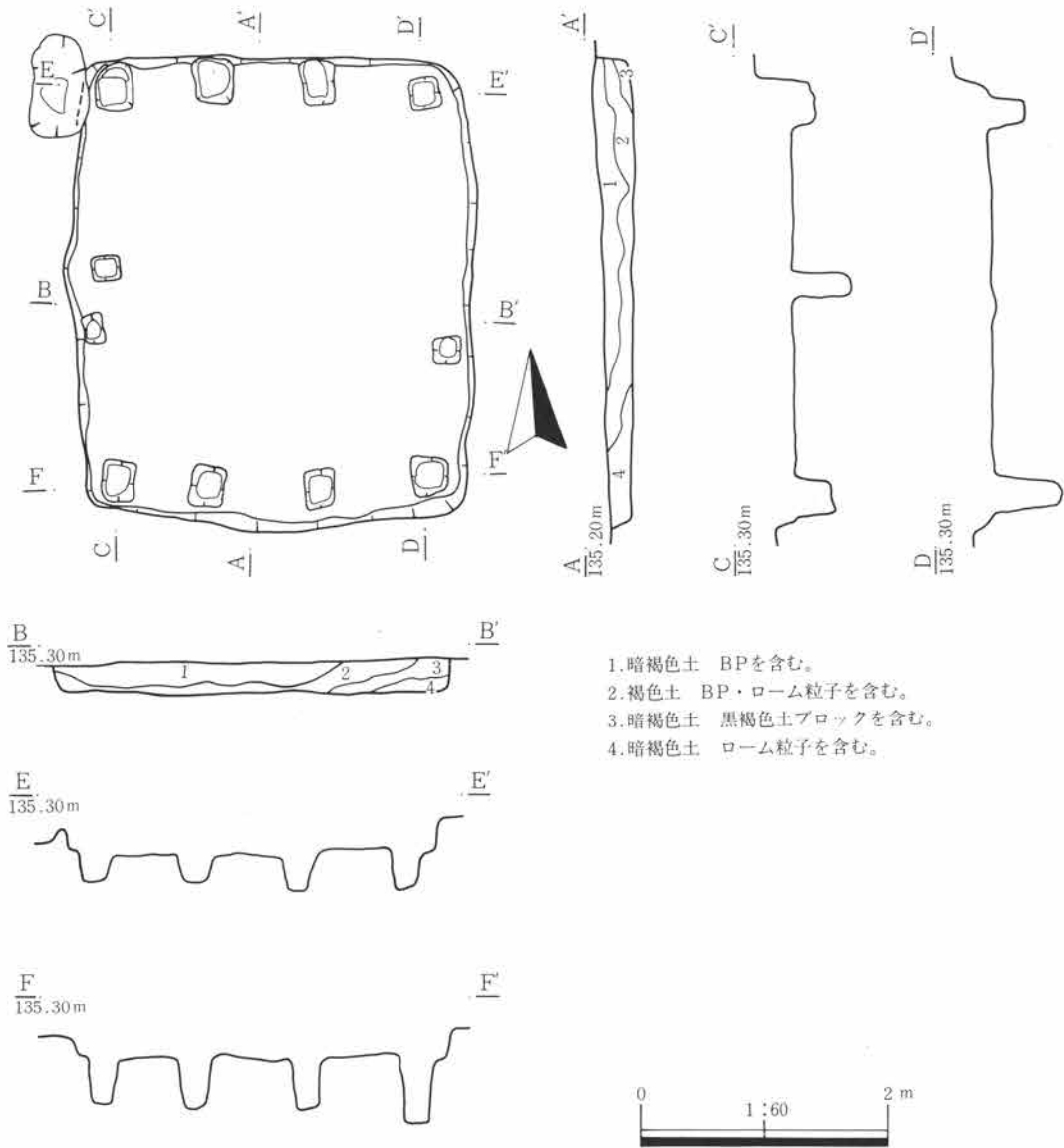
79号住居跡 (第219図、図版59)

94号住居跡・95号住居跡・97号住居跡・14号土坑が近接するが、重複はない。覆土は暗褐色土であるが、BPを含んでいる。

規模は東西約3.2m・南北約3.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。壁の立ち上りは約20～25cmであり、同じ形態を持つ70号住居跡・71号住居跡等と同様に浅い。床はローム層中に構築されている。

柱穴は東西方向の南壁際・北壁際に各々4本、南北方向の東壁際に3本、西壁際に4本、合計11本(各隅は共通)掘られている。各柱穴は住居の東西・南北を中心線に対応するが、西壁側の柱穴だけは変則的である。立て直しをしたものであろう。柱穴の規模・平面形は、長辺約30～40cm・短辺約20～30cmで





第219図 79号住居跡

長方形・一辺約20~25cmで方形を呈する。床面からの深さは約20~50cmである。70号住居跡・71号住居跡等と同じ形態の住居跡の柱穴は円形・不整形な円形を呈したが、底面は方形を成すものが目立った。当住居跡の柱穴と考え合わせると、同種の住居跡の柱穴は方形に掘られていた可能性がある。

カマド・貯蔵穴等、食に関する遺構は確認できなかった。前出の住居と同様に遺物の出土も、流れ込みと考えられる土器を除いて出土していない。この住居跡も、食住のための、いわゆる住居跡ではないと考えられる。  
 (井川)

80号住居跡 (第220図、図版59・60)

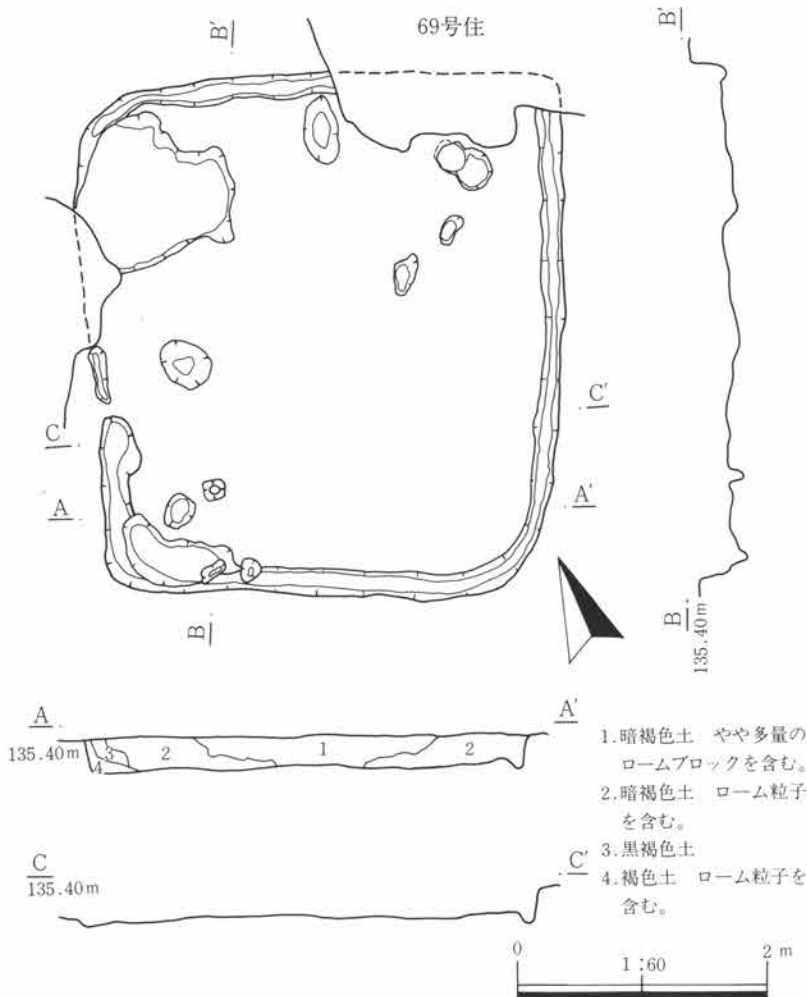
69号住居跡・70号住居跡・74号住居跡と重複し、77号住居跡・83号住居跡・84号住居跡が近接する。69号住居跡との新旧関係は不明である。74号住居跡との新旧関係は、同住居跡のカマドの残存状態・覆土の相違から、当住居跡が古い。70号住居跡との新旧関係は間接的であるが、同住居跡と69号住居跡との関係から、当住居跡が古い。

当住居跡は重複による破壊が大きいが、規模は東西約3.7m・南北約4.1mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-23°-Eである。壁の立ち上りは、南東側で約20cmであるが、北西側は確認できない部分もある。床はローム層中に構築されている。ピットは、北東部から5基・南西部から5基の計10基が確認できた。形態・位置は不定であり、床面からの深さも約5~10cmと浅く、柱穴と断定できるピットはない。

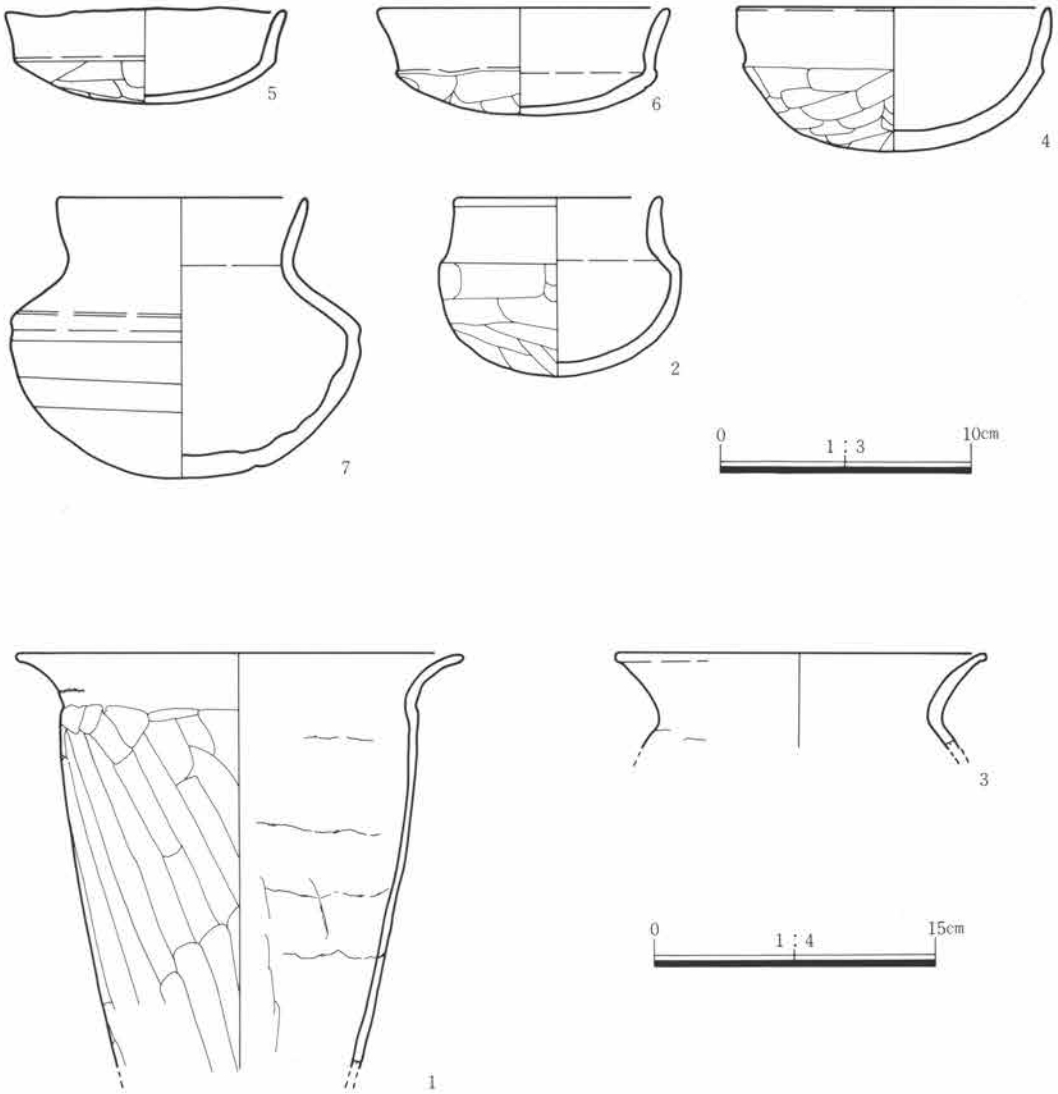
東側壁・南側壁からは、壁周溝は確認できたが、西側壁・北側壁は重複により断続的であった。残存状態から、壁周溝は、カマド部分を除き、全面的に掘られていたものと推測している。

カマドは大部分が69号住居跡に破壊されているが、焼土・炭化物・粘土の分布状態から、北側壁の南寄りに構築されていると考えられる。燃焼部・煙道部は不明であるが、袖の先端に使用されたと考えられる土師器の甕(80住-1)が、逆さに置かれている状態で検出できた。貯蔵穴は不明である。

遺物は土師器の杯・壺・甕、須恵器の壺が出土している。特に北東部のカマド前と考えられる部分からは土師器の壺の完形品(80住-2)・土師器の杯の完形品(80住-5・6)が出土している。(井川)



第220図 80号住居跡



第221図 80号住居跡出土遺物

81号住居跡 (第222・223図、図版60・61)

82号住居跡と重複し、72号住居跡・77号住居跡・97号住居跡・98号住居跡・9号井戸跡が近接する。82号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。

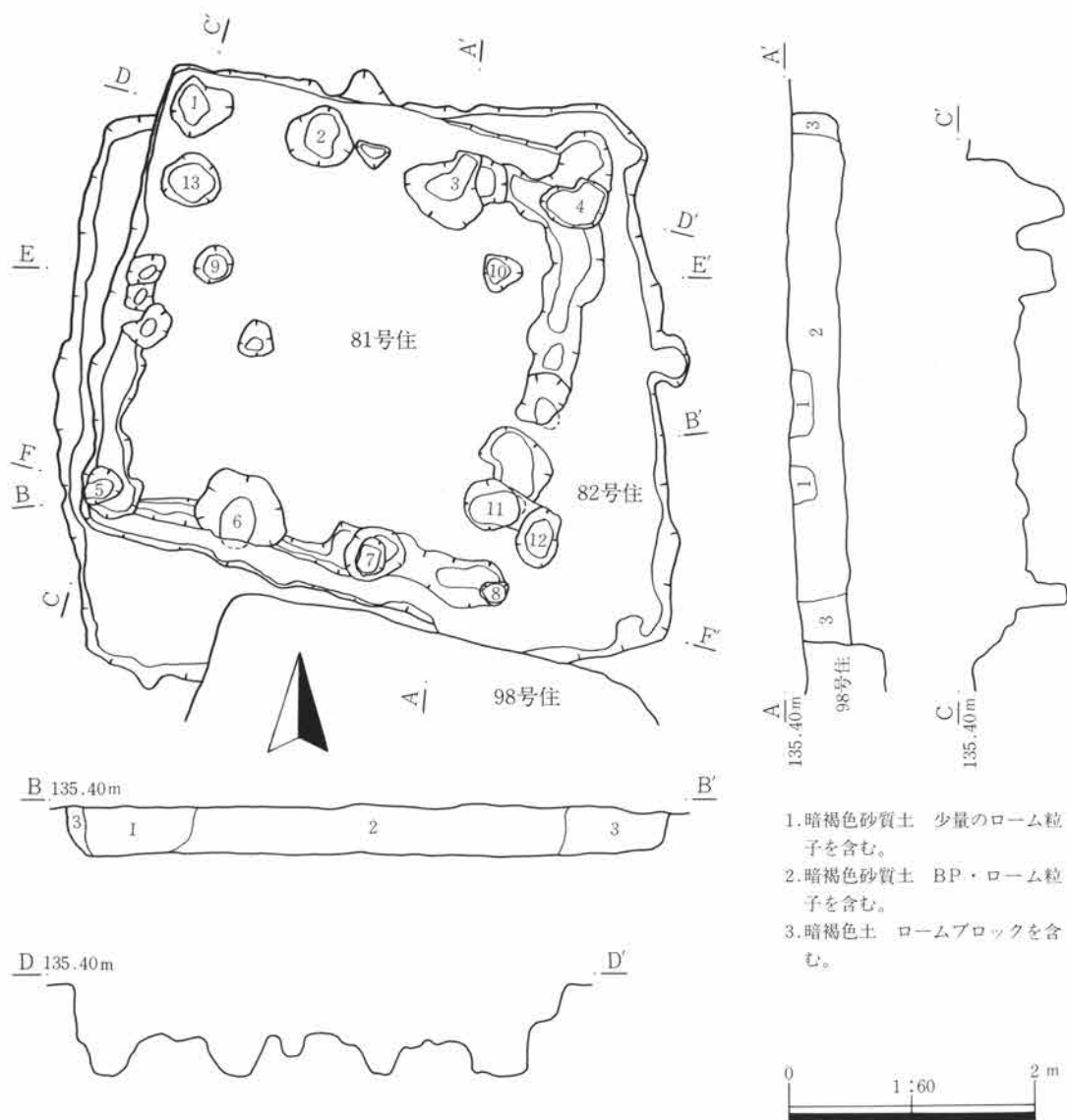
当住居跡の規模は東西約3.8m・南北約4.0mであり、平面形は方形を呈する。壁の立ち上りは約30cmであり、床はローム層中に構築されている。東西方向の南側壁に4基(ピット5～ピット8)・北側壁に4基(ピット1～ピット4)、計8基の柱穴と考えられるピットが確認できた。南北方向からもピットが確認できたが、ピット11・ピット13を除き浅いものである。このピットを柱穴と考えれば、柱穴は10本になる。柱穴の規模は長さ約30～50cmであり、平面形は不定形であるが、ピット3・ピット4・ピット7のように部分的に方形を呈するピットもある。床面からの深さは約30～40cmである。

ピットの並びに沿い、幅約20~40cm・床面からの深さ約5~10cmの溝が確認できたが、北西部分からは確認できなかった。

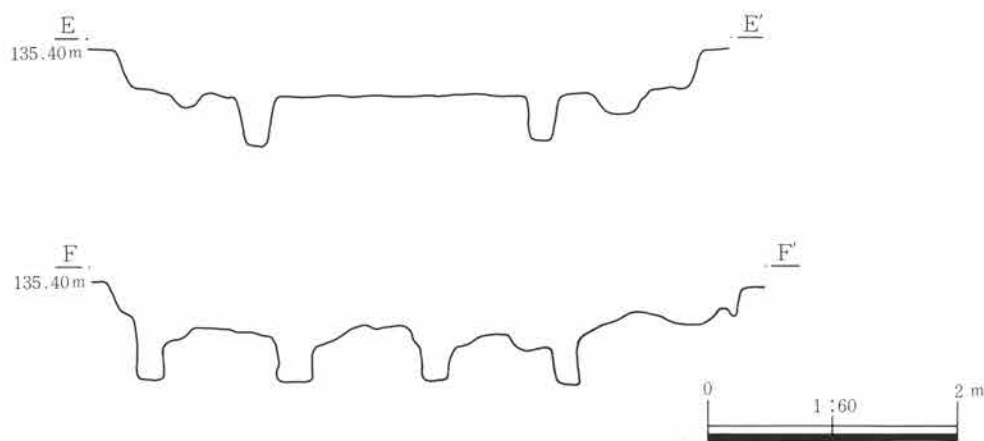
カマド・貯蔵穴は確認できなかった。遺物も流れ込みの土器以外の出土はなく、食に関する設備がないことから、70号住居跡・71号住居跡と同様に、食住の生活をする、いわゆる住居ではないと考えている。(井川)

82号住居跡 (第222・223図、図版60)

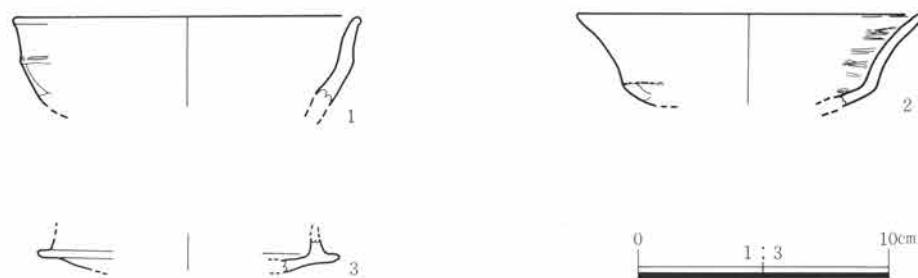
81号住居跡・98号住居跡と重複し、72号住居跡・77号住居跡・97号住居跡・9号井戸跡が近接する。81号住居跡との新旧関係は、前述の通り、当住居跡が古い。98号住居跡との新旧関係も、覆土の相違に



第222図 81号住居跡・82号住居跡



第223図 81号住居跡エレベーション・82号住居跡エレベーション



第224図 82号住居跡出土遺物

より、当住居跡が古い。

規模は東西約4.7m・南北約4.5mであり、平面形は台形に近い隅丸方形を呈する。壁の立ち上りは約30cmであり、床はローム層中に構築されている。主柱穴は4本であると考えられるが、南西側のピットは不明である。しかし、南西側の柱穴は81号住居跡の柱穴と重複すると考えれば、ピット6・ピット9・ピット10・ピット12が柱穴と考えられる。柱穴の規模は長さ約30~70cm・床面からの深さ約40cmであり、平面形は不定形である。壁周溝は確認できなかった。

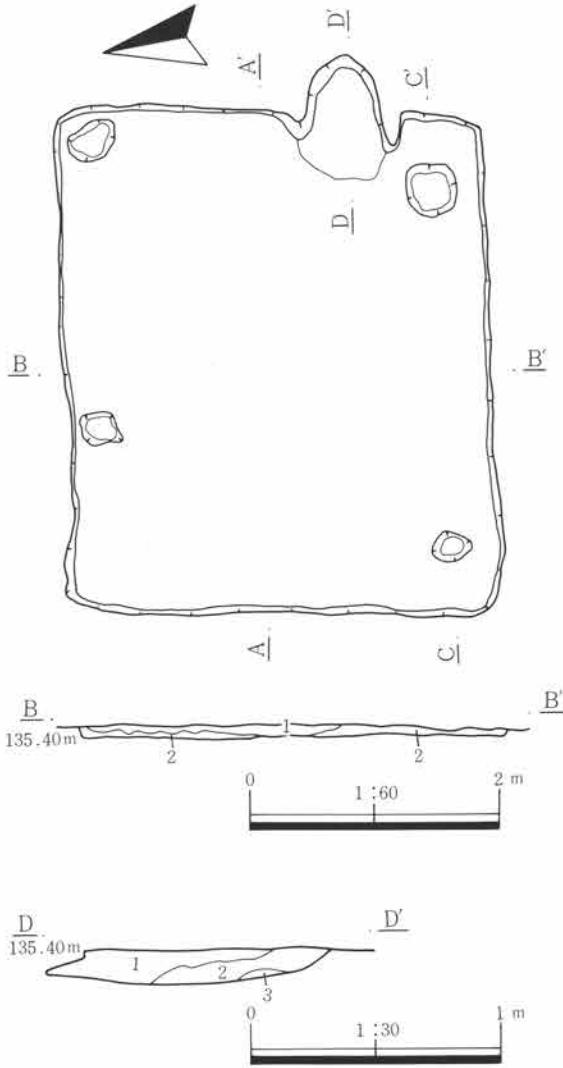
カマド・貯蔵穴は不明である。遺物は非常に少ないが、土師器の杯、須恵器の杯が出土している。

(井川)

### 83号住居跡 (第225図、図版61)

80号住居跡・84号住居跡・10号井戸跡が近接するが、重複はない。規模は南北約4.0m・東西約3.4mであり、平面形は長方形を呈する。主軸はN-100°-Eである。壁の立ち上りは約5cmであり、上面は大部分が破壊されている。床はローム層中に構築されている。

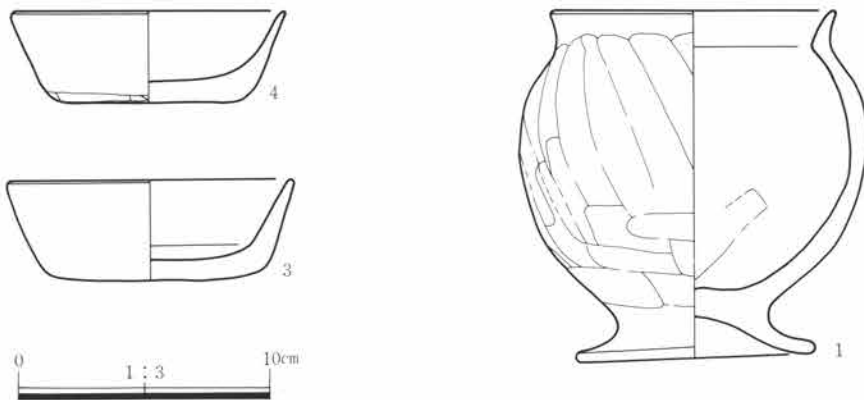
北東隅・南西隅・南東隅から各1基、北側壁中央やや西寄りの際から1基、計4基のピットを確認したが、位置・形態から柱穴とは考えにくい。壁周溝は検出できなかった。



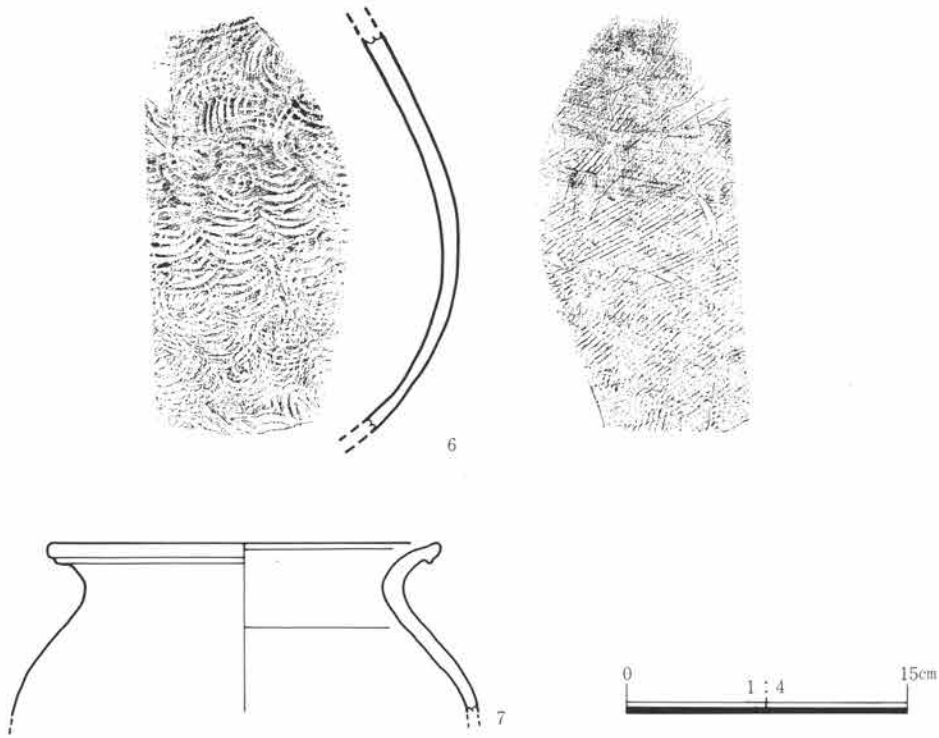
第225図 83号住居跡

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部の半分は壁内にあり、確認面での煙道部の張り出しは約40cmである。袖は痕跡しか確認できなかったが、粘土を素材に造られている。南東隅で確認したピットの規模・平面形は、直径約40cmで円形を呈するが、床面からの深さが約5cmと浅く、貯蔵穴とは考え難い。

遺物は土師器の台付甕、須恵器の杯・甕が出土しているが、出土量は非常に少ない。(井川)



第226図 83号住居跡出土遺物①



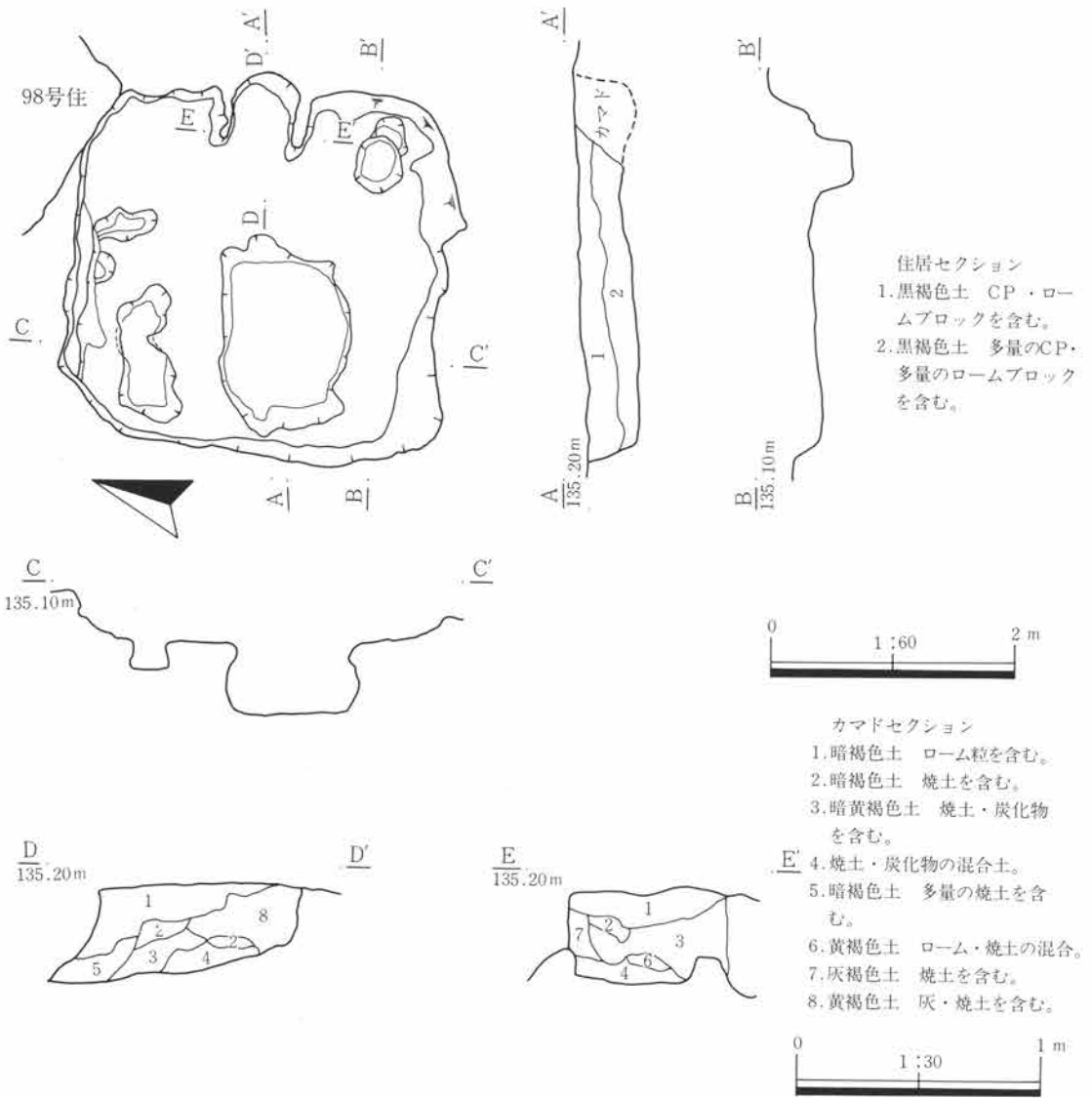
第227図 83号住居跡出土遺物②

### 85号住居跡（第228図、図版62）

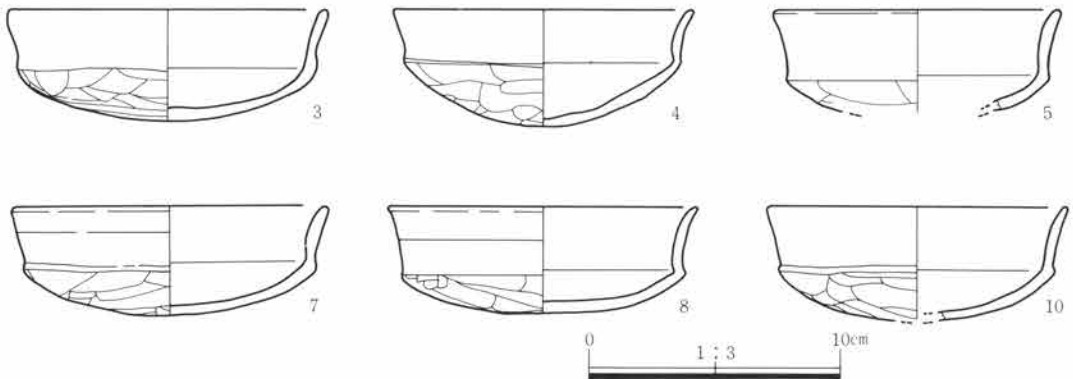
98号住居跡と重複し、86号住居跡・87号住居跡が近接する。98号住居跡との新旧関係は不明であるが、当住居跡が古いと推定している。

規模は東西約2.9m・南北約3.0mであり、平面形は不整形な方形を呈する小型の住居跡である。主軸はN-79°-Eである。壁の立ち上りは約20~35cmであり、床はローム層中に構築されている。柱穴は確認できなかったが、床下から2基の土坑が確認できた。中央部西寄りの土坑は、規模が長辺約150cm・短辺約100cm・床面からの深さ約50cmであり、平面形は歪な長方形を呈する。同土坑は下部の方が広がっている。北西隅の土坑は、規模が長辺約100cm・短辺約50cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。壁周溝は確認できなかった。

カマドは東側壁の中央に構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約20cmである。袖は粘土を素材に造られている。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は長軸約50cm・短軸約40cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約30cmである。遺物は土師器の杯・高杯・甕が出土している。（井川）

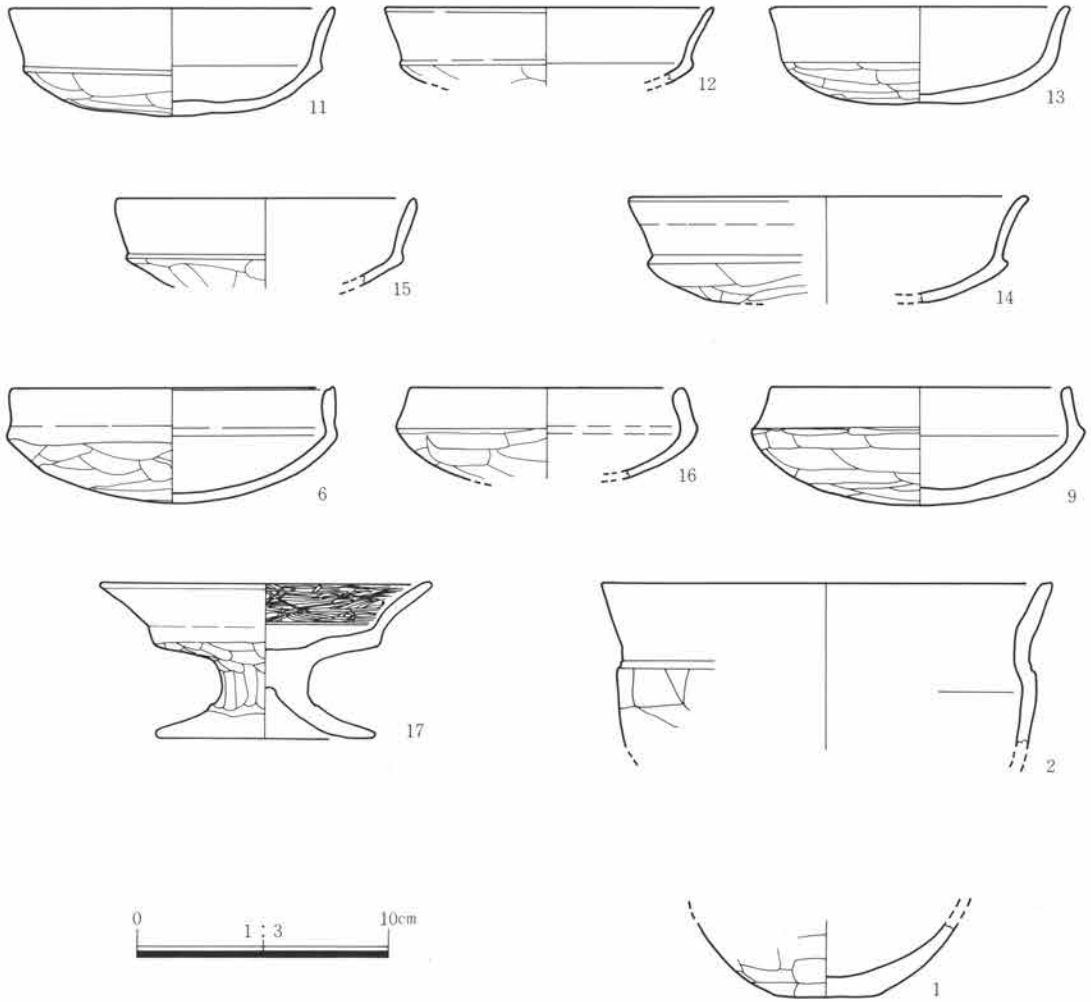


第228図 85号住居跡



第229図 85号住居跡出土遺物①





第230図 85号住居跡出土遺物②

86号住居跡 (第231・232図、図版63)

当住居跡は87号住居跡と重複関係にある。北側には85号住居跡が近接し、南側にはピット群が近接する。

規模は南北約2.3m、東西は重複関係により不明。平面形、主軸は不明である。壁はソフトでハッキリせず、深さ6cm位の浅い床面は凹凸がある。ピット3基が検出されている。20~50cmの大きさと、不定形。形も大きさも不揃いで、柱穴として使用されたかどうか不明である。

遺物は住居内全体に数が少なく、内黒土師質の椀(86住-4)、土師器の杯(86住-5)、須恵器の甕(86住-6)・杯(86住-7)・蓋(86住-8)などが主なものであるが、ほとんど破片である。

当住居跡は切り合い関係により87号住居跡より時期は新しい。

(宮下)

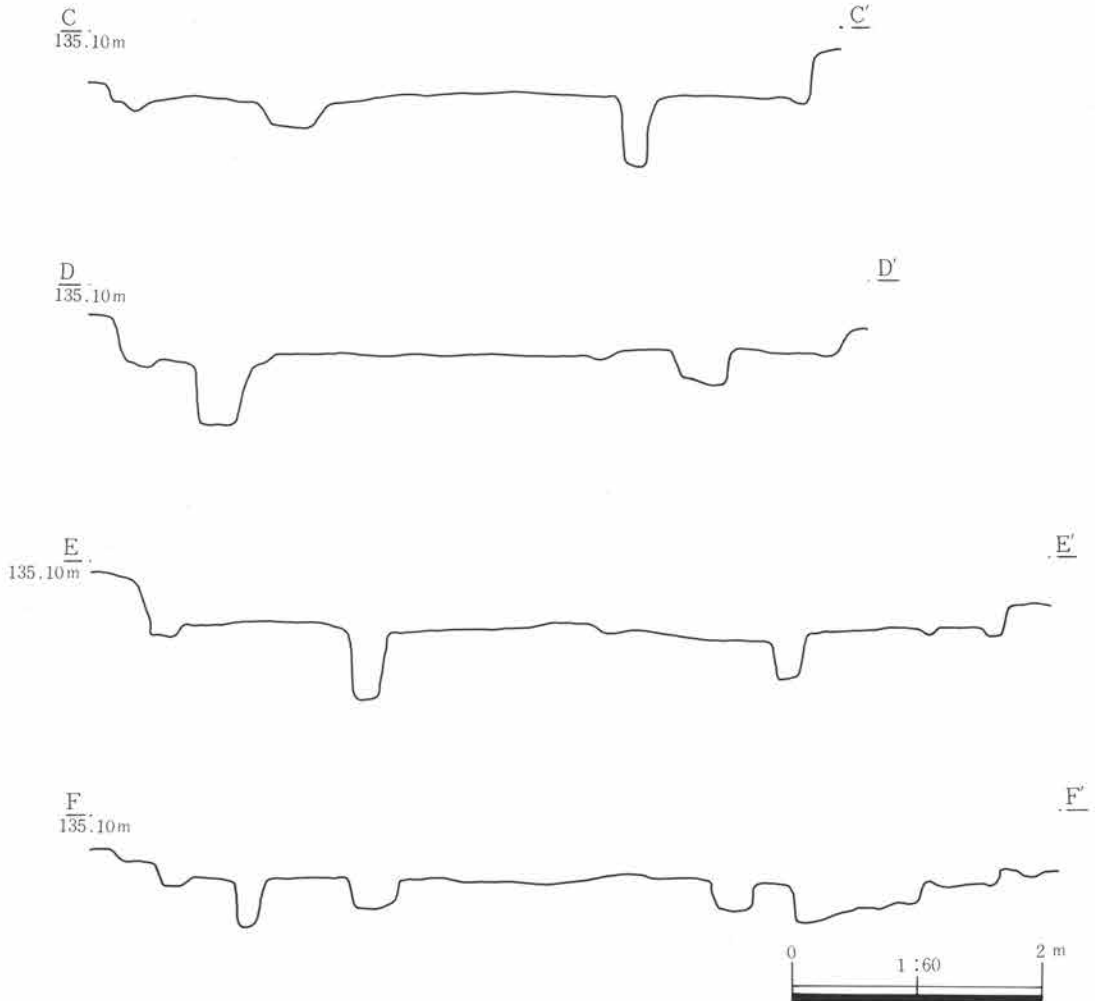
87号住居跡（第231・232・233図、図版63・64）

86号住居跡と重複し、78号住居跡・85号住居跡・88号住居跡が近接する。86号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。

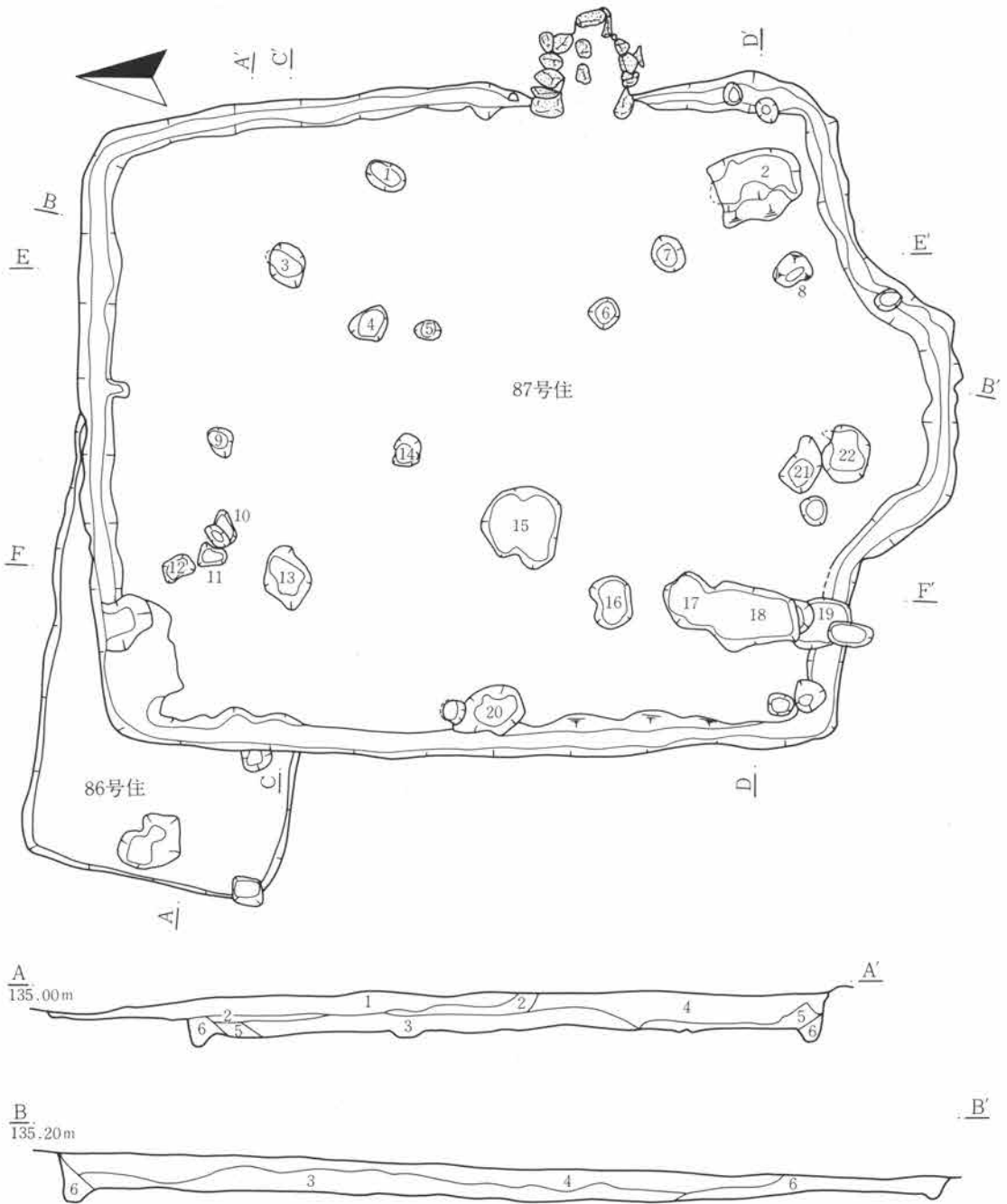
規模は東西約4.4m・南北約5.0mであり、平面形は隅丸方形を呈するが、南側に東西約2.0m・南北約0.8mの張り出しを持つ。主軸はN-88°-Eである。壁の立ち上りは約20~40cmである。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床面である。

住居内からは多くのピットが検出できたが、柱穴と考えられるのはピット3・ピット7・ピット13・ピット16又はピット17である。規模は長さ30~50cmであり、平面形は不定形である。壁周溝は、張り出し部分も含め、住居内全体（カマド部分は除く）から確認できた。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁外にあり、壁外への張り出しは約70cmである。燃烧部から煙道部の周囲は石を積み重ね構築している。壁から張り出す部分が袖先端であり、大きな石



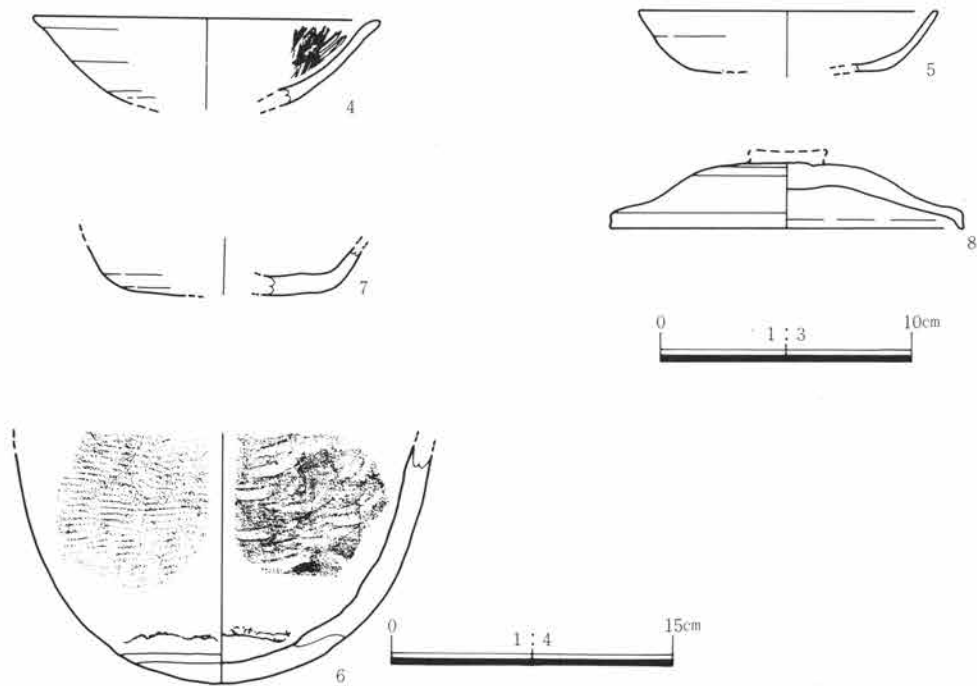
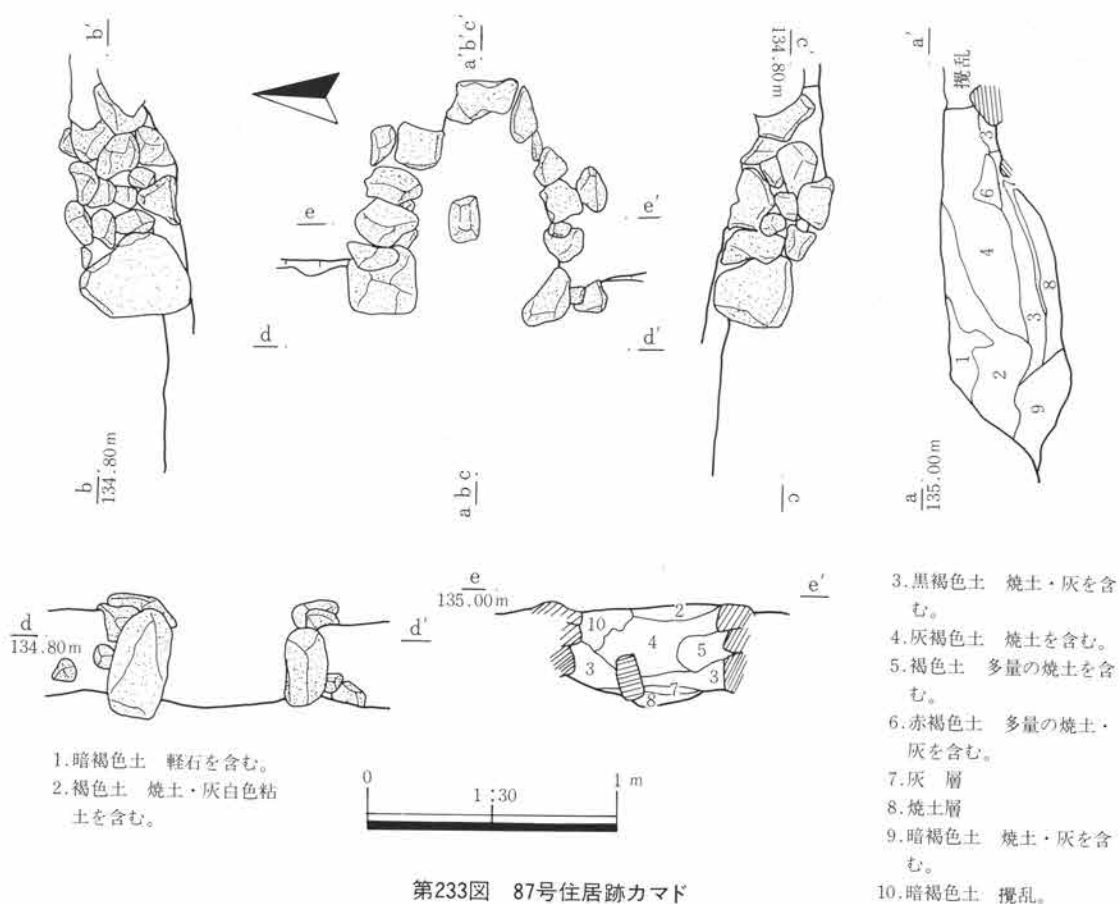
第231図 86号住居跡エレベーション・87号住居跡エレベーション

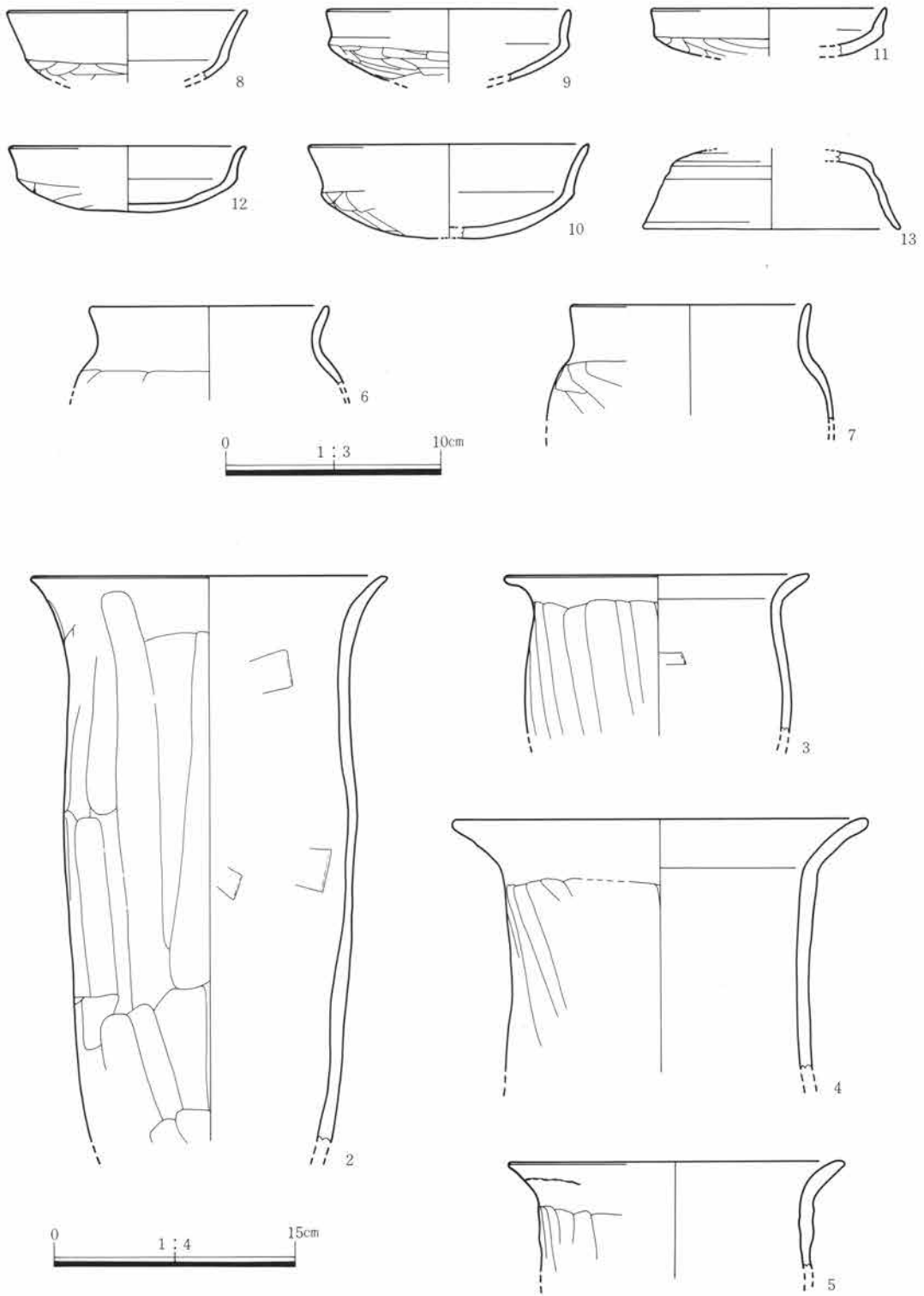


1. 黒褐色土 軽石・ロームブロックを含む。
2. 褐色土 軽石を含む硬い層。
3. 褐色土 軽石・ロームブロックを含む。
4. 暗褐色土 少量のロームブロックを含む。
5. 黒褐色土 ロームブロックを含む。
6. 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。

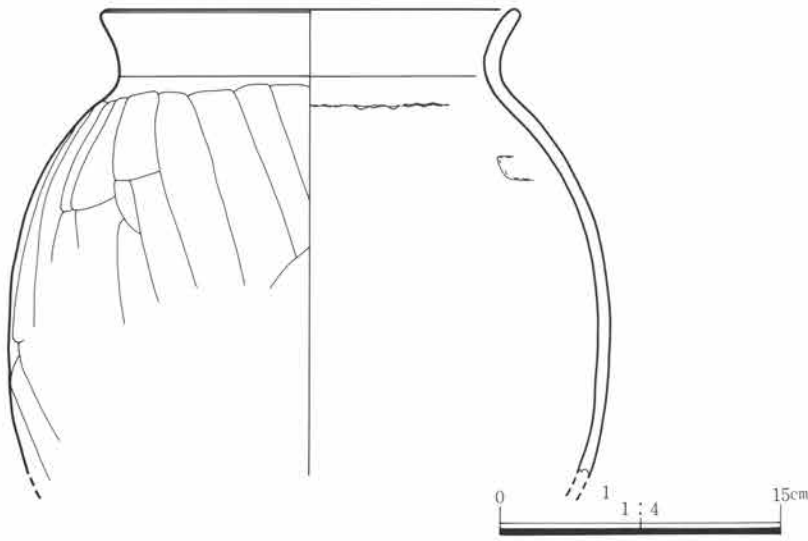


第232図 86号住居跡・87号住居跡





第235図 87号住居跡出土遺物①

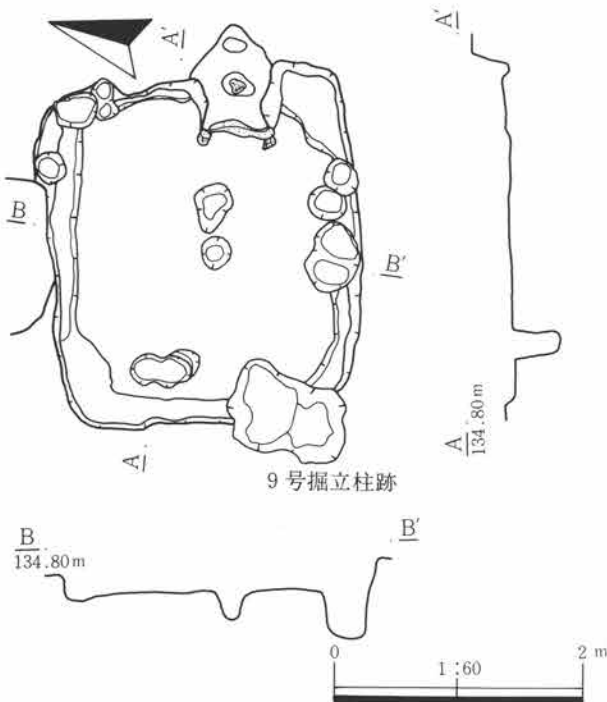


第236図 87号住居跡出土遺物②

を用いて固めている。燃焼部内からは、支脚に使用された石が検出できた。

貯蔵穴と考えられるピットは、ピット2・ピット18である。ピット2の規模は長辺約70cm・短辺約60cm・床面からの深さ約30cmであり、

平面形は不整形な長方形を呈する。ピット18の規模は長辺約70cm・短辺約50cmであり、床面からの深さ約60cmであり、平面形は長方形を呈する。遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋・甕が出土している。(井川)



第237図 88号住居跡

88号住居跡 (第237・238図、

図版65・66・67)

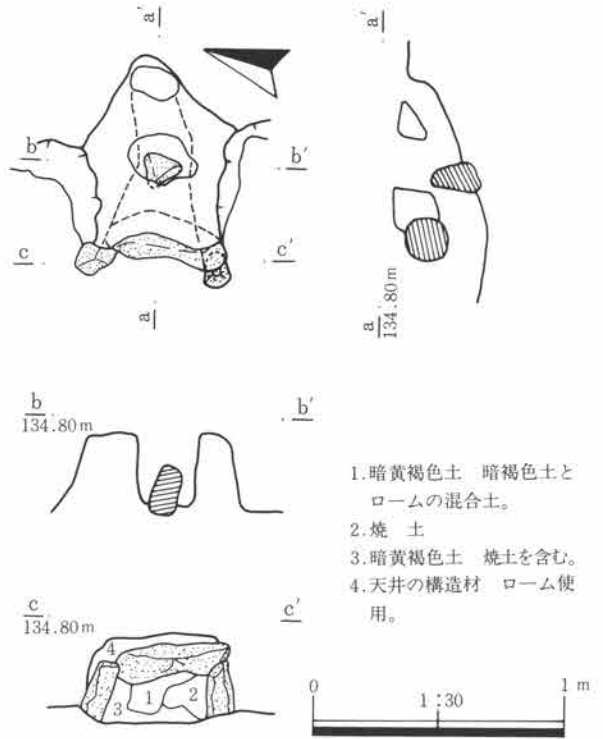
9号掘立柱跡と重複し、87号住居跡が近接する。9号掘立柱跡との新旧関係は不明である。

規模は東西約2.5m・南北約2.7mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-69°-Eである。壁の立ち上りは約10~25cmであり、東側壁の残存状態が良い。床はローム層中に構築されている。

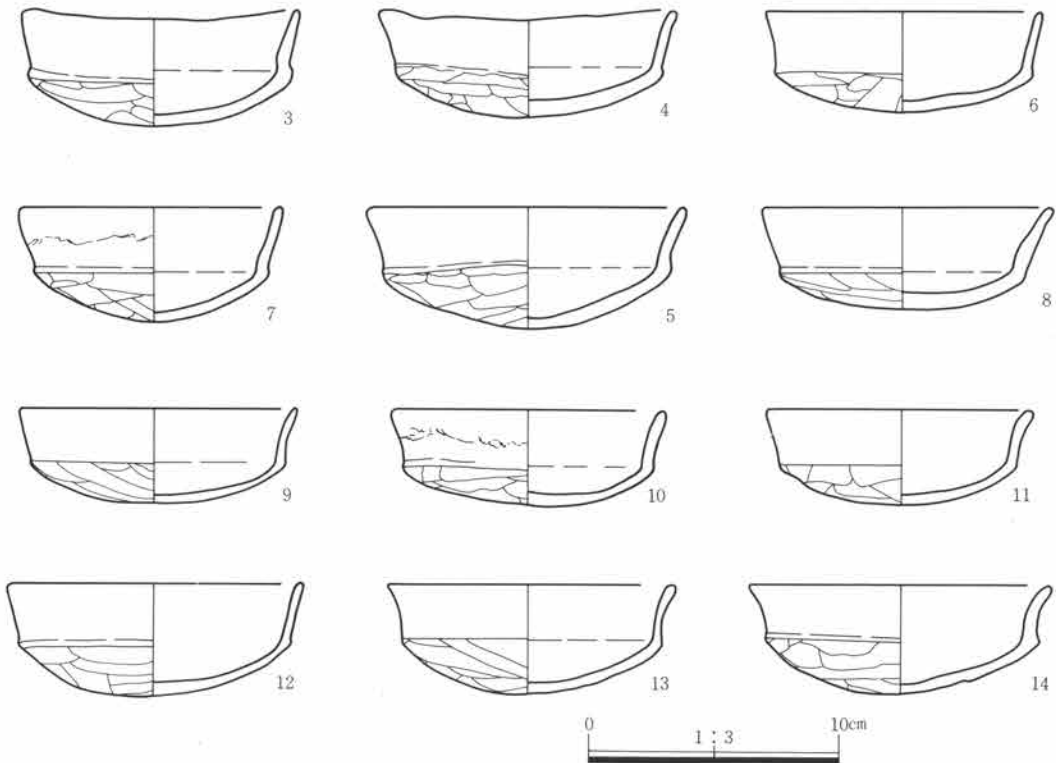
住居内からは合計12基のピットが確認できたが、位置・形態から、柱穴と断定できるピットはない。壁周溝は、カマド部分を除き、全面的に掘られている。

カマドは東側壁の南寄りに構築さ

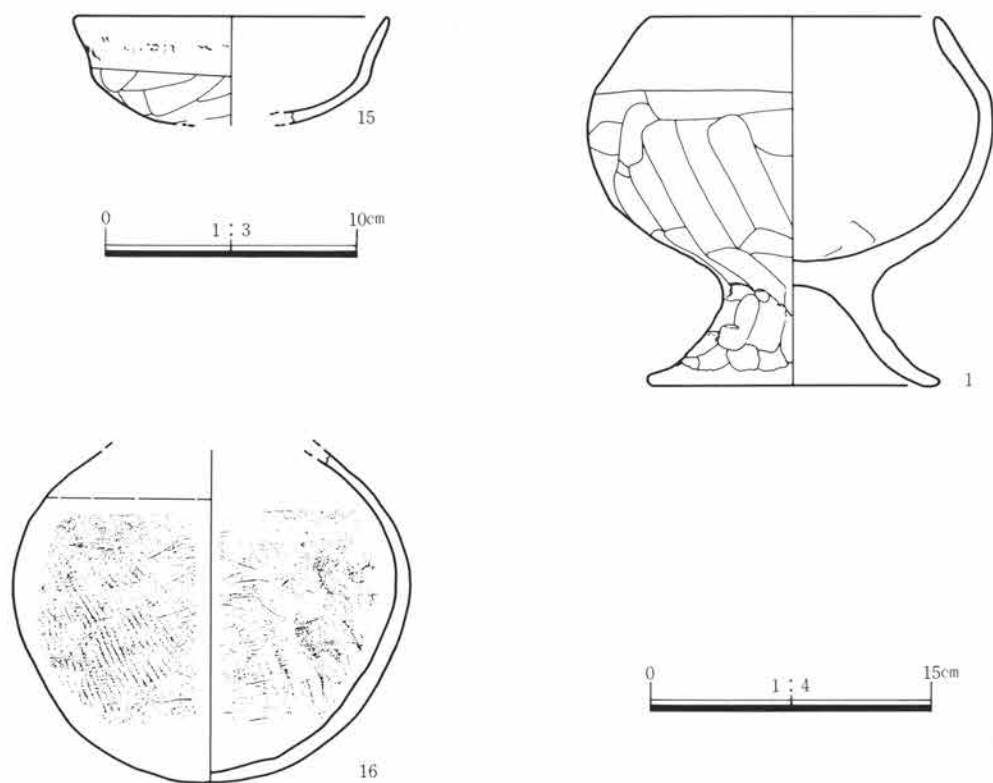
れている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約40cmである。カマドの残存状態は良好であり、袖・天井・焚口・支脚・煙道が完全な形で確認できた。袖はロームを含む粘質土で構築されており、先端部分は石を地山に埋め込み固めている。袖先端に立てられている石の上には、天井石が渡してある。即ち、焚口は3個の石で固めてある。焚口の大きさは幅約40cm・高さ約20cmである。燃焼部～煙道部の天井はロームを含む粘質土で覆われており、中央部に掛口・東端に煙道の穴があいている。掛口の大きさは長軸約30cm・短軸約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。掛口の真下からは、石を用いた支脚が地山に埋め込まれている状態で確認できた。煙道先端の規模は、長軸約20cm・短軸約10cm



第238図 88号住居跡カマド



第239図 88号住居跡出土遺物①



第240図 88号住居跡出土遺物②

であり、平面形は楕円形を呈する。焚口から燃焼部、そして煙道部へと、基本構造を明瞭に残したカマドである。

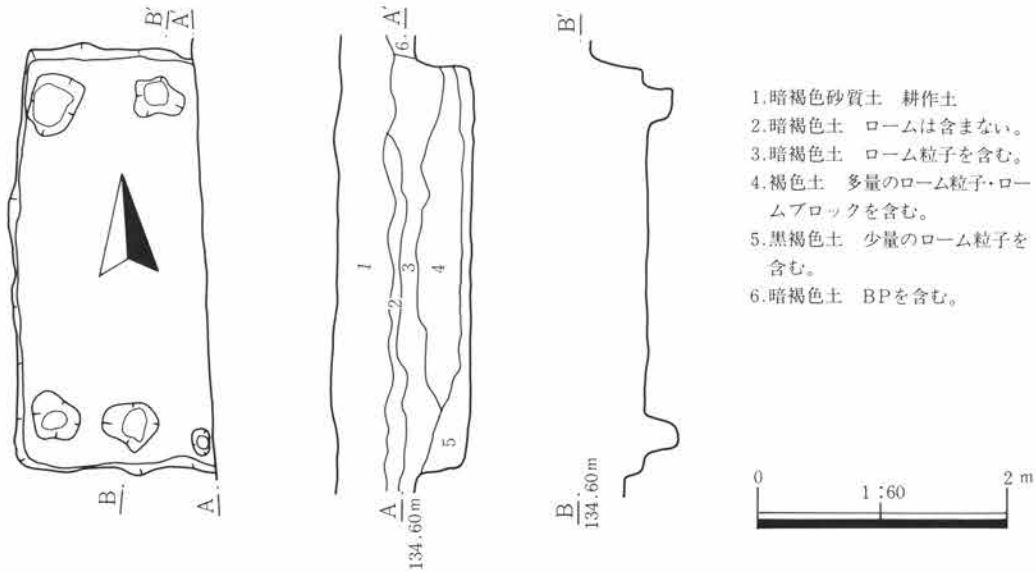
貯蔵穴と考えられるピットは確認できなかった。遺物は土師器の杯・台付甕、須恵器の甕が出土している。遺物の出土はカマド周辺に集中しており、特にカマドの左側からは土師器の完形の杯が8個体(88住一・3・4・5・6・7・8・9・10)重なって出土した。(井川)

#### 89号住居跡 (第241図、図版67)

9号掘立柱跡・7号井戸跡・3号土坑が近接するが、重複はない。東側は調査区域外のために、規模は不明であるが、南北は約3.3mである。壁の立ち上りは約15~40cmであり、床はローム層中に構築されている。

調査範囲内からは5基のピットが確認できたが、柱穴と考えられるのは4基であり、南東部のピットは規模・形態から柱穴とは考え難い。柱穴の規模は直径約30~40cmであり、平面形は不定形である。床面からの深さは約20~30cmである。柱穴の位置・規模等から、当住居跡は70号住居跡・71号住居跡と同種の遺構であると考えている。(井川)





第241図 89号住居跡

90号住居跡 (第242図、図版67・68)

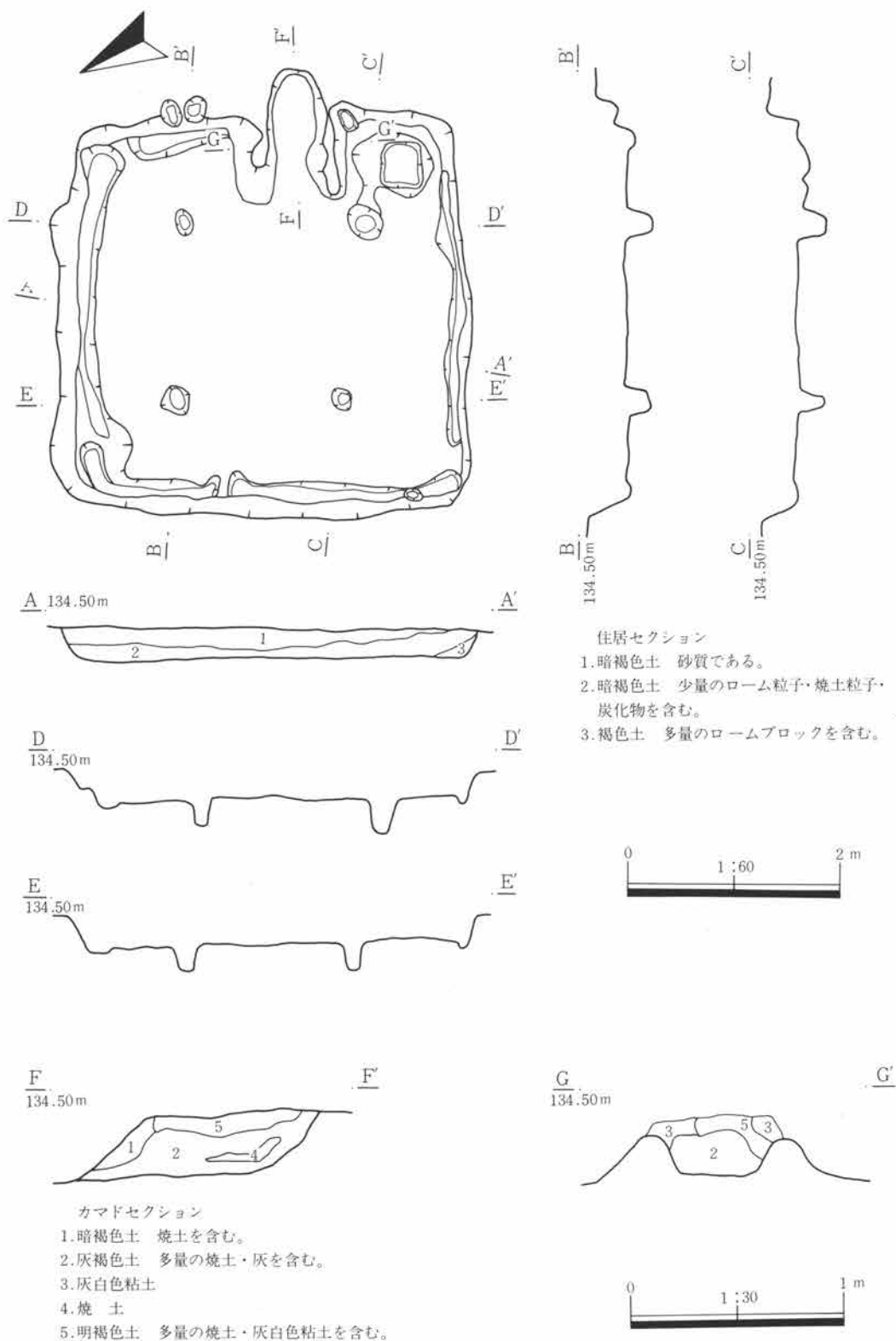
91号住居跡が近接するが、重複はない。規模は東西約3.8m・南北約3.7mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-118°-Eである。

壁の立ち上りは約20~30cmであり、残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床が検出できた。支柱穴は4本である。規模は長軸約20~40cm・短軸約15~30cmであり、平面形は楕円形・不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約20~30cmである。壁周溝は全面的に掘られているが、カマドの右側~南東隅・南西隅・西側の中央付近・北東隅では途切れている状態であった。

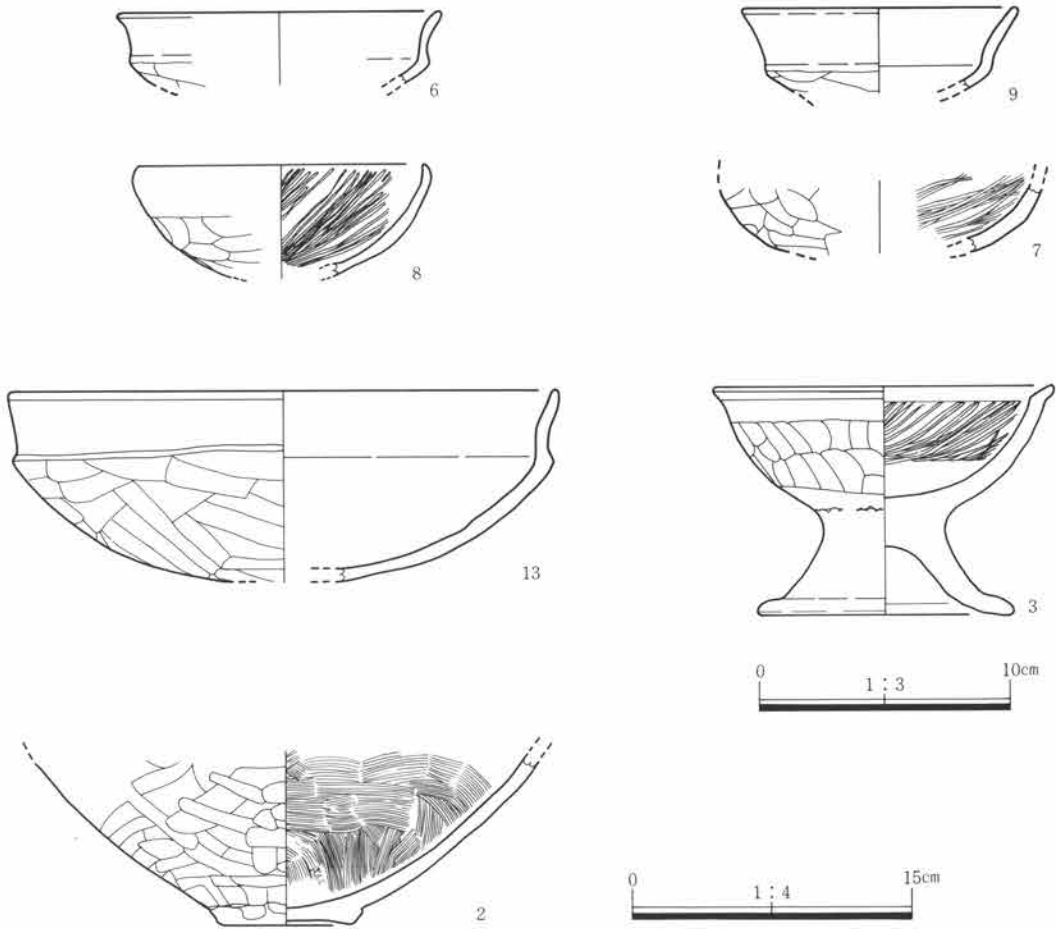
カマドは東側壁中央部のやや南寄りに構築されている。燃焼部は半分が壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は黄白色粘土を素材に造られている。袖先端から奥へ30cm、カマドの中心線上から、支脚に使用されたと考えられる土師器の高杯(90住-3)が検出できた。

貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は一辺約40cmであり、平面形は方形を呈する。床面からの深さは約30cmである。カマド右袖の基部、東壁との接する部分からピットを1基検出した。規模は長軸約20cm・短軸約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。床面からの深さは約10cmである。

遺物は土師器の杯・高杯・甕が出土している。遺物はカマド周辺への集中傾向がある。(井川)



第242図 90号住居跡



第243図 90号住居跡

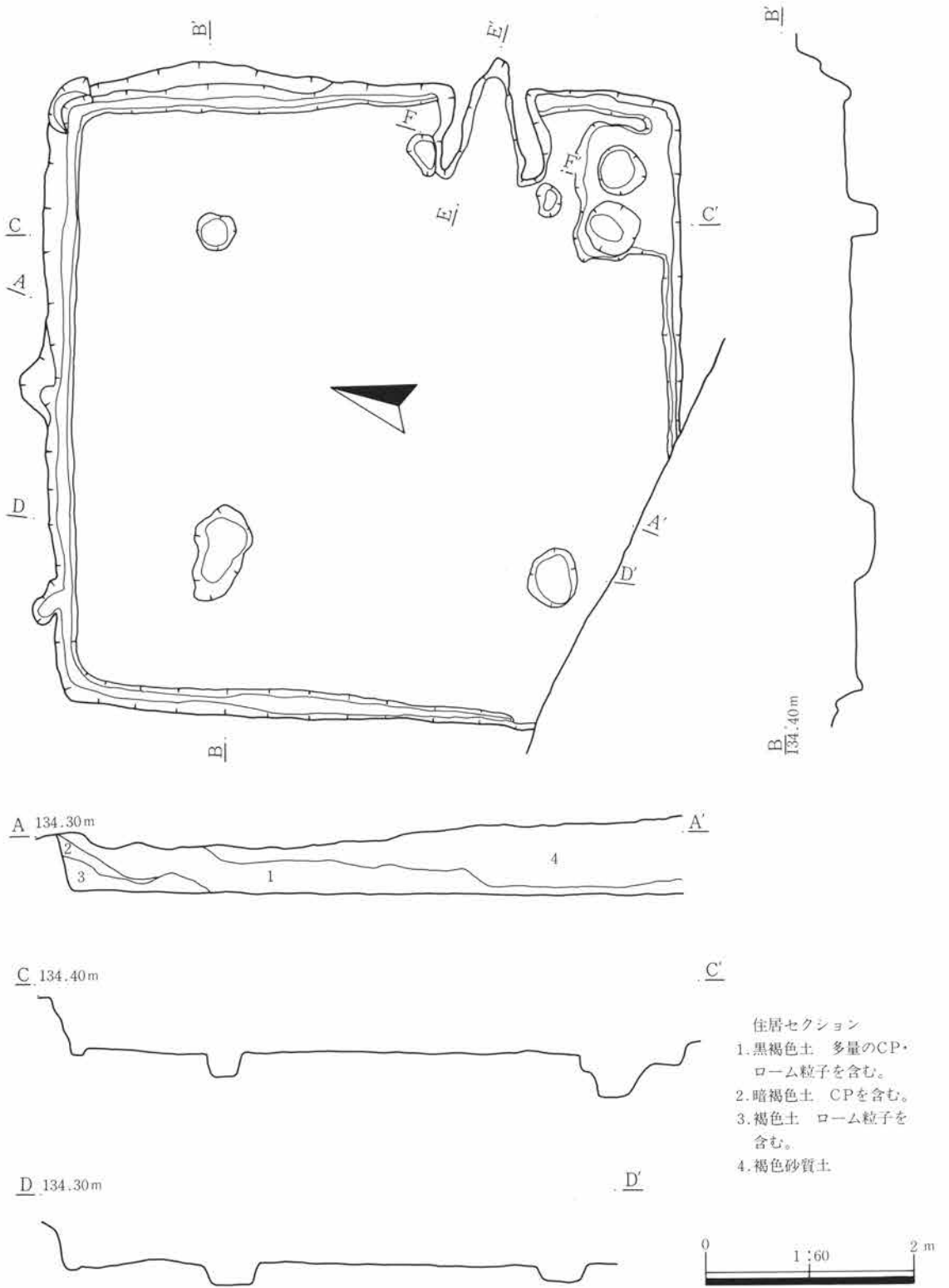
91号住居跡 (第244・245図、図版68)

90号住居跡・8号井戸跡が近接するが、重複はない。規模は東西約6.0m・南北約6.1mであり、平面形は方形を呈する。主軸はN-75°-Eである。壁の立ち上りは約20~50cmであり、南側は上面が破壊されている。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。

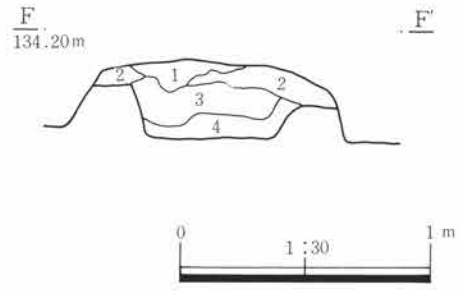
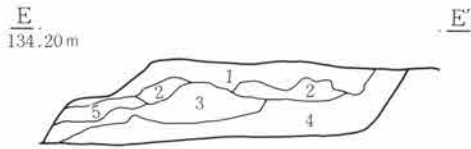
支柱穴は4本である。規模・平面形は直径約30~50cmで円形、長軸約60~90cm・短軸約50cmで不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約20~30cmである。南西部分は未調査であるが、カマド部分を除き、壁周溝は全面から検出できた。

カマドは東側壁の南寄りに構築されている。燃烧部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄灰色粘土を素材に造られている。貯蔵穴は南東隅に構築されている。規模は直径約45cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。床面からの深さは約40cmであるが、東南隅の貯蔵穴周辺が床面より約20cm低くなっている。カマド右袖先端から1基、左袖先端の左側から1基、計2基の小ピットが確認できた。床面からの深さは約20cmである。遺物は土師器の杯・甕、須恵器の壺の他、石英安山岩製の砥石、鉄製品が出土している。

(井川)

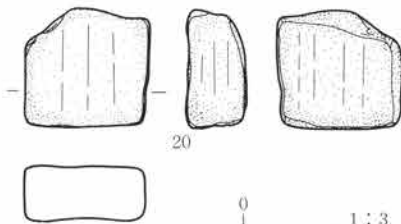
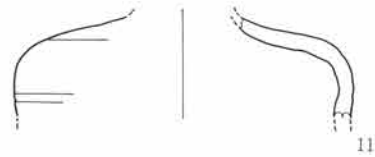
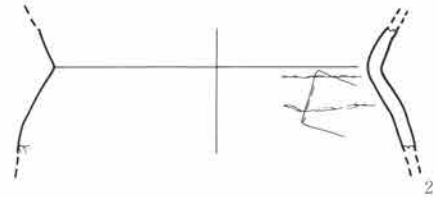
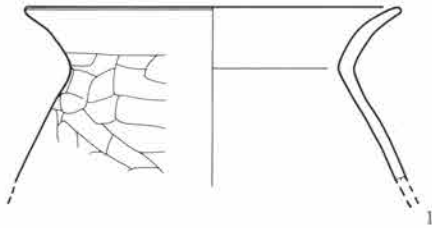
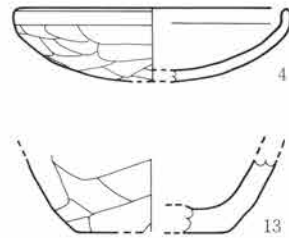
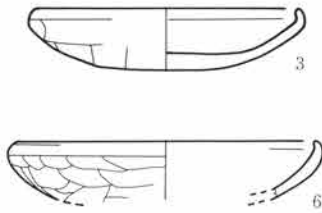


第244図 91号住居跡



1. 黒褐色土 焼土粒子・ローム粒子を含む。
2. 灰褐色土 焼土・ローム・粘土を含む。
3. 黄褐色土 焼土・灰黄色粘土の混合土。
4. 暗灰色土 多量の焼土・灰・粘土を含む。
5. 灰黄色粘土

第245図 91号住居跡カマドセクション



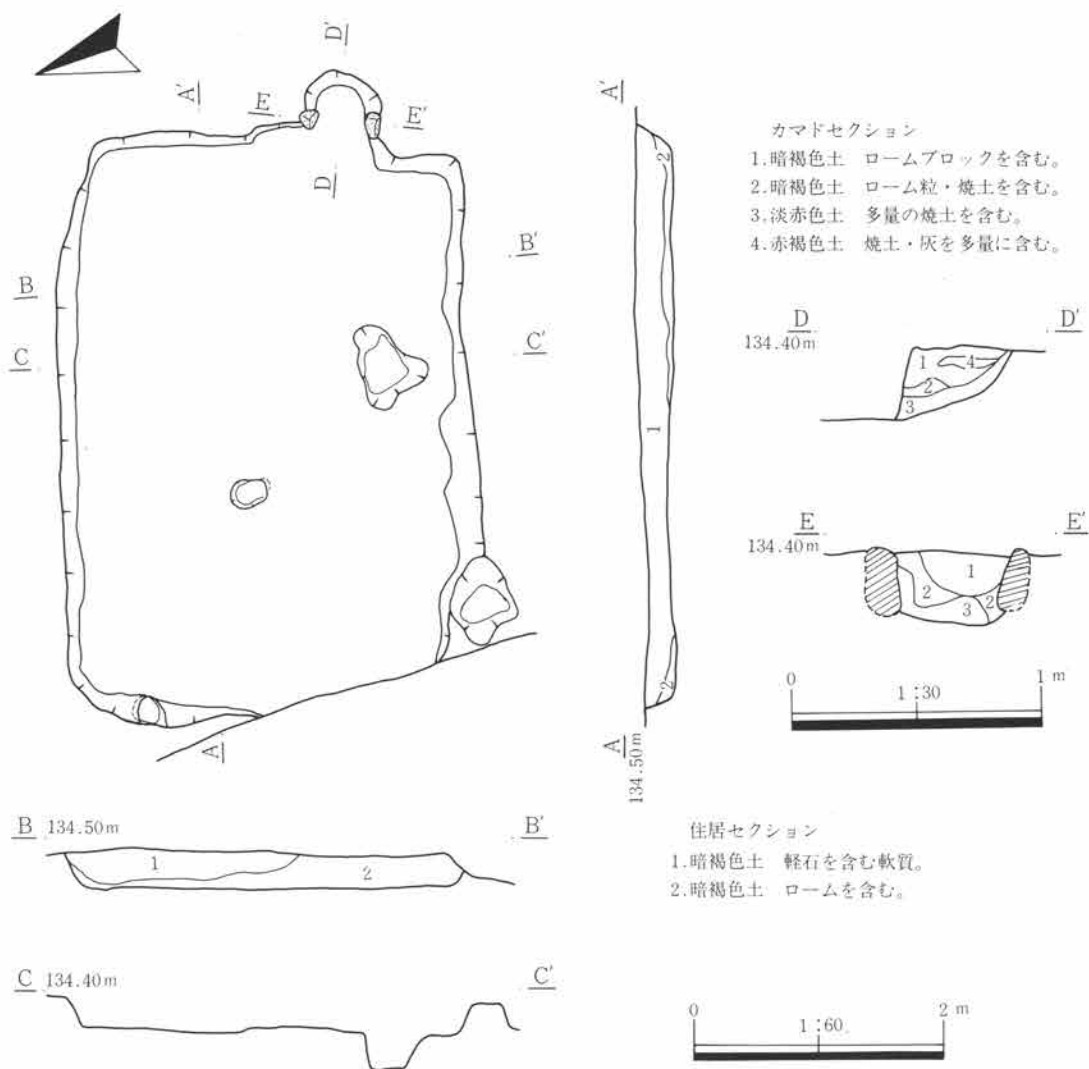
第246図 91号住居跡出土遺物

92号住居跡 (第247図、図版69)

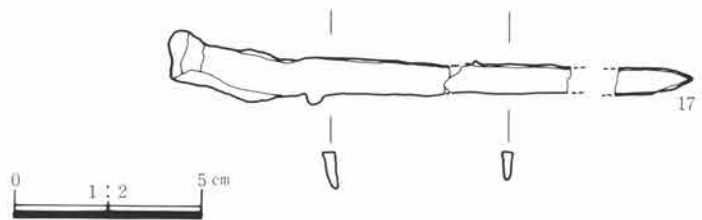
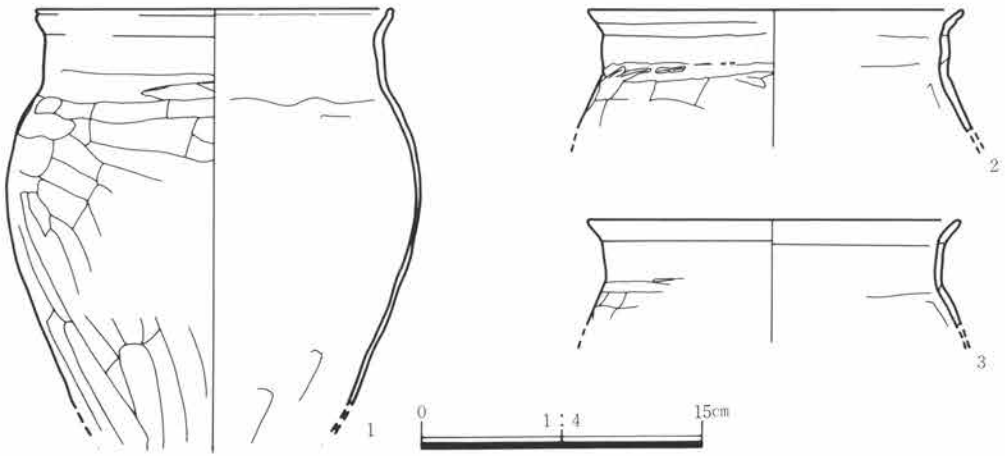
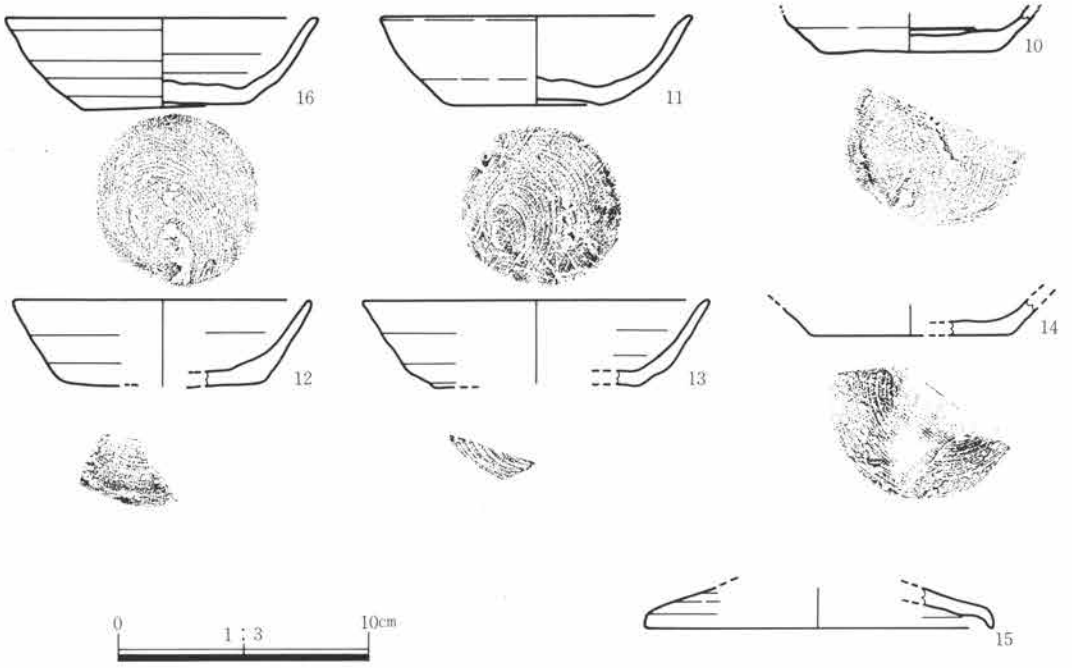
当住居跡の西側は調査区域外へ延びる。北側は土坑群が広がり、東側には8号井戸跡が近接する。規模は南北約3.3m・東西約4.7m、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-105°-Eである。壁は緩やかな傾きをもち、床面は凹凸で軟弱な面をもつ。ピットは3基検出され、20~60cmの幅をもつ不揃いのピットの為、柱穴といえるかどうか不明である。

カマドは東辺南寄りに構築されている。袖石2個が配され、焼土・灰層は5cm位堆積する。燃焼部は手前が広く、先端は急傾をとる。土師器の甕(92住-1・2・3)などを出土する。

遺物は須恵器の杯(92住-10・11・12・13・14・16)・蓋(92住-15)など住居内全体より出土する。鉄製品は1点(92住-17)東壁北寄りの床直より出土する。(宮下)



第247図 92号住居跡

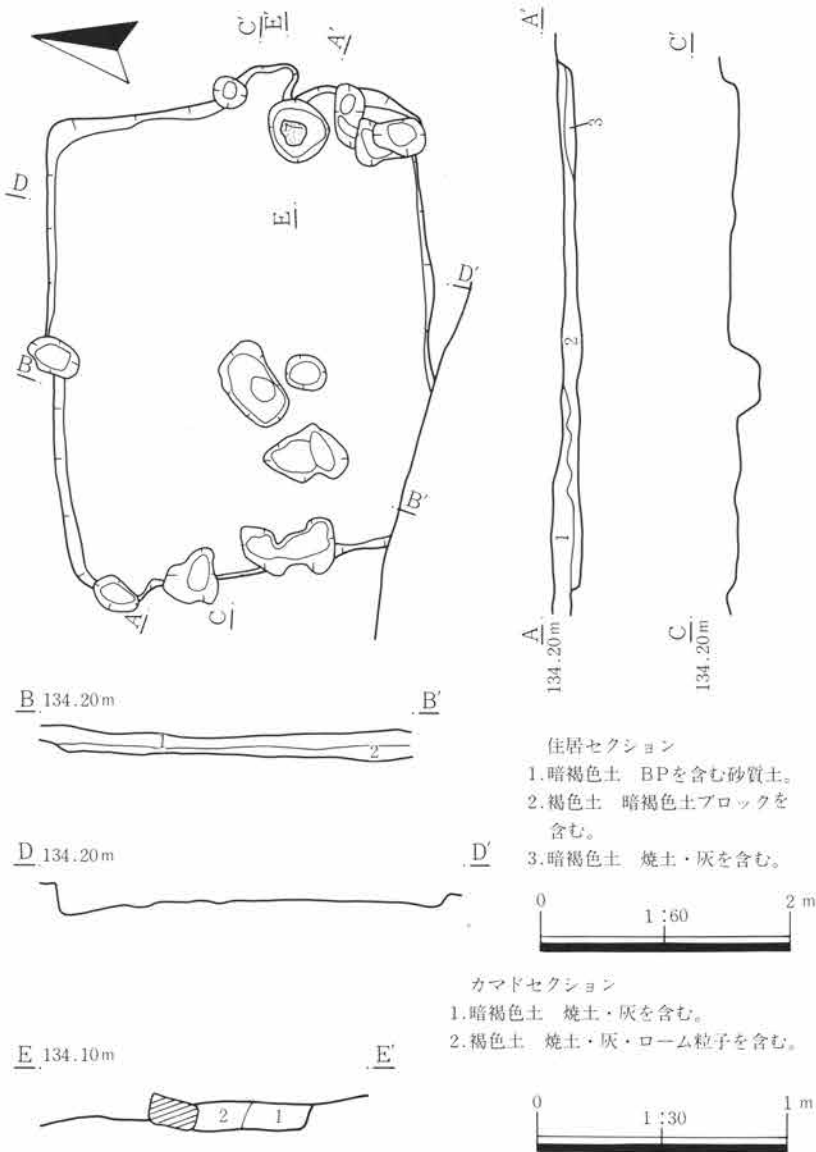


第248図 92号住居跡出土遺物

93号住居跡 (第249図、図版70)

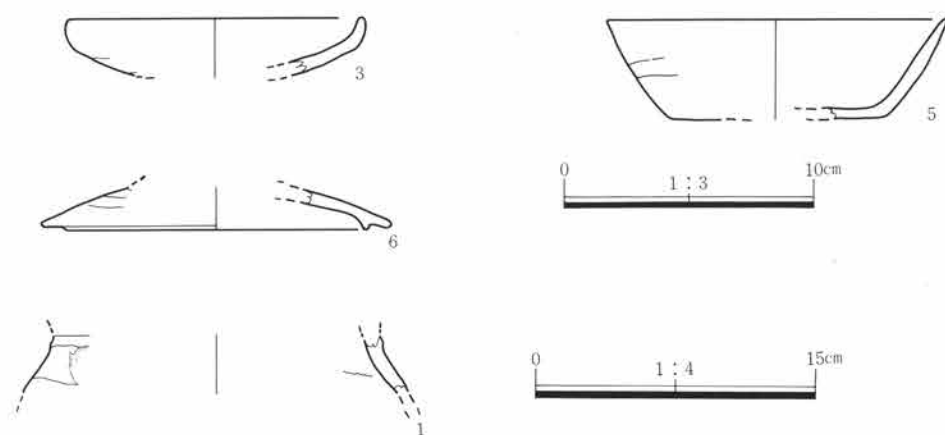
92号住居跡・8号井戸跡が近接するが、重複はない。規模は東西約3.8m・南北約3.0mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。軸はN-79°-Eである。壁の立ち上りは約5~20cmであり、上面は大部分が削られている。床はローム層中に構築されている。

住居内からは15基のピットが確認できたが、柱穴・貯蔵穴と断定できるピットはない。カマドは東側壁中央やや南寄りに構築されている。大部分が破壊されており、約30cmの壁の張り出しと、その部分で検出できた焼土層から、カマドを確認しただけである。壁周溝は確認できなかった。遺物は少ないが、土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋が出土している。(井川)



第249図 93号住居跡





第250図 93号住居跡出土遺物

## 94号住居跡 (第251図、図版70・71)

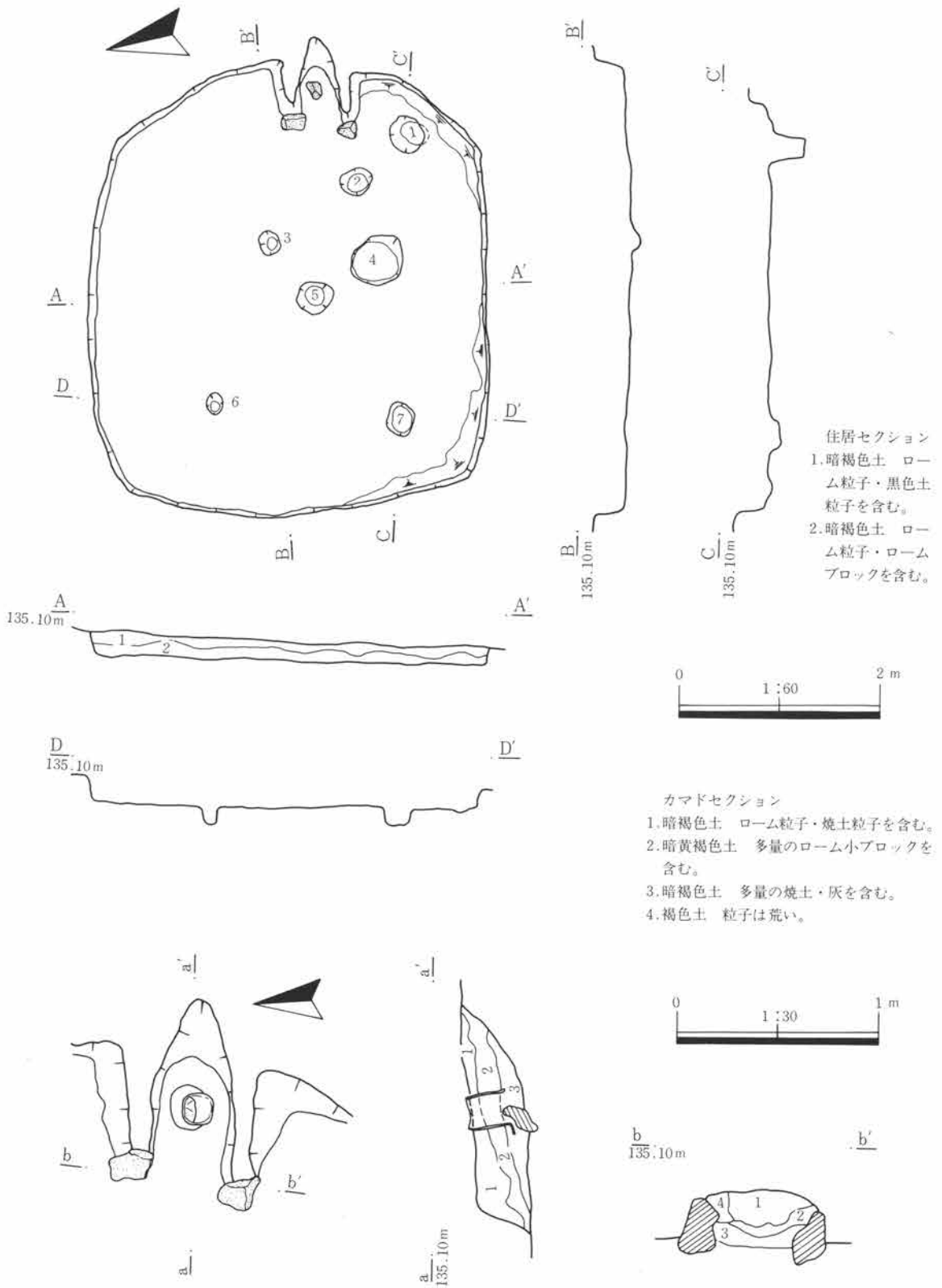
79号住居跡・95号住居跡と近接するが、重複はない。規模は東西約4.3m・南北約3.9mであり、平面形は胴の張った、不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-102°-Eである。

壁の立ち上りは約20~30cmであり、残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されており、硬く踏み固められた床である。住居跡からは7基のピットが確認できた。柱穴の可能性のあるのは、ピット2~ピット7である。規模は直径約20~30cmであり、平面形は不整形な円形・不整形な楕円形を呈する。床面からの深さは約10~25cmである。ピット2~ピット7は柱穴の可能性はあるが、位置・形態等から、柱穴と断定するのは難しい。壁周溝は確認できなかった。

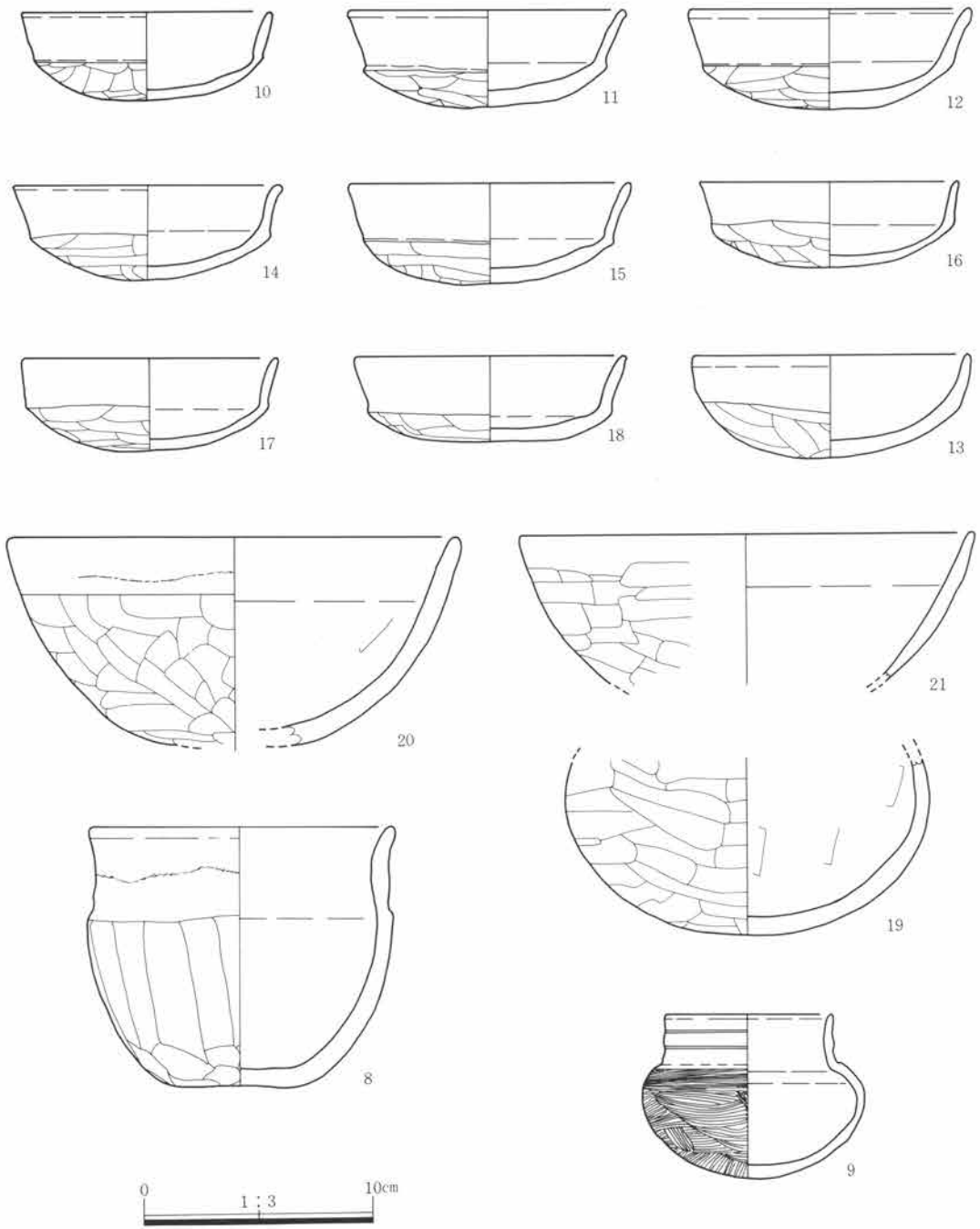
カマドは東側壁の中央に構築されている。燃焼部は壁内にあり、煙道部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は黄灰色粘土を素材に造られているが、両袖の先端部分は石を地山に埋め込み固めている。袖先端からカマドの奥へ約40cm、カマドのほぼ中心線上の位置から、支脚に使用された石が地山に埋め込まれている状態で確認できた。支脚石の上には土師器の甕(94住-4)がのっている状態で検出できた。

貯蔵穴は南東隅に構築されているピット1である。規模は直径約35cmであり、平面形は円形を呈する。床面からの深さは約40cmである。

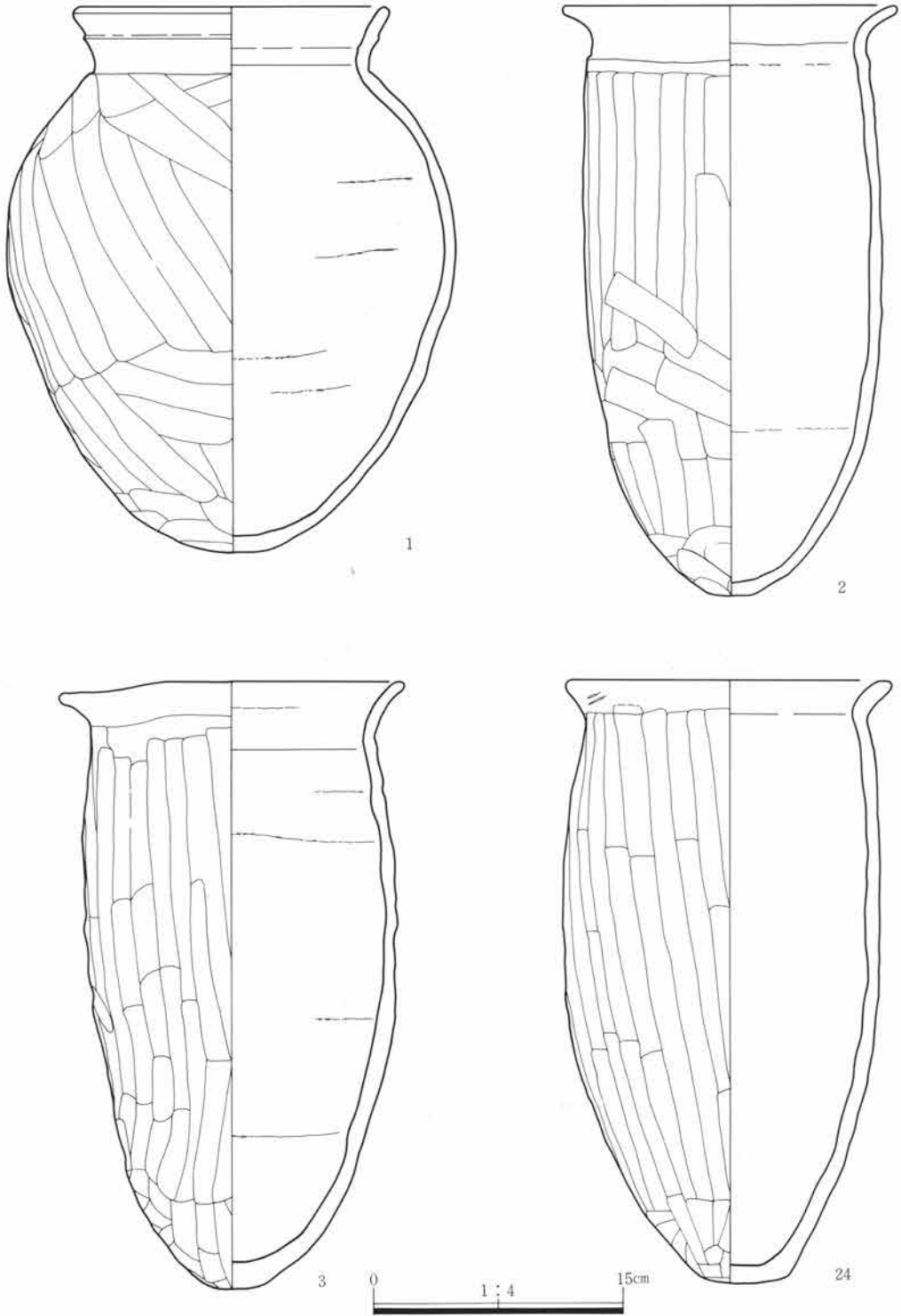
遺物は土師器の杯・壺・甕などが出土している。遺物の出土は、カマド・貯蔵穴周辺への集中傾向が見られる。カマド内・カマド前面からは土師器の甕(94住-3・24)・杯(94住-16・18)、カマドの左袖の脇からは土師器の甕(94住-8)・杯(94住-13)、カマドの右袖脇からは土師器の甕(94住-2・5)が出土している。遺物は完形品か、完形に近い物が多い。(井川)



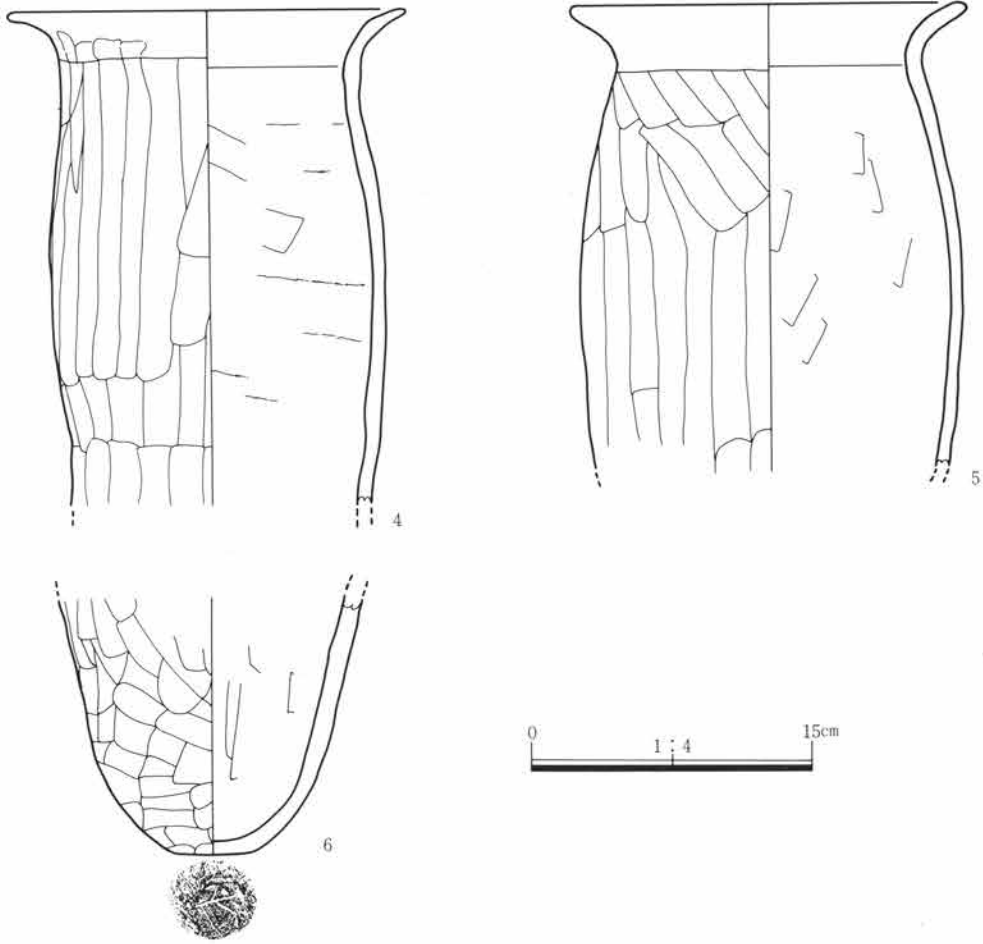
第251図 94号住居跡



第252図 94号住居跡出土遺物①



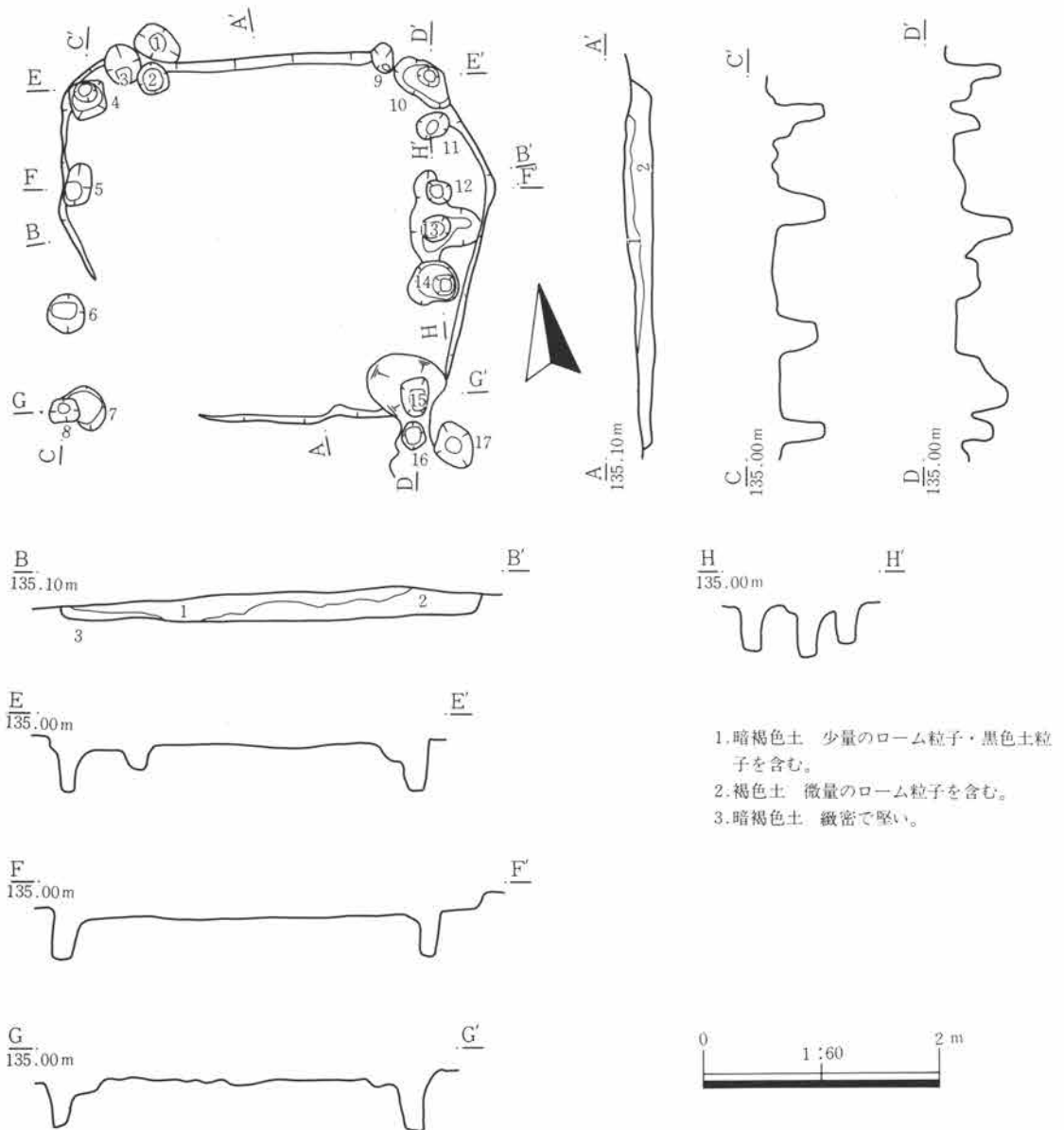
第253図 94号住居跡出土遺物②



第254図 94号住居跡出土遺物③

95号住居跡 (第255図、図版72)

78号住居跡・79号住居跡・94号住居跡が近接するが、重複はない。推定規模は東西約3.5m・南北約3.0mである。壁の立ち上りは約5～15cmである。床はローム層中に構築されているが、細かい凸凹が多い。合計17基のピットが確認できたが、柱穴と考えられるのはピット4～ピット6・ピット8・ピット10・ピット12～16の計10基である。東側に6本・西側に4本の柱穴が存在することになるが、同時に使用されたのは東側4本・西側4本の計8本であると考えている。柱穴の規模・平面形は不定であるが、四角形(ピット4・8・14・15)を呈するものもある。床面からの深さは約30～40cmである。カマド・貯蔵穴は確認できなかった。



第255図 95号住居跡

柱穴の数・規模・形態・配列などから、当住居跡は70号住居跡・71号住居跡と同種の遺構であると考  
えており、カマド・貯蔵穴のないことから、いわゆる、住居跡とは性格の異なった遺構である。

(井川)

97号住居跡 (第256図、図版72・73)

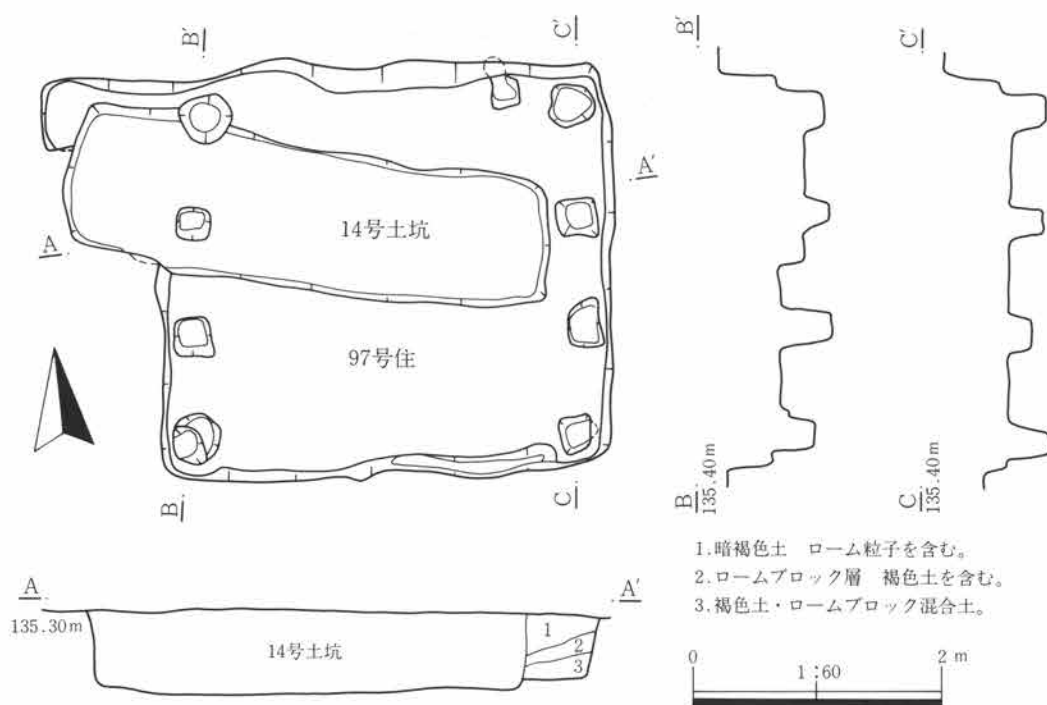
14号土坑と重複し、77号住居跡・79号住居跡・81号住居跡・82号住居跡・98号住居跡が近接する。14  
号土坑との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が古い。

規模は東西約3.6m・南北約3.3mであり、平面形は方形を呈する。壁の立ち上りは約20~50cmであり、  
残存状態は比較的良好である。床はローム層中に構築されている。南側壁の一部に、壁周溝状の溝が確  
認できた。

柱穴は南北方向の東壁側に4本・西壁側に4本・北東隅柱穴の左側に1本、計9本掘られている。規  
模・平面形は一辺約25~30cmで方形・直径約30~40cmで不整形な円形を呈する。床面からの深さは約  
20~40cmである。カマド・貯蔵穴は確認できなかった。柱穴は、住居跡の南北方向の中心線を対称軸に  
掘られている。

柱穴の数・規模・形態・配列などは、70号住居跡・71号住居跡と同じである。当住居跡が、いわゆる  
住居ではないと考えられることは前述の通りである。

(井川)

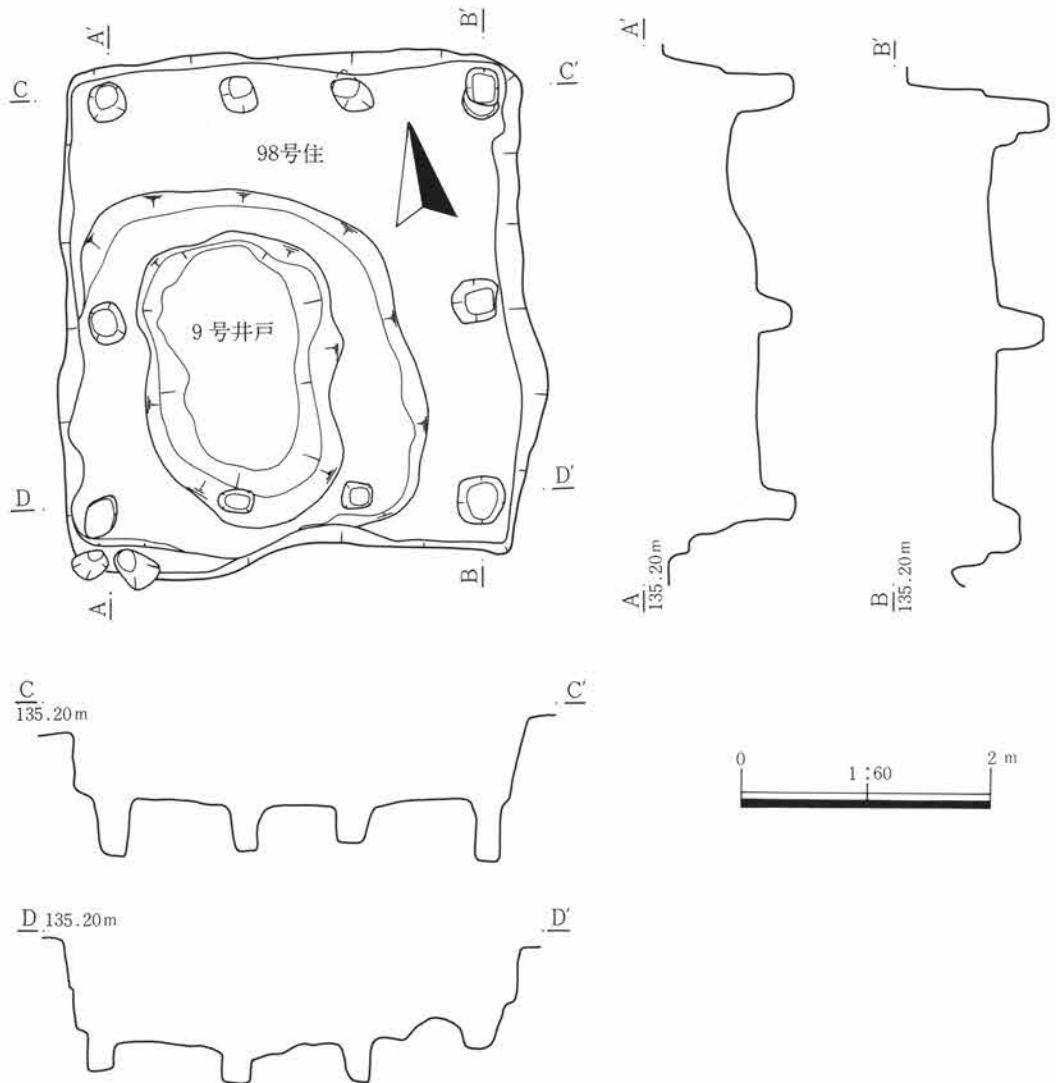


第256図 97号住居跡

98号住居跡 (第257図、図版72)

82号住居跡・85号住居跡・9号井戸跡と重複し、81号住居跡・86号住居跡・87号住居跡・97号住居跡が近接する。82号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。9号井戸跡との新旧関係は、覆土の相違により、当住居跡が新しい。85号住居跡との新旧関係は不明であるが、当住居跡が新しいと推定している。規模は東西約3.8m・南北約4.0mであり、平面形は方形を呈する。

柱穴は東西方向の南壁側に4本・北壁側に4本・東壁側と西壁側の中央部に各々1本、計10本掘られている。柱穴の規模・平面形は一辺約20~35cmであり、方形を呈するものが多い。床面からの深さは約20~50cmである。柱穴は、東西・南北の中心線を対称軸に掘られている。カマド・貯蔵穴は確認できなかった。当住居跡も、70号住居跡・71号住居跡等と同種の遺構である。 (井川)



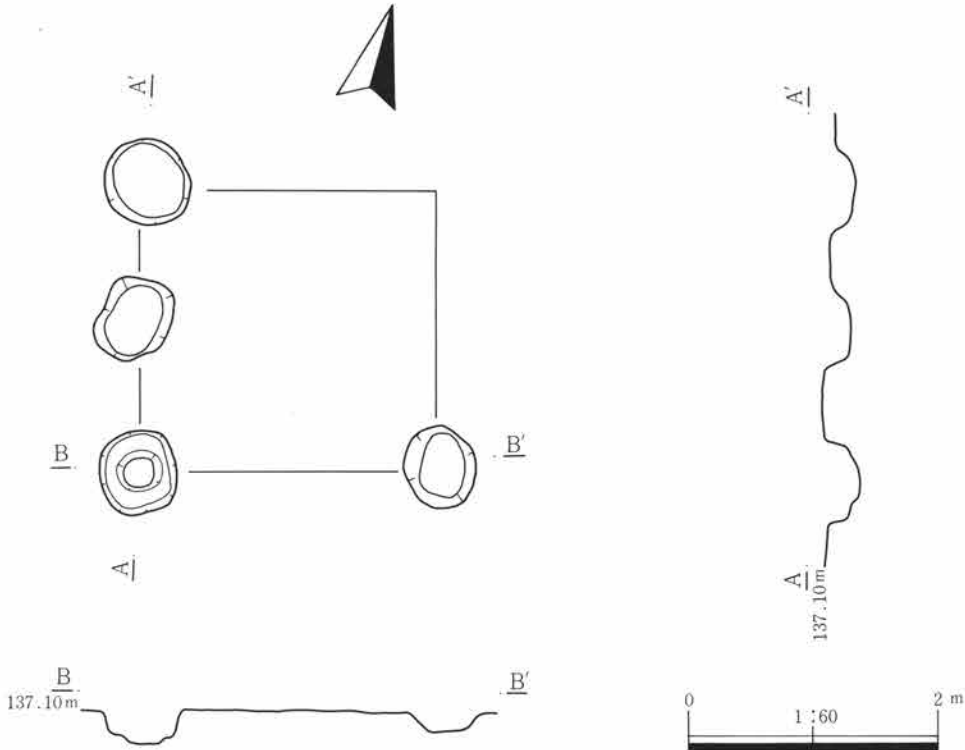
第257図 98号住居跡



1号掘立柱跡（第258図、図版74）

当遺構は52号住居跡と重複関係にある。西側には51号住居跡が近接し、南側には遺構が検出されない地域が広がる。北側は42号住居跡が隣接する。

規模は1×2間、南辺約2.3m・西辺約2.5mで、主軸はN-15°-Eである。各柱穴の径は55~70cm、深さ17~29cm、形状は楕円形を呈する。西南隅のピットだけ2段掘りである。覆土は軽石を含む黒褐色土が上面を覆い、下層はロームブロックを含むしまりのない淡褐色土が堆積する。柱穴間距離は0.45m・0.60m・1.80mとばらつきがある。柱穴の底面は丸底で、やや堅緻。遺物はほとんど含まないが、破片が数点出土した。6柱穴のうち4柱穴が検出され、残りの2柱穴は、52号住居内に痕跡を留めるだけである。新旧関所は不明であるが、当掘立柱跡の方が新しいと推測している。（宮下）



第258図 1号掘立柱跡

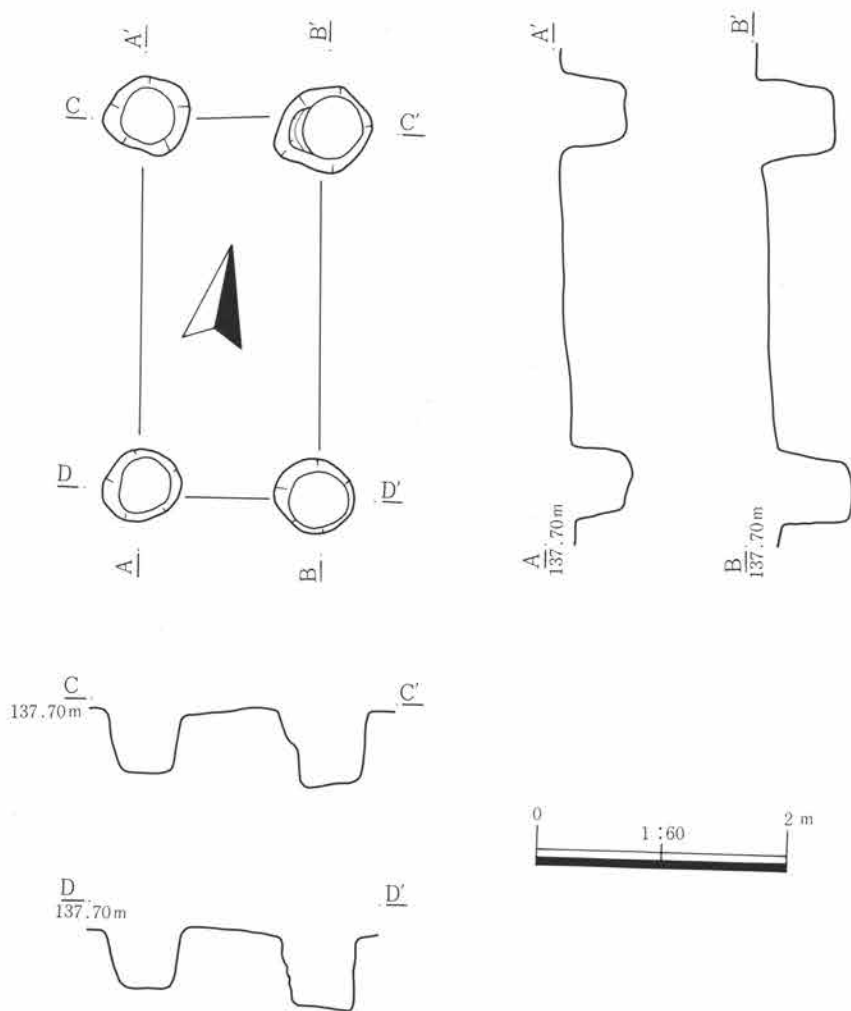
2号掘立柱跡 (第259図、図版74)

当遺構は単独にて検出された。北側に27号住居跡が近接し、東側に28号住居跡が近接し、南側には38号住居跡が近接する。西側は調査区域外へ広がる。

規模は1×1間、北辺約1.5m・西辺約2.9mの南北に長い長方形を呈する。各柱穴の大きさは56~78cmの間で、深さ47~67cmの間である。柱穴間の距離は0.72m・2.30m・0.63m・2.25mと南北・東西にはほぼ同じ距離を測る。北東隅の柱穴は段をもつ。各柱穴の底面は東側2本は平坦、西側2本は凹凸がある。各柱穴の壁は堅緻で垂直である。

遺物はほとんど含まず、当遺構の時期は不明である。

(宮下)



第259図 2号掘立柱跡

## 3号掘立柱跡（第260・261図、図版75）

当遺構は4号掘立柱跡・56号住居跡・1号井戸跡と重複関係にある。

規模は1×2間、南辺約2.2m・東辺約2.0m、東西に長い長方形を呈する。主軸はN-11°-Eである。各柱穴は径45~60cm・深さ14~23cmの楕円形を呈する。柱穴間距離は0.55m・0.58m・0.60m・2.00mで東西の距離はほぼ同じ間隔を測る。各柱穴の覆土は軽石を含む暗褐色土とロームを含む茶褐色土の堆積である。壁は緩やかに傾き、やや柔らかかなかたさである。底面は各柱穴共に凹凸があり、やや柔らかく、不定な形状を呈する。柱穴は6本と考えられるが、北西隅の1本は56号住居跡との切り合い関係で検出されず、北辺中央の柱穴は56号住居跡との切り合い関係で½だけ検出される。

遺物はほとんど出土していない。当掘立柱跡は、4号掘立柱跡・1号井戸跡と重複するが、新旧関係は不明である。  
(宮下)

## 4号掘立柱跡（第260・261図、図版75）

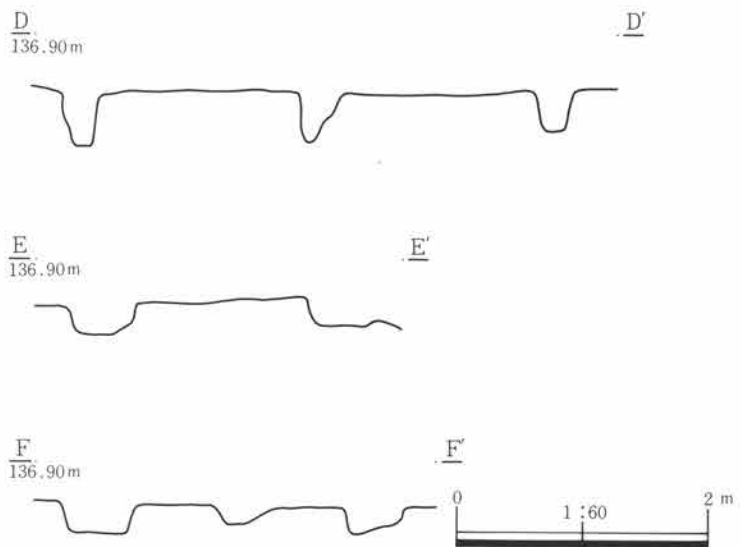
当遺構は3号掘立柱跡・56号住居跡・1号井戸跡と重複関係にある。東側に60号住居跡・61号住居跡が近接する。南側には遺構が検出されない地域が広がる。北側には1号掘立柱跡が近接する。

規模は4×2間、東辺約6.9m・南辺約3.8mの南北に長い長方形を呈する。主軸はN-16°-Eである。各柱穴は径22~42cm・深さは5~55cmとかなり高低に差がある。平面形は楕円形を呈する。柱穴間距離は1.07m・1.35m・1.56m・1.60m・1.50m・1.20mと不揃いである。覆土は不明である。壁は直立に近く、やや硬い。底面はほぼ平坦で、堅緻。底面の平面形は円形を呈する。北東隅・北西隅・南東隅・南西隅の4本は他の柱穴より径がやや大きめである。

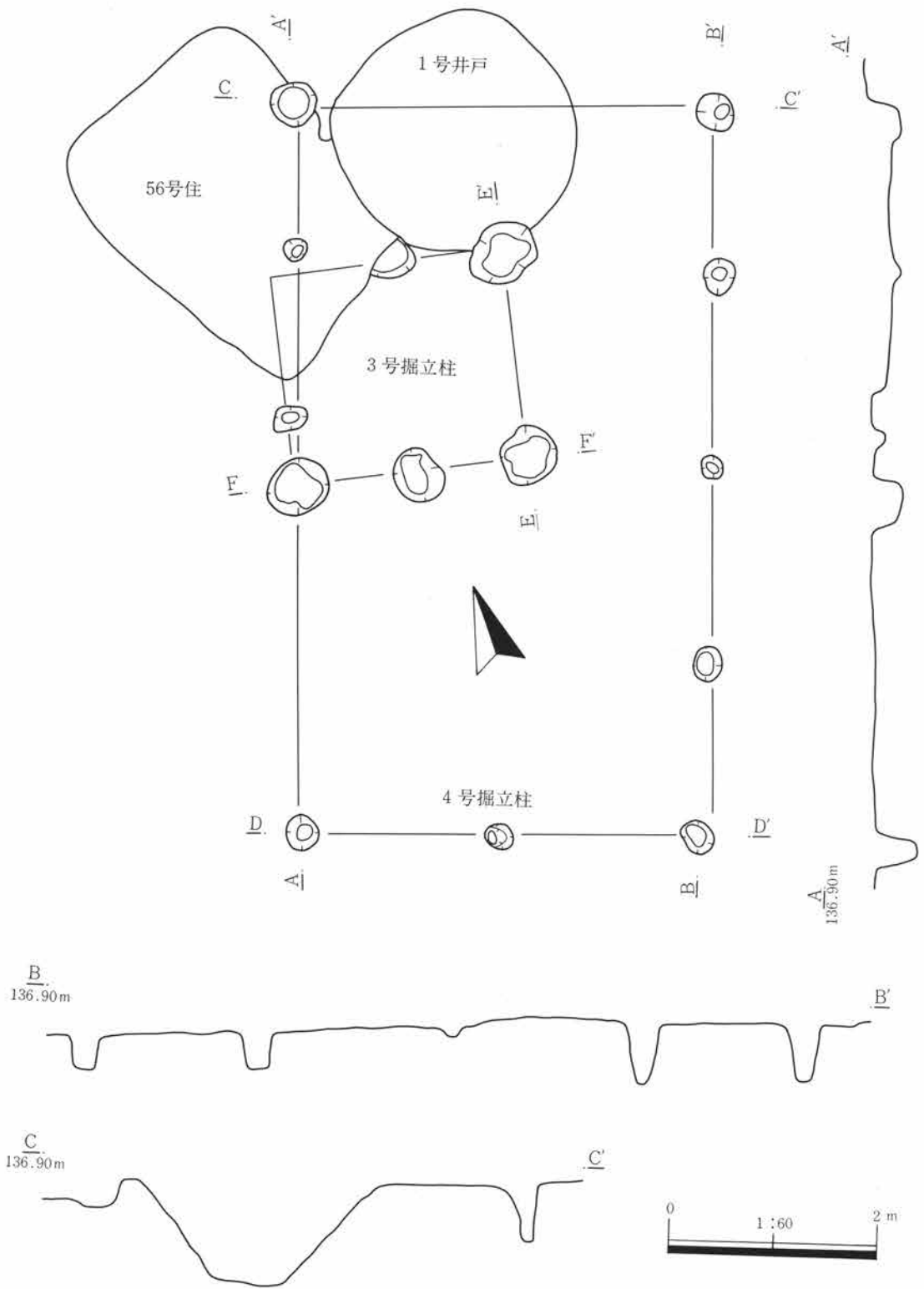
当遺構の柱穴は10本検出される。北辺中央の柱穴は1号井戸跡との切り合い関係で検出されず、西辺南寄りの柱穴は検出されない。

遺物はほとんど出土していない。当遺構は、56号住居跡・1号井戸跡と重複するが、新旧関係は不明である。

(宮下)



第260図 3号掘立柱跡・4号掘立柱跡エレベーション



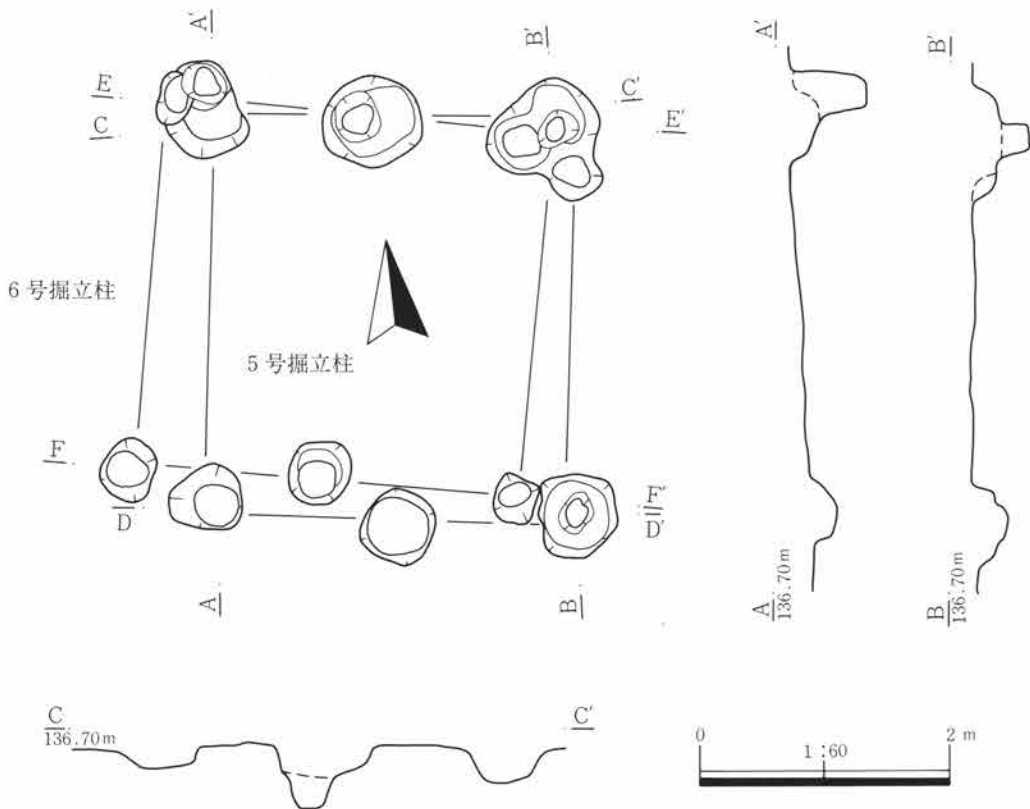
第261図 3号掘立柱跡・4号掘立柱跡

5号掘立柱跡（第262・263図、図版75・76）

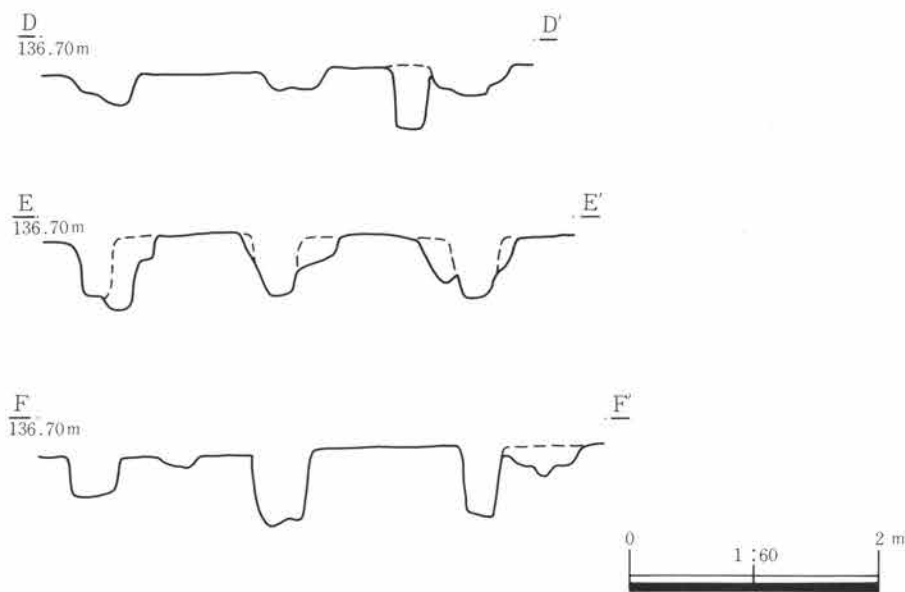
当遺構は6号掘立柱跡・7号掘立柱跡と重複関係にある。北側は遺構が検出されない地域が広がり、西側には59号住居跡・60号住居跡が隣接する。

規模は1×2間、南辺約2.9m・東辺約3.3mの東西に長い長方形を呈する。主軸はN-10°-Eである。各柱穴は径51~70cm・深さ14~23cmで、平面形は楕円形を呈する。柱穴間距離は2.58m・1.00m・0.85m・2.60mとなる。覆土は不明である。壁は緩く傾きやや柔らかい。底面は凹凸をもち丸底となる。柱穴は6本検出されているが、北辺の3本は、6号掘立柱跡・7号掘立柱跡との重複関係により、切り合い、柱穴の径・柱穴間距離は不明である。

遺物はほとんど出土していない。当遺構は切り合い関係により、6号掘立柱跡・7号掘立柱跡より時期は古い。  
(宮下)



第262図 5号掘立柱跡・6号掘立柱跡



第263図 5号掘立柱跡・6号掘立柱跡エレベーション

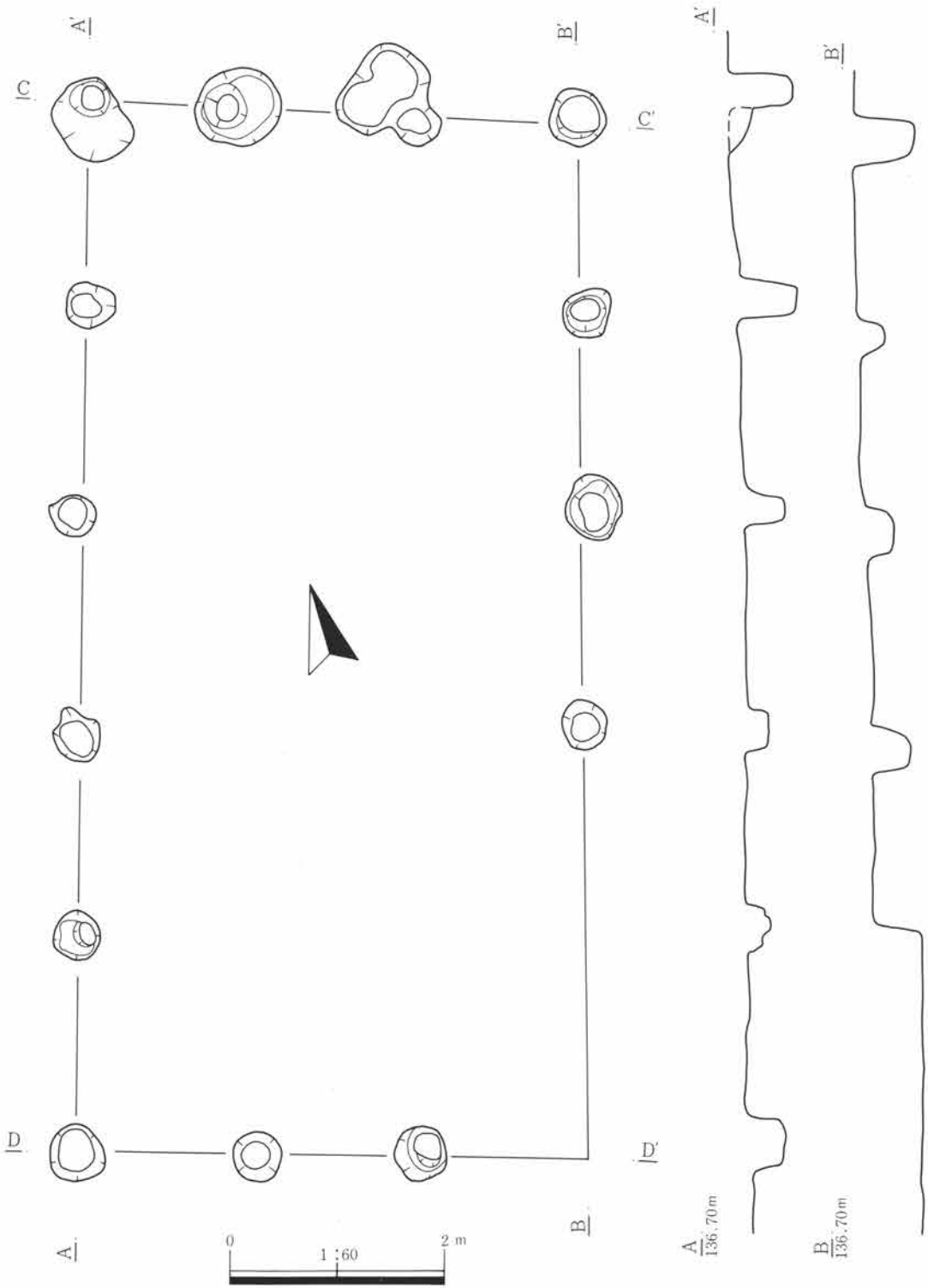
6号掘立柱跡（第262・263図、図版75・76）

当遺構は5号掘立柱跡・7号掘立柱跡と重複関係にある。北側は遺構が検出されない地域が広がり、西側には59号住居跡・60号住居跡が近接する。

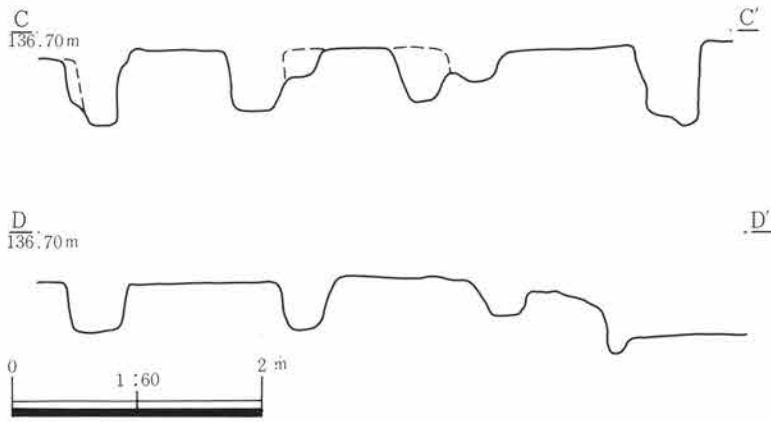
規模は1×2間、東辺約2.9m・南辺約3.0mの東西がわずかに長い長方形を呈する。主軸はN-17°-Eである。各柱穴は径27~50cm・深さ23~60cmの楕円形を呈する。柱穴間距離は2.50m・1.04m・1.16m・2.78m・1.30m・1.10mと不揃いである。覆土は不明である。壁は緩やかに傾き、やや堅緻。底面は、丸底・平底・凹凸ありとばらつきがあり、やや堅緻で、不定な楕円形を呈す。北辺の3本の柱穴は5号掘立柱跡・7号掘立柱跡と重複関係にある為、径がハッキリ測れない。北東隅・北西隅の2本は3つの柱穴が重なり、中央の1本は2つの柱穴が重なる。

遺物はほとんど出土していない。当遺構の周辺にはピットが数多く検出され、掘立柱群の1つに数えられる。新旧関係は切り合いにより、5号掘立柱跡より新しく、7号掘立柱跡より時期は古い。

（宮下）



第264図 7号掘立柱跡



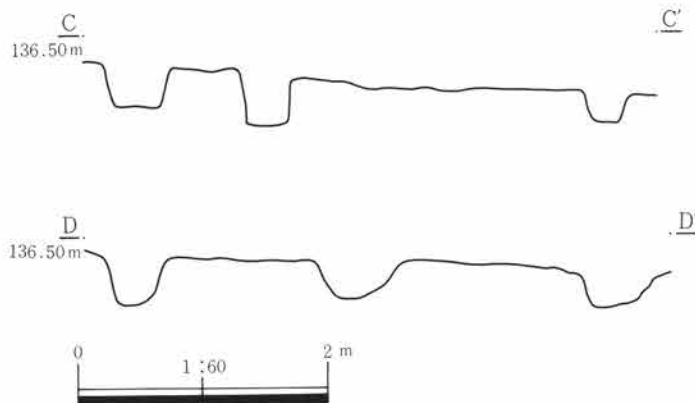
第265図 7号掘立柱跡エレベーション

7号掘立柱跡 (第264・265図、図版75・76)

当遺構は5号掘立柱跡・6号掘立柱跡・64号住居跡と重複関係にある。北側・西側には遺構が検出されない地域が広がる。南側には1号溝跡が近接する。東側は調査区域外へ広がる。

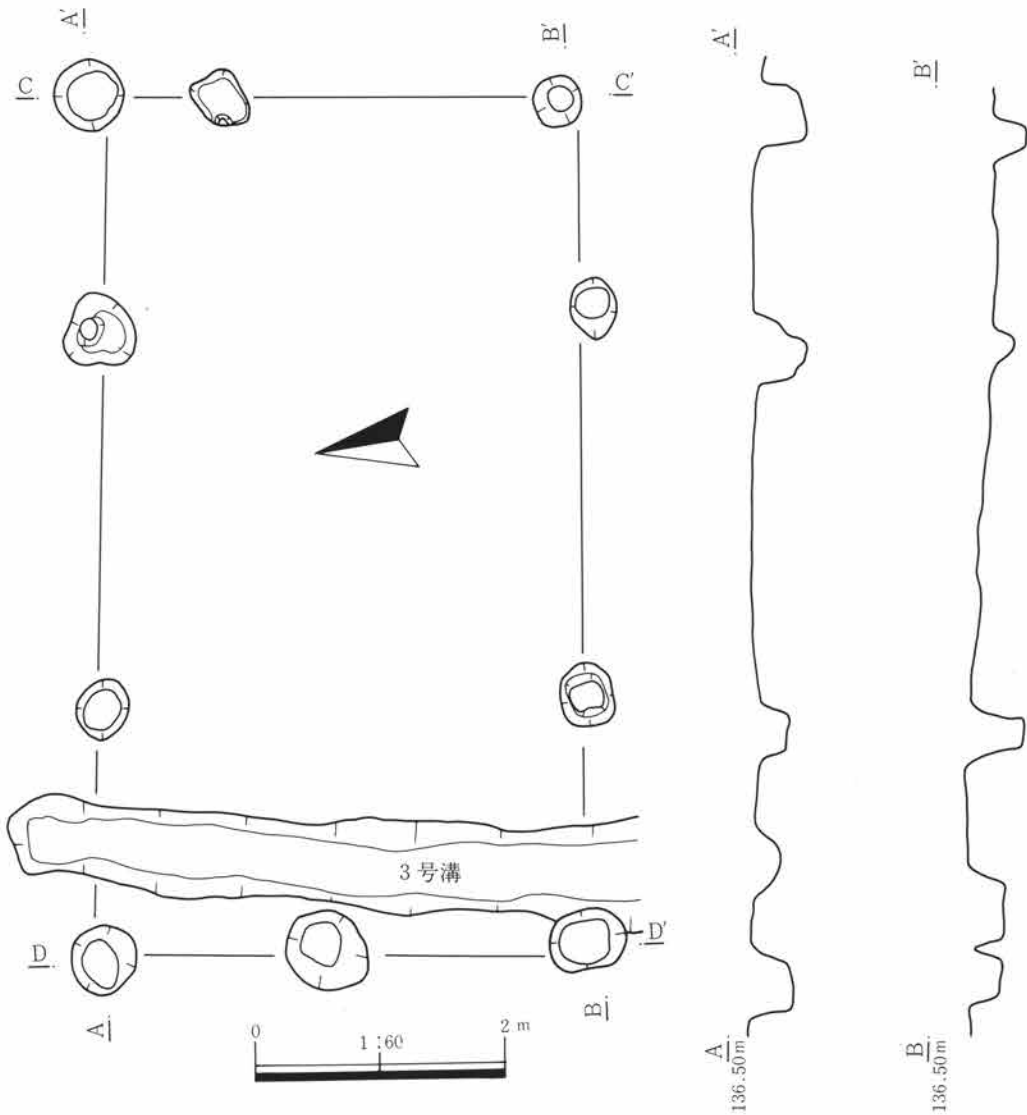
規模は3×5間、北辺約4.6m・西辺約9.7mで南北に長い長方形を呈する。掘立柱群の中でも一番大規模の形状を呈する。主軸はN-16°-Eである。各柱穴の径は32~55cm・深さは15~52cmと高低の差がかなりある。各柱穴の平面形は楕円形を呈する。壁は緩やかな傾きをもち、やや堅緻。底面は丸底・平底などばらつきがあり、形状は楕円形を呈する。柱穴間距離は1.50m・1.34m・1.60m・1.56m・1.12m・0.75m・0.50m・1.00m・1.35m・1.30m・1.50mと不揃いである。各柱穴のうち南東隅の2本は64号住居跡との切り合いにより検出されない。

遺物はほとんど出土していない。当遺構は切り合い関係により、5号掘立柱跡・6号掘立柱跡より新しいが、64号住居跡との関係は不明である。 (宮下)



第266図 8号掘立柱跡エレベーション





第267図 8号掘立柱跡

8号掘立柱跡（第266・267図、図版76）

当遺構は3号溝跡と重複関係にある。北側には1号溝跡が近接し、西側には62号住居跡が近接する。南側には67号住居跡が隣接し、東側にはピット群が並ぶ。

規模は2×3間、西辺約4.0m・南辺約6.7mの東西に長い長方形を呈する。主軸はN-8°-Eである。各柱穴の径は38～65cm・深さは16～42cm、平面形は楕円形を呈する。壁は緩やかな傾きをもち堅緻。底面は平底・丸底とありやや堅緻、形状は楕円形・円形を呈す。柱穴間距離は1.20m・1.47m・1.45m・2.65m・1.30m・2.26m・0.54m・1.32m・2.52m・1.48mを測る。遺物はほとんど出土しない。

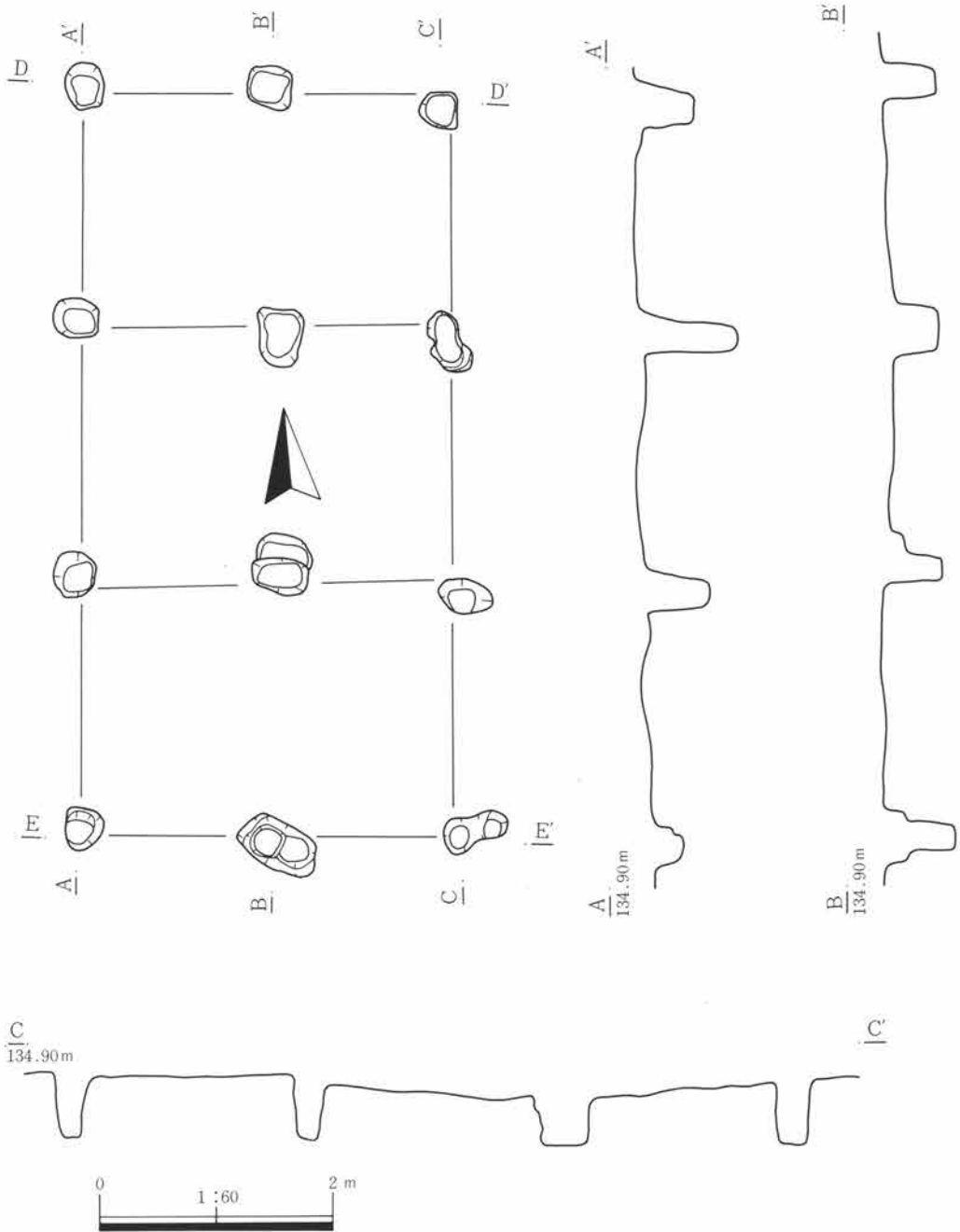
当遺構と3号溝跡との新旧関係は不明である。

（宮下）

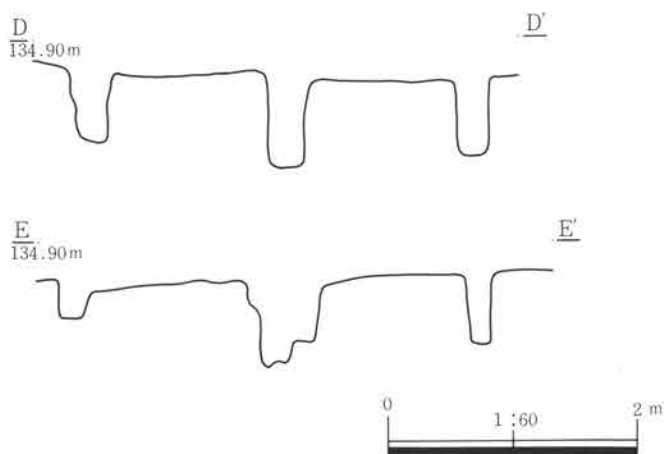
9号掘立柱跡 (第268・269図、図版76)

当遺構は88号住居跡と重複関係にある。北側には87号住居跡が近接し、西側には10号掘立柱跡が近接する。南側には7号井戸跡が隣接する。他に周辺をピット群が取り囲む。

規模は3×2間の総柱となる。東辺約6.3m・南辺約3.3mの南北に長い長方形を呈する。主軸はN-



第268図 9号掘立柱跡



第269図 9号掘立柱跡エレベーション

4°-Eである。各柱穴は径25~50cm・深さ25~56cmで、平面形は不定楕円形を呈する。覆土は不明である。壁は垂直に近く堅緻。底面は平底で堅緻。柱穴12本のうち4本は2つのピットが重なり合う。柱穴間距離は1.60m・1.83m・1.80m・1.18m・1.12m・1.69m・1.78m・1.55m・1.13m・1.20mである。

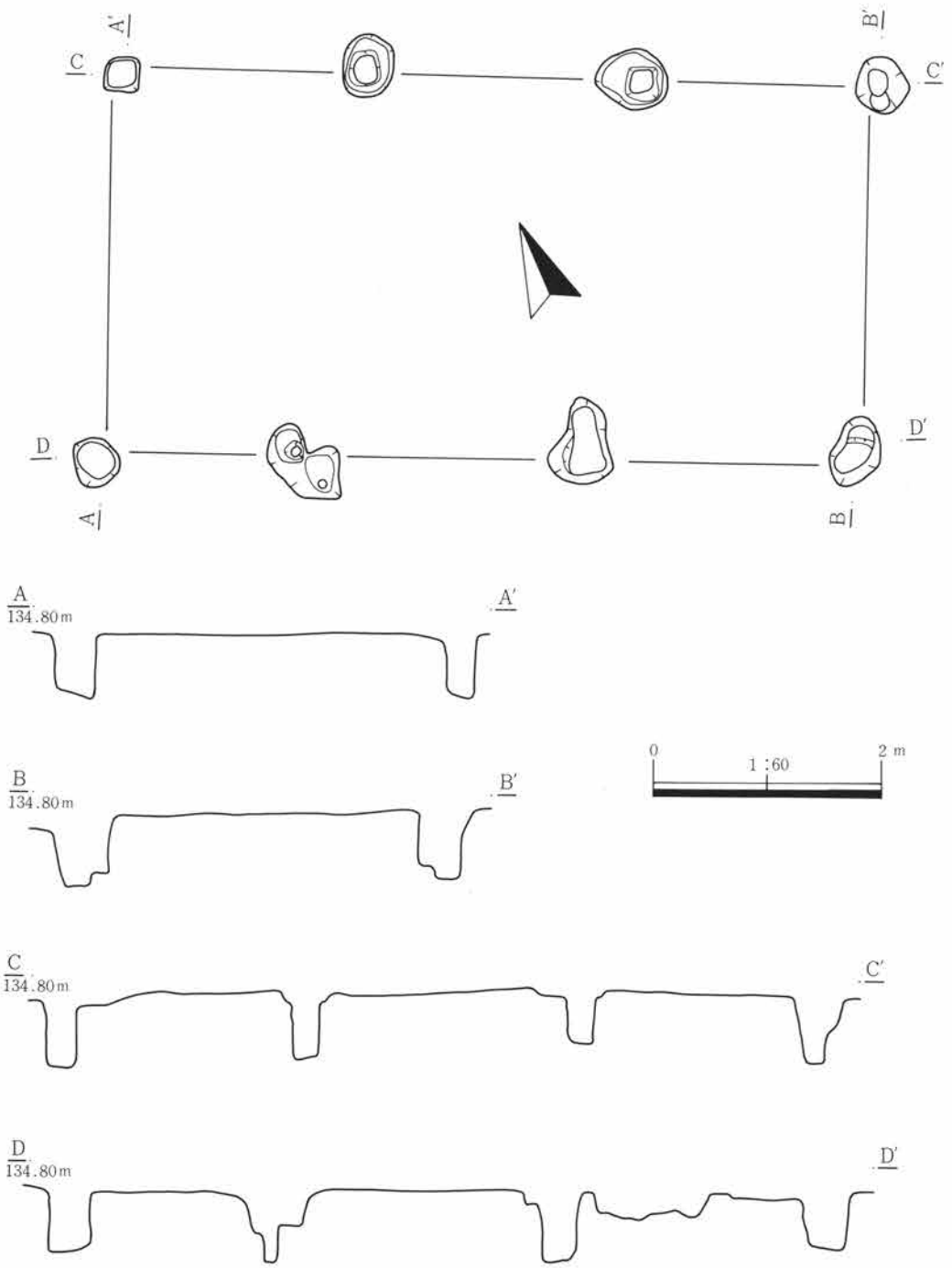
当遺構は総柱の形状をとる唯一の遺構。遺物はほとんど出土していない。当遺構は、88号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。(宮下)

#### 10号掘立柱跡（第270図、図版77）

当遺構は6号土坑と重複関係にある。北側は78号住居跡が隣接し、東側には9号掘立柱跡が近接する。南側・西側をはじめ周辺はピット群が取り囲む。

規模は1×3間、西辺約3.3m・南辺・北辺共に約6.6mの東西に長い長方形を呈する。主軸はN-18°-Eである。各柱穴は径29~60cm・深さ22~58cm、形状は不定形である。壁は垂直に近く堅緻。底面はやや傾斜をもち堅緻。柱穴8本のうち4本は2つのピットが重なり合い、2本は段がつく柱穴である。覆土は不明である。柱穴間距離は東西に、1.80m・1.85m・1.89m・1.79m・1.78m・1.63m・南北に3.0m・2.7mとほぼ等間隔になる。

遺物はほとんど出土していない。当遺構は切り合い関係により6号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。(宮下)



第270図 10号掘立柱跡

1号竪穴状遺構（第271図、図版73・74）

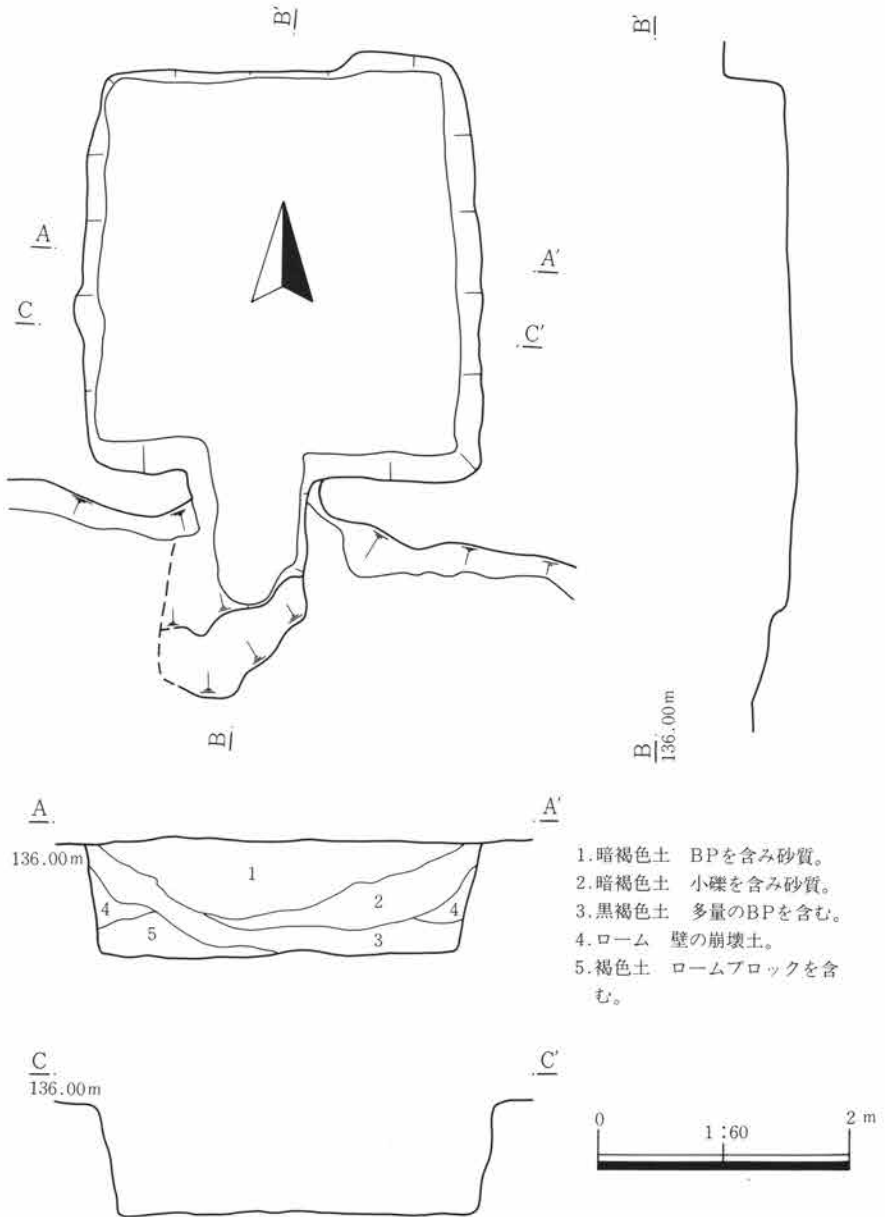
67号住居跡と重複し、66号住居跡・69号住居跡・2号竪穴状遺構・10号土坑・3号溝跡が近接する。67号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当竪穴状遺構が新しい。覆土は暗褐色・黒褐色の砂質土であるが、いずれも多量の浅間B軽石を含んでいる。

規模は東西約3.3m・南北約3.1mであり、平面形は方形を呈する。壁の立ち上りは、約90cmを測り、底面はローム層中に構築されている。柱穴等の施設はない。南側壁の中央やや西寄りに張り出しを持つ。

張り出し部分の規模は、東西約80cm・南北約200cmである。張り出し部分は、南から北へ向って緩く傾斜をしており、遺構本体との接点で約10cmの段差を持つ。

遺構全体を鳥瞰すれば、方形の竪穴状遺構に傾斜を持つ張り出しが取り付けてある形に見える。全体の形・張り出し部分の傾斜から、同部分は出入口であると推測している。また、張り出し部分が出入口であるとすれば、遺構はほぼ北を向いていることになる。

（井川）



第271図 1号竪穴状遺構

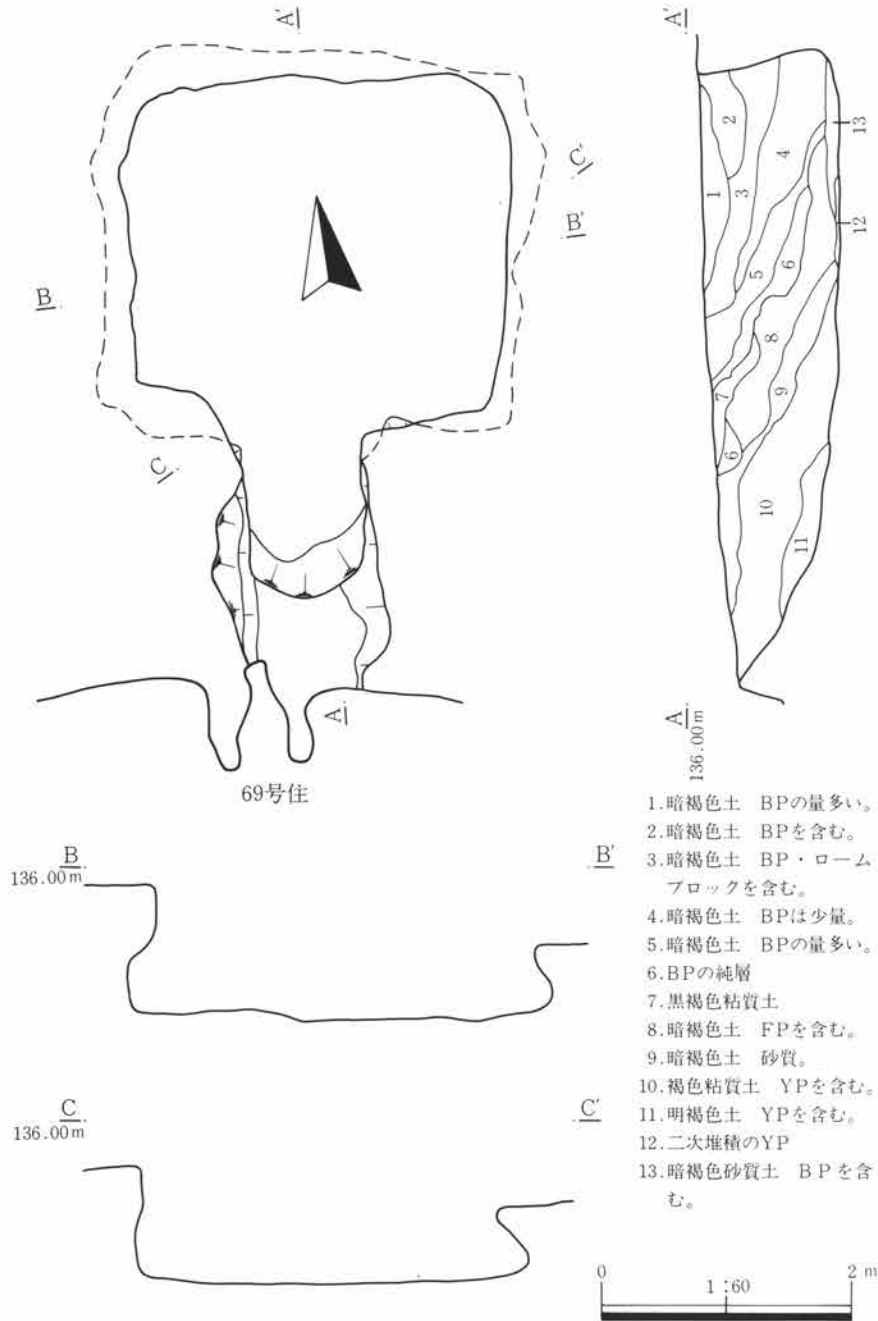
2号竪穴状遺構 (第272図、図版73・74)

68号住居跡・69号住居跡が重複し、70号住居跡・71号住居跡・2号土壌が近接する。68号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当遺構が新しい。69号住居跡との新旧関係は不明であるが、当遺構が新しいと推定している。覆土は南方から順次堆積しており、人為的に埋められたものと考えられる。

規模は東西約3.0m・南北約2.6mであり、平面形は方形を呈する。壁の立ち上りは約100cmを測り、上部が張り出し、底部が広がっている。南側壁の中央に東西約100cm・南北約200cmの張り出しがある。張り出し部分は南から北へ向って緩やかに傾斜している。張り出し部分は、遺構本体の出入口であると推定できる。

遺構の張り出し部分から本体へ方向は、ほぼ南北である。遺構の規模・張り出し部分の形態・方向等は、1号竪穴状遺構とほぼ同様である。

(井川)



第272図 2号竪穴状遺構

### 1号井戸跡（第273図、図版77）

56号住居跡・3号掘立柱跡・4号掘立柱跡と重複し、57号住居跡が近接する。56号住居跡との新旧関係は、覆土の相違から、当井戸跡が新しい。3号掘立柱跡・4号掘立柱跡との新旧関係は不明である。覆土は多量の軽石を含む暗褐色土・黒褐色土が主体である。

上面の規模は直径約2.3mであり、平面形は不整形な円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは約1.5mである。確認面からの深さ約1.0mまでの断面形はすり鉢状であり、その中心部に水溜が掘られている。水溜の規模は直径約30～35cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。水溜部の深さは約50cmである。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の壺・甕が出土している。遺物の出土はすべての上位の層からの出土であり、直接的に井戸の時期を示すものではない。（井川）

### 2号井戸跡（第273図、図版77）

53号住居跡・54号住居跡・55号住居跡・58号住居跡が近接するが、重複はない。覆土は多量の軽石を含む黒褐色土・暗褐色土である。

上面の規模は直径約2.7mであり、平面形は円形を呈する。遺構確認面から水溜部分底面までの深さは約1.4mである。確認面からの深さ約1.0mまでの断面形はすり鉢状であり、その中心部分に水溜が掘られている。水溜部分の規模は、上面で約60cm・下面で約40cmであり、平面形は不整形な円形、断面形は台形を呈する。水溜部分の深さは約40cmである。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の高杯が出土しているが、いずれも上層（第1層）からの出土である。井戸の形態は、1号井戸跡と類似している。（井川）

### 7号井戸跡（第274図、図版78）

3号土坑と重複し、89号住居跡・9号掘立柱跡が近接する。3号土坑との新旧関係は不明である。覆土は暗褐色土が主体であるが、第1層はCPを含んでおり、第2層は焼土・炭化物の堆積である。

上面の規模は直径約3.0mであり、平面形は不整形な円形を呈する。確認面からの深さは約1.3mである。確認面からの深さ約70～80cmの所に、幅20～30cmの段を有する。段からの下の規模は一辺約1.7mであり、平面形は方形に近くなる。段の部分から底面までの深さは約50cmである。底面の中心部は皿状に凹んでおり、周囲より約10cm低い。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋が出土している。当井戸跡の規模は1号井戸跡・2号井戸跡と類似するが、水溜部等の形態は異なる。（井川）

### 8号井戸跡（第274図、図版78）

91号住居跡・92号住居跡・93号住居跡・8号土坑・9号土坑が近接するが、重複はない。覆土上層は

軽石を含む黒褐色砂質土・黒褐色粘質土であるが、下層は観察できなかった。

上面の規模は長軸約2.5m・短軸約2.1mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。確認面からの深さは約2.2mである。遺構の北半分、確認面からの深さ約60cmの部分にはえぐりがあり、確認面からの深さ約80cmの部分に段を有する。段より下部の規模は直径約1.0mであり、平面形は不整形な円形を呈する。段の部分より底面までの深さは約1.4mである。段より上面の断面形は円錐形であるが、下面は円筒形である。全体的に見れば、ロート状に近い。

遺物は鉢が出土しているが、覆土中からである。

(井川)

#### 9号井戸跡 (第275図、図版78)

98号住居跡と重複し、81号住居跡・82号住居跡・85号住居跡・97号住居跡が近接する。98号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当井戸跡が古い。

上面の規模は一辺約2.8mであり、平面形は不整形な方形を呈する。確認面からの深さは、出水の為不明である。確認面からの深さ約20cmの所に、幅約70cmの段を有する。段より下部の規模は、上面で長軸約2.4m・短軸約1.6mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

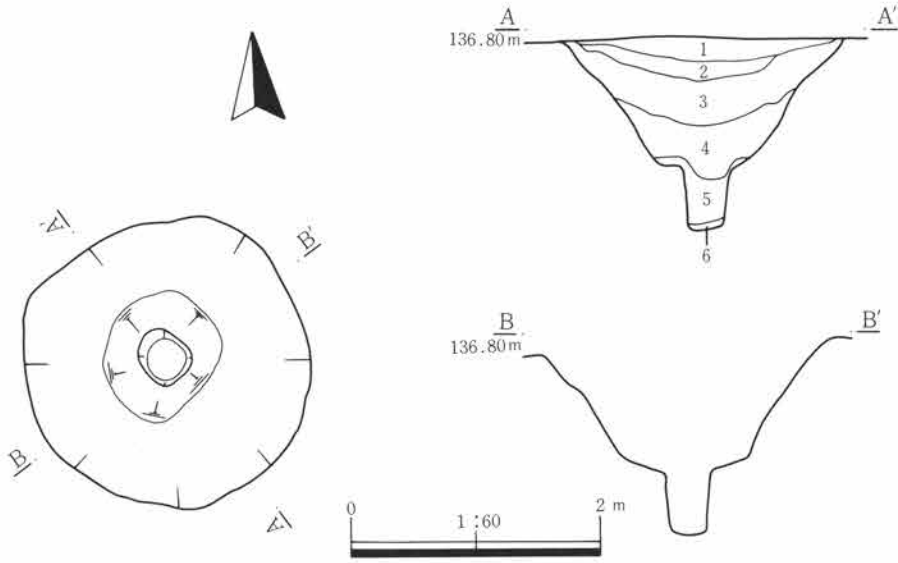
遺物は内耳土器の他、鞆の羽口・石英安山岩製の砥石・輝石安山岩製の臼が出土している。(井川)

#### 10号井戸跡 (第275図、図版79)

西側部分の一部は調査区域外になる。83号住居跡と近接するが、重複はない。上層部(第1層～第3層)の覆土は、A P・B Pを含む黒褐色土・暗褐色土である。

規模は不明であるが、上面は長軸約1.7m・短軸約1.3mであり、平面形は楕円形を呈するものと推定している。確認面からの深さは、出水のために不明である。南西部分の確認面からの深さ約50cmの所には、幅約50cmの段を有する。段から下の規模は直径約1.2mであり、平面形は円形を呈するものと推定している。当井戸跡は、8号井戸跡と類似性を持つ。(井川)





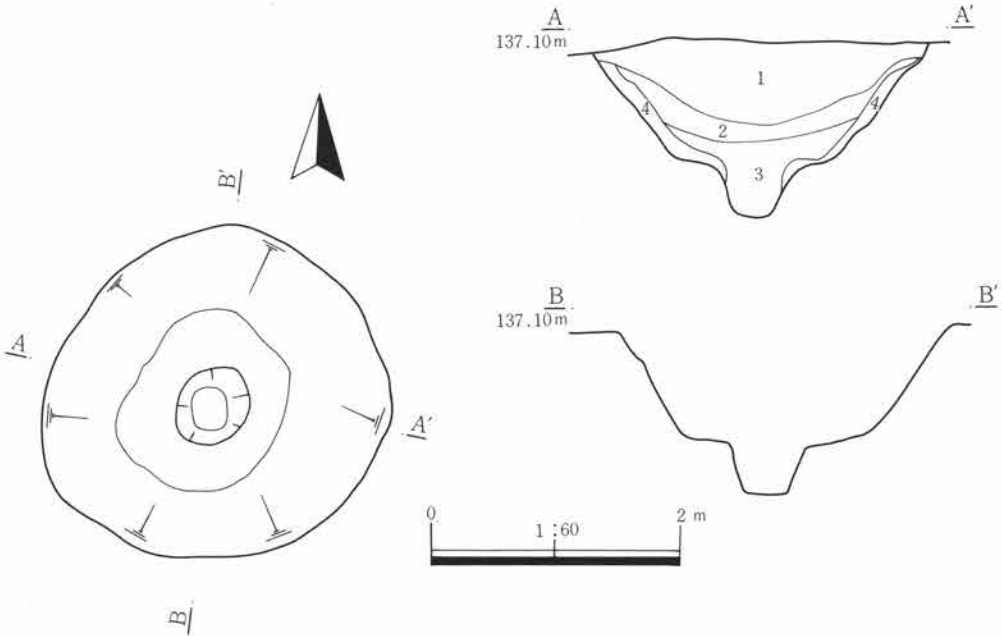
1号井戸跡

1号井戸跡セクション

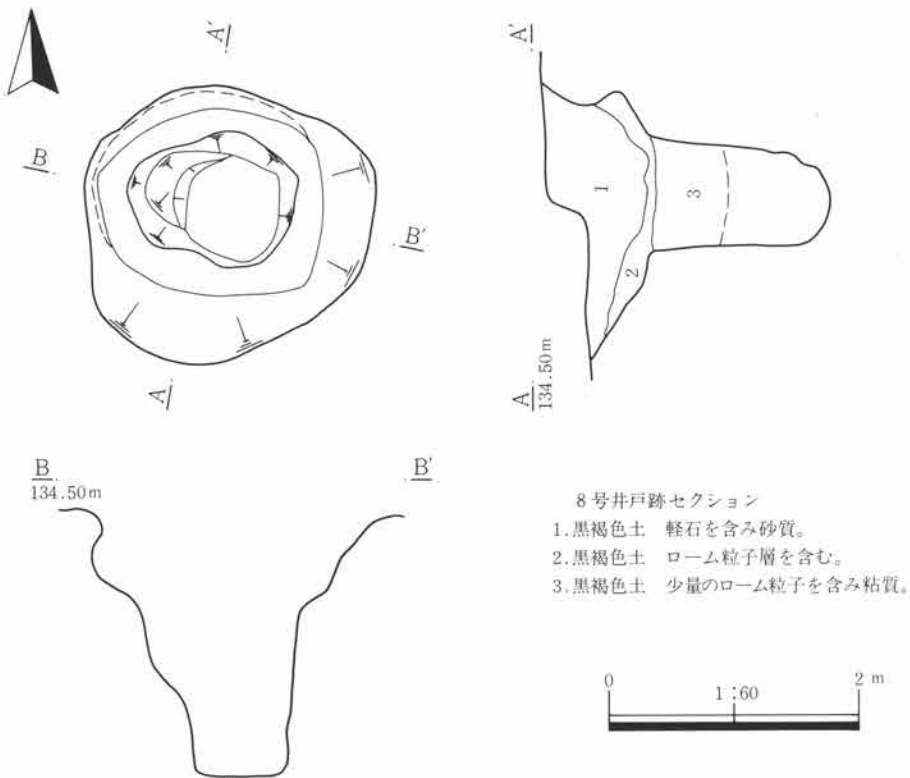
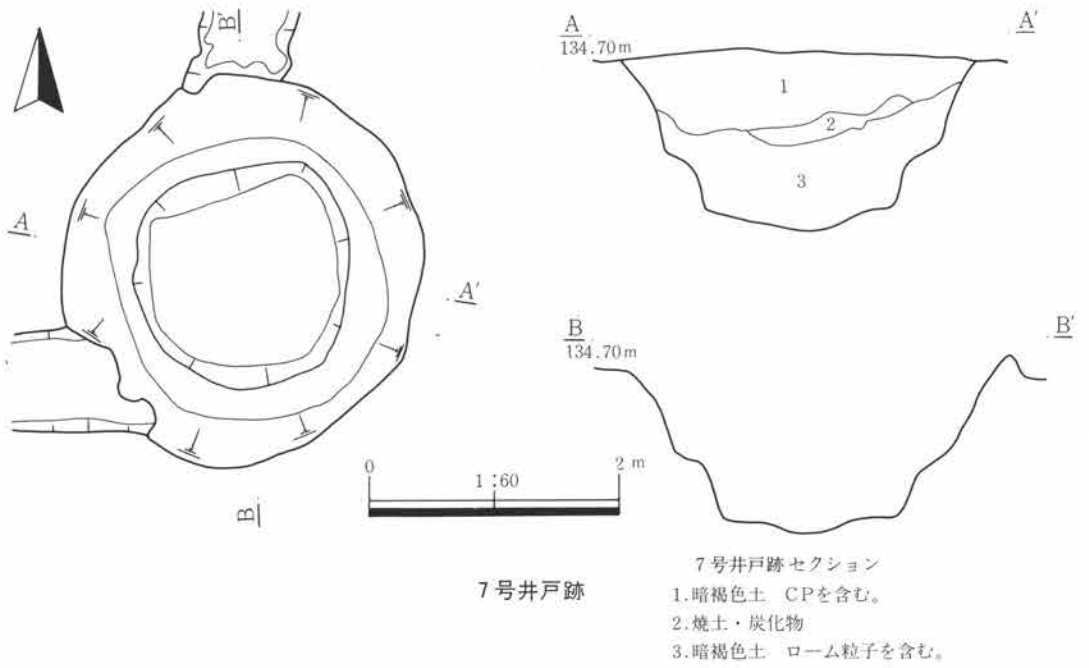
1. 黒褐色土 多量の軽石・少量の炭化物を含む。
2. 暗褐色土 多量の軽石・少量のローム粒子を含む。
3. 黒褐色土 多量の軽石・少量のローム粒子を含む。
4. 暗褐色土 軽石・ロームブロックを含む。
5. 暗褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。
6. 灰白色砂質土

2号井戸跡セクション

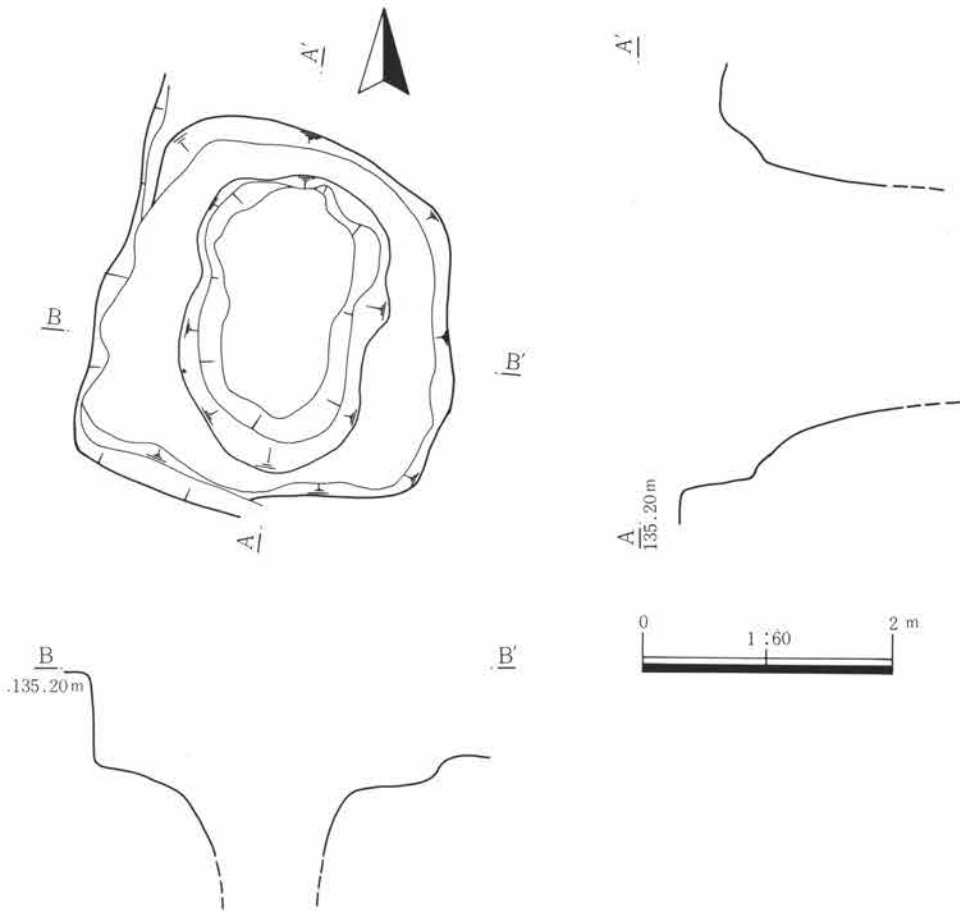
1. 暗褐色土 多量の軽石・少量の焼土粒子を含む。
2. 黒褐色土 軽石を含む。
3. 黒褐色土 軽石・少量の焼土粒子・少量のローム粒子を含む。
4. 黒褐色土 ローム粒子を含む。



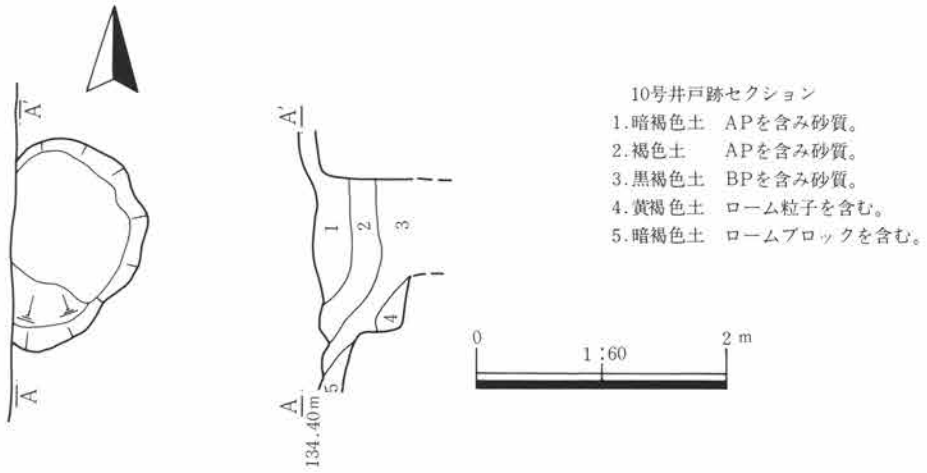
第273図 2号井戸跡



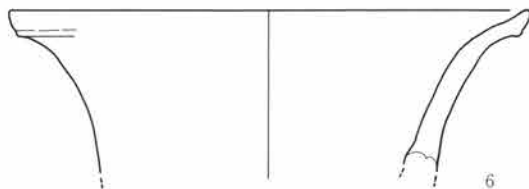
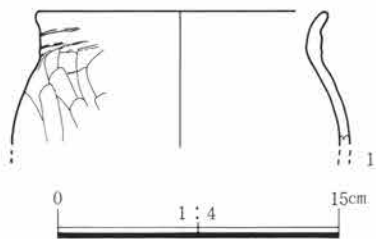
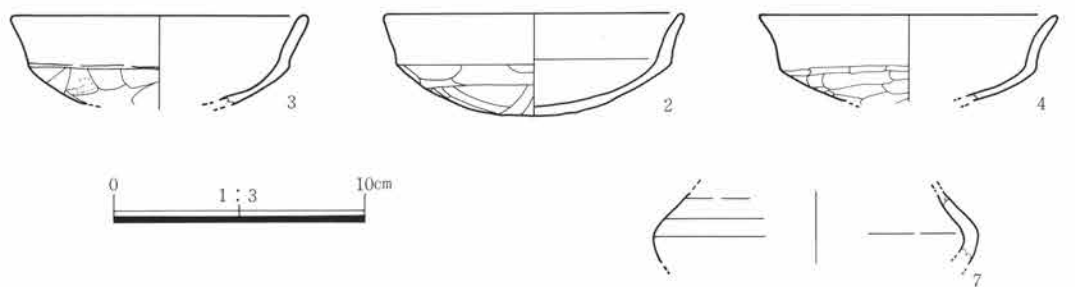
第274図 8号井戸跡



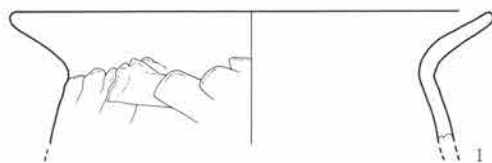
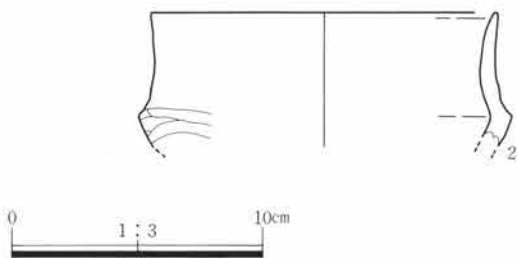
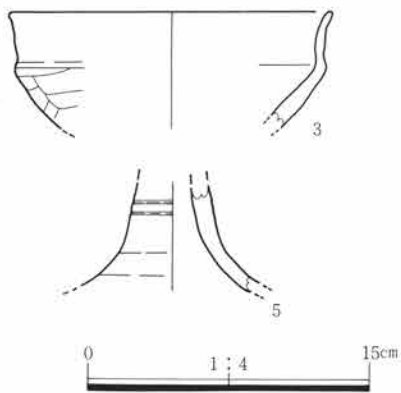
9号井戸跡



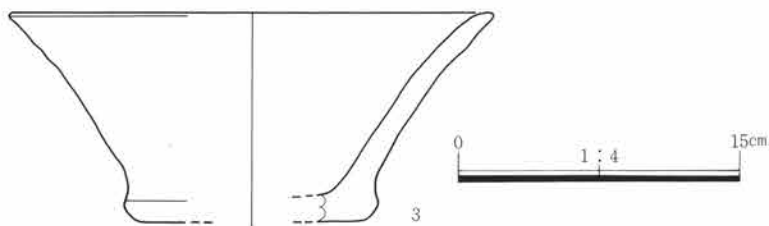
第275図 10号井戸跡



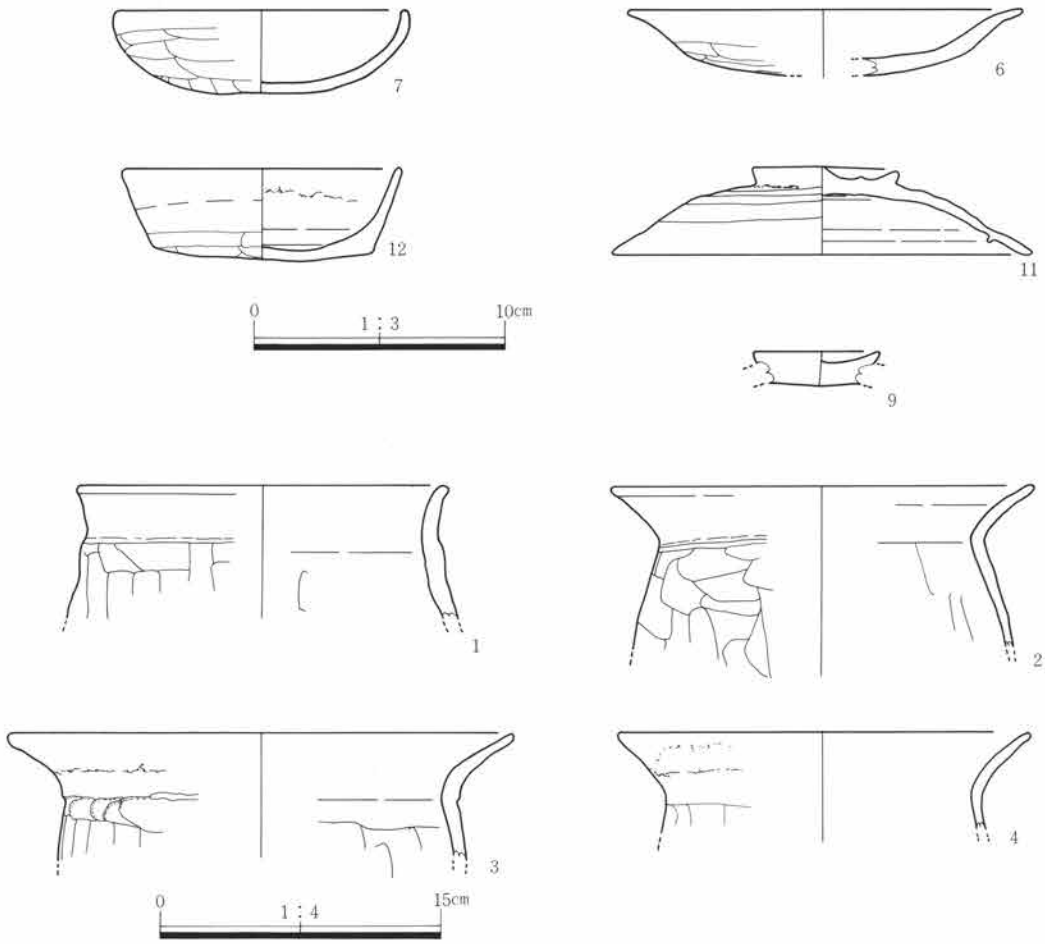
1号井戸跡出土遺物



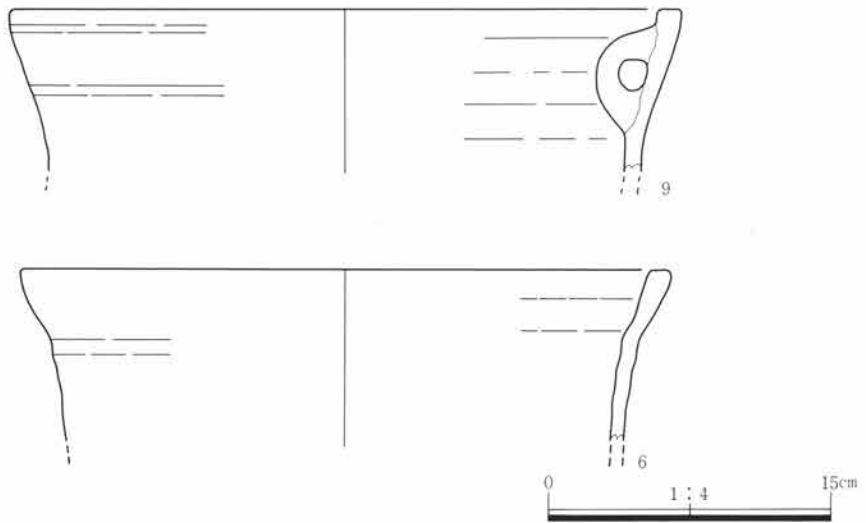
2号井戸跡出土遺物



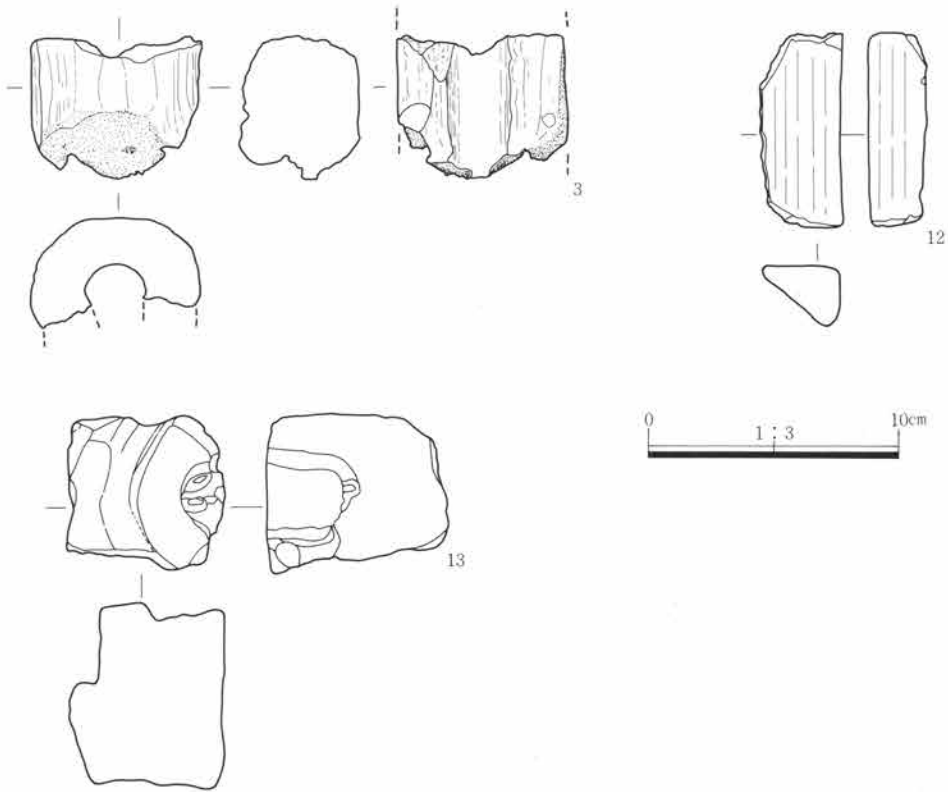
第276図 8号井戸跡出土遺物



7号井戸跡出土遺物



第277図 9号井戸跡出土遺物①



第278図 9号井戸跡出土遺物②

1号土坑 (第281図、図版79)

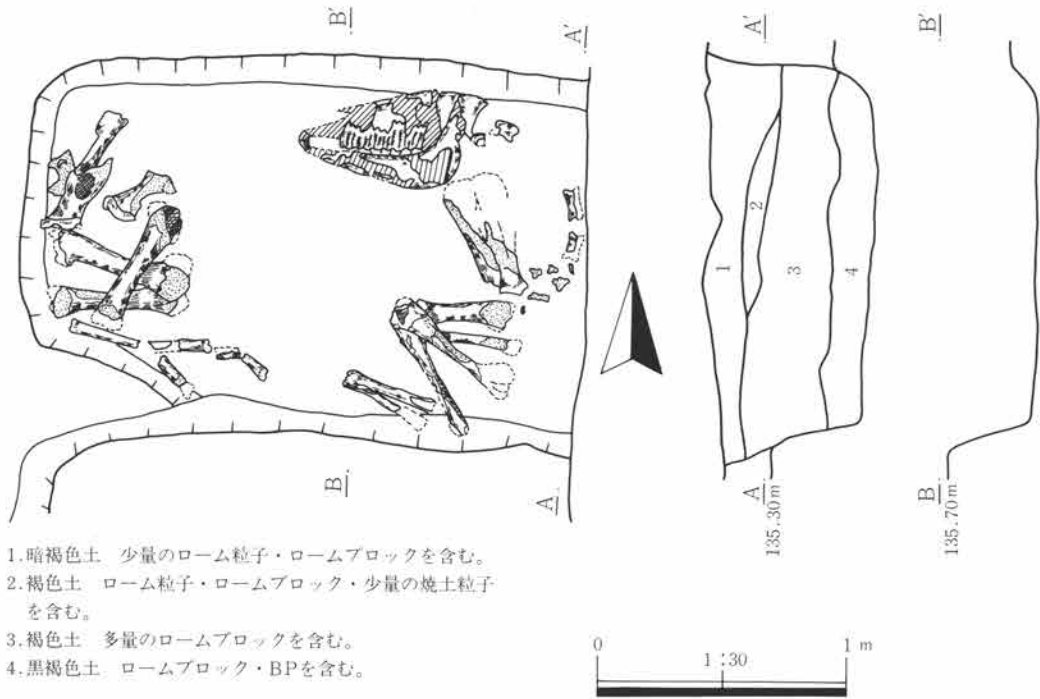
48号住居跡と重複し、45号住居跡・46号住居跡・47号住居跡が近接する。48号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。覆土にA P層(第1層)がある。

規模は東西約0.7m・南北約1.8mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約20~25cmであり、底面はローム層中に構築されている。底面はほぼ平坦であり、凸凹は少ない。(井川)

2号土坑 (第279図、図版79・80)

68号住居跡と重複し、73号住居跡・2号竪穴状遺構が近接する。62号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。覆土はロームブロックを含む暗褐色土・褐色土である。

規模は不明であるが、南北は約1.5mであり、平面形は長方形を呈するものと推定している。壁の立ち上りは約10~40cmであるが、セクションでは約55~65cmを測る。底面はローム層中に構築されている。当土坑は土坑墓であり、折り曲げられた形で埋葬された馬骨が検出できた。(井川)



第279図 2号土壇

### 3号土坑（第281図）

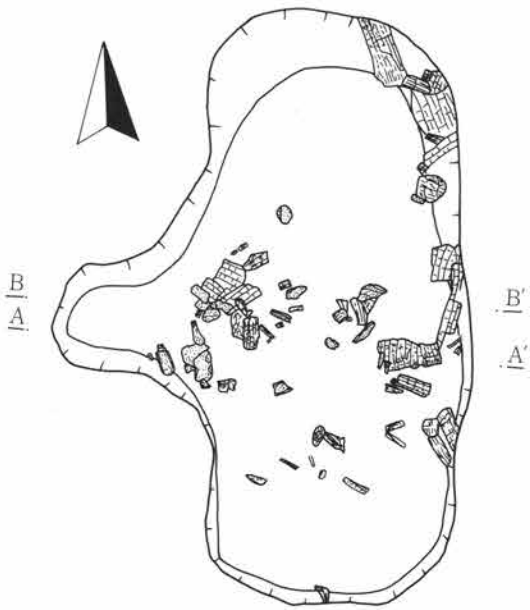
7号井戸跡と重複し、89号住居跡・9号掘立柱跡が近接する。7号井戸跡との新旧関係は不明である。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

規模は東西約0.7m・南北約1.9mであり、平面形は不整形な長方形を呈する。壁の立ち上りは約20cmであり、底面はローム層中に構築されている。底面の形は、中央部がやや凹んでいる。（井川）

### 5号土坑（第281図）

10号掘立柱跡・6号土坑と重複し、9号掘立柱跡・7号土坑と近接する。6号土坑との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。10号掘立柱跡との新旧関係は不明である。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

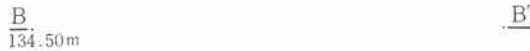
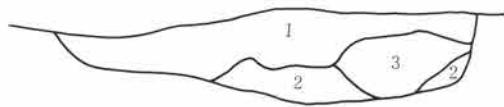
規模は東西約0.6m・南北約6.4mであり、平面形は南北に長い長方形を呈する。壁の立ち上りは約10cmであり、底面はローム層中に構築されている。底面は凸凹が多い。西側壁の南寄りに、直径約20cm・底面からの深さ約10cmの小ピットがある。（井川）



6号土坑 (第281図)

10号掘立柱跡・5号土坑と重複し、9号掘立柱跡・7号土坑と近接する。5号土坑との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が古い。10号掘立柱跡との新旧関係は不明である。覆土は多量のロームブロックを含む褐色土である。

規模は東西約0.8m・南北約2.4mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約10cmであり、底面はローム層中に構築されている。底面は凸凹が多い。(井川)



7号土坑 (第281図)

10号掘立柱跡と重複し、5号土坑・6号土坑と近接する。10号掘立柱跡との新旧関係は不明である。

規模は東西約0.9m・南北約3.5mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約20cmであり、底面はローム層中に構築されている。(井川)

8号土坑 (第281図)

92号住居跡・8号井戸跡・5号土坑・9号土坑が近接するが、重複はない。

規模は東西約0.7m・南北約5.8mであり、平面形は細長い長方形を呈する。壁の立ち上りは約15cmであり、底面はローム層中に構築されている。(井川)

- 1. 黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロック土中に炭化物を含む。
- 2. 焼土 ロームが火を受けている。
- 3. 炭化物



第280図 9号土坑

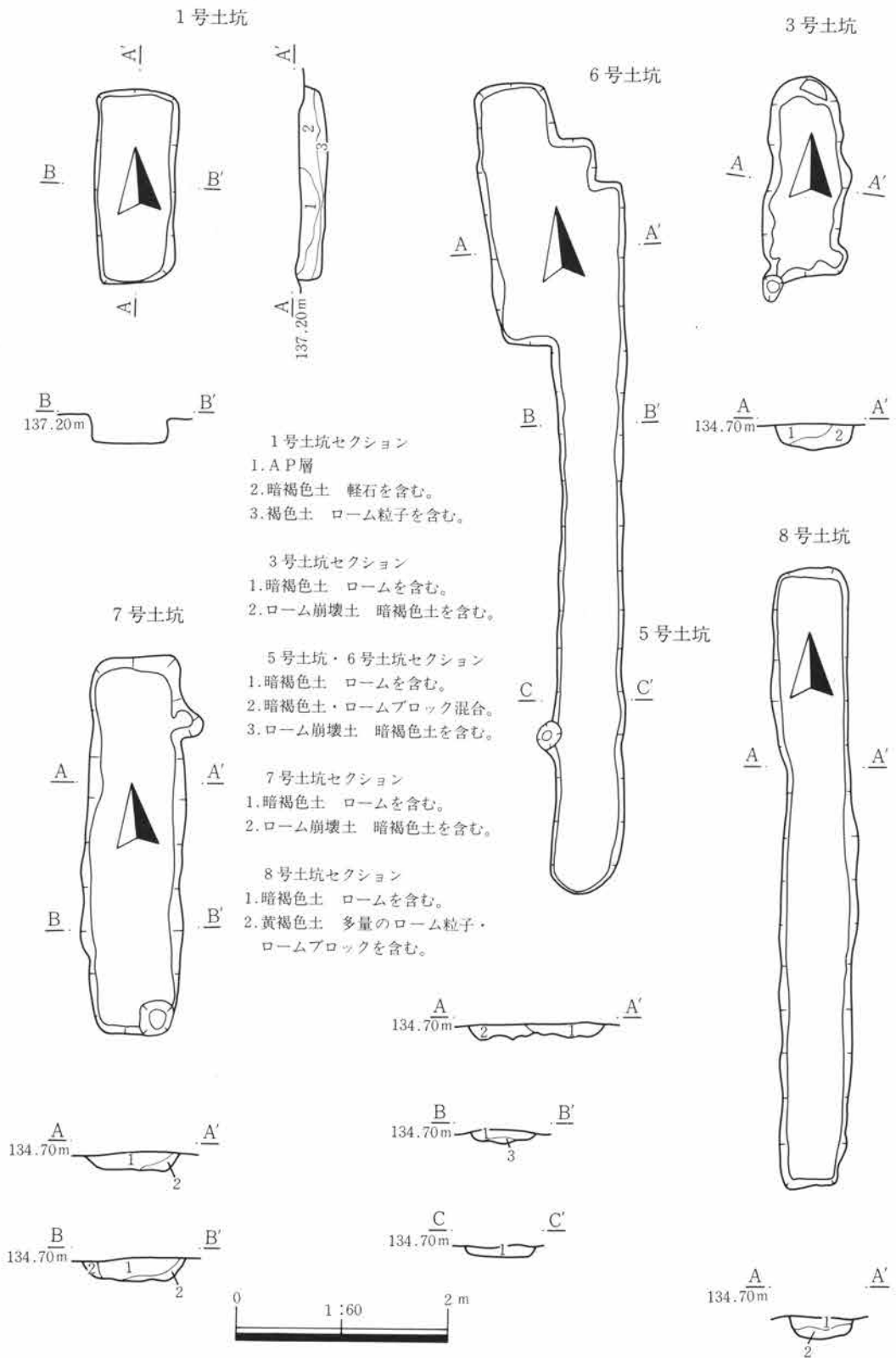
9号土坑 (第280図、図版80)

92号住居跡・8号井戸跡・8号土坑が近接するが、重複はない。

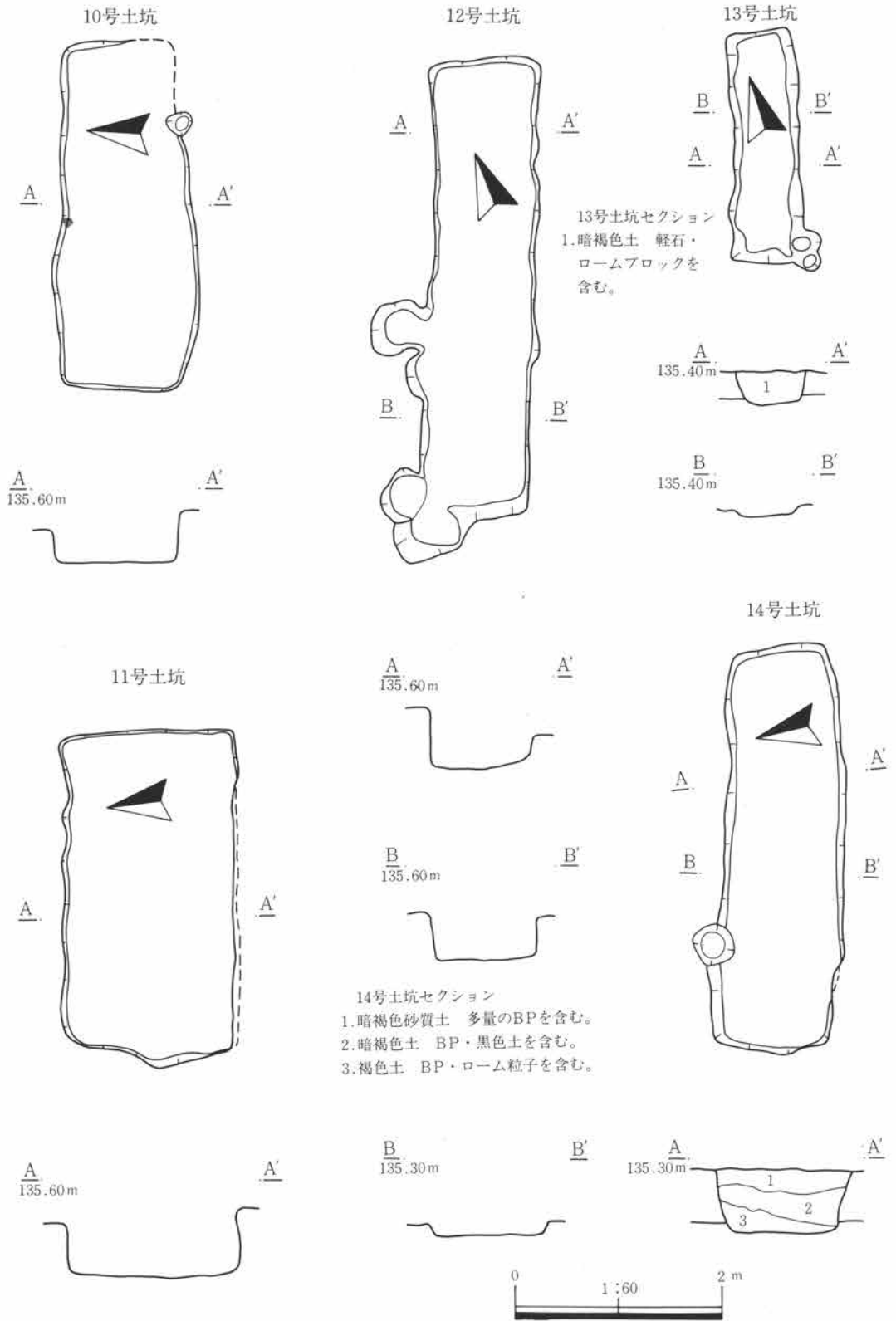
規模は東西約0.5m・南北約1.2mであり、平



第2節 発見された遺構と遺物（9号土坑、1・3・5・6・7・8号土坑）



第281図 1号土坑・3号土坑・5号土坑・6号土坑・7号土坑・8号土坑



第282図 10号土坑・11号土坑・12号土坑・13号土坑・14号土坑

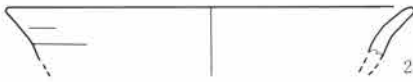
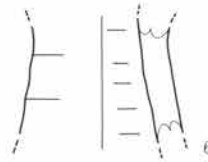
第2節 発見された遺構と遺物（5・8・10・11・12・13・14号土坑）



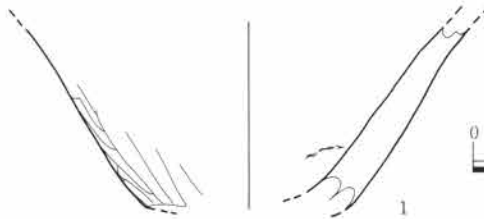
5号土坑出土遺物



8号土坑出土遺物



10号土坑出土遺物



第283図 11号土坑出土遺物

面形は隅丸長方形を呈するが、西側壁の中央部分に東西約0.3m・南北約0.25mの張り出しを有する。壁の立ち上りは約15cmであり、底面はローム層中に構築されている。

当土壌は土壌墓であり、人骨・炭化物が検出できた。西側に張り出しを持つ火葬墓である。(井川)

#### 10号土坑 (第282図)

69号住居跡・70号住居跡と重複する。69号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。70号住居跡との新旧関係は不明である。

規模は東西約3.3m・南北約1.3mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約50cmを測る。底面はローム層中に構築されている。(井川)

#### 11号土坑 (第282図)

75号住居跡と重複し、74号住居跡・84号住居跡・10号土坑・12号土坑が近接する。75号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。

規模は東西約3.1m・南北約1.7mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約60cmを測る。底面はローム層中に構築されている。(井川)

#### 12号土坑 (第282図)

75号住居跡・84号住居跡と重複し、76号住居跡・11号土坑が近接する。75号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。84号住居跡との新旧関係は、75号住居跡と84号住居跡との新旧関係から、当土坑が新しい。

規模は東西約1.0m・南北約4.4mであり、平面形は細長い長方形を呈する。壁の立ち上りは約50cmを測り、底面はローム層中に構築されている。南西隅から西側壁中央にかけて、3基のピットが重複する。(井川)

#### 13号土坑 (第282図)

77号住居跡と重複し、80号住居跡・82号住居跡・97号住居跡が近接する。77号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。覆土は軽石・ロームブロックを含む暗褐色土である。

規模は東西約0.7m・南北約2.2mであり、平面形は長方形を呈する。壁の立ち上りは約30cmであり、底面はローム層中に構築されている。南東隅に2基のピットが重複する。(井川)

#### 14号土坑 (第282図)

97号住居跡と重複し、77号住居跡・79号住居跡・82号住居跡・98号住居跡と隣接する。97号住居跡との新旧関係は、覆土の相違により、当土坑が新しい。覆土はBPを含む黒褐色土・暗褐色土である。

規模は東西約3.9m・南北約1.0mであり、平面形は細長い長方形を呈する。壁の立ち上りは約60cmを測り、底面はローム層中に構築されている。(井川)

### 1号溝跡（第284図、図版81）

当溝跡は2号溝跡・62号住居跡・63号住居跡・64号住居跡と重複関係にある。当溝跡の北側と南側には掘立柱跡が近接する。

規模は、上幅90cm・下幅45cm・深さ86cmである。西から東にかけて走向し、全長21mを測る。西・東側共に調査区域外へ延びて続く。走向はほぼ直線となる。遺物は覆土より土師器の杯（1号溝—3）、須恵器の杯（1号溝—4）・椀（1号溝—5）・甕（1号溝—6）などを出土する。

当溝跡は、2号溝跡・62号住居跡・63号住居跡・64号住居跡と重複する。新旧関係は、当溝跡が最も新しい。（宮下）

### 2号溝跡（第284図、図版81）

当溝跡は1号溝跡・62号住居跡・63号住居跡・64号住居跡と重複関係にある。

規模は、上幅55cm・下幅20cm・深さ30cmの細い溝である。西から東にかけて走向し、全長は推定を含めて21mを測る。西側は1号溝跡と交差して調査区域外へ、東側は住居跡を切って調査区域外へ延びる。覆土は砂質土が堆積し、溝は流れをもっていたと思われる。遺物は覆土より土師器の杯（2号溝—2・3）、須恵器の椀（2号溝—4）などを出土する。底面・壁ともに堅緻。

当溝跡は切り合い関係により62号住居跡・63号住居跡・64号住居跡より時期は新しく1号溝跡より古い。（宮下）

### 3号溝跡（第284図）

当溝跡は66号住居跡・67号住居跡と重複関係にある。

規模は上幅70cm・下幅44cm・深さ20cmの浅い溝である。北から南へ走向し、全長17mを測る。北側は1号溝跡の手前で止まり、南側は途中で検出されなくなる。底は平底で、壁は緩やかな傾きをもつ。遺物は覆土より灰釉陶器の椀（3号溝—2）、須恵器の甕（3号溝—4）などを出土する。

当溝跡は切り合い関係により66号住居跡・67号住居跡より時期は新しい。（宮下）

### 9号溝跡（第285図、図版82）

当溝跡は2号住居跡・3号住居跡・5号住居跡・7号住居跡と重複関係にある。

規模は上幅26cm・下幅19cm・深さ7cmの細く浅い溝である。北西から南東へ走向し、全長25mを測る。北西部は調査区域外へ延び、南東部は7号住居跡と切り合い検出されなくなる。走向はやや波をうつ曲線となる。壁はやや傾き、底面は凹凸をもつ。遺物はほとんど含まず、小石が数点出土するのみである。

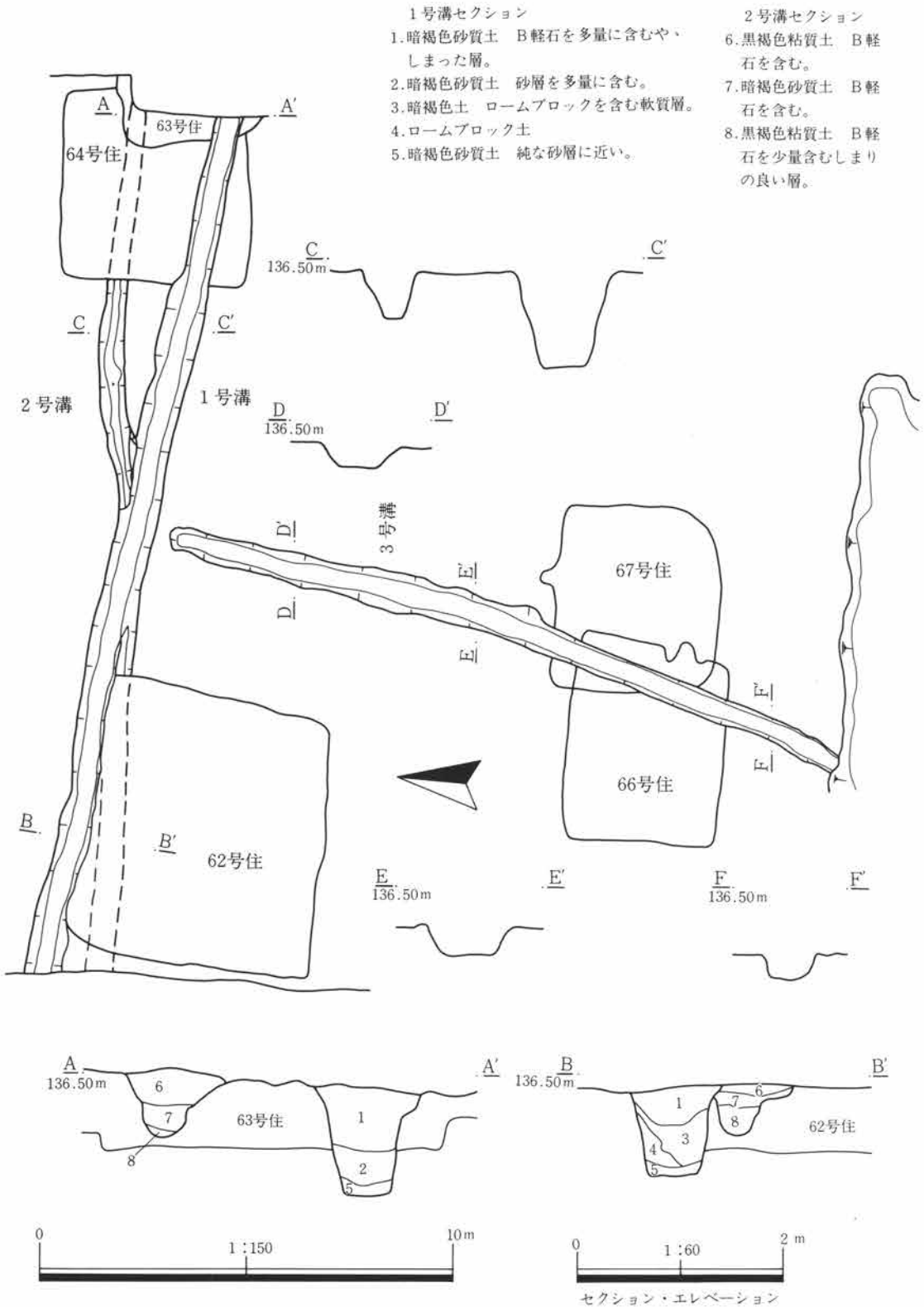
当溝跡は切り合い関係により2号住居跡・3号住居跡・5号住居跡・7号住居跡より時期は新しい。

（宮下）

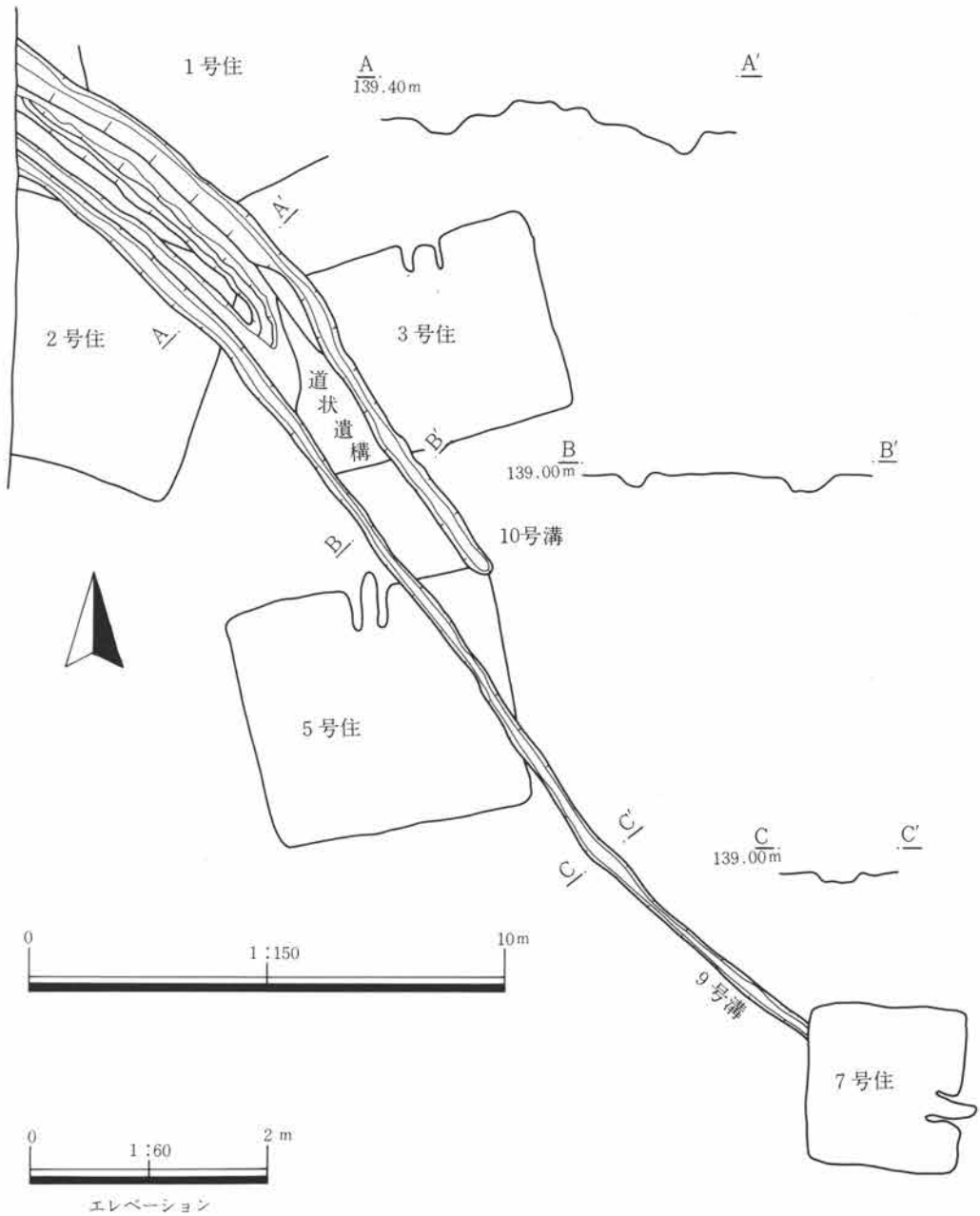
### 10号溝跡（第285図、図版82）

当溝跡は1号住居跡・3号住居跡・5号住居跡と重複関係にある。

規模は上幅40cm・下幅20cm・深さ10cmの浅い溝である。北西から南東にかけて走向し、全長14mを測る。9号溝跡とほぼ同じ方向に走向する。北西部は調査区域外へ延び、南東部は5号住居跡と切り合い、検出されなくなる。走向はやや波をうつ曲線となる。壁はやや傾き、底面は凹凸がある。遺物はほとんど



第284図 1号溝跡・2号溝跡・3号溝跡



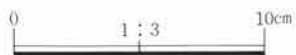
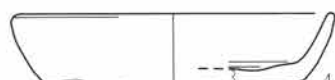
第285図 9号溝跡・10号溝跡・道状遺構

出土していない。

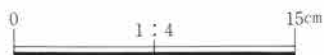
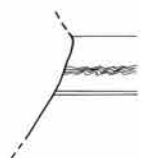
当溝跡は切り合い関係により1号住居跡・3号住居跡・5号住居跡より時期は新しい。 (宮下)

**道状遺構**（第285図、図版82）

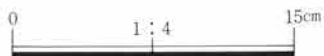
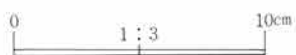
当遺構は1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡と重複関係にあり、平面的に9号溝跡・10号溝跡との間より検出された。



1号溝跡出土遺物



2号溝跡出土遺物



第286図 3号溝跡出土遺物

規模は9号溝跡と10号溝跡にはさまれて幅70cmのほぼ平坦な硬化面が、7.5m続く。しかし、北側南側ともに遺構面は必ずしも明瞭ではない。土層断面から、層は少量の軽石を含む黒灰色土である。また、暗褐色の砂が層を形成している。厚さは約30cm位である。

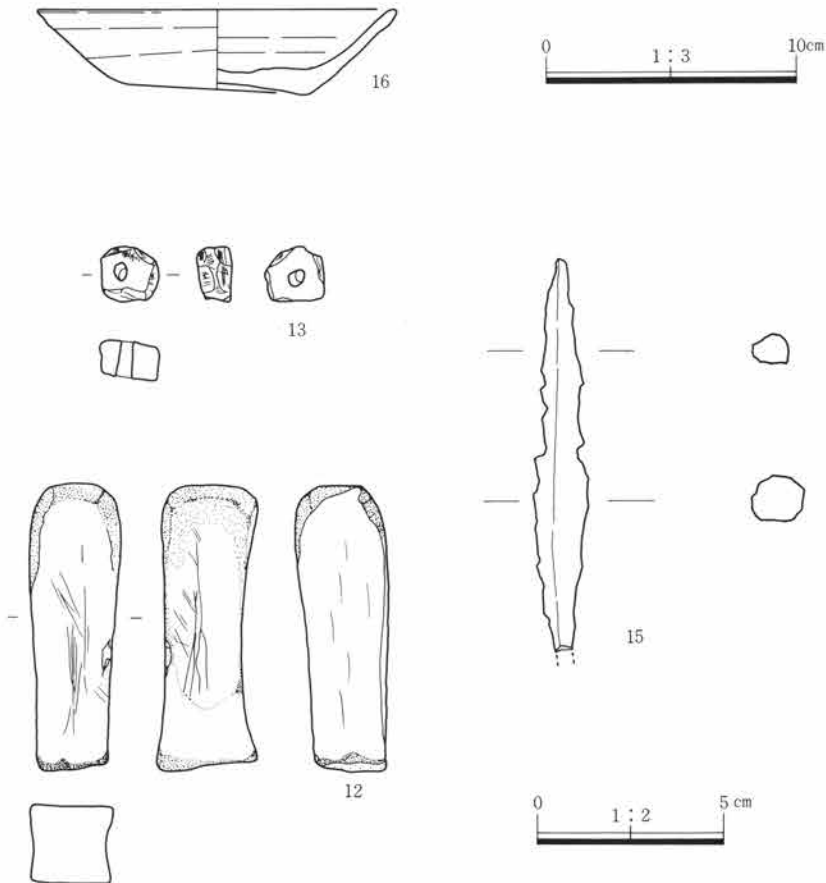
遺物は含まない。当遺構と9号溝跡・10号溝跡の時期は近く、同溝跡は当遺構の側溝と考えることもできる。

(宮下)



表 土

遺構外より、須恵器の杯（表土-16）のほぼ完形を出土する。砥石（表土-12）の石材は輝石安山岩で、4面に使用痕が残る。それぞれの面の中央はやや凹み、条痕がハッキリ認められる。また、滑石片岩の白玉未製品（表土-13）が出土する。研磨された平坦な2面と、部分的に研磨された側面から成る。穿孔は2面より貫通されている。鉄製品の鉄鏃（表土-15）は1部分欠損して出土する。現存長は10.5 cm・幅は0.7cm、断面は楕円形を呈する。（宮下）



第287図 表土出土遺物



# 出土土器觀察表

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径) 量 (底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
1住-1 (図版83)	甕 土師器	南東部床直。 口縁部～体 部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (17.6) ( ) 最大径は胴部中央、 24.9cm。	口縁部は外反する。輪積み。外面：口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り後にヘラ磨き。 内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
1住-2 (図版83)	杯 土師器	南東部床直。 完形。	( 5.1) (14.2) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。丸底。外面： 口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底 部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナ デ後にヘラ磨き、底部はナデ後に磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内面に油煙 付着。
1住-3	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外反。丸底。外面：口縁部～体部 上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。 内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。
1住-4	高杯 土師器	南西部床直。 体部下端～脚 部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( ) ( )	外面：体部はヘラ磨き、底部～脚部上端は ナデ。内面：体部～底部はヘラ磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
2住-1 (図版83)	甕 土師器	カマド右袖に 使用。口縁部 ～胴部上半 残。	( ) (15.9) ( ) 最大径は胴部中央、 19.6cm。	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り後にヘラ磨き。内面： 口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい黄褐。内外面 共に油煙付着。
2住-2	甕 土師器	カマド内。口 縁部～胴部上 端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
2住-3	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。外面：口縁 部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁 部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含 む。比較的硬質。橙。外面 に油煙付着。
2住-4	甕 土師器	カマド右袖脇 床直。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
2住-5 (図版83)	杯 土師器	南壁中央脇床 直。口縁部一 部欠。	( 4.7) (14.0) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 ～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘ ラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。外面に油煙 付着。
2住-6 (図版83)	杯 土師器	カマド内。ほ ぼ完形。	( 5.6) (14.0) (—)	口縁外折し、内面に稜。丸底。外面：口縁 部～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ 削り後にヘラ磨き。内面：口縁部は横ナデ、 体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内面に油煙 付着。
2住-7 (図版83)	杯 土師器	カマド右袖脇 床上15cm。口 縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.6) (12.6) (—)	外面に稜。丸底。外面：口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
2住-8	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 7.0) (15.5) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 ～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘ ラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部は横 ナデ後に放射状暗文、底部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。

## 第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
2住-9	杯 土師器	カマド右袖脇 床直。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14.0) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部 は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。外面に油煙 付着。
2住-11	杯 土師器	貯蔵穴内。口 縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 5.3) (11 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面： 口縁部～体部上半は横ナデ後に放射状暗 文、体部下半～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。赤褐。内外面に多量 の油煙付着。
2住-12 (図版83)	埴 土師器	北東部床直。 完形。	( 5.6) (10.0) (—) 最大径は体部中央、 11.9cm。	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 ～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘ ラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底 部はナデ後にヘラ磨き。	砂粒を含む。硬質。還元。 明赤褐。
2住-15	杯 土師器	南東隅床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.7) (14.0) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 ～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘ ラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部は横 ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。
2住-16 (図版83)	高杯 土師器	カマド支脚に 使用。完形。	(13.3) (16.3) (12.6)	杯部・脚部の外面に各々稜。外面：口縁部 は横ナデ、体部はヘラ削り後にヘラ磨き、 底部～柱部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内 面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放 射状暗文、底部はナデ、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。非常に硬質。 酸化。明赤褐。内外面に多 量の油煙付着。
2住-17 (図版83)	甌 土師器	カマド右袖脇 床直。口縁部 欠。	( ) ( ) ( 8.0)	外面：胴部上半はハケ目、胴部下半はハケ 目後にヘラナデ。内面：胴部上半はハケ目、 胴部下半はハケ目後にヘラ磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい黄橙。内外面 に油煙付着。
2住-18 (図版83)	甌 土師器	カマド右袖脇 床直。口縁部 一部欠。	(26.9) (26.5) ( 9.0)	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り後にヘラ磨き。内面：口縁部 は横ナデ、胴部はヘラナデ後にヘラ磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい黄橙。外面に 油煙付着。
3住-1	甕 土師器	カマド内。胴 部～底部。	( ) ( ) ( 7.2)	胴部下半が脹らむ。輪積み。外面：胴部～底 部はヘラ削り。内面：胴部～底部はヘラナ デ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
3住-2	甕 土師器	覆土。胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( )	輪積み。外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。油煙付着。
3住-3 (図版83)	杯 土師器	カマド内。ほ ぼ完形。	( 5.0) (14.0) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面： 口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状 暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
3住-4 (図版83)	杯 土師器	貯蔵穴東脇床 直。ほぼ完形。	( 7.4) (15.4) (—)	口縁部はほぼ直立し、外面に稜。口縁端部 が沈線状。外面：口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナ デ、底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
3住-6 (図版83)	椀 土師器	南壁中央脇床 直。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 8.1) (15.0) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面：口縁部 ～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削 り。内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ 後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
3住-7	碗 土師器	カマド内。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (15) (—)	口縁部は外折し、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
3住-8	杯 土師器	カマド内。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.8) (10) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ後にヘラによる線。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。内面に油煙付着。
3住-9 (図版83)	杯 土師器	カマド内。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19) (—)	外面に稜。口縁部は外反し、口縁端部がやや内湾。内外面ともに口縁部～体部はナデ後に全面的にヘラ磨き。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内面に油煙付着。
3住-10	杯 土師器	南西部床上10cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	外面に稜。口縁端部は沈線状。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
3住-11	杯 土師器	カマド内。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
3住-12	碗 土師器	カマド内。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	口縁部は外折。内面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。外面に多量の油煙付着。
3住-13	杯 土師器	北東部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11) (—)	口縁部は外折。口縁端部は内湾。内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
3住-14	杯 土師器	覆土。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部は外折。内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
3住-15	杯 土師器	北東部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。
3住-16 (図版83)	高杯 土師器	カマド内。口縁部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (15.0) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部～柱部上半はヘラ削り、柱部～裾部上半は横ナデ。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ後に放射状暗文。底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
3住-17	高杯 土師器	カマド内。底部～裾部。	( ) ( ) (9.0)	外面；底部～裾部は横ナデ。内面；底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
3住-18	高杯 土師器	北東部床直。底部～裾部。	( ) ( ) (11.4)	外面；底部はナデ、脚部は横ナデ。内面；底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
3住-19	埴 土師器	カマド内。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11) (—) 最大径は体部中央、 約11.5cm。	口縁部は外折する。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。

## 第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
3住-21	杯 土師器	カマド内。口 縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.3)(16)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～ 体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。 内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
3住-22	高杯 土師器	南東隅床直。 口縁部～裾 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(8.2)(12.6)(8.7)	杯部外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り、底部はヘラ削り後に横ナデ、 柱部～裾部は横ナデ。内面：口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
4住-1 (図版84)	甕 土師器	カマド左袖先 端。ほぼ完形。	(34.2)(17.0)(7.0) 最大径は胴部中央、 22.1cm。	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁 部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
4住-2 (図版84)	甕 土師器	カマド内。胴 部一部欠。	(34.3)(15.8)(6.7) 最大径は胴部中央、 20.3cm。	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁 部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
4住-3	甕 土師器	カマド前床上 10cm。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸 化。にぶい橙。内面に油煙 付着。
4住-4 (図版84)	杯 土師器	カマド支脚 上。口縁部一 部欠。	(5.0)(13.6)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～ 体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削 り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部は ヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内面に油煙付着。
4住-5 (図版84)	杯 土師器	カマド内。口 縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(6.0)(12.0)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面： 口縁部は横ナデ、体部はナデ後に放射状暗 文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に多量の油煙付着。二次焼 成を受けている。
4住-6	杯 土師器	カマド支脚 上。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(12)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面： 口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底 部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
4住-7	杯 土師器	カマド内。口 縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(13)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～ 体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。 内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に多 量の油煙付着。
4住-8	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(14)( )	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～ 体部上半は横ナデ後に放射状暗文、体部下 半はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。
4住-9	高杯 土師器	南壁中央脇床 直。底部～裾 部。	( )( )( )	外面：柱部～裾部は横ナデ。内面：底部は ナデ、柱部～裾部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい赤褐。
4住-10 (図版84)	甕 土師器	カマド内支脚 上。ほぼ完形。	(32.9)(16.6)(5.9) 最大径は胴部中央、 19.8cm。	口縁部はやや外反。輪積み。外面：口縁部 は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面： 口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高) (口径) (底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
5住-1 (図版85)	甕 土師器	カマド内・カマド前。ほぼ完形。	(32.6)(17.3)(7.4) 最大径は胴中央部、 20.0cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
5住-2 (図版85)	甕 土師器	中央部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(30.0)(15.4)(5.8) 最大径は胴中央部、 19.2cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-3 (図版85)	甕 土師器	カマド前床直。胴部一部欠。	(33.4)(17.5)(7.2) 最大径は胴中央部、 21.3cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。内外面に油煙付着。
5住-4 (図版85)	甕 土師器	カマド内。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(22.5)(16.0)(5.0) 最大径は胴中央部、 18.6cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部上半はヘラ削り後にハケ目・ナデ、胴部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ後にハケ目。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
5住-5	甕 土師器	北壁中央脇床上30cm。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ後にハケ目、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ後にハケ目、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
5住-6 (図版85)	壺 土師器	カマド内。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(9.1)(9.4)(4.9) 最大径は体部中央、 10.5cm。	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ後ヘラ磨き、体部～底部は全的にヘラ磨き。内面；口縁部～底部は全的にヘラ磨き。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に多量の油煙付着。
5住-7 (図版85)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	(6.1)(16.6)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内面に油煙付着。
5住-9 (図版84)	椀 土師器	南東部床直。ほぼ完形。	(7.5)(16.6)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
5住-10 (図版86)	杯 土師器	南東部床直。完形。	(5.0)(12.8)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後ヘラ磨き、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-11 (図版85)	杯 土師器	南東部床直。ほぼ完形。	(5.0)(14.4)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ磨き、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。
5住-12 (図版84)	杯 土師器	北西部床直。完形。	(4.8)(11.8)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
5住-13 (図版84)	杯 土師器	中央部床直。完形。	(5.9)(10.6)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。



挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
5住-14 (図版84)	杯 土師器	北東部床直。 完形。	(4.3)(10.0)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
5住-15 (図版84)	杯 土師器	中央部床直。 口縁部一部欠。	(5.8)(11.8)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。
5住-16 (図版85)	杯 土師器	カマド内。完形。	(5.3)(10.3)(4.4)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部上半はヘラ削り後ハケ目、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい黄橙。
5住-17 (図版84)	杯 土師器	南東部床直。 完形。	(5.2)(12.7)(—)	外面に稜、口縁端部に沈線。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
5住-18 (図版85)	手づく ね土器	南周溝中央部 内。完形。	(3.3)(6.6)( )	小粘土塊を指で成形しており、粗雑である。内外面に指頭痕。	粗い粘土。やや軟質。酸化。にぶい黄橙。
5-19 (図版85)	手づく ね土器	南周溝中央部 内。完形。	(3.7)(5.8)( )	小粘土塊を指で成形しており、粗雑である。内外面に指頭痕。	粗い粘土。やや軟質。酸化。にぶい黄橙。
5住-22 (図版85)	甔 土師器	東壁中央脇床 直。ほぼ完形。	(25.1)(24.0)(8.6)	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、体部上半はハケ目、体部下半はハケ目後にヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ、体部上半はハケ目、体部下半はヘラ磨き、体部下端はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
5住-23 (図版85)	椀 土師器	北東柱穴内。 ほぼ完形。	(8.6)(16.2)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に多量の油煙付着。
5住-24 (図版84)	杯 土師器	北東部床直。 ほぼ完形。	(4.6)(13.7)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-25 (図版84)	杯 土師器	北東部床直。 ほぼ完形。	(4.8)(13.2)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。
5住-26 (図版85)	杯 土師器	カマド前床 直。ほぼ完形。	(4.9)(14.6)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-27 (図版84)	杯 土師器	北西部床直。 ほぼ完形。	(4.8)(13.6)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
5住-28	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底部 1/5残。	( 5.8)(12.4)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
5住-29	杯 土師器	北東柱穴内。 口縁部～底部 1/5残。	( 5.0)(13.6)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
5住-30	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底部 1/5残。	( 5.1)(14.0)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内面に油煙付着。底部にヘラ記号的なキズ。
5住-31	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底部 1/5残。	( 4.7)(14.2)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。
5住-32	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底部 1/5残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-33	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～体部 1/5残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-35	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部 1/5残。	( ) (12 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
5住-36	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部 1/5残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
5住-37	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～体部 1/5残。	( ) (12 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
5住-39 (図版85)	壺 土師器	北西部床直。 口縁部～底部 1/5残。	( ) ( 7.0)(—) 最大径は体部中央、 9.5cm。	口縁部は直立。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。赤褐。内外面に多量の油煙付着。
5住-41 (図版84)	高杯 土師器	カマド支脚に 使用。ほぼ完 形。	( 8.9)(17.8)( 9.0)	脚部は短い。外面；口縁部は横ナデ、体部～柱部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に多量の油煙付着。
6住-1	甕 土師器	カマド左袖脇 床上10cm。口 縁部～胴部。	( ) (16 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸化。浅黄橙。外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器 種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器 形・手 法 の 特 徴	胎土・焼成・色調・備考
6住-2	甕 土師器	南東部床上5 cm。口縁部 ～胴部上端。	( ) (24 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り後にヘラ磨き。内面： 口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。浅黄橙。内外面に油 煙付着。
6住-3	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。黄褐。
6住-5	甕 土師器	カマド右袖脇 床上5cm。口 縁部～胴部。	( ) (11 ) ( )	口縁部はほぼ直立。輪積み。外面：口縁部 ～胴部上端は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面：口縁部～胴部上端は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
6住-6 (図版86)	杯 土師器	北西隅床上10 cm。完形。	( 5.6 ) ( 13.6 ) ( — )	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～体 部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削 り。内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ 後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
6住-7	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 4.9 ) ( 13.8 ) ( — )	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～体 部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削 り後ヘラ磨き。内面：口縁部は横ナデ、体 部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。
6住-8	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 4.8 ) ( 14.0 ) ( — )	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～体 部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削 り。内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ 後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
6住-9	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～体 部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( 13.2 ) ( — )	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部 は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
6住-10	杯 土師器	東壁中央脇床 直。口縁部 ～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( 13 ) ( — )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。
6住-11	杯 土師器	貯蔵穴内。口 縁部～体部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( 12 ) ( — )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部は ヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
7住-1 (図版86)	甕 土師器	カマド内・カ マド左袖脇床 直。ほぼ完形。	( 13.5 ) ( 13.6 ) ( 5.8 )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部上半はヘラ削り後ハケ目、胴部 下半～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
7住-2	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～体 部。	( ) ( ) ( — )	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面：口縁 部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内面に油煙付着。
7住-3	杯 土師器	南西部床直。 口縁部～体 部。	( ) ( ) ( — )	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～体 部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内 面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放 射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
7住-4	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部。	( ) ( ) ( — )	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面：口縁 部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
7住-5	杯 土師器	北東部床直。	( ) ( ) (—)	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
7住-6	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部。	( ) ( ) (—)	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
8住-1	甕 土師器	南西部。口縁 部～胴部上 端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
8住-4	杯 土師器	南西部床直。 口縁部～胴 部。	( ) ( ) (—)	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は ヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内面に油煙付着。
9住-1 (図版86)	壺 土師器	貯蔵穴内。胴 部下端～底部 欠。	( ) (13.4) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ後ヘラ磨き、胴部上半はヘラ削り後ヘ ラ磨き、胴部下半はヘラ削り。内面；口縁 部は横ナデ後ヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
9住-2 (図版86)	壺 土師器	北東部床直。 口縁部～体 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は僅かに外反し、口縁端部はやや内 湾。胴部は大きく脹らむ。輪積み。内外面 共に口縁部は全面に丁寧なヘラ磨きが施さ れている。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
9住-3 (図版86)	壺 土師器	中央部床直。 胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 欠。	( ) (16.2) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。胴部は大きく脹らむ球胴形。 輪積み。外面；口縁部は横ナデ後にヘラ磨 き、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面；口 縁部は横ナデ後にヘラ磨き、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
9住-4	壺 土師器	中央部床上25 cm。胴部下半 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (6.2)	( ) ( ) ( )	球胴形。輪積み。外面；胴部～底部はヘラ 削り。内面；胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
9住-5	甕 土師器	南東部床上5 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明黄褐。
9住-6	甕 土師器	南東部床上10 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ後ヘラ磨き。内面； 口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径3～4mmの砂粒を含 む。比較的硬質。酸化。に ぶい橙。油煙付着。
9住-7	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴部 上端。	( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい黄橙。内外面 に油煙付着。
9住-8 (図版86)	杯 土師器	南壁東部脇床 上30cm。口縁 部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.3)(14.4)(—)	( ) ( ) ( )	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体 部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。 内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。
9住-9 (図版86)	杯 土師器	南東部床上5 cm。ほぼ完形。	(6.1)(11.6)(—)	( ) ( ) ( )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
9住-10	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底部 1/4残。	( ) (15 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～ 体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削 り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ 後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。
9住-11	杯 土師器	南壁中央脇床 上5cm。口縁 部～体部1/4 残。	( ) (16 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～ 体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放 射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
9住-12	杯 土師器	カマド前床上 5cm。口縁部 ～底部1/4残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～ 体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削 り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ 後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
9住-13	杯 土師器	カマド前床上 5cm。口縁部 ～底部1/4残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～ 体部は横ナデ、体部下端～底部はヘラ削り。 内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。内外面に油煙付着。
9住-14	杯 土師器	カマド右袖脇 床上20cm。口 縁部～底部1/4 残。	( ) (15 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。外面； 口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底 部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。外面に油煙 付着。
9住-15	杯 土師器	南壁中央脇床 上10cm。口縁 部～底部1/4 残。	( 5.0 ) (12 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上端は 横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口 縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部 はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に油煙付着。
9住-16	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～体 部1/4残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上端は 横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～ 体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。外面に油煙付着。
9住-17	杯 土師器	北西部床上30 cm。口縁部 ～底部1/4残。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は 横ナデ、口縁部～底部はヘラ削り。内面； 口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文。底 部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
9住-18	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部1/4残。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上端は 横ナデ後ヘラ磨き、体部下半～底部はヘラ 削り。内面；口縁部～底部は全面にヘラ磨 き。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。外面口縁部～内 面は燻して黒。
9住-21	甕 須恵器	南東隅床上5 cm。胴部。	( ) ( ) ( )	内外面共に叩き目。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 暗青灰。
9住-47 (図版86)	壺 土師器	貯蔵穴北床 直。口縁部 ～底部1/4残。	(19.5) (13.1) ( 6.2 ) 最大径は胴部中央、 20.8cm。	口縁部は外反し、稜を持つ。外面；口縁部 は横ナデ後ヘラ磨き、胴部～底部は全面的 ヘラ磨き。内面；口縁部はヘラ磨き、胴部 ～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
10住-1	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部。	( ) ( ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～ 体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放 射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。赤褐。内外面に油煙 付着。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
10住-2	杯 土師器	カマド内。口 縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内面に油煙 付着。
10住-4 (図版86)	杯 土師器	南東部床直。 口縁部一部 欠。	(4.6)(14.0)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体 部上半は横ナデ、体部～底部はへら削り。 内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に 放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
10住-5	壺 土師器	カマド内。口 縁部～胴部上 端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。口縁部は後から胴 部に接合。外面；口縁部～胴部上端は横ナ デ後にへら磨き。内面；口縁部は横ナデ後 にへら磨き、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
12住-1 (図版86)	甕 土師器	北西部床直。 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (17.3) ( ) 最大径は胴部中央、 25.5cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り後にへら磨き。内面； 口縁部は横ナデ、胴部はへらナデ後にへら 磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
12住-2 (図版87)	甕 土師器	北西部床直 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(30.0)(18.2)(9.0) 最大径は胴部中央、 26.5cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り後にへら磨き、底部 はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部 ～底部はへらナデ。	大径2～3mmの砂粒を含 む。比較的硬質。酸化。明 赤褐。
12住-3	甕 土師器	カマド内他。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(23.2)(26 ) (10.0)	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り後にへら磨き。内面； 口縁部は横ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
12住-4	甕 土師器	中央部床直 他。口縁部 ～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
12住-5	甕 土師器	中央部床15 cm他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16 ) ( ) 最大径は胴部上半、 20.6cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
12住-6	杯 土師器	南壁東部脇床 直。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.0)(12.2)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半～底部はへら削り。内面； 口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底 部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
12住-7	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.2)(13.0)(—)	外面に稜。口縁部が沈線状。外面；口縁 部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面； 口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
12住-8	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.7)(12.4)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
12住-9	杯 土師器	南西部床10 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.3)(12.9)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。摩滅が激しい。
12住-10	杯 土師器	中央部床10 cm他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.6)(12.9)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。摩滅が激しい。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
12住-11	杯 土師器	北西部床上5cm他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (15) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上端は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
12住-12	杯 土師器	北西部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
12住-13	杯 土師器	カマド右袖脇床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12.5) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
12住-14	杯 土師器	貯蔵穴内他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13.0) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
12住-15	杯 土師器	北西部床直他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (18) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
12住-16	杯 土師器	カマド内他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は摩滅が激しい。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に多量の油煙付着。
12住-17	杯 土師器	中央部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
12住-18	杯 土師器	北西部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (15) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
12住-19	小型甕 土師器	中央部床上10cm。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( )	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
12住-20	小型甕 土師器	北西部床直。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
12住-21	高杯 土師器	中央部床上10cm。口縁部～柱部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13.8) ( )	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り後にナデ、底部～柱部は横ナデ。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ、柱部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
12住-22	高杯 土師器	中央部床直。底部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (10.0)	脚部は短い。外面；底部はヘラ削り、柱部～裾部は横ナデ。内面；底部はヘラ磨き、柱部～裾部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
12住-23	高杯 土師器	中央部床直。底部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (8.5)	脚部は短い。外面；柱部～裾部は横ナデ。内面；底部はナデ、柱部～裾部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
12住-24	高杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。 内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗 文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
12住-25	杯 土師器	中央部床上10 cm。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体 部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り後に 放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
12住-26	杯 土師器	北西部床直。 口縁部～底 部。	( ) ( ) ( )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
12住-27	杯 土師器	貯蔵穴北東床 上15cm。口縁 部～底部。	( ) ( ) ( )	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は 横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口 縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい赤褐。外面に油煙付 着。
12住-28	杯 土師器	貯蔵穴内。口 縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13) ( )	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁 部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
12住-29	小型甕 土師器	北東部床上5 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部は 横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は 横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内面に油煙付着。
12住-30 (図版87)	甕 土師器	中央部床直。 ほぼ完形。	(32.2)(17.5)(5.4) 最大径は胴中央部、 26.1cm。	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削 り後に全面にヘラ磨き。内面；口縁部は横 ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
12住-31	杯 土師器	カマド右袖脇 周溝内。口縁 部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	外面に稜。口縁部は沈線状。外面；口縁 部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面； 口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
13住-1	甕 土師器	カマド内床直 他。口縁部 ～胴部。	( ) (20) ( )	口唇部に1条沈線。「コ」の字状口縁。輪積 み。外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面；口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや 硬質。酸化。にぶい赤褐。 内外面に油煙付着。
13住-2	甕 土師器	北東壁際床上 11cm。口縁部 ～胴部。	( ) (22) ( )	口唇部に1条沈線。「コ」の字状口縁。輪積 み。外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面；口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや 硬質。酸化。外面にぶい褐。 内面にぶい橙。油煙付着。
13住-3	甕 土師器	カマド覆土。 口縁部～胴 部。	( ) (20) ( )	口唇部に1条沈線。「コ」の字状口縁。輪積 み。外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面；口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
13住-4	小型甕 土師器	東壁北寄床上 4cm。口縁部 ～胴部。	( ) (13) ( )	口唇部弱い1条沈線。輪積み。外面；口縁 部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面；口縁部は 横ナデ、胴部はヘラナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
13住-5	小型甕 土師器	カマド内床 直。口縁部 ～胴部。	( ) (13) ( )	口唇部わずかに外反。「コ」の字状口縁。輪 積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ 削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。 酸化。外面にぶい赤褐。内 面にぶい橙。内外面に油煙 付着。



第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
13住-6	小型甕 土師器	カマド覆土。 口縁部～胴 部。	( ) (13 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 横ナデ、頸部横ナデ後指ナデ、胴部へら削 り。内面；口縁部横ナデ、胴部へらナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
13住-7 (図版87)	皿 須恵器	西壁南寄床 直。完形。	( 2.9) (13.2) ( 7.3)	短く太い高台、雑に貼付。外面；皿部は回 転横ナデ、底部回転糸切り、高台部は回転 横ナデ。内面；回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰。
13住-8 (図版87)	杯 須恵器	東壁中央床上 4cm。ほぼ完 形。	( 3.3) (13.8) ( 6.1)	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は 回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横 ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや 硬質。還元。口縁部灰。灰 白。
13住-9	椀 須恵器	西壁南寄床上 3cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 7.2) (18 ) ( 7.5)	短く薄い高台貼付。口唇部弱く外反。外面； 口縁部～高台部回転横ナデ、底部回転糸切 り。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒を多量に含む。やや硬 質。還元。灰白。
13住-10	椀 須恵器	カマド内床 直。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 5.0) (16 ) ( )	短く太い高台貼付。外面；口縁部～体部回 転横ナデ、底部回転糸切り、高台部回転横 ナデ。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒を多量に含む。やや硬 質。還元。灰白。
13住-11	椀 土師質	西南隅床上4 cm。口縁部 ～底部。	( 5.4) (15 ) ( )	細く長い高台雑に貼付。外面；口縁部～高 台部回転横ナデ、底部回転糸切り。内面； 口縁部～底部へら磨き。	鈳物粒を含む。やや硬質。 酸化。にぶい黄橙。外面に 油煙付着。内黒。
13住-12	椀 須恵器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) (15 ) ( )	口唇部外反。外面；口縁部～体部回転横ナ デ。内面；口縁部～体部回転横ナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。 還元。灰白。
13住-13	杯 須恵器	カマド内床上 20cm。口縁部 ～底部。	( ) (14 ) ( )	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は 回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横 ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。硬質。 還元。灰。
13住-14	杯 土師器	東壁際中央床 上3cm。体部 ～底部。	( ) ( ) ( 6.2)	外面；体部は回転横ナデ、底部は回転糸切 り。内面；体部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや 硬質。酸化。外面にぶい橙。 内面灰黄褐。
13住-15	椀 須恵器	覆土。体部 ～底部。	( ) ( ) ( 7.0)	短く薄い高台貼付。外面；体部～高台部は 回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；体 部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや 硬質。還元。外面浅黄。内 面黄灰。
13住-16	椀 須恵器	西壁中央床上 10cm。体部 ～底部。	( ) ( ) ( 8.5)	厚く短い高台雑に貼付。外面；体部回転横 ナデ、底部回転糸切り後回転横ナデ、高台 部回転横ナデ。内面；体部～底部回転横ナ デ。	鈳物粒を含む。やや硬質。 還元。灰白。内外面に油煙 付着。
13住-17 (図版87)	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) (12 ) ( )	口唇部にふくらみをもつ薄手の杯。外面； 口縁部は横ナデ、体部はナデ。内面；口縁 部～体部は横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。酸化。 にぶい黄橙。墨書。
14住-1 (図版87)	甕 土師器	カマド前床直 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(30.7) (17.4) ( 7.6) 最大径は胴部中央、 21.3cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部～底部はへら削り。内面；口縁 部は横ナデ、胴部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
14住-2 (図版87)	甕 土師器	中央部床直 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(31.8) (19.4) ( 5.5) 最大径は胴部中央、 22.5cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部～底部はへら削り。内面；口縁 部は横ナデ、胴部は摩滅が激しく不明。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
14住-3	甕 土師器	カマド前床直。口縁部～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後にナデ。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい黄褐。
14住-4 (図版88)	椀 土師器	カマド前床直。ほぼ完形。	( 8.8)(12.0)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。赤褐。内外面に油煙付着。摩滅が激しい。
14住-5 (図版87)	杯 土師器	カマド右袖脇床直他。ほぼ完形。	( 5.8)(11.0)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。外面に油煙付着。
14住-6 (図版87)	杯 土師器	カマド前床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 5.2)(13.2)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面は摩滅が激しい。
14住-7	杯 土師器	カマド内。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り後にヘラナデ。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
14住-8	杯 土師器	カマド内。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( )	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。赤褐。
14住-9	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
14住-10	高杯 土師器	カマド内。脚部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (11.0)	外面；柱部～裾部は横ナデ。内面；柱部はナデ、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
14住-11 (図版88)	甗 土師器	中央部床直。ほぼ完形。	(23.2)(24.4)( 7.8)	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後に全面にヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ後に全面にヘラ磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。内外面に油煙付着。
14住-12 (図版88)	椀 土師器	北東部床直。ほぼ完形。	( 8.5)(14.2)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
15住-1 (図版88)	甗 土師器	北東部床直。胴部 $\frac{1}{2}$ 欠。	(31.8)(17.0)( 6.7) 最大径は胴部中央、 21.6cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ後ハケ目、胴部上半はナデ後ハケ目、胴部下半は摩滅により不明。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
15住-2 (図版88)	杯 土師器	カマド前床直。ほぼ完形。	( 5.6)(12.4)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。

## 第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
15住-3 (図版88)	杯 土師器	貯蔵穴内。完形。	(5.9)(11.6)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
15住-4 (図版88)	杯 土師器	貯蔵穴内。完形。	(7.6)(15.6)(—)	口縁部は直立、外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
15住-5	甕 土師器	カマド内。胴部下端～底部。	( )( )(8.4)	外面：胴部下端はヘラ削り、底部はヘラ削り後にヘラナデ。内面はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
15住-6 (図版88)	壺 土師器	カマド内。完形。	(21.9)(15.2)(7.5) 最大径は胴部中央、 21.3cm。	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ後にヘラナデ、胴部上端はヘラ削り後にヘラナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。外面に油煙付着。
15住-7 (図版88)	瓶 土師器	貯蔵穴内。ほぼ完形。	(21.8)(20.2)(7.4)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ後にヘラ磨き、胴部はハケ目後にヘラ磨き。内面：口縁部は横ナデ、胴部上半はナデ、胴部下半はナデ後にヘラ磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。内外面に油煙付着。
15住-8 (図版88)	壺 土師器	カマド内。完形。	(19.4)(15.2)(—) 最大径は胴部中央、 18.6cm。	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部上端はハケ目、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。黄橙。内外面に油煙付着。
15住-9 (図版88)	杯 土師器	カマド右袖脇床直。ほぼ完形。	(6.8)(16.0)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
15住-10 (図版88)	杯 土師器	カマド内。ほぼ完形。	(4.7)(12.2)(—)	口縁部は直立、外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。内面摩滅激しい。
15住-11	小型甕 土師器	貯蔵穴内他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(11 )( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。内外面に多量の油煙付着。
15住-12	杯 土師器	北東部床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.3)(13.0)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
15住-13	杯 土師器	中央部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.0)(12 )(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～底部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
15住-14	杯 土師器	カマド内他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(13.0)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい褐。内面に油煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
15住-15	杯 土師器	カマド内。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.0)(14.0)(—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
15住-16	杯 土師器	覆土。口縁部～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (14. ) (—)	口縁部は外折、内面に稜。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。
16住-1	椀 須恵器	カマド内。口縁部～体部。	( ) (18. ) ( )	口縁部外反し、均一した厚さ。外面；口縁部～体部回転横ナデ。内面；口縁部～体部回転横ナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。還元。にぶい黄。内外面に油煙付着。
16住-2	杯 土師質	東壁際南寄床上10cm。口縁部～底部。	( ) (12. ) ( )	外面；口縁部～体部は回転横ナデ。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
16住-3	杯 須恵器	貯蔵穴北床上9cm。口縁部～底部。	( ) (12. ) ( )	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
16住-4	蓋 須恵器	北東寄床上2cm。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	薄く短い内面のかえり。外面；口縁部～体部は回転横ナデ。内面；口縁部～体部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。黄灰。
17住-1 (図版89)	甕 土師器	南東部床直。口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (19.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。油煙付着。
17住-2 (図版88)	甕 土師器	カマド内他。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (18.0) ( ) 最大径は胴部中央、22.4cm。	口縁部は外反。丸底に近い。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に多量の油煙付着。
17住-3	鉢 土師器	カマド支脚上他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	(9.3)(17.0)(—)	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に多量の油煙付着。
17住-4 (図版89)	甕 須恵器	カマド前床上15cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (15.0) (—) 最大径は肩部端、25.5cm。	口縁部は外反。口縁端部下に凸帯一条。肩部下端～胴部上端に沈線3条、沈線間に波状文。外面；口縁部～胴部上端は回転ナデ、胴部～底部は叩き目。内面；口縁部～頸部は回転ナデ、肩部～底部はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。青灰。
17住-5 (図版89)	杯 土師器	カマド前床直。完形。	(3.9)(12.0)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
17住-6 (図版89)	杯 土師器	カマド前床上15cm。完形。	(3.8)(11.6)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
17住-7 (図版89)	杯 土師器	南東隅床上20cm他。ほぼ完形。	(3.8)(12.0)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径) 量 (底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
17住-8 (図版89)	杯 土師器	南東部床直。 ほぼ完形。	( 4.2)(11.2)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
17住-9	杯 土師器	北東部床直 他。ほぼ完形。	( 4.1)(11.8)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
17住-10	杯 土師器	貯蔵穴内。口 縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.7)(11.0)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
17住-11	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
17住-12	杯 土師器	カマド支脚上 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ。底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
17住-13	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に油煙付着。
17住-14	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は ヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
17住-15	杯 土師器	西柱穴脇床上 10cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.2)(13 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
17住-16	杯 土師器	カマド支脚上 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.6)(12 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
17住-17 (図版89)	杯 須恵器	南西部床直。 ほぼ完形。	( 4.9)(10.3)(—)	口縁部は内湾し、受けは短い。外面；口縁 部～体部上半は回転ナデ、体部下半～底部 は回転ヘラ削り。内面；口縁部～底部は回 転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 青灰。全体が歪んでいる。
18住-1	甕 土師器	北西隅床上15 cm他。口縁部 ～胴部上半 残。	( ) (22.6)( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。外面に多量の油 煙付着。
18住-2	甕 土師器	北西隅床上10 cm他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (20 ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
18住-3	甕 土師器	北西隅床上20 cm。口縁部 ～胴部上端 残。	( ) (14.1)( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
18住-4	壺 土師器	北東柱穴内他。口縁部～胴部上端 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (22 ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
18住-5 (図版89)	杯 土師器	北西隅床上10cm。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 6.0 ) ( 17.2 ) ( — )	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
18住-6 (図版89)	杯 土師器	北西部床上5cm。完形。	( 3.4 ) ( 11.0 ) ( — )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
18住-7	杯 土師器	貯蔵穴内。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 3.4 ) ( 10.8 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
18住-8	杯 土師器	カマド前床直。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 4.0 ) ( 11.4 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
18住-9	杯 土師器	北東柱穴内。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 3.2 ) ( 10.7 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
18住-10	杯 土師器	カマド前床直他。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 4.0 ) ( 12 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
18住-11	杯 土師器	カマド内他。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 3.8 ) ( 16 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
18住-12	杯 土師器	北東部床上15cm。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 3.5 ) ( 11.0 ) ( — )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に多量の油煙付着。
18住-13	杯 土師器	北東部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( 10 ) ( — )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部は摩滅激しく不明。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
18住-14	高杯 土師器	覆土。底部～柱部。	( ) ( ) ( )	外面：底部～柱部は横ナデ。内面：底部は摩滅が激しく不明、柱部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
18住-15 (図版89)	壺 土師器	中央部床直他。口縁部～胴部上半残。	( ) ( 20.9 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
18住-16 (図版89)	壺 土師器	カマド右袖使用他。口縁部～胴部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( 20.0 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
18住-17 (図版89)	壺 土師器	北東部床直他。口縁部～胴部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( 23.0 ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
20住一2	杯 土師器	北西部床上5cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.9)(12)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
20住一3	杯 土師器	北東部床直他口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.5)(11.0)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
20住一4	杯 土師器	北東部床直他口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
20住一5	杯 土師器	南西部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
20住一6	鉢 土師器	南東部床上15cm。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	外面に稜。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。淡橙。内外面に油煙付着。
21住一1 (図版89)	杯 土師器	中央部床上10cm他。ほぼ完形。	(4.2)(12.4)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
21住一2	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.2)(12.2)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
21住一3	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.3)(13)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい黄橙。内外面に油煙付着。
21住一4	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
21住一5	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。外面に油煙付着。
21住一8	杯 土師器	覆土。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。
21住一9	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
22住一1	盤 須恵器	西壁中央床直。底部。	( ) ( ) ( )	短く薄い高台雑に貼付。外面；体部は回転横ナデ、底部は回転ヘラ削り、高台部は回転横ナデ。内面；底部は回転横ナデ。	1～2mmの砂粒を多量に含む。やや硬質。還元。灰白。
22住一2	杯 須恵器	覆土。体部～底部。	( ) ( ) ( )	器壁は底部厚く、体部薄手。外面；体部は回転横ナデ、底部は回転ヘラ削り。内面；体部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。外面灰。内面にぶい褐。
22住一3	甕 須恵器	覆土。胴部。	( ) ( ) ( )	器壁は均一。外面；胴部カキ目。内面；胴部並行叩き目。	鉍物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。

第III章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
23住-1	甕 土師器	貯蔵穴内他。 口縁部～胴部。	( ) (22 ) ( )	弱い「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。やや硬質。酸化。橙。
23住-2	甕 土師器	貯蔵穴内床上 9 cm。口縁部 ～胴部。	( ) (20 ) ( )	口唇部に浅い沈線。器壁は薄手。輪積み。外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面；口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	鉱物粒を多量に含む。やや硬質。酸化。橙。
23住-3 (図版89)	椀 土師器	中央床直。底 部。	( ) ( ) ( 7.8)	短い高台雑に貼付。外面；体部横ナデ。底部回転糸切り後に回転横ナデ、高台部回転横ナデ。内面；底部ナデ後磨き。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。酸化。外面にぶい橙。内面褐灰。内黒。
23住-4	椀 土師器	覆土。体部 ～底部。	( ) ( ) ( 7.4)	薄い高台雑に貼付。外面；体部回転横ナデ、底部回転糸切り後、回転横ナデ、高台部回転横ナデ。内面；体部～底部ナデ後磨き。	鉱物粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内面に油煙付着。
23住-5	椀 土師器	中央床上33 cm。底部。	( ) ( ) ( )	雑な高台貼付。外面；体部回転横ナデ、底部回転糸切り。内面；体部～底部ナデ後磨き。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
23住-6	蓋 須恵器	覆土。口縁部 ～天井部。	( ) (11 ) (—)	断面三角形の小さなかえり丁寧に貼付。外面；口縁部回転横ナデ、天井部回転ヘラ削り。内面；口縁部～天井部回転横ナデ。	鉱物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。
23住-7	甕 須恵器	東北隅床上33 cm。	( ) (22 ) ( )	口唇部に稜を持ち、浅い沈線1条。外面；口縁部は横ナデ。内面；口縁部は横ナデ。	砂粒を多量に含む。やや硬質。還元。外面灰。内面灰白。
23住-8	壺 須恵器	北東隅床上25 cm。	( ) ( ) ( )	裾が広がる高台丁寧に貼付。外面；高台部は回転横ナデ。内面；回転横ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。灰白。
24住-1	甕 土師器	南西部床上25 cm。口縁部 ～胴部上半 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (20.0) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。内外面に油煙付着。
24住-2 (図版89)	椀 土師器	東壁中央脇床 上20cm。口縁 部～底部 $\frac{2}{3}$ 残。	(10.1) (12.7) (—)	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
24住-3	甕 土師器	南東部床上20 cm他。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
24住-4	杯 土師器	南西部床上15 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	外面に2段の稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。
24住-5	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
24住-6	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。黄灰・橙。



挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
24住-7 (図版90)	提瓶 須恵器	南西部床上20cm。口縁部～体部上半。	( ) ( ) (—)	口縁部は基部より外反して立ち上る。取手は小さく、カギ状と推定。外面：口縁部は回転ナデ、体部はカキ目。内面：口縁部～体部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
24住-8	高杯 土師器	南西部床上20cm。底部～裾部。	( ) ( ) (9.6)	外面：柱部～裾部は横ナデ後に放射状暗文。内面：底部はナデ、柱部～裾部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
25住-1 (図版90)	甕 土師器	中央部床上10cm他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (18.8) ( ) 最大径は胴部中央、 21.9cm。	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
25住-2	甕 土師器	カマド前床上5cm他。口縁部～胴部上端。	( ) (23) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
25住-3	甕 土師器	南東部床上30cm他。口縁部～胴部上端。	( ) (28) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部～胴部上端は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
25住-4	甕 土師器	カマド内他。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。
25住-5	小型甕 土師器	北西部床上20cm他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12.8) ( ) 最大径は胴部上半、 14.1cm。	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。
25住-6 (図版90)	杯 土師器	南東部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.1) (14.0) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
25住-7	杯 土師器	南東部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.1) (14.0) (—)	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
25住-8	杯 土師器	北西部床上30cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～底部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
25住-9	杯 土師器	南東部床上20cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.7) (13.6) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内面に油煙付着。
25住-10	杯 土師器	中央部床上20cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.8) (15) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
25住-11	杯 土師器	中央部床上25cm。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に多量の油煙付着。
25住-12	杯 土師器	中央部床上10cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
25住-13	杯 土師器	南西部床上40cm。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(4.5)(14.0)(—)	平底に近い丸底。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
25住-14	杯 土師器	中央部床上15cm。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (11 ) (—)	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
25住-15	杯 土師器	カマド前床上5cm他。口縁部～体部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) ( ) (—)	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
25住-16	杯 土師器	南東部床上25cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (13 ) (—)	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
25住-17	椀 土師器	南西部床上30cm。口縁部～体部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (18 ) (—)	外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ後に放射状暗文・渦巻状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
25住-18	台付甕 土師器	南西部床上20cm。底部～裾部。	( ) ( ) ( )	外面；底部はヘラ削り、柱部～裾部は横ナデ。内面；底部はナデ、柱部～裾部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
25住-19 (図版90)	椀 須恵器	中央部床上10cm。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(8.0)(17.0)(10.6)	口縁部下1cmに沈線1条。付け高台。外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端は回転ヘラ削り、底部は回転ナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。
25住-20 (図版90)	杯 須恵器	中央部床上15cm他。完形。	(3.9)(14.0)(7.6)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端はヘラナデ、底部はヘラ切り後ヘラナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。自然釉。
25住-21 (図版90)	杯 須恵器	南西部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(6.5)(7.4)(5.0)	平底、体部は垂直に近い角度で立ち上り、そのまま口縁部に至る。外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部はヘラナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。
25住-22	杯 須恵器	中央部床上20cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(4.1)(14.4)(9.3)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ切り後、ヘラナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
25住-23	杯 須恵器	中央部床上20cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(3.9)(14 )(8.5)	外面；口縁部～体部上半は回転ナデ、体部下半は回転ヘラ削り、底部は回転ヘラ切り後にヘラナデ。内面は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
25住-24	杯 須恵器	中央部床直他。口縁部～体部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (16 ) ( )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端は回転ヘラ削り。内面；口縁部～体部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
25住-25	椀 須恵器	中央部床上40cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(7.8)(17 )(12.0)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転ナデ後に付け高台。内面；口縁部～体部は回転ナデ、底部はナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
25住-27	杯 須恵器	南東部床上45 cm他。	( 8.0)(14 )( 5.5)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回 転ナデ後に付け高台。内面；口縁部～底部 は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
25住-28	蓋 須恵器	中央部床直 他。天井部 ～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16.5)(—)	端部から1.5cmに短いかえり。外面；天井部 上半は回転ヘラ削り、天井部下半～口縁部 は回転ナデ。内面は回転ナデ。	鉍物粒を含む。やや軟質。 還元。須恵器。
25住-29	短頸壺 須恵器	カマド前床直 他。口縁部 ～肩部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 )( )	口縁部は外反。内外面共に口縁部～肩部は 回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。自然釉の付着。
25住-30	横瓶 須恵器	中央部床上10 cm。体部。	( ) ( ) ( )	中央部は粘土円板張り付け。内面；体部は 叩き後に回転ナデ。外面；体部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 緑灰。外面に自然釉付着。
25住-31	甕 須恵器	中央部床上20 cm他。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は回転ナデ、 胴部は叩き目。内面；口縁部は回転ナデ、 胴部は叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
25住-32	甕 須恵器	中央部床上10 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反、短い沈線状の文が2段。外 面；口縁部は横ナデ、胴部は叩き目。内面； 口縁部は回転ナデ、胴部は叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。内外面に自然釉付着。
25住-33	甕 須恵器	中央部床上5 cm。口縁部 ～頸部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。口縁端部に凸帯1条、頸 部に刺突文。内外面共に口縁部～頸部は回 転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。内外面に自然釉付着。
25住-34	甕 須恵器	中央部床上5 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。口縁端部 に凸帯1条。内外面共に口縁部～胴部上端 は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
25住-35	壺 須恵器	覆土。頸部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	内外面共に頸部～胴部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。外面に自然釉付着。
25住-36	壺 須恵器	南西部床上20 cm。胴部～底 部。	( ) ( ) ( 7.8)	外面；胴部はヘラナデ、底部下端～底部は ヘラ削り。内面；胴部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
25住-37	杯 須恵器	南西部床上20 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.8)(14.0)( 8.0)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下 端～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部 は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 明青灰。外面に自然釉付着。
25住-38	杯 須恵器	中央部床上25 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.8)(12 )( 8.0)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下 端～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部 は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
25住-39	杯 須恵器	南東部床上50 cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は ヘラナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。やや軟質。 還元。灰白。
25住-40	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下 端はヘラ削り、底部はヘラナデ。内面；口 縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
25住-41	皿 須恵器	南西部床上15 cm。底部。	( ) ( ) ( )	外面；底部はヘラナデ後に高台張り付け。 内面は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
25住-42	蓋 須恵器	覆土。天井部 ～口縁部 $\frac{2}{3}$ 残。	( ) ( 8 ) (—)	天井部は水平に近く、口縁部は直角に折れ 下がる。内外面共に天井部～口縁部は回転 ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
25住-43	甕 土師器	中央部床土20 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部～頸部は回転 ナデ。胴部は叩き目。内面；口縁部～頸部 は回転ナデ、胴部は叩き目。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
26住-1 (図版90)	甕 土師器	カマド内。口 縁部～胴部 $\frac{2}{3}$ 残。	( ) (20.0) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴 部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。淡赤褐。内外面に油 煙付着。
26住-2	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (11.8) ( )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。浅黄橙。外面に油煙 付着。
26住-3 (図版90)	杯 土師器	北東部床直。 ほぼ完形。	( 7.5) (18.6) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
26住-4 (図版90)	杯 土師器	カマド左袖脇 床直。完形。	( 6.5) ( 9.0) (—)	外面に稜、口縁部は内湾。外面；口縁部は 横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口 縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。非常に硬質。 酸化。橙。
26住-5 (図版90)	杯 土師器	カマド右袖脇 床直。完形。	( 3.5) (12.6) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。非常に硬質。 酸化。橙。
26住-6	杯 土師器	貯蔵穴東脇床 直。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
27住-1 (図版90)	甕 土師器	南東部床直他 口縁部～胴 部 $\frac{2}{3}$ 残。	( ) (22.0) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
27住-2	壺 土師器	南壁中央脇床 直他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) ( ) (—)	口縁部は外反。丸底。輪積み。外面；口縁 部は横ナデ後にヘラ磨き、胴部～底部は全 面にヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ後 にヘラ磨き、胴部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
27住-3 (図版90)	杯 土師器	カマド前床直 完形。	( 5.5) (10.0) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～胴部上半は 横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。口縁 部～体部は横ナデ後放射状暗文。底部ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。内外面に油煙付着。
27住-4	杯 土師器	南壁中央脇床 直。口縁部 ～体部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (12 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半はヘラ削り。内面；口縁 部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
27住-5	杯 土師器	カマド内。ほ ぼ完形。	( 5.4) (12.7) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
27住-6	甕 土師器	カマド支脚 上。胴部下半 ～底部残。	( ) ( ) ( 5.8)	外面；胴部はヘラ削り後にヘラ磨き、底部 はヘラ削り。内面；胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸 化。明赤褐。内外面に油煙 付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
27住-10 (図版90)	甌 土師器	北東部床直。 ほぼ完形。	(16.5)(17.8)(4.5)	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部上半はナデ、胴部下半はヘラ削り後にヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ、胴部はハケ目。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
27住-11 (図版90)	甌 土師器	カマド内。ほ ぼ完形。	(10.2)(14.2)(5.9)	口縁部は外反。外面；口縁部～胴部上端は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。軟質。酸化。にぶい橙・黄灰。内外面に油煙付着。
27住-13	杯 土師器	南壁東部脇床 上5cm。口縁 部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜、口縁端部は沈線状。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
28住-1	椀 須恵器	カマド内床 直。口縁部 ～体部。	( ) (14 ) ( )	口唇部は弱く外反。外面；口縁部～体部は回転横ナデ。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。還元。にぶい橙。
28住-2	椀 土師器	カマド内床上 2cm。体部 ～底部。	( ) ( ) ( )	高台部接合面で剝離。外面；体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；体部～底部はナデ後に磨き。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。酸化。外面にぶい赤褐。内面にぶい橙。油煙付着。
28住-4	椀 須恵器	覆土。底部。	( ) ( ) ( 8.0)	短く太い高台貼付。外面；体部回転横ナデ、底部回転糸切り。高台部回転横ナデ。	多量の砂粒を含む。硬質。還元。灰。
28住-5	蓋 須恵器	東中央床上13 cm。口縁部。	( ) (12 ) (—)	口唇部は丸みをもち、内側にかえり貼付。外面；口縁部は回転横ナデ。内面；口縁部は回転横ナデ。	砂粒を含む。硬質。還元。灰。
28住-6	盤 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) (22 ) ( )	短く薄い高台は丁寧に貼付。外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転横ナデ、高台部は回転横ナデ。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。中心灰白。内面に自然釉。
29住-1	甕 土師器	南壁中央床 直。口縁部 ～胴部。	( ) (20 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。器壁は薄手。外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ。内面；口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい赤褐色。内外面に油煙付着。
29住-2	台付甕 土師器	中央西寄。胴 部～脚部。	( ) ( ) ( 9.4)	均一した器壁で、短く裾が広い脚部は丁寧に貼付。外面；胴部ヘラ削り、脚部横ナデ。内面；胴部～底部ヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
29住-4	杯 須恵器	中央西寄。ほ ぼ完形。	( 3.6)(13.0)( 6.3)	外面；口縁部～体部回転横ナデ、底部回転糸切り。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。還元。灰。
30住-1 (図版91)	甕 土師器	カマド前床直 他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (21.6)( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
30住-2	甕 土師器	カマド前床直 他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22.0)( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
30住-3	甕 土師器	カマド前床上 5cm他。口縁 部～胴部上 半。	( ) (22.5)( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
30住-4	甕 土師器	南壁東部脇床直。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (23.0) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-5	甕 土師器	カマド前床直他。口縁部～胴部下半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( 5.0)	外面：胴部～底部はヘラ削り。内面：胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄褐。
30住-6	甕 土師器	カマド内。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-7	壺 土師器	南壁中央脇床上15cm。口縁部～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-8	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-9	壺 土師器	中央部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 6.1) ( 7 ) (—)	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-10 (図版90)	杯 土師器	北東部床直。ほぼ完形。	( 3.1) (11.6) ( )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
30住-11 (図版90)	杯 土師器	南壁東部脇床直。完形。	( 3.7) (10.6) ( )	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
30住-12	杯 土師器	中央部床上15cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.4) (11.2) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
30住-13	杯 土師器	南西部床上25cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.3) (10.8) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内面に焼成前のヘラによる記号。
30住-14	杯 土師器	北東隅床直。口縁部～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 3.4) (12.4) (—)	口縁部はほぼ直立し、口縁端部は外反。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-15	杯 土師器	南西部床上20cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-16	杯 土師器	北東部床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.2) (12 ) (—)	口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
30住-17	杯 土師器	中央部床上5cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.5) (11 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。

## 第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
30住-18	杯 土師器	北東部床上20cm。口縁部～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (12 ) (—)	口縁部は直立。外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-19	杯 土師器	北東部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (11 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-20	杯 土師器	カマド前床上10cm他。口縁部～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
30住-21	杯 土師器	北西部床上10cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
30住-22	杯 土師器	南西部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (11 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
30住-23	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-24	杯 土師器	北東部床上40cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
30住-27	杯 須恵器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( )	口縁部は内湾、受けはほぼ平坦。外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転へら削り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。
30住-28	杯 須恵器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( )	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転へら削り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。明青灰。
30住-29	皿 須恵器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転へら削り。内面；口縁部～底部回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
30住-35	甕 須恵器	中央部床上15cm他。胴部下端～底部。	( ) ( ) ( )	底部は粘土板。外面；胴部下端～底部はへら削り。内面；胴部下端は回転ナデ、底部はナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。内面に油煙付着。
31住-1	甕 土師器	中央北寄床上10cm。口縁部～胴部。	( ) (22 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部へら削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部へらナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
31住-4	碗 須恵器	南東隅床直。口縁部～底部。	( 5.0 ) ( ) ( 7.8 )	短く薄い高台雑に貼付。外面；口縁部～体部回転横ナデ、底部回転糸切り、高台部回転横ナデ。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。
31住-5	碗 灰釉陶器	北壁中央床上9cm。口縁部～底部。	( 4.6 ) (14 ) ( )	短く厚い高台丁寧に貼付。外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転横ナデ、高台部は回転横ナデ。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。

第III章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
31住-7	椀 須恵器	北東隅床上5cm。底部。	( ) ( ) (6.3)	短く厚い高台丁寧に貼付。外面；体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り、高台部回転横ナデ。内面；剝離の手法は不明。	鈳物粒を含む。やや硬質。還元。灰黄褐。
32住-1	壺 土師器	北東部床上30cm他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (21) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
32住-2	壺 土師器	覆土。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反し、内面に段。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
32住-3 (図版91)	杯 土師器	貯蔵穴北脇床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(5.1)(15.2)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
32住-4	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.5)(11.0)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
32住-5	杯 土師器	覆土。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい褐。
32住-6	杯 土師器	中央部床上30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.2)(12.0)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
32住-7	杯 土師器	北東部床上40cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
32住-8	杯 土師器	北東部床上25cm。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
32住-9	杯 土師器	南西部床上30cm。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
32住-10	壺 須恵器	中央部床上40cm。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部外面は厚く凸帯状。外面；口縁部～頸部は回転ナデ、胴部は叩き目。内面；口縁部～頸部は回転ナデ、胴部は叩き目。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。
32住-11	杯 須恵器	南東部床上10cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.3)(17)(12.5)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
32住-12	杯 須恵器	中央部床上40cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.1)(12)(8.0)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。明オリーブ灰。
32住-13	蓋 須恵器	中央部床直他。天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (10.4) (—)	口縁部から1cmにかえり。外面；天井部は回転ヘラ削り、口縁部は回転ナデ。内面；天井部～口縁部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。外面に自然釉。



第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
32住-14	蓋 須恵器	覆土。天井部 ～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 2.3)(10 )(—) つまみ径、1.6cm。	口縁端部から1.2cmにかえり。擬宝珠つまみ。外面；天井部上半は回転ヘラ削り、天井部下半～口縁部は回転ナデ。内面；天井部～口縁部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。外面に自然釉。
32住-15	蓋 須恵器	覆土。天井部 ～口縁部 $\frac{3}{4}$ 残。	( )(10 )(—)	口縁端部から1cmにかえり。外面；天井部は回転ヘラ削り、口縁部は回転ナデ。内面；天井部～口縁部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。
33住-1	甕 土師器	南西部床直 他。胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( )	輪積み。外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
33住-2	甕 土師器	中央部床直。 口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( )	内外面共に口縁部は横ナデ。外面；胴部上端はヘラ削り。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
33住-4	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(14 )( )	外面；口縁部～体部上半は横ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
33住-5	杯 土師器	南西部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( )	外面；口縁部～体部上端は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
33住-6	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( )	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
33住-7	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(14 )( )	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい褐。内外面に油煙付着。
33住-8 (図版91)	鉢 須恵器	覆土。体部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( 9.5)	外面；体部は回転ナデ、体部下端はヘラ削り、底部はヘラナデ後に孔を穿つ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。内面底部は使用により滑らか。
33住-10	杯 須恵器	南西部床上5 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.6)(12 )( 8.0)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端はヘラ削り、底部は回転ヘラナデ。内面；口縁部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。明青灰。外面に自然釉。
34住-1	甕 土師器	カマド内床上 7cm。口縁部 ～胴部。	( )(20 )( )	口唇部1条沈線。「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面；口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	鈳物粒を含む。硬質。酸化。橙。
34住-7	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( )(14 )( )	器壁は薄手。外面；口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。内面；口縁部横ナデ、底部ナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい橙。
34住-9	碗 須恵器	貯蔵穴際床上 7cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 5.1)(15.2)( 7.8)	薄く短い高台貼付。外面；口縁部～底部回転横ナデ、底部回転糸切り、高台部回転横ナデ。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。
34住-10	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.5)( )( 8.2)	外面；口縁部～体部回転横ナデ、底部回転糸切り。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
34住-11	椀 須恵器	中央床上29cm 他。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	薄く長い高台貼付。外面；口縁部～底部回 転横ナデ、底部回転糸切り、高台部回転横 ナデ。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰。
34住-12	杯 須恵器	貯蔵穴南側床 上6cm。ほぼ 完形。	(4.0)(12.5)(5.9)	口唇部大きく外反。外面；口縁部～底部は 回転は横ナデ、底部は回転糸切り。内面； 口縁部～底部回転横ナデ。	2～3mmの砂粒を含む。硬 質。還元。灰。燻し。
34住-13	甕 須恵器	覆土。口縁部 ～頸部。	( ) ( ) ( )	口唇部に深い沈線。外面；口縁部は回転横 ナデ、頸部は回転横ナデ後に楕描き波状文。 内面；口縁部～頸部は回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰オリーブ。
34住-14	壺 須恵器	貯蔵穴西側床 上35cm。口縁 部～胴部。	( ) (26) ( )	口縁部と胴部の接合痕有。胴部に1条の沈 線。外面；口縁部～胴部は回転横ナデ。内 面；口縁部～胴部は回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰。中心黄灰。
35住-1	甕 土師器	南東柱穴北脇 床直。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (26.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。軟質。酸化。 にぶい赤褐。
35住-2	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内面に油 煙付着。
35住-3	甕 土師器	カマド前床 直。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。内外面に油煙付着。
35住-4	甕 土師器	南東部床直 他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。内外面に油煙付着。
35住-5	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴部 上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13.9) ( )	口縁部は外反、内面の口縁端部に沈線。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
35住-7 (図版91)	杯 土師器	北東部床直。 ほぼ完形。	(3.5)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
35住-8 (図版91)	杯 土師器	北西部床直。 ほぼ完形。	(3.6)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
35住-9	杯 土師器	北西部床上5 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.3)(11.9)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
35住-10	杯 土師器	カマド内他。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.0)(11.3)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に多量の油煙付着。
35住-11	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.6)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
35住-12	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 口縁部～体部はヘラ削り。内面；口縁部 ～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
35住-13	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.7) (11.0) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
35住-14	壺 須恵器	北東部床直。 頸部～胴部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) ( ) ( )	肩部下端に沈線、胴部上端に刺突文。内外 面共に頸部～胴部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
35住-15	蓋 須恵器	南東部床直上15 cm。天井部 ～口縁部 $\frac{2}{3}$ 残。	( 3.2) (11.2) (—)	口縁部上端に沈線1条。外面；天井部上半 はヘラ削り、天井部下半～口縁部は回転ナ デ。内面；天井部～口縁部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
35住-16	蓋 須恵器	覆土。天井部 ～口縁部。	( ) ( ) (—)	外面；天井部上半は回転ヘラ削り、天井部 下半～底部は回転ナデ。内面；天井部～口 縁部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
36住-1	甕 土師器	カマド内先端 床直。口縁部 ～胴部。	( ) (18 ) ( )	口唇部に沈線。「コ」の字状口縁。輪積み。 外面；口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面； 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。 酸化。にぶい赤褐。
36住-2	甕 土師器	カマド前床直上 3cm。口縁部 ～胴部。	( ) (18 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
36住-3	甕 土師器	カマド内先端 床直。口縁部 ～胴部。	( ) (20 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
36住-10	杯 須恵器	西壁中央床直上 6cm。口縁部 ～底部。	( ) (14 ) ( )	体部の器壁薄く、底部厚手。外面；口縁部 ～体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。 内面；口縁部～底部回転横ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
36住-11	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) (14 ) ( )	器壁は薄手。外面；口縁部～体部は回転横 ナデ。内面；口縁部～体部は回転横ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
36住-12	蓋 須恵器	北壁中央床直 口縁部～天井 部。	( ) (18 ) (—)	つまみ部丁寧な貼付。外面；口縁部～天井 部は回転横ナデ。内面；口縁部～天井部は 回転横ナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。 還元。外面灰。内面灰オリ ーブ。
36住-14 (図版91)	甕 須恵器	北壁寄中央床 直上7cm他。口 縁部～底部。	( ) ( ) (13.2) 最大径、26.8cm。	底部をつくり後、輪積み。外面；口縁部回 転横ナデ、胴部ナデ後叩き目、底部ナデ。 内面；口縁部横ナデ、胴部ナデ後叩き目。	鉱物粒を多量に含む。硬質。 還元。外面灰。内面灰白。
37住-1	甕 土師器	覆土。胴部 ～底部。	( ) ( ) ( 6.0)	底部の器壁厚手。外面；胴部はヘラ削り、 底部はヘラ削り。内面；胴部～底部はヘラ ナデ。	2mm位の砂粒を多量に含 む。やや硬質。酸化。にぶ い褐。外面に油煙付着。
37住-2 (図版91)	杯 土師器	東壁中央床直上 4cm。ほぼ完 形。	( 3.5) (12.0) ( )	器壁は薄手。外面；口縁部は横ナデ、体部 ～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、 底部はナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。 酸化。橙。

第III章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
37住-3	杯 土師器	東壁北寄床上 4cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.2)(12.0)( )	器壁は薄手。体部に段がつく。外面；口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り。内面；口縁部横ナデ、体部～底部ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
37住-4	杯 土師器	中央床上8 cm。口縁部 ～体部。	( ) (12) ( )	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへラ削り。内面；口縁部は横ナデ、底部ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。明赤褐。
37住-6 (図版91)	杯 須恵器	南壁際中央床 上2cm。ほぼ 完形。	(4.0)(12.6)(6.9)	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。還元。外面灰。内面灰白。
37住-7	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.3)(13.5)(7.0)	外面；口縁部～体部回転横ナデ、底部回転糸切り。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。還元。灰。
37住-8	杯 須恵器	カマド内床直 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.3)(13.0)(6.9)	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。外面に自然釉付着。
37住-9	杯 須恵器	中央西寄床上 3cm。口縁部 ～底部。	(3.2)(13)( )	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。還元。にぶい黄。
37住-10	椀 須恵器	中央南壁寄床 上7cm。口縁 部～底部。	(5.0)( )(6.6)	器壁の薄い高台丁寧に貼付。外面；口縁部～高台部は回転横ナデ、底部は回転へラ削り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鈳物粒を多量に含む。硬質。還元。灰。
37住-11 (図版91)	蓋 須恵器	南西隅床上19 cm。ほぼ完形。	(4.5)(17.0)(—) つまみ径、4.2cm。	中央に凹みをもつまみ。外面；天井部は回転へラ削り、口縁部は回転横ナデ。内面；天井部～口縁部は回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。硬質。還元。灰。
37住-12	蓋 須恵器	貯蔵穴南側床 上4.5cm。天井 部～口縁部。	(4.7)(16)(—)	中央に凹みをもつまみ。外面；天井部は回転へラ削り、口縁部は回転横ナデ。内面；天井部～口縁部は回転横ナデ。	鈳物粒を多量に含む。硬質。還元。灰白。
37住-13	杯 須恵器	貯蔵穴南隅床 上15cm。口縁 部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.1)(12)( )	底部中央が盛り上る。外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰。中心褐灰。
37住-14	甕 須恵器	覆土。頸部 ～胴部。	( )( )( )	均一した器壁。外面；頸部は回転横ナデ、胴部叩き目。内面；頸部は回転横ナデ、胴部並行叩き目。	鈳物粒を含む。硬質。還元。外面灰。内面灰白。釉は灰オリーブ。
37住-16	壺 須恵器	覆土。口縁部 ～頸部。	( )(16)( )	口唇部に稜をもつ。外面；口縁部～頸部回転横ナデ。内面；口縁部～頸部回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰。
37住-20	甕 土師器	貯蔵穴内床直。 口縁部～底 部。	( )(19)(5.0)	全体に器壁は薄手。弱い「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はへラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はへラナデ。	鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。明赤褐。外面に油煙付着。
37住-21	甕 土師器	カマド内他。 口縁部～胴 部。	( )(24)( )	外面；口縁部は横ナデ、胴部はへラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はへラナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい黄褐。内外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
37住-22	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( ) (20 ) ( )	「コ」の字状口縁。外面：口縁部は横ナデ、 胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、 胴部はヘラナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
38住-1	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。内外面に油煙付 着。
38住-3	甕 須恵器	北西部床上25 cm。胴部下端 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：胴部下端～底部は回転ヘラ削り。内 面：胴部下端～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。酸化。 明青灰。
38住-4	蓋 須恵器	覆土。天井部 ～口縁部。	( ) ( ) (—)	口縁部は屈曲し、外方へ下がる。内外面 共に天井部～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。酸化。 明青灰。
39住-1	甕 土師器	カマド内他。 胴部下半～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( 2.0)	輪積み。外面：胴部～底部はヘラ削り。内 面：胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸 化。にぶい赤褐。内外面に 多量の油煙付着。
39住-2	甕 土師器	カマド前床上 10cm他。口縁 部～胴部上 半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	大は径3～4mmの砂粒を含 む。比較的硬質。酸化。に ぶい橙。
39住-3	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴 部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面：口縁部～胴部上半は 横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
39住-4 (図版91)	杯 土師器	北西部床直。 完形。	( 3.7) (11.4) (—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に油煙付着。
39住-5	杯 土師器	北東部床直 他。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部は ヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
39住-6	杯 土師器	カマド前床上 5cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
39住-7	杯 土師器	カマド前床 直。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
39住-8	杯 土師器	カマド前床上 10cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11 ) ( )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
39住-10	蓋 須恵器	カマド前床上 5cm他。天井 部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( ) (—) つまみ径、2.9cm。	外面：天井部上半は回転ヘラ削り、天井部 下半は回転ナデ。内面：天井部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。酸化。 灰白。
40住-1 (図版91)	甕 土師器	北東部床上5 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(33.5) (22.0) ( 3.6)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁 部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
40住-2	甕 土師器	南東部床上10cm他。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部～胴部上端は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
40住-3 (図版91)	杯 土師器	南東部床直他。ほぼ完形。	(4.4)(13.0)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
40住-4 (図版91)	杯 土師器	北東部床上10cm。ほぼ完形。	(3.0)(10.0)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
40住-5	杯 土師器	北東部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.2)(11)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
40住-6	短頸壺 須恵器	南西部床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (8) ( ) 最大径は胴部上半、10cm。	口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転ナデ。内面：口縁部～胴部上半は回転ナデ、胴部下半はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
40住-11	甕 須恵器	南東部床直。	( ) ( ) ( )	内外面共に胴部は叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明オリブ灰。
41住-1 (図版92)	甕 土師器	カマド右袖に使用。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (23.5) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
41住-2 (図版92)	甕 土師器	カマド前床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(32.3)(22.1)(4.3)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
41住-3 (図版92)	甕 土師器	中央部床直。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22.3) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
41住-4	杯 土師器	中央部床上10cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.5)(12)(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
41住-5	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
41住-6	杯 土師器	南西部床上5cm。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
41住-9	蓋 須恵器	中央部床直。天井部。	( ) ( ) (—) つまみ径、3.8cm。	外面：天井部上半は回転ヘラ削り、天井部下半は回転ナデ。内面はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明オリブ灰。
41住-10	甕 須恵器	南東部床上20cm。胴部。	( ) ( ) ( )	内外面共に叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明青灰。
41住-11 (図版92)	甕 土師器	南東部床上5cm。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (23.7) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。浅黄橙。内外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
41住-12	甕 土師器	カマド内。口 縁部～胴部上 半残。	( ) (21.7) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
42住-1 (図版92)	甕 土師器	北東部床直。 口縁部～胴 部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (20.0) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい赤褐。内外面 に油煙付着。
42住-2	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴部 上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22.0) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明褐。
42住-3	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴部 上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面；口縁部～胴部上端 は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 赤橙。
42住-4 (図版92)	杯 土師器	貯藏穴内。完 形。	( 3.4) (11.6) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
42住-5 (図版92)	杯 土師器	南壁中央脇床 直。完形。	( 3.2) (10.6) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
42住-6 (図版92)	杯 土師器	南東部床直。 ほぼ完形。	( 3.6) (10.6) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
42住-7 (図版92)	杯 土師器	南東部床直。	( 3.8) (11.0) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
42住-8 (図版92)	杯 土師器	中央部床上10 cm他。ほぼ完 形。	( 3.3) (10.3) (—)	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
42住-9	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 3.3) (10.9) (—)	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
42住-10	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 3.4) (10.5) (—)	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。内外面に油煙付 着。
42住-11	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (10.3) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
42住-12	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～体 部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
42住-13 (図版92)	壺 土師器	南東部床直。 完形。	( 5.9) ( 7.4) (—)	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 多量の油煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
42住-14 (図版92)	杯 須恵器	南東部床直。 ほぼ完成。	( 3.9)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部～体部上半は回転ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は回転ナデ、底部ナデ。	鉾物粒を含む。比較的硬質。還元。青灰。
42住-15 (図版92)	杯 須恵器	北東部床直他。ほぼ完成。	( 3.7)(10.6)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部～体部上半は回転ナデ、体部下半～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は回転ナデ、底部ナデ。	鉾物粒を含む。硬質。還元。青灰。
42住-16	甕 須恵器	中央部床直。口縁部～胴部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；波状文後に放射状沈線。内外面共に口縁部は回転ナデ、胴部は叩き目。	鉾物粒を含む。硬質。還元。青灰。
42住-17 (図版92)	高杯 土師器	カマド前床直。柱部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (12.1)	巻き上げ、円形透し三ヶ所。外面；柱部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面；柱部はナデ、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
43住-1	甕 土師器	カマド前床上5cm。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (21) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
43住-2	甕 土師器	カマド前床直。口縁部～胴部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
43住-3	杯 土師器	南東部床上10cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
43住-4	杯 土師器	北西部床上5cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12.0) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
43住-5	杯 土師器	カマド内。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
43住-6	杯 土師器	北東部床直。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
43住-7	蓋 須恵器	カマド内。天井部～口縁部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( ) (—)	天井部下半～下端に沈線2条。内外面共に天井部～口縁部は回転ナデ。	鉾物粒を含む。硬質。還元。灰白。
43住-9	台付甕 土師器	カマド前床上15cm。口縁部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	(16.6)(12 ) (10.0) 最大径は胴部中央、14.5cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～柱部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
44住-1	甕 土師器	覆土。胴部下端～底部。	( ) ( ) ( 5.0)	外面；胴部下端～底部はヘラ削り。内面；胴部下端～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
44住-2	甕 土師器	覆土。口縁部。	( ) ( ) ( )	内外面共に口縁部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。



第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
45住-1 (図版92)	甕 土師器	カマド左袖に 使用他。口縁 部～胴部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (19.2) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。
45住-2	杯 土師器	南東部床直 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13.4) (—)	外面に稜。内面口縁端部に沈線。外面；口 縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内 面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
45住-3	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は へら削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
45住-4	杯 土師器	南東部床上30 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は へら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
46住-1	甕 土師器	カマド内他。 口縁部～胴 部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
47住-1	小型甕 土師器	北西部床直。 口縁部～胴 部。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。外面；口縁部は横ナデ、 胴部はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、 胴部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
47住-2	小型甕 土師器	北東部床上10 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、 胴部はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、 胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
47住-3	杯 土師器	南西部床上20 cm他。口縁部 ～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 3.5) (12.6) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
47住-4	杯 土師器	中央部床上5 cm他。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は へら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
47住-5	杯 土師器	南東部床上5 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は へら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
47住-6	杯 土師器	南西部床上20 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は へら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
47住-7	杯 土師器	北西部床上20 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
48住-1	甕 土師器	南西部床直。 胴部下端～底 部。	( ) ( ) ( 7.5)	外面；胴部下端～底部はへら削り。内面； 口縁部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
48住-2	甕 土師器	南西部床直。 口縁部～胴部 上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
49住-1	杯 土師器	南東部床直 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	(5.8)(19)(—)	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ 削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部 はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
49住-2	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.5)(12.8)(—)	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ 削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部 はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
49住-3	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( )( )(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
49住-4	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( )(10)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。内面に油煙付着。
49住-5	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～体 部。	( )( )(—)	外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。 内面；口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗 文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
50住-1	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( )( )( )	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
50住-4	甕 土師器	カマド前床 直。胴部。	( )( )( )	外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸 化。橙。
51住-1 (図版93)	甕 土師器	カマド前床上 5cm他。口縁 部～胴部 $\frac{1}{3}$ 残。	( )(20)( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
51住-2	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴 部上端。	( )( )( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-3	小型甕 土師器	カマド左袖脇 床上20cm。口 縁部～胴部 $\frac{1}{3}$ 残。	( )(10)( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴 部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-4 (図版93)	杯 土師器	北壁中央脇床 直。完形。	(3.6)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
51住-5 (図版93)	杯 土師器	北西隅床上10 cm。ほぼ完形。	(3.5)(11.4)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
51住-6 (図版93)	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{3}$ 残。	(3.2)(11.4)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-7	杯 土師器	南東部床上10 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(3.1)(11.4)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
51住-8	杯 土師器	南壁中央脇床 上10cm。口縁 部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.3)(11.1)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～ 底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-9	杯 土師器	北西部床上15 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.4)(11.6)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内面に油煙付着。
51住-10	杯 土師器	北西部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-11	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.5)(12.6)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内面に油 煙付着。
51住-12	杯 土師器	北西部床上20 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-13	杯 土師器	北西隅床上20 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～ 底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-14	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～体 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部は ヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
51住-15	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
51住-16	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (18 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
51住-18	蓋 須恵器	南西部床上20 cm。天井部 ～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.7)(11.2)(—)	天井部と口縁部の間に沈線1条。外面；天 井部は回転ヘラ削り、天井部下半～口縁部 は回転ナデ。内面；天井部上半はナデ、天 井部下半～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
52住-2	甕 土師器	北西部床直 他。胴部。	( ) ( ) ( )	外面；胴部はヘラ削り。内面；胴部はヘラ ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
52住-4 (図版93)	杯 土師器	中央部床上5 cm。完形。	( 4.3)(12.6)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
52住-5	杯 土師器	北西部床上5 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体 部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。外面に油煙付着。
52住-6	杯 土師器	カマド内他。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.3)(10 ) (—)	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
52住-9	高杯 土師器	北東部床土10cm。底部～柱部。	( ) ( ) ( )	外面：底部～柱部はヘラ削り後にナデ。内面：底部はナデ、柱部下半は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
52住-10	蓋 須恵器	北東部床土10cm。天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.1)(11.0)(—)	外面：天井部上半は回転ヘラ削り、天井部下半～口縁部は回転ナデ。内面：天井部～口縁部は回転ナデ。	鉾物粒を含む。硬質。還元。青灰。
53住-1 (図版93)	甕 土師器	北東部床直。ほぼ完形。	(35.5)(22.4)(3.4)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-2 (図版93)	甕 土師器	北東部床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(34.0)(21.4)(5.0)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
53住-3 (図版93)	甕 土師器	北東部床直。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22.8) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-4 (図版93)	甕 土師器	北東部床直。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (23.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-5	小型甕 土師器	中央部床土5cm他。口縁部～胴部上端残。	( ) (10.8) ( )	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-6 (図版93)	杯 土師器	カマド前床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(3.4)(10.4)(—)	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-7	杯 土師器	北東部床土10cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
53住-8	杯 土師器	北東部床土15cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-9	杯 土師器	北東部床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部はナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-10	杯 土師器	北東部床土20cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-11	杯 土師器	北西部床土15cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.6)(12 ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-12	杯 土師器	北東部床土30cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.1)(13 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
53住-13	杯 土師器	カマド前床上 10cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-14	杯 土師器	南西部床上5 cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-15	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
53住-16	杯 土師器	北東部床上25 cm。口縁部 ～体部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
53住-20	蓋 須恵器	カマド左袖 下。天井部 ～口縁部。	( ) ( ) (—)	口縁端部1cmにかえり。外面；天井部は回転ヘラ削り、口縁部は回転横ナデ。内面；天井部～口縁部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。青灰。
53住-21	甕 須恵器	北東部床上10 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は回転ナデ、胴部は叩き目。内面；口縁部は回転ナデ、胴部は叩き目。	鉱物粒を含む。硬質。還元。灰褐。
53住-22	小型甕 土師器	南東部床上5 cm。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-23	杯 土師器	南東部床上20 cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
53住-28 (図版93)	甕 須恵器	南東部床直。 胴部～底部 %残。	( ) ( ) ( )	外面；胴部は叩き目、底部は叩き目後にナデ。内面；胴部～底部は叩き目。	鉱物粒を含む。硬質。還元。青灰。
53住-29	短頸壺 須恵器	南西隅床上10 cm。肩部～底 部%残。	( ) ( ) ( 6.5)	丸底に近い。外面；肩部～胴部は回転ナデ、胴部下端～底部はヘラ削り。内面；肩部～底部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。灰白。
53住-30 (図版93)	杯 土師器	北東部床直。 ほぼ完形。	( 5.4) ( 15.6) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
54住-1	甕 土師器	中央部床直。 胴部下半～底 部。	( ) ( ) ( 5.5)	輪積み。外面；胴部下半～底部はヘラ削り。内面；胴部下半～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
54住-2	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴部 上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい褐。内面に油煙付着。
54住-3 (図版94)	杯 土師器	南部床直。完 形。	( 3.7) ( 11.6) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
54住-4	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
55住-1	杯 土師器	南東部床上15 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.5)(10.6)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
55住-2	杯 土師器	南西部床上15 cm。口縁部 ～底部。	( 3.1)(12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
55住-3	杯 土師器	南東部床上20 cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
55住-4	甕 土師器	南西部床上25 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) (—)	輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
56住-1	甕 土師器	北西部床上10 cm他。口縁部 ～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に多量の油煙付着。
56住-2	甕 土師器	北西部床上10 cm他。口縁部 ～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。
56住-3	甕 土師器	北東部床上15 cm他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (20.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に多量の油煙付着。
56住-4	甕 土師器	北東部床上20 cm。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
56住-5	小型甕 土師器	北東部床上25 cm。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	外面に段。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
57住-1 (図版94)	甕 土師器	南東部床直。 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (23.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
57住-2 (図版94)	甕 土師器	南東部床上5 cm。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19.6) ( ) 最大径は胴部中央、 33.7cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後にヘラ磨き。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
57住-3	甕 土師器	南西部床直 他。口縁部 ～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
57住-5	壺 土師器	北東部床上20cm他。口縁部～胴部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (19) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径5～6mmの小石・砂粒を含む。やや軟質。酸化。にぶい橙。内面に多量油煙。
57住-6	壺 土師器	南東部床直。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (20) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に多量の油煙付着。
57住-8	壺 土師器	中央部床上5cm。口縁部～胴部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい褐。外面に油煙付着。
57住-9	台付壺 土師器	カマド内。胴部～脚部上端 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) ( ) ( )	外面：胴部～脚部はヘラ削り。内面：胴部～底部はナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸化。にぶい橙。
57住-10 (図版94)	杯 土師器	カマド前床直。完形。	(3.8)(12.5)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
57住-11 (図版94)	杯 土師器	南東部床直他。ほぼ完形。	(4.2)(11.4)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
57住-12	杯 土師器	南東部床上30cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
57住-13	杯 土師器	中央部床上10cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
57住-14	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-3 (図版94)	壺 土師器	カマド左袖に使用。底部欠。	( ) (20.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。外面に油煙付着。
58住-4 (図版94)	壺 土師器	カマド右袖に使用。底部欠。	( ) (19.9) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径4～5mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。外面に油煙付着。
58住-5 (図版94)	壺 土師器	北東部床直他。底部欠。	( ) (21.6) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
58住-6 (図版94)	壺 土師器	中央部床直他。底部欠。	( ) (21.5) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
58住-7 (図版93)	壺 土師器	カマド前床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (20.1) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に多量の油煙付着。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
58住-8 (図版94)	甕 土師器	カマド内。底部欠。	( ) (14.4) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径4～5mmの砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい黄橙。内面に油煙付着。
58住-9	甕 土師器	貯蔵穴内他。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (21.9) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内面に油煙付着。
58住-10	甕 土師器	北東部床直他。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい黄橙。内外面に油煙付着。
58住-11	甕 土師器	カマド内他。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい褐。内外面に油煙付着。
58住-12 (図版94)	甕 土師器	カマド前床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(16.5)(18.0)(6.5) 最大径は胴部中央、 19.8cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。外面に油煙付着。
58住-13	甕 土師器	貯蔵穴内他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (24 ) ( )	口縁部はやや外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい黄橙。外面に油煙付着。
58住-14 (図版94)	杯 土師器	カマド前床直。完形。	(3.8)(11.0)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-15	杯 土師器	中央部床直。口縁部～底部 $\frac{2}{3}$ 残。	(4.1)(11.1)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-16	杯 土師器	中央部床上5cm他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (13 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-17	杯 土師器	覆土。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-18	杯 土師器	北東部床上5cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.1)(12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-19	杯 土師器	北東部床上25cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-20	杯 土師器	中央部床直他。口縁部～底部。	(3.6)( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-21	杯 土師器	北西隅床直。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。



## 第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
58住-22	杯 土師器	中央部床上10cm。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-23	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。黒褐。
58住-24	杯 土師器	南東隅床上20cm。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
58住-25 (図版94)	杯 須恵器	東壁中央脇床上20cm。ほぼ完形。	( 3.7)(11.8)(—)	口縁部はやや内傾し、受けは水平に近い。外面：口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ削り。内面：口縁部～底部回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。青灰。
58住-26 (図版94)	蓋 須恵器	南壁中央脇床直。ほぼ完形。	( 5.3)(16.0)(—) つまみ径、2.7cm。	天井部下端に沈線1条。外面：天井部上半は回転ヘラ削り。天井部下半～口縁部は回転ナデ。内面：天井部上半はナデ、天井部下半～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明青灰。
58住-27	蓋 須恵器	カマド内。天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16 ) (—)	天井部下端に沈線1条。外面：天井部上半は回転ヘラ削り、天井部下半～口縁部は回転ナデ。内面：天井部上半はナデ、天井部下半～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
58住-28	蓋 須恵器	北西部床直。天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.0)(14 ) (—)	外面：天井部は回転ヘラ削り、口縁部は回転ナデ。内面：天井部上半はナデ、天井部下半～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
58住-31	甕 須恵器	中央部床直。胴部。	( ) ( ) ( )	内外面共に叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
59住-1	甕 土師器	カマド内床上2cm他。口縁部～胴部。	( ) (20.0)( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部ヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部ヘラナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
59住-2	小型甕 土師器	カマド前床直。口縁部～胴部。	( ) (13.4)( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。におい赤褐。内外面に油煙付着。
59住-3	甕 土師器	カマド内床直。口縁部～胴部。	( ) (22 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。器壁は薄手。口唇部に沈線有。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。におい橙。
59住-5	杯 土師器	貯藏穴内床上20cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.6)(12.0)(—)	外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。外面におい黄橙。内面におい橙。
59住-7	椀 須恵器	中央北寄。体部～底部。	( ) ( ) (12.7)	薄く長い高台丁寧に貼付。外面：体部は回転横ナデ、底部回転糸切り後に回転ヘラ削り、高台部は回転横ナデ。内面：体部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。
59住-8	杯 須恵器	北壁寄中央床上16cm。体部～底部。	( ) ( ) ( 8.0)	外面：体部は回転横ナデ、底部は回転ヘラ削り。内面：体部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
59住-9	蓋 須恵器	覆土。つまみ部。	( ) ( ) (—)	中央が僅かに凹むつまみ。外面；つまみ部は回転横ナデ。内面；天井部は回転横ナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。還元。外面灰褐色。内面灰黄褐色。
59住-10 (図版95)	杯 土師器	南壁中央床上2cm。体部～底部。	( ) ( ) ( )	底部外面に墨書「[上]」の文字あり。外面；体部はヘラ削り、底部はヘラ削り。内面；体部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。硬質。酸化。橙。墨書。
60住-1 (図版95)	甕 土師器	中央部床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(33.3)(22.0)(7.8) 最大径は胴部中央、28.1cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。浅黄橙。外面に油煙付着。
60住-2 (図版96)	甕 土師器	カマド前床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19.7) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。浅黄橙。内外面に油煙付着。
60住-3	甕 土師器	南西部床上10cm他。口縁部～胴部上端残。	( ) (19.2) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
60住-4	甕 土師器	南西部床直。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径3～4mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。外面に油煙付着。
60住-5 (図版96)	壺 土師器	南西部床直。完形。	(10.4)(10.4)(—) 最大径は胴部中央、12.0cm。	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部上端はハケ目後にヘラナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面に多量の油煙付着。
60住-7 (図版95)	杯 土師器	南東部床直。完形。	(4.7)(10.9)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
60住-8 (図版95)	杯 土師器	南東部床直。完形。	(4.2)(12.8)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
60住-9 (図版96)	杯 土師器	中央部床上5cm。ほぼ完形。	(5.1)(14.2)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
60住-10 (図版95)	杯 土師器	南東部床上5cm。完形。	(4.4)(12.1)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
60住-11 (図版95)	杯 土師器	南西部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.0)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
60住-12 (図版95)	杯 土師器	南西部床直他。ほぼ完形。	(4.9)(13.4)(—)	外面に稜。口縁部は内傾し、端部内面に沈線1条。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙・黒褐色。内外面に油煙付着。
60住-13 (図版95)	杯 土師器	南東部床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.4)(13.1)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙・褐色。内外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
60住-14 (図版95)	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底部 1/2残。	(4.2)(12.7)(—)	外面に稜。口縁部は内傾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
60住-15 (図版95)	杯 土師器	南西部床上5 cm。完形。	(4.5)(12.8)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明黄褐。
60住-16 (図版95)	杯 土師器	北東部床直。 口縁部～底部 1/2残。	(4.3)(12.2)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り後にヘラ磨き。内面；口縁部はナデ、体部～底部はナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。灰褐・黒褐。内外面に油煙付着。
60住-17 (図版95)	杯 土師器	南西部床上10 cm他。口縁部 ～体部残。	( ) (12.2) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
60住-18	杯 土師器	南西部床上10 cm。口縁部 ～底部1/2残。	(4.1)(12.6)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
60住-19	杯 土師器	北東隅床上15 cm他。口縁部 ～体部1/2残。	( ) (14 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
60住-20	杯 土師器	北東隅床直。 口縁部～底部 1/2残。	( ) (13 ) (—)	外面に稜。口縁部は内傾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。褐灰。内外面に油煙付着。
60住-21	椀 土師器	貯蔵穴内。口 縁部～体部。	( ) (20 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
60住-23	高杯 土師器	南西部床直。 口縁部～柱部 残。	( ) (14.3) ( )	杯部外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～柱部はヘラ削り。内面；口縁部～底部は全面にヘラ磨き、柱部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。明褐灰。内外面に油煙付着。
61住-1	甕 土師器	カマド内床直。 口縁部～胴部。	( ) (18 ) ( )	口縁部に1条沈線。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
61住-2	台付甕 土師器	カマド内床上 3cm。口縁部 ～胴部。	( ) (12 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
61住-3	台付甕 土師器	カマド内床直 他。胴部～台 部。	( ) ( ) ( )	外面；胴部はヘラ削り、台部は横ナデ。内面；胴部はヘラナデ、台部は横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
61住-4 (図版96)	杯 須恵器	南側ピット内 床上7cm。ほ ぼ完形。	(4.3)(13.2)(5.8)	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。酸化。外面にぶい黄橙。内面黒。内面に多量の油煙付着。
61住-5	椀 須恵器	カマド内床上 3cm。口縁部 ～体部。	( ) (15 ) ( )	外面；口縁部～体部は回転横ナデ。内面；口縁部～体部は回転横ナデ。	砂粒・鈳物粒を含む。やや硬質。還元。外面灰白。内面灰。

第三章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
61住-6	椀 須恵器	カマド内床直。体部～底部。	( ) ( ) ( 7.0)	短く厚い高台雑に貼付。外面；体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り、高台部は回転横ナデ。内面；体部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鉱物粒を含む。やや硬質。還元。灰黄。
62住-1	甕 土師器	南東隅床上20cm他。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22 ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい褐。外面に油煙付着。
62住-2	甕 土師器	北西部床直。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (23 ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
62住-4	甕 土師器	北西部床直。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
62住-5 ・6	甕 土師器	カマド前床直他。胴部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) ( ) ( )	輪積み。外面；胴部～底部はヘラ削り。内面；胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい赤褐。
62住-7	甕 土師器	南東部床上30cm他。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。
62住-8 (図版96)	壺 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( 5.8 ) ( 7.0 ) ( 3.4 )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～胴部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
62住-9 (図版96)	杯 土師器	中央部床上10cm他。完形。	( 3.8 ) ( 12.0 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
62住-10 (図版96)	杯 土師器	南西隅床直。完形。	( 3.4 ) ( 10.0 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
62住-11 (図版96)	杯 土師器	南西部床上5cm。ほぼ完形。	( 3.6 ) ( 10.2 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
62住-12	杯 土師器	中央部床上30cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.4 ) ( 10.9 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
62住-13	杯 土師器	南西部床上20cm他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 12.5 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
62住-14	杯 土師器	中央部床上30cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) ( 12.5 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
62住-15	杯 土師器	中央部床上25cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( 12 ) ( — )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～底部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
62住-16	杯 土師器	南東部床直他。口縁部～体部残。	( ) (19 ) (—)	口縁部は内湾。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
62住-17	杯 須恵器	中央部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 2.9 ) ( 8.3 ) ( 4.3 )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、底部はヘラナデ。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
62住-18	杯 須恵器	カマド前床上5cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.2 ) ( 10 ) ( 6.0 )	外面：口縁部～体部上半は回転ナデ、体部下半はヘラ削り、底部はヘラナデ。内面：口縁部～体部は回転ナデ、底部はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。緑灰。
62住-19	杯 須恵器	カマド前床上50cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 2.8 ) ( 11 ) ( 6.0 )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、底部はヘラナデ。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
62住-20	杯 須恵器	中央部床上30cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.2 ) ( 12 ) ( 8.0 )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下端～底部はヘラ削り。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明青灰。
62住-21	杯 須恵器	中央部床上15cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 10 ) ( 6.0 )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、底部はヘラナデ。内面：口縁部～体部は回転ナデ、底部はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。オリーブ灰。
62住-22	杯 須恵器	中央部床上50cm他。体部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( 6.0 )	外面：体部は回転ナデ、体部下端～底部はヘラ削り。内面：体部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。
62住-24	杯 須恵器	カマド前床上40cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.5 ) ( 18 ) ( 14.5 )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下端は回転ヘラ削り、底部は回転ヘラナデ後に付け高台。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
62住-26	蓋 須恵器	中央部床上50cm他。天井部～口縁部。	( 2.2 ) ( 18 ) (—) つまみ径、5.7cm。	天井部は平坦。天井部先端にかえり。かえり部上端に沈線1条。内外面共に回転ナデ。ガラス状の多量の付着物。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明オリーブ灰。外面に自然釉。
62住-27	皿 須恵器	カマド前床上40cm。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	口縁端部に沈線1条。外面：口縁部は回転ナデ、体部は回転ヘラ削り。内面：口縁部～体部は回転ナデ。	砂粒を含む。硬質。還元。灰白。
62住-28	短頸壺 須恵器	中央部床上50cm他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 8 ) ( ) 最大径は胴部中央、9.5cm。	口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部上半は回転ナデ、胴部下半はヘラ削り。内面：口縁部～胴部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。青灰。外面に自然釉。
62住-29	蓋 須恵器	中央部床上50cm他。天井部～口縁部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( 14 ) (—)	天井部先端に短いかえり。外面：天井部は回転ヘラ削り、天井部下端～口縁部は回転ナデ。内面：天井部～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。明青灰。
62住-30	蓋 須恵器	中央部床上50cm。天井部～口縁部。	( ) ( ) (—)	天井部先端に短いかえり。外面：天井部上半は回転ヘラ削り、天井部下半～口縁部は回転ナデ。内面：天井部～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。オリーブ灰。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
62住-31	高杯 須恵器	南東部床上50cm。底部～柱部。	( ) ( ) ( )	内外面共に底部～柱部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。青灰。
62住-33	甕 須恵器	カマド前床直他。胴部。	( ) ( ) ( )	内外面共に胴部は叩き目。	鈳物粒を含む。軟質。還元。褐灰。還元が不十分。
64住-2 (図版96)	甕 土師器	北西部床直。底部欠。	( ) (18.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。やや軟質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
64住-3 (図版96)	甕 土師器	北西部床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (20.4) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
64住-4	甕 土師器	中央部床上10cm他。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (16.8) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
64住-5	甕 土師器	北東部床上5cm。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19 ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
64住-6 (図版96)	小型甕 土師器	中央部床上10cm他。底部欠。	( ) (12.6) ( )	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
64住-7 (図版96)	杯 土師器	中央部床上20cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (10.4) ( )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
64住-8 (図版96)	杯 土師器	覆土。口縁部一部欠。	( 4.4) (11.4) ( )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。褐灰。
64住-9	杯 土師器	中央部床上5cm他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14 ) ( )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ後にヘラ磨き。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。褐灰。
64住-10	壺 土師器	中央部床上20cm他。口縁部～胴部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
65住-1 (図版96)	壺 土師器	北東部床直。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11.6) ( )	口縁部はやや外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
65住-2 (図版96)	杯 土師器	南東部床直。ほぼ完形。	( 3.8) (10.9) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
65住-3	杯 土師器	カマド前床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
65住-5	小型甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。外面：口縁部は横ナデ、 胴部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、 胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
66住-1	甕 土師器	中央部床直。 口縁部～胴部 上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にふい橙。内外面に油煙付 着。
66住-2	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。外面：口縁 部は横ナデ、胴部はへら削り。内面：口縁 部は横ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にふい赤褐。
66住-3	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.7 ) ( 13 ) ( — )	口縁部はやや内湾。外面：口縁部～体部上 半は横ナデ、体部下半～底部はへら削り。 内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
66住-4	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 12.0 ) ( — )	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上半は 横ナデ、体部下半～底部はへら削り。内面： 口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にふい橙。内外面に 油煙付着。
66住-5	杯 土師器	カマド内他。 口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 11 ) ( — )	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部は横ナ デ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部 ～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にふい赤褐。内外面 に油煙付着。
66住-6	杯 土師器	南西部床直 他。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 15 ) ( — )	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横ナデ、 体部はへら削り。内面：口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に多量の油煙付着。
66住-7	杯 土師器	カマド内他。 口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 13 ) ( — )	口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横ナデ、 体部はへら削り。内面：口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。内外面に油煙付着。
66住-8	杯 須恵器	北東部床直 他。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下 端～底部はへら削り。内面：口縁部～底部 は回転ナデ。	鉱物粒を含む。やや軟質。 還元。灰白。
66住-9	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下 端はへら削り、底部はへらナデ。内面：口縁 部～底部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
66住-10	杯 須恵器	南西部床上10 cm。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下 端～底部は回転へら削り。内面：口縁部～底 部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰。
66住-11	杯 須恵器	南西部床上5 cm他。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	内外面共に口縁部～体部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
66住-12	皿 須恵器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	内外面共に口縁部～体部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰。
66住-13	蓋 須恵器	南西部床上10 cm他。	( ) ( ) ( — )	天井部先端に短いかえり。内外面共に天井 部～口縁部は回転ナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。 灰。
67住-1 (図版97)	甕 土師器	カマド内他。 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 35.9 ) ( 20 ) ( 4.0 )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部～底部はへら削り。内面：口縁 部は横ナデ、胴部～底部はへらナデ。	大は径4～5mmの砂粒を含 む。やや軟質。酸化。明赤 褐。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
67住-2	甕 土師器	カマド内他。 胴部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) ( ) ( 3.7 )	外面；口縁部～底部はヘラ削り。内面；胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
67住-3	甕 土師器	中央部床上30 cm。口縁部 ～胴部上端 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (21 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
67住-4	甕 土師器	カマド前床上 5 cm他。口縁部 ～胴部上 端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
67住-5	甕 土師器	北東部床直。 口縁部～胴部 上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
67住-6	甕 土師器	カマド内他。 口縁部～胴部 上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内面に油煙付着。
67住-7	甕 土師器	中央部床上50 cm。口縁部 ～胴部上半 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (21 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
67住-8	甕 土師器	中央部床上50 cm。口縁部 ～胴部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
67住-9	小型甕 土師器	カマド袖内。 口縁部～胴 部。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
67住-10	杯 土師器	カマド内。口 縁部～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
67住-11	杯 土師器	南西部床上15 cm他。口縁部 ～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 3.9 ) (12.0) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
67住-14	杯 土師器	中央部床上15 cm。口縁部 ～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( 4.0 ) (12 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
67住-15	杯 土師器	南西部床上15 cm。口縁部 ～底部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (12 ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
67住-16	短頸壺 須恵器	貯蔵穴内他。 口縁部～体 部 $\frac{3}{4}$ 残。	( ) (10 ) ( )	外面に稜。外面；口縁部は回転ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。



## 第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
67住-17	杯 須恵器	カマド前床上 5cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( ) ( )	受けは水平に近く、口縁部は内傾するが、 端部は外反。外面：口縁部～体部は回転ナ デ、底部は回転ヘラ削り。内面：口縁部～底 部は回転ナデ。	鈎物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
68住-1 (図版97)	甕 土師器	南東部床直。 底部欠。	( ) (21.4) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径4～5mmの砂粒を含 む。比較的硬質。酸化。に ぶい橙。
68住-2 (図版97)	甕 土師器	北東部床直。 底部欠。	( ) (20.3) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。外面に油煙付着。
68住-3 (図版97)	甕 土師器	北東柱穴内。 底部欠。	( ) (18.3) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
68住-4 (図版97)	甕 土師器	貯藏穴直上。 口縁部～胴 部 $\frac{2}{3}$ 残。	( ) (22.6) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。外面に多 量の油煙付着。
68住-5 (図版97)	甕 土師器	北西部床直 他。口縁部 ～胴部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (19.8) ( ) 最大径は胴部中央、 26.7cm。	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
68住-6 (図版97)	壺 土師器	北西部床直。 ほぼ完形。	(11.6) (10.4) (—) 最大径は胴部中央、 14.0cm。	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴 部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナ デ、胴部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内面に多量の油煙付着。
68住-7	甕 土師器	北西部床直 他。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴 部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-8	甕 土師器	北東部床上5 cm。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-9	甕 土師器	北西部床上15 cm。口縁部 ～体部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
68住-10	甕 土師器	北西部床上25 cm。口縁部 ～胴部上端 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (22 ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 淡橙。
68住-11	甕 土師器	北西部床直 他。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横 ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-13 (図版97)	杯 土師器	北西部床直 他。ほぼ完形。	( 6.2) (17.8) (—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-14 (図版97)	杯 土師器	南西部床直。 完形。	( 3.2) (11.4) (—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体 部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
68住-15 (図版97)	杯 土師器	中央部床土25 cm。ほぼ完形。	( 3.9)(11.6)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-16 (図版97)	杯 土師器	北西部床直。 ほぼ完形。	( 3.6)(11.4)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-17	杯 土師器	北西部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.1)(12.0)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-18	壺 土師器	中央部床直。 口縁部～体 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11) (—)	口縁部はやや外反。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、 体部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-19	台付甕 土師器	北西部床直。 口縁部～胴 部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) ( )	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、胴 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴 部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。明赤褐。内外面に油 煙付着。
68住-20	壺 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( ) ( ) (—)	口縁部下端に段。外面；口縁部は横ナデ、 胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、 胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-21	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 4.5)(13) (—)	口縁部はやや外反。外面；口縁部は横ナ デ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部 ～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-22	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-23	杯 土師器	貯蔵穴西脇床 直。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) (—)	口縁部はほぼ直立。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-24	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
68住-25	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (10) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は ～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-26	杯 土師器	北西部床直。 口縁部～体 部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に油煙付着。
68住-27	杯 土師器	カマド左袖脇 床上5cm。口 縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
68住-28	杯 土師器	カマド内。口 縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 淡橙。内外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
68住-29	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-30	杯 土師器	カマド内他。 口縁部～体 部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (14) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
68住-31	杯 須恵器	中央部床土20 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	(4.4) (13) (—)	口縁部はやや内傾。受け部はほぼ水平。外 面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転 ヘラ削り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
68住-33	甕 須恵器	南西部床直。 口縁部～胴 部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。外面口縁端部下に凸帯1条、 口縁部に波状文。内外面共に口縁部～胴部 は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
69住-1	甕 土師器	貯蔵穴内。口 縁部～胴部上 半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。内外面に油煙付着。
69住-2	甕 土師器	カマド内。口 縁部～胴部上 端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
69住-3	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
69住-4	甕 土師器	カマド内。口 縁部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反し、口縁端部は上方を向く。 内外面共に口縁部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。内外面に油煙付 着。
69住-5	甕 土師器	北西部床直。 口縁部。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。内外面共に口縁部は横 ナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含 む。硬質。酸化。にぶい赤 褐。内面に油煙付着。
69住-6 (図版97)	杯 土師器	北西部床直。 完形。	(3.1) (12.0) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
69住-7 (図版97)	杯 土師器	北壁中央脇床 直。ほぼ完形。	(3.7) (11.5) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
69住-8	杯 土師器	北西部床直。 口縁部～底 部 $\frac{1}{3}$ 残。	(4.0) (11.2) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
69住-9	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{3}$ 残。	( ) (12) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。
69住-10	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) (12) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
69住-11	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) (14) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に油煙付着。
69住-13	蓋 須恵器	南西部床上5 cm。天井部 ～口縁部。	( ) ( ) (—)	外面；天井部上半は回転へら削り、天井部 下半～口縁部は回転ナデ。内面；天井部 ～口縁部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
69住-15	杯 須恵器	南西部床直。 口縁部～底 部。	( ) ( ) (—)	口縁部は内傾。受け部はほぼ水平。外面； 口縁部～体部は横ナデ、底部は回転へら削 り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
69住-17	杯 土師器	南壁中央脇床 上10cm他。口 縁部～底部 残。	( 3.3) (11.7) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体 部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
69住-18 (図版97)	甕 土師器	カマド右袖に 使用他。口縁 部～底部 残。	(34.5)(22.0)( 4.9)	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部～底部はへら削り。内面；口縁 部は横ナデ、胴部～底部はへらナデ。	大は径3～4mmの砂粒を含 む。比較的硬質。酸化。橙。 内外面に多量の油煙付着。
69住-19	甕 土師器	北西部床直 他。胴部下半 ～底部 残。	( ) ( ) ( )	外面；胴部下半～底部はへら削り。内面； 胴部下半～底部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含 む。硬質。酸化。橙。
73住-1	甕 土師器	覆土。胴部。	( ) ( ) ( )	輪積み。外面；胴部はへら削り。内面；胴 部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。内面に油煙付着。
73住-2	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 残。	( ) (13) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
74住-1 (図版97)	甕 土師器	カマド前床直 他。ほぼ完形。	(31.8)(22.4)( 5.4)	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部～底部はへら削り。内面；口縁 部は横ナデ、体部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
74住-2	甕 土師器	北東部床上5 cm他。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
74住-3	甕 土師器	カマド内。胴 部下半～底 部 残。	( ) ( ) ( 6.0)	丸底に近い。輪積み。外面；胴部～底部は へら削り。内面；胴部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。橙。内外面に油煙付 着。
74住-4	甕 土師器	住居内床直 他。口縁部。	( ) ( ) ( )	口縁部に沈線1条。内外面共に口縁部は横 ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい黄橙。
74住-5	杯 土師器	カマド内他。 口縁部～底 部 残。	( ) (11.6) (—)	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら 削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部 はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
74住-6	杯 土師器	南東部床直。 口縁部～底 部 残。	( 3.5) (14) (—)	口縁部はやや内湾。外面；口縁部は横ナデ、 体部～底部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。内外面に 油煙付着。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
74住-7	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。外面；口縁部は横ナデ、 体部はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、 体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
74住-8	甕 須恵器	中央部床直。 口縁部～胴 部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (15 ) ( )	口縁端部は折り返し。外面；口縁部は回転 ナデ、胴部は叩き目。内面；口縁部は回転 ナデ、胴部は叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。内外面に自然釉。
74住-9	杯 須恵器	南壁中央脇床 上20cm。口縁 部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 4.2 ) (16 ) (10.2)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部はへ らナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 明青灰。
74住-10	杯 須恵器	北西部床上5 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 4.4 ) (15 ) (10.0)	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端 はへら削り、底部は回転へら切り後、へら ナデ。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
74住-11	杯 須恵器	南西部床上20 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.1 ) (14 ) (10.5)	外面体部下端に沈線1条。外面；口縁部 ～体部は回転ナデ、底部は回転へら切り後 にへらナデ。外面；口縁部～体部は回転ナ デ、底部はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 明青灰。
74住-12	杯 須恵器	南西部床上5 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 3.4 ) (12 ) ( 7.0 )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端 ～底部はへら削り。内面；口縁部～底部は 回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。摩滅が激しい。
75住-1	甕 土師器	南東隅。口縁 部～胴部上 端 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (14 ) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴 部はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、胴 部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい赤褐。内外面に油煙 付着。
75住-2	杯 土師器	中央部床直。 口縁部～体 部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。 内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。 酸化。にぶい橙。
75住-4 (図版98)	蓋 須恵器	北西部ピット 内。ほぼ完形。	( 3.4 ) (19.2) (—) つまみ径、2.7cm。	口縁部から1.3cmに短いかえり。外面；天井 部上半は回転へら削り、天井部下半～口縁 部は回転ナデ。内面；天井部～口縁部は回 転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
75住-5	皿 須恵器	中央部床上5 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( ) ( )	口縁部は内外面共に回転ナデ、体部～底部 は内外面共に摩滅が激しく、観察不能。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
75住-6	杯 須恵器	北西部床直。 口縁部～底 部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、体部下端 ～底部はへら削り。内面；口縁部～底部は 回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
76住-1 (図版98)	甕 土師器	カマド前床上 5cm他。口縁 部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	(13.6) (14.0) ( 5.3 ) 最大径は胴部上半、 15.8cm。	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部～底部はへら削り。内面；口縁 部は横ナデ、胴部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。外面に油煙付着。
76住-2	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横 ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横 ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい赤褐。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
76住-3	甕 土師器	覆土。口縁部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。内外面共に口縁部は回転ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
76住-5	杯 土師器	覆土。口縁部～底部残。	( ) ( ) (—)	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内面に油煙付着。
76住-6	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) (—)	口縁部は外反、外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
76住-7	杯 須恵器	中央部床土上5cm。口縁部～底部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部は横ナデ、体部下端～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
76住-8	杯 須恵器	南東部床土上20cm。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部は回転ナデ、底部は回転ヘラ削り。内面；口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。緑灰。
76住-12	杯 土師器	住居内床直。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
78住-1	甕 土師器	南東部床直。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
78住-2	甕 土師器	カマド前床直。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
78住-3	小型甕 土師器	カマド前床直。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (10.8) ( ) 最大径は胴部上半、12.2cm。	口縁部はやや外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
78住-4	台付甕 土師器	カマド左袖脇床直。胴部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (8.4)	外面；胴部～柱部上端はヘラ削り、柱部はヘラ削り後にナデ、裾部は横ナデ。内面；胴部～底部はヘラナデ、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。やや軟質。酸化。にぶい赤褐。内外面に油煙付着。
78住-5 (図版98)	高杯 須恵器	北東部床直。口縁部～柱部残。	( ) (11.6) ( )	外面；口縁部は回転ナデ、体部は回転ヘラ削り、底部～柱部は回転ナデ。内面；口縁部～体部は回転ナデ、底部はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
78住-6 (図版98)	蓋 須恵器	南東隅床直。天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.0) (12.0) (—)	天井部下端に沈線2条。外面；天井部はヘラ削り、天井部下端～底部は回転ナデ。内面；天井部～口縁部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。内外面に自然釉。
78住-8	高杯 須恵器	カマド左袖脇床直。柱部～裾部。	( ) ( ) ( )	柱部に細長い透し。外面；柱部～裾部は回転ナデ。内面；裾部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。酸化。灰白。
80住-1	甕 土師器	カマド右袖に使用。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (23.7) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。にぶい橙。内外面に油煙付着。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
80住-2 (図版98)	壺 土師器	カマド前床直。完形。	( 7.1)( 8.3)(—)	口縁部はやや内傾。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
80住-3	壺 土師器	覆土。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい赤褐。
80住-4 (図版98)	杯 土師器	南東部床上10cm。完形。	( 5.7)(12.5)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
80住-5 (図版98)	杯 土師器	カマド前床直。完形。	( 3.7)(11.2)(—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
80住-6 (図版98)	杯 土師器	カマド前床直。完形。	( 4.2)(11.7)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
80住-7 (図版98)	壺 須恵器	南西部床上5cm。ほぼ完形。	(11.2)( 9.9)(—)	胴部上端に沈線1条。外面：口縁部～肩部は回転ナデ、胴部上半は回転ヘラ削り、胴部下半～底部はカキ目。内面は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。
82住-1	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
82住-2	杯 土師器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面：口縁部～体部はナデ後にヘラ磨き。	砂粒を含む。硬質。酸化。黒褐。
82住-3	杯 須恵器	覆土。口縁部～体部。	( ) ( ) ( )	受け部は水平に近い。内外面共に口縁部～体部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。比較的硬質。還元。にぶい黄橙。
83住-1 (図版98)	台付壺 土師器	中央部床直。口縁部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	(13.7)(11.4)( 9.5)	口縁部は外反。外面：口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
83住-3 (図版98)	杯 須恵器	北西隅床上10cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.0)(11.5)( 8.0)	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下端はヘラ削り、底部は回転ヘラ切り後にヘラ削り。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
83住-4	杯 須恵器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.6)(11 ) ( 7.0)	外面：口縁部～体部は回転ナデ、体部下端はヘラ削り、底部はヘラナデ。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
83住-6	壺 須恵器	北東部床上5cm。胴部。	( ) ( ) ( )	内外面共に胴部は叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。青灰。
83住-7	壺 須恵器	南西部床直。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (20 ) ( )	外面口縁端部下に凸帯1条。外面：口縁部～肩部は回転ナデ、胴部はナデ。内面：口縁部～頸部は回転ナデ、胴部は叩き目。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。口縁部内外面に自然釉。

第III章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
85住-1	壺 土師器	北東部床上15cm。胴部下端～底部。	( ) ( ) ( 6.4 )	外面；胴部下端～底部はヘラ削り。内面；胴部下端～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
85住-2	壺 土師器	北東部床上15cm。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部下端に段。口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部～胴部上半は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
85住-3 (図版98)	杯 土師器	カマド左袖脇床上10cm。ほぼ完形。	( 4.4 ) ( 12.8 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
85住-4 (図版98)	杯 土師器	中央部床直。ほぼ完形。	( 4.6 ) ( 12.0 ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
85住-5 (図版98)	杯 土師器	北西部床直他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 11.5 ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
85住-6 (図版98)	杯 土師器	カマド前床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.6 ) ( 12.9 ) ( — )	外面に稜。口縁端部に沈線。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
85住-7 (図版98)	杯 土師器	中央部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.3 ) ( 12.7 ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
85住-8 (図版98)	杯 土師器	北西隅床直他。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.2 ) ( 12.3 ) ( — )	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
85住-9	杯 土師器	中央部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.6 ) ( 12 ) ( — )	外面に稜。口縁部は内傾。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。焼成後内外面に燻し。
85住-10	杯 土師器	南東部床直。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 12.0 ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
85住-11	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 4.3 ) ( 13 ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
85住-12	杯 土師器	南東部床上10cm他。口縁部～体部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( 14 ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部上端は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
85住-13	杯 土師器	覆土。口縁部～底部 $\frac{1}{4}$ 残。	( 3.9 ) ( 12 ) ( — )	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
85住-14	杯 土師器	北東部床上15cm。口縁部～体部。	( ) ( ) ( — )	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。



第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
85住-15	杯 土師器	中央部床直他。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12.1) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
85住-16	杯 土師器	カマド左袖脇床上20cm。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11) (—)	外面に稜。口縁部は内傾。外面；口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
85住-17 (図版99)	高杯 土師器	南東部床直。口縁部一部欠。	( 6.2) (13.3) ( 8.8)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～柱部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面；口縁部はヘラ磨き、体部～底部はナデ後にヘラ磨き、裾部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。灰黄褐。焼成後に焼き。
86住-4	椀 土師質	中央南寄床上5cm。口縁部～体部。	( ) (14) (—)	器壁は薄手。外面；口縁部～体部は回転横ナデ。内面；口縁部～体部は回転横ナデ後に磨き。	鉍物粒を含む。硬質。酸化。外面浅黄橙。内黒。
86住-5	杯 土師器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( )	器壁は薄手。外面；口縁部横ナデ。体部～底部ヘラ削り。内面；口縁部～底部横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい橙。
86住-6	甕 須恵器	覆土。胴部。	( ) ( ) ( )	胴部に接合痕ハッキリと残る。外面；胴部は叩き目。内面；胴部は叩き目。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。還元。外面灰。内面灰白。
86住-7	杯 須恵器	覆土。体部～底部。	( ) ( ) ( )	外面；胴部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面；体部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。
86住-8	蓋 須恵器	覆土。天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (14) (—)	天井部厚く、口縁部薄手の器壁。つまみ部取れ。外面；天井部は回転ヘラ削り、口縁部は回転横ナデ。内面；天井部～口縁部は回転横ナデ。	砂粒を多量に含む。硬質。還元。灰。
87住-1	甕 土師器	南東部床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
87住-2	甕 土師器	カマド前床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (22.0) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
87住-3	甕 土師器	カマド前床直。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (19) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
87住-4	甕 土師器	カマド内他。口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (26) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
87住-5	甕 土師器	カマド内。口縁部～胴部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面に油煙付着。
87住-6	壺 土師器	カマド内。口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11) ( )	口縁部は外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。

第Ⅲ章 三ツ寺Ⅲ遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法量 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
87住-7	壺 土師器	中央部床土10cm。口縁部～胴部上端。	( ) ( ) ( )	口縁部はやや外反。外面；口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
87住-8	杯 土師器	南東部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11.2) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に共に燻し。
87住-9	杯 土師器	中央部床直。口縁部～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。赤橙。
87住-10	杯 土師器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
87住-11	杯 土師器	覆土。口縁部～体部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (11 ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
87住-12	杯 土師器	南東部床直。口縁部～底部。	( ) ( ) (—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
87住-13	蓋 須恵器	南西部床直。天井部下半～口縁部 $\frac{1}{4}$ 残。	( ) (12 ) (—)	口縁部上端に沈線1条。外面；天井部は回転へら削り、天井部下端～口縁部は回転ナデ。内面；天井部下半～口縁部は回転ナデ。	鈳物粒を含む。硬質。還元。灰白。
88住-1 (図版99)	台付壺 土師器	北西部床直。口縁部～裾部 $\frac{1}{2}$ 残。	(14.6) (11.7) (11.6) 最大径は胴部上半、16.1cm。	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、胴部～柱部はへら削り、裾部は横ナデ。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内面は焼成後に燻し。
88住-3 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.7) (11.1) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-4 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.3) (11.9) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-5 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.8) (12.8) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-6 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.0) (11.0) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-7 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.5) (10.6) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-8 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.1) (11.7) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
88住-9 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇 床直。完形。	( 3.8)(11.1)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。浅黄橙。内面は焼成後に燻し。
88住-10 (図版99)	杯 土師器	カマド左袖脇 床直。完形。	( 3.8)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
88住-11 (図版99)	杯 土師器	南西部床直。 完形。	( 3.8)(10.7)(—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-12 (図版99)	杯 土師器	南東部床直。 ほぼ完形。	( 3.8)(10.7)(—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-13 (図版99)	杯 土師器	北西部床直。 ほぼ完形。	( 4.3)(11.5)(—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。
88住-14 (図版99)	杯 土師器	南東部床直。 ほぼ完形。	( 4.3)(12.1)(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
88住-15	杯 土師器	北東隅床直 他。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12.5)(—)	外面に不明瞭な稜。外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
88住-16	甕 須恵器	南東隅床直。 胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )( )	外面：胴部上半は叩き後に回転ナデ、胴部下半～底部は叩き目。内面：胴部上半は叩き後に回転ナデ、胴部下半～底部は叩き後にナデ。	鉱物粒を含む。硬質。還元。灰白。
90住-2	甕 土師器	貯蔵穴内他。 胴部下半～底 部。	( )( )( 7.5)	外面：胴部下半～底部はへら削り。内面：胴部下半～底部はハケ目。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。
90住-3 (図版99)	高杯 土師器	カマド内。ほ ぼ完形。	( 9.1)(13.6)(10.2)	口縁部は外折、内面に稜。外面：口縁部～体部上端は横ナデ、体部はへら削り、柱部～裾部は横ナデ。内面：口縁部は横ナデ、体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙附着。
90住-6	杯 土師器	カマド内。口 縁部～体部。	( )( )(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。外面に油煙附着。
90住-7	杯 土師器	南西部床上20 cm。体部。	( )( )(—)	外面：体部はへら削り。内面：体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。内面は燻し。
90住-8	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( )( )(—)	口縁部は内湾。外面：口縁部～体部上端は横ナデ、体部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ後に放射状暗文。	砂粒を含む。硬質。酸化。明赤褐。
90住-9	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(11 )(—)	外面に稜。外面：口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。内外面に燻し。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
90住-13	杯 土師器	南西部床上15 cm。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) (—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
91住-1	甕 土師器	中央部床上10 cm。口縁部 ～胴部上半。	( ) ( ) ( )	口縁部は「く」の字状に外反。輪積み。外 面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内 面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。外面に油煙付着。
91住-2	甕 土師器	カマド左袖脇 床上10cm。口 縁部～胴部。	( ) ( ) ( )	口縁部は外反し、段を有す。輪積み。外面； 口縁部～胴部上端は横ナデ。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 赤橙。内外面に油煙付着。
91住-3	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 2.5)(10.5)(—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 にぶい橙。
91住-4	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (11 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部 は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
91住-6	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) (12 ) (—)	口縁部は内湾。外面；口縁部は横ナデ、体 部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナ デ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。内外面に油煙付着。
91住-11	長頸壺 須恵器	覆土。肩部 ～胴部。	( ) ( ) ( )	肩部・胴部上半に沈線各1条。内外面共に 肩部～胴部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 青灰。
91住-13	壺 須恵器	覆土。胴部下 端～底部。	( ) ( ) ( )	外面；胴部下端はヘラ削り、底部はヘラナ デ。内面；胴部下端～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
92住-1 (図版100)	甕 土師器	カマド内床 直。口縁部 ～胴部。	( ) (19 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや 硬質。酸化。橙。内外面に 油煙付着。
92住-2	甕 土師器	カマド内床上 8cm。口縁部 ～胴部。	( ) (20 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや 硬質。酸化。にぶい赤褐。 内外面に油煙付着。
92住-3	甕 土師器	カマド内床 直。口縁部 ～胴部。	( ) (20 ) ( )	「コ」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はヘラナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや 硬質。酸化。明赤褐。
92住-10	杯 須恵器	西南隅床直。 体部～底部。	( ) ( ) ( 7.0)	外面；体部は回転横ナデ、底部は回転糸切 り。内面；体部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。 還元。浅黄橙。
92住-11 (図版99)	杯 須恵器	中央南寄床上 6cm。ほぼ完 形。	( 3.5)(12.6)( 6.5)	外面；口縁部～体部は回転横ナデ、底部は 回転糸切り。内面；口縁部～底部は回転横 ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。 還元。灰。
92住-12	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) (12 ) ( )	外面；口縁部～体部回転横ナデ、底部回転 糸切り。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。 還元。灰白。
92住-13	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面；口縁部～体部回転横ナデ、底部回転 糸切り。内面；口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒を多量に含む。やや硬 質。還元。灰白。

第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
92住-14	杯 須恵器	覆土。体部 ～底部。	( ) ( ) ( 8.0)	外面：体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面：体部～底部は回転横ナデ。	砂粒を多量に含む。やや硬質。還元。外面灰。内面灰白。
92住-15	蓋 須恵器	覆土。口縁部。	( ) ( ) (—)	外面：口縁部は回転横ナデ。内面：口縁部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。
92住-16 (図版99)	杯 須恵器	北壁西寄床 上2cm。ほぼ 完形。	( 3.5)(12.4)( 6.5)	外面：口縁部～体部は回転横ナデ、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。還元。外面灰白。内面灰黄褐。
93住-1	甕 土師器	覆土。口縁部 下端～胴部 下端。	( ) ( ) ( )	輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面：胴部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
93住-3	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部は横ナデ、体部はへら削り。内面：口縁部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
93住-5	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部～体部は回転ナデ、底部はへらナデ。内面：口縁部～底部は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
93住-6	蓋 須恵器	覆土。天井部 ～口縁部。	( ) ( ) (—)	口縁部から1cmに短いかえり。外面：天井部上半は回転へら削り、天井部下半～口縁部は回転ナデ。内面は回転ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
94住-1 (図版100)	甕 土師器	南東部床直 他。ほぼ完形。	(32.5)(19.0)( ) 最大径は胴部 上半、 26.8cm。	口縁部は外反し、段を有す。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
94住-2 (図版100)	甕 土師器	カマド右袖脇 床直。ほぼ 完形。	(35.1)(20.0)( 2.5)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
94住-3 (図版100)	甕 土師器	カマド内他。 ほぼ完形。	(36.2)(20.6)( 2.0)	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
94住-4 (図版100)	甕 土師器	カマド内支脚 上。底部欠。	( ) (21.2)( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はへらナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
94住-5	甕 土師器	カマド右袖脇 床直。口縁部 ～胴部 $\frac{2}{3}$ 残。	( ) (20.8)( )	口縁部は外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部はへらナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。内外面に油煙付着。
94住-6	甕 土師器	中央部床直 他。胴部下半 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( ) ( ) ( 3.5)	外面：胴部はへら削り、底部は木葉痕。内面：胴部～底部はへらナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。内外面に油煙付着。
94住-8 (図版100)	甕 土師器	カマド左袖脇 床直。完形。	(11.3)(13.5)( 5.8)	口縁部はやや外反。輪積み。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はへら削り。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
94住-9 (図版100)	壺 土師器	南壁中央脇床 上5cm。完形。	( 7.1)( 7.5)(—) 最大径は胴部 上半、 9.7cm。	口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はへら磨き。内面：口縁部は横ナデ、胴部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺III遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
94住-10 (図版100)	杯 土師器	西壁中央脇床直。完形。	( 3.8)(11.0)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
94住-11 (図版99)	杯 土師器	北壁中央脇床直。完形。	( 4.2)(12.3)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
94住-12 (図版100)	杯 土師器	西壁中央脇床直。完形。	( 4.4)(12.4)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
94住-13 (図版100)	杯 土師器	カマド左袖脇床直。完形。	( 4.5)(12.2)(—)	外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
94住-14 (図版100)	杯 土師器	北東部床上5cm。完形。	( 4.1)(11.8)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
94住-15 (図版100)	杯 土師器	北東部床上5cm。完形。	( 4.4)(12.4)(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
94住-16 (図版100)	杯 土師器	カマド内。完形。	( 3.7)(11.4)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。にぶい橙。外面に油煙付着。
94住-17 (図版100)	杯 土師器	北東部床直。ほぼ完形。	( 4.0)(12.2)(—)	外面に不明瞭な稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。
94住-18	杯 土師器	カマド前床上15cm。口縁部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( 3.7)(12 )(—)	外面に稜。外面；口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面；口縁部～体部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。にぶい橙。
94住-19	壺 土師器	南西部床上10cm。胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )( )(—)	外面；胴部～底部はヘラ削り。内面；胴部～底部はヘラナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。
94住-20	鉢 土師器	南東部床直他。口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 残。	( )(20 )( )	輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部～胴部上半は横ナデ、胴部下半はナデ。	砂粒を含む。比較的硬質。酸化。明赤褐。外面に油煙付着。
94住-21	鉢 土師器	北東部床上15cm他。口縁部～胴部。	( )( )( )	外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部～胴部上端は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。橙。外面に油煙付着。
94住-24 (図版100)	甕 土師器	カマド内。ほぼ完形。	(35.8)(19.6)( 5.2)	口縁部は外反。輪積み。外面；口縁部は横ナデ、胴部～底部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。比較的硬質。酸化。橙。内外面に油煙付着。
1号井戸 -1	甕 土師器	覆土。口縁部～胴部。	( )( )( )	外面；口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	大は径2～3mmの砂粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい褐。外面に油煙付着。

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
1号井戸 -2	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$ 残。	(4.0)(12.0)(—)	丸底。口縁部弱く広がる。体部に稜を持つ。 外面；口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り。 内面；口縁部横ナデ、体部～底部ナデ。	鈹物粒を含む。硬質。酸化。 橙。
1号井戸 -3	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( )( )(—)	丸底。口縁部は外反。外面；口縁部は横ナ デ、体部はへラ削り。内面；口縁部は横ナ デ、体部はナデ。	鈹物粒を含む。やや硬質。 酸化。橙。外面に油煙付着。
1号井戸 -4	杯 土師器	覆土。口縁部 ～体部。	( )(12 )(—)	ゆるやかな丸底。口縁部は外反。外面；口 縁部は横ナデ、体部はへラ削り。内面；口 縁部は横ナデ、体部はナデ。	鈹物粒を含む。硬質。酸化。 橙。
1号井戸 -6	甕 須恵器	覆土。口縁部 ～頸部。	( )( )( )	口唇部に弱い段をもつ。外面；口縁部～頸 部は回転横ナデ。内面；口縁部～頸部は回 転横ナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。硬質。 還元。オリブ黒。釉は灰 オリブ。
1号井戸 -7	短頸壺 須恵器	覆土。胴部。	( )( )( )	外面；胴部は回転へラ削り。内面；胴部は 回転横ナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。硬質。 還元。外面灰白。内面灰。
2号井戸 -1	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( )( )( )	「く」の字状口縁。輪積み。外面；口縁部 は横ナデ、胴部はへラ削り。内面；口縁部 は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。やや 硬質。酸化。にぶい橙。
2号井戸 -2	椀 土師器	上部覆土。口 縁部～体部。	( )( )( )	口縁部長く、体部に稜をもつ。外面；口縁 部は横ナデ、体部はへラ削り。内面；口縁 部～体部は横ナデ。	砂粒を含む。硬質。酸化。 橙。
2号井戸 -3	杯 土師器	上部覆土。口 縁部～体部。	( )( )(—)	丸底。外面；口縁部は横ナデ、体部はへラ 削り。内面；口縁部は横ナデ、体部はナデ。	鈹物粒を含む。硬質。酸化。 橙。
2号井戸 -5	高杯 須恵器	上部覆土。脚 部。	( )( )( )	脚部に2条沈線。外面；脚部は回転横ナデ。 内面；脚部は回転横ナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。硬質。 還元。灰。
7号井戸 -1	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( )(20 )( )	口縁部はゆるやかに外反。均一した器壁。 外面；口縁部は横ナデ、胴部はへラ削り。 内面；口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	砂粒を多量に含む。硬質。 酸化。橙。
7号井戸 -2	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( )( )( )	「く」の字状口縁。均一した器壁。輪積み。 外面；口縁部は横ナデ、胴部はへラ削り。 内面；口縁部は横ナデ、胴部はへラナデ。	鈹物粒を含む。硬質。酸化。 明赤褐。
7号井戸 -3	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( )( )( )	「く」の字状口縁。均一した器壁。輪積み。 外面；口縁部は横ナデ、胴部はへラ削り。 内面；口縁部は横ナデ、胴部はへラナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。やや 硬質。酸化。にぶい橙。
7号井戸 -4	甕 土師器	覆土。口縁部 ～胴部。	( )( )( )	器壁は薄く均一。輪積み。外面；口縁部は 横ナデ、胴部はへラ削り。内面；口縁部～ 胴部はナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。硬質。 酸化。橙。
7号井戸 -6	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( )(16 )( )	口縁部大は大きく外反。外面；口縁部は横ナ デ、底部はへラ削り。内面；口縁部は横ナ デ、底部はナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。やや 硬質。酸化。橙。
7号井戸 -7	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( )(12 )( )	外面；口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り。 内面；口縁部横ナデ、体部～底部ナデ。	砂粒・鈹物粒を含む。やや 硬質。酸化。橙。

第三章 三ツ寺田遺跡

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
7号井戸 -9	蓋 須恵器	覆土。つまみ部。	( ) ( ) (—) つまみ径、4.7cm。	中央の凹むわずかのつまみ。外面：つまみ部は回転横ナデ。内面：天井部はナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
7号井戸 -11 (図版10)	蓋 須恵器	覆土。天井部～口縁部1/2残。	( 3.5)(16.7)(—) つまみ径、5.8cm。	口縁端部から1.8cmに短い返り。中央が盛り上げる凹みのつまみ雑に貼付。外面：天井部は回転ヘラ削り、口縁部は回転横ナデ。内面：天井部～口縁部は回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。還元。灰白。
7号井戸 -12 (図版10)	杯 須恵器	覆土。ほぼ完形。	( 3.7)(11.4)( 8.8)	外面：口縁部～体部は回転横ナデ、底部はヘラ削り。内面：口縁部～底部は回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。
8号井戸 -3	鉢 軟質陶器	覆土。口縁部～底部。	( ) (26 ) ( )	器壁は厚手。外面：口縁部～胴部はナデ、底部はヘラ削り。内面：口縁部～底部はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。外面黒。内面灰。
9号井戸 -6	鉢 須恵器	覆土。口縁部～胴部。	( ) ( ) ( ) ( )	器壁は薄手。口唇部平ら。外面：口縁部～胴部回転横ナデ。内面：口縁部～胴部は回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。還元。灰。外面に油煙付着。
9号井戸 -9	内耳土器	覆土。口縁部～胴部。	( ) ( ) ( ) ( )	外面：口縁部は横ナデ、胴部はナデ。内面：口縁部～胴部は横ナデ。	鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。外面灰。内面暗灰黄。外面に油煙付着。
5号土坑 -1	蓋 須恵器	覆土。口縁部。	( ) (16 ) (—)	口縁端部から1.2cmに返り。外面：口縁部回転横ナデ。内面：口縁部回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。外面灰白。内面灰。
8号土坑 -1	杯 須恵器	覆土。口縁部～底部。	( 2.4)(20 ) ( )	口縁部の器壁厚手。外面：口縁部は回転横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は回転横ナデ、底部はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。還元。灰白。
10号土坑 -1	壺 土師器	覆土。口縁部～頸部。	( ) ( ) (—)	外面：口縁部は横ナデ、頸部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ。	砂粒を多量に含む。やや硬質。酸化。明赤褐。
10号土坑 -2	壺 土師器	覆土。口縁部。	( ) ( ) ( ) ( )	輪積み。内外面共に口縁部は横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。にぶい橙。
10号土坑 -3	杯 土師器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( ) ( )	外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、底部はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。橙。
10号土坑 -5	盤 土師器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( ) ( )	口唇部は平ら。外面：口縁部は回転横ナデ、底部は回転横ナデ。内面：口縁部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。外面黒。内面灰。
10号土坑 -6	高杯 須恵器	覆土。脚部。	( ) ( ) ( ) ( )	外面：脚部は回転横ナデ。内面：脚部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。灰。
11号土坑 -1	鉢 軟質陶器	東北隅床上45cm。胴部。	( ) ( ) ( ) ( )	器壁は厚手。輪積み。外面：胴部はヘラ削り。内面：胴部はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。
1号溝 -3	杯 土師器	覆土。口縁部～底部。	( ) ( ) ( ) ( )	外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラ削り。内面：口縁部は横ナデ、体部～底部はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや硬質。酸化。橙。



第3節 出土土器観察表

挿図番号 (図版ページ)	器種	出土状況	法 (器高)(口径)(底径)	器形・手法の特徴	胎土・焼成・色調・備考
1号溝 -4	杯 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) (13 ) ( )	外面：口縁部～体部回転横ナデ、底部へラ 削り。内面：口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。硬質。 還元。灰。
1号溝 -5	椀 須恵器	覆土。底部。	( ) ( ) (6.0)	短く厚い高台丁寧な貼付。外面：体部は回 転横ナデ、底部は回転へラ削り。内面：体 部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰白。
1号溝 -6	甕 須恵器	覆土。頸部。	( ) ( ) ( )	均一した器壁。外面：頸部は回転横ナデ後 に波状文。内面：頸部は回転横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰。
2号溝 -2	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部横ナデ、体部～底部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ、体部～底部ナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや 硬質。酸化。橙。
2号溝 -3	杯 土師器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部は横ナデ、体部～底部はへラ 削り。内面：口縁部～体部は横ナデ、底部 はナデ。	砂粒・鉍物粒を含む。やや 硬質。酸化。橙。内外面に 油埋付着。
2号溝 -4	椀 須恵器	覆土。口縁部 ～底部。	( ) ( ) (14.0)	短く厚い高台丁寧に貼付。外面：口縁部 ～体部は回転横ナデ、底部は回転へラ削り。 内面：口縁部～底部は回転横ナデ。	鉍物粒を多量に含む。硬質。 還元。灰。
3号溝 -2	椀 灰釉陶 器	覆土。口縁部 ～体部。	( ) ( ) ( )	器壁は薄く均一。外面：口縁部～体部は回 転横ナデ。内面：口縁部～体部は回転横ナ デ。	細砂粒を含む。硬質。還元。 灰白。
3号溝 -4	甕 須恵器	覆土。口縁部。	( ) ( ) ( )	外面：口縁部は回転横ナデ。内面：口縁部 は横ナデ。	鉍物粒を含む。硬質。還元。 灰。自然釉灰オリープ。
表土-16 (図版101)	杯 須恵器	覆土。ほぼ完 形。	( 3.4 ) ( 14.4 ) ( 7.5 )	外面：口縁部～体部回転横ナデ、底部回転 糸切り。内面：口縁部～底部回転横ナデ。	砂粒・鉍物粒を多量に含む。 硬質。還元。灰。



# 三ツ寺Ⅲ遺跡写真図版





遺跡からの遠景（南より）



I区全景（北より）



Ⅱ区・Ⅲ区全景（北より）



Ⅱ区・Ⅲ区全景（南より）



Ⅲ区・Ⅳ区全景（北より）



Ⅲ・Ⅳ区全景（南より）



2号住居跡  
全景



2号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



2号住居跡  
カマド



3号住居跡  
全景



3号住居跡  
カマド・貯蔵穴



3号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態





3号住居跡  
カマド



4号住居跡  
全景



4号住居跡  
遺物出土状態  
全景



4号住居跡  
遺物出土状態



4号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



4号住居跡  
カマド・貯蔵穴



5号住居跡  
全景



5号住居跡  
遺物出土状態  
全景



5号住居跡  
遺物出土状態

5号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



5号住居跡  
カマド

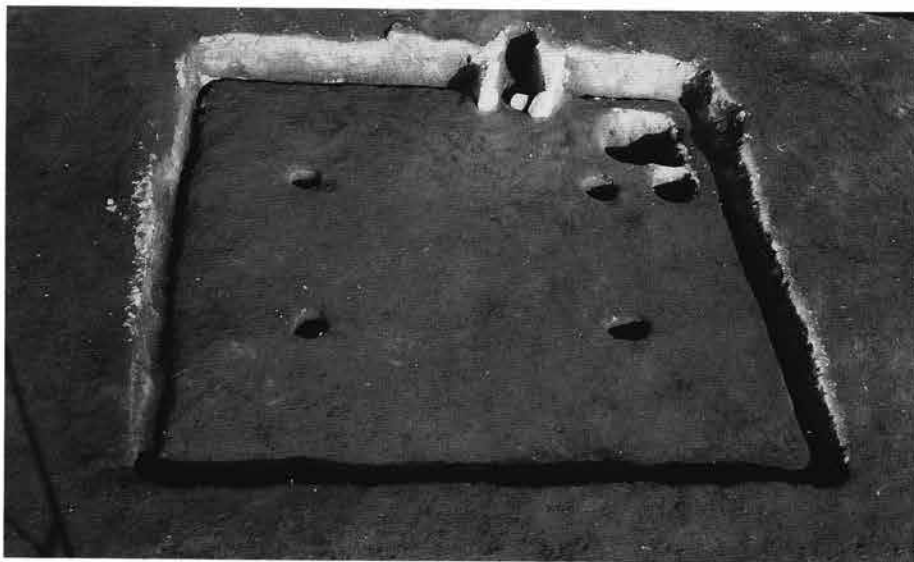


5号住居跡  
セクション  
(FA堆積状態)





5号住居跡  
セクション  
(FA堆積状  
態)



6号住居跡  
全景



6号住居跡  
カマド  
遺物出土状態

6号住居跡  
カマド



7号住居跡  
全景



7号住居跡  
カマド  
遺物出土状態





9号住居跡  
全景



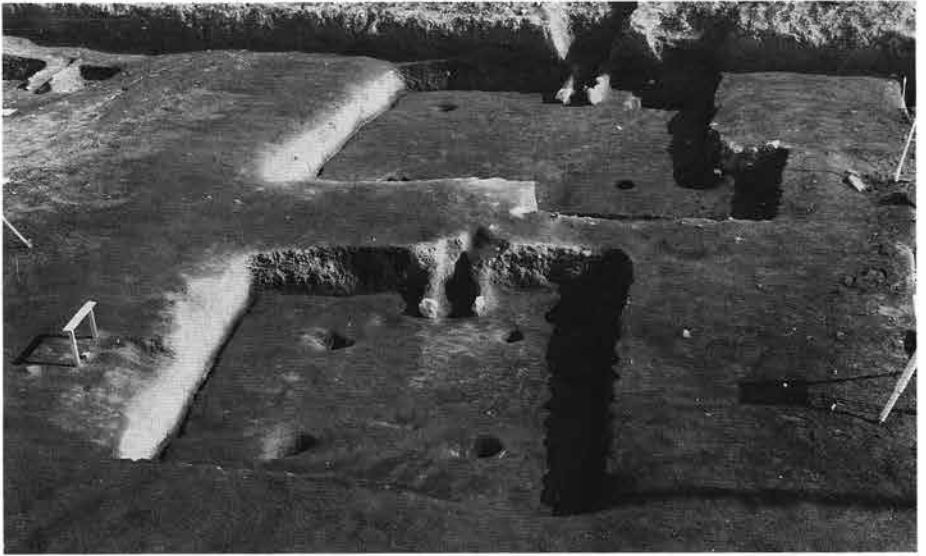
9号住居跡  
カマド・貯蔵穴



9号住居跡  
貯蔵穴遺物  
出土状態



10号・12号・  
13号住居跡  
全景



10号住居跡  
全景



10号住居跡  
カマド・貯蔵穴





12号・13号  
住居跡全景



12号・13号  
住居跡  
遺物出土状態  
全景



12号住居跡  
全景

12号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



13号住居跡  
遺物出土状態  
全景



13号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態





14号・15号・  
16号・18号住  
居跡全景



14号住居跡  
遺物出土状態  
全景



14号住居跡  
遺物出土状態

14号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



15号住居跡  
全景



15号住居跡  
遺物出土状態  
全景





15号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



15号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



15号住居跡  
貯蔵穴  
遺物出土状態

15号住居跡  
カマド・貯蔵穴



16号住居跡  
遺物出土状態  
全景



17号住居跡  
全景





17号住居跡  
遺物出土状態  
全景



17号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



18号住居跡  
全景



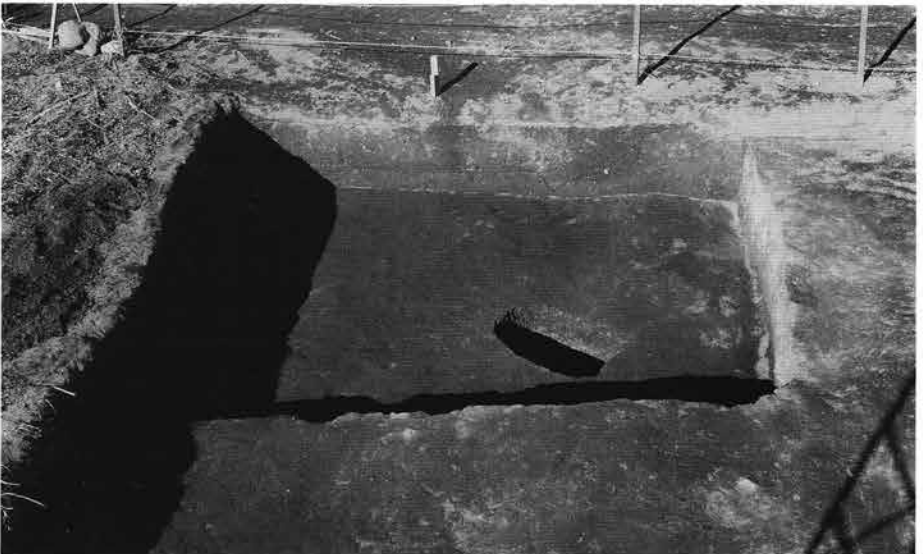
18号住居跡  
遺物出土状態



18号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



19号・20号住居跡  
全景





21号住居跡  
全景



21号住居跡  
遺物出土状態  
全景

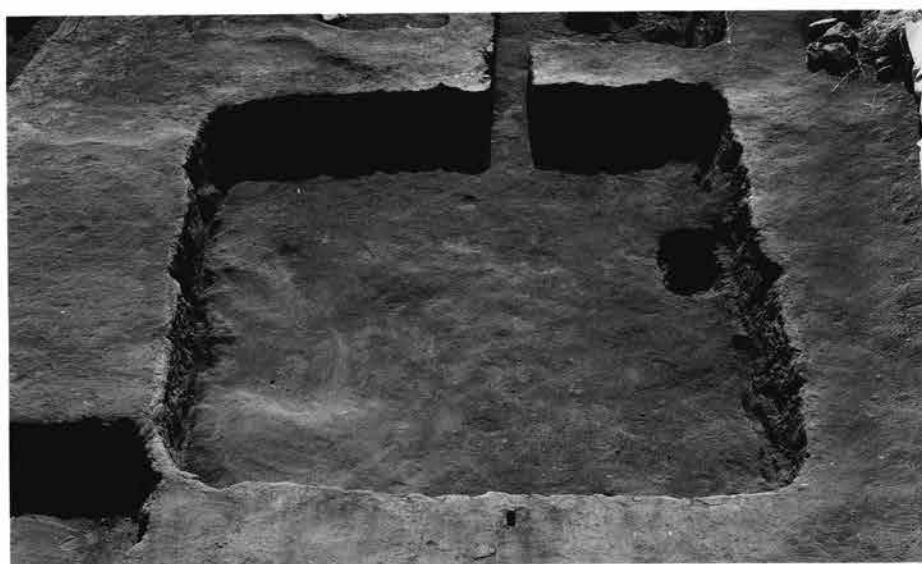


22号・23号住居跡  
全景

22号・23号住居跡  
遺物出土状態  
全景

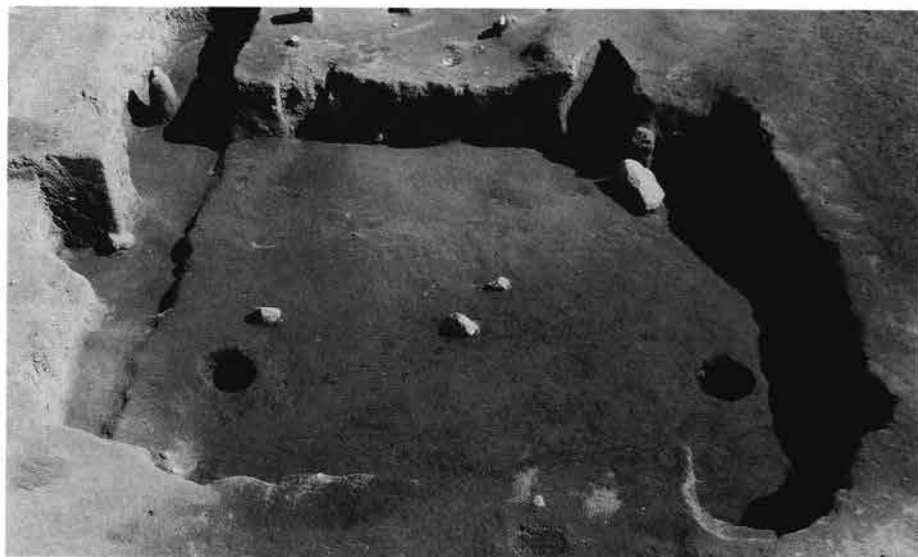


24号住居跡  
全景



24号住居跡  
遺物出土状態  
全景





25号住居跡  
全景



25号住居跡  
遺物出土状態  
全景



25号住居跡  
カマド  
遺物出土状態

26号住居跡  
全景



26号住居跡  
遺物出土状態  
全景



26号住居跡  
カマド





25号・26号・  
27号住居跡  
全景



27号住居跡  
遺物出土状態  
全景



27号住居跡  
カマド

28号住居跡  
全景



28号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



29号住居跡  
全景





30号・31号住居跡  
全景



30号・31号住居跡  
遺物出土状態  
全景



30号住居跡  
カマド  
遺物出土状態





30号住居跡 カマド



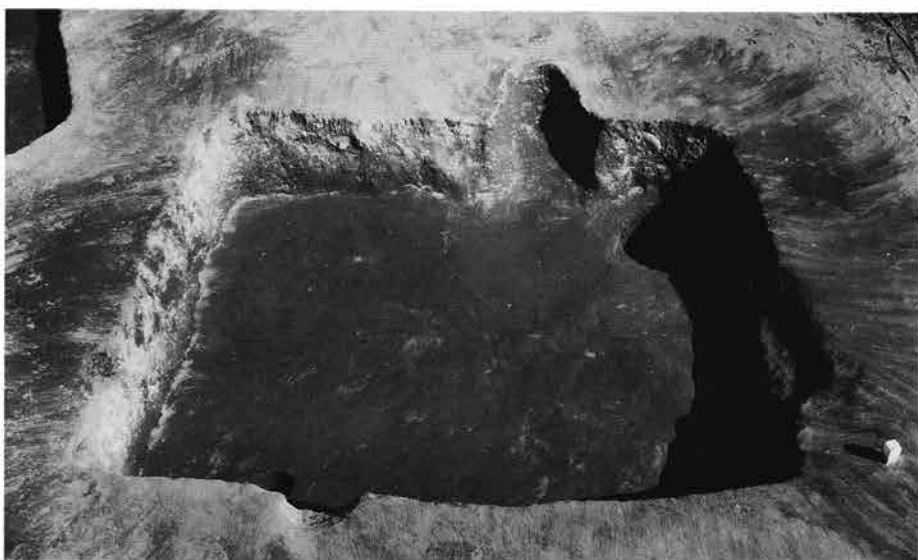
30号住居跡 カマド 煙道部



30号住居跡 カマド 煙道部



31号住居跡  
遺物出土状態  
全景



32号住居跡  
全景



32号住居跡  
カマド



33号住居跡  
全景



34号住居跡  
全景



34号住居跡  
遺物出土状態  
全景



34号住居跡  
カマド・貯蔵穴



34号住居跡  
鉄斧出土状態



35号住居跡  
全景

35号住居跡  
カマド



36号住居跡  
全景



36号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態





36号住居跡  
カマド・貯蔵穴



37号住居跡  
全景



37号住居跡  
遺物出土状態  
全景

38号住居跡  
全景



39号・43号住居跡  
遺物出土状態  
全景



39号住居跡  
カマド・貯蔵穴





39号住居跡  
カマド



40号住居跡  
全景



40号住居跡  
カマド・貯蔵穴



41号住居跡  
全景



41号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



42号住居跡  
全景





42号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



45号・46号住居跡  
全景



45号住居跡  
カマド



46号住居跡  
カマド



47号住居跡  
全景



47号住居跡  
遺物出土状態  
全景



47号住居跡  
カマド・貯蔵穴



48号住居跡  
全景



49号住居跡  
遺物出土状態  
全景

50号住居跡  
全景



51号住居跡  
全景



51号住居跡  
遺物出土状態  
全景





51号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



51号住居跡  
カマド・貯蔵穴



52号住居跡  
全景

52号住居跡  
遺物出土状態  
全景



52号住居跡  
カマド・貯蔵穴



53号・54号・55  
号住居跡  
全景

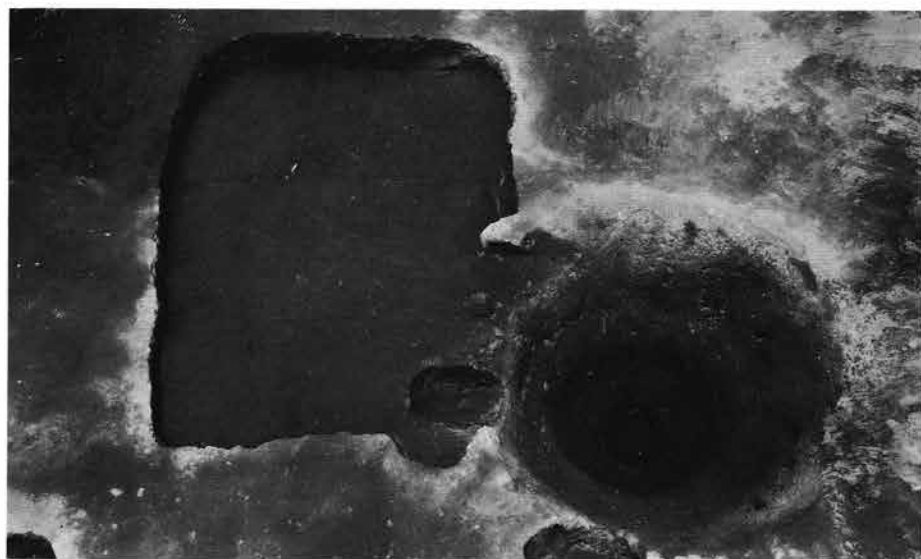




53号・54号・55  
号住居跡  
遺物出土状態  
全景



53号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



56号住居跡  
全景



57号住居跡  
全景



57号住居跡  
遺物出土状態  
全景



58号住居跡  
全景





58号住居跡  
遺物出土状態  
全景

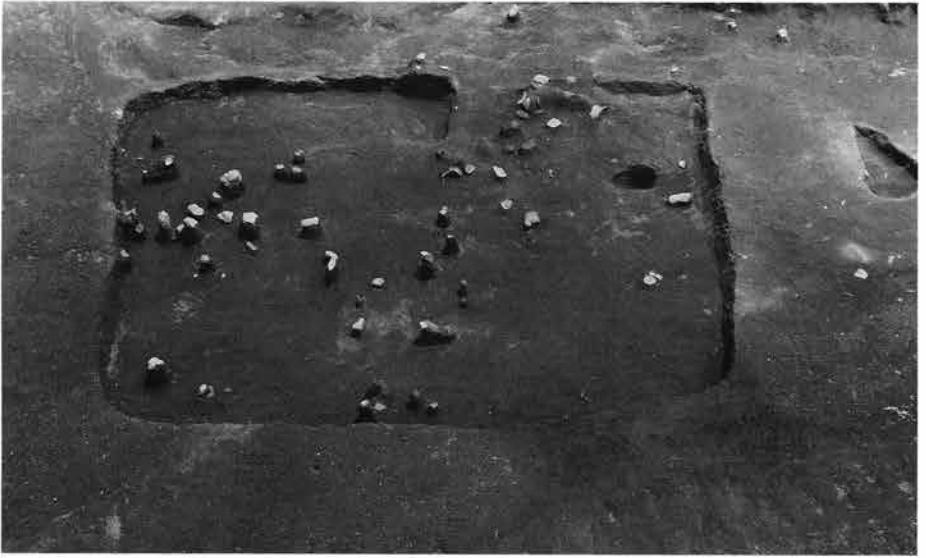


58号住居跡  
カマド



59号住居跡  
全景

59号住居跡  
遺物出土状態  
全景



60号住居跡  
全景



60号住居跡  
遺物出土状態  
全景





60号住居跡  
遺物出土状態



60号住居跡  
カマド・貯蔵穴



60号住居跡  
全景

61号住居跡  
カマド



62号住居跡  
全景



62号住居跡  
カマド





63号・64号住  
居跡全景



63号・64号住  
居跡  
遺物出土状態  
全景



64号住居跡  
遺物出土状態



65号住居跡  
全景



65号住居跡  
遺物出土状態



66号住居跡  
全景



66号住居跡  
遺物出土状態  
全景



67号住居跡  
全景



67号住居跡  
遺物出土状態  
全景



67号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



68号住居跡  
全景



68号住居跡  
遺物出土状態  
全景





68号住居跡  
カマド



69号・70号住  
居跡  
全景



69号住居跡  
カマド

71号·72号·  
73号·96号住  
居跡  
全景



74号住居跡  
遺物出土状態  
全景



74号住居跡  
床下状態  
全景





74号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



75号・84号住  
居跡  
全景



84号住居跡  
全景



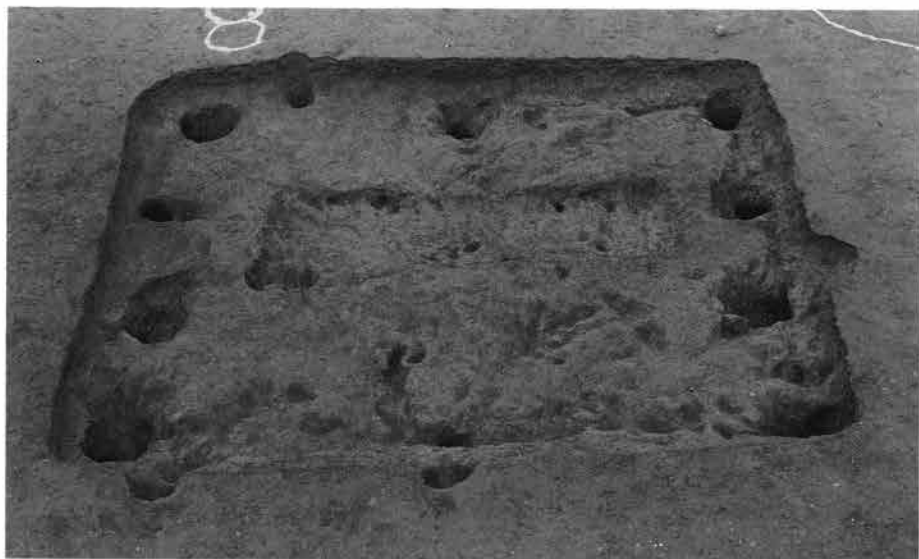
76号住居跡  
全景



76号住居跡  
遺物出土状態



76号住居跡  
カマド・貯蔵穴  
遺物出土状態



77号住居跡  
全景

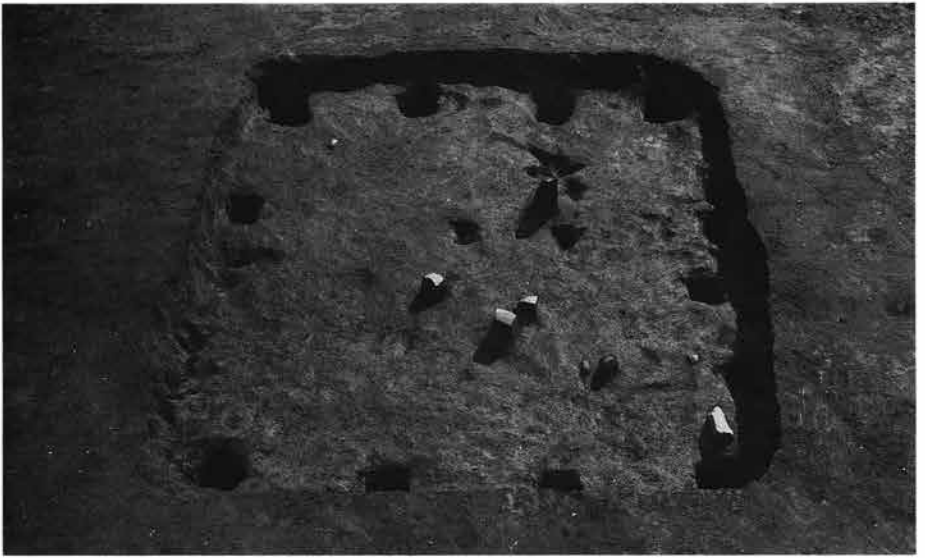


78号住居跡  
全景



78号住居跡  
遺物出土状態

79号住居跡  
全景



80号住居跡  
全景



80号住居跡  
遺物出土状態  
全景





80号住居跡  
遺物出土状態



80号住居跡  
遺物出土状態



81号・82号住  
居跡  
全景

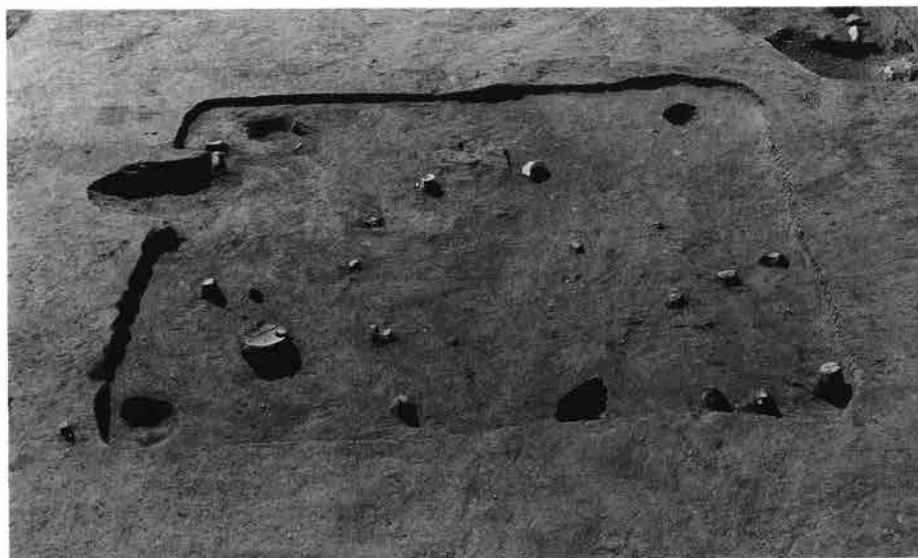




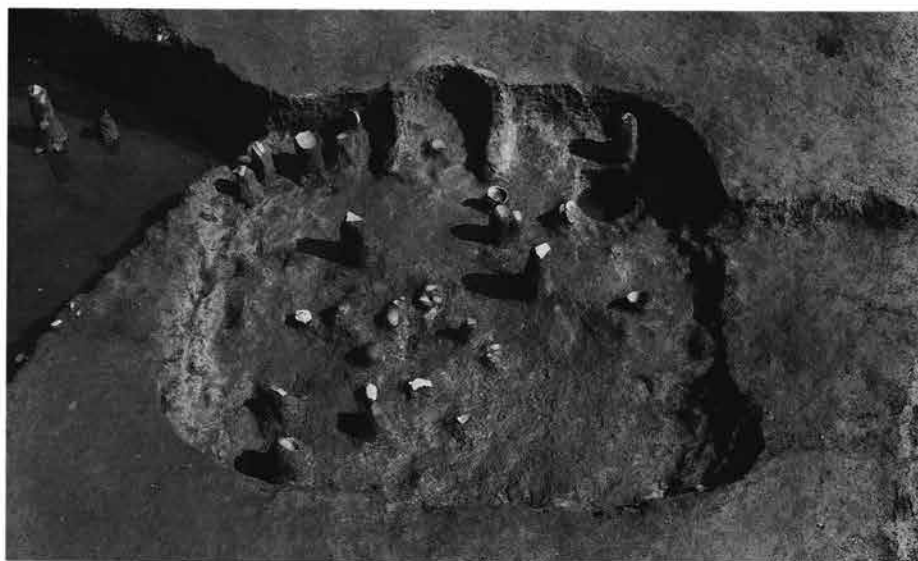
77号住居跡 柱穴



81号住居跡 柱穴



83号住居跡 全景



85号住居跡  
遺物出土状態  
全景



85号住居跡  
床下状態  
全景

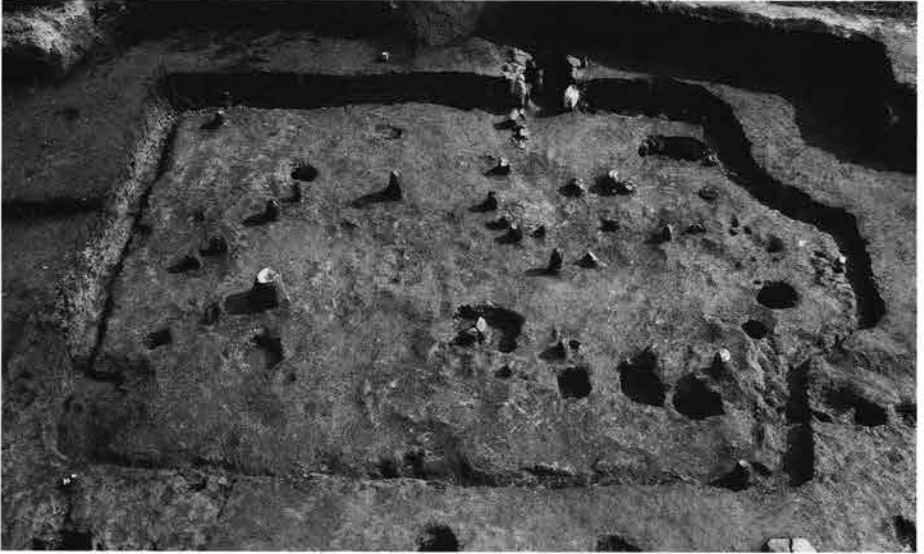


85号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態

86号・87号住居跡  
全景



87号住居跡  
遺物出土状態  
全景



87号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態





87号住居跡  
カマド



87号住居跡  
カマド



87号住居跡  
カマド

88号住居跡  
全景



88号住居跡  
遺物出土状態  
全景



88号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態





88号住居跡  
遺物出土状態



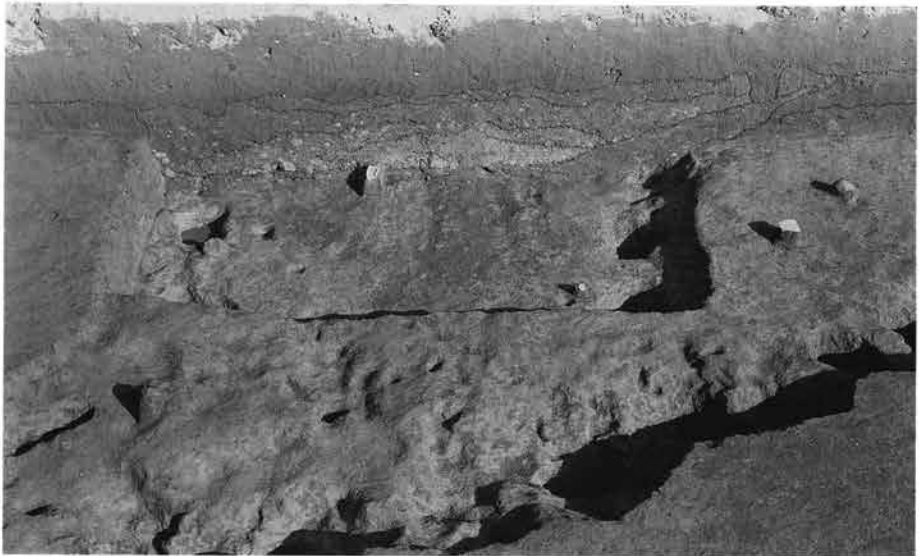
88号住居跡  
カマド



88号住居跡  
カマド



88号住居跡  
カマド



89号住居跡  
全景



90号住居跡  
全景



90号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



91号住居跡  
全景



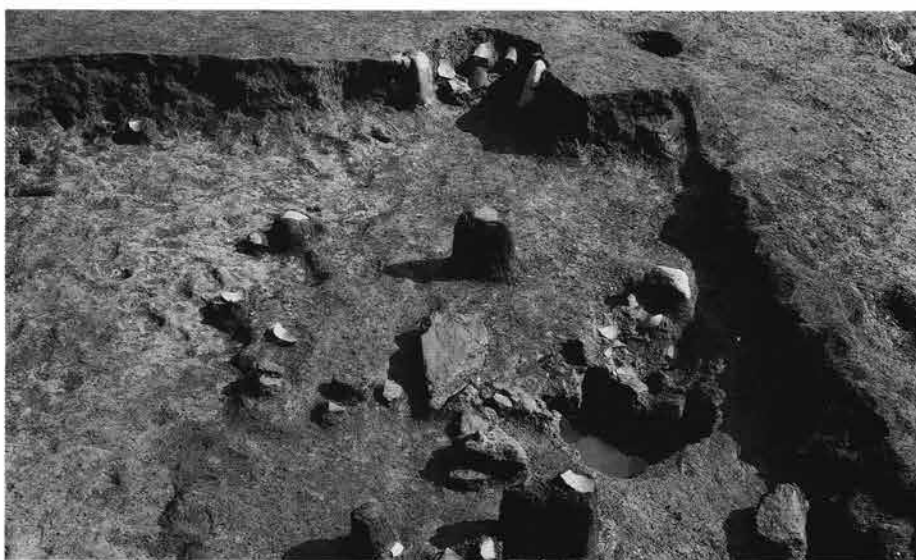
91号住居跡  
遺物出土状態  
全景



92号住居跡  
全景



92号住居跡  
遺物出土状態



92号住居跡  
カマド





93号住居跡  
遺物出土状態  
全景



94号住居跡  
全景



94号住居跡  
遺物出土状態  
全景

94号住居跡  
カマド周辺  
遺物出土状態



94号住居跡  
カマド  
遺物出土状態



94号住居跡  
カマド  
遺物出土状態





95号住居跡  
全景



97号住居跡  
全景



98号住居跡  
全景



97号住居跡 柱穴



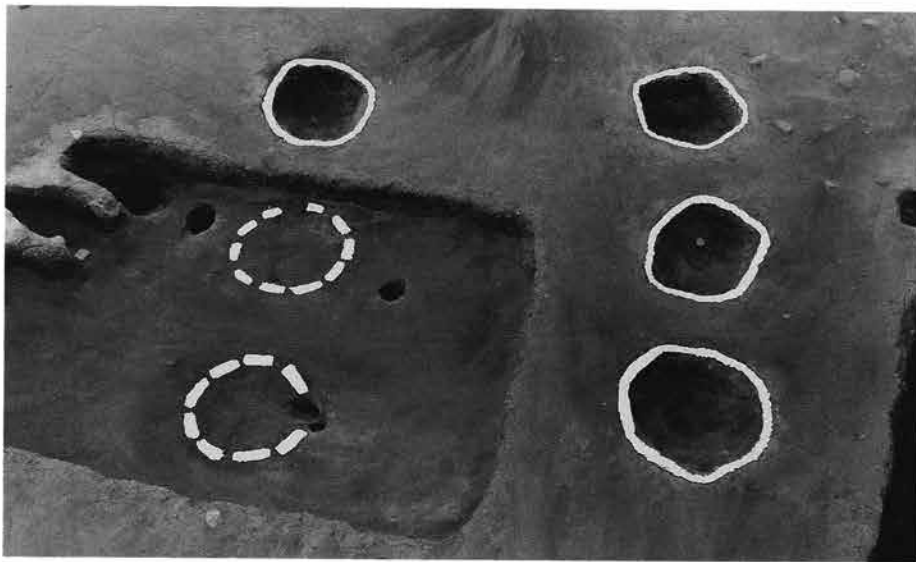
2号堅穴状遺構



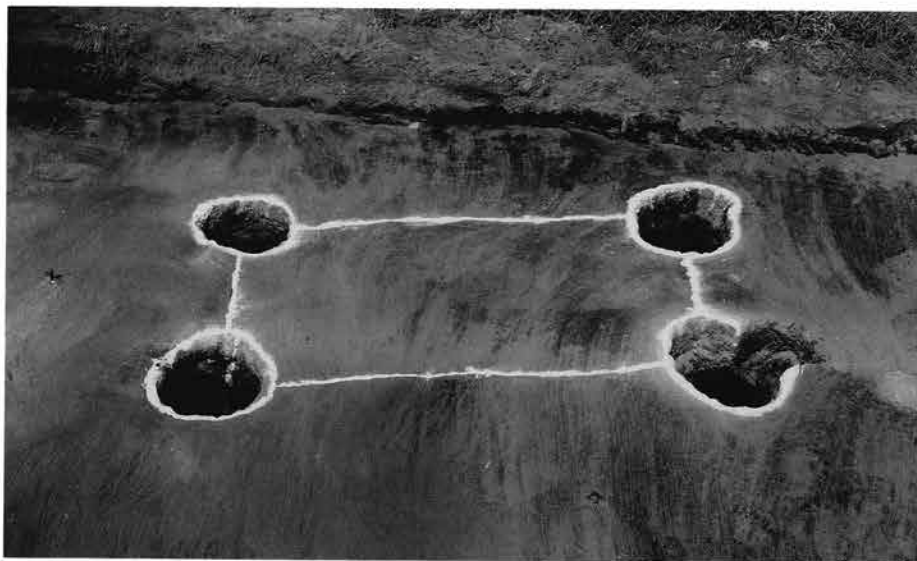
1号堅穴状遺構



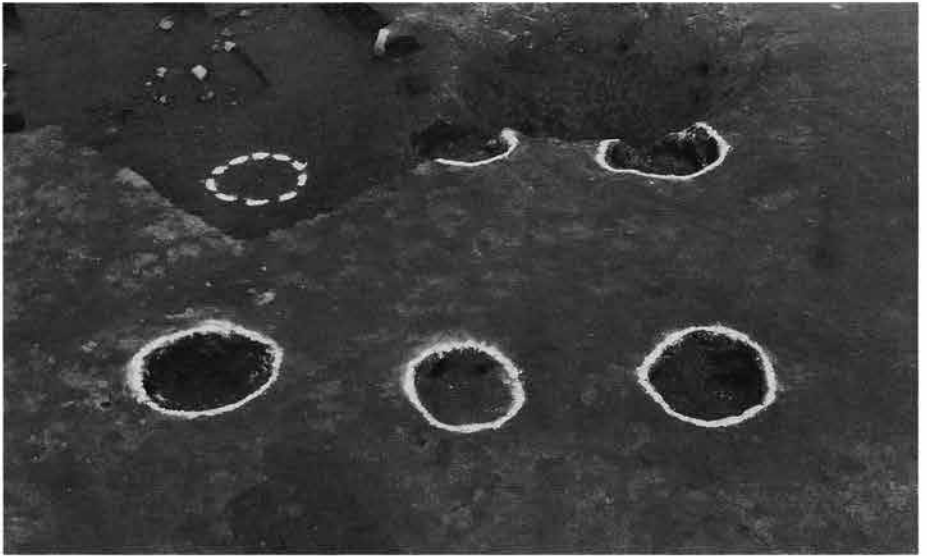
1号・2号堅穴  
状遺構



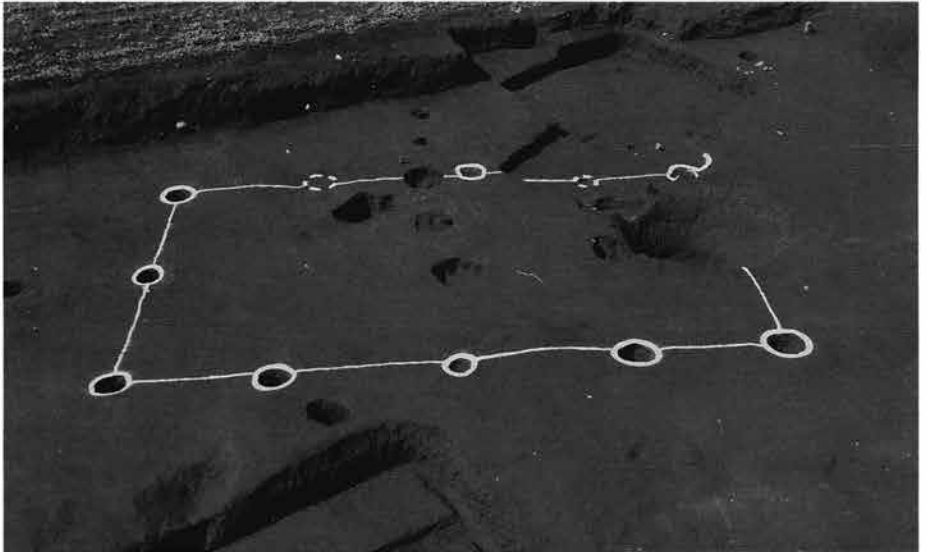
1号掘立柱跡



2号掘立柱跡



3号掘立柱跡



4号掘立柱跡



5号・6号・7号掘立柱跡



5号·6号·7  
号掘立柱跡



8号掘立柱跡



9号掘立柱跡





10号掘立柱跡



1号井戸跡



2号井戸跡



7号井戸跡



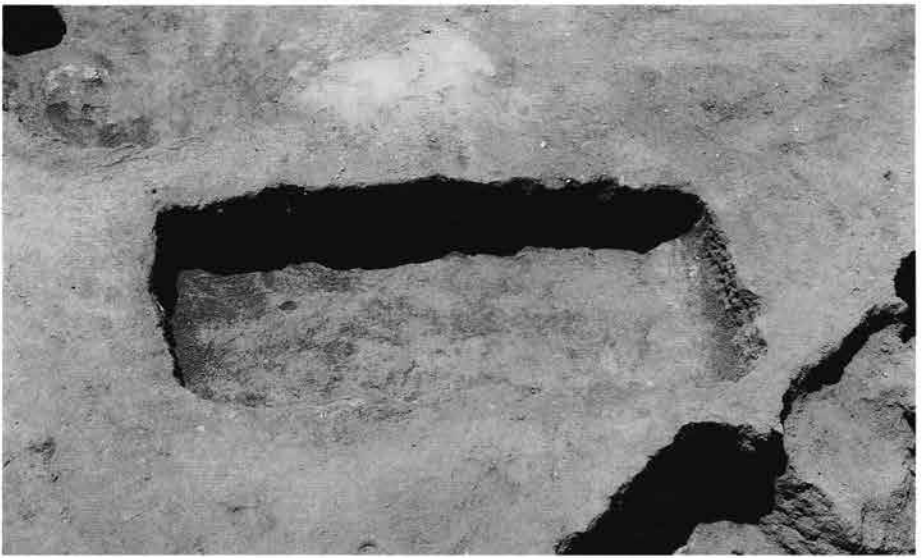
8号井戸跡



9号井戸跡



10号井戸跡



1号土坑



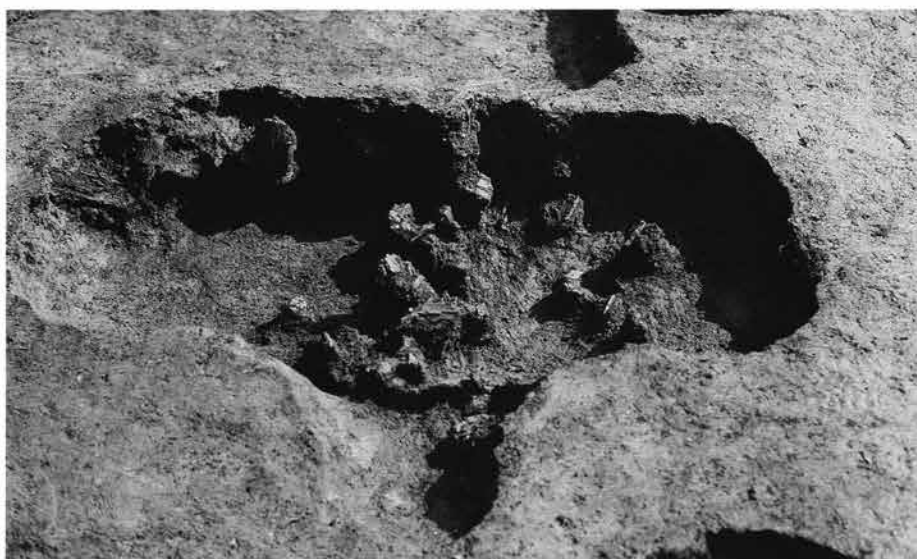
2号土坑  
馬骨出土状態



2号土壌  
馬骨出土状態



2号土壌  
馬骨出土状態



9号土壌  
人骨出土状態



1号溝跡



2号溝跡



1号溝跡



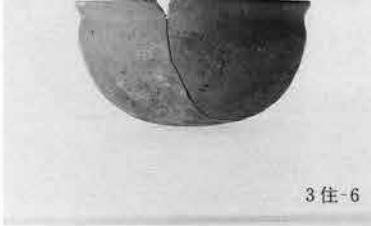
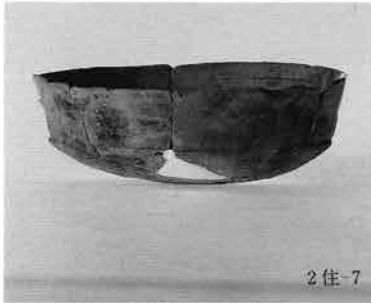
9号・10号溝  
跡 道状遺構

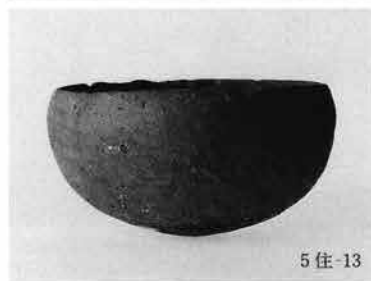
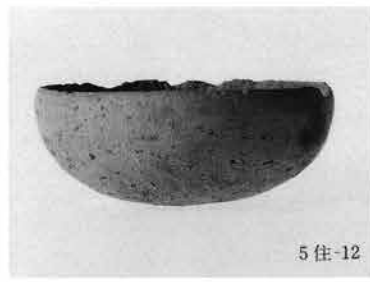


9号・10号溝  
跡 道状遺構

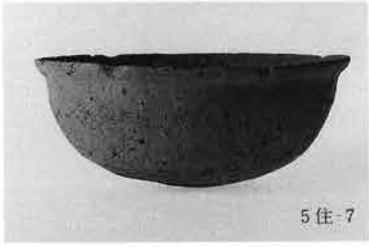


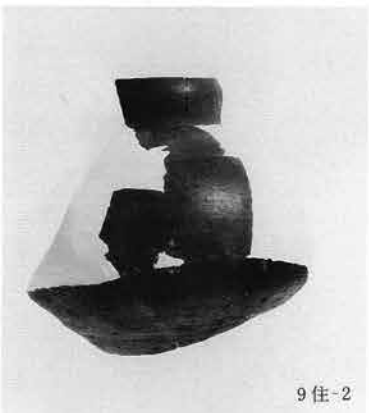
9号・10号溝  
跡 道状遺構

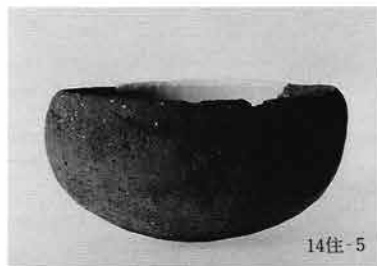
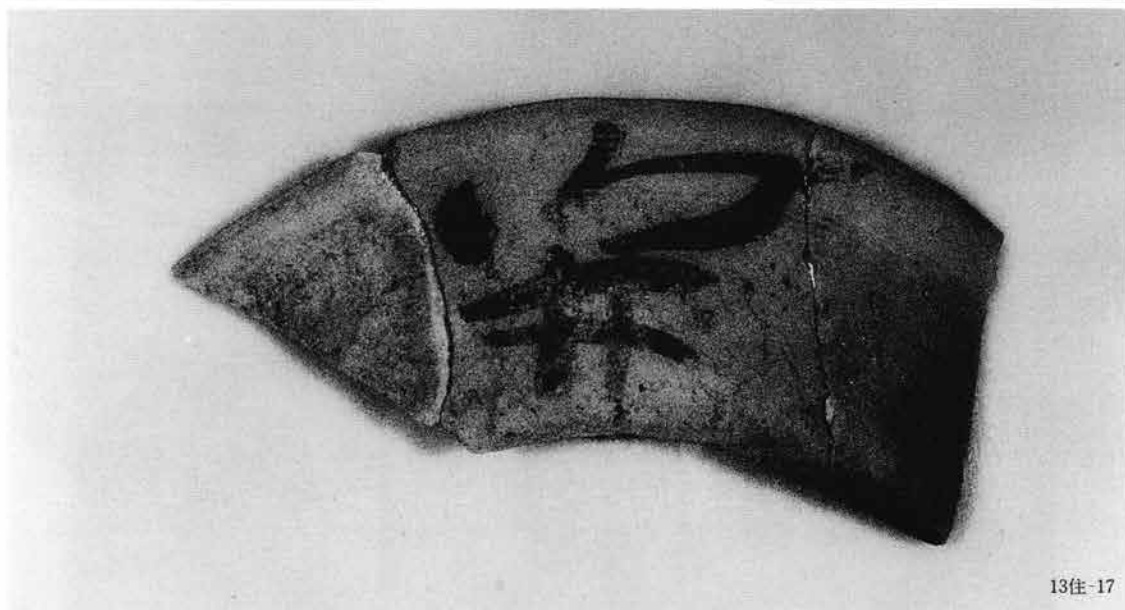
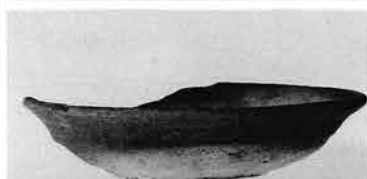


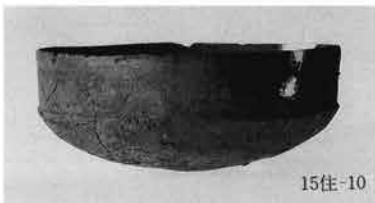


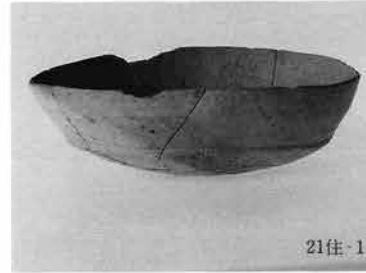
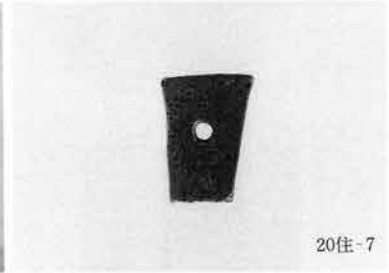
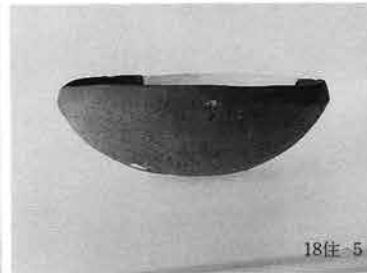
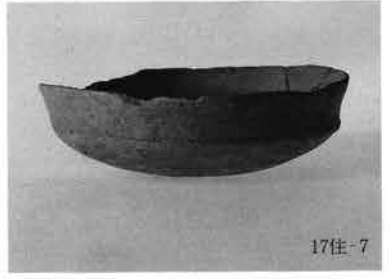
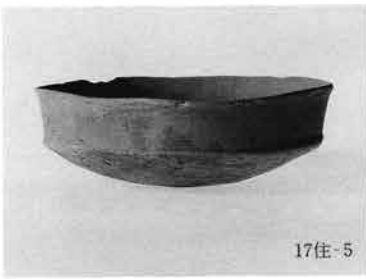


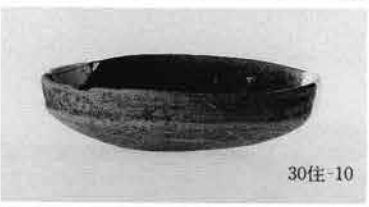
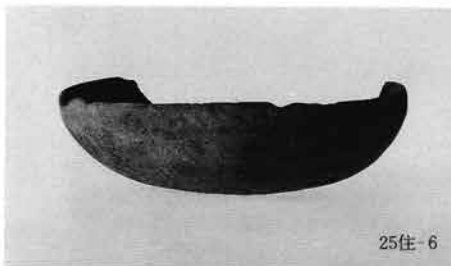


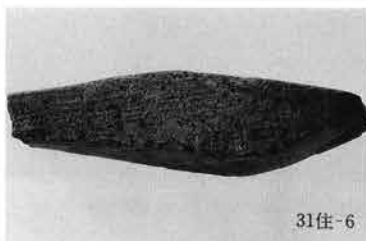


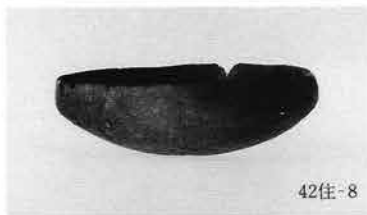
















51住-4



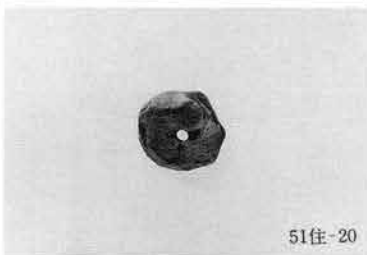
51住-5



51住-6



51住-1



51住-20



53住-30



52住-4



53住-6



53住-2



53住-1



53住-3



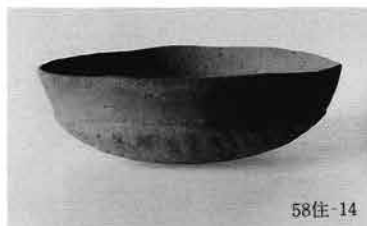
53住-4

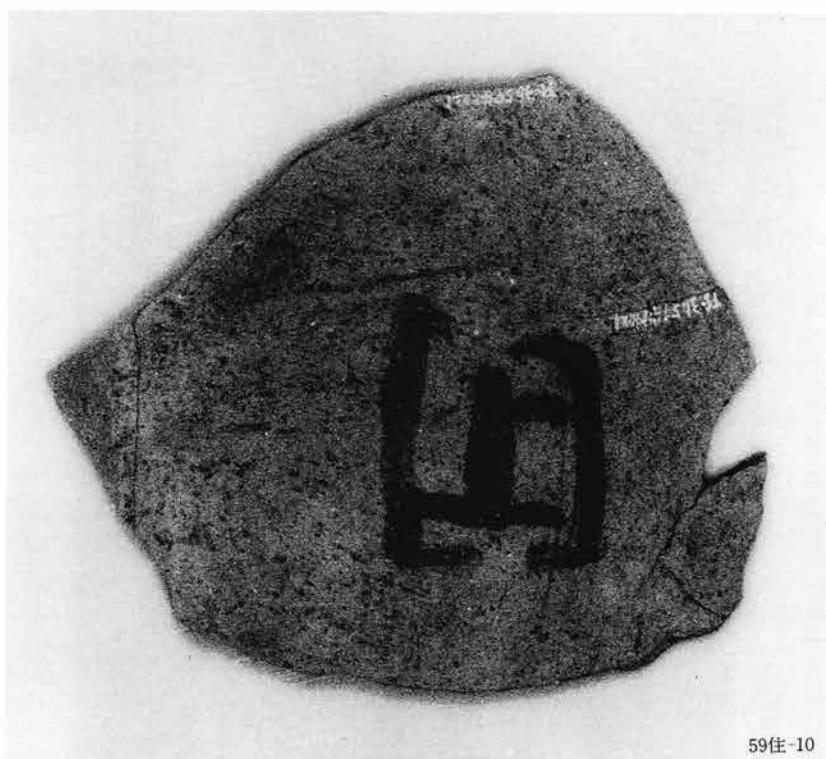


53住-28

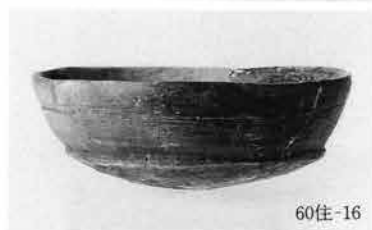


58住-7





59住-10



60住-16



60住-13



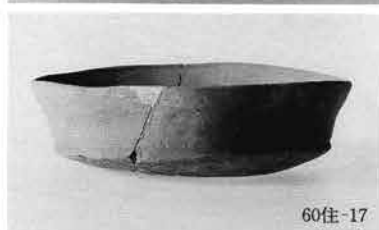
60住-15



60住-10



60住-11



60住-17



60住-8



60住-12



60住-1



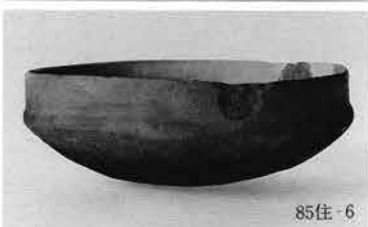
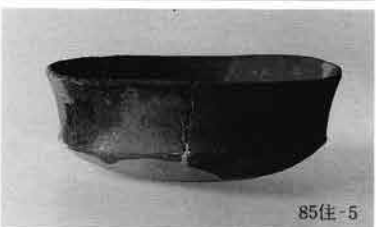
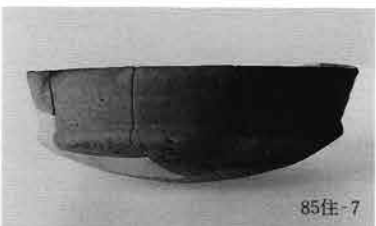
60住-14

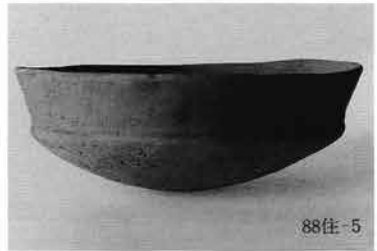


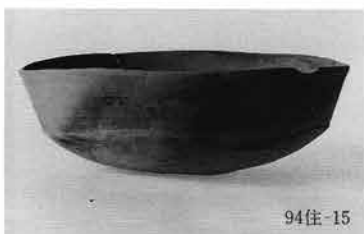
60住-7



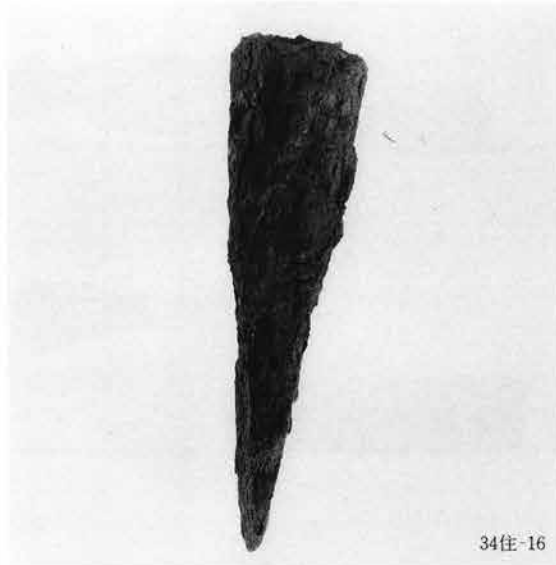
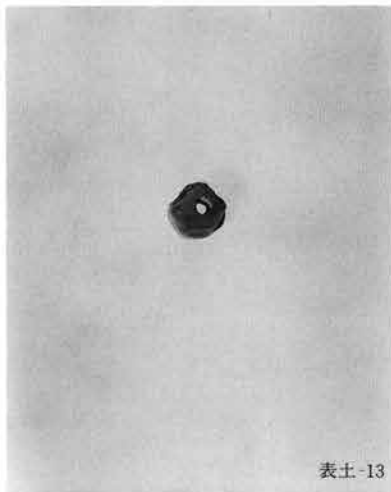
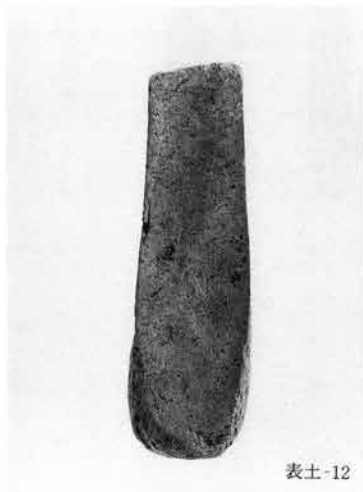














52住-11



38住-6



表土-15



34住-18

66住-16



92住-17



34住-17



66住-15



33住-14



39住-12



27住-12



58住-2

三ツ寺Ⅲ遺跡  
保渡田遺跡  
中里天神塚古墳

(第1分冊)

—上越新幹線関係埋蔵  
文化財発掘調査報告第5集—

---

印刷 昭和60年11月26日  
発行 昭和60年11月30日

編集・発行

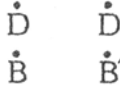
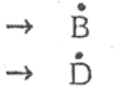
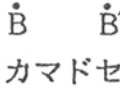
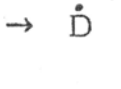
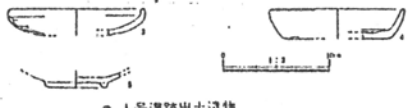



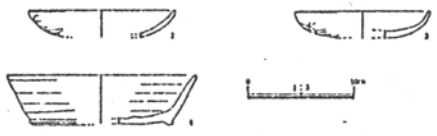



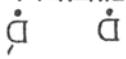
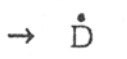


群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2  
(0279) 52-2511(代)

印刷

朝日印刷工業株式会社

---



頁	訂	正	簡	所
例言9 第3行目	神沢憲寿	→	神沢憲治	
P13 第4図	9号溝	→	10号溝	
P32 第25図	セクション及びエレベーション			
		→		
		→		
P53 第49図	カマドセクション説明			
	3……軽石・焼石を	→	3……軽石・焼土を	
P72 第71図	セクション説明			
	3……軽石・焼石粒子	→	3……軽石・焼土粒子	
P256 第286図	タイトル			
	 <p>● 1号溝跡出土遺物</p>			
	 <p>● 2号溝跡出土遺物</p>		 <p>● 1号溝跡出土遺物</p>	
			 <p>● 2号溝跡出土遺物</p>	
	 <p>第286図 3号溝跡出土遺物</p>		 <p>第286図 3号溝跡出土遺物</p>	
P334 16行目 第2分冊折り込み 第289図	38号住・44号住・47号住	→	38号住・40号～44号住・47号住	
	タイトル			
	調査区調定図	→	調査区設定図	
P440 第414図	平面図記号			
		→		
P494 12住-23	杯	→	杯	
		→		
			須恵器	
P560 第486図	e 胫骨	→	i 胫骨	

01-310
11
(6)

群埋文



上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

第5集

三ツ寺Ⅲ遺跡  
保渡田遺跡  
中里天神塚古墳

付図2枚  
正誤表